外国語学部 国際関係学科（2016年度入学生）

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 PLS110F 小林 道彦	1学期 1年	1	2	1
	異文化理解の基礎 ANT110F 神原 ゆうこ	1学期 1年	1	2	2
	ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	1学期 1年	1	2	3
	国際学入門 IRL100F 伊野 憲治	1学期 1年	1	2	4
	生活世界の哲学 PHR110F 伊原木 大祐	1学期 1年	1	2	5
	日本の防衛 PLS111F 戸蒔 仁司	1学期 1年	1	2	6
	生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期 1年	1	2	7
	情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期 1年	1	2	8
	環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	1学期 1年	1	2	9
	可能性としての歴史 HIS200F 小林 道彦	2学期 2年	2	2	10
	現代社会と文化 ANT210F 神原 ゆうこ	2学期 2年	2	2	11
	言語と認知 LIN210F 漆原 朗子 他	1学期 2年	2	2	12
	共生社会論 SOW200F 伊野 憲治	2学期 2年	2	2	13
	共同体と身体 PHR210F 伊原木 大祐	2学期 2年	2	2	14
	戦争論 PLS210F 戸蒔 仁司	2学期 2年	2	2	15

外国語学部　国際関係学科（2016年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	生命科学と社会 BIO200F　日高　京子　他	1学期 2年	2	2	16
	情報社会を読む INF200F　浅羽　修丈	2学期 2年	2	2	17
	地域資源管理論 ENV200F　廣川　祐司	2学期 2年	2	2	18
■教養演習科目	教養基礎演習I GES101F　伊原木　大祐	1学期 1年	1	2	19
	教養基礎演習I GES101F　稲月　正	1学期 1年	1	2	20
	教養基礎演習I GES101F　神原　ゆうこ	1学期 1年	1	2	21
	教養基礎演習I GES101F　小林 道彦	1学期 1年	1	2	22
	教養基礎演習I GES101F　徳永　政夫	1学期 1年	1	2	
	教養基礎演習I GES101F　髙西 敏正	1学期 1年	1	2	23
	教養基礎演習I（防衛セミナー） GES101F　戸蒔　仁司	1学期 1年	1	2	24
	教養基礎演習I GES101F　日高　京子	1学期 1年	1	2	25
	教養基礎演習I GES101F　廣川　祐司	1学期 1年	1	2	26
	教養基礎演習I GES101F　石川　敬之	1学期 1年	1	2	27
	教養基礎演習I（発達障がいセミナー） GES101F　伊野 憲治	1学期 1年	1	2	28
	教養基礎演習II GES102F　眞鍋　和博　他	2学期 1年	1	2	29

外国語学部　国際関係学科（2016年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養基礎演習II GES102F　伊原木　大祐	2学期	1	2	1年	30
	教養基礎演習II GES102F　稲月　正	2学期	1	2	1年	31
	教養基礎演習II GES102F　神原　ゆうこ	2学期	1	2	1年	32
	教養基礎演習II GES102F　小林　道彦	2学期	1	2	1年	33
	教養基礎演習II GES102F　徳永　政夫	2学期	1	2	1年	
	教養基礎演習II GES102F　高西　敏正	2学期	1	2	1年	34
	教養基礎演習II（防衛セミナー） GES102F　戸蒔　仁司	集中	1	2	1年	35
	教養基礎演習II GES102F　日高　京子	2学期	1	2	1年	36
	教養基礎演習II GES102F　廣川　祐司	2学期	1	2	1年	37
	教養基礎演習II GES102F　石川　敬之	2学期	1	2	1年	38
	教養基礎演習II（発達障がいセミナー） GES102F　伊野　憲治	2学期	1	2	1年	39
	教養演習AI GES201F　伊原木　大祐	1学期	2	2	2年	40
	教養演習AI GES201F　稲月　正	1学期	2	2	2年	41
	教養演習AI GES201F　神原　ゆうこ	1学期	2	2	2年	42
	教養演習AI GES201F　小林　道彦	1学期	2	2	2年	43

外国語学部　国際関係学科（2016年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習ＡⅠ GES201F　徳永　政夫	1学期	2	2	2年	
	教養演習ＡⅠ（防衛セミナー） GES201F　戸蒔　仁司	1学期	2	2	2年	44
	教養演習ＡⅠ GES201F　日高　京子	1学期	2	2	2年	45
	教養演習ＡⅠ GES201F　石川　敬之	1学期	2	2	2年	46
	教養演習ＡⅠ（発達障がいセミナー） GES201F　伊野　憲治	1学期	2	2	2年	47
	教養演習ＡⅡ GES202F　伊原木　大祐	2学期	2	2	2年	48
	教養演習ＡⅡ GES202F　稲月　正	2学期	2	2	2年	49
	教養演習ＡⅡ GES202F　神原　ゆうこ	2学期	2	2	2年	50
	教養演習ＡⅡ GES202F　小林　道彦	2学期	2	2	2年	51
	教養演習ＡⅡ GES202F　徳永　政夫	2学期	2	2	2年	
	教養演習ＡⅡ（防衛セミナー） GES202F　戸蒔　仁司	集中	2	2	2年	52
	教養演習ＡⅡ GES202F　日高　京子	2学期	2	2	2年	53
	教養演習ＡⅡ GES202F　石川　敬之	2学期	2	2	2年	54
	教養演習ＡⅡ（発達障がいセミナー） GES202F　伊野　憲治	2学期	2	2	2年	55
	教養演習ＢⅠ GES301F　伊原木　大祐	1学期	3	2	3年	56

外国語学部　国際関係学科（2016年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習ＢⅠ GES301F　稲月　正	1学期 3年	3	2	57
	教養演習ＢⅠ GES301F　神原　ゆうこ	1学期 3年	3	2	58
	教養演習ＢⅠ GES301F　小林　道彦	1学期 3年	3	2	59
	教養演習ＢⅠ GES301F　徳永　政夫	1学期 3年	3	2	
	教養演習ＢⅠ（防衛セミナー） GES301F　戸蒔　仁司	1学期 3年	3	2	60
	教養演習ＢⅠ GES301F　日高　京子	1学期 3年	3	2	61
	教養演習ＢⅠ GES301F　石川　敬之	1学期 3年	3	2	62
	教養演習ＢⅠ（発達障がいセミナー） GES301F　伊野　憲治	1学期 3年	3	2	63
	教養演習ＢⅡ GES302F　伊原木　大祐	2学期 3年	3	2	64
	教養演習ＢⅡ GES302F　稲月　正	2学期 3年	3	2	65
	教養演習ＢⅡ GES302F　神原　ゆうこ	2学期 3年	3	2	66
	教養演習ＢⅡ GES302F　小林　道彦	2学期 3年	3	2	67
	教養演習ＢⅡ GES302F　徳永　政夫	2学期 3年	3	2	
	教養演習ＢⅡ（防衛セミナー） GES302F　戸蒔　仁司	集中 3年	3	2	68
	教養演習ＢⅡ GES302F　日高　京子	2学期 3年	3	2	69

外国語学部 国際関係学科（2016年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習ＢⅡ GES302F 石川　敬之	2学期 3年	3	2	70
	教養演習ＢⅡ（発達障がいセミナー） GES302F 伊野 憲治	2学期 3年	3	2	71
■テーマ科目	自然学のまなざし ENV002F 竹川 大介　他	1学期 1年	1	2	72
	動物のみかた ZOL001F 到津の森公園、文学部　竹川大介	2学期 1年	1	2	73
	地球の生いたち GOL001F 長井　孝一	2学期 1年	1	2	74
	自然史へのいざない BIO001F 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター　日高京子	2学期 1年	1	2	75
	くらしと化学 CHM001F 秋貞　英雄	1学期 1年	1	2	76
	現代人のこころ PSY003F 税田　慶昭　他	1学期 1年	1	2	77
	人間と生命 BIO002F 日高　京子	2学期 1年	1	2	78
	環境都市としての北九州 ENV001F 日高　京子　他	2学期 1年	1	2	79
	未来を創る環境技術 ENV003F 上江洲　一也　他	1学期 1年	1	2	80
	私たちと宗教 PHR006F 佐藤 眞人	2学期 1年	1	2	81
	思想と現代 PHR004F 伊原木　大祐	1学期 1年	1	2	82
	文化と表象 MCC001F 真鍋　昌賢	2学期 1年	1	2	83
	言語とコミュニケーション LIN001F 漆原 朗子　他	2学期 1年	1	2	84

外国語学部 国際関係学科（2016年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	芸術と人間 PHR001F 真武　真喜子	2学期 1年	1	2	85
	文学を読む LIT001F 生住　昌大　他	2学期 1年	1	2	86
	現代正義論 PHR003F 重松 博之	2学期 1年	1	2	87
	民主主義とは何か PLS002F 中道　壽一	1学期 1年	1	2	88
	社会学的思考 SOC002F 稲月 正	1学期 1年	1	2	89
	政治のなかの文化 ANT001F 神原　ゆうこ	2学期 1年	1	2	90
	人権論 SOC004F 柳井　美枝	1学期 1年	1	2	91
	ジェンダー論 GEN001F 力武　由美	1学期 1年	1	2	92
	障がい学 SOW001F 伊野 憲治　他	2学期 1年	1	2	93
	共生の作法 LAW001F 高橋 衛　他	1学期 1年	1	2	94
	法律の読み方 LAW002F 小野 憲昭	2学期 1年	1	2	95
	社会調査 SOC003F 稲月 正	2学期 1年	1	2	96
	市民活動論 RDE001F 西田　心平	2学期 1年	1	2	97
	企業と社会 BUS001F 山下　剛	1学期 1年	1	2	98
	現代社会と倫理 PHR002F 伊原木　大祐	1学期 1年	1	2	99

外国語学部　国際関係学科（2016年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	現代社会と新聞ジャーナリズム SOC001F　西日本新聞社、基盤教育センター　稲月正	1学期	1	2	1年	100
	都市と地域 RDE002F　南　博　他	1学期	1	2	1年	101
	地域防災への招待 SSS001F　加藤　尊秋　他	1学期	1	2	1年（2015年度以降入学生）	102
	開発と統治 IRL002F　三宅 博之　他	2学期	1	2	1年	103
	テロリズム論 PLS001F　戸蒔　仁司	2学期	1	2	1年	104
	国際紛争と国連 IRL005F　休講	2学期	1	2	1年	
	韓国の社会と文化 ARE010F　金　貞愛	2学期	1	2	1年	105
	歴史の読み方I HIS004F　八百 啓介	1学期	1	2	1年	106
	歴史の読み方II HIS005F　小林 道彦	1学期	1	2	1年	107
	そのとき世界は HIS002F　伊野 憲治　他	2学期	1	2	1年	108
	戦後の日本経済 ECN002F　土井　徹平	2学期	1	2	1年	109
	ものと人間の歴史 HIS003F　中野 博文　他	1学期	1	2	1年	110
	人物と時代の歴史 HIS001F　山崎　勇治　他	1学期	1	2	1年	111
	ヨーロッパ道徳思想史 PHR005F　伊原木　大祐	2学期	1	2	1年	112
■教職関連科目	日本史 HIS110F　古賀　康士	2学期	1	2	1年	113

外国語学部 国際関係学科（2016年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教職関連科目	東洋史 HIS120F 植松 慎悟	2学期 1年	1	2	114
	西洋史 HIS130F 疇谷 憲洋	1学期 1年	1	2	115
	人文地理学 GEO110F 外枦保 大介	2学期 1年	1	2	116
	土地地理学 GEO111F 野井 英明	1学期 1年	1	2	117
	地誌学 GEO112F 外枦保 大介	1学期 1年	1	2	118
	日本国憲法 LAW120F 中村 英樹	2学期 1年	1	2	119
■ライフ・スキル科目	メンタル・ヘルスI PSY001F 中島 俊介	1学期 1年	1	2	120
	メンタル・ヘルスII PSY002F 中島 俊介	2学期 1年	1	2	121
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 髙西 敏正	1学期 1年	1	2	122
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 徳永 政夫	1学期 1年	1	2	123
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 加倉井 美智子	1学期 1年	1	2	124
	フィジカル・ヘルスII HSS002F 髙西 敏正	2学期 1年	1	2	125
	フィジカル・ヘルスII HSS002F 徳永 政夫	2学期 1年	1	2	126
	フィジカル・ヘルスII HSS002F 加倉井 美智子	2学期 1年	1	2	127
	自己管理論 HSS003F 山本 浩二	2学期 1年	1	2	128

外国語学部 国際関係学科（2016年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・スキル科目	フィジカル・エクササイズI（ソフトボール） HSS081F 黒田 次郎	1学期 1年	1	1	129
	フィジカル・エクササイズI（サッカー） HSS081F 山崎 将幸	1学期 1年	1	1	130
	フィジカル・エクササイズI（テニス） HSS081F 黒田 次郎	1学期 1年	1	1	131
	フィジカル・エクササイズI（バレーボール） HSS081F 美山 泰教	1学期 1年	1	1	132
	フィジカル・エクササイズI（バドミントン） HSS081F 鯨 吉夫	1学期 1年	1	1	133
	フィジカル・エクササイズI（バドミントン） HSS081F 山本 浩二	1学期 1年	1	1	134
	フィジカル・エクササイズI（女性のスポーツ） HSS081F 加倉井 美智子	1学期 1年	1	1	135
	フィジカル・エクササイズII（バドミントン） HSS082F 山崎 将幸	2学期 1年	1	1	136
	フィジカル・エクササイズII（バドミントン） HSS082F 黒田 次郎	2学期 1年	1	1	137
	フィジカル・エクササイズII（バスケットボール） HSS082F 黒田 次郎	2学期 1年	1	1	138
	フィジカル・エクササイズII（バレーボール） HSS082F 美山 泰教	2学期 1年	1	1	139
	フィジカル・エクササイズII（バドミントン） HSS082F 美山 泰教	2学期 1年	1	1	140
	フィジカル・エクササイズII（サッカー） HSS082F 山崎 将幸	2学期 1年	1	1	141
	フィジカル・エクササイズII（バドミントン） HSS082F 鯨 吉夫	2学期 1年	1	1	142
	フィジカル・エクササイズII（サッカー） HSS082F 鯨 吉夫	2学期 1年	1	1	143

外国語学部 国際関係学科（2016年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・スキル科目	フィジカル・エクササイズII（バドミントン） HSS082F 徳永 政夫	2学期 1年	1	1	144
■キャリア科目	キャリア・デザイン CAR100F 眞鍋 和博	1学期 1年	1	2	145
	キャリア・デザイン CAR100F 石川 敬之	1学期 1年	1	2	146
	キャリア・デザイン CAR100F 見舘 好隆	1学期 1年	1	2	147
	コミュニケーション実践 CAR111F 眞鍋 和博	2学期 1年	1	2	148
	グローバル・リーダーシップ論 CAR112F 休講	2学期 1年	1	2	
	プロフェッショナルの仕事I CAR210F 見舘 好隆	1学期 2年	2	2	149
	プロフェッショナルの仕事II CAR211F 見舘 好隆	2学期 2年	2	2	150
	地域の達人 CAR212F 眞鍋 和博	2学期 2年	2	2	151
	サービスラーニング入門I CAR110F 石川 敬之	1学期 1年	1	2	152
	サービスラーニング入門II CAR180F 石川 敬之	2学期 1年	1	2	153
	プロジェクト演習I CAR280F 見舘 好隆	1学期 2年	2	2	154
	プロジェクト演習II CAR281F 見舘 好隆 他	2学期 2年	2	2	155
	プロジェクト演習III CAR380F 見舘 好隆	1学期 3年	3	2	156
	プロジェクト演習IV CAR381F 見舘 好隆 他	2学期 3年	3	2	157

外国語学部 国際関係学科（2016年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / 履修年次 / 単位 / クラス	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養特講	教養特講I（教養を磨く『新聞のちから』） SPL001F　読売新聞西部本社、基盤教育センター 稲月 正、永末 康介	2学期 / 1 / 2 1年	158
	教養特講II（現代社会とエシカル消費） SPL002F　大平　剛	1学期 / 1 / 2 1年	159
	教養特講III（まなびとESD講座I） SPL003F　眞鍋　和博	1学期 / 1 / 2 1年	160
	教養特講IV（まなびとESD講座II） SPL004F　眞鍋　和博	2学期 / 1 / 2 1年	161
	教養特講IV（現代の日本の食と若者を考える） SPL004F　三宅 博之	集中 / 1 / 2 1年	162
■地域科目	地域の文化と歴史 HIS170F　南　博	2学期 / 1 / 2 1年（2016年度以降入学生）	163
	地域の社会と経済 ECN170F　吉村　英俊	2学期 / 1 / 2 1年（2016年度以降入学生）	164
	地域の社会と経済 ECN170F　柳　永珍	2学期 / 1 / 2 1年（2016年度以降入学生）	165
	地域のにぎわいづくり RDE270F　南　博	1学期 / 2 / 2 2年（2016年度以降入学生）	166
	北九州市の都市政策 PLC270F　内田　晃	1学期 / 2 / 2 2年（2016年度以降入学生）	167
	まなびと企業研究I CAR270F　田中　ひろみ	2学期 / 2 / 2 2年（2016年度以降入学生）	168
	まなびと企業研究II CAR370F　田中　ひろみ	集中 / 3 / 2 3年（2016年度以降入学生）	169
■情報教育科目	データ処理 INF101F　山田　寛	1学期 / 1 / 2 国1 - 1．国1 - 2．再履	170
	データ処理 INF101F　棚次　奎介	1学期 / 1 / 2 国1 - 3．国1 - 4．再履	171
	データ処理 INF101F　中尾　泰士	2学期 / 1 / 2 1学期未修得者再履	172

外国語学部 国際関係学科（2016年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■情報教育科目	情報表現 INF230F 浅羽　修丈	2学期 2年	2	2	173
	情報表現 INF230F 棚次　奎介	2学期 2年	2	2	174
	情報メディア演習 INF330F 浅羽　修丈	2学期 3年	3	2	175
	情報メディア演習 INF330F 中尾　泰士	2学期 3年	3	2	176
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I（国1-A） ENG101F 葛西　宏信	1学期 国1 - A	1	1	177
	英語I（国1-B） ENG101F 永末　康介	1学期 国1 - B	1	1	178
	英語I（国1-C） ENG101F 渡邉　嘉則	1学期 国1 - C	1	1	179
	英語II（国1-A） ENG111F 永末　康介	2学期 国1 - A	1	1	180
	英語II（国1-B） ENG111F 葛西　宏信	2学期 国1 - B	1	1	181
	英語II（国1-C） ENG111F 渡邉　嘉則	2学期 国1 - C	1	1	182
	英語III（国1-A） ENG102F デビッド・アダム・ストット	1学期 国1 - A	1	1	183
	英語III（国1-B） ENG102F マイケル・バーグ	1学期 国1 - B	1	1	184
	英語III（国1-C） ENG102F デビット・ニール・マクレーラン	1学期 国1 - C	1	1	185
	英語IV（国1-A） ENG112F デビッド・アダム・ストット	2学期 国1 - A	1	1	186
	英語IV（国1-B） ENG112F ロバート・マーフィ	2学期 国1 - B	1	1	187

外国語学部 国際関係学科（2016年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / 履修年次 / 単位 / クラス	索引
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語IV（国１-C）	2学期 / 1 / 1	188
	ENG112F デビット・ニール・マクレーラン	国１ - C	
	英語V（国２-A）	1学期 / 2 / 1	189
	ENG201F 十時　康	国２ - A	
	英語V（国２-B）	1学期 / 2 / 1	190
	ENG201F 杉山　智子	国２ - B	
	英語V（国２-C）	1学期 / 2 / 1	191
	ENG201F 渡邉　嘉則	国２ - C	
	英語VI（国２-A）	2学期 / 2 / 1	192
	ENG211F 十時　康	国２ - A	
	英語VI（国２-B）	2学期 / 2 / 1	193
	ENG211F 渡邉　嘉則	国２ - B	
	英語VI（国２-C）	2学期 / 2 / 1	194
	ENG211F 杉山　智子	国２ - C	
	英語VII（国２-A）	1学期 / 2 / 1	195
	ENG202F デビット・ニール・マクレーラン	国２ - A	
	英語VII（国２-B）	1学期 / 2 / 1	196
	ENG202F デビッド・アダム・ストット	国２ - B	
	英語VII（国２-C）	1学期 / 2 / 1	197
	ENG202F マイケル・バーグ	国２ - C	
	英語VIII（国２-A）	2学期 / 2 / 1	198
	ENG212F デビット・ニール・マクレーラン	国２ - A	
	英語VIII（国２-B）	2学期 / 2 / 1	199
	ENG212F デビッド・アダム・ストット	国２ - B	
	英語VIII（国２-C）	2学期 / 2 / 1	200
	ENG212F ロバート・マーフィ	国２ - C	
	英語IX（英中国３年）	1学期 / 3 / 1	201
	ENG301F 永末　康介	英中国３年	
	英語X（英中国３年）	2学期 / 3 / 1	202
	ENG311F 葛西　宏信	英中国３年	

外国語学部 国際関係学科（2016年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語XI（英中国比人３年） ENG302F ダンカン・ウォトリィ	1学期 英中国比人３年	3	1	203
	英語XII（英中国比人３年） ENG312F ロバート･マーフィ	2学期 英中国比人３年	3	1	204
■第二外国語	中国語I CHN101F 板谷　秀子	1学期 国１ - A	1	1	205
	中国語I CHN101F 板谷　俊生	1学期 国１ - B	1	1	206
	中国語I CHN101F 野村　和代	1学期 国１ - C	1	1	207
	中国語II CHN111F 板谷　秀子	2学期 国１ - A	1	1	208
	中国語II CHN111F 板谷　俊生	2学期 国１ - B	1	1	209
	中国語II CHN111F 野村　和代	2学期 国１ - C	1	1	210
	中国語III CHN102F 馮　戦兵	1学期 国１ - A	1	1	211
	中国語III CHN102F 王　晨	1学期 国１ - B	1	1	212
	中国語III CHN102F 葉 言材	1学期 国１ - C	1	1	213
	中国語IV CHN112F 馮　戦兵	2学期 国１ - A	1	1	214
	中国語IV CHN112F 王　晨	2学期 国１ - B	1	1	215
	中国語IV CHN112F 葉 言材	2学期 国１ - C	1	1	216
	中国語V CHN201F 野村　和代	1学期 国２ - A	2	1	217

外国語学部　国際関係学科（2016年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位 クラス	索引
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	中国語V CHN201F　板谷　秀子	1学期	2	1 国２ - B	218
	中国語V CHN201F　板谷　俊生	1学期	2	1 国２ - C	219
	中国語VI CHN211F　野村　和代	2学期	2	1 国２ - A	220
	中国語VI CHN211F　板谷　秀子	2学期	2	1 国２ - B	221
	中国語VI CHN211F　板谷　俊生	2学期	2	1 国２ - C	222
	中国語VII CHN202F　陳　青鳳	1学期	2	1 国２ - A	223
	中国語VII CHN202F　周　艶阳	1学期	2	1 国２ - B	224
	中国語VII CHN202F　王　晨	1学期	2	1 国２ - C	225
	中国語VIII CHN212F　陳　青鳳	2学期	2	1 国２ - A	226
	中国語VIII CHN212F　周　艶阳	2学期	2	1 国２ - B	227
	中国語VIII CHN212F　王　晨	2学期	2	1 国２ - C	228
	上級中国語I CHN301F　唐　雋	1学期	3	1 英国済営比人３年	229
	上級中国語II CHN311F　唐　雋	2学期	3	1 英国済営比人３年	230
	上級中国語III CHN302F　王　晨	1学期	3	1 英国済営比人３年	231
	上級中国語IV CHN312F　王　晨	2学期	3	1 英国済営比人３年	232

外国語学部　国際関係学科（2016年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / 履修年次 / 単位 / クラス	索引
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	朝鮮語I KRN101F　金　貞愛	1学期 / 1 / 1 国１年	233
	朝鮮語II KRN111F　金　貞愛	2学期 / 1 / 1 国１年	234
	朝鮮語III KRN102F　金　光子	1学期 / 1 / 1 国１年	235
	朝鮮語IV KRN112F　金　光子	2学期 / 1 / 1 国１年	236
	朝鮮語V KRN201F　金　貞愛	1学期 / 2 / 1 国２年	237
	朝鮮語VI KRN211F　金　貞愛	2学期 / 2 / 1 国２年	238
	朝鮮語VII KRN202F　金　貞淑	1学期 / 2 / 1 国２年	239
	朝鮮語VIII KRN212F　金　貞淑	2学期 / 2 / 1 国２年	240
	上級朝鮮語I KRN301F　金　貞淑	1学期 / 3 / 1 英中国済営比人３年	241
	上級朝鮮語II KRN311F　金　貞淑	2学期 / 3 / 1 英中国済営比人３年	242
	上級朝鮮語III KRN302F　金　貞愛	1学期 / 3 / 1 英中国済営比人３年	243
	上級朝鮮語IV KRN312F　金　貞愛	2学期 / 3 / 1 英中国済営比人３年	244
	ロシア語I RUS101F　芳之内　雄二	1学期 / 1 / 1 英中国済営比人律政１年	245
	ロシア語II RUS111F　芳之内　雄二	2学期 / 1 / 1 英中国済営比人律政１年	246
	ロシア語III RUS102F　ナタリア・シェスタコーワ	1学期 / 1 / 1 英中国済営比人律政１年	247

外国語学部　国際関係学科（2016年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ロシア語IV RUS112F　ナタリア・シェスタコーワ	2学期	1	1	英中国済営比人律政１年	248
	ロシア語V RUS201F　芳之内　雄二	1学期	2	1	英中国済営比人律政２年	249
	ロシア語VI RUS211F　芳之内　雄二	2学期	2	1	英中国済営比人律政２年	250
	ロシア語VII RUS202F　ナタリア・シェスタコーワ	1学期	2	1	英中国済営比人律政２年	251
	ロシア語VIII RUS212F　ナタリア・シェスタコーワ	2学期	2	1	英中国済営比人律政２年	252
	ドイツ語I GRM101F　山下　哲雄	1学期	1	1	英中国１年	253
	ドイツ語II GRM111F　山下　哲雄	2学期	1	1	英中国１年	254
	ドイツ語III GRM102F　山下　哲雄	1学期	1	1	英中国１年	255
	ドイツ語IV GRM112F　山下　哲雄	2学期	1	1	英中国１年	256
	ドイツ語V GRM201F　山下　哲雄	1学期	2	1	英中国済営比人律政２年	257
	ドイツ語VI GRM211F　山下　哲雄	2学期	2	1	英中国済営比人律政２年	258
	ドイツ語VII GRM202F　山下　哲雄	1学期	2	1	英中国済営比人律政２年	259
	ドイツ語VIII GRM212F　山下　哲雄	2学期	2	1	英中国済営比人律政２年	260
	フランス語I FRN101F　山下　広一	1学期	1	1	英中国１年	261
	フランス語II FRN111F　山下　広一	2学期	1	1	英中国１年	262

外国語学部　国際関係学科（2016年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	フランス語III FRN102F　坂田　由紀	1学期	1	1	英中国１年	263
	フランス語IV FRN112F　坂田　由紀	2学期	1	1	英中国１年	264
	フランス語V FRN201F　坂田　由紀	1学期	2	1	英中国済営比人律政２年	265
	フランス語VI FRN211F　坂田　由紀	2学期	2	1	英中国済営比人律政２年	266
	フランス語VII FRN202F　小野　菜都美	1学期	2	1	英中国済営比人律政２年	267
	フランス語VIII FRN212F　小野　菜都美	2学期	2	1	英中国済営比人律政２年	268
	スペイン語I SPN101F　岡住　正秀	1学期	1	1	中国済営人律政１年	269
	スペイン語II SPN111F　岡住　正秀	2学期	1	1	中国済営人律政１年	270
	スペイン語III SPN102F　辻　博子	1学期	1	1	中国済営人律政１年	271
	スペイン語IV SPN112F　辻　博子	2学期	1	1	中国済営人律政１年	272
	スペイン語V SPN201F　青木　文夫	1学期	2	1	英中国済営比人律政２年	273
	スペイン語VI SPN211F　青木　文夫	2学期	2	1	英中国済営比人律政２年	274
	スペイン語VII SPN202F　辻　博子	1学期	2	1	英中国済営比人律政２年	275
	スペイン語VIII SPN212F　辻　博子	2学期	2	1	英中国済営比人律政２年	276
■留学生特別科目	日本語I JSL101F　清水　順子	1学期	1	1	留学生１年	277

外国語学部　国際関係学科（2016年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■基盤教育科目 ■留学生特別科目	日本語II JSL102F　則松　智子	1学期	1	1	留学生１年	278
	日本語III JSL103F　徐　暁輝	1学期	1	1	留学生１年	279
	日本語IV JSL111F　清水　順子	2学期	1	1	留学生１年	280
	日本語V JSL112F　則松　智子	2学期	1	1	留学生１年	281
	日本語VI JSL113F　徐　暁輝	2学期	1	1	留学生１年	282
	日本語VII JSL104F　小林　浩明	1学期	2	1	留学生２年	283
	日本語VIII JSL114F　清水　順子	2学期	2	1	留学生２年	284
	日本事情（人文）A JPS101F　清水　順子	1学期	1	2	留学生１年	285
	日本事情（人文）B JPS102F　則松　智子	2学期	1	2	留学生１年	286
	日本事情（社会）A JPS103F　小林　浩明	1学期	1	2	留学生１年	287
	日本事情（社会）B JPS104F　小林　浩明	2学期	1	2	留学生１年	288
■専門教育科目 ■専門科目 ■その他	英米文化概論I ARE130M　久木　尚志	1学期	1	2	１年	289
	英米文学概論I LIT130M　齊藤　園子	1学期	1	2	１年	290
	英米文学概論II LIT131M　齊藤　園子	2学期	1	2	１年	291
	経済学の基礎 ECN100M　伊藤　正哉	2学期	1	2	１年	292

外国語学部 国際関係学科（2016年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■専門科目 ■その他	政治学 PLS100M 秦　正樹	1学期 1年	1	2	293
■A群	アメリカの社会 ARE225M 北　美幸	1学期 2年	2	2	294
	イギリス研究I ARE236M 久木 尚志	1学期 2年	2	2	295
	イギリス研究II ARE237M 久木 尚志	2学期 2年	2	2	296
	イギリス研究III ARE238M 休講	1学期 2年	2	2	
	イギリス研究IV ARE239M 休講	2学期 2年	2	2	
	英米文化概論II ARE226M 中野・川上	2学期 2年	2	2	297
	現代中国の政治 ARE211M 下野　寿子	1学期 2年	2	2	298
	現代中国の外交 ARE212M 下野　寿子	2学期 2年	2	2	299
	韓国・北朝鮮の政治外交I ARE213M 李　東俊	1学期 2年	2	2	300
	韓国・北朝鮮の政治外交II ARE214M 李　東俊	2学期 2年	2	2	301
	東南アジアの社会と歴史 ARE215M 篠崎　香織	1学期 2年	2	2	302
	東南アジアの政治と外交 ARE216M 篠崎　香織	2学期 2年	2	2	303
	地域研究特講 ARE200M ＯＤＵ教員	集中 2年	2	2	304
	アメリカ史の争点 ARE320M 朝立　康太郎	2学期 3年	3	2	305

外国語学部　国際関係学科（2016年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■専門科目 ■A群	現代アメリカ政治 ARE322M　中野 博文	1学期 3年	3	2	306
	アメリカ政治研究 ARE321M　中野 博文	2学期 3年	3	2	307
	東アジア経済論 ECN352M　尹 明憲	1学期 3年	3	2	308
	東アジア地域秩序論I ARE315M　金 鳳珍	1学期 3年	3	2	309
	東アジア地域秩序論II ARE316M　金 鳳珍	2学期 3年	3	2	310
■B群	国際協力論I IRL211M　大平 剛	1学期 2年	2	2	311
	国際協力論II IRL212M　大平 剛	2学期 2年	2	2	312
	国際社会論 IRL210M　稲月 正	1学期 2年	2	2	313
	国際人権論 IRL213M　山本 直	2学期 2年	2	2	314
	国際紛争論 IRL214M　川上 耕平	1学期 2年	2	2	315
	地球環境論 ENV200M　松本 治彦	1学期 2年	2	2	316
	世界経済論 ECN255M　山川 俊和	2学期 2年	2	2	317
	国際関係特講I IRL290M　繁沢 敦子	集中 2年	2	2	318
	国際関係特講II IRL291M　岩﨑 佳孝	集中 2年	2	2	319
	倫理学 PHR210M　清水 満	2学期 2年	2	2	320

外国語学部　国際関係学科（2016年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■専門科目 ■B群	国際機構論I IRL312M　山本　直	1学期 3年	3	2	321
	国際機構論II IRL313M　山本　直	2学期 3年	3	2	322
	国際政治経済論I IRL310M　阿部　容子	1学期 3年	3	2	323
	国際政治経済論II IRL311M　阿部　容子	2学期 3年	3	2	324
	国際法I LAW250M　二宮 正人	1学期 3年	3	2	325
	国際法II LAW251M　二宮 正人	2学期 3年	3	2	326
	政策過程論 PLC212M　申　東愛	1学期 3年	3	2	327
■外国語科目 ■英語必修	英文法・英作文A ENG161M　團迫　雅彦	1学期 1 - 1	1	1	328
	英文法・英作文A ENG161M　吉田　禎子	1学期 1 - 2	1	1	329
	英文法・英作文A ENG161M　冨永　美喜	1学期 1 - 3	1	1	330
	英文法・英作文A ENG161M　齊藤　園子	1学期 1 - 4	1	1	331
	英文法・英作文B ENG162M　團迫　雅彦	2学期 1 - 1	1	1	332
	英文法・英作文B ENG162M　吉田　禎子	2学期 1 - 2	1	1	333
	英文法・英作文B ENG162M　冨永　美喜	2学期 1 - 3	1	1	334
	英文法・英作文B ENG162M　齊藤　園子	2学期 1 - 4	1	1	335

外国語学部 国際関係学科（2016年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■外国語科目 ■英語必修	English Practicum1A ENG101M アンデリュー・ジッツマン	1学期 1 - 1	1	1	336
	English Practicum1A ENG101M アルバート・オスカー・モウ	1学期 1 - 2	1	1	337
	English Practicum1A ENG101M アンデリュー・ジッツマン	1学期 1 - 3	1	1	338
	English Practicum1A ENG101M アルバート・オスカー・モウ	1学期 1 - 4	1	1	339
	English Practicum1B ENG111M アンデリュー・ジッツマン	2学期 1 - 1	1	1	340
	English Practicum1B ENG111M アルバート・オスカー・モウ	2学期 1 - 2	1	1	341
	English Practicum1B ENG111M アンデリュー・ジッツマン	2学期 1 - 3	1	1	342
	English Practicum1B ENG111M アルバート・オスカー・モウ	2学期 1 - 4	1	1	343
	英語表現法A ENG261M 齊藤　園子	1学期 2 - 1	2	1	344
	英語表現法A ENG261M 齊藤　園子	1学期 2 - 2	2	1	345
	英語表現法A ENG261M 村田　希巳子	1学期 2 - 3	2	1	346
	英語表現法A ENG261M 薬師寺　元子	1学期 2 - 4	2	1	347
	英語表現法B ENG262M 齊藤　園子	2学期 2 - 1	2	1	348
	英語表現法B ENG262M 齊藤　園子	2学期 2 - 2	2	1	349
	英語表現法B ENG262M 村田　希巳子	2学期 2 - 3	2	1	350

外国語学部　国際関係学科（2016年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■外国語科目 ■英語必修	英語表現法B ENG262M　薬師寺　元子	2学期 2 - 4	2	1	351
	English Practicum2A ENG201M　クリストファー・カーマン	1学期 2 - 1	2	1	352
	English Practicum2A ENG201M　クリストファー・オサリバン	1学期 2 - 2	2	1	353
	English Practicum2A ENG201M　デニス・ジョーンズ	1学期 2 - 3	2	1	354
	English Practicum2A ENG201M　デイヴィッド・レイモンド・ラッツ	1学期 2 - 4	2	1	355
	English Practicum2B ENG211M　クリストファー・カーマン	2学期 2 - 1	2	1	356
	English Practicum2B ENG211M　クリストファー・オサリバン	2学期 2 - 2	2	1	357
	English Practicum2B ENG211M　デニス・ジョーンズ	2学期 2 - 3	2	1	358
	English Practicum2B ENG211M　デイヴィッド・レイモンド・ラッツ	2学期 2 - 4	2	1	359
	英語論文作成法I ENG361M　アルバート・オスカー・モウ	1学期 3 - 1	3	2	360
	英語論文作成法I ENG361M　デイヴィッド・レイモンド・ラッツ	1学期 3 - 2	3	2	361
	英語論文作成法I ENG361M　ポール・ガラフ・スティール	1学期 3 - 3	3	2	362
	英語論文作成法I ENG361M　デニス・ジョーンズ	1学期 3 - 4	3	2	363
	英語論文作成法II ENG362M　アルバート・オスカー・モウ	2学期 3 - 1	3	2	364
	英語論文作成法II ENG362M　デイヴィッド・レイモンド・ラッツ	2学期 3 - 2	3	2	365

外国語学部 国際関係学科（2016年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■外国語科目 ■英語必修	英語論文作成法II ENG362M ポール・ガラフ・スティール	2学期 3 - 3	3	2	366
	英語論文作成法II ENG362M デニス・ジョーンズ	2学期 3 - 4	3	2	367
	English Practicum3A ENG301M ジェイムズ・ヒックス	1学期 3 - 1	3	1	368
	English Practicum3A ENG301M クリストファー・カーマン	1学期 3 - 2	3	1	369
	English Practicum3A ENG301M デイヴィッド・レイモンド・ラッツ	1学期 3 - 3	3	1	370
	English Practicum3A ENG301M クリストファー・オサリバン	1学期 3 - 4	3	1	371
	English Practicum3B ENG311M ジェイムズ・ヒックス	2学期 3 - 1	3	1	372
	English Practicum3B ENG311M クリストファー・カーマン	2学期 3 - 2	3	1	373
	English Practicum3B ENG311M デイヴィッド・レイモンド・ラッツ	2学期 3 - 3	3	1	374
	English Practicum3B ENG311M クリストファー・オサリバン	2学期 3 - 4	3	1	375
■英語選択	英語学概論 LIN130M 三宅　啓子	1学期 1年	1	2	376
	原書講読 ENG312M 齊藤　園子	1学期 3年	3	2	377
■専門基礎科目 ■必修	国際関係概論 IRL100M 国際関係学科教員	1学期 1年	1	2	378
	国際関係の争点 IRL101M 大平　剛	2学期 1年	1	2	379
	国際関係史 IRL201M 中野・金	2学期 2年	2	2	380

外国語学部　国際関係学科（2016年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■専門基礎科目 ■必修	国際関係の理論 IRL200M　阿部　容子	1学期 2年	2	2	381
■選択	中国研究概論 ARE111M　下野　寿子	1学期 1年	1	2	382
	朝鮮半島研究概論 ARE112M　李　東俊	2学期 1年	1	2	383
	東南アジア研究概論 ARE113M　篠崎　香織	2学期 1年	1	2	384
■演習科目 ■必修	入門演習 SEM110M　下野　寿子　他５名	2学期 1年	1	2	385
	基礎演習 SEM210M　金　鳳珍　他５名	1学期 2年	2	2	386
	専門演習I SEM311M　休講	1学期 3年	3	2	
	専門演習I SEM311M　大平　剛	1学期 3年	3	2	387
	専門演習I SEM311M　休講	1学期 3年	3	2	
	専門演習I SEM311M　李　東俊	1学期 3年	3	2	388
	専門演習I SEM311M　金　鳳珍	1学期 3年	3	2	389
	専門演習I SEM311M　阿部　容子	1学期 3年	3	2	390
	専門演習I SEM311M　篠崎　香織	1学期 3年	3	2	391
	専門演習I SEM311M　下野　寿子	1学期 3年	3	2	392
	専門演習I SEM311M　中野　博文	1学期 3年	3	2	393

外国語学部　国際関係学科（2016年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■演習科目 ■必修	専門演習I SEM311M　久木 尚志	1学期 3年	3	2	394
	専門演習I SEM311M　山本　直	1学期 3年	3	2	395
	専門演習I SEM311M　尹 明憲	1学期 3年	3	2	396
	専門演習II SEM312M　休講	2学期 3年	3	2	
	専門演習II SEM312M　大平　剛	2学期 3年	3	2	397
	専門演習II SEM312M　休講	2学期 3年	3	2	
	専門演習II SEM312M　李　東俊	2学期 3年	3	2	398
	専門演習II SEM312M　金 鳳珍	2学期 3年	3	2	399
	専門演習II SEM312M　阿部　容子	2学期 3年	3	2	400
	専門演習II SEM312M　篠崎　香織	2学期 3年	3	2	401
	専門演習II SEM312M　下野　寿子	2学期 3年	3	2	402
	専門演習II SEM312M　中野 博文	2学期 3年	3	2	403
	専門演習II SEM312M　久木 尚志	2学期 3年	3	2	404
	専門演習II SEM312M　山本　直	2学期 3年	3	2	405
	専門演習II SEM312M　尹 明憲	2学期 3年	3	2	406

外国語学部　国際関係学科（2016年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■演習科目 ■必修	卒業研究演習I SEM411M　大平　剛	1学期 4年	4	2	407
	卒業研究演習I SEM411M　李　東俊	1学期 4年	4	2	408
	卒業研究演習I SEM411M　篠崎　香織	1学期 4年	4	2	409
	卒業研究演習I SEM411M　下野　寿子	1学期 4年	4	2	410
	卒業研究演習I SEM411M　中野 博文	1学期 4年	4	2	411
	卒業研究演習I SEM411M　久木 尚志	1学期 4年	4	2	412
	卒業研究演習I SEM411M　山本　直	1学期 4年	4	2	413
	卒業研究演習I SEM411M　尹 明憲	1学期 4年	4	2	414
	卒業研究演習I SEM411M　休講	1学期 4年	4	2	
	卒業研究演習I SEM411M　阿部　容子	1学期 4年	4	2	415
	卒業研究演習I SEM411M　北　美幸	1学期 4年	4	2	416
	卒業研究演習I SEM411M　金 鳳珍	1学期 4年	4	2	417
	卒業研究演習II SEM412M　大平　剛	2学期 4年	4	2	418
	卒業研究演習II SEM412M　李　東俊	2学期 4年	4	2	419
	卒業研究演習II SEM412M　篠崎　香織	2学期 4年	4	2	420

外国語学部　国際関係学科（2016年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■演習科目 ■必修	卒業研究演習II SEM412M　下野　寿子	2学期 4年	4	2	421
	卒業研究演習II SEM412M　中野　博文	2学期 4年	4	2	422
	卒業研究演習II SEM412M　久木　尚志	2学期 4年	4	2	423
	卒業研究演習II SEM412M　山本　直	2学期 4年	4	2	424
	卒業研究演習II SEM412M　尹　明憲	2学期 4年	4	2	425
	卒業研究演習II SEM412M　休講	2学期 4年	4	2	
	卒業研究演習II SEM412M　阿部　容子	2学期 4年	4	2	426
	卒業研究演習II SEM412M　北　美幸	1学期 4年	4	2	427
	卒業研究演習II SEM412M　金　鳳珍	2学期 4年	4	2	428
■自由選択科目	中国近現代史I HIS120M　堀地　明	1学期 1年	1	2	429
	中国近現代史II HIS121M　堀地　明	2学期 1年	1	2	430
	異文化演習B MCC183M　大平　剛	2学期 1年	1	2	431
	イスパニア地域論 ARE243M　富田　広樹	2学期 2年	2	2	432
	経済学入門A ECN110M　後藤　宇生	1学期 2年	2	2	433
	経済学入門B ECN111M　畔津　憲司	1学期 2年	2	2	434

外国語学部　国際関係学科（2016年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位 クラス	索引
■自由選択科目	ユーラシアの多文化世界 ARE265M　芳之内　雄二	2学期	2	2 2年	435
	時事中国語講読I ARE311M　白石　麻保	1学期	3	2 3年	436
	時事中国語講読II ARE312M　白石　麻保	2学期	3	2 3年	437
	ビジネス中国語I CHN362M　唐　雋	1学期	3	2 3 - 1・ 3 - 2	438
	ビジネス中国語I CHN362M　唐　雋	1学期	3	2 3 - 3・ 3 - 4	439
	ビジネス中国語II CHN363M　唐　雋	2学期	3	2 3 - 1・ 3 - 2	440
	ビジネス中国語II CHN363M　唐　雋	2学期	3	2 3 - 3・ 3 - 4	441
	アジア地域社会論 PLC222M　三宅 博之	2学期	3	2 3年	442
	環境政策論 PLC216M　申　東愛	2学期	3	2 3年	443
	西洋政治史 PLS111M　西　貴倫	1学期	3	2 3年	444
	地域統合論 PLS214M　中井　遼	2学期	3	2 3年	445
■教職に関する科目 ■必修科目	教職論 EDU111M　楠 凡之	1学期	1	2 1年	446
	教育原理 EDU110M　児玉 弥生	2学期	1	2 1年	447
	発達心理学 PSY222M　税田　慶昭	1学期	2	2 2年	448
	教育制度論 EDU227M　児玉 弥生	1学期	3	2 3年	449

外国語学部　国際関係学科（2016年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■教職に関する科目 ■必修科目	教育課程論 EDU360M　児玉 弥生	1学期	3	2	3年	450
	英語科教育法A EDU250C　休講	1学期	3	2	3年	
	英語科教育法A EDU250C　森　千鶴	1学期	3	2	3年	451
	英語科教育法B EDU251C　休講	2学期	3	2	3年	
	英語科教育法B EDU251C　森　千鶴	2学期	3	2	3年	452
	英語科教育法C EDU252C　雪丸　尚美	1学期	3	2	3年	453
	英語科教育法D EDU253C　雪丸　尚美	2学期	3	2	3年	454
	社会科教育法A EDU240C　下地　貴樹	1学期	3	2	3年	455
	社会科教育法B EDU241C　吉村　義則	2学期	3	2	3年	456
	社会科教育法C EDU242C　休講	1学期	3	2	3年	
	社会科教育法D EDU243C　休講	2学期	3	2	3年	
	公民科教育法A EDU244C　休講	1学期	3	2	3年	
	公民科教育法B EDU245C　休講	2学期	3	2	3年	
	道徳教育指導論 EDU262M　田中　友佳子	2学期	2	2	2年	457
	特別活動論 EDU263M　楠　凡之	2学期	2	2	2年	458

外国語学部 国際関係学科（2016年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■教職に関する科目 ■必修科目	教育方法学 EDU260M 下地 貴樹	1学期 2年	2	2	459
	生徒・進路指導論 EDU261M 楠 凡之	2学期 2年	2	2	460
	教育相談 EDU264M 楠 凡之	1学期 2年	2	2	461
	教育実習１ EDU380C 児玉 弥生 他	2学期 3年	3	2	462
	教育実習２ EDU480C	1学期 4年	4	2	
	教育実習３ EDU481C 恒吉 紀寿 他	1学期 4年	4	2	
	教職実践演習（中・高） EDU490C 休講	2学期 4年	4	2	
■選択科目	教育心理学 PSY220M 山下 智也	2学期 2年	2	2	463
	障害児の心理と指導 PSY223M 休講	2学期 2年	2	2	
	教育社会学 EDU225M 作田 誠一郎	集中 2年	2	2	464
	人権教育論 EDU228M 河嶋 静代	1学期 2年	2	2	465
	生涯学習学 EDU220M 休講	1学期 2年	2	2	
	教育工学 EDU265M 大塚 一徳	2学期 2年	2	2	466

外国語学部　国際関係学科（2016年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 PLS110F　小林 道彦	2学期 1年	1	2	467
	異文化理解の基礎 ANT110F　神原　ゆうこ	1学期 1年	1	2	468
	ことばの科学 LIN110F　漆原 朗子	1学期 1年	1	2	469
	国際学入門 IRL100F　伊野 憲治	1学期 1年	1	2	470
	生活世界の哲学 PHR110F　伊原木　大祐	2学期 1年	1	2	471
	日本の防衛 PLS111F　戸蒔　仁司	2学期 1年	1	2	472
	生命と環境 BIO100F　日高　京子　他	1学期 1年	1	2	473
	情報社会への招待 INF100F　中尾　泰士	2学期 1年	1	2	474
	環境問題概論 ENV100F　廣川　祐司	2学期 1年	1	2	475
■テーマ科目	地球の生いたち GOL001F　休講	2学期 1年	1	2	
	現代人のこころ PSY003F　森永　今日子	1学期 1年	1	2	476
	人間と生命 BIO002F　日高　京子	2学期 1年	1	2	477
	思想と現代 PHR004F　休講	1学期 1年	1	2	
	文学を読む LIT001F　生住　昌大　他	2学期 1年	1	2	478
	現代正義論 PHR003F　重松 博之	2学期 1年	1	2	479

外国語学部 国際関係学科（2016年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	民主主義とは何か PLS002F 休講	1学期 1年	1	2	
	人権論 SOC004F 休講	1学期 1年	1	2	
	ジェンダー論 GEN001F 休講	1学期 1年	1	2	
	障がい学 SOW001F 伊野 憲治 他	2学期 1年	1	2	480
	社会調査 SOC003F 休講	2学期 1年	1	2	
	市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期 1年	1	2	481
	企業と社会 BUS001F 休講	1学期 1年	1	2	
	現代社会と倫理 PHR002F 伊原木 大祐	1学期 1年	1	2	482
	開発と統治 IRL002F 休講	2学期 1年	1	2	
	国際紛争と国連 IRL005F 二宮 正人	2学期 1年	1	2	483
	歴史の読み方I HIS004F 小林 道彦	1学期 1年	1	2	484
	歴史の読み方II HIS005F 小林 道彦	1学期 1年	1	2	485
	そのとき世界は HIS002F 休講	2学期 1年	1	2	
	人物と時代の歴史 HIS001F 山﨑 勇治 他	1学期 1年	1	2	486
	ヨーロッパ道徳思想史 PHR005F 伊原木 大祐	2学期 1年	1	2	487

外国語学部 国際関係学科（2016年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・スキル科目	メンタル・ヘルスI PSY001F 中島 俊介	1学期 1年	1	2	488
	メンタル・ヘルスII PSY002F 中島 俊介	2学期 1年	1	2	489
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 山本 浩二	1学期 1年	1	2	490
	フィジカル・ヘルスII HSS002F 休講	2学期 1年	1	2	
	フィジカル・エクササイズI（バドミントン） HSS081F 休講	1学期 1年	1	1	
	フィジカル・エクササイズII（バドミントン） HSS082F 徳永 政夫	2学期 1年	1	1	491
■情報教育科目	データ処理 INF101F 浅羽 修丈	2学期 1学期未修得者再履	1	2	492
	情報表現 INF230F 浅羽 修丈	1学期 2年	2	2	493
	情報表現 INF230F 休講	2学期 2年	2	2	
■専門教育科目 ■専門科目 ■B群	国際法I LAW250M 休講	1学期 3年	3	2	
	国際法II LAW251M 休講	2学期 3年	3	2	
■自由選択科目	経済学入門A ECN110M 牛房 義明	1学期 2年	2	2	494
	経済学入門B ECN111M 後藤 尚久	1学期 2年	2	2	495
■教職に関する科目 ■必修科目	教職論 EDU111M 楠 凡之	1学期 1年	1	2	496
	教育原理 EDU110M 児玉 弥生	2学期 1年	1	2	497

外国語学部　国際関係学科（2016年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■教職に関する科目 ■必修科目	発達心理学 PSY222M　税田　慶昭	1学期 2年	2	2	498
	教育制度論 EDU227M　児玉　弥生	1学期 3年	3	2	499
	教育課程論 EDU360M　児玉　弥生	1学期 3年	3	2	500
	英語科教育法Ａ EDU250C　森　千鶴	1学期 3年	3	2	501
	英語科教育法Ｂ EDU251C　森　千鶴	2学期 3年	3	2	502
	英語科教育法Ｃ EDU252C　休講	1学期 3年	3	2	
	英語科教育法Ｄ EDU253C　休講	2学期 3年	3	2	
	社会科教育法Ａ EDU240C　休講	1学期 3年	3	2	
	社会科教育法Ｂ EDU241C　休講	2学期 3年	3	2	
	社会科教育法Ｃ EDU242C　下地　貴樹	1学期 3年	3	2	503
	社会科教育法Ｄ EDU243C　下地　貴樹	2学期 3年	3	2	504
	公民科教育法Ａ EDU244C　下地　貴樹	1学期 3年	3	2	505
	公民科教育法Ｂ EDU245C　吉村　義則	2学期 3年	3	2	506
	道徳教育指導論 EDU262M　田中　友佳子	2学期 2年	2	2	507
	特別活動論 EDU263M　楠　凡之	2学期 2年	2	2	508

外国語学部　国際関係学科（2016年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■教職に関する科目 ■必修科目	教育方法学 EDU260M　下地　貴樹	1学期 2年	2	2	509
	生徒・進路指導論 EDU261M　楠　凡之	2学期 2年	2	2	510
	教育相談 EDU264M　楠　凡之	1学期 2年	2	2	511
	教育実習１ EDU380C　児玉　弥生　他	2学期 3年	3	2	512
	教育実習２ EDU480C　恒吉　紀寿　他	1学期 4年	4	2	513
	教育実習３ EDU481C　恒吉　紀寿　他	1学期 4年	4	2	514
	教職実践演習（中・高） EDU490C　楠　凡之　他	2学期 4年	4	2	
■選択科目	教育心理学 PSY220M　休講	2学期 2年	2	2	
	障害児の心理と指導 PSY223M　税田　慶昭	2学期 2年	2	2	515
	教育社会学 EDU225M　休講	1学期 2年	2	2	
	生涯学習学 EDU220M　恒吉　紀寿	1学期 2年	2	2	516
	教育工学 EDU265M　休講	2学期 2年	2	2	

歴史と政治 【昼】

担当者名 /Instructor　小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と歴史との関係性を政治学的視点から総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史について政治学的視点から総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

歴史と政治	PLS110F

授業の概要 /Course Description

明治憲法体制の成立（1889年）から崩壊（1945年）までの日本政治の歩みを概説します。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らないで、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近現代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『児玉源太郎』（ミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　イントロダクション
第２回　「文明国」をめざして - 憲法制定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
第３回　明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【児玉源太郎】【統帥権】
第４回　日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
第５回　立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
第６回　日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
第７回　憲法改革の頓挫【伊藤博文】【児玉源太郎】【韓国併合】
第８回　大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21ヵ条要求】
第９回　政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
第10回　二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
第11回　軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
第12回　2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
第13回　日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
第14回　太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み…10%　期末試験…90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。授業終了後はノートを読み直し、授業中に紹介した参考文献を読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

歴史と政治 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この講義では歴史的事項の暗記は重視しません。歴史の流れを史料に即して論理的に理解することが大切です。

キーワード　/Keywords

異文化理解の基礎 【昼】

担当者名 /Instructor　神原　ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化に関する既成概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

異文化理解の基礎	ANT110F

授業の概要　/Course Description

本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。（おそらく大部分が）北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではぐくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。文化に関する日常的な知識は、応用的なものばかりなので、基礎をしっかり学び、総合的な理解力、思索力を身につけることをめざす。

講義中に何回か指定するトピック（次回のテーマに関するもの）についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既成概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身に着ける手掛かりを学んでほしい。

教科書　/Textbooks

予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。なお、講義に関する映画を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の課題図書などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
○奥野克己（編）2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
○田中雅一ほか（編）2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
○波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

異文化理解の基礎 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　導入：世界を理解するてがかりとしての文化

第I部　文化の基礎としての家族
第2回　伝統的家族の多様性
第3回　近代以降の家族・親族関係の変容
第4回　親族という認識
第5回　親族・家族関係から社会関係への拡張
第6回　ジェンダーと伝統文化
第7回　伝統文化について：構築主義と本質主義
第8回　文化相対主義の考え方
第9回　中間テスト

第II部　文化と世界観
第10回　儀礼と文化
第11回　宗教と家族・コミュニティ
第12回　さまざまな信仰心
第13回　不幸への対処としての呪術
第14回　中間テストの解説
第15回　政教分離と世俗化

※出張などの理由で休講が入った場合、順序を入れ替えて補講を行う。具体的なスケジュールについては初回の講義で説明する。

成績評価の方法　/Assessment Method

中間テスト＋課題など 40%、 期末テスト 60%　を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。
※中間テストを予定しているが、受講者の数によってはレポートにすることがあります。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。
・講義に出席していても、テストやレポートで評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義中に指示した関連文献を読むなど、復習にも真剣に取り組んでください。
・講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。

履修上の注意　/Remarks

・評価方法やテキストとなる電子ブックや講義資料の閲覧方法など重要事項は第一回の講義で説明しますので、第一回目の講義は必ず出席してください。
・中間テストの無断欠席者や、授業態度が目に余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義「異文化理解の基礎」の応用編はテーマ科目「政治のなかの文化」とビジョンII「現代社会と文化」です。基礎が分かるからこそ面白いと思える内容ですので、受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード　/Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係

ことばの科学 【昼】

担当者名 /Instructor	漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
履修年次 /Year	1年次
単位 /Credits	2単位
学期 /Semester	1学期
授業形態 /Class Format	講義
クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語の様々な側面についての基本的知識を身につけ、言語学の課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語学に関する課題を発見し、言語学の手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語に関心を持ち、言語および言語学の課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		

ことばの科学	LIN110F

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータや最近の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

漆原 朗子（編著）『形態論』（朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻）。朝倉書店、2016年。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○大津 由紀雄（編著）『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
○スティーヴン・ピンカー（著）椋田 直子（訳）『言語を生みだす本能（上）・（下）』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 序(1)：ことばの不思議
第2回 序(2)：ことばの習得
第3回 ことばの単位(1)：音韻
第4回 連濁
第5回 鼻濁音
第6回 ことばの単位(2)：語
第7回 語の基本：なりたち・構造・意味
第8回 語の文法：複合語・短縮語・新語
第9回 ことばの単位(3)：文
第10回 動詞の自他
第11回 日本語と英語の受動態
第12回 数量詞
第13回 時制と相：方言比較
第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度…10% 課題…30% 期末試験…60%

ことばの科学 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読
事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

履修上の注意　/Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

国際学入門 【昼】

担当者名 /Instructor　伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、総合的に理解する能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、地域研究的視点からの理解を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際問題に関して、地域研究的視点から見直す能力を獲得する。
	コミュニケーション力		

国際学入門	IRL100F

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく２本の柱が必要となる。すなわち、①グローバライゼイションのすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバライゼイション】【多様化】
第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
第11回：「地域研究」の技法。【フィールド･ワーク】
第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
第14回：まとめ
第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

国際学入門 【昼】

履修上の注意　/Remarks

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。
毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する（特に提出する必要はない）。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

生活世界の哲学 【昼】

担当者名 /Instructor　伊原木　大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	哲学の知識に基づいて人間と生活世界との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生活世界に関する課題を哲学的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生活世界に関する問題を哲学的に解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

生活世界の哲学	PHR110F

授業の概要　/Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、フッサール現象学からフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明しつつ、生活世界の変容とその問題点を確認したあと、21世紀の今日でもなお哲学的思索の糧となりうる「古代」および「宗教」の分析に取り組む。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』（細谷恒夫・木田元訳）、中公文庫、1995年。
○ホルクハイマー / アドルノ『啓蒙の弁証法--哲学的断想』（徳永恂訳）、岩波文庫、2007年。
○ハンナ・アレント『人間の条件』（志水速雄訳）、ちくま学芸文庫、1994年。
その他は授業中に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　イントロダクション
２回　近代とは何か【概説】
３回　近代の勃興【ガリレイと科学革命】
４回　生活世界の概念【フッサールの科学批判】
５回　生活世界の変容（１）【近代産業社会】
６回　生活世界の変容（２）【戦争の美学】
７回　生活世界の変容（３）【政治の美学】
８回　確認テスト
９回　生活世界の分析【アーレントの近代批判】
１０回　古代世界の公共空間（１）【古代文明と戦争】
１１回　古代世界の公共空間（２）【アテナイ民主政】
１２回　古代世界の公共空間（３）【古代ギリシャの公と私】
１３回　宗教の私事性と公的領域（１）【寛容の概念】
１４回　宗教の私事性と公的領域（２）【宗教の問い】
１５回　宗教の私事性と公的領域（３）【衝突と共生】

成績評価の方法　/Assessment Method

確認テスト…40%　　学期末試験…60%
（第８回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。）

生活世界の哲学 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。スライドの内容はもちろんのこと、担当者が口頭で述べた内容についても、こまめにノートを取る習慣を身につけてほしい。

キーワード　/Keywords

科学技術　生活世界　活動　ポリス

日本の防衛 【昼】

担当者名 /Instructor　戸蒔　仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	安全保障や防衛と国民との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	わが国の防衛上の諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	わが国の防衛上の課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

日本の防衛	PLS111F

授業の概要　/Course Description

わが国の防衛に関する概説を通じて、その必要性や意義について理解し、防衛一般についての知識や理解に基づいて、広く安全保障一般に対する思考を促すことを目的とする。具体的には、安全保障とは何か、防衛とは何か、といった基礎概念の提示を行い、防衛の必要性や意義を論ずることになるが、これらを理解するためには、前提として、わが国が置かれた環境および目下の脅威を把握する作業（状況認識）が欠かせない。一方で、わが国は憲法9条のもと「平和主義」を標榜していることから、その防衛も様々な制約を受けることになる。従って、わが国の防衛を考えるには、そうした「制度」面での知識も欠かせない。以上を踏まえ、本講義では、日本の防衛について、現実的な視点と制度的な視点の双方を重視し、総論、各論を通じて、現状と課題の理解と思考を促し

本年度は特に「平和安全法制」について力点を入れて解説する。

なお、この授業の到達目標は、同分野における①総合的知識･理解の獲得、②課題発見･分析･解決力の獲得、③生涯学習力の獲得、に置かれている。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、『防衛ハンドブック』、その他は適宜指示する。

日本の防衛 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回　安全保障と防衛(1)
　　安全保障を学ぶことの重要性、
第3回　安全保障と防衛(2)
　　安全保障とは何か、安全保障の目標、安全保障のスペクトラム
第4回　安全保障と防衛(2)
　　脅威とは何か、脅威の定義、安全保障の非軍事的側面と総合安全保障、国土安全保障
第5回　日本の安全保障(1)
　　安全保障の非軍事的側面（エネルギー、資源、食糧、備蓄をめぐる安全保障）
第6回　日本の安全保障(2)
　　安全保障の軍事的側面（国防、日米同盟、国際貢献)
第7回　日本の防衛(1)
　　防衛出動、個別的自衛権と集団的自衛権
第8回　日本の防衛(2)
　　海上警備、対領空侵犯措置、BMD対処、機雷除去、対外邦人輸送等
第9回　日本の防衛(3)
　　平和安全法制の概要
第10回　日本の防衛(4)
　　平和安全法制の論点
第11回　日本の脅威(1)
　　北朝鮮の脅威①　兵力の特徴、特殊部隊、江陵事案、わが国の防衛に対する意味、島嶼防衛とゲリコマ対処
第12回　日本の脅威(2)
　　北朝鮮の脅威②　弾道ミサイル及び大量破壊兵器
第13回　日本の脅威(3)
　　中国海空軍の脅威①　中国軍の不透明性、軍事態勢、海軍の動向
第14回　日本の脅威(4)
　　中国海空軍の脅威②　中国軍の戦略と行動
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

試験100%。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読み、安全保障・防衛関連の記事をチェックする習慣を身に着けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

安全保障や防衛問題に関心があれば、誰でも履修してみてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

生命と環境 【昼】

担当者名 /Instructor	日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾　泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	多様な生命とそれを生み出した環境についての基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命およびそれを生み出した環境について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

生命と環境	BIO100F

授業の概要　/Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。そもそも生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、（１）宇宙と生命がどのような物質からできているか、（２）生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、（３）進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学び、生命と環境に関する身近な課題を自ら発見・解決するための基礎的な力を身につける。また、（４）生命や宇宙がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方の大切さについて理解することを目標とする。

教科書　/Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○現代生命科学　東京大学生命科学教科書編集委員会　2015年（羊土社）3024円
○もう一度読む数研の高校生物　第１巻　嶋田正和他編　2012年（数研出版）1890円
○もう一度読む数研の高校生物　第２巻　嶋田正和他編　2012年（数研出版）1890円
宇宙と生命の起源―ビッグバンから人類誕生まで　嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年（岩波ジュニア新書）903円

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回	ガイダンス（日高・中尾）	
２回	自然科学の基礎（１）ミクロとマクロ（日高・中尾）	【物質の単位】【自然科学】
３回	自然科学の基礎（２）宇宙で生まれた物質（中尾）	【元素】【原子】【超新星爆発】
４回	自然科学の基礎（３）生命と分子（日高）	【DNA】【タンパク質】
５回	生物の多様性（１）生物の分類と系統（日高）	【種】【学名】【系統樹】
６回	生物の多様性（２）単細胞生物と多細胞生物（日高）	【細胞膜】【共生説】
７回	生物の多様性（３）生態系と進化（日高）	【食物連鎖】【絶滅】【進化】
８回	遺伝子の多様性（１）遺伝子の名前（日高）	【突然変異】【遺伝学】
９回	遺伝子の多様性（２）多様性を生む生殖（日高）	【有性生殖】【減数分裂】
１０回	遺伝子の多様性（３）多様な生命の紹介（外部講師）	
１１回	科学的な方法とは（１）科学と疑似科学（日高・中尾）	【血液型】【星座】
１２回	科学的な方法とは（２）太陽と地球の環境（中尾）	【太陽活動】【地球温暖化問題】
１３回	科学的な方法とは（３）人類の起源を調べるには（日高）	【ミトコンドリア】
１４回	関連ビデオ鑑賞（日高）	
１５回	質疑応答とまとめ（日高）	

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の課題４０％、期末テスト６０％

生命と環境 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【　】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、北方Moodleで提出すること。
https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp

履修上の注意　/Remarks

・ 高校で生物を履修していない者は教科書または参考書を入手し、授業に備えること。
・ ２学期開講「人間と生命」を合わせて受講すると理解がより深まるでしょう。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高（生物担当）および中尾（物理担当）による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード　/Keywords

情報社会への招待 【昼】

担当者名 /Instructor　中尾　泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

情報社会への招待	INF100F

授業の概要　/Course Description

本授業のねらいは，現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し，インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります:

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側，発信する側としての注意点

本授業を通して，情報社会を総合的に理解し，現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること，また，学んだ内容を基礎として，変化し続ける情報技術と正しくつき合って適応できる能力を身につけることを目指します。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『エンドユーザのための情報基礎』(浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　情報社会の特質 【システムトラブル，炎上，個人情報】
２回　情報を伝えるもの 【光，音，匂い，味，触覚，電気】
３回　コンピュータはどうやって情報を取り扱うか 【2進数，ビット・バイト】
４回　コンピュータを構成するもの 1【入力装置，出力装置，解像度】
５回　コンピュータを構成するもの 2【CPU，メモリ，記憶メディア】
６回　コンピュータ上で動くソフトウエア 【OS，拡張子とアプリケーション，文字コード】
７回　電話網とインターネットの違い 【回線交換，パケット交換，LAN，IPアドレス】
８回　ネットワーク上の名前と情報の信頼性 【ドメイン名，DNS，サーバ / クライアント】
９回　携帯電話はなぜつながるのか 【スマートフォン，位置情報，GPS，GIS，プライバシ】
１０回　ネットワーク上の悪意 【ウイルス，スパイウエア，不正アクセス，詐欺，なりすまし】
１１回　自分を守るための知識 【暗号通信，ファイアウォール，クッキー，セキュリティ更新】
１２回　つながる社会と記録される行動 【ソーシャルメディア，防犯カメラ，ライフログ】
１３回　集合知の可能性とネットワークサービス 【検索エンジン，Wikipedia，フリーミアム，クラウド】
１４回　著作権をめぐる攻防 【著作権，コンテンツのデジタル化，クリエイティブコモンズ】
１５回　情報社会とビッグデータ 【オープンデータ】

情報社会への招待 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に提示する課題 … 75%
日常の授業への取り組み … 25%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

e-Learningサイト「北方Moodle」を使って，授業の資料を提示しますので，事前学習・事後学習に利用してください。また，授業中に配布した課題プリントを持ち帰って，次回の授業時に提出したり，北方Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます。

履修上の注意　/Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ，「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば，随時，質問してください。

キーワード　/Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ

環境問題概論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　廣川　祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と「自然・環境」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題の根本的な省察、総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が帰属する社会が抱える環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

環境問題概論	ENV100F

授業の概要　/Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。本授業で基本的な環境に対する見方・考え方を身に付ける事によって、その後、環境問題に対し自立的に課題を発見し分析、解決することができる知識の充足を目指す。

教科書　/Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション　-環境問題を見る視点について-
第2回　資源の在り方を問う
第3回　日本の捕鯨の行方
第4回　日本人の自然観
第5回　環境と経済の関係性
第6回　山を管理するとは？
第7回　環境問題の原因と焼畑農業
第8回　里山の開発①　- なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか？ -
第9回　里山の開発②　- 映画監督 高畑勲氏からのメッセージ -
第10回　里山の開発③　- 動物視点で見る真の共生の形 -
第11回　「農業」とＳＡＴＯＹＡＭＡイニシアティブ①　- 農業の多面的機能 -
第12回　「農業」とＳＡＴＯＹＡＭＡイニシアティブ②　-「共生」社会の在り方 -
第13回　復習
第14回　レポート試験の実施　（※レポート試験は日程が前後する可能性があります）
第15回　総括　- おわりに -

成績評価の方法　/Assessment Method

不定期に何回か実施する小レポート：30%
最終試験：70%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後に最終試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

環境問題概論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学（食物連鎖等）的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード　/Keywords

可能性としての歴史 【昼】

担当者名 /Instructor: 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year: 2年次　単位 /Credits: 2単位　学期 /Semester: 2学期　授業形態 /Class Format: 講義　クラス /Class: 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史的過去の可能性に満ちた構造を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史的過去の可能性を発見し、歴史認識の多様性を理解することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史的過去の可能性を自立的に発見・分析し、解決への学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

可能性としての歴史	HIS200F

授業の概要 /Course Description

歴史の転換点において、ありえた別の政策的選択肢を選んでいたら、日本は、そして世界はどうなっていただろうか。この講義では、おもに日本外交史を講義する中で、いくつかの政策選択上のイフを導入して、第二次世界大戦史の諸相を提示していきます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、講義の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回　イントロダクション
2回　学説の整理【15年戦争】【ファシズム】【軍国主義】
3回　政党内閣と満州事変【「満州国」】【関東軍】【五・一五事件】
4回　軍部の台頭【二・二六事件】【国体明徴運動】【高橋是清】
5回　日中戦争【近衛文麿】【大政翼賛会】
6回　ヒトラーの台頭【暴力】【国民社会主義ドイツ労働者党】
7回　日独伊ソの体制比較【政軍関係】
8回　ヒトラーと第二次世界大戦1【オーストリア併合】【ミュンヘン会談】【独ソ不可侵条約】
9回　ヒトラーと第二次世界大戦2【独ソ戦】【対米宣戦】【「最終的解決」】
10回　第二次世界大戦と三国同盟の成立【ノモンハン事件】【ユーラシア大陸ブロック構想】【日ソ中立条約】
11回　日米戦争は不可避だったのか【北進論】【南進論】
12回　太平洋戦争１【真珠湾攻撃】【ミッドウエイ海戦】【東条英機】
13回　太平洋戦争2【「戦後秩序構想」】【サイパン島陥落】
14回　敗戦【「本土決戦」】【日ソ戦争】
15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み…10%、期末試験…90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに高校教科書 (「日本史」「世界史」) レベルの文献の該当箇所に目を通しておいて下さい。授業終了後にはその日のノートをもう一度読み返して下さい。参考文献は講義の中で指示いたします。メモはこまめにとるように心がけて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

可能性としての歴史 【昼】

キーワード　/Keywords

現代社会と文化 【昼】

担当者名 /Instructor　神原　ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と社会に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化と社会に関する既成概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

現代社会と文化	ANT210F

授業の概要　/Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える文化に関する問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身ににつけることを目的とする。

講義の前半は、「文化を知る」という行為そのものが持つ政治的意味について講義を行う。後半は、私たちが異なる文化を持つ人々とも認識を共有していると考えがちな身体に関する文化についての講義を行う。外国の文化については解説を無批判にうのみにしてしまいがちであるが、文化を理解することについての前提が正しいか常に問い返すことができるような総合的な知識の獲得をめざす。

教科書　/Textbooks

教科書は指定しない。ただし、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）、授業中に指示した資料には目を通すこと。また、講義に関する映画を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の課題図書などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○池田光穂2010『看護人類学入門』文化書房博文社
○太田好信編2012『政治的アイデンティティの人類学』
○陳天璽 2005 『無国籍』 新潮社
○本多俊和ほか2011『グローバリゼーションの人類学』放送大学教育振興会
○本多俊和ほか編2007『人類の歴史・ 地球の現在』放送大学教育振興会

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

現代社会と文化 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　導入：授業の説明　/ 本講義において文化とは何を意味するのか

第I部　現代社会において異文化を理解するということ
第2回　文化を「知る」とはどういうことか？
第3回　ナショナリズムと文化
第4回　「未開の人々」への工キゾチズム
第5回　植民地主義と文化
第6回　先住民・少数民族の文化の保護と多文化主義
第7回　多文化主義の可能性と限界
第8回　分類の不明瞭さ①：国籍・人種
第9回　分類の不明瞭さ②：移動する人々
第10回　中間テスト

第II部　文化の違いを超えて？
第11回　近代・ポスト近代という時代の認識と文化
第12回　身体の近代化
第13回　中間テストの解説
第14回　医療の普遍性と文化
第15回　癒しの多様性　　/　講義全体の総括

成績評価の方法　/Assessment Method

中間テストや課題40%、期末テスト60%
そのほか講義中に課したコメントカードなども平常点として適宜評価に加える。受講人数によってはテストをレポートに変更することもある。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。
・講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。
・高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておきましょう。高校の教科書は図書館にあります。

履修上の注意　/Remarks

・評価方法や電子ブックの閲覧方法などは第一回の講義で説明します。第一回目の講義を欠席しても履修はできるかもしれませんが、不利になることは覚悟してください。
・講義に出席していても、テスト（またはレポート）の評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義に真剣に取り組んでください。
・中間テストの無断欠席者や、授業態度が目に余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

・講義で自分が学んだことを用いて、現代の文化に関する問題を自分なりに理解しようとすることが重要です。意欲的な学生の受講を歓迎します。
・「異文化理解の基礎」や「政治のなかの文化」を受講済み・受講中の学生は理解が深まると思います。

キーワード　/Keywords

文化、ナショナリズム、マイノリティ、グローバリゼーション、多文化主義、身体

言語と認知 【昼】

担当者名 /Instructor	漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 中溝　幸夫 / NAKAMIZO SACHIO / 非常勤講師 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター, 日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科
履修年次 /Year	2年次
単位 /Credits	2単位
学期 /Semester	1学期
授業形態 /Class Format	講義
クラス /Class	2年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語と認知に関する学際的領域についての基本的知識を身につけ、課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動や文献講読を通して言語と認知に関する課題を発見し、言語学・心理学・生物学などの手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語と認知に関心を持ち、それらを取り巻く課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		

言語と認知	LIN210F

授業の概要　/Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に認知言語学)、認知科学、心理学の側面から学際的に考えていきます。

教科書　/Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

第1回　序（漆原・全員）
第2回　眼はどのように動いているか、それをどう測定するか（中溝）
第3回　文を読むとき、眼はどのように動いているのか（中溝）
第4回　言語活動時、脳のどこが働いているか（中溝）
第5回 ことばはどのように身につけられるのか（言語習得）（漆原）
第6回　ことばはどのように失われるのか（失語症・失文法）（漆原）
第7回 脳と心のなりたち（脳のはたらきを支配する遺伝子）（日高）
第8回　ことばはなぜヒトに特有なのか（言語と遺伝子）（日高）
第9回　特別講義（外部講師）：2016年度実績　東京大学教授　大堀　壽夫氏
第10回　文の形と意味をつなぐもの（文法形式と意味の類像性）（杉山）
第11回　左右の区別がなかったら（ことばと思考・言語相対論）（杉山）
第12回　概念と言葉（概念におけるプロトタイプ効果など）（ストラック）
第13回　隠喩とは何か（隠喩論）（ストラック）
第14回　詩とほのめかし（アイコン性、phonaesthemesなど）（ストラック）
第15回 まとめ：担当者によるパネル・ディスカッション（全員）

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み　20%　　レポート　16% x 5 = 80%
（すべての教員のレポートを提出しない限り評価不能(-)となります。）

言語と認知 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：担当教員あるいはコーディネイターが指示した文献等の講読
事後学習：担当教員ごとの課題・レポートの提出

履修上の注意　/Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。
＊「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

共生社会論 【昼】

担当者名 /Instructor　伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	共生社会の成立を阻む要因に関して、様々な視点から考える能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会の様々なレベルの共生社会の成立を阻む要因の中で、何が最も問題となるかを理解する能力を養う。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	共生社会の実現に向けての新たな視座を習得する。
	コミュニケーション力		

共生社会論	SOW200F

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探って見る。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げる中で、この問題に迫っていきたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準
第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】
第3回：異文化共存の方法【一元論的理解VS.多元論的理解】
第4回：異文化共存の阻害要因【オリエンタリズム関連DVD視聴】
第5回：異文化共存の阻害要因【オリエンタリズムとは】
第6回：オリエンタリズムの克服方法【文化相対主義】
第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
第8回：自閉症とは【自閉症】
第9回：自閉症関連DVDの視聴（医療モデル的作品）【医療モデル】
第10回：医療モデル的作品の評価【医療モデル的作品の特徴】
第11回：自閉症関連DVDの視聴（文化モデル的作品）【文化モデル】
第12回：文化モデル的作品の評価【文化モデル的作品の特徴】
第13回：両作品の比較【3つのモデルとの関連で】
第14回：文化相対主義の可能性と限界【文化相対主義】【反文化相対主義】【反反文化相対主義】
第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

本講義受講に当たっては、「国際学入門」[担当：伊野]や「障がい学」[担当：伊野・狭間]を既に受講していることが望ましい。

共生社会論 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

共同体と身体 【昼】

担当者名 /Instructor　伊原木　大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	共同体と身体との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	共同体と身体について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	共同体と身体に関する問題を解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

共同体と身体	PHR210F

授業の概要　/Course Description

人間が自分（たち）の体について抱いている観念は、歴史や社会を通じて必ずしも一貫しているわけではない。身体に対するイメージは、その人間が生きている時代の共同体によって微妙に変化してゆく。この授業では、共同体と身体という二つの「体」がどのように関係してきたのかを社会哲学的な観点から考察する。継続的な受講により、共同体と身体との関係、さらには生活世界と自己との関係が総合的に理解できるようになるだろう。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

参考文献は授業時にそのつど指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　イントロダクション
２回　近代哲学における心身二元論の成立【デカルト】
３回　身体の変容と限界１【夢と現実のあいだ】
４回　身体の変容と限界２【変身する身体】
５回　身体の変容と限界３【排除される身体】
６回　身体・家族・社会１【精神分析的アプローチ】
７回　身体・家族・社会２【脳科学的アプローチ】
８回　身体・家族・社会３【シュレーバー症例】
９回　身体の社会的統制１【政治と規律】
１０回　身体の社会的統制２【統制される身体】
１１回　身体の社会的統制３【処罰される身体】
１２回　身体の社会的統制４【差別される身体】
１３回　身体の社会的統制５【補足】
１４回　日本的身体の表象１【哲学理論】
１５回　日本的身体の表象２【歴史的事例】

成績評価の方法　/Assessment Method

期末テスト…100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

共同体と身体 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

履修上の注意　/Remarks

授業で扱われる内容は、１年生向けビジョン科目「生活世界の哲学」の続編である。「生活世界の哲学」の単位を取得している場合は、本講義についていくことが比較的容易なはずである。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。卒業予定の４年生に対しても、他と同じく厳しい採点態度で臨む。

キーワード　/Keywords

心身二元論　身体像　精神病理　規律と監視

戦争論 【昼】

担当者名 /Instructor　戸蒔　仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と戦争との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	戦争について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

戦争論	PLS210F

授業の概要　/Course Description

戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。1年次ビジョン科目「日本の防衛」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書　/Textbooks

なし。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス
第２回　ホモサピエンスと戦争の起源(1)サルからヒトへ
第３回　ホモサピエンスと戦争の起源(2)ヒトの組織的戦争と定住の始まり
第４回　戦争概論～戦争の定義
第５回　戦争の経歴(1)絶対主義時代の戦争
第６回　戦争の経歴(2)革命戦争
第７回　戦争の経歴(3)近代戦争
第８回　両大戦の特徴(1)総力化
第９回　両大戦の特徴(2)イデオロギー化、(3)全面化
第10回　日本と原爆～原爆の開発過程、完成、投下
第11回　核兵器の構造
第12回　核兵器出現に伴う変化(1)時間的文脈における変化
第13回　核兵器出現に伴う変化(2)空間的文脈における変化
第14回　核兵器の役割 (抑止概念、抑止条件、相互確証破壊)
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

試験…100％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業計画に沿って時系列的に講義を進めるので、該当する時代の高校世界史について再度確認しておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

「日本の防衛」「国際紛争と国連」「テロリズム論」「防衛セミナー」などを受講しておくと、さらに深く理解できる。

戦争論 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

生命科学と社会 【昼】

担当者名 /Instructor　日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 神原　ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	生命科学の進歩およびその社会との関わりについて総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会の中の生命科学に関する課題について総合的に分析し、自らがとるべき行動を客観的に判断できる素養を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の中の生命科学に関する課題を自ら発見し、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

生命科学と社会	BIO200F

授業の概要　/Course Description

遺伝情報であるDNAの構造が決定され、それから半世紀の間、生命科学は大きく進歩し、医療、食生活や健康など我々の社会に深く浸透している。生命科学は我々の生活をこれまでにどのように変えてきたか、これからどのように変えるのだろうか。そこで本講義では、（１）生命科学の基礎や考え方について学ぶとともに、（２）DNAや遺伝子を調べることで何がわかり、どのように役に立つのか、（３）食や健康を考える上で我々が知っておくべきことは何か、（４）遺伝子や生命を操作するとは具体的にはどのようなことであり、どこまで許されることなのかなど、人間の社会や他の生物との関わりから生命科学を捉えることを目指し、そのための知識を身につけることを目標とする。

教科書　/Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○現代生命科学　東京大学生命科学教科書編集委員会　3024円　羊土社（2015年）
○もう一度読む数研の高校生物　第１巻　嶋田正和他編　1890円　数研出版（2012年）
○もう一度読む数研の高校生物　第２巻　嶋田正和他編　1890円　数研出版（2012年）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　生命科学の基礎（１）遺伝子の概念　【DNA二重らせん】
３回　生命科学の基礎（２）生命活動の実行役　【タンパク質】
４回　生命科学の基礎（３）ゲノム　【ヒトゲノム計画】
５回　DNAでわかること（１）遺伝と疾患　【メンデル遺伝】
６回　DNAでわかること（２）個性と体質　【遺伝子検査】
７回　DNAでわかること（３）DNA鑑定　【多型】
８回　安心・安全とは（１）食品と医薬品　【健康食品】
９回　安心・安全とは（２）遺伝子組換え作物　【カルタヘナ法】
１０回　安心・安全とは（３）人体と放射線　【確率的影響】【がん】
１１回　生命の倫理（１）生命と遺伝子操作1　【再生医療】【iPS細胞】
１２回　生命の倫理（２）生命と遺伝子操作2　【ゲノム編集】
１３回　生命の倫理（３）生命科学と家族　【遺伝的つながり】
１４回　ニュースの中の生命科学
１５回　質疑応答・まとめ

＊タイトルとスケジュールは変更になることがあります。

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の課題　４０％
期末テスト　６０％

生命科学と社会 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【　】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、北方Moodleにより提出すること。
https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp

履修上の注意　/Remarks

・ 高校で生物を履修していない者は教科書または参考書を入手し、授業に備えること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

さまざまな角度から生命と社会の問題を取り上げたいと思います。ニュースで扱われるような話題を自分で理解し、考える力を身につけましょう。基礎部分をより体系的に学びたい者は２学期開講「人間と生命」を合わせて受講すると理解が深まるでしょう。

キーワード　/Keywords

情報社会を読む 【昼】

担当者名 /Instructor　浅羽　修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会の現在、及び、未来についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

情報社会を読む	INF200F

授業の概要　/Course Description

本授業のねらいは、最新のICTやそれを応用したサービスについての理解を深めることで、現在の情報社会について概観し、その先の未来で待ち受けている情報社会の課題や可能性について考える力を身に付けることである。具体的には、以下のような項目について理解する。

●情報社会を構成している最新のICTに関する基礎知識
●最新のICTを応用したサービスと人間との関係性
●未来の情報社会で起こりうる課題とその解決策
●未来の情報社会で期待できるサービスの可能性

本授業では、講義（教員が教壇に立って説明することが中心）と演習（学生が与えられた課題に沿って主体的に学習活動することが中心）とを組み合わせながら進めていく。ときには、グループディスカッションを行いながら課題に取り組んでもらう。

教科書　/Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　身の回りにあるICTと情報社会　【ガイダンス】【ICT活用サービスの光と影】
２回　位置情報を利用したサービス　【ジオメディア】【GPS】
３回　演習１：位置情報を利用した未来のサービスを読む
４回　コンピュータは持ち歩くから着る時代へ　【ウェアラブルコンピュータ】
５回　近未来の入力装置　【モーション操作】
６回　演習２：ウェアラブルコンピュータ・モーション操作を利用した未来のサービスを読む
７回　カメラは何を認識できるか　【画像処理】【画像認識】
８回　個人を特定できるコンピュータとその危険性　【顔画像認証】
９回　画像認識はどこまで人間に近づけるか【画像認識】【機械学習】
１０回　演習３：画像認識を利用した未来のサービスを読む
１１回　IoT【センサー】【クラウドコンピューティング】
１２回　演習４：IoTを利用した未来のサービスを読む
１３回　自律型ロボットと人工知能【AI】【ディープラーニング】【技術的特異点】
１４回　人工知能が人間社会に及ぼす影響【雇用問題】【法整備】
１５回　演習５：人工知能の発展とこれから求められる能力

情報社会を読む 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に実施する個人課題・・・　５０％、授業中に実施するグループワーク課題・・・　４０％、レポート・・・　１０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習として、普段の生活において、どのようなICT活用サービスがあれば生活が豊かになるかを常に思考しておくこと。そうすることで、授業中に提示する課題に取り組みやすくなる。
事後学習として、授業中に説明した内容に関する未来のICTサービスを提案する課題を提示することがある。積極的に取り組むこと。

履修上の注意　/Remarks

「情報社会への招待」を先に受講して、情報社会に関連する知識や技術をある程度把握していると受講しやすい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

分からないところがある場合は、積極的に質問してもらいたい。授業中に実施する演習において、グループディスカッションを求めることもあるので、その時は積極的に議論に参加してもらいたい。また、この科目は、専門用語を覚えることに重点を置くのではなく、情報社会の未来はどうなるのかという発想やアイディアに重点を置くので、「未知のことについて考える力」を磨くことにチャレンジしてもらいたい。
また、受講者数が多数の場合は、受講者数調整を行う場合もある。

キーワード　/Keywords

情報社会の未来、ICT活用サービス、ICTと人間

地域資源管理論 【昼】

担当者名 /Instructor　廣川　祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	「地域資源の管理」に関わる総合的な理解と、持続可能な社会づくりに関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域資源を管理しようとする際の根本的かつ総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が帰属する地域社会において、地域資源との望ましい関わり方を自ら発見し、持続可能な社会づくりのための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

地域資源管理論	ENV200F

授業の概要　/Course Description

本授業では、地域資源を住民が主体となって管理していくための手法について、詳細に解説する。
本授業で扱う事例は大きく分けて、以下の3点である。
①漁業権（漁業法）・草地環境（入会権）の維持に向けた住民主体の地域資源管理手法について。
②地域資源を有効に活用する手法　- フットパス事業に見る住民主体の地域資源管理 -
③まちづくり会社（TMO）の役割と権利の集約　ー滋賀県長浜市における黒壁スクエア事業と問題提起としての国立マンション訴訟についてー

上記の事例を、いくつかの紛争事例・裁判事例を検証することで、地域資源を管理する、活用するための具体的手法について、法社会学の知見を活かし、分析する。

法社会学における基礎的な専門知識の習得とともに、地域住民が共同で地域資源を管理していくために必要な具体的知識を習得することを目的としている。

教科書　/Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○鈴木龍也, 富野暉一郎編著（２００６）『コモンズ論再考』晃洋書房
角谷 嘉則著（２００９）『株式会社黒壁の起源とまちづくりの精神』創成社
神谷由紀子編著（２０１４）『フットパスによるまちづくり - 地域の小径を楽しみながら歩く - 』水曜社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション
第2回　地域資源の考え方
第3回　行き過ぎた市場主義経済の弊害
第4回　生業とは何か？
第5回　適応した共助の仕組み
第6回　静岡県伊東市池区の草地景観管理の仕組み①　- 日本の伝統的な茅資源の利用方法についてー
第7回　静岡県伊東市池区の草地景観管理の仕組み②　- 株式会社制度を利用した現代的地域資源の共同管理システムー
第8回　地域資源の過少利用問題を超えて
第9回　地域資源を活用したまちづくりの実践　- フットパスとは何か？ -
第10回　外部講師の講演　「フットパスはどうやって創るのか？」
第11回　フットパスのまとめ
第12回　地域資源としての都市環境　- 景観問題の観点から -
第13回　都市の特徴と管理組織
第14回　総括と復習
第15回　おわりに

地域資源管理論 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

最終試験：１００％（持ち込み不可）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

本授業の成績評価方法は、最終試験の一発で決定する。
また、持ち込み不可のために、授業中担当教員の発言などをメモを取り、事後学習として深く復習する作業が必要となる。また、授業中に使用するスライド資料は学習支援フォルダに掲載しているため、それを活用して事前学習も必要となる。そうしなければ、流れについてこれず、授業を理解できない可能性が高い。深い理解を得なければ、単位修得ができないと推察されるため、授業時間以外で学習することのできる人の履修を求む。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本授業では、法社会学の基礎的な知見の習得を目指す。そのため、裁判の話（判例）や法律の話に言及する機会が多々ある。
平易な説明や解説を試みるため、あらかじめ必要な知識はないが、基礎的な法的思考能力を鍛える必要があるため、その旨、履修する者は理解してほしい。

キーワード　/Keywords

教養基礎演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　伊原木　大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習 I	GES101F

授業の概要　/Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な素養を身につけることが、本演習の目的である。
例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、「倫理学」の基礎的な理解に役立つテキストを取り上げる予定である。

教科書　/Textbooks

未定。第１回の授業時に公表する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス（人数調整、演習でのルール、成績評価法、テキストの説明）
２回　読解と議論１
３回　読解と議論２
４回　読解と議論３
５回　読解と議論４
６回　読解と議論５
７回　読解と議論６
８回　読解と議論７
９回　読解と議論８
１０回　読解と議論９
１１回　読解と議論１０
１２回　読解と議論１１
１３回　復習と補助学習１
１４回　復習と補助学習２
１５回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

演習への参加状況（議論・発言の積極性）…50%　　レポート…50%
（２回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全１５回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

教養基礎演習I 【昼】

履修上の注意　/Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言機会を得られるよう、授業初回（ガイダンス）時に受講者数調整を実施する。そのため、本演習への参加を希望する者は、必ず第１回の授業に出席する必要がある。仮に２年生以上が本基礎演習に登録していたとしても、第１回の授業を欠席した場合には登録を抹消する。
人数調整に際しては、本演習に【友人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者】を尊重したい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（課題内容についてはMoodle上に掲示）。この授業は、２年生以上の先輩も参加する合同演習です。継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることになりますので、ご遠慮ください。

キーワード　/Keywords

教養基礎演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習 I	GES101F

授業の概要　/Course Description

この演習では、以下のことを身につけることを目指す。
（１）社会学的なものの見方・考え方
（２）文献資料の調べ方
（３）質的社会調査の考え方とやり方
（４）レポート・論文の書き方

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は15人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

教科書　/Textbooks

『知的複眼思考法』、苅谷剛彦、講談社+α文庫、2002

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書、2004
『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
その他、講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　授業内容の紹介
第２回　創造的読書で思考力を鍛える - 『知的複眼思考法』（１）
第３回　考えるための作文技法 - 『知的複眼思考法』（２）
第４回　問いの立て方と展開の仕方 - 『知的複眼思考法』（３）
第５回　複眼思考を身につける - 『知的複眼思考法』（４）
第６回　自分の「問い」をたてる
第７回　情報を集める（１）- 図書館の利用
第８回　情報を集める（２）- Webサイトの利用
第９回　情報をまとめる（１）- ブレーンストーミング
第10回　情報をまとめる（２）- KJ法
第11回　自らの問いと方法を明確にする
第12回　質的社会調査の考え方
第13回　フィールドワーク
第14回　アクティブ・インタビュー
第15回　調査倫理について

教養基礎演習I 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…４０％　　レポート…６０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
課題を出された場合、指定された日時までに提出すること。

履修上の注意　/Remarks

報告者は、レジュメを準備すること。
レジュメには、（１）文献概要、（２）内容要約、（３）論点整理、（４）議論 等を含めること（レジュメの作成方法については授業中に説明する）。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養基礎演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　神原　ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習 I	GES101F

授業の概要　/Course Description

大学での学び方入門：
　本演習では、1年生を対象に大学での勉強の仕方の基礎を学びます。最終的な目標は、文献を読んで自分の考えをまとめるレポート（高校までの小論文でも調べ学習でも感想文でもなく）を書くことです。テキストは現代社会をあつかったテーマの文庫や新書を選ぶことが多いです。比較的読みやすいテキストを批判的に読解することを通して、レジュメの作りかた、論点の見つけ方、文献の探し方を学び、それをわかりやすく報告するコミュニケーション能力を養います。後半では、受講者同士の議論を経て、レポートの作成を目指します。

教科書　/Textbooks

難波功士 2014『「就活」の社会史』 祥伝社新書

本年度は大学生の置かれた状況を客観的に見つめなおすことのできるテキストを選びました。1年生も興味深く読むことができまるのではないかと思います。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○佐藤望ほか（編）2006　『アカデミック・スキルズ』 慶應大学出版会
○専修大学出版企画委員会（編）2009『知のツールボックス』 専修大学出版会
○白井利明・高橋一郎　2008　『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　導入：大学の授業とは
第2回　大学における本の読みかた・探しかた
第3回　レジュメの作りかた
第4回　テキスト輪読型の演習における報告と議論①
第5回　議論のしかた
第6回　テキスト輪読型の演習における報告と議論②
第7回　テキスト輪読型の演習における報告と議論③
第8回　テーマの見つけかた
第9回　レポート構想報告①
第10回　レポートの書きかた
第11回　レポート構想報告②
第12回　レポート構想報告③
第13回　文章を推敲する：レポートの相互添削
第14回　文章のブラッシュアップ
第15回　これまで学んだことの総括

※受講者の人数によって内容を変更することもある。

教養基礎演習I 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養演習科目

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート50%、授業貢献（報告内容、積極的な発言など）50%
（第13回で学生相互にレポートを添削し、その後最終的に書き直したレポートを評価の対象とします。）
報告者の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・レジュメの作成、レポートの執筆およびそのための資料収集などはそれなりに時間がかかります、妥協せずに課題に取り組んでください。

履修上の注意　/Remarks

・出席者の報告を重視するので、人数が多すぎる場合、受講制限をします。
・履修を希望する学生は、第１回の授業から必ず出席してください。
・問題意識は、漠然と本を読み、授業を聞くだけで生まれるものではありません。4月の段階で特定の学問的興味関心を持つことは求めませんが、学期末までには課題に対する問題意識を見つけることを心がけてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

・大学での本の読みかたやレポートの書きかたを基礎から学ぶので、どの学部の学生でも怖気づかずに履修してください。ですが、演習の準備に時間がかかることは嫌がらないでください。
・レポートの書き方を基礎から学びたい2年生以上の受講も歓迎します。

キーワード　/Keywords

レポートの書き方、問題意識の発見

教養基礎演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習 I	GES101F

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジュメ（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全受講者から「レジュメ」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジュメ」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジュメを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回１～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション。
2～14回　文献の輪読。
15回　まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み…50%報告・レジュメの内容…50%
無断欠席やレジュメの未提出はそれぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

演習が始まる前に大学図書館を見学しておいて下さい。
授業開始前までに、テキストの該当ページを読んで、レジュメを作成すること。授業終了後には演習での議論を踏まえて、次週のレジュメを作成すること。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養基礎演習II」とセットで履修することを希望します。
この演習は2年生・3年生との合同演習です。
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

教養基礎演習I 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養基礎演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習 I	GES101F

授業の概要　/Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。
そこで本演習では、まず自分自身を知ること、自分自身を人に理解してもらうことを主眼におき、人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。

教科書　/Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　自分自身を理解する
３回　自己概念を知るワーク（１）
４回　自己概念を知るワーク（２）
５回　自己概念を知るワーク（３）
６回　自分自身を人に理解させることワーク（１）
７回　自分自身を人に理解させることワーク（２）
８回　自分自身を人に理解させることワーク（３）
９回　カラダを使ったコミュニケーションワーク（１）
１０回　カラダを使ったコミュニケーションワーク（２）
１１回　カラダを使ったコミュニケーションワーク（３）
１２回　カラダを使ったコミュニケーションワーク（４）
１３回　カラダを使ったコミュニケーションワーク（５）
１４回　カラダを使ったコミュニケーションワーク（６）
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み　…８０％　　レポート　…２０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

教養基礎演習I 【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業で得たコミュニケーション能力やスキルを活用し、授業や実習で実践すること
本年度はキャンプ実習は実施しません。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養基礎演習I (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor　戸蒔　仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習 I	GES101F

授業の概要　/Course Description

別称「防衛セミナー」。１、２、３年生合同のゼミ (少人数・対話型) として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官 (陸海空、尉官・佐官クラス) をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見･分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

また、本授業を履修した者を対象に、授業終了後の夏季休業期間中に３回の学外研修 (バス) 予定しており、それについては、別科目扱いとなるため、別途教養基礎演習「II」のシラバスを参照してください。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス (戸蒔)
２回～１４回　現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする
　　計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業態度…５０％　レポート…５０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に着けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

上記の注意を必ず守ること。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

教養基礎演習I (防衛セミナー) 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養基礎演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習 I	GES101F

授業の概要　/Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している重要な分野である。しかしながら、生命科学のミクロの現象は多くの難しそうな専門用語で説明されることから、一般には敬遠されがちである。そこで、本演習では「身近な生命科学」を主たるテーマとし、身の回りの生物や生命現象などより自分でテーマを設定し、見つけた「不思議」について調べることによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○現代生命科学　東京大学生命科学教科書編集委員会　3024円　羊土社 (2015年)
○もう一度読む数研の高校生物　第１巻　嶋田正和他編　1890円　数研出版 (2012年)
○もう一度読む数研の高校生物　第２巻　嶋田正和他編　1890円　数研出版 (2012年)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　基本的事項の確認
３回　テーマ探し (キャンパスの生物など)
４回　プレゼンテーションの準備
５回　プレゼンテーション (グループ)
６回〜７回　学内外での調査研究
８回　プレゼンテーションの準備
９回　プレゼンテーション (グループ)
１０回〜１１回　学内外での調査研究
１２回　プレゼンテーションの準備
１３回　プレゼンテーション１ (個人)
１４回　プレゼンテーション２ (個人)
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み１０％、発表６０％、期末レポート３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：自分でテーマを決め、発表に向けて少しずつ準備すること。
事後学習：授業中に出された課題をMoodleにて提出すること。
https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp

教養基礎演習I 【昼】

履修上の注意　/Remarks

・ 高校である程度生物を学んでいることが望ましい。
・ 期間中の土曜日（ 1〜2回）、学内外で調査研究活動を行う。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目（「生命と環境」や「人間と生命」）も合わせて受講するとより理解が深まるでしょう。

キーワード　/Keywords

教養基礎演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　廣川　祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習Ⅰ	GES101F

授業の概要　/Course Description

この演習では、大学における学習や研究の方法を身につけることを目的とする。環境問題をテーマとして取り上げ、受講者の①レジュメ作成能力、②プレゼンテーション能力、③学術的コミュニケーション能力（対話・議論）、④知的好奇心の向上を目指す。

教科書　/Textbooks

富山和子（2010）『水と緑と土 - 伝統を捨てた社会の行方–』中公新書

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
第2回：学習方法・レジュメの作成方法・プレゼンテーション方法について
第3回：環境問題についての考え方について
第4回：テキストの輪読①
第5回：テキストの輪読②
第6回：テキストの輪読③
第7回：テキストの輪読④
第8回：テキストの輪読⑤
第9回：テキストの輪読⑥
第10回：テキストの輪読⑦
第11回：テキストの輪読⑧
第12回：レポートを書く際の考え方とその方法
第13回：プレ・レポート報告会
第14回：プレ・レポート報告会
第15回：プレ・レポート報告会＋まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への貢献度（積極的発言・報告姿勢等）：40%
最終レポート：60%

（※最終レポートとは、第13回～第15回において各自の関心において作成したレポートに対し、参加者から寄せられた批判や修正点等をふまえ、改善をした上で学期末に提出するレポートである。）

教養基礎演習I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業には予めテキストを精読してのぞむこと。
また、事後学習としては、最終レポートの作成に向け、毎回の学びをしっかりとリフレクションしておくこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本授業は、自分の考え方や意思を的確に相手に伝えることができるようになることを目指す。これは就職活動や社会に出ても必要な能力である。受講者の積極的な参加を望む。

キーワード　/Keywords

大学における学習方法、レジュメ・レポート作成、コミュニケーション能力の向上

教養基礎演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　石川　敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習 I	GES101F

授業の概要　/Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。
センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。
多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書　/Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第１回 オリエンテーション

第２回～第１４回 の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。
①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
④短期の地域ボランティア活動に参加する
⑤上記以外で必要となる諸活動

第１５回振り返り研修

成績評価の方法　/Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (１００％)

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。
そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。
また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。
他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

教養基礎演習I 【昼】

履修上の注意　/Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、
ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、
忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター（４２１Ｌａｂ．）に来て、
学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、４２１Ｌａｂ．が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード　/Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養基礎演習I (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor　伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習 I	GES101F

授業の概要　/Course Description

自閉症スペクトラムをはじめとする発達障がいについて、講義で概要を理解したうえで、文献、資料を輪読しながら理解を深める。

教科書　/Textbooks

適宜指示、配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示、配布する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション。
第２回：発達障がいの世界１（発達障がいとは）
第３回：発達障がいの世界2（自閉症理解の歴史）
第４回：発達障がいの世界3（支援法の基礎）
第５回：発達障がいの世界４（応用行動分析学的アプローチ）
第６回：発達障がいの世界５（ＴＥＡＣＣＨプログラム的アプローチ）
第７回：発達障がいの世界６（構造化）
第８回：発達障がいの世界７（コミュニケーション指導法）
第９回：発達障がいの世界８（行動問題への対応）
第１０回：資料輪読、ディスカッション。
第１１回：資料輪読、ディスカッション。
第１２回：資料輪読、ディスカッション。
第１３回：資料輪読、ディスカッション。
第１４回：資料輪読、ディスカッション。
第１５回：まとめ。

成績評価の方法　/Assessment Method

報告内容５０％
議論への参加度５０％

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回指示するが、事前学習としては、インターネット・ サイトなどで関連事項を調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

教養基礎演習I (発達障がいセミナー) 【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　眞鍋　和博 / MANABE　KAZUHIRO / 基盤教育センター, 小林　敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習Ⅱ	GES102F

授業の概要　/Course Description

北九州市の観光の実態や施策、観光まちづくりなどについて、多様な視点から学ぶことを目的とする。
北九州市の成り立ち、歴史などの基礎知識の習得だけでなく、インバウンド、文学、アニメ、世界遺産、工場夜景など、近年、北九州市が得意とする新たなテーマについても広く学んでいく。また、各テーマに精通した外部講師による講義を予定している。そのため、他の講義以上により興味深い講義が展開される予定である。
講義後半には、前半の講義の踏まえて、フィールドワークを行い、それをもとにまちあるきマップの作成を行う。マップの作成を通して、講義内容を体感することにより、深い学ぶを得る。

教科書　/Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○高橋一夫(2017)「DMO 観光地経営のイノベーション」学芸出版社
・ 矢ケ崎紀子(2017)「インバウンド観光入門　世界が訪れたくなる日本をつくるための政策・ビジネス・地域の取組み」晃洋書房
○尾家建生、金井万造編(2008)「これでわかる!着地型観光–地域が主役のツーリズム」学芸出版社
・ 鈴木俊博(2015)「稼げる観光: 地方が生き残り潤うための知恵」ポプラ社
○NPO法人 観光力推進ネットワーク・ 関西編(2016)「地域創造のための観光マネジメント講座」学芸出版社
など。
その他に図書館2階の○○学がわかるコーナーに「まちあるきがわかる、まちあるきが創れる」コーナーを設置していますので、必要に応じて利用すること。

教養基礎演習II 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回：ガイダンス
　　北九州市の観光の実態と施策
第2回：北九州市の成り立ち
第3回：北九州市の交通網の成り立ち
第4回：北九州市の歴史・文化1　門司
第5回：北九州市の歴史・文化2　小倉
第6回：北九州市と文学
第7回：北九州市とアニメ・フィルムコミッション
第8回：北九州の世界遺産・近代化遺産
　　北九州の産業観光・工場夜景
第9回：北九州市の観光まちづくりの動向
　　北九州市のMICE戦略・インバウンドの実態
第10回：まちあるきの手法
第11回：フィールドワーク１
第12回：フィールドワーク２
第13回：フィールドワークのまとめ１
第14回：フィールドワークのまとめ２
第15回：フィールドワークのまとめ３
＊上記の授業内容は現在検討中のものであり、実際は変更になる可能性がある

成績評価の方法　/Assessment Method

・ミニレポート：40％
・フィールドワークの成果物：40％
・授業の貢献度：20％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に毎回のテーマについて調べ、各回の授業後に、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、北九州の観光について復習し、考えを深めてください。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この講義は公益財団法人 北九州観光コンベンション協会提供の講義です。また、北九州市が主催する観光市民大学の受講生もいっしょに受講します。
将来、旅行や観光関係の仕事に就きたいと考えている人や、観光による地域の活性化などに興味がある人にはもちろん最適ですが、それ以外にも北九州市について深く知りたい、学びたい人にとっても最適な講義です。

キーワード　/Keywords

観光振興、北九州市の成り立ち・歴史・文化、インバウンド、観光まちづくり、まちあるき、DMO、着地型観光

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　伊原木　大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習Ⅱ	GES102F

授業の概要　/Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。
例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、ユング派心理学者の故・河合隼雄による『母性社会日本の病理』を取り上げる。日本をよりよく理解するために、西洋の文化・宗教との対比が欠かせないことを教えてくれる貴重な論考である。

教科書　/Textbooks

河合隼雄『母性社会日本の病理』、講談社プラスアルファ文庫、1997年、950円（税込）。
（※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で購入する必要があります。）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス（授業のルール、成績評価等の説明）
２回　読解と議論１
３回　読解と議論２
４回　読解と議論３
５回　読解と議論４
６回　読解と議論５
７回　読解と議論６
８回　読解と議論７
９回　読解と議論８
１０回　読解と議論９
１１回　読解と議論１０
１２回　読解と議論１１
１３回　復習と補助学習１
１４回　復習と補助学習２
１５回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

演習への参加状況（予習・議論・発言の積極性）…50%　　レポート…50%
（２回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全１５回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。）

教養基礎演習II 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

参加を希望する場合は、初回時に指示と説明があるので、必ず出席してください。初回の出席が確認できない場合、こちらで履修登録を取り消す可能性があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（課題内容についてはMoodle上に掲示）。この授業は、２年生以上の先輩も参加する合同演習です。継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることになりますので、ご遠慮ください。

キーワード　/Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習Ⅱ	GES102F

授業の概要　/Course Description

社会学的な視点と方法（特に質的調査）によって論文・レポートを書くことをめざす。
具体的には、以下のことについて学習・習得する。

（１）「質的調査」（インタビュー）の技法を身につける
・質的調査と量的調査の違いを理解する。
・インタビューをするためには、どのようなことが必要なのかを学ぶ。
・調査倫理について理解する。

（２）インタビュー（聞き取り調査）を通して自分の関心のあるテーマ・問いについてレポートを作成する。
・自分が関心を持つできごと（社会現象）を設定し、「問い」をたてる。
・どのような方法で、その「問い」に「答え」が導き出せるか、考える。
・資料やインタビューを通してレポートを作成する。

インタビュー調査実習（市内）を行う可能性がある。
演習形式で行うため、受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

教科書　/Textbooks

なし（適宜、資料を配付する。）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○谷富夫・芦田徹郎編著, 2009,『よくわかる質的社会調査 技法編』, ミネルヴァ書房
○谷富夫編,2008,『新版 ライフヒストリーを学ぶ人のために』,世界思想社

教養基礎演習II 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　オリエンテーション
第２回　「問い」をたてる
第３回　論証戦略を立てる（方法を考える）
第４回　情報を集める - 北九大図書館
第５回　情報を集める - CiNii、国立国会図書館（NDL-OPAC）、政府統計の総合窓口（e-Stat）、電子政府の総合窓口（e-Gov）
第６回　質的社会調査の考え方
第７回　フィールドワーク
第８回　インタビュー
第９回　ライフヒストリー分析
第10回　調査の企画
第11回　データの作成から論文の執筆まで
第12回　質的調査の応用
第13回　質的調査と調査倫理
第14回　インタビュー調査
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…30%　課題（レポート）…70%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
課題が出された場合、指定された日時までに提出すること。

履修上の注意　/Remarks

演習形式を基本とするので、報告者はレジュメを準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

自分でデータをつくり、分析する楽しさを感じてください。

キーワード　/Keywords

質的調査、インタビュー、調査倫理

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　神原　ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習Ⅱ	GES102F

授業の概要　/Course Description

レポートの書き方と異文化を学ぶ：
　本演習では、「テーマを自分で設定して、調べ物をしてレポートを書く」という作業に迷いがある学生（主として1年生）が、レポートの書き方を基礎から学ぶことを目的としています。最終的には、文献を読んで自分の考えをまとめるレポート（高校までの小論文でも調べ学習でも感想文でもなく）を書くことを目指します。テキストは比較的最近出版された文庫や新書を選ぶことが多いです。一般読者を想定して執筆されたテキストを土台として、そこから関連関連資料の探し方を学び、論点を探し、それをわかりやすく報告するコミュニケーション能力を養います。後半では、2000字程度のレポートを書くプロセスを報告しながら、より完成度の高いレポートの作成を目指します。この演習を通して、他の人の考えにコメントをつける、人からもらったコメントを活かす力を身つけることをめざし、問題の本質を探る能力、すなわち生涯にわたって役立つ基礎的な探求能力を身につけることを目的とします。

教科書　/Textbooks

小川さやか2016「『その日暮らし』の人類学」光文社文庫

「異文化理解の基礎」「政治のなかの文化」「現代社会と文化」を履修中、履修済みの学生は楽しめるテキストではないかと思います。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○佐藤望ほか（編）2006　『アカデミック・スキルズ』慶應義塾大学出版会
○ 慶應義塾大学日吉キャンパス学習相談員2014 『ダメレポート脱出法』慶應義塾大学出版会
○白井利明・高橋一郎　2008　『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

教養基礎演習II 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　導入：レポートを書くとは？
第2回　大学における本の読みかた・探しかた
第３回　読んだ本をどう活用するのか？
第４回　テキスト輪読型の演習における報告と議論
第5回　テキスト輪読型の演習における報告と議論
第6回　テキスト輪読型の演習における報告と議論
第7回　テキスト輪読型の演習における報告と議論
第8回　テーマの見つけかた
第9回　レポートの書き方
第10回　レポート構想報告
第11回　レポート構想報告
第12回　レポート構想報告
第13回　文章を推敲する：レポート相互添削
第14回　文章のブラッシュアップのために
第15回　レポート最終報告会

※受講者数に応じて内容を変更することもあります。

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート50%、授業貢献（報告内容、演習中の発言、その他の提出物など）50%
ただし、報告者の無断欠席や課題未提出者は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・レジュメの作成、レポートの執筆およびそのための資料収集などにはそれなりに時間がかかります。妥協せずに課題に取り組んでください。

履修上の注意　/Remarks

・出席者の報告を重視するので、人数が多すぎる場合、受講制限をします。
・大学での本の読みかたやレポートの書きかたを基礎から学ぶので、どの学部の学生でも怖気づかずに履修してください。ですが、演習の準備に時間がかかることは嫌がらないでください。
・レポートの書き方を基礎から学びたい2年生以上の受講も歓迎します。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

・レポートは大変ですが、それは書く時間がかかるのではなく、書くまでの準備にも時間がかかります。本を探し、読む時間を計算に入れて準備しましょう。

キーワード　/Keywords

レポートの書きかた、問題のたてかた、考察のしかた、本の読みかた、議論のしかた

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習Ⅱ	GES102F

授業の概要 /Course Description

日本政治外交史に関するゼミ・レポートを書いてもらう（400字×10枚以上）。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

教科書 /Textbooks

皆さんのレジュメをコピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』（平凡社新書、2001年、700円）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回　演習運営方針に関する話し合い。
2～14回　各自の研究報告。
15回　まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み…50%課題…50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。
なお、ゼミ・レポート未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

演習が始まる前に大学図書館を見学しておいて下さい。
授業開始前までに報告用レジュメを作成しておくこと。授業終了後には演習での討論を踏まえて、レジュメや報告の改善に取り組むこと。
小林担当の「教養基礎演習I」とセットで履修することを希望します。
この演習は2年生、3年生との合同演習です。
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　髙西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習Ⅱ	GES102F

授業の概要　/Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。
そこで本演習では、自分を知ること、そして仲間づくりをすすめるコミュニケーションワークなどを通して、人間関係づくりのトレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。

教科書　/Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　自分自身を理解すること
３回　自分自身を人に理解させること
４回　人を理解すること（１）
５回　人を理解すること（２）
６回　コンセンサスと人間関係づくり（１）
７回　コンセンサスと人間関係づくり（２）
８回　リーダーシップとは（１）
９回　リーダーシップとは（２）
１０回　コミュニケーションワーク（１）
１１回　コミュニケーションワーク（２）
１２回　コミュニケーションワーク（３）
１３回　コミュニケーションワーク（４）
１４回　コミュニケーションワーク（５）
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み　…　８０％　　レポート　…２０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

教養基礎演習II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業で得たコミュニケーション能力やスキルを活用し、授業や実習で実践すること
本年度は、スキー実習は実施しません

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養基礎演習II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor　戸蒔　仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　集中　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習Ⅱ	GES102F

授業の概要　/Course Description

教養基礎演習Iの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等に赴き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

①この科目を受講できるのは、防衛セミナーI (教養基礎演習I、あるいは、教養演習AI、教養演習BI) を受講した者に限られる。「I」を受講しないで、「II」だけ受講することはできない。詳細は、「I」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。

②研修は、夏季休業期間中の集中講義期間 (8月中下旬～9月上旬) に、3回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はかからない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する (500円程度＋αのみかかります)。

③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

防衛白書

教養基礎演習II（防衛セミナー）【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする（90分授業に換算し、15回分の時間）。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修（3時間）

第1回研修　海上自衛隊・佐世保基地見学（7時間30分）
　　バス内での講義・ビデオ鑑賞（2時間30分）＋現地での研修（5時間）

第2回研修　航空自衛隊・築城基地見学（5時間）
　　現地での研修（5時間）

第3回研修　陸上自衛隊・健軍駐屯地見学（7時間30分）
　　バス内での講義・ビデオ鑑賞（2時間30分）＋現地での研修（5時間）

成績評価の方法　/Assessment Method

授業態度50％＋レポート50％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に着けておくこと。
「I」を履修後、研修が始まるまでの期間に、研修関連事項をよく復習しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

他の集中講義期間中の科目を履修しないこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習Ⅱ	GES102F

授業の概要　/Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないか、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○現代生命科学　東京大学生命科学教科書編集委員会　3024円　羊土社 (2015年)
○もう一度読む数研の高校生物　第１巻　嶋田正和他編　1890円　数研出版 (2012年)
○もう一度読む数研の高校生物　第２巻　嶋田正和他編　1890円　数研出版 (2012年)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　基本的事項の確認
３回　テーマ探し (キャンパスの生物など)
４回　プレゼンテーションの準備
５回　プレゼンテーション (グループ)
６回〜７回　学内外での調査研究
８回　プレゼンテーションの準備
９回　プレゼンテーション (グループ)
１０回〜１１回　学内外での調査研究
１２回　プレゼンテーションの準備
１３回　プレゼンテーション１ (個人)
１４回　プレゼンテーション２ (個人)
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み１０％、発表６０％、期末レポート３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：自分でテーマを決め、発表に向けて少しずつ準備すること。
事後学習：授業中に出された課題をMoodleにて提出すること。
https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp

教養基礎演習II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

・ 高校あるいは１学期までに生物を学んでいることが望ましい。
・ １〜２回、昼休みを利用した調査研究活動を行う予定。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「生命と環境」「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード　/Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　廣川　祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習Ⅱ	GES102F

授業の概要　/Course Description

なぜ「生物多様性」を保つことが必要なのか、環境分野における基礎知識を充足させるとともに、「さとやま」が良好な地域資源として活用していくための社会づくり（社会制度の分析）について勉強する。
「さとやま」をキーワードとし、地域環境に関する課題をグループでディスカッションすることで、他者からの学びを行うとともに、地域社会が抱える根本的な課題を発見し、自立的に解決策を見つけ出すための考え方や思考方法を習得できるようにする。

教科書　/Textbooks

鷲谷いづみ（2011）『さとやま - 生物多様性と生態系模様 - 』岩波書店（岩波ジュニア新書）　￥840＋税

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
第2回：文系における環境問題と生物多様性の視点について
第3回：テキストの輪読①
第4回：テキストの輪読②
第5回：テキストの輪読③
第6回：テキストの輪読④
第7回：テキストの輪読⑤
第8回：テキストの輪読⑥
第9回：テキストの輪読⑦
第10回：テキストの輪読⑧
第11回：テキストの輪読⑨
第12回：レポートを書く際の考え方とその方法
第13回：プレ・レポート報告会
第14回：プレ・レポート報告会
第15回：プレ・レポート報告会＋まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への貢献度（積極的発言、レジュメ作成の出来、態度）　50%
期末レポート　50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業には予めテキストを精読してのぞむこと。
また、事後学習としては、最終レポートの作成に向け、毎回の学びをしっかりとリフレクションしておくこと。

教養基礎演習II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

本授業は、履修者同士で教え合うスタイルである。
したがって、受け身の授業ではなく、学生が学生に教えるという「教育的視点」を持てるものが履修すること。

そのため、予め当該担当章の内容については、しっかりと精読した上で、自分の考えを確立したうえで、授業に参加すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

「生物多様性やさとやま」をキーワードとして、授業を進めていくが、生物学の知識は必要としない。
さとやまを保全・活用していくための社会制度や社会の仕組みについて、議論を行うのが中心である。

キーワード　/Keywords

生物多様性、さとやま、農山漁村、過疎高齢化、持続可能な地域づくり

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　石川　敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習Ⅱ	GES102F

授業の概要　/Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。
センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。
多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書　/Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第１回 オリエンテーション

第２回～第１４回 の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。
①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
④短期の地域ボランティア活動に参加する
⑤上記以外で必要となる諸活動

第１５回振り返り研修

成績評価の方法　/Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (１００％)

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。
そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。
また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。
他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

教養基礎演習II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、
ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、
忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター（４２１Ｌａｂ．）に来て、
学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、４２１Ｌａｂ．が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード　/Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養基礎演習II (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor　伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習Ⅱ	GES102F

授業の概要 /Course Description

自閉症スペクトラムをはじめとする発達障がいについて、資料、文献を輪読しながら理解を深める。

教科書 /Textbooks

適宜配布、指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜配布、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション。
第２回：教養基礎演習Iの復習。
第３回：教養基礎演習Iの復習。
第４回：教養基礎演習Iの復習。
第５回：資料を輪読し、ディスカッション。
第６回：資料を輪読し、ディスカッション。
第７回：資料を輪読し、ディスカッション。
第８回：資料を輪読し、ディスカッション。
第９回：資料を輪読し、ディスカッション。
第１０回：資料を輪読し、ディスカッション。
第１１回：資料を輪読し、ディスカッション。
第１２回：資料を輪読し、ディスカッション。
第１３回：資料を輪読し、ディスカッション。
第１４回：資料を輪読し、ディスカッション。
第１５回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容50％
議論への参加度50％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回指示するが、事前学習としては、インターネット・サイトなどで関連事項を調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

教養基礎演習II（発達障がいセミナー）【昼】

履修上の注意　/Remarks

伊野担当の教養基礎演習I（発達障がいセミナー）を履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養演習ＡＩ【昼】

担当者名 /Instructor　伊原木　大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡＩ	GES201F

授業の概要　/Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。
例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、「倫理学」の基礎的な理解に役立つテキストを取り上げる予定である。

教科書　/Textbooks

未定。第１回の授業時に公表する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス（人数調整、演習でのルール、成績評価法、テキストの説明）
２回　読解と議論１
３回　読解と議論２
４回　読解と議論３
５回　読解と議論４
６回　読解と議論５
７回　読解と議論６
８回　読解と議論７
９回　読解と議論８
１０回　読解と議論９
１１回　読解と議論１０
１２回　読解と議論１１
１３回　復習と補助学習１
１４回　復習と補助学習２
１５回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

演習への参加状況（議論・発言の積極性）…50%　　レポート…50%
（２回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全１５回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

教養演習 AI 【昼】

履修上の注意　/Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言機会を得られるよう、授業初回（ガイダンス）時に受講者数調整を実施する。そのため、本演習への参加を希望する者は、必ず第１回の授業に出席する必要がある。すでに本演習に登録済みの場合でも、第１回の授業を欠席した場合にはその登録を抹消する。４年生であっても例外は認めない。
人数調整に際しては、本演習に【友人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者】を尊重したい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（課題内容についてはMoodle上に掲示）。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることになりますので、ご遠慮ください。

キーワード　/Keywords

教養演習ＡＩ【昼】

担当者名 /Instructor　稲月　正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡＩ	GES201F

授業の概要　/Course Description

この演習では、１年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文（レポート）を書くことをめざす。それゆえ「教養演習AI」「教養演習AII」の通年受講（１・２学期受講）が望ましい。

AI（１学期）では、まず、以下のことを身につけることを目指す。
（１）自らの関心に沿った「問い」の立て方
（２）論証戦略（実証方法の道筋）の設定
（３）情報収集の方法
（４）文献レビューの方法（レジュメの作り方）
（５）論文（レポート）の書き方

その上で、自らが書く論文について関連する文献のリストを作成し、テキスト批評を行う。
報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかけることがある）。
なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書　/Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『レポート・論文の書き方入門』、河野哲也、慶応義塾大学出版会
○『よくわかる質的社会調査 - 技法編』、谷富夫・芦田徹郎編著、ミネルヴァ書房
○『実証研究の手引き–調査と実験の進め方・まとめ方』、古谷野亘・長田久雄著、ワールドプランニング
その他、適宜、紹介する。

教養演習AI【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　オリエンテーション
第２回　「テーマ」について考える
第３回　「問い」を立てる
第４回　論証戦略を考える（方法を検討する）
第５回　情報を集める１ - 北九大図書館
第６回　情報を集める２ - CiNii, 国立国会図書館（NDL-OPAC）、日本社会学会文献データベース、政府統計の総合窓口（e-Stat）、電子政府の総合窓口（e-Gov）
第７回　論文検討会１
第８回　文献レビュー（テキスト批評）１
第９回　文献レビュー（テキスト批評）２
第10回　文献レビュー（テキスト批評）３
第11回　文献レビュー（テキスト批評）４
第12回　文献レビュー（テキスト批評）５
第13回　文献レビュー（テキスト批評）６
第14回　文献レビュー（テキスト批評）７
第15回　論文検討会２

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…40%　レポート…60%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
文献レビューの際、報告者は、（１）文献概要、（２）内容要約、（３）論点整理、（４）議論等を記したレジュメを準備すること。

履修上の注意　/Remarks

「教養演習AI」「教養演習AII」の通年受講（１・２学期受講）が望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード　/Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習ＡＩ【昼】

担当者名 /Instructor　神原　ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡＩ	GES201F

授業の概要　/Course Description

文化と社会について学びながらレポートの書き方を向上させる：
本演習では文化と社会に関するテーマに関する新書を入り口として、そこから各自の関心に応じて「自分でテーマを設定し、学びを深め、レポートを書く」ということを目指します。今学期は、視覚と触覚の文化の差、障がい者の歴史と文化、バリアフリー社会に関して知識を深めつつ、勉強の仕方も学ぶことを目指します。

教科書　/Textbooks

広瀬浩二郎　2017『目に見えない世界を歩く：「全盲」のフィールドワーク」

様々な論点を提示している本です。自分と異なる生き方・感性をする他人を理解することを深く考えてみましょう。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○松嶋健 2014『プシコナウティカ』世界思想社
佐渡島紗織2015『レポート・論文をよくする「書き直し」ガイド』大修館書店

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　導入：大学における本の読みかた・探しかた
第2回　議論のしかた
第3回　論点の広げ方
第4回　テキスト輪読型の演習における報告と議論①
第5回　テキスト輪読型の演習における報告と議論②
第6回　テキスト輪読型の演習における報告と議論③
第7回　テキスト輪読型の演習における報告と議論④
第8回　テーマの見つけかた
第9回　レポート構想報告①
第10回　レポートの書きかた
第11回　レポート構想報告②
第12回　レポート構想報告③
第13回　文章を推敲する：レポートの相互添削
第14回　文章のブラッシュアップ
第15回　これまで学んだことの総括

※受講者の人数によって内容を変更することもある。

教養演習AI【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート50%、授業における取りくみ50%
ただし、報告者の無断欠席や課題の未提出は厳しく減点します

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・レジュメの作成、レポートの執筆にはそれなりに時間がかかります。妥協せずに課題に取り組んでください。

履修上の注意　/Remarks

・履修を希望する学生は第1回から出席してください。修正申告終了までは履修登録できますが、欠席分の授業内容を自習する努力が必要となります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

・担当者の講義(「異文化理解の基礎」「政治のなかの文化」「現代社会の文化」など)を履修したことがあると、理解が深まります。

キーワード　/Keywords

異文化、視覚、触覚、障がい、バリアフリー

教養演習ＡＩ【昼】

担当者名 /Instructor　小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡＩ	GES201F

授業の概要　/Course Description

文献読解能力を訓練し、レジュメ（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全受講者から「レジュメ」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジュメ」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジュメを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回１～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書　/Textbooks

受講者と相談の上で指定します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション。
2～14回　文献の輪読。
15回　まとめ。

成績評価の方法　/Assessment Method

日常的な授業への取り組み…50％報告・レジュメの内容…50％
無断欠席やレジュメの未提出は、それぞれたった一回でも「Ｄ」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに、テキストの該当ページを読んで、レジュメを作成すること。授業終了後には演習での議論を踏まえて、次週のレジュメを作成すること。

履修上の注意　/Remarks

小林担当の「教養演習ＡII」とセットで履修することを希望します。
この演習は1年生、3年生との合同演習です。
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

教養演習ＡＩ【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養演習ＡＩ（防衛セミナー）【昼】

担当者名 /Instructor　戸蒔　仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡＩ	GES201F

授業の概要　/Course Description

別称「防衛セミナー」。１、２、３年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。
この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見･分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

また、本授業を履修した者を対象に、授業終了後の夏季休業期間中に３回の学外研修（バス）予定しており、それについては、別科目扱いとなるため、別途、教養演習A「II」のシラバスを参照してください。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス（戸蒔）
２回～１４回　現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする
　　計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に着けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

教養演習 AI (防衛セミナー) 【昼】

履修上の注意　/Remarks

防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養演習ＡＩ【昼】

担当者名 /Instructor　日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡＩ	GES201F

授業の概要　/Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している重要な分野である。しかしながら、生命科学のミクロの現象は多くの難しそうな専門用語で説明されることから、一般には敬遠されがちである。そこで、本演習では「身近な生命科学」を主たるテーマとし、身の回りの生物や生命現象などより自分でテーマを設定し、見つけた「不思議」について調べることによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○現代生命科学　東京大学生命科学教科書編集委員会　3024円　羊土社　(2015年)
○もう一度読む数研の高校生物　第１巻　嶋田正和他編　1890円　数研出版 (2012年)
○もう一度読む数研の高校生物　第２巻　嶋田正和他編　1890円　数研出版 (2012年)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　基本的事項の確認
３回　テーマ探し (キャンパスの生物など)
４回　プレゼンテーションの準備
５回　プレゼンテーション (グループ)
６回〜７回　学内外での調査研究
８回　プレゼンテーションの準備
９回　プレゼンテーション (グループ)
１０回〜１１回　学内外での調査研究
１２回　プレゼンテーションの準備
１３回　プレゼンテーション１ (個人)
１４回　プレゼンテーション２ (個人)
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み１０％、発表６０％、期末レポート３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習:自分でテーマを決め、発表に向けて少しずつ準備すること。
事後学習:授業中に出された課題をMoodleにて提出すること。
https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp

教養演習AI【昼】

履修上の注意　/Remarks

・高校である程度生物を学んでいることが望ましい。
・期間中の土曜日（１〜２回）、学内外で調査研究活動を行う。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「生命科学と社会」、「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード　/Keywords

教養演習ＡＩ【昼】

担当者名 /Instructor　石川　敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡＩ	GES201F

授業の概要　/Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。
センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。
多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書　/Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第１回 オリエンテーション

第２回～第１４回 の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。
①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
④短期の地域ボランティア活動に参加する
⑤上記以外で必要となる諸活動

第１５回振り返り研修

成績評価の方法　/Assessment Method

実習に対する参加貢献度（１００％）

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。
そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。
また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。
他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

教養演習ＡＩ【昼】

履修上の注意　/Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、
ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、
忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター（４２１Ｌａｂ．）に来て、
学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、４２１Ｌａｂ．が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード　/Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習ＡＩ(発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor　伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡＩ	GES201F

授業の概要　/Course Description

自閉症スペクトラムをはじめとする発達障がいに関し、当事者の書いた文献資料を輪読しながら理解を深める。

教科書　/Textbooks

適宜指示、配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示、配布する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション。
第2回：教養基礎演習の復習。
第3回：教養基礎演習の復習。
第4回：資料の輪読、ディスカッション。
第5回：資料の輪読、ディスカッション。
第6回：資料の輪読、ディスカッション。
第7回：資料の輪読、ディスカッション。
第8回：資料の輪読、ディスカッション。
第9回：資料の輪読、ディスカッション。
第10回：資料の輪読、ディスカッション。
第11回：資料の輪読、ディスカッション。
第12回：資料の輪読、ディスカッション。
第13回：資料の輪読、ディスカッション。
第14回：資料の輪読、ディスカッション。
第15回：まとめ。

成績評価の方法　/Assessment Method

報告内容50％
議論への参加度50％

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回指示するが、事前学習としては、インターネット・ サイトなどで関連事項を調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

教養演習AI（発達障がいセミナー）【昼】

履修上の注意　/Remarks

伊野担当教養基礎演習（発達障がいセミナー）I、IIを履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養演習ＡⅡ 【昼】

担当者名 /Instructor　伊原木　大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡⅡ	GES202F

授業の概要　/Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。
例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、ユング派心理学者の故・河合隼雄による『母性社会日本の病理』を取り上げる。日本をよりよく理解するために、西洋の文化・宗教との対比が欠かせないことを教えてくれる貴重な論考である。

教科書　/Textbooks

河合隼雄『母性社会日本の病理』、講談社プラスアルファ文庫、1997年、950円（税込）。
（※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で購入する必要があります。）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス（授業のルール、成績評価等の説明）
２回　読解と議論１
３回　読解と議論２
４回　読解と議論３
５回　読解と議論４
６回　読解と議論５
７回　読解と議論６
８回　読解と議論７
９回　読解と議論８
１０回　読解と議論９
１１回　読解と議論１０
１２回　読解と議論１１
１３回　復習と補助学習１
１４回　復習と補助学習２
１５回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

演習への参加状況（予習・議論・発言の積極性）…50%　　レポート…50%
（２回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全１５回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。）

教養演習AII 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

参加を希望する場合は、初回時に指示と説明があるので、必ず出席してください。初回の出席が確認できない場合、こちらで履修登録を取り消す可能性があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（課題内容についてはMoodle上に掲示）。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることになりますので、ご遠慮ください。

キーワード　/Keywords

教養演習ＡII 【昼】

担当者名 /Instructor　稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡⅡ	GES202F

授業の概要　/Course Description

この演習では、１年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によってレポート（論文）を書くことをめざす。したがって、「教養演習AI」「教養演習AII」の通年（１学期・２学期）受講が望ましい。

AII（２学期）では、まず、教養演習AIで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回２名ずつ、関連文献について内容報告（テキスト批評）をしてもらい、議論を行う。なお、１～２ヶ月に１度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。
また、必要に応じて、量的方法（アンケート調査など）、質的方法（インタビューなど）についても説明する。

AIと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。
なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書　/Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　「論文執筆計画書」の報告
第２回　文献レビュー（テキスト批評）１
第３回　文献レビュー（テキスト批評）２
第４回　文献レビュー（テキスト批評）３
第５回　文献レビュー（テキスト批評）４
第６回　論文検討会１
第７回　調査法の検討１
第８回　調査法の検討２
第９回　文献レビュー（テキスト批評）５
第10回　文献レビュー（テキスト批評）６
第11回　論文検討会２
第12回　文献レビュー（テキスト批評）７
第13回　文献レビュー（テキスト批評）８
第14回　レポート報告会
第15回　まとめ

教養演習AII 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…30%　　レポート（論文）…70%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
文献レビューの際、報告者は、（１）文献概要、（２）内容要約、（３）論点整理、（４）議論を記したレジュメを準備すること。

履修上の注意　/Remarks

「教養演習AI」「教養演習AII」の通年（１学期・２学期）受講が望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード　/Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習ＡII 【昼】

担当者名 /Instructor　神原　ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡⅡ	GES202F

授業の概要　/Course Description

問題関心へのアプローチ法を考える：
　本演習では、漠然と現代社会に関する問題についてインタビュー調査や参与観察などの質的な調査をすることに興味があり、漠然と卒業論文で質的調査をしてみたいと考えている学生を対象とする。
　漠然と卒業論文で質的調査をとりいれてみたいと考えている学生はいると思うが、はたしてその興味関心にアプローチするのに質的調査は適切だろうか。本演習では、受講者の関心に応じて質的調査の結果を用いた文献を購読するとともに、質的調査の方法論を興味関心にどのように生かすことができるかを学び、自身の問題関心を深めることを目的とする。

教科書　/Textbooks

受講者の関心に合わせて現代社会または異文化に関する質的調査の結果を用いたテキストを1-2冊程度読む。テキストについては第1回で決定する。
（候補：磯野真穂『医療者が語る答えなき世界』、菅原和孝（編）『フィールドワークへの挑戦』など）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○佐藤郁哉 2002『フィールドワークの技法： 問いを育てる、仮説をきたえる』 新曜社
○箕浦康子（編）1999『フィールドワークの技法と実際』 ミネルヴァ書房
※そのほか必要に応じて演習中に指示する。

教養演習AII 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　導入：本演習の目的説明、テキスト決定
第2回　具体的な現場から社会を理解することについて（講義）
第3回　インタビュー調査の方法と実践①
第4回　インタビュー調査の方法と実践②
第5回　言葉からわかることの限界
第6回　テキスト輪読と議論
第7回　テキスト輪読と議論
第8回　参与観察の方法と記録のつけかた
第9回　参与観察の方法と記録のつけかた
第10回　テキスト輪読と議論
第11回　テキスト輪読と議論
第12回　レポート構想報告
第13回　レポート構想報告
第14回　レポート相互添削
第15回　レポートブラッシュアップ

※受講者の人数に合わせて内容を変更することがあります。

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の報告と提出物50%、期末レポート50%、
報告の無断欠席と提出物の未提出は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・演習参加者には、輪読のテキストについて各自で読書ノートを取り、意見を述べることが求められる。事前準備をしっかりしてください。
・学期末のレポートでは興味あるテーマについて調査準備をしてみることを求めます。そのための文献調査なども必要なので、授業外学習に積極的に取り組んでください。

履修上の注意　/Remarks

・具体的にフィールドワークを行う必要は特にありませんが、授業の後半では調査設計や調査のための下準備あたる作業をしたいので、何らかの研究関心を持ってください。
・輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
・受講者の関心を尋ねてテキストを決めるので、履修を希望する場合、第1回の授業には必ず出席してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

・卒業論文では、現代社会や異文化に関する具体的な問題に関心があり、質的調査を取り入れてみようかなと思う2年生以上の受講生を歓迎します。なお、この授業は質的調査の方法を教えるものではなく、どのような研究が質的調査向きなのかを考えることを目的としてます。結果として、質的調査は自分の問題関心に合わないということに気付くかもしれませんが、それも重要な発見ですので、気楽に受講してください。

キーワード　/Keywords

現代社会、文化、質的調査

教養演習ＡII 【昼】

担当者名 /Instructor　小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡⅡ	GES202F

授業の概要　/Course Description

ゼミ論文をかいてもらう（400字×20枚以上）。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

教科書　/Textbooks

皆さんのレジュメをコピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』（平凡社新書、2001年）700円。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　演習運営方針に関する話し合い。
2～14回　各自の研究報告（同時並行的に論文執筆）。
15回　まとめ。

成績評価の方法　/Assessment Method

日常的な授業への取り組み…50%課題…50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。
なお、ゼミ論未提出も「D」評価となります。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに報告用レジュメを作成しておくこと。授業終了後には演習での討論を踏まえて、レジュメや報告の改善に取り組むこと。毎週こつこつと原稿を作っておいて下さい。

履修上の注意　/Remarks

小林担当の「教養演習ＡI」とセットで履修することを希望します。
AIを履修できない場合には、事前に相談して下さい。
この演習は1年生、3年生との合同演習です。
受講希望者が合計で11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養演習ＡⅡ（防衛セミナー）【昼】

担当者名 /Instructor　戸蒔　仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　集中　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡⅡ	GES202F

授業の概要　/Course Description

教養演習ＡⅠの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等に赴き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

①この科目を受講できるのは、防衛セミナーⅠ（教養基礎演習Ⅰ、あるいは、教養演習AⅠ、教養演習BⅠ）を受講した者に限られる。「Ⅰ」を受講しないで、「Ⅱ」だけ受講することはできない。詳細は、「Ⅰ」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。

②研修は、夏季休業期間中の集中講義期間（8月中下旬～9月上旬）に、３回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はかからない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する（500円程度＋αのみかかります）。

③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

防衛白書

教養演習AII（防衛セミナー）【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする（90分授業に換算し、15回分の時間）。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修（3時間）

第1回研修　海上自衛隊・佐世保基地見学（7時間30分）
　　バス内での講義・ビデオ鑑賞（2時間30分）＋現地での研修（5時間）

第2回研修　航空自衛隊・築城基地見学（5時間）
　　現地での研修（5時間）

第3回研修　陸上自衛隊・健軍駐屯地見学（7時間30分）
　　バス内での講義・ビデオ鑑賞（2時間30分）＋現地での研修（5時間）

成績評価の方法　/Assessment Method

授業態度50％＋レポート50％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に着けておくこと。

「I」を履修後、研修が始まるまでの期間に、「I」の研修関連事項をよく復習しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

他の集中講義の科目を履修しないこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養演習ＡⅡ 【昼】

担当者名 /Instructor　日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡⅡ	GES202F

授業の概要　/Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないか、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○現代生命科学　東京大学生命科学教科書編集委員会　3024円　羊土社 (2015年)
○もう一度読む数研の高校生物　第１巻　嶋田正和他編　1890円　数研出版 (2012年)
○もう一度読む数研の高校生物　第２巻　嶋田正和他編　1890円　数研出版 (2012年)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　基本的事項の確認
３回　テーマ探し (キャンパスの生物など)
４回　プレゼンテーションの準備
５回　プレゼンテーション (グループ)
６回〜７回　学内外での調査研究
８回　プレゼンテーションの準備
９回　プレゼンテーション (グループ)
１０回〜１１回　学内外での調査研究
１２回　プレゼンテーションの準備
１３回　プレゼンテーション１ (個人)
１４回　プレゼンテーション２ (個人)
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み１０％、発表６０％、期末レポート３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：自分でテーマを決め、発表に向けて少しずつ準備すること。
事後学習：授業中に出された課題をMoodleにて提出すること。
https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp

教養演習AII 【昼】

履修上の注意　/Remarks

・ 高校あるいは１学期までに生物を学んでいることが望ましい。
・ １〜２回、昼休みを利用した調査研究活動を行う予定。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「生命科学と社会」「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード　/Keywords

教養演習ＡII 【昼】

担当者名 /Instructor　石川　敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡII	GES202F

授業の概要　/Course Description

域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。
センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。
多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書　/Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第１回 オリエンテーション

第２回～第１４回 の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。
①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
④短期の地域ボランティア活動に参加する
⑤上記以外で必要となる諸活動

第１５回振り返り研修

成績評価の方法　/Assessment Method

実習に対する参加貢献度（１００％）

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。
そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。
また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。
他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

教養演習ＡⅡ【昼】

履修上の注意　/Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、
ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、
忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター（４２１Ｌａｂ．）に来て、
学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、４２１Ｌａｂ．が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード　/Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習ＡII（発達障がいセミナー）【昼】

担当者名 /Instructor　伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
2年次	2単位	2学期	演習	２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡⅡ	GES202F

授業の概要　/Course Description

自閉症スペクトラムをはじめとする発達障がいについてあつかった映画、ドラマ、ドキュメンタリーなどとりあげ、それを素材として議論しながら、また、ボランティア活動などを通じて、発達障がいについての理解を深める。

教科書　/Textbooks

随時指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション。
第２回：教養演習ＡI復習。
第３回：教養演習ＡI復習。
第４回：視聴およびディスカッション。
第５回：視聴およびディスカッション。
第６回：視聴およびディスカッション。
第７回：視聴およびディスカッション。
第８回：視聴およびディスカッション。
第９回：視聴およびディスカッション。
第１０回：視聴およびディスカッション。
第１１回：視聴およびディスカッション。
第１２回：視聴およびディスカッション。
第１３回：視聴およびディスカッション。
第１４回：視聴およびディスカッション。
第１５回：まとめ。

成績評価の方法　/Assessment Method

ディスカッションでの発言内容５０％
ディスカッショへの参加度５０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回指示するが、事前学習としては、インターネット・サイトなどで関連事項を調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

教養演習AII（発達障がいセミナー）【昼】

履修上の注意　/Remarks

途中、授業に代わりボランティア活動に参加する場合があるかもしれない。
受講者が多数の場合は、受講者調整を行う。受講者調整する場合は、伊野担当の教養基礎演習（発達障がいセミナー）I、IIおよび教養演習（発達障がいセミナー）AI履修済みの学生を優先する。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養演習ＢＩ【昼】

担当者名 /Instructor　伊原木　大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＢＩ	GES301F

授業の概要　/Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。
例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、「倫理学」の基礎的な理解に役立つテキストを取り上げる予定である。

教科書　/Textbooks

未定。第１回の授業時に公表する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス（人数調整、演習でのルール、成績評価法、テキストの説明）
２回　読解と議論１
３回　読解と議論２
４回　読解と議論３
５回　読解と議論４
６回　読解と議論５
７回　読解と議論６
８回　読解と議論７
９回　読解と議論８
１０回　読解と議論９
１１回　読解と議論１０
１２回　読解と議論１１
１３回　復習と補助学習１
１４回　復習と補助学習２
１５回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

演習への参加状況（議論・発言の積極性）…50%　　レポート…50%
（２回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全１５回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

教養演習ＢＩ【昼】

履修上の注意　/Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言機会を得られるよう、授業初回（ガイダンス）時に受講者数調整を実施する。そのため、本演習への参加を希望する者は、必ず第１回の授業に出席する必要がある。すでに本演習に登録済みの場合でも、第１回の授業を欠席した場合にはその登録を抹消する。４年生であっても例外は認めない。
人数調整に際しては、【友人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者】を尊重したい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（課題内容についてはMoodle上に掲示）。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることになりますので、ご遠慮ください。

キーワード　/Keywords

教養演習ＢＩ【昼】

担当者名 /Instructor　稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＢＩ	GES301F

授業の概要　/Course Description

この演習では、１年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文（レポート）を書くことをめざす。それゆえ「教養演習BI」「教養演習BII」の通年受講（１・２学期受講）が望ましい。

BI（１学期）では、まず、以下のことを身につけることを目指す。
（１）自らの関心に沿った「問い」の立て方
（２）論証戦略（実証方法の道筋）の設定
（３）情報収集の方法
（４）論文（レポート）の書き方

その上で、自らが書く論文について関連する文献のリストを作成し、テキスト批評を行う。
報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかけることがある）。
なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書　/Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『レポート・論文の書き方入門』、河野哲也、慶応義塾大学出版会
○『よくわかる質的社会調査 - 技法編』、谷富夫・芦田徹郎編著、ミネルヴァ書房
○『実証研究の手引き–調査と実験の進め方・まとめ方』、古谷野亘・長田久雄著、ワールドプランニング
その他、適宜、紹介する。

教養演習ＢＩ【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　オリエンテーション
第２回　「テーマ」について考える
第３回　「問い」を立てる
第４回　論証戦略を考える（方法を検討する）
第５回　情報を集める１ - 北九大図書館
第６回　情報を収集する２ - CiNii, 国立国会図書館（NDL-OPAC）、日本社会学会文献データベース、政府統計の総合窓口（e-Stat）、電子政府の総合窓口（e-Gov）
第７回　論文検討会１
第８回　文献レビュー（テキスト批評）１
第９回　文献レビュー（テキスト批評）２
第10回　文献レビュー（テキスト批評）３
第11回　文献レビュー（テキスト批評）４
第12回　文献レビュー（テキスト批評）５
第13回　文献レビュー（テキスト批評）６
第14回　文献レビュー（テキスト批評）７
第15回　論文検討会２

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…40％　課題…60％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
文献レビューの際、報告者は、（１）文献概要、（２）内容要約、（３）論点整理、（４）議論等を記したレジュメを準備すること。

履修上の注意　/Remarks

「教養演習BI」「教養演習BII」の通年受講（１・２学期受講）が望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード　/Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習ＢＩ【昼】

担当者名 /Instructor　神原　ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＢＩ	GES301F

授業の概要　/Course Description

ヨーロッパ地域研究入門：
　本演習では、漠然とヨーロッパの現代社会に関する問題や異文化に関する問題に興味があり、漠然と卒業論文などでそれらの問題を扱いたいと考えている学生を対象とする。
　本演習では、受講者の関心に応じて現代ヨーロッパ社会における文化に関する問題についての文献を購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とする。専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。ですが、知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学ぶのが演習です。

教科書　/Textbooks

受講者の関心に合わせて、現代ヨーロッパ社会における文化に関する問題についての文献を1-2冊程度読む。テキストについては第1回で決定する。
(候補：石川真作ほか（編）『周縁から照射するEU社会』、高橋秀寿ほか（編）『東欧の20世紀』、森明子（編）『ヨーロッパ人類学』など）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　導入：本演習の目的説明、テキスト決定
第2回　新聞からわかること、文章からわかること（講義・議論）
第3回　映像からわかること、文章からわかること（議論・議論）
第4回　テキスト輪読と議論
第5回　テキスト輪読と議論
第6回　テキスト輪読と議論
第７回　テキスト輪読と議論
第8回　テキスト輪読と議論
第9回　　レポートの書き方、問題関心の深め方について(講義）
第10回　テキスト輪読と議論
第11回　テキスト輪読と議論
第12回　レポート構想報告
第13回　レポート構想報告
第14回　レポート相互添削
第15回　レポートのブラッシュアップ

教養演習ＢＩ【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の報告と提出物50％、期末レポート50％、
報告の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・演習参加者には、輪読のテキストについて各自で読書ノートを取り、意見を述べることが求められます。事前の学習は必須です。
・学期末のレポートを作成するプロセスも授業の一環に組み込まれています。毎週何らかの進捗を求めます。

履修上の注意　/Remarks

・テキストを読むだけれなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。
・輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
・受講者の希望を聞いてテキストを決めるので、履修を希望する場合は第1回に必ず出席してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

・ヨーロッパの現代社会や文化に関する問題に関心があるけれど、どんな本を読めばいいのか、何をすればいいのかわからないという学生同士が積極的に協力関係をつくることを期待します。
・担当者のほかの授業（現代社会と文化、異文化理解の基礎など）を履修したことがあれば、理解がさらに深まります。

キーワード　/Keywords

現代社会、異文化、ヨーロッパ、

教養演習ＢＩ【昼】

担当者名 /Instructor　小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＢＩ	GES301F

授業の概要　/Course Description

文献読解能力を訓練し、レジュメ（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全受講者から「レジュメ」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジュメ」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジュメを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回１～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書　/Textbooks

受講者と相談の上で指定します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回目　オリエンテーション。
2～14回　文献の輪読。
15回　まとめ。

成績評価の方法　/Assessment Method

日常的な授業への取り組み…50％報告・レジュメの内容…50％
無断欠席やレジュメの未提出は、それぞれたった一回でも「Ｄ」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに、テキストの該当ページを読んで、レジュメを作成すること。授業終了後には演習での議論を踏まえて、次週のレジュメを作成すること。

履修上の注意　/Remarks

小林担当の「教養演習AI・AII」「教養演習ＢII」とセットで履修することを希望します。
AI・AIIを履修できなかった場合、事前に相談して下さい。
この演習は1年生、2年生との合同演習です。
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

教養演習ＢＩ【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養演習ＢＩ（防衛セミナー）【昼】

担当者名 /Instructor　戸蒔　仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＢＩ	GES301F

授業の概要　/Course Description

別称「防衛セミナー」。１、２、３年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見･分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

なお、本授業の履修者を対象に、3回の学外研修（夏季休業期間中にバスで陸海空自衛隊の見学を行う）を行う。これは、別科目の教養演習B「II」として実施するので、別途、そちらのシラバスを参照してください。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス（戸蒔）
２回～１４回　現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする
　　計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に着けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

教養演習ＢＩ(防衛セミナー) 【昼】

履修上の注意　/Remarks

将来、自衛隊の幹部候補生試験を受ける可能性のある者は、受講を強く勧める。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養演習ＢＩ【昼】

担当者名 /Instructor　日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＢＩ	GES301F

授業の概要　/Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している重要な分野である。しかしながら、生命科学のミクロの現象は多くの難しそうな専門用語で説明されることから、一般には敬遠されがちである。そこで、本演習では「身近な生命科学」を主たるテーマとし、身の回りの生物や生命現象などより自分でテーマを設定し、見つけた「不思議」について調べることによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○現代生命科学　東京大学生命科学教科書編集委員会　3024円　羊土社 (2015年)
○もう一度読む数研の高校生物　第１巻　嶋田正和他編　1890円　数研出版 (2012年)
○もう一度読む数研の高校生物　第２巻　嶋田正和他編　1890円　数研出版 (2012年)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　基本的事項の確認
３回　テーマ探し (キャンパスの生物など)
４回　プレゼンテーションの準備
５回　プレゼンテーション (グループ)
６回〜７回　学内外での調査研究
８回　プレゼンテーションの準備
９回　プレゼンテーション (グループ)
１０回〜１１回　学内外での調査研究
１２回　プレゼンテーションの準備
１３回　プレゼンテーション１ (個人)
１４回　プレゼンテーション２ (個人)
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み１０％、発表６０％、期末レポート３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：自分でテーマを決め、発表に向けて少しずつ準備すること。
事後学習：授業中に出された課題をMoodleにて提出すること。
https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp

教養演習ＢＩ【昼】

履修上の注意　/Remarks

・高校である程度生物を学んでいることが望ましい。
・期間中の土曜日（１〜２回）、学内外で調査研究活動を行う。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「生命科学と社会」「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード　/Keywords

教養演習ＢＩ【昼】

担当者名 /Instructor　石川　敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＢＩ	GES301F

授業の概要　/Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。
センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。
多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書　/Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第１回 オリエンテーション

第２回～第１４回 の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。
①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
④短期の地域ボランティア活動に参加する
⑤上記以外で必要となる諸活動

第１５回振り返り研修

成績評価の方法　/Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (１００％)

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。
そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。
また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。
他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

教養演習ＢＩ【昼】

履修上の注意　/Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、
ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、
忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター（４２１Ｌａｂ．）に来て、
学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、４２１Ｌａｂ．が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード　/Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習ＢＩ(発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor　伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＢＩ	GES301F

授業の概要　/Course Description

発達障がい、特に自閉症スペクトラム当事者の支援に将来的に関わっていく学生に対し、個別に支援方法を指導する。

教科書　/Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション。
第２回：自閉症スペクトラムの理解（自閉症スペクトラム障害とは）。
第３回：自閉症スペクトラムの理解（原因と障害特性）。
第４回：自閉症スペクトラムの理解（療育・ 教育・ 支援方法の変遷）。
第５回：支援法の基礎（構造化）。
第６回：支援法の基礎（コミュニケーション）。
第７回：支援法の基礎（行動問題）。
第８回：支援の実践およびディスカッション。
第９回：支援の実践およびディスカッション。
第１０回：支援の実践およびディスカッション。
第１１回：支援の実践およびディスカッション。
第１２回：支援の実践およびディスカッション。
第１３回：支援の実践およびディスカッション。
第１４回：支援の実践およびディスカッション。
第１５回：まとめ。

成績評価の方法　/Assessment Method

支援法の理解度５０％
議論への参加度５０％

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回指示するが、事前学習としては、インターネット・ サイトなどで関連事項を調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

教養演習ＢⅠ(発達障がいセミナー) 【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業に代えてボランティア活動等に参加する場合があるかもしれない。
受講者調整を科す。受講者調整の場合、伊野担当教養基礎演習 (発達障がいセミナー) Ⅰ、Ⅱおよび教養演習 (発達障がいセミナー) ＡⅠ、ＡⅡ履修済みの学生を優先する。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養演習ＢⅡ【昼】

担当者名 /Instructor　伊原木　大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＢⅡ	GES302F

授業の概要　/Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。
例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、ユング派心理学者の故・河合隼雄による『母性社会日本の病理』を取り上げる。日本をよりよく理解するために、西洋の文化・宗教との対比が欠かせないことを教えてくれる貴重な論考である。

教科書　/Textbooks

河合隼雄『母性社会日本の病理』、講談社プラスアルファ文庫、1997年、950円（税込）。
（※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で購入する必要があります。）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス（授業のルール、成績評価等の説明）
２回　読解と議論１
３回　読解と議論２
４回　読解と議論３
５回　読解と議論４
６回　読解と議論５
７回　読解と議論６
８回　読解と議論７
９回　読解と議論８
１０回　読解と議論９
１１回　読解と議論１０
１２回　読解と議論１１
１３回　復習と補助学習１
１４回　復習と補助学習２
１５回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

演習への参加状況（予習・議論・発言の積極性）…50%　　レポート…50%
（２回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全１５回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。）

教養演習ＢⅡ【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

参加を希望する場合は、初回時に指示と説明があるので、必ず出席してください。初回の出席が確認できない場合、こちらで履修登録を取り消す可能性があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（課題内容についてはMoodle上に掲示）。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることになりますので、ご遠慮ください。

キーワード　/Keywords

教養演習ＢⅡ 【昼】

担当者名 /Instructor　稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＢⅡ	GES302F

授業の概要　/Course Description

この演習では、１年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によってレポート（論文）を書くことをめざす。したがって、「教養演習BI」「教養演習BII」の通年（１学期・２学期）受講が望ましい。

BII（２学期）では、まず、教養演習BIで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回２名ずつ、関連文献について内容報告（テキスト批評）をしてもらい、議論を行う。なお、１～２ヶ月に１度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。
また、必要に応じて、量的方法（アンケート調査など）、質的方法（インタビューなど）についても説明する。

BIと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。
なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書　/Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　「論文執筆計画書」の報告
第２回　文献レビュー（テキスト批評）１
第３回　文献レビュー（テキスト批評）２
第４回　文献レビュー（テキスト批評）３
第５回　文献レビュー（テキスト批評）４
第６回　論文検討会３
第７回　調査法の検討１
第８回　調査法の検討２
第９回　文献レビュー（テキスト批評）５
第10回　文献レビュー（テキスト批評）６
第11回　論文検討会４
第12回　文献レビュー（テキスト批評）７
第13回　文献レビュー（テキスト批評）８
第14回　レポート報告会
第15回　まとめ

教養演習ＢⅡ【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…30％　レポート・論文…70％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
文献レビューの際、報告者は、（１）文献概要、（２）内容要約、（３）論点整理、（４）議論を記したレジュメを準備すること。

履修上の注意　/Remarks

「教養演習BI」「教養演習BII」の通年（１学期・２学期）受講が望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード　/Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習ＢⅡ【昼】

担当者名 /Instructor　神原　ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＢⅡ	GES302F

授業の概要　/Course Description

ヨーロッパ地域研究入門：
　本演習では、漠然とヨーロッパの現代社会に関する問題や異文化に関する問題に興味があり、在学中にもうちょっと勉強してみたい、または卒業論文などでそれらの問題を扱いたいと考えている学生を対象とする。
　本演習では、受講者の関心に応じて現代ヨーロッパ社会における文化に関する問題についての文献を購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とする。専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。ですが、知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学ぶのが演習です。

教科書　/Textbooks

受講者の関心に合わせて、現代ヨーロッパ社会における文化に関する問題についての文献を1-2冊程度読む。テキストについては第1回で決定する。ただし、1学期の教養基礎演習BIの受講者がいればその学生の希望を優先する。

(候補：明石書店『○○を知るための×章』シリーズのうち、ヨーロッパ諸国に関するものから適宜選択）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

演習中に適宜指示する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　導入：本演習の目的説明、テキスト決定
第2回　議論のしかた、コメントのしかた（講義）
第3回　テキスト輪読と議論
第4回　テキスト輪読と議論
第5回　問題関心の深め方について(講義）
第6回　テキスト輪読と議論
第７回　テキスト輪読と議論
第8回　受講生による議論の提起
第9回　受講生による議論の提起 / レポートの書き方について確認
第10回　受講生による議論の提起
第11回　レポート構想報告
第12回　レポート構想報告
第13回　レポート構想報告
第14回　レポート相互添削
第15回　レポートのブラッシュアップ

教養演習ＢⅡ【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の報告と提出物50％、期末レポート50％、
報告の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・演習参加者には、輪読のテキストについて各自で読書ノートを取り、意見を述べることが求められます。受講生が関連する文献をさがして問題提起をする回も準備しています。事前学習は必須です。
・学期末のレポートを作成するプロセスも授業の一環に組み込まれています。計画的に授業外学習を進めましょう。

履修上の注意　/Remarks

・テキストを読むだけれなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。
・受講者の希望を聞いてテキストを決めるので、履修を希望する場合は第1回に必ず出席してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

・ヨーロッパの現代社会や文化に関する問題に関心があるけれど、どんな本を読めばいいのか、何をすればいいのかわからないという学生同士が積極的に協力関係をつくることを期待します。
・担当者のほかの授業（現代社会と文化、異文化理解の基礎など）を履修したことがあれば、理解がさらに深まります。

キーワード　/Keywords

現代社会、異文化、ヨーロッパ

教養演習ＢⅡ【昼】

担当者名 /Instructor　小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＢⅡ	GES302F

授業の概要　/Course Description

ゼミ論文をかいてもらう（400字×30枚以上）。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

教科書　/Textbooks

皆さんのレジュメをコピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』（平凡社新書、2001年）700円。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　演習運営方針に関する話し合い。
第2回～14回　各自の研究報告（同時並行的に論文執筆）。
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日常的な授業への取り組み…50%課題…50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。
なお、ゼミ論未提出も「D」評価となります。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに報告用レジュメを作成しておくこと。授業終了後には演習での討論を踏まえて、レジュメや報告の改善に取り組むこと。毎週、こつこつと原稿を書いておいて下さい。

履修上の注意　/Remarks

小林担当の「教養演習AⅠ・AⅡ」「教養演習ＢⅠ」とセットで履修することを希望します。
以上の科目を履修できなかった場合には、事前に相談して下さい。
この演習は1年生、2年生との合同演習です。受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養演習ＢⅡ（防衛セミナー）【昼】

担当者名 /Instructor　戸蒔　仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　集中　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＢⅡ	GES302F

授業の概要　/Course Description

教養演習ＢⅠの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等に赴き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

①この科目を受講できるのは、防衛セミナーⅠ（教養基礎演習Ⅰ、あるいは、教養演習AⅠ、教養演習BⅠ）を受講した者に限られる。「Ⅰ」を受講しないで、「Ⅱ」だけ受講することはできない。詳細は、「Ⅰ」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。

②研修は、夏季休業期間中の集中講義期間（8月中下旬～9月上旬）に、３回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はかからない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する（500円程度＋αのみかかります）。

③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

防衛白書

教養演習ＢⅡ（防衛セミナー）【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする（90分授業に換算し、15回分の時間）。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修（3時間）

第1回研修　海上自衛隊・佐世保基地見学（7時間30分）
　　バス内での講義・ビデオ鑑賞（2時間30分）＋現地での研修（5時間）

第2回研修　航空自衛隊・築城基地見学（5時間）
　　現地での研修（5時間）

第3回研修　陸上自衛隊・健軍駐屯地見学（7時間30分）
　　バス内での講義・ビデオ鑑賞（2時間30分）＋現地での研修（5時間）

成績評価の方法　/Assessment Method

授業態度50％＋レポート50％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に着けておくこと。

「I」を履修後、研修が始まるまでの期間に、「I」の研修関連事項をよく復習しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

他の集中講義の科目を履修しないこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養演習ＢⅡ【昼】

担当者名 /Instructor　日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＢⅡ	GES302F

授業の概要　/Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないか、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○現代生命科学　東京大学生命科学教科書編集委員会　3024円　羊土社 (2015年)
○もう一度読む数研の高校生物　第１巻　嶋田正和他編　1890円　数研出版 (2012年)
○もう一度読む数研の高校生物　第２巻　嶋田正和他編　1890円　数研出版 (2012年)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　基本的事項の確認
３回　テーマ探し (キャンパスの生物など)
４回　プレゼンテーションの準備
５回　プレゼンテーション (グループ)
６回〜７回　学内外での調査研究
８回　プレゼンテーションの準備
９回　プレゼンテーション (グループ)
１０回〜１１回　学内外での調査研究
１２回　プレゼンテーションの準備
１３回　プレゼンテーション１ (個人)
１４回　プレゼンテーション２ (個人)
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み１０％、発表６０％、期末レポート３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：自分でテーマを決め、発表に向けて少しずつ準備すること。
事後学習：授業中に出された課題をMoodleにて提出すること。
https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp

教養演習ＢⅡ【昼】

履修上の注意　/Remarks

・ 高校あるいは１学期までに生物を学んでいることが望ましい。
・ １〜２回、昼休みを利用した調査研究活動を行う予定。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「生命科学と社会」「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード　/Keywords

教養演習ＢⅡ【昼】

担当者名 /Instructor　石川　敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＢⅡ	GES302F

授業の概要　/Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。
センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。
多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書　/Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第１回 オリエンテーション

第２回～第１４回 の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。
①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
④短期の地域ボランティア活動に参加する
⑤上記以外で必要となる諸活動

第１５回振り返り研修

成績評価の方法　/Assessment Method

実習に対する参加貢献度（１００％）

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。
そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。
また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。
他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

教養演習ＢⅡ【昼】

履修上の注意　/Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、
ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、
忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター（４２１Ｌａｂ．）に来て、
学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、４２１Ｌａｂ．が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード　/Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習ＢⅡ（発達障がいセミナー）【昼】

担当者名 /Instructor　伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＢⅡ	GES302F

授業の概要　/Course Description

発達障がい、特に自閉症スペクトラム当事者の支援に将来的に関わっていく学生に対し、個別に支援方法を指導する。

教科書　/Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション。
第２回：支援法に関する文献輪読。
第３回：支援法に関する文献輪読。
第４回：支援法に関する文献輪読。
第５回：支援法に関する文献輪読。
第６回：支援法に関する文献輪読。
第７回：支援法に関する文献輪読。
第８回：支援の実践およびディスカッション。
第９回：支援の実践およびディスカッション。
第１０回：支援の実践およびディスカッション。
第１１回：支援の実践およびディスカッション。
第１２回：支援の実践およびディスカッション。
第１３回：支援の実践およびディスカッション。
第１４回：支援の実践およびディスカッション。
第１５回：まとめ。

成績評価の方法　/Assessment Method

支援法の理解度５０％
報告内容５０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回指示するが、事前学習としては、インターネット・サイトなどで関連事項を調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

教養演習ＢⅡ（発達障がいセミナー）【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業に代えてボランティア活動等に参加する場合があるかもしれない。
受講者調整を科す。受講者調整の場合、伊野担当教養基礎演習（発達障がいセミナー）Ⅰ、Ⅱおよび教養演習（発達障がいセミナー）ＡⅠ、ＡⅡ、ＢⅠ履修済みの学生を優先する。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

自然学のまなざし 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松　文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と人間の営みに関する基本的な視野を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文系・理系の視点を超えた自然学の論点から環境を考える。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自然に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

自然学のまなざし	ENV002F

授業の概要　/Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を２つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま（文化）」と「からだ（自然）」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

自然環境と人間の営みに対する総合的な理解をすることが達成目標となる。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

教科書　/Textbooks

○『風の谷のナウシカ』1-7宮崎 駿 徳間書店

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
「自然学の未来」黒田末寿

自然学のまなざし 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

■竹川
第１講　自然学で学ぶこと
第２講　今西錦司という人がいた
第３講　バックミンスターフラーという人がいた
第４講　人類の進化と狩猟採集生活
第５講　自然学における日常実践
第６講　カボチャ島の自然学【食と資源】
第７講　風の谷のナウシカの自然学【闘争と共存】
第８講　自然学の視点の重要性
■岩松
第９講　近世の旅と自然
第１０講　山村暮らしと故郷
第１１講　山と森の自然観
第１２講　竹の産業史
第１３講　竹の文化
第１４講　木の文化
第１５講　第９ー１４講のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

（竹川）
講義で紹介するさまざまな活動に参加する　・・・15%
講義で紹介するさまざまな本を読み考える　・・・15%
講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く　・・・20%
（岩松）
小レポート…25%　試験…25%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

前半の講義では、専用のウェブサイトを設置し、講義の補足や双方向的なやりとりを進め、課題の提示と提出をおこないます。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

履修上の注意　/Remarks

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。
講義は教室の中だけでは終わりません。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

人の暮らしと自然の関わりに興味がある人。好奇心が旺盛な人、ぜひ受講してください。
大学のもっとも大学らしい、自由で驚きのある講義を心がけています。
そして教えられるのでも覚えるのでもなく、自分から学ぶことを重視します。
講義では、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

キーワード　/Keywords

人類学
環境学
フィールドワーク

動物のみかた 【昼】

担当者名 /Instructor　到津の森公園、文学部　竹川大介

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人と動物の関わりに関する諸問題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における自然のあり方を考える。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生命との関わりを多様な視点で考え、人間の営みを再考する。
	コミュニケーション力		

動物のみかた	Z0L001F

授業の概要　/Course Description

動物園とそのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。
動物園の本来的な姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

動物にかんする知識を深め、自然環境に関する知見を広げることが到達目標となる

教科書　/Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編　小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　動物園学概論１（動物園の歴史）
２回　動物園学概論２（人と公園の歴史）
３回　キーパーの仕事１（動物の飼育と歴史）
４回　キーパーの仕事２（動物園のみかた）
５回　キーパーの仕事３（動物の接し方と飼育員のもう一つの小さな役割）
６回　キーパーの仕事４（どうぶつと人間のくらい）
７回　キーパーの仕事５（動物園とデザイン）
８回　キーパーの仕事６（動物園の植栽）
９回・１０回　校外実習（到津の森公園）
１１回　獣医の仕事１（どうぶつの病気）
１２回　獣医の仕事２（どうぶつたちとくらそう）
１３回　動物園学まとめ１（動物園を振り返る）
１４回　動物園学まとめ２（新しい動物園とは）
１５回　まとめ（外部講師講演）

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート … ８０％　　平常の学習状況 … ２０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに予め動物園関連の参考書籍をよんでおき、授業終了後にはその日の講義内容をまとめておくこと。

動物のみかた 【昼】

履修上の注意　/Remarks

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

動物のことだけではなく、動物を知ることで人間のことも考えてみましょう。
自然のことや地球のことも考えてみましょう

キーワード　/Keywords

動物園

地球の生いたち 【昼】

担当者名 /Instructor　長井　孝一 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	地球史を学ぶことを通して地球と人間とのあるべき関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地球と人間について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地球と人間に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

地球の生いたち	G0L001F

授業の概要　/Course Description

我々の住む地球は太陽系の第３惑星として，今から約４６億年前に誕生した。その４６億年の地球史の中で，大地や海，大気が形成され，地球生命が誕生し，さらに，そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は遅くとも３８億年前頃には誕生し，長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今，地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として，その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在，我々はこれまでにも増して地球のしくみや地球の成り立ちを正しく理解し，地球規模でのバランス感覚を養っていく必要がある。

この授業では，地球のしくみと地球史に対する講義を通して，地球と人間とのあるべき関係を総合的に理解する。

教科書　/Textbooks

教科書は使用せず，プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

川上伸一『生命と地球の共進化』（日本放送協会）
丸山茂徳・磯崎行雄著「生命と地球の歴史」（岩波書店），
田近英一著「地球環境46億年の大変動史」（化学同人）
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回目：イントロダクション　-地球の歴史の表し方-【地質時代と絶対年代】
２回目：生きている地球１　【地球惑星の構成としくみ】
３回目：生きている地球２　【プレートテクトニクス】
４回目：生きている地球３　【ウェゲナーと大陸移動説】
５回目：地球惑星の起源と進化　【水の惑星の誕生】
６回目：地球史を記録する地層と化石　【地層と化石の種類と生成のしくみ】
７回目：地球生命の起源と生物圏の変遷史　【生物圏の通史】
８回目：目に見えない生物の長い長い時代　【先カンブリア時代】
９，１0回目：生物進化史上最大の事変　【カンブリア爆発】
９回目：カンブリア爆発の特徴と原因
１0回目：カンブリア爆発の生物進化上の意義
11回目：顕生累代の生物の変遷史１　【古生代】
12回目：顕生累代の生物の変遷史２　【中生代】
13回目：顕生累代の生物の変遷史３　【新生代】
14回目：人類の起源と進化　【人類の変遷史】
15回目：まとめと演習　【人間圏の成立と環境問題】

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験（90点）およびミニレポート（10点）による。
上記の合計点１００点のうち，６０点以上を合格，５９点以下を不合格とする。

地球の生いたち 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回配布する資料プリントの説明文や図表類を帰宅後に読み直し，授業の内容を復習すること。また，シラバスによって次回の授業内容の確認を行い，可能であればシラバスに載せている参考書等を用いて，授業に関係する部分を適宜予習・復習すること。

履修上の注意　/Remarks

高校で地学を履修していなくても大丈夫である。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

地球のしくみとと休止を学ぶことを通して，地球と人間とのあるべき関係について考えましょう。

キーワード　/Keywords

地球のしくみ，地球史，生命と地球の共進化

自然史へのいざない 【昼】

担当者名 /Instructor　北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター　日高京子

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と生物の関わりについて総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自然と生物について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自然の中の生物に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

自然史へのいざない	BIO001F

授業の概要 /Course Description

北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）の学芸員が、北九州の自然と自然史博物館の魅力、そして各学芸員の調査や研究について紹介をする授業です。北九州市は多様な化石を産する化石の一大産地であり、多様な自然に囲まれた都市でもあります。このような恵まれた北九州の自然と、それを展示している博物館を、まずみなさんに知ってもらうことがこの授業の大きな目的です。各学芸員は、海外での発掘や、調査・研究も積極的に行っています。講義では、海外の話題も含めた、各自然史分野の最先端の話も聞くことができると思います。よりグローバルな視点から自然史を学んでもらうことも、この授業の目的としています。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各学芸員が担当する講義のテーマは下記の通りです（【 】内はキーワード、（ ）内は担当学芸員名)。

１回　ガイダンス
２回　植物を鍵とした生物間相互作用（真鍋）　【食物連鎖】【共生】
３回　アンモナイトの古生物学（御前）　【化石】【進化】【古生態】
４回　鳥類に関するトピック（タイトル・講師未定）
５回　石の声が聞こえる（森）　【岩石の模様・構造】【大地のダイナミクス】
６回　両生類の多様性と保全（江頭）
７回　化石記録が物語るいのちのたび「絶滅と繁栄」（太田）【化石の有用性】【生命史】
８回　博物館見学（１回目）
９回　骨から知る脊椎動物進化（大橋）　【系統進化】【形態と機能】【恐竜】
１０回　魚類に関するトピック（タイトル・講師未定）
１１回　深海生物ーその形と適応的意義（下村）　【深海】
１２回　昆虫の多様性と進化（蓑島）　【分類】【学名】
１３回　二次的自然と哺乳類（馬場）　【都市近郊に棲む哺乳類】【生物多様性の価値】
１４回　博物館見学（２回目）ー課題研究
１５回　まとめ

※北九州市立自然史・歴史博物館のホームページ： http://www.kmnh.jp/

成績評価の方法 /Assessment Method

・２回の博物館見学は原則必須とする。
・授業中の課題60%、期末レポート40%

自然史へのいざない 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：授業開始前に各回のキーワードについて自分で調べておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、北方Moodleで提出すること。
https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp

履修上の注意　/Remarks

・ 8回〜14回の授業は11月10（土）と11月17（土）（ともに終日）に北九州市立自然史・歴史博物館にて行う予定。
・ スケジュールと講義タイトルは変更となる可能性があるので初回ガイダンス時に確認すること。
・ 博物館までの交通費および入館料は自己負担とする。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

くらしと化学 【昼】

担当者名 /Instructor　秋貞　英雄 / Akisada　Hideo / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	基礎的な化学知識と身近な問題との関わりを理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	基礎的な化学知識を用いて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な化学に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

くらしと化学	CHM001F

授業の概要　/Course Description

化学物質とその物性は、自然を知り、生活を豊かにし、未来社会を展望するのに必要です。また現代社会は、科学技術の社会生活分野への適用を科学・技術者の判断に任せられないほど、多様化複雑化しています。地球環境汚染など否定的現象や工セ科学を利用した詐欺的商法もあります。そのため、市民は、教養として基礎的な化学知識を基に、身近な問題の科学・技術情報れへの理解を必要としています。その学習を進めるために、学習事項と身近な現象の関連を講義の中で示します。その事により、化学への理解、興味、関心を深め、それによる生活や環境に対する分析・理解能力を高めることがこの授業のねらいです。

物質の構造（原子・分子・化学結合）、や物性に関する基礎知識、重要な物性である物質三態（気・液・固）やその他の物性（酸塩基、酸化還元など）など、物性と分子構造が、自然現象とどう関わるかを学習します。物質の三態で説明できないコロイドという現象も学習します。さらに一般化学物質(無機物、有機物）や生命に関わる生体物質(糖、脂質、タンパク質、核酸など）が化学現象を担うと生活に関わる問題、環境問題、原子力・放射能問題の関連を解説します。

これらの学習で化学物質の系統性をつかみ、自然現象と物性や化学物質の関係を理解する。

教科書　/Textbooks

新版 教養の現代化学(第2版)
著者：多賀光彦、片岡正光、早野清治、沼田ゆかり 著
出版社：三共出版
定価2592円（本体2400円＋税8%）/ 2016年4月発行
ISBN 978-4-7827-0734-0

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「逆説・化学物質 - あなたの常識に挑戦する」John Emsley著、渡辺正訳　(丸善) \2200円、 ISBN 978-4-621-04227-4
○「沈黙の春」R. Carson著、青木 梁一訳　(新潮社)
○「奪われし未来」T. Colbon, D. Dumanoski, P. Myers著、長尾 力著　(翔泳社)

くらしと化学 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1)、2) 原子、分子と化学結合
　1章 原子の成り立ちと周期律　　2章 化学結合と物質の結合
3)、4)　気体、液体、固体、溶液そしてコロイド
　3章 物質の三態と相平衡
5)、6) 酸・塩基、酸化・還元
　5章　酸と塩基、6章　酸化と還元
7)、8) 基礎有機化学と官能基
　第7章　簡単な有機化合物
9)、10) 生化学
　第8章　生体を構成する物質
11)、12) 生活と化学物質
　第10章　生活の中の有機物質　　第11章　生活の中の無機物質
　　北九州市の特徴である石灰岩について補足
13) エネルギー源と原子力問題
　第13章　原子力エネルギーとクリーンエネルギー　　第14章14 - 7節　放射能汚染
14) 地球圏と環境問題
　第14章　大気と環境　　第15章　水と環境
15) まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業内容の基礎的な部分を理解しているか。その理解を授業で出たり、一般に見られる化学的現象に結びつけることができるかを見る。簡単レポート・小テスト(演習、質問など) ２０％、期末試験８０％で評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前後に、教科書・プリントの該当部に目を通して、学習事項が定着するよう努める。教科書やプリントの要点をメモや強調 (しるし) することで復習がやりやすいので行うことを勧める。テレビ・新聞等の科学関連ニュースには注目して欲しい。その注目点や、授業の疑問点は授業の理解を深めるので質問する。

履修上の注意　/Remarks

教科書外の内容も講義する。補足資料 (プリント) を必ず受け取る (翌週も配る)。ノートはきちんととること。やむを得ない欠席時はノート模写をしておくと良い。教科書は事前事後どちらでもよいが目を通しておく。ただ事前の方が、授業への興味が持ちやすい。事後学習としては、ノートの整理、重要事項の整理をすること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

章末問題は、学習したことを整理するのに役立つので取り組んでください。新聞、雑誌、放送機関、インターネット等の科学情報に関心を持ち、質問するような姿勢が好ましい。質問には即答できないときは後日に答えるようにします。

キーワード　/Keywords

基礎化学、生活の化学、環境の化学、化学結合。気体、液体、固体、コロイド、表面、酸、塩基、酸化、還元、電池、化学反応、アミノ酸、糖、脂質、核酸、大気汚染、地球温暖化物質、原子力、放射能

現代人のこころ 【昼】

担当者名 /Instructor	税田　慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科, 田島　司 / 人間関係学科 田中　信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
1年次	2単位	1学期	講義	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	心理学についての教養的基礎知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	心理学的観点から課題の発見、解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の諸問題を心理学的観点から解決するために学習を続けることができる。
	コミュニケーション力		

現代人のこころ	PSY003F

授業の概要　/Course Description

現代の心理学では、人間個人や集団の行動から無意識の世界に至るまで幅広い領域での実証的研究の成果が蓄えられている。この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察する。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、心理学的に考察し、現代人を取り巻く世界について、心理学的な理論と知見から理解する。

教科書　/Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　オリエンテーション
第２回　思春期・青年期の親子関係【第２の分離・個体化、共依存】
第３回　思春期・青年期の友人関係【チャムシップ、ふれあい恐怖】
第４回　思春期・青年期における自己の問題【アイデンティティ、同一性拡散】
第５回　思春期・青年期を再考する【思春期危機、不適応】
第６回　動物のもつ自己意識【自己像認知、マークテスト】
第７回　自己の発見【自己意識、自己概念】
第８回　他者への気づき【アニマシー、バイオロジカルモーション】
第９回　他者の心を読む【共感、心の理論】
第10回　まとめと小テスト
第11回　こころの科学１【心理学、統計】
第12回　こころの科学２【進化、行動主義】
第13回　こころと行動【本能、生得的プログラム】
第14回　こころと他者【愛着、葛藤】
第15回　まとめと小テスト

成績評価の方法　/Assessment Method

課題 (小テストまたはレポート)・・・・ 100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習として、シラバスに記載されているキーワードについて調べておく。
事後学習として、内容の理解を深めるため配布資料やノートをもとに授業の振り返りを行う。

現代人のこころ 【昼】

履修上の注意　/Remarks

北方ひびきの連携科目になっています。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

人間と生命 【昼】

担当者名 /Instructor　日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	生命科学の基礎知識を獲得し、身近な問題との関わりを総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命科学に関する基礎知識を用いて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	体や健康など、生命科学に関する身近な課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

人間と生命	BIO002F

授業の概要　/Course Description

ヒトの体は約６０兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には２万数千もの種類がある。近年、「ヒトゲノム計画」が完了し、すべての遺伝情報が明らかとなった。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。そこで（１）体はどのような物質からできているか、（２）遺伝子は体の何をどのように決めているのか、（３）細胞の社会とはどういうものでそれが破綻するとどのような疾患につながるのか、（４）体を維持し守るしくみは何かなど、人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

教科書　/Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○現代生命科学　東京大学生命科学教科書編集委員会　2015年（羊土社）3024円
○もう一度読む数研の高校生物　第１巻　嶋田正和他編　2012年（数研出版）1890円
○もう一度読む数研の高校生物　第２巻　嶋田正和他編　2012年（数研出版）1890円

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　体を作る物質（１）細胞の構成成分　【多糖・脂質・タンパク質・核酸】
３回　体を作る物質（２）食物分子と代謝　【酵素】【触媒】
４回　体を作る物質（３）遺伝物質DNA　【二重らせん】
５回　体を作るしくみ（１）遺伝子発現　【セントラルドグマ】
６回　体を作るしくみ（２）遺伝子できまること　【ゲノム】【体質】
７回　体を作るしくみ（３）発生と分化　【転写因子】【胚】
８回　細胞の社会（１）細胞の増殖　【細胞周期】【細胞死】
９回　細胞の社会（２）シグナル伝達　【受容体】【シグナル分子】
１０回　細胞の社会（３）社会の反逆者・がん　【がん遺伝子】
１１回　体を守るしくみ（１）寿命と老化　【染色体】【テロメア】
１２回　体を守るしくみ（２）細菌とウイルス　【ウイルス】【細菌】
１３回　体を守るしくみ（３）免疫　【自然免疫】【抗体】
１４回　関連ビデオ鑑賞
１５回　質疑応答・まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の課題　４０％
期末テスト　６０％

人間と生命 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【　】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、北方Moodleで提出すること。
https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp

履修上の注意　/Remarks

高校で生物を履修していなかった者は教科書または参考書を入手して備えること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

人体を構成する細胞やその働きを操る遺伝子について、ここ数十年程の間で驚く程いろいろなことがわかってきました。その緻密で精巧なしくみは知れば知るほど興味深いものですが、ヒトの体について良く知ること、生命科学の基礎を学ぶことは、これから皆さんが生きて行く上でも非常に大切です。苦手だからと怯まずに、一緒に頑張りましょう。

キーワード　/Keywords

環境都市としての北九州 【昼】

担当者名 /Instructor
日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 牛房　義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
三宅　博之 / HIROYUKI　MIYAKE / 政策科学科, 松永　裕己 / マネジメント研究科　専門職学位課程
村江　史年 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
1年次	2単位	2学期	講義	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境に関する幅広い基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境にはさまざまな立場からの意見・考え方があることを理解し、自らがとるべき環境行動を判断できる素養を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	卒業後も誰もが身近なところから環境行動に取り組むことができることを理解する。
	コミュニケーション力		

環境都市としての北九州	ENV001F

授業の概要　/Course Description

環境問題の全体像を把握し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、学内の専門分野の異なる教員、学外からは行政・企業・NPO等の実務担当者を講師として迎え、オムニバス形式で様々な視点（自然・経済・市民）から環境問題とそれに対する取り組みについて学習する。北九州市はかつてばい煙に苦しむ街であったが、公害を克服した歴史を踏まえ、現在は環境モデル都市として世界をリードしている。北九州市の実施する「環境首都検定」の受検を通して、市のさまざまなプロジェクトや環境についての一般知識を広く学ぶほか、環境関連施設（環境ミュージアム、エコタウンなど）見学により、その体験を講義での学習につなげる。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都検定公式テキスト　900円+税
http://www.city.kitakyushu.lg.jp

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　ガイダンス（日高）
2回　持続可能な社会をめざして〜ESD〜（法学部・三宅）
3回　北九州の自然・生態系（外部講師）
4回　北九州における環境政策（外部講師）
5回　環境問題と市民の関わり（外部講師）
6回　環境ビジネスとエコタウン事業（マネジメント研究科・松永）
7回　施設見学・エコタウン
8回　北九州の環境経済（経済学部・牛房）
9回　施設見学・環境ミュージアム
10回　環境首都検定に向けて（外部講師）
11回　小テスト（日高）
12回　環境問題とソーシャルビジネス（外部講師）
13回　環境問題と企業の取り組み（外部講師）
14回　環境問題と学生の取り組み（421Lab・村江）
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

環境首都検定の成績（40%）、小テストおよび授業中の課題（60%）

環境都市としての北九州 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：北九州市環境首都検定公式テキストで関連する箇所を学習しておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、北方Moodleで提出すること。
https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp

履修上の注意　/Remarks

環境首都検定受検および施設見学（環境ミュージアムとエコタウン）は原則として必須とする。スケジュールに注意すること。
・ エコタウン（バスツアー）は11月7日（水）の予定。参加できない場合は各自で代替施設を見学すること。
・ 環境ミュージアム見学は11月23日（木）午前または午後の予定。参加できない場合は後日各自で見学すること。
・ 環境首都検定は12月9日（日）または13日の予定

＊授業スケジュールは変更の可能性もある。第１回目ガイダンス時に確認すること。
＊環境ミュージアム、首都検定会場までの交通費は自己負担とする。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義は副専攻「環境ESD」のコア科目です。この講義をきっかけに副専攻にもトライしてみませんか。
https://www.kitakyu-u.ac.jp/kankyo-esd

キーワード　/Keywords

環境、ESD、北九州市

未来を創る環境技術 【昼】

担当者名 /Instructor
上江洲　一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科（19～）, 白石　靖幸 / Yasuyuki SHIRAISHI / 建築デザイン学科（19～）
永原　正章 / Masaaki NAGAHARA / 環境技術研究所, 松本　亨 / Toru MATSUMOTO / 環境技術研究所
牛房　義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境問題や環境技術に関する正しい知識など、21 世紀の市民として必要な基本的事項を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	授業で学ぶ環境技術の現状や展望を踏まえながら、社会・地域・生活など身の回りに隠れている環境的課題を発見し、課題の重要性や本質を明確化する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	環境問題について自主的・継続的に学習するための、環境技術に対する深い関心と環境への鋭敏な感受性を持つ。
	コミュニケーション力		

未来を創る環境技術	ENV003F

授業の概要　/Course Description

環境問題は、人間が英知を結集して解決すべき課題である。環境問題の解決と持続可能な社会の構築を目指して、環境技術はどのような役割を果たし、どのように進展しているのか、今どのような環境技術が注目されているのか、実践例を交えて分かりやすく講義する（授業は原則として毎回担当が変わるオムニバス形式）。

具体的には、北九州市のエネルギー政策、特に洋上風力発電に関する取り組みと連動して、本学の特色のある「環境・エネルギー」研究の拠点化を推進するための活動を、様々な学問分野の視点で紹介する。

教科書　/Textbooks

教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：ガイダンス、社会における環境技術の役割
第２回：北九州市のエネルギー政策
第３回：再生可能エネルギーに関する世界の潮流
第４回：世界における風力発電
第５回：日本における風力発電（その１）
第６回：日本における風力発電（その２）
第７回：日本における風力発電（その３）
第８回：再生可能エネルギーの産業（風力発電）
第９回：再生可能エネルギーの産業（エネルギーマネジメント）
第10回目：都市の環境とエネルギー（経済学からのアプローチ）
第11回目：都市の環境とエネルギー（情報工学からのアプローチ）
第12回目：都市の環境とエネルギー（建築学からのアプローチ）
第13回目：都市の環境とエネルギー（環境工学からのアプローチ）
第14回目：都市の環境とエネルギー（化学・生物工学からのアプローチ）
第15回目：まとめ

「日本における風力発電」では、外部講師による集中講義や北九州市の風力発電施設の見学を予定しています。

未来を創る環境技術 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

積極的な授業参加 30%
レポートおよび小テスト70%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前・事後学習については担当教員の指示に従うこと。また、新聞・雑誌等の環境技術に関連した記事にできるだけ目を通すようにすること。期末課題に備えるためにも、授業で紹介された技術や研究が、社会・地域・生活などの身の回りの環境問題解決にどのようにつながり、活かされているか、授業後に確認すること。

履修上の注意　/Remarks

私語をしないこと。ノートはこまめにとること。都合により、授業のスケジュールを変更することがある。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

文系学生にもわかりやすい授業内容です。

キーワード　/Keywords

持続可能型社会、エネルギー循環、機械システム、建築デザイン、環境生命工学、超スマート社会、Society5.0、人工知能、自動制御、エネルギー経済、環境経済

私たちと宗教 【昼】

担当者名 /Instructor　佐藤 眞人 / Sato　Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	宗教全般および日本の宗教に関する基本的知識を身につけ、総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	宗教全般および日本の宗教について総合的に分析し、自立的に理解を深めることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	宗教全般および日本の宗教に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

私たちと宗教	PHR006F

授業の概要 /Course Description

日本で生活するわれわれの大多数は、宗教を迷信ないしは縁遠いものと受けとめているのではないだろうか。しかしながら諸外国においては、宗教は抜き差しならない切実な問題であり、社会に大きな位置を占めて人々の倫理観や思考を深く規制している。振り返ってみれば、われわれ自身も実は決して無宗教というわけではない。この授業を通して人間社会における宗教の重要性を認識してもらいたい。

授業ではとりわけ日本人にとって身近な宗教である仏教と神道を軸にして、キリスト教・イスラム教・道教などと比較しながら理解を深めてもらう。留学生にとっては宗教を通して日本文化の特質を理解することができるだろう。

教科書 /Textbooks

使用しない。授業時にプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫）
○橋爪大三郎『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房・ちくま文庫）
○末木文美士『日本宗教史』（岩波新書）
○末木文美士『日本仏教史』（新潮社・新潮文庫）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　授業の概要説明
２回　日本人の宗教観
３回　世界の諸宗教
４回　宗教の諸類型
５回　宗教の構成要素
６回　仏教について１（釈迦の教え）
７回　仏教について２（上座部仏教と大乗仏教）
８回　仏教について２（日本仏教の特色ー本覚思想　祖先崇拝）
９回　仏教について３（日本仏教の特色ー山岳仏教・神仏習合）
１０回　一神教と多神教１（一神教の起源）
１１回　一神教と多神教２（一神教の神観念）
１２回　神道について１（創世記の天地創造と記紀神話の天地開闢）
１３回　神道について２（神道の世界観）
１４回　神道について３（神道の罪と戒律）
１５回　日本の宗教文化

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験　１００％

私たちと宗教 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

シラバスで紹介した参考書を事前・事後の時間を使って読み進めておくこと。
事前に配布した資料については下読みしておくこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

宗教を信じることを勧める授業ではありません。宗教というものが人間や文化にとって重要な位置を占めるものであることを認識し、日本の宗教風土の特色を理解してもらう授業です。

キーワード　/Keywords

宗教、仏教、神道、ユダヤ教、キリスト教

思想と現代 【昼】

担当者名 /Instructor　伊原木　大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の人間と思想との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の思想について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の思想に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

思想と現代	PHR004F

授業の概要 /Course Description

サブタイトルを「教養としてのユダヤ思想」と題し、主に19世紀末から20世紀にかけて登場したエポックメイキングなユダヤ文化と思想との関わりを紹介する。まずは「ユダヤ人」という存在に対する、フェアで中立的な考え方を身に着けてもらうべく、その来歴と特徴について詳しく解説した後、心理療法・文学・倫理・映画などのジャンルで革新的な業績を残した現代ユダヤ人について、若干の作品分析を通しながらユダヤ性の拡がりと豊かさを確認する。以上の考察をヒントにしつつ、最終的には現代の人間と思想との関係について複眼的な思索を可能にすることが、本授業の狙いである。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○沼野充義編『ユダヤ学のすべて』、新書館、2009年。
○小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』、講談社現代新書、2002年。
合田正人『入門　ユダヤ思想』、ちくま新書、2017年。
その他の基本文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　イントロダクション
２回　ユダヤ人の原点【概説】
３回　ユダヤ人の歴史（１）【民族の起源】
４回　ユダヤ人の歴史（２）【古代から中世へ】
５回　ユダヤ人の歴史（３）【中世から近代へ】
６回　ユダヤ人の歴史（４）【近代から現代へ】
７回　補足回【紛争と現代】
８回　精神分析の思想（１）【概説】
９回　精神分析の思想（２）【一神教の精神】
１０回　文学の思想【カフカ】
１１回　音楽の思想【シェーンベルク】
１２回　心理療法の思想【フランクル】
１３回　倫理の思想【ヨナス】
１４回　映画の思想【ハリウッドとユダヤ人・前半】
１５回　映画の思想【ハリウッドとユダヤ人・後半】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み…４０％　期末テスト…６０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

思想と現代 【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。卒業予定の４年生に対しても、他と同じく厳しい採点態度で臨む。本授業には一切の甘えを捨てた上で取り組んでほしい。

キーワード　/Keywords

文化と表象 【昼】

担当者名 /Instructor　真鍋　昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と表象の関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	表象について課題を発見し、分析・解決することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	表象についての課題に向かい合い、その課題を解決するための学びを継続する態度を身につけている。
	コミュニケーション力		

文化と表象	MCC001F

授業の概要 /Course Description

本講義では、表象概念の基礎を理解し、表象論の視点・テーマのひろがりを知ることを目的としている。受講者は、講義を受けるなかで各自の生活環境を「表象」という視点から見つめ直すことが求められる。
まず前半の講義では表象論事始めとして、理論的背景の説明をおこなう。その後イメージとしての〈日本〉について歴史的視点から多様な素材を用いて言及するなかで、表象研究の導入をおこなう。
次に比較分析の例として映画を原作と比べて、その差異について論じる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　【表象論事始め】　理論的背景
３回　【表象の歴史的追尾】イメージとしての〈日本〉①【風刺画】
４回　イメージとしての〈日本〉②【オリエンタリズム】
５回　イメージとしての〈日本〉③【演劇】
６回　イメージとしての〈日本〉④【映画】
７回　イメージとしての〈日本〉⑤【テクノミュージック】
８回　イメージとしての〈日本〉⑥【CM】
９回　イメージとしての〈日本〉⑦【オリンピック】
１０回　イメージとしての〈日本〉⑧【まとめ】
１１回　【特別講義】
１２回　【表象分析事始め】　映画を事例として①【活字から映像へ】
１３回　映画を事例として②【原作とテーマ設定】
１４回　映画を事例として③まとめ
１５回　全体総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (課題・コメントカードなど)　… 25%　　期末レポート　…　75%
平常点は課題、コメントカードなどによって評価される。小テストをおこなう場合あり。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：配布物を読んでおく
事後：講義内容を復習し、事例について必要であれば調べておく

文化と表象 【昼】

履修上の注意　/Remarks

毎回の授業を復習するなかで、各自の身近な生活環境から問題をつねに内省的に「発見」することが求められる。それゆえに、緊張感をもった態度で受講してほしい。授業時間外では、授業で取り上げたトピックについての情報収集をまめにおこない、それを授業時間内でのコメントカード執筆に活かしてほしい。単位取得のためには、期末レポートにおいて十分な準備が要求されるので、受講においては積極的な姿勢が求められる。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

言語とコミュニケーション 【昼】

担当者名 /Instructor
漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 山崎　和夫 / KAZUO YAMASAKI / 北方キャンパス　非常勤講師
平野　圭子 / Keiko Hirano / 英米学科, 松田　憲 / マネジメント研究科　専門職学位課程

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語とコミュニケーションに関する学際的領域についての基本的知識を身につけ、課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語とコミュニケーションに関する課題を発見し、言語学・心理学・コミュニケーション論などの手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語とコミュニケーションに関心を持ち、それらを取り巻く課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		

言語とコミュニケーション	LIN001F

授業の概要　/Course Description

種としての「ヒト」は、「ことば」を用いてコミュニケーションできるという点において他の動物と大きく異なります。しかし、「ことば」によるコミュニケーションがすべてなのでしょうか。そもそもコミュニケーションとは何で、どのようにして行われるのでしょうか。「現代の若者はコミュニケーション力がない」などとよく言われますが、コミュニケーションがうまく成立したり、しなかったりするのはなぜなのでしょうか。この講義では、コミュニケーション論、心理学、言語学、さらには情報科学における研究成果をふまえ、私たちの日常と関連づけながらそのような問いについて考えます。

教科書　/Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『コミュニケーションの心理学』松尾　太加志著、ナカニシヤ出版、1999年。
○『異文化コミュニケーション』古田　暁著、有斐閣、1999年。
○『社会言語学への招待–社会・文化・コミュニケーション』田中　春美 (他) 著、ミネルヴァ書房、1996年。
○『社会言語学入門–生きた言葉のおもしろさにせまる』東　照二 著、研究社出版, 1997年。
○『ジェンダーの言語学』永原　浩行 (他) 編、明石書店、2004年。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

日程等により順番が変わる可能性があります。第1回授業時に予定表を配布します。
第1回　序：「ことば」とは (漆原)
第2回　コミュニケーションとことばの発達 (漆原)
第3回　言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション (漆原)
第4回　語用論 (山崎)
第5回　ことばと文化 (山崎)
第6回　異文化間コミュニケーション (山崎)
第7回　会話の規則 (平野)
第8回　日本語の方言 (平野)
第9回　ことばのバリエーション (平野)
第10回　(予定) 外部講師による特別講義
第11回　認知発達とコミュニケーション (松田)
第12回　ヒューマンエラーとアフォーダンス (松田)
第13回　ことばとジェンダー (漆原)
第14回　グローバル化とコミュニケーション (漆原)
第15回　まとめ (担当者によるパネル・ディスカッション) (漆原)

言語とコミュニケーション 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度…20%　　レポート…20% × 4
4名の担当教員のレポートをすべて出さない限り、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：担当教員またはコーディネーターが指示する文献の講読
事後学習：それぞれの教員の課題・レポートの提出

履修上の注意　/Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。
*「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

芸術と人間 【昼】

担当者名 /Instructor　真武　真喜子 / Makiko Matake / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と芸術との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	芸術について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	芸術に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

芸術と人間	PHR001F

授業の概要　/Course Description

20世紀後半から現在まで、生き存在し活躍する芸術家の人物像に焦点をあて、その活動する時代背景や社会との関係を浮かび上がらせ、また美術の歴史の中での位置を確認する。
毎回一人のアーティストを選び、作品や展覧会活動を追って紹介しながら、美術一般や現代社会との関係を探り、表現の原動力となるものを考察する。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「現代アート事典　モダンからコンテンポラリーまで…世界と日本の現代美術用語集」　美術手帖編集部　美術出版社　2009
「現代美術史日本篇 1945-2014」著・中ザワヒデキ　アートダイバー　2014
「20世紀末・日本の美術――それぞれの作家の視点から」編著・中村ケンゴ　アートダイバー　2015

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1. 浜田知明 戦争の目撃者
2. ボルタンスキー「暗闇のレッスン」で生と死を見つめる
3. ジャン・デュビュッフェ　ART BRUTの世界を開いて
4. 寺山修司　劇的想像力について
5. 中平卓馬　なぜ植物図鑑か
6. フランク・ステラ ミニマル/マキシマル
7. ロバート・スミッソン　大地の改造計画
8. 青木野枝　鉄と生きる　鉄と遊ぶ
9. ソフィー・カル フィクションとしての写真
10. 白川昌生 生涯にわたるマイナーとして
11. 山口圭介 原発に抗する
12. 奈良美智 コドモの領分
13. ヤノベケンジ 失われた遊園地
14. ナデガタ・インスタント・パーティ人々を巻込むプロジェクト
15. 会田誠 道程

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト　2回　　60%
レポート(学期末)　40%

芸術と人間 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

(1)自主練習を行い、授業の内容を反復すること。
(2)随時、課題を学習支援フォルダに挙げるので、参照し準備すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

小テストやレポートは、授業の内容を把握しているかどうかよりも、むしろ授業で得た知識を自身の関心においてどのように展開したか、また、展開させたいか、を問うものである。
近隣の展覧会を見て回るなど、日常的にも美術の環境に親しんでいただきたい。

キーワード　/Keywords

文学を読む 【昼】

担当者名 /Instructor	生住　昌大 / IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科, 河内　重雄 / ＫＯＵＣＨＩ　ＳＨＩＧＥＯ / 比較文化学科 鄧　紅 / DENG HONG / 比較文化学科, 村上　義明 / 北方キャンパス　非常勤講師 畑中　佳恵 / 北方キャンパス　非常勤講師, 藤崎　祐二 / 北方キャンパス　非常勤講師 山口　裕子 / YAMAGUCHI Hiroko / 比較文化学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
1年次	2単位	2学期	講義	１年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と文学との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文学について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文学に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

文学を読む	LIT001F

授業の概要　/Course Description

◎総合テーマ
大学に入るまでに私たちは「国語」という科目の中で「文学」に触れ、また自ら図書館や書店の棚で「文学」を手に取ってきた体験があります。こうした「文学を読む」という行為は、人間にとって当たり前の営みだと感じられがちなものですが、それは本当なのでしょうか？　さらには「古典」「名作」と名づけられた作品は、今なお読むに値するどのような意味・意義を有しているのでしょうか。一見自明に見える課題を再度問い直し、私たちにとって現実的な営みとしての「文学」を捉えなおすことが、この科目の目的です。

◎2017年のテーマ：「文学」への誘い
ある文学作品との出会いによって、一人の人間の人生が大きく変わってしまうことがあります。
今年度も「文学を読む」では、担当教員が大学１年生にぜひ読んでもらいたい作品を取り上げ、その作品の面白さやアトラクティヴなメッセージについて、熱く語ります。
また、本講義は日本文学を中心に講義を進めていきますが、アジアの文学（中国、インドネシア）についても紹介します。

この授業の主な到達目標は、以下の通りです。

①言語芸術に関する基本的・総合的な知識を獲得する。
②「文学」という表現の深さや可能性について考え、自分で課題を設定し、解決する能力を磨く。
③修得した知識を今後の知的生活の中で応用できるようになる。

教科書　/Textbooks

特定のテキストは使用しません。取り上げる作品を事前に通知したり、適宜プリントを配布したりします。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

講義中に各教員が指示します。

文学を読む 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス
第２回　日本上代文学への誘い（藤崎祐二）
第３回　日本上代文学のメッセージ性（藤崎祐二）
第４回　まとめ（藤崎祐二）
第５回　中国文学への誘い（鄧紅）
第６回　日本近世文学への誘い（村上義明）
第７回　日本近世文学のメッセージ性・まとめ（村上義明）
第８回　インドネシア文学への誘い（山口裕子）
第９回　文学理論の歴史概観（畑中佳恵）
第10回　トドロフの「幻想」と三島由紀夫「美神」（畑中佳恵）
第11回　イーザーの「内包された読者」と芥川龍之介「地獄変」（畑中佳恵）
第12回　日本現代詩への誘い（稲田大貴）
第13回　日本現代詩のメッセージ性・まとめ（稲田大貴）
第14回　日本現代文学への誘い（河内重雄）
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート＝100％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

取り上げる作品についての予習（作品を読む、作者について調べる、など）と、講義内容の復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

私語など、講義を妨げる行為は厳禁。「文学を読む【夜】」と同じ講義内容です。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

履修等については、コーディネーターの生住に質問すること。
講義内容については、各回の講義担当教員に質問すること。

キーワード　/Keywords

現代正義論 【昼】

担当者名 /Instructor　重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と正義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における正義の問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における正義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

現代正義論	PHR003F

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010年）
○マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録＋東大特別授業(上)（下)』(早川書房、2010年）
○盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房、2006年）
○川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社、1995年）
○川本隆史『ロールズ　-　正義の原理』（講談社、1997年）
瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）

現代正義論 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　現代正義論とは　～　問題の所在
第２回　現代正義論とは　～　本講義の概観
［第３回～第７回まで　「正義」の応用問題（生命倫理と法）］
第３回　脳死・臓器移植①　～　臓器移植法の制定と改正
第４回　脳死・臓器移植②　～　法改正時の諸論点
第５回　脳死・臓器移植③　～　改正臓器移植法の施行と課題
第６回　安楽死・尊厳死①　～基本概念の整理と国内の状況
第７回　安楽死・尊厳死②　～諸外国の状況
第８回　現代正義論①　～　ロールズの正義論
第９回　現代正義論②　～　ロールズとノージック
第10回　現代正義論③　～　ノージックのリバタリアニズム
第11回　現代正義論④　～　サンデルの共同体主義
第12回　現代正義論⑤　～　共同体主義【論争】
第13回　現代正義論⑥　～　アマルティア・センの正義論
第14回　現代正義論⑦　～　センとロールズ・ノージック
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験…80%　　講義中に課す感想文…20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前に、当該回に扱うテーマについて、自ら予習をしておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

ＮＨＫ教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解の役にたつと思います。

キーワード　/Keywords

ロールズ　ノージック　サンデル　正義　脳死　尊厳死

民主主義とは何か 【昼】

担当者名 /Instructor　中道　壽一 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と民主主義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	民主主義について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

民主主義とは何か	PLS002F

授業の概要　/Course Description

かつて「危険な思想」であった民主主義は、今やすべてのものを正当化するレトリックとなり、極めて形式的なものとなっている。そこで、本講義では、民主主義に関する議論を活性化するためのいくつかの素材、論点、概念などを提示し、「民主主義とは何か」を問い直してみたいと思います。

本講義では、まず、民主主義の基礎的知識として、民主主義を歴史的に考察してみます。次に、民主主義を理論、運動（組織）、制度の３つのレベルに区分し、民主主義の理論として、同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論、参加民主主義論、共生の民主主義論、熟議民主主義論等について考察します。次に、運動（組織）のレベルでは、1989年の「東欧革命」、1968年の「青年の反乱」、１９３８年の日独青少年の交歓事業を取りあげ、民主化と反民主化について考察します。制度のレベルでは、議院内閣制民主主義と大統領制民主主義を比較し、民主主義の制度化について考察すると同時に、議会制民主主義の諸問題や首相公選制などについても考察します。

そして、こうした3つのレベルでの民主主義の考察を通じて、民主主義の「新しい可能性」について検討してみましょう。

教科書　/Textbooks

テキストはなし。
基本的にレジュメを配布して講義します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

参考文献としては、
○中道『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房）（○）
○Ｊ・リンス他『大統領制民主主義の失敗』（南窓社）（○）
○中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィー』（日本経済評論社）（○）
○イアン・シャピロ『民主主義理論の現在』（慶應義塾大学出版会）（○）
を挙げておきます。

民主主義とは何か 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

「授業計画・内容」としては、下記の通りです。
第１回　はじめに・・・グローバリゼーションとデモクラシー
第２回　「デモス」と「クラティァ」について
第３回　二つの民主主義伝統について
第４回　近代市民革命と自由民主主義について
第５回　現代民主主義の理論の比較・・同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論
第６回　現代民主主義の理論の比較・・参加民主主義論、共生の民主主義論
第７回　現代民主主義の理論の比較・・熟議民主主義論、ラディカル・デモクラシー論
第８回　まとめのグループ討論、グループ発表
第９回　民主主義の運動（組織）について・・１９８９年の東欧革命、１９６８年の「青年の反乱」の日独比較
第１０回　民主主義の運動（組織）について・・１９３８年の日独青少年交歓事業について
第１１回　民主主義の制度について・・議院内閣制と大統領制の比較
第１２回　議院内閣制民主主義の諸問題について
第１３回　大統領制民主主義の諸問題について
第１４回　民主主義制度の比較のまとめ
第１５回　全体のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

成績は、下記のような配分で、総合評価します。
日常の授業への取り組み　　２０％
小テスト　　１０％
レポート（任意）　　２０％
定期試験　　５０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に講義用レジュメ（講義内容をまとめたもの）を配布しますので、当日講義予定の箇所を読んでおくこと、また、講義中に書き留めた穴埋め箇所を中心にして復習しておいてください。

履修上の注意　/Remarks

民主主義に興味があれば、どなたでも受講できますが、
国内外のニュースを読んだり見たりしておいてください。
多くの情報を持っていれば、それだけ講義の内容に興味を持つようになります。
毎回、講義のレジュメを配布しますので、紛失しないようにファイルし、毎回の講義に持参してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

講義が一段落すると、数人一組のグループを作り、グループ内で議論したことを、代表者に発表してもらうという、「まとめ」を行う予定ですので、講義に積極的に参加してほしいし、講義を楽しんでください。

キーワード　/Keywords

一緒に楽しく学びましょう。

社会学的思考 【昼】

担当者名 /Instructor　稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる個人と社会との関係について総合的に分析し、現代社会が直面する課題を発見する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自らが帰属する社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		

社会学的思考	SOC002F

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、人間と社会との関係性を総合的に理解することにある。

授業では、社会学の基本的な考え方について、E.デュルケーム、M.ウェーバー、E.フロムなどの古典的著作を例にとりながら紹介していく。その中で、社会的行為、社会規範、社会制度、社会構造、社会的役割、社会集団等の基本概念についても説明する。

また、現代社会における論争的なトピックを社会学的に考えていく。とりあげるトピックは、社会的排除と貧困、グローバル化と排外主義等を予定している。（授業進度の関係で、取り上げるトピックは１つになることもある。）

教科書 /Textbooks

使用しない。
適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　イントロダクション
第２回　社会学的な考え方とは
第３回　社会的な問題の発見 - 「常識」を疑う
第４回　社会と個人をつなぐ１ - デュルケム１【集合意識と行為】
第５回　社会と個人をつなぐ２ - デュルケム２【社会規範と自殺 - 自己本位的自殺】
第６回　社会と個人をつなぐ３ - デュルケム３【社会規範と自殺 - アノミー的自殺】
第７回　社会と個人をつなぐ４ - ウェーバー１【理解社会学】
第８回　社会と個人をつなぐ５ - ウェーバー２【信仰と社会 - プロテスタンティズムと資本主義】
第９回　社会と個人をつなぐ６ - フロム１【社会的性格とファシズム】
第10回　社会と個人をつなぐ７ - フロム２【デモクラシーと大衆社会】
第11回　現代社会の解読１ - 貧困と社会的排除１【生活困窮状況とそのメカニズム】
第12回　現代社会の解読２ - 貧困と社会的排除２【支援のあり方】
第13回　現代社会の解読３ - グローバル化の進展と排外主義１【排外主義の様相】
第14回　現代社会の解読４ - グローバル化の進展と排外主義２【排外主義のメカニズム】
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題…１５％　　期末試験…８５％
（総合的に判断する）

社会学的思考 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。授業の内容を反復学習すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

日常生活の中で生じているさまざまな出来事を、いろいろな立場や視点から考える習慣を身につけてもらえるとうれしいです。

キーワード　/Keywords

社会的行為、エスノグラフィー、社会集団、社会構造、集合意識、社会規範、自己本位主義、アノミー、理解社会学、合理性、社会的性格、ファシズム、社会的排除、社会的包摂、社会的孤立、貧困、グローバル化、排外主義

政治のなかの文化 【昼】

担当者名 /Instructor　神原　ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と政治に関する知識を学び、人間と「思想・文化」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化と政治に関する既成概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

政治のなかの文化	ANT001F

授業の概要　/Course Description

政治や経済に関する現象は世界の多くの地域で共通する事項が多いと考えられがちである。しかしながら、実際には多くの地域に多様な独自性が広がる。近代的な政治体制や経済体制が世界中に広がる以前から、さまざまな共同体において独自の統治の方法があり（これもまた文化のひとつである）、近代国家に特有の制度が共有されるようになっても、その受け入れられ方は様々である。

本講義では、その土地に住む人々の政治や経済に関する固有の価値観や習慣について、過去と現在の状況を学ぶ。しかし、それは学問的な知識を蓄えることが目的なのではない。民主主義、資本主義、公共性、といった現在、世界共通に使用されているようにみえるこれらの概念の理解が地域依存的なものであることを知ることで、現代の世界への総合的な理解と考察を深めることが目的である。

教科書　/Textbooks

教科書は指定しない。ただし、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）、授業中に指示した資料には目を通すこと。また、講義に関する映画を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の課題図書などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○アンダーソン、ベネディクト1997『想像の共同体』ＮＴＴ出版
○織田竜也ほか（編）2009『経済からの脱出』春風社
○春日直樹（編）2008 『人類学で世界をみる』 ミネルヴァ書房
○ピエール・ブルデュー1993『資本主義のハビトゥス』藤原書店
○本多俊和ほか編 2011『グローバリゼーションの人類学』

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

政治のなかの文化 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　導入/グローバル化の時代と文化
第2回　理念の土着化は可能か？
第3回　伝統社会のなかの政治の始まり
第4回　互酬と社会
第5回　伝統的社会における支配と近代的な社会における支配
第6回　資本主義への対抗
第7回　異なる社会の価値観を図る
第8回　中間テスト
第9回　政治体制の変化が文化に与える影響①：社会主義と近代化
第10回　政治体制の変化文化に与える影響②：体制転換と民主主義
第11回　開発の現場における公共性と文化
第12回　中間テストの解説
第13回　地域通貨の可能性
第14回　「求められる市民参加」の時代
第15回　実践の土着化

成績評価の方法　/Assessment Method

中間テストや課題40％、期末テスト60％
※そのほか講義への貢献を平常点として評価に加える。
※受講人数によってはテストをレポートに変更することもある。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目へのリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で購入する必要はありません。
・講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。

履修上の注意　/Remarks

・評価方法や、電子ブックの閲覧方法などは第一回の講義で説明します。欠席しても履修できるかも知れませんが、不利になるかもしれないことを覚悟してください。
・講義に出席していても、テストやレポートで評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。真剣に取り組んでください。
・中間テストの無断欠席者（または代替提出課題の未提出者）、授業態度が目に余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

・人々はどうやって意思決定をしてきた（いる）か、どうやって経済活動をしてきた（いる）かということに興味があると、講義の内容は面白いのではないかと思います。
・ビジョン科目I「異文化理解の基礎」またはビジョン科目II「現代社会の文化」を受講済み・受講中の学生は、授業の理解度が高まります。

キーワード　/Keywords

政治、公共性、文化、互酬性、国家

人権論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　柳井　美枝 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会と人権との関係･歴史や社会の中における人権の重要性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる人権の意義･重要性について総合的に分析し、直面する課題を発見するとともに解決を模索する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の中での人権について、自ら課題を発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		

人権論	SOC004F

授業の概要　/Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。
本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察する。
その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問う。

目標
1．人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2．人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3．現代社会における様々な人権課題についての認識を深め、自分との関係を知る。
4．自分自身にとっての人権課題を明確にする。

教科書　/Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / (公社）福岡県人権研究所発行 ￥1000）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要な参考書は授業時に紹介する。

人権論 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1　「自分にとっての人権課題」：自分と人権との関わりを考える。
2　「人権とは何か」：人権とは何かについて解説する。
3　「人権獲得の歴史」：人権獲得の歴史を近代革命を中心に解説する。
4　「世界人権宣言と人権条約」：世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
5　「部落問題について」：現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
6　「部落問題について」：当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
7　「在日外国人と人権課題」：在日外国人の現状と人権課題を解説する。
8　「在日コリアンについて」：在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
9　「ハンセン病について」：ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く社会の現状を解説する。
10　「教育と人権～識字問題」：読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
11　「教育と人権～夜間中学」：教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
12　「障害者と人権」：障害者の立場からみる人権課題を知る。
13　「平和と人権」：戦争・平和についての解説。
14　「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
15　「まとめ」：現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。
※５～１４については、状況により授業回数が入れ替わる場合あり。

成績評価の方法　/Assessment Method

毎回の授業に対して取り組む姿勢【50%】と前期末試験（またはレポート）【50%】により評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

さまざまな人権課題に関心をもち、毎回の授業に反映させることが望ましい。

履修上の注意　/Remarks

私語は厳禁、授業態度は重視する。
出席率が基準を満たした学生のみ、前期末試験の受験（またはレポート提出）を許可する。
代筆、代返などを含む不正を行った場合は即座に出席が停止され単位を取得できない。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

自分と他者の学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。

キーワード　/Keywords

「すべての人」
「人間らしく生きる」

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor　力武　由美 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会とジェンダーとの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会の理解に必要とされるジェンダーの考え方について総合的に分析し、課題を発見するとともに、解決策を考える。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が帰属する社会においてジェンダーにかかわる課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		

ジェンダー論	GEN001F

授業の概要　/Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのかーそのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を理解し、使えるようになることを目標にする。また、社会や文化に潜むジェンダーを可視化するツールとしての統計を分析する方法を学ぶ。

教科書　/Textbooks

牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズ–女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2015）
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

ジェンダー論 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　日本語とジェンダー–戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
２回　ジェンダー・リテラシーで読み解く文学–村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
３回　現代アートとジェンダー–映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
４回　男もつらいよ–アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
５回　ジェンダー家族を超えて–週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
６回　セクシュアリティを考える–あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
７回　学校教育の今昔–学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
８回　社会保障とジェンダー–津村記久子作・小説『ポトスライムの舟』【貧困の女性化】
９回　ジェンダーの視点からみる農業–エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
１０回　アジア現代女性史の試み–ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
１１回　女性差別撤廃条約と人権–絵本『世界中のひまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
１２回　ジェンダーと平和学–女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
１３回　グローバリゼーションと労働市場–国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
１４回　デートDV–TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス（DV）】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の積極的な発言…25%、プレゼン…25%、レポート…25%、期末試験…25%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習としては、授業の各回に予定されている章を読み、それに関連した日常生活でみられる事象例を探して、授業に臨むこと。事後学習としては、期末課題の作成に向けて、資料等を探して読み、レポートの構想を練るなど、準備を進めること。

履修上の注意　/Remarks

(1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておくこと。
(2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

プレゼンにはパワーポイント使用のためPPT資料作成スキルズを身につけておくこと。

キーワード　/Keywords

「セックス」「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「ジェンダー統計」

障がい学 【昼】

担当者名 /Instructor　伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間　直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	障がいについての様々な捉え方を理解し、多角的に考えていく能力を養う。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいの捉え方に関する３つのモデルの関係性について理解する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	障がい観を見直す視座を習得する。
	コミュニケーション力		

障がい学	SOW001F

授業の概要　/Course Description

「障害」というと否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。
障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。
また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定でいる。

教科書　/Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
第3回：障害の捉え方【障害の種類と区別】
第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
第5回：自閉症とは【自閉症】
第6回：文化モデル的作品DVDの視聴【文化モデル的作品】
第7回：文化モデル的作品の評価【３つのモデルとの関連で】
第8回：３つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
第9回：日本の福祉制度現状【法的現状】
第10回：日本の福祉制度の現状【制度的現状】
第11回：日本の福祉制度の現状【雇用問題を事例として】
第12回：日本の福祉制度の課題【福祉制度の課題】
第13回：共生社会へ向けての課題【共生社会】
第14回：自己への問いとしての障がい学【自己への問い】
第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回指示するが、事前学習としては、インターネット・サイトなどで関連事項を調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意　/Remarks

障がい学 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

共生の作法 【昼】

担当者名 /Instructor
高橋 衛 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科, 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科, 土井 和重 / Kazushige Doi / 法律学科
石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科, 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
中村 英樹 / 法律学科, 矢澤 久純 / 法律学科
福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科, 水野 陽一 / 法律学科
石塚 壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科, 今泉 恵子 / 法律学科
小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	共生という観念と法との関係や共生における法の役割を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における共生の問題について、法の観点を踏まえ、総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における共生に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

共生の作法	LAW001F

授業の概要 /Course Description

現代社会は、国家としても個人としても、極めて複雑な様々な関係から成り立っている。
そのため、私たちは個人としてどのような関係の中で生活しているのか、そして、どのような関係の中で生活すればよいのかを考えていく必要がある。
すなわち、私たちの生活が、およそ一人では成り立たない以上、人と人との関係、人と国家との関係、国家と国家との関係、世代と世代との関係、人と自然との関係など、様々な関係の中で成り立っていることを、改めて認識しなければならない。
そのうえで、「他者との共存（共生）」は我々の生活には不可欠であり、そのためにお互いの良好な関係を維持し、これを発展させるためには、お互いに守るべきルールやマナー（作法）があることを知ることが重要である。
そこで、本講義では、以下の各回の個別テーマを素材にしながら、今現在、上記の意味での他者との関係がどのようになっているのか、どのようなルールが設けられているのか（法の役割）を理解したうえで、これらの共生関係をどのように維持し、あるいは改善しなければならないかを考えていくことにする。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜指示する。

共生の作法 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第 1回　ガイダンス
第 2回　法と道徳について
第 3回　民主主義の限界と立憲主義
第 4回　「大学」はどこから来て、どこへ行くのか一学問と大学とそれをとりまく人々
第 5回　行政活動と法治主義
第 6回　国際社会と法一国際行政の観点から
第 7回　犯罪とは何か
第 8回　刑罰とは何か
第 9回　刑事裁判とは何か
第10回　家族とは何か
第11回　財産とは何か
第12回　契約とは何か
第13回　商取引における不正競争と法
第14回　民事訴訟とは何か
第15回　外国人労働をめぐる法政策

※なお、講義計画・担当者等については一部変更があり得るので、詳細についてはガイダンスの際に説明する。

成績評価の方法　/Assessment Method

レポートによる（100%，ただし④に注意）。
① 受講者は学籍番号に応じて指定されたテーマ群のなかから，テーマを 1 つ選び，レポートを 1 本作成して提出すること。
② レポートの書式等は掲示により別途指示する。レポートは３０００字以上とする。
③ レポートには，所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名等を明記した所定の表紙を必ず添付すること。
④ 出席状況や授業態度が著しく悪いと判断される受講者は，レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

シラバスを事前に確認してテーマに関わる用語を調べておく。（次の履修上の注意の項を参照のこと）
授業を受講して理解できなかった点について、図書館の参考文献を利用して、調査する。

履修上の注意　/Remarks

講義全体のキーワードだけでなく、各回のテーマに「直接」に関連すると思われるキーワードをいくつか、受講者が自ら想定した上で、それらについて「事前に」新聞・雑誌・本などで情報を収集して、予習しておくと、各回の理解がいっそう深まります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

レポート課題は、学籍番号に応じて選択することができる範囲（テーマ群）が決まります。
全ての授業に出席していないと書けないことになるので注意して下さい。
各人が選択できる範囲（テーマ群）は、試験期間開始よりも前の適切な時期に掲示により指定します。

キーワード　/Keywords

【現代社会】　【共生】　【作法】　【ルール】

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor　小野 憲昭 / ONO　NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と法との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法的課題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	法と社会とのつながりを再確認し、その深い理解をもって社会において積極的に行動できる。
	生涯学習力	●	社会における法的課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

法律の読み方	LAW002F

授業の概要　/Course Description

六法全書や法律書を開いてみても難しい。裁判所の判例を読んでみてもどうしてそういう判断をするのかわからない。法律はどういう仕組みになっているのかわからない。そういう疑問に少しでも応え、法律の世界を理解するために必要なスキルを提供します。法律に興味や関心を抱き、社会生活を円滑に営むための指針、心構えをつくる手助けになればと思っています。

教科書　/Textbooks

毎回、レジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス–法律を読むために
２回　憲法の役割と基本原則を知る①【最高法規】【個人の尊厳】【基本的人権】【国民主権】
３回　憲法の役割と基本原則を知る②【平和主義】【権力分立】【違憲法令審査制】【個人と国家】
４回　民法の役割と基本原則を知る①【私的自治】【所有権の絶対】【過失責任】【家族法の特質】
５回　民法の役割と基本原則を知る②【公共の福祉】【信義誠実の原則】【権利濫用】【取引の安全】
６回　刑法の役割と基本原則を知る①【罪刑法定主義】【犯罪の要件】【刑罰】
７回　刑法の役割と基本原則を知る②【刑事手続】【裁判員制度】【刑事責任と民事責任】
８回　法の特性と構造、機能を知る①【社会規範】【法規範の特性】【社会統制】【活動促進】
９回　法の特性と構造、機能を知る②【紛争解決】【行為規範】【裁判規範】【法源】
１０回　法の適用と解釈の仕方を知る　【裁判所】【裁判の役割】【法解釈の方法】【文理解釈】【類推解釈】
１１回　判例の読み方を知る　【判例集】【判例の調べ方】【事実の概要】【判旨】【参照条文】
１２回　判例を読む①　【判例部分の抽出】【判例研究の意義】【判例研究の仕方】
１３回　判例を読む②　【判例評価の方法】【判例と学説】【特別受益】【生命保険金】
１４回　法律の視点から社会を読む　【相続】【親子関係】【婚姻】【離婚】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

課題…　２０　%　　定期試験…　８０　%

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

講義に臨む際は、事前にレジュメや参考文献の該当部分を読んでおいてください。事後は、講義の内容や資料、参考文献を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

法律の読み方 【昼】

履修上の注意　/Remarks

六法を持参してください。法学部生以外の受講生には、石川明他編『法学六法’１８』信山社（１，０００円）をお勧めします。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

社会調査 【昼】

担当者名 /Instructor　稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解するため、社会調査の知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル	●	社会的事象に関する量的・質的調査の基本的な考え方を身につける。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会的な課題の発見、データに基づく解読、解決策の提示を可能とするための方法を考える。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が帰属する社会における課題を自ら発見し、解決策を提示するための調査方法を継続して考える。
	コミュニケーション力		

社会調査	SOC003F

授業の概要 /Course Description

社会調査（量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。
社会調査の目的は、さまざまな社会現象の中から、社会にとって「意味がある」と思われる現象を見つけ出し、「どうなっているのか」「なぜそうなるのか」を、データに基づいて解釈することにある。この授業では、（１）意味のある「問い」をたてること、（２）その「問い」への「答え」を導くための手順（論証戦略）をたてること、（３）論証戦略に基づいて適切な調査票を作成すること、（４）データを統計的に処理すること、（５）データを解釈すること、について学ぶ。
なお、パソコン教室を使う関係上、教室定員に応じて受講者数調整を行うことがある。

教科書 /Textbooks

使用しない。（適宜、資料・プリントを配布する。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004
○『ガイドブック社会調査（第２版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007
その他、授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　何のための社会調査か
第２回　量的調査と質的調査
第３回　調査と研究の進め方
第４回　社会調査を企画する
第５回　ワーディング（１）【質問文の作成】
第６回　ワーディング（２）【選択肢の作成】
第７回　調査票の構成
第８回　サンプリングの考え方
第９回　サンプリングの方法
第10回　実査の準備
第11回　データファイルの作成（実習）1【入力フォームの作成】
第12回　データファイルの作成（実習）2【ＳＰＳＳファイルの作成とデータクリーニング】
第13回　データファイルの作成（実習）3【度数分布表の作成】
第14回　分布と統計量、クロス集計、相関係数
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題…３０％　日常の授業への取り組み…１０％　レポート…６０％
（総合的に判断する。）

社会調査 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

自主的な学習を行い、授業の内容を反復すること。
課題がある場合、指定された期限までに提出すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業を通して「実証研究の考え方」を学んで欲しいと思います。

キーワード　/Keywords

量的調査、質的調査、解釈、論証戦略、記述、説明、基本仮説、作業仮説、ワーディング、ランダムサンプリング、SPSS、度数分布、クロス表、相関係数

市民活動論 【昼】

担当者名 /Instructor　西田　心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	市民活動と地域社会との関係性について総合的に理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	市民活動に関する総合的な考察をもとに、それが直面する課題を発見することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地域課題の解決のために、市民活動についての学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

市民活動論	RDE001F

授業の概要　/Course Description

市民活動とはどのようなものか、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。
主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書　/Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　検討の枠組みについて
３回　枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
４回　枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
５回　市民活動の＜萌芽＞① - 政治と経済
６回　市民活動の＜萌芽＞② - 市民
７回　市民活動の＜再生＞① - 政治と経済
８回　市民活動の＜再生＞② - 市民
９回　市民活動の＜広がり＞① - 政治と経済
１０回　市民活動の＜広がり＞② - 市民
１１回　中間まとめ
１２回　北九州市における市民活動のうねり
１３回　今日の市民活動の＜展開＞① - 政治と経済
１４回　今日の市民活動の＜展開＞② - 市民
１５回　全体まとめ
※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験…　100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

市民活動論 【昼】

履修上の注意　/Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

企業と社会 【昼】

担当者名 /Instructor　山下　剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	企業と社会に関する諸問題を歴史、思想・文化との関連で理解するための基本的な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史、思想・文化等の総合的理解を通して、企業と社会に関する諸問題を発見し、主体的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自の生活世界から企業と社会に関する諸問題に常に興味を持ち、直面する課題を発見し、解決する力を継続的に涵養することができる。
	コミュニケーション力		

企業と社会	BUS001F

授業の概要　/Course Description

企業は、現代社会においてそれなしでは成り立たない存在です。諸個人は一生を通じて何らかの形で企業と関わっていかざるをえません。企業を経営するとは、企業の経営者だけの問題ではなく、企業に関わるすべての人間にとっての問題です。この授業の狙いは、社会の中で企業がどのような原理で存在し、これまで歴史的にどのような側面を有してきたのか、また、逆に、そのような企業が社会に対してどのような影響を与えているかを考えることにあります。

教科書　/Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論　第3版』有斐閣アルマ、2011年

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

三戸公『会社ってなんだ』文眞堂、1991年 (○)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回ガイダンス　【企業観の変遷】【6つの企業観】
第2回企業と「豊かな社会」【現代における財・サービスの豊かさ】
第3回「株式会社」の仕組み①　【株式会社の歴史】【株式会社の機能と構造】
第4回「株式会社」の仕組み②　【株式会社の機能と構造】【上場と非上場】
第5回社会における「大企業」の意味①　【大企業とは何か】【所有と支配】
第6回社会における「大企業」の意味②　【商業社会と産業社会】【企業の性格の変化】
第7回社会における「大企業」の意味③　【官僚制】【科学的管理の展開】
第8回中間テスト
第9回社会における「大企業」の意味④　【環境問題】【随伴的結果】
第10回社会における「大企業」の意味⑤　【コーポレート・ガバナンス】【企業倫理】
第11回「家」としての日本企業①　人事における日本企業特有の現象【日本企業と従業員】【契約型と所属型】
第12回「家」としての日本企業②　日本企業の行動様式【日米の株式会社の違い】【企業結合様式の独自性】
第13回「家」としての日本企業③　「家」の概念　【日本企業の独自性】【家の論理】
第14回「家」としての日本企業④　今後の日本的経営　【原理と構造】【家社会】
第15回総括

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験・・・ 40%　　中間テスト・・・ 30%　　レポート・・・ 30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を読んでおいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習しておいてください。また、適宜、レポート課題を出します。

企業と社会 【昼】

履修上の注意　/Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード　/Keywords

財・サービス　株式会社　大企業　家の論理　社会的器官

現代社会と倫理 【昼】

担当者名 /Instructor　伊原木　大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代社会と倫理との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の倫理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の倫理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

現代社会と倫理	PHR002F

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ピーター・シンガー『実践の倫理　新版』（山内友三郎・塚崎智監訳）、昭和堂、1999年。
○ピーター・シンガー『あなたが救える命』（児玉聡・石川涼子訳）、勁草書房、2014年。
○加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』、東海大学出版会、1988年。
○江口聡編・監訳『妊娠中絶の生命倫理』、勁草書房、2011年。
○安彦一恵『「道徳的である」とはどういうことか―要説・倫理学原論』、世界思想社、2013年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回	イントロダクション
２回	20世紀の倫理学【規範倫理学とメタ倫理学】
３回	現代における人命の価値（１）【生命の神聖説】
４回	現代における人命の価値（２）【積極的行為と消極的行為】
５回	現代における人命の価値（３）【最大幸福原理】
６回	現代における人命の価値（４）【不完全義務】
７回	現代における人命の価値（５）【自己意識】
８回	確認テスト
９回	現代における差別の問題（１）【人種差別】
１０回	現代における差別の問題（２）【差別反対論】
１１回	現代における差別の問題（３）【優生学】
１２回	現代における公平性の意義（１）【人口問題】
１３回	現代における公平性の意義（２）【貧困問題】
１４回	現代における公平性の意義（３）【公平主義】
１５回	現代における公平性の意義（４）【援助義務論】

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト…40%　　学期末試験…60%
（第８回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考書に挙げた『バイオエシックスの基礎』および『妊娠中絶の生命倫理』に収められた論文を一部授業の素材にするので、授業の前に目を通しておくことが望ましい。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理し、復習を行うこと。

現代社会と倫理 【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業予定の詳細と参考文献の紹介は、第１回もしくは第２回の授業時に行なう。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。卒業予定の４年生に対しても、他と同じく厳しい採点態度で臨む。

キーワード　/Keywords

生命　義務論　功利主義　貧困　公平性

現代社会と新聞ジャーナリズム 【昼】

担当者名 /Instructor　西日本新聞社、基盤教育センター　稲月正

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	新聞を通して人間、社会、マスメディアの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	新聞を通して人間理解に必要とされる個人と社会との関係について総合的に分析し、現代社会が直面する課題を発見する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	新聞をはじめとするマスメディアを通して現代社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		

現代社会と新聞ジャーナリズム	SOC001F

授業の概要　/Course Description

多様な情報メテ゛ィアが錯綜する現代における「新聞」について学ぶ。インターネットか゛普及した中て゛、情報や言論の発信・伝達役としての新聞の存在感は低下しているという指摘も聞かれる。ただ、社会に流布している情報の出所は新聞て゛あることか゛多いのも事実。さらに、ネットメディアが発する情報には真偽不明て゛断片的、信頼性に欠けていることも少なくなく、近年、まとめサイトによる著作権侵害や無責任なクレーム対応などが問題化したことも記憶に新しい。

新聞社には、24時間、洪水のように情報か゛飛ひ゛交う中、内容を整理して信頼性のある情報として発信することを基本に(1)社会の出来事を客観的に伝える(2)その背景や問題点を深く掘り下け゛る(3)社会か゛抱える課題の解決策を提供する(4)権力者なと゛の不正追及など健全な批判や言論を通じ民主主義を守る-ことに取り組んできた長い経験と実績があり、私たち生活者か゛社会との関係を「考える」、これからの生き方を「選択する」際に役立つ身近なメディアを目指している。講義て゛は、新聞社のテ゛スクや記者なと゛か゛、取材や報道体験を通して、新聞の役割や新聞コンテンツの活用法を話す。

なお、この講義は西日本新聞社の提供講座である。

教科書　/Textbooks

教科書は指定しないが、新聞が必要となる課題を出すこともあるので、必要に応じて各自で新聞を購入すること。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

毎回、新聞ジャーナリズムの第一線で活躍している記者、カメラマン、デスク、編集委員らが交代で講師を務める。ただし、講師の都合により変更することがある。

【第1回】新聞の読み方(編集企画委員長、編集センターデスク)
【第2回】事件記者最前線 (社会部デスク)
【第3回】地方の視線て゛政治と向き合う(都市圏総局テ゛スク)
【第4回】調査報道・キャンへ゜ーン報道 (社会部記者)
【第5回】アシ゛アと九州を読み解く/国際報道最前線(国際部デスク)
【第6回】スホ゜ーツ報道の世界/運動記者は何を伝えるか (運動部テ゛スク)
【第7回】地域文化をみつめて/文化記者の仕事(文化部テ゛スク)
【第8回】報道写真の力/カメラマンの心得とは(写真部記者)
【第9回】災害被災者に寄り添う (社会部記者)
【第10回】九州経済をと゛う見るか(経済部長)
【第11回】分かりやすさの追求/こと゛も向け紙面 (もの知りタイムス゛編集長)
【第12回】新聞テ゛サ゛インの展開/ヒ゛シ゛ユアル発信を目指す(テ゛サ゛イン部テ゛スク)
【第13回】企業体としての新聞/営業部門の現状と課題 (お客さまセンター)
【第14回】テ゛シ゛タル時代の発信/電子メテ゛ィアへの挑戦 (メテ゛ィアラホ゛部員)
【第15回】北九州の現場から / どんな課題と向き合っているか (北九州本社記者)

現代社会と新聞ジャーナリズム 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート（３回）・・・100％
ただし、出席回数が一定回数以下の受講生はレポートの出来にかかわず、成績を不可（Ｄ）とする。
詳細は第1回目の講義で説明する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

日々の新聞を通して、現代社会や地域が直面する課題を発見し、自分なりの考察によって課題解決のために努力する姿勢を持つこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

新聞の読み方や活用法を学ふ〝講義を通し〟、現代人に欠かせない能力て〝ある「メテ〝ィアリテラシー」(メディアの特性を理解した上で情報を選別して読み解く力)を身につけてほしい

キーワード　/Keywords

メディアリテラシー、新聞、ジャーナリズム、現代社会

都市と地域 【昼】

担当者名 /Instructor　南　博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所, 奥山　恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	都市と地域について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	都市と地域について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	都市と地域に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

都市と地域	RDE002F

授業の概要　/Course Description

日本や海外における都市や地域についての紹介や、それらを捉えるための概念や枠組み、現状の課題や将来の展望などについて講義します。より幅広く俯瞰的な視点を持つことにより、都市や地域を違った形で捉え、そこから社会に対する新しい視点が生まれることを期待します。

教科書　/Textbooks

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

【地域】適宜文献や資料を紹介する。
【都市】特になし。参考となる文献等については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　共通　：授業及び講師紹介
２回　地域１　：地域の概念：世界と日本の事例
３回　地域２　：地域をどのように学問するか：地域学と地域科学
４回　地域３　：地域開発とは
５回　地域４　：地域を観察する
６回　地域５　：地域を分析する
７回　地域６　：身近な地域事例紹介
８回　地域７　：まとめ、最終クイズ
９回　都市１　：都市の概念
１０回　都市２　：都市へ人や産業が集まる理由
１１回　都市３　：都市問題、都市の衰退
１２回　都市４　：人口減少社会における都市（１）【コンパクト化】
１３回　都市５　：人口減少社会における都市（２）【地方創生】
１４回　都市６　：都市間連携によるまちづくり
１５回　都市７　：これからの都市と市民

成績評価の方法　/Assessment Method

【地域】全体の５０％：クイズ…２０％　授業内貢献…１０％　最終クイズ…２０％
【都市】全体の５０％：レポート…３５％　日常の授業への取り組み…１５％

都市と地域 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

【地域】日頃から「地域」という言葉がどのように使われているかを注意深く観察して授業に臨んで下さい。新聞やＴＶニュース、もしくはインターネットニュースサイトなどで使われている「地域」という言葉の意味を考えて下さい。授業で紹介した様々な「地域」の概念を授業後に自らの考えと照らし合わせて考察し、身近な事例に当てはめて次回の授業に臨んで下さい。
【都市】各回授業のテーマに関し、各自、事前に自分自身が知りたい内容を考えて授業に臨んでください。また、授業中に興味を持った事項について、各回授業後に各自が文献やインターネット情報等を用いて自主的に調べたり、地域の博物館等を見学したりして理解を深めてください。

履修上の注意　/Remarks

【地域】前半の「地域」の部の間に複数回、クイズ（小テスト）を行う（当日発表）。また、地域の最終回に最終クイズを行う。授業内ディスカッションを活発に行うので、発言の無い学生は授業内貢献の評価が芳しくなくなる。
【都市】後半の「都市」の部の間に複数回、授業中に執筆するミニレポートを課す。期末に提出するレポートについては授業中に説明する。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

【地域】「地域」という概念は多様であり、それらを理解することにより空間としての地域に対する自らの視点を形成することを期待する。
【都市】日常生活を送る中で、「この都市の良い / 悪いところ」と感じたことを記憶に留め、「なぜ現状のようになっているのか」「今後どのように改善すべきか」等を考えることの習慣化を期待する。

キーワード　/Keywords

地域科学、地域学、都市問題、都市政策

地域防災への招待 【昼】

担当者名 /Instructor	加藤　尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科（19～）, 上江洲　一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科（19～） 村江　史年 / 地域共生教育センター, 城戸　將江 / Masae KIDO / 建築デザイン学科（19～） 南　博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所, 二宮　正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
履修年次 /Year	1年次
単位 /Credits	2単位
学期 /Semester	1学期
授業形態 /Class Format	講義
クラス /Class	1年（2015年度以降入学生）

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
									○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	地域防災に必要な事項をさまざまな視点から学び、地域の持続可能性を高めるための総合的な知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	災害に備えて自ら課題を見いだし、改善するための技法を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	いざ災害が起きた際に自分および周囲の人の身を守るべく最大限の努力をする責任感を身につける。
	生涯学習力	●	災害時に必要な情報を日頃から集め、いざという時に必要な情報を選別できる能力を生涯にわたって身につける。
	コミュニケーション力		

地域防災への招待	SSS001F

授業の概要　/Course Description

本講義では、防災の基礎知識及び自治体の防災体制・対策等を学ぶことを通じ、学生自身の防災リテラシーと地域での活動能力を向上させることを目的とする。

地震や風水害などの代表的な災害のメカニズム、自然災害に対する北九州市の防災体制・対策について、本学および北九州市役所を中心とする専門家が全15回にわたって講義し、防災の基礎、自治体の防災、市民・地域主体の防災の3つの知識を身につける。講義の中で避難所運営などのワークショップを行い、手を動かし、北方・ひびきのの学生同士、また、学生と講師が協力しながら地域防災のあり方を考える。

さまざまな分野を担当する北九州市役所の職員が講師として参画するため、防災を軸としつつ地方自治体の業務の実際を幅広く知るためにも役立つ。

教科書　/Textbooks

なし、授業で必要に応じて資料を配付

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

中邨章、市川宏雄編著（2014）：危機管理学～社会運営とガバナンスのこれから、第一法規
岡田恒男、土岐憲三(2006)：地震防災のはなし、朝倉書店
京都大学防災研究所編(2011)：自然災害と防災の事典、丸善出版
金吉晴(2006)：心的トラウマの理解とケア、第２版、じほう
片田敏孝(2012)：人が死なない防災、集英社新書

地域防災への招待 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1　危機管理と地域防災の基本概念（北九大・南）
2　気象と地震（北九州市危機管理室又は福岡管区気象台）
3　北九州市の防災体制と減災への取組み（北九州市危機管理室）
4　避難所運営訓練ＨＵＧ（北九州市危機管理室）
5　防災と河川：降雨を安全に流すために（北九州市建設局）
6　大災害と消防：最前線で戦う消防をとりまく環境と現状（北九州市消防局）
7　学校における防災教育：災害時に主体的に行動する力を育む取組み（北九州市教育委員会）
8　産官学連携による消防技術の革新（北九大・上江洲）
9　組織の防災能力見える化：図上シミュレーション訓練（北九大・加藤）
１０都市防災：建物の耐震性とは何か（北九大・城戸）
１１ジェンダーと防災：地域での実践（北九大・二宮）
１２災害時のこころのケア（北九州市保健福祉局）
１３大学生にもできる防災・災害ボランティア活動（地域共生教育センター）
１４地域協働によるまちづくり（外部講師）
１５防災が地域を変える、社会を変える（外部講師）

なお、最後の2時限分は、北九州市が主催する大学生を対象とした防災講座に合わせて実施予定。
（７月の土曜日に実施。小倉駅周辺の会場を予定。）

成績評価の方法　/Assessment Method

活発な授業参加　30%
レポートおよび小テスト　70%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前に関連する社会的・技術的事項について、予習をしておくこと。授業の後は、学んだ内容の活かし方について考察を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

各回の授業終了時に復習や次回の講義に向けた予習として読むべき資料を提示するので、各自学習を行うこと。
講義の一部でグループ活動を行うため、履修者数を80人までとする。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

受講者は、授業終了後も地域防災について各自が取り組めることを続けて欲しい。そのための学習や活動の機会を北九州市役所と連携して継続的に提供する。

キーワード　/Keywords

地域防災、危機管理、大学生の役割

開発と統治 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor	三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	海外及び国内地域社会のガバナンス（協治）について総合的理解が可能となる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国内外のガバナンス（協治）の在り方を通しての課題を発見でき、その課題を解決するための方策が学習できる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	大学卒業後、地域社会で生活するにあたって積極的に社会作りに関わり、生涯学習としてその実践活動に携わることが可能となる。
	コミュニケーション力		

開発と統治	IRL002F

授業の概要 /Course Description

グローバリゼーションが刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス（協治）」の意味を世界各国(ミャンマー、韓国、米国と日本が対象国)や日本の地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループワークを通じて解答してもらいます。

以上の概要を通して、開発とは何か、そこにおけるガバナンス概念の知識を吸収すると同時に理解し、地域においては課題を発見・理解し、自らもガバナンスの一翼を担えるような能力を付けてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

その都度、資料を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

* 『○○を知るための○章』シリーズ（明石書店）、特にミャンマー、韓国を参照のこと。
* 大原悦子『フードバンクという挑戦～貧困と飽食のあいだで』現代岩波文庫、2016年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回 「開発と統治」をはじめるにあたって 担当：三宅
第２回 民主化問題を考える視座（１） 【民主化問題】 担当：伊野
第３回 民主化問題を考える視座（２） 担当：伊野
第４回 理論と現実～ミャンマーの民主化をめぐって 【ミャンマー】 担当：伊野
第５回 韓国の民主化とガバナンスの形成過程 【韓国】 担当：申
第６回 米国におけるガバナンスと環境～オバマ政権とトランプ政権に焦点をあてて 【米国】 担当：申
第７回 エネルギー問題を通してのガバナンス形成 【エネルギー問題】 担当：申
第８回 世界と日本のフードバンク 【フードバンク】 担当：原田正樹・三宅第９回 NPOフードバンク北九州ライフアゲインとは？ 【ライフアゲイン】 担当：原田・三宅
第10回 子ども食堂「もがるか」の運営と人々 【こども食堂】 担当：原田・三宅
第11回 フードバンク運動に関わる学生の取組みと討論 【大学生】 担当：原田・三宅
第12回 グループワーク（アクティビティ作り）を通じたガバナンス概念の把握 【グループワーク】 担当：三宅
第13回 日本の子ども会を取り巻く環境 【子ども会】 担当：三宅
第14回 教員の「開発と統治」の概念提示を考える 担当三宅・伊野・申
第15回 まとめ（グループ・ディスカッション）

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度…30% 小課題の提出…20 % 試験…50 %

開発と統治 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習はガバナンスに関する情報を収集し、日ごろから自らのガバナンスの概念を考えておいてください。事後学習はその都度授業で習ったガバナンスの事例をノートに整理しておいてください。最後の授業のグループワークで使います。

履修上の注意　/Remarks

各授業に際して、日頃から世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報を得ていること。また、時々、小課題を出すので、授業で習ったこと以外に日頃からの情報を書き込み、提出すること。試験の結果が良くても、出席をあまりしなかった受講生はD判定になる可能性が大きいと思ってください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。担当教員は様々な国々を知り尽くしています。できるだけ、海外に出かけ、また、本をどんどん読んでください。

キーワード　/Keywords

ガバナンス　ミャンマー　フードバンク　貧困　韓国　米国　地域社会　子ども会　グループワーク

テロリズム論 【昼】

担当者名 /Instructor　戸蒔　仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間とテロリズムとの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	テロリズムについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	テロリズムに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

テロリズム論	PLS001F

授業の概要　/Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

なお、この科目では、テロリズムに関する総合的な知識の獲得、理解、この分野に関する課題発見･分析能力の獲得により、および生涯にわたりこの問題と向き合っていく基盤を提供します。

教科書　/Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

テロリズム論 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　テロリズムとは何か(1)
　　定義が困難な理由について
　　①「自由の戦士」という問題（祖国解放のための暴力使用はテロか？）
　　②テロの犯罪性の問題（佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか？）
　　③テロの政治性の問題（テロリストが身代金目的で行った誘拐事件はテロか？）
３回　テロリズムとは何か(2)
　　テロリズムの定義
　　①911の特殊性と国土安全保障の考え方
　　②アメリカ国内でのテロの定義の統一化
　　③テロリズムの定義
４回　テロリズムとは何か(3)
　　テロリズムの特徴　①テロの目的　　②テロの標的　　③テロの主体
　　テロと犯罪のグレーゾーンについて
５回　テロの歴史(1)
　　テロの起源、１９世紀のテロとアナキズム
６回　テロの歴史(2)
　　ナショナリズムとテロ（国粋主義、民族解放）
７回　現代テロ(1)
　　国際テロの登場（1968年エルアル機ハイジャック、スカイマーシャル）
　　反米テロの登場（TWA機ハイジャック）
　　補論（ハイジャックとは何か)
８回　現代テロ(2)
　　無差別・自爆テロの登場（日本赤軍、ロッド空港事件）
　　劇場型テロの登場（ミュンヘンオリンピック事件とGSG９、ダッカ事件とSAT）
９回　反近代・脱近代のテロ
　　オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
10回　無差別大量殺戮テロ(1)
　　「大量」殺戮テロの始まり
　　化学テロと生物テロ
　　化学兵器の特徴
11回　無差別大量殺戮テロ(2)
　　地下鉄サリン事件の概要
　　サリンについて
12回　無差別大量殺戮テロ(3)
　　地下鉄サリン事件の動機
13回　９１１米国同時多発テロ(1)
　　９１１の特異性
　　９１１の概要と計画性
14回　９１１米国同時多発テロ(2)
　　ビンラディンのプロファイル
　　アルカイダとテロ、米国の対応
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

試験…100％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に着けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

韓国の社会と文化 【昼】

担当者名 /Instructor　金　貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	韓国の社会と文化を理解するのに必要な知識を修得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	隣国理解に必要とされる総合的な考察をもとに日韓における諸問題を主体的に思考し、判断することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	韓国に対する興味関心を持続させ、隣国理解のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

韓国の社会と文化	ARE010F

授業の概要　/Course Description

適宜映像などを用いながら韓国全般、とりわけ現代韓国の社会と文化に関する基本的な知識を習得し、等身大の韓国について理解を深める。これをベースに異文化理解とは何かについても考えてみる。また、つねに日韓比較的な視点を念頭に入れながら自国文化について見つめなおす時間としたい。

教科書　/Textbooks

適宜プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業にて提示

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1　ガイダンス
2　韓国（人）にとって日本（人）とは？
3　韓国について概観
4　韓国についてもっと知ろう
5　韓国の歴史①【三国時代～朝鮮王朝】
6　古代韓国を知るVTR視聴/解説
7　韓国の歴史②【19世紀末～】
8　現代韓国社会と文化の特徴I（外部講師）
9　歴代大統領から見る韓国社会と文化
10　韓国人の名字と名前
11　現代韓国を知るVTR視聴/解説
12　日韓の食文化について考える①【VTR視聴】
13　日韓の食文化について考える②
14　現代韓国社会と文化の特徴II（外部講師）
15　まとめ

＊上記スケジュールはあくまでも目安であり、受講生の個性やニーズ、出張などの都合により変更となる場合もある。

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度（出席レポートや討論への参加）４０％
中間レポート25%
期末レポート35%

韓国の社会と文化 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までには予め毎回のテーマについて参考文献を読み、授業終了後には各自の「考え」をまとめること

履修上の注意　/Remarks

●初回の授業には必ず出席すること

・ 授業開始のチャイムが鳴るまでに着席していること。（チャイム以降の入室は遅刻とみなす。遅刻３回をもって１回の欠席とカウントする）
・ 欠席した回に配布されたプリントや資料については各自で解決すること
・ 調べ事や発表等を積極的に行うこと
・ ウィキペディアの丸写しに近いレポート、無断引用（コピペ等）が発覚したレポートは０点とする

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

歴史の読み方I 【昼】

担当者名 /Instructor　八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

歴史の読み方Ⅰ	HIS004F

授業の概要 /Course Description

ここでは私たちの身のまわりの歴史に関する知識や常識や見過ごしがち些細な事柄に注目して歴史を見直すことを目的としています。

以上の理由から、この授業の内容は高校教科書より高い「歴史学入門」レベルとなっていますのでご了承ください。
１．この授業は高校までの授業のような知識の習得を目的としたものではなく、考えることやものの見方を学ぶことを目的としています。したがって教科書のような通史を学ぶものではありません。
２．この授業は一つの歴史的事実のさまざまな側面やさまざまな解釈から歴史の多様性の面白さを学ぶことを目的としているため、教科書のように事実は一つに限られてはいません。
３．この授業では「日本」という国民国家が成立する以前の前近代の日本列島と東アジアの社会を学ぶため、今日の国家的枠組みとはことなる視点を必要とします。

注意：
この授業で使用する『ラスト・サムライ』『もののけ姫』の映像には一部残虐な暴力シーンが含まれているので、あらかじめご了承ください。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『想像の共同体』（NTT出版）
○小熊英二『単一民族神話の起源』（新曜社）
池内敏『日本人の朝鮮観はいかにして形成されたか』（講談社2017）
○新渡戸稲造『武士道』（岩波文庫）
○ルース・ベネディクト『菊と刀』（社会思想社）
○野口実『武家の棟梁の条件』（中公新書）
佐伯真一『戦場の精神史』（NHKブックス）
勝田政治『廃藩置県～「明治国家」が生まれた日～』（講談社）
イ・ヨンスク『国語という思想～近代日本の言語認識』（岩波書店）
○網野善彦『日本社会の歴史（上）～（下）』（岩波新書）

歴史の読み方I 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス①授業の進め方
２回　「東アジア」という視点
３回　日本の近代と国民国家の歴史観
４回　中国・韓国から見たアジアの近代
５回『ラスト・サムライ』の誤解
６回　新渡戸稲造の『武士道』
７回　武士道の成立・・・『葉隠』と山鹿素行
８回　『平家物語』を読む①二つの平家物語
９回　『平家物語』を読む②言葉戦としての「川中島」
１０回　県名を読む①国郡制と幕藩制
１１回　県名を読む②県名と県庁所在地
１２回　県名を読む③戊辰戦争を「見直す
１３回　「国語」とは何か
１４回　網野善彦と日本史の多様性
１５回　『もののけ姫』を読む–網野史学と【縄文文化】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業レポート・・・ 50%、筆記試験・・・ 50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前にシラバスの授業計画を確認しておくこと。
事後にノートを整理しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

シラバス・プリント・参考文献をよく読んでおくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業では極力手を動かしてノートを取ることによって一次記憶を二次記憶に定着させるようにしています。
皆さんはこれから就活や職場で人の話をメモを取る機会がたくさん出てきますのでノートを取るスキルに習熟する必要があります。

キーワード　/Keywords

歴史の読み方II 【昼】

担当者名 /Instructor　小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

歴史の読み方Ⅱ	HIS005F

授業の概要 /Course Description

司馬遼太郎『坂の上の雲』で、「戦術的天才」として描き出された児玉源太郎（日露戦争時の満州軍総参謀長、台湾総督）の実像に実証的に迫り、その生涯をたどることを通じて、歴史小説と政治外交史研究との関係について思いをめぐらすきっかけを作りたい。要するに、「歴史認識とはいったい何か」という問題を考察していく。

教科書 /Textbooks

小林道彦『児玉源太郎 - そこから旅順港は見えるか』（ミネルヴァ書房、3000円税別）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎 - 予が生命は政治である』(ミネルヴァ書房)。その他、講義中に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　イントロダクション
第２回　政治的テロルの洗礼 - 徳山殉難七士事件～佐賀の乱 -
第３回　危機管理者 - 神風連の乱・西南戦争 -
第４回　雌伏の日々 - 佐倉にて -
第５回　洋行と近代陸軍の建設
第６回　陸軍次官 - 英米系知識人との出会い -
第７回　台湾経営 - 後藤新平を使いこなす -
第８回　政治への関わり - 第一次桂内閣
第９回　陸軍改革の模索 - 大山巌・山県有朋との対立 -
第10回　日露戦争 - 統帥権問題の噴出 -
第11回　旅順攻防戦 - 統帥権問題と明治国家の危機 -
第12回　児玉は「天才的戦術家」だったか - 危機における人間像 -
第13回　「立憲主義」と軍事の間
第14回　歴史小説と政治史研究の間
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み…20％期末試験…80％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の該当箇所に目を通しておくこと。授業終了後には講義ノートを参照しながら教科書を再読すること。

歴史の読み方II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

そのとき世界は 【昼】

担当者名 /Instructor: 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	世界史を同時代史として、グローバルに理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界史を同時代史として、グローバルに認識できる能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	世界史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

そのとき世界は	HIS002F

授業の概要 /Course Description

皆さんの祖父・祖母の世代の人々がどのような時代を生きたか、日本とミャンマーの状況を対比させながら考えていく。対象となるのは、１９３０年代から現代。日本の状況に関しては、小林先生に担当していただき、内容を充実させる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション。
第２回：ミャンマー概説１（風土、文化）。
第３回：ミャンマー概説２（社会）。
第４回：１９３０年代の日本（小林先生担当）。
第５回：１９３０年代のミャンマー。
第６回：1930年農民大反乱。
第７回：第２次世界大戦と日本（小林先生担当）。
第８回：第２次世界大戦とミャンマー。
第９回：1980年代の日本（小林先生担当）
第１０回：1980年代のミャンマー
第１１回：民主化運動。。
第１２回：現代の日本（小林先生担当）
第１３回：現代のミャンマー。
第１４回：民主化のゆくえ。
第１５回：まとめ。
第１５回：質問日。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート１００％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、毎回のテーマに関し、インターネット・サイトなどで関連事項を調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

そのとき世界は 【昼】

履修上の注意　/Remarks

日本についても随時取り上げるが、中心はミャンマーにある講義内容である点をあらかじめ理解したうえで受講のこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

「祖父母の生きた時代」「日本とミャンマーの比較」

戦後の日本経済 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　土井　徹平 / 経済学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	戦後の日本経済の発展過程と特徴を理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本経済が抱える問題を発見し、分析する能力を身に付ける。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	日本経済が抱える問題を認識し、解決のための学習を継続する意欲を持つことができる。
	コミュニケーション力		

戦後の日本経済	ECN002F

授業の概要　/Course Description

皆さんは、"Ｊａｐａｎ ａｓ Ｎｏ１"と言われた時代、つまり、世界の国々が見習うべき世界Ｎｏ１の経済大国と、日本が海外から称賛された時代があったことをご存知でしょうか。「バブル」以降に生まれた皆さんにとって、これは実感を抱けない言葉かもしれません。

しかし私たちは、この時代の「遺産」を引き継ぎ、この時代に形作られた社会的・経済的基盤のうえで現在を生きています。そしてそのことが、現代に生きる私たちの価値観や行動様式を規定しているのです。

したがって、"Ｊａｐａｎ ａｓ Ｎｏ１"と言われた時代（あるいはそれ以降の変化）を知ることは、私たち自身や私たちが生きる現代を理解することでもあります。
このことをふまえ本講義では、主に１９５０年代から６０年代に見られた「高度経済成長」と、その結果としての日本社会・文化の変化についてお話しします。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介します。

戦後の日本経済 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　イントロダクション
第２回　Ⅰ．現代社会の理想と現実
　　１．現代の若者の就職と結婚
第３回　２．キャリア形成を巡る理想と現実
第４回　Ⅱ．戦後文化の担い手
　　１．「団塊の世代」
第５回　２．戦後文化と家族モデル
第６回　Ⅲ．「高度経済成長」への道程
　　１．戦後の人口問題と経済成長の蓋然性
第７回　２．「高度経済成長」と「人口ボーナス」
第８回　３．「高度経済成長」と人口移動
第９回　Ⅳ．戦後家族モデルの成立
　　１．「豊かさ」の象徴
第１０回　２．「上昇志向」の時代と日本人の生活意識
第１１回　３．日本人の理想とモデル - 「ミッチーブーム」と「象徴天皇」
第１２回　４．日本人の理想とモデル - ブラウン管を通じて見たアメリカ -
第１３回　Ⅴ．「ロストジェネレーション」
　　１．「幸せモデル」の確立
第１４回　２．「高度経済成長」の終焉と「団塊ジュニア」
第１５回　２．モデルの喪失と新たな文化形成

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…８０％　日常での授業への取り組み…２０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回、授業内容に沿ったレジュメを配布します。配布済みのレジュメを用い前回の講義内容を復習して授業に臨み、授業後には同じくレジュメをもとに、その日の授業内容を反復するようにしてください。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

「歴史」と言えば「暗記科目」という印象を抱いている方も多いと思います。しかし大学で学ぶ「歴史」は「歴史学」であり、「歴史学」は、歴史をもとに過去そして現代について“考える”社会科学です。これまで「歴史」が苦手であった方、「歴史」に関する知識に自信がないという方であっても、「歴史」をもとに考える意思のある方であれば主体的にご参加ください。

キーワード　/Keywords

日本経済史　戦後史　高度経済成長　団塊の世代

ものと人間の歴史 【昼】

担当者名 /Instructor	中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	ものと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	ものと人間との関係性について総合的に分析し、そこに内在する課題があれば、それについて自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	ものと人間との関係に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

ものと人間の歴史	HIS003F

授業の概要 /Course Description

特定の「モノ」を取り上げ、「モノ」の製造 / 生産、流通、そして使用など、モノと人間の関わり方の現場に焦点をしぼり、その「モノ」と関わることで、私たちの生活そして社会のあり方などがどのように変容してきたか、「モノ」をめぐる歴史を検討する。
今年度は自動車と原子力発電所をとりあげる。
なお、本年度は外部講師を数回、招くので、それによって各回の内容が変わる場合がある。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献リストは、ガイダンス時に配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回 自動車がつくった社会【モータリゼーション】
第3回 カと近代【蒸気機関】、【内燃機関】、【原子カ】
第4回 自動車の時代の終わり？【ICT】、【高付加価値生産】
第5回 自動車をめぐる国民文化【大衆社会】、【トクヴィル】、【ウェーバー】
第6回 自動車発明の前提 1【職人文化】
第7回 自動車発明の前提 2【互換性の思想】
第8回 自動車と20世紀文明【大衆社会、大量生産】
第9回 フォーディズムとは何か【ヘンリー・フォード】
第10回 自動車と道路【道路】
第11回 現代社会 - 「光の巨大」
第12回 環境問題の外部化・不可視化と社会的費用 - 「闇の巨大」
第13回 原子力政策と地域社会
第14回 情報化と外部問題 - 方法としての情報化
第15回 どのような社会を選択するのか - 情報化 / 消費化社会の転回

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 50% レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考文献を数多く読みますので、あらかじめ十分に学習してから授業に参加し、授業後は復習してください。

ものと人間の歴史 【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業前にあらかじめ指定された資料で学習を行い、授業後は復習をすること。
近代化をめぐる政治、経済、文化の議論を展開しますので、政治学や経済学、社会学、カルチュラル・スタディとあわせて勉強すると、よく授業内容が分かります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

自動車と原子力発電所から開けていく様々な事柄を紹介しますので、多方面のことに興味を持って勉強して下さい。

キーワード　/Keywords

大量生産システム、民主主義、比較文明論

人物と時代の歴史 【昼】

担当者名 /Instructor	山﨑　勇治 / 北方キャンパス　非常勤講師, 新村　昭雄 / 北方キャンパス　非常勤講師
履修年次 /Year	1年次
単位 /Credits	2単位
学期 /Semester	1学期
授業形態 /Class Format	講義
クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史上著名な人物を通じて、歴史の流れを理解するために必要な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史上重要な人物を特定し、その人物が果たした歴史的役割を見出す能力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身の回りの歴史と著名人物に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

人物と時代の歴史	HIS001F

授業の概要　/Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。
　なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。
　二人の教員が、日本と欧米の代表的な人物について、人物と時代について語る。
まず、新村は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道（Bushido）が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、３代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰（アイヌや南方諸島に残る）や弥生信仰に代わって、聖徳太子（厩戸皇子）は仏教を大和（やまと）の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。
　さらに、大英帝国の後を継いで１００年にわたり世界を支配してきたアメリカ合衆国の歴代大統領のなかから、初代ワシントン大統領、第３代ジェファーソン大統領、第７代ジャクソン大統領、第１６代リンカン大統領、第２６代セオドール・ルーズベルト大統領、第３２代フランクリン・ルーズベルト大統領、第３５代J・F・ケネディ大統領、第４４代バラク・フセイン・Obama大統領について講義します。

次に山﨑は、トランプ・アメリカ大統領、メイ・イギリス首相の２人について人物と時代を語る。その際、２人を語る上で必要な限り、プーチン・ロシア大統領、メルケル・ドイツ首相、習近平・中国国家主席についても言及する。
　２１世紀になって世界はグローバル化が促進されると予想していた。その予想に反してアメリカではアメリカ第１主義とメキシコからの移民排除のトランプが大統領に就任した。
　イギリスでは１昨年からのＥＵ離脱をめぐる国民投票の結果就任したメイ首相が完全なＥＵ離脱を宣言した。ロシアではウクライナ地方のクリミア半島支配とシリアと手を組んでイラク地域への空爆をプーチン大統領は続けている。フランスでは異民族排除のルペン候補が有力視されている。ドイツでは移民受け入れのメルケル首相が敗退すればＥＵ存続にも影響を与えかねない。
　こうした背景も視野に入れながら、第２次世界大戦後に果たした世界のアメリから後退したなかでトランプ大統領の意味を考える。同様にＥＵ（ヨーロッパ連合）の形成過程において３度もＥＥＣ（とＥＣ）に申請してやっと認められたイギリスがなぜＥＵから出て行くと決意したのか。これを明らかにする。これらの問題を究明することによって、今後世界はどの方向を目指すのかを考察する。

教科書　/Textbooks

資料を配付します。（新村）

口述講義。その際資料を配布する。（山﨑）

人物と時代の歴史 【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

新渡戸稲造『武士道』（ＢＵＳＨＩＤＯ）
○藤沢周平『漆の実のみのる国』（文春文庫）
○中村彰彦『保科正之』（中公新書）
『歴代アメリカ大統領」（ブティック社）

毎日の新聞（朝日、毎日、読売などどの新聞でも良い）を購読のこと。（山﨑）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本,、欧米の歴史の中からテーマを厳選し、講義をする。
（新村）
第1回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】
第2回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営
第3回 【3・１１東日本大震災】同様の危機を乗り切ったり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之
第4回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】
第5回 聖徳太子（厩戸皇子）と【飛鳥・奈良時代】
第6回 アメリカ大統領I（初代ワシントン大統領、３代ジェファーソン大統領、７代ジャクソン大統領、１６代リンカン大統領）【独立戦争・建国・南北戦争時代】
第7回 アメリカ大統領II（第２６代セオドール・ルーズベルト大統領、第３２代フランクリン・ルーズベルト大統領、第３５代J・F・ケネディ大統領、第４４代バラク・フセイン・Obama大統領）第45代トランプ大統領【第一次・第二次世界大戦・ベトナム戦争・中東戦争・アフガン・湾岸戦争】

（山﨑）
第8回 ２１世紀の世界を支配するトランプ・アメリカ大統領、メイ・イギリス首相、プーチン・ロシア大統領、メルケ ル・ドイツ首相、習近平・中国国家主席の特徴と共通点について
第9回 イギリスとＥＵの関係について
第10回 キャメロン首相と国民投票
第11回 なせＥＵ離脱派の投票率がが残留派より多かったのか
第12回 トランプ候補とクリントン候補との争点とは何かー
第13回 トランプ候補が勝利した理由
第14回 トランプ大統領は何を目指しているのか–グローバル経済はどんな影響を受けるのか
第15回 総まとめーレポート提出の要件、提出締切日などの説明–

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート（70％）と平常の学習状況（30％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講する前と後で、図書館等で参考文献を読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ヨーロッパ道徳思想史 【昼】

担当者名 /Instructor　伊原木　大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	ヨーロッパ道徳思想史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	ヨーロッパ道徳思想史について課題を発見し、総合的に分析することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	ヨーロッパ道徳思想史に関する問題を解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

ヨーロッパ道徳思想史	PHR005F

授業の概要　/Course Description

西欧における道徳思想の変遷を哲学・文学・演劇・音楽・映画などを手がかりに読み解いてゆく。本授業は２年ごとに一部内容を入れ替える予定であり、古代を中心とするか、近代を中心とするかで議論のポイントが異なってくる。今年度は昨年度と同様、とくに近代以後の展開に力点を置く。15回の講義を通して、一定の世界史的教養を獲得するとともに、道徳的価値観の多様なありかたを理解することが可能となるだろう。

教科書　/Textbooks

適宜プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業時にそのつど指示する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　イントロダクション
２回　古代ギリシャ人の道徳【徳について】
３回　古代ギリシャ人の道徳【国について】
４回　ルネサンスの道徳観（１）【マキャヴェリ】
５回　ルネサンスの道徳観（２）【シェイクスピア】
６回　革命前夜の道徳観（１）【アンシャン・レジームの崩壊】
７回　革命前夜の道徳観（２）【『フィガロの結婚』解説前半】
８回　革命前夜の道徳観（３）【『フィガロの結婚』解説後半】
９回　理性の道徳（１）【契約説】
１０回　理性の道徳（２）【カント哲学】
１１回　理性の道徳（３）【功利主義】
１２回　事例検討（１）【功利性について】
１３回　事例検討（２）【厳格主義について】
１４回　道徳の黄昏（１）【道徳の破壊】
１５回　道徳の黄昏（２）【革命と権力】

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験…１００％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

授業中に聞いたことのない日本語や英語に出会った場合は、かならず国語辞典もしくは英和辞典を引く癖をつけてほしい。最低でもこれらの辞典は自宅に常備しておくこと。

ヨーロッパ道徳思想史 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

私語などの迷惑行為に対しては厳しい態度で臨む。履修にあたっては真摯な受講を求めたい。とりわけ学習意欲に欠けていると見受けられる学生（授業中に下を向いてスマートフォンをいじっている、最後部の席に座って漫画を読んでいる、隣同士で始終しゃべっている、等々）には即刻退席を命じる。

キーワード　/Keywords

日本史 【昼】

担当者名 /Instructor　古賀　康士 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	日本史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	日本史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	日本史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

日本史	HIS110F

授業の概要　/Course Description

「歴史」を学ぶとはどういうことでしょうか？　それは単に過去の出来事を暗記するだけのことでも、書かれた歴史を受動的に受け入れるだけのことでもありません。
　この授業では、日本史に関係する重要なテーマ・トピックスを掘り下げ、歴史を学び / 教えるのに必要となる考え方を学習します。具体的には歴史学・日本史で使われる基礎的な知識・概念の習得を目指し、歴史の諸問題を主体的に考えられる能力を身に付けることを目標とします。

教科書　/Textbooks

各回でレジュメ、資料などを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：「歴史」を学ぶとはどういうことか？　―史料と歴史家―
第２回：さまざまな「歴史」のとらえ方
第３回：「日本」のはじまり
第４回：古代国家と天皇
第５回：中世日本　―分権化する国家と社会―
第６回：越境するヒトとモノ　―銭貨・倭寇・鉄砲―
第７回：世界史のなかの「近世」
第８回：歴史人口学の世界
第９回：結婚と離縁　–歴史のなかの男と女–
第10回：貨幣からみる近世社会
第11回：日本の近代　–近世の「遺産」と明治国家–
第12回：「日本人」と戦争（１）　―帝国主義の時代―
第13回：「日本人」と戦争（２）　―総力戦のなかの人々―
第14回：戦後日本とわたしたちの時代
第15回：まとめ　–「歴史」を学ぶということ–

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み（50%、小レポートなどを含む）、期末試験（50%）によって評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業のなかで紹介する関係図書・文献を事前・事後学習として読む必要がある。

履修上の注意　/Remarks

日本史 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

東洋史 【昼】

担当者名 /Instructor　植松　慎悟 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	東洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	東洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	東洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	東洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

東洋史	HIS120F

授業の概要　/Course Description

近くて遠い国、中国。わが国の歴史とも密接な関係をもつ中国は、国際的な影響力も大きく、この中国について学ぶことは非常に重要であろう。しかしながら、中国について学ぶとき、多くの現代日本人に欠けている視点が歴史的な考察・分析といえる。

本講義では、西暦1～3世紀の中国、すなわち新・後漢時代から三国時代までの歴史を主な内容として扱う。とくに、各時代に活躍した改革者を講義の中軸に据え、その人物像や時代背景、改革の内容・結果・影響などを中心に論じる。本講義は、専門的な基礎知識を習得したうえで、東洋史に対する理解・関心を深めることを目標としたものである。

教科書　/Textbooks

特に使用しない。資料が必要な場合は、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　講義のガイダンス
2回　古代の中国と日本 –秦漢帝国と「漢委奴国王」金印–
3回　秦漢史概説（１）
4回　秦漢史概説（２）
5回　新の王莽
6回　後漢前期（１）–光武帝–
7回　後漢前期（２）–明帝–
8回　後漢前期（３）–章帝・和帝–
9回　後漢後期（１）–安帝・順帝–
10回　後漢後期（２）–桓帝・霊帝–
11回　後漢分裂と「三世紀の危機」 –『三国志』の虚実–
12回　魏の曹操
13回　蜀の劉備と呉の孫権
14回　三国鼎立と邪馬台国の外交
15回　まとめ
定期試験

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験・・・７０％　日常の授業への取り組み・・・３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

予習が必要な場合は、授業中に参考文献を指定するので、事前に読んでおくこと。復習は適宜ノートを見直し、配布したプリントを参照すること。

東洋史 【昼】

履修上の注意　/Remarks

本講義は、板書を中心に進めるので、集中して受講すること。定期試験の際にはノートや配付資料の持ち込みは認めないので、意欲のある学生の受講を期待する。
また、講師および他の学生が円滑な授業を進めるうえで、これを阻害する一切の行為を禁止する。違反した学生に対しては厳正に対処する。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義のテーマは、中国史を中心とした東洋史の概説です。なじみのない学生には少々難易度の高い授業になりますので、高校レベルの世界史を独自に学習しておくと、理解が深まるでしょう。

キーワード　/Keywords

中国　歴史　政治　社会　文化　皇帝支配

西洋史 【昼】

担当者名 /Instructor　曙谷　憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	西洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	西洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	西洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	西洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

西洋史	HIS130F

授業の概要　/Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

教科書　/Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

（【　】内はキーワード）
１回　「１３世紀世界システム」とヨーロッパ　【パックス・モンゴリカ】
２回　ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界　【港市国家】
３回　イベリア諸国の形成　【レコンキスタ】
４回　「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
５回　新世界到達と「世界分割」【トルデシリャス条約】
６回　ポルトガル海洋帝国の形成①　【香辛料】
７回　ポルトガル海洋帝国の形成②　【点と線の支配】
８回　スペインによる植民地帝国の形成①　【ポトシ】
９回　スペインによる植民地帝国の形成②　【モナルキーア・イスパニカ】
１０回　「１７世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
１１回　「１７世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
１２回　環大西洋世界の展開①　【第二次英仏百年戦争】
１３回　環大西洋世界の展開②　【環大西洋革命】
１４回　ヨーロッパ勢力とアジアの海　【近代世界システム】
１５回　まとめ　【「コロンブスの交換」】

成績評価の方法　/Assessment Method

講義内に課す小レポート（５回）・・・２５％、期末試験・・・７５％
（小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください（とくに世界史）。
毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

履修上の注意　/Remarks

特にありません。

西洋史 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

高校時代に世界史が苦手だった方、大歓迎です。

キーワード　/Keywords

13世紀世界システム、中世の危機、「海洋帝国」、植民地化、環大西洋世界

人文地理学 【昼】

担当者名 /Instructor　外枦保　大介 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人文地理の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人文地理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	人文地理の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	人文地理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

人文地理学	GE0110F

授業の概要　/Course Description

本講義では、人文地理学の基礎的な理論や概念を概説する。
人文地理学は、地域、環境、空間に関する多様な対象を扱う学問領域である。
講義を6つのセクションに分け、「人文地理学の基礎」「社会・文化と地域」「経済発展と人口移動」「都市構造と都市システム」「商業立地と流通システム」「製造業の立地と集積」について講義を行う。
具体的な事例を通じて、人文地理学のキーコンセプトに対する理解を深めてもらいたい。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　人文地理学の基礎(1)　地理学の体系
第2回　人文地理学の基礎(2)　地域の類型と重力モデル
第3回　人文地理学の基礎(3)　環境決定論と環境可能論
第4回　社会・文化と地域(1)　言語と地域
第5回　社会・文化と地域(2)　民俗文化と地域
第6回　経済発展と人口移動(1)　近世・近代日本の都市発展
第7回　経済発展と人口移動(2)　現代日本の都市発展
第8回　都市構造と都市システム(1)　都市の内部構造
第9回　都市構造と都市システム(2)　都市と郊外
第10回　都市構造と都市システム(3)　都市システム
第11回　商業立地と流通システム(1)　チェーンストアの配送
第12回　商業立地と流通システム(2)　大型店と商店街
第13回　製造業の立地と集積(1)　産業集積の実態
第14回　製造業の立地と集積(2)　産業集積の実態
第15回　製造業の立地と集積(3)　空間分業

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験 (80%)、ミニレポート (20%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

講義の事前・事後に、授業の理解に有益な文献を精読すること。

履修上の注意　/Remarks

人文地理学 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

土地地理学 【昼】

担当者名 /Instructor　野井 英明 / Hideaki　Noi / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と自然との関係性を地理学を通して理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	倫理観を自覚し、社会において積極的に行動できる。
	生涯学習力	●	課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

土地地理学	GE0111F

授業の概要　/Course Description

地理学は、地球表面で起こる自然・人文の様々な現象を「地域的観点」から究明する科学です。そのため、地理学を学習・研究するためには、位置を示すための地図が必ず必要になってきます。この科目では、地理学の言語ともいわれる地図を通じて、基礎的な地理学的知見を深めることを目的とします。あわせて、地図や空中写真を利用して地表の環境を読み取る実習も行って、地理学の研究手法も学びます。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は以下の通りです。
人間と自然の関係性を地理学を通して理解する。
地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。
課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。

教科書　/Textbooks

教科書はありません。適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○「日本列島地図の旅　付・地図の読み方入門」(大沼一雄著　東洋選書)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　地理学では何を学ぶか
2回　地図の役割と地図の能力　【地理的情報を整理する働き】
3回　地図の歴史　【文字を持たない未開の民族も地図は持っていた】
4回　地図にはどのような種類があるか　【地図には様々な種類がある】
5回　地図は、どのように作られるか 【地図投影・図法と図式】
6回　地図記号と景観　【地図を読む楽しみ】
7回　山の地形を地形図から描く1　(講義・実習)【行ったことのない山の形を地図から描くことができる】
8回　山の地形を地形図から描く2　(実習)
9回　地図を利用して地表を計測する
10回　地形図を利用して景観を読みとる1 (実習)　【海岸砂丘の環境と土地利用。自然景観を読む】
11回　地形図を利用して景観を読みとる2 (実習)　【中世の集落の立地。歴史景観を読む】
12回　リモートセンシングと空中写真の利用 【直接行けない場所の状態を知る】
13回　空中写真を利用して高さを測定する (講義・実習)
14回　衛星データを利用して地表の環境を調べる
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート…30%　試験…70%

土地地理学 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業内容に関連する新聞記事やインターネット情報を読む、関連するテレビ番組を見るなどするとより理解が深まります。授業後は、配付された資料等をよく読んで、ノートとともに整理しておきましょう。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

地誌学 【昼】

担当者名 /Instructor　外杤保　大介 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	地誌の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地誌について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	地誌の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	地誌に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

地誌学	GE0112F

授業の概要　/Course Description

グローバル化と情報化が進行しつつある現代世界において、世界や日本の諸地域を正確に認識することがますます重要となっている。
本年度は、様々な空間スケールにおける、先進国地域の地誌をテーマとする。欧米諸国や日本の諸地域は、近現代においてどのような変化・発展を遂げ、今日に至っているのか、それらの比較を通じて、動態的な地誌について理解を深めてもらいたい。
必要に応じて、講義内容に関係する時事的事項を扱う。

教科書　/Textbooks

松原　宏編　『先進国経済の地域構造』　東京大学出版会　2003年
平岡昭利編　『地図で読み解く日本の地域変貌』　海青社　2008年

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション
第2回　欧米地誌(1)　ヨーロッパ総論(1)：ヨーロッパの地形・気候と農業、ヨーロッパの諸民族と市民生活など
第3回　欧米地誌(2)　ヨーロッパ総論(2)：ヨーロッパ統合の歩み、EUによる地域統合など
第4回　欧米地誌(3)　イギリス地誌
第5回　欧米地誌(4)　ドイツ地誌
第6回　欧米地誌(5)　スペイン・フランス地誌
第7回　欧米地誌(6)　イタリア・北欧地誌
第8回　欧米地誌(7)　ベネルクス・スイス地誌
第9回　欧米地誌(8)　アメリカ合衆国地誌
第10回　日本地誌(1)　近世城下町の変容：島根県松江市、鹿児島県鹿児島市
第11回　日本地誌(2)　干拓地域の変容：山口県防府市、県庁所在地の変容：宮崎県宮崎市
第12回　日本地誌(3)　軍事都市の変容：広島県呉市、熊本県熊本市
第13回　日本地誌(4)　鉱業地域の変容：福岡県筑豊地域、愛媛県新居浜市
第14回　日本地誌(5)　港湾都市の変容：山口県下関市
第15回　日本地誌(6)　工業都市の変容：福岡県北九州市

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験 (80%)、日常の授業の取り組み (20%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

講義の事前・事後に、授業の理解に有益な文献を精読すること。

履修上の注意　/Remarks

授業の前後に適宜予習復習を行うこと。
高校で使用する程度の「地図帳」を持参しておくことが望ましい。

地誌学 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

日本国憲法 【昼】

担当者名 /Instructor　中村　英樹 / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	日本国憲法の意義を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	憲法的事象について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	主権者たる市民として必要とされる責任を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	●	憲法に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

日本国憲法	LAW120F

授業の概要　/Course Description

国家の基本法といわれる憲法に関する基本的な考え方を学ぶ。
受講対象者を考慮して、日本国憲法全体を通観するのではなく、いくつかの重要テーマを取り上げて講義する中で、憲法学の基本的な考え方や社会との関係などを学べるように努める。

教科書　/Textbooks

特に指定しない。
適宜、資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○浦部法穂『憲法学教室　第3版』（日本評論社、2016年）
○芦部信喜『憲法　第6版』（岩波書店、2015年）
○長谷部恭男『憲法　第6版』（新世社、2014年）
○野中俊彦ほか『憲法I　第5版』『憲法II　第5版』（有斐閣、2012年）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　憲法とは何か①–国家と憲法
第2回　憲法とは何か②–民主主義と立憲主義
第3回　平和主義①–平和主義と「正しい」戦争
第4回　平和主義②–日本国憲法の平和主義
第5回　表現の自由とその限界①–表現の自由の保障根拠
第6回　表現の自由とその限界②–規制の根拠と手段の妥当性
第7回　自己決定権とは何か①–憲法上の根拠と内容
第8回　自己決定権とは何か②–生命の自己決定？
第9回　自己決定権とは何か③–安楽死·尊厳死法制化の是非
第10回　議院内閣制①–国会と内閣の関係
第11回　議院内閣制②–国会の制度と運営
第12回　議院内閣制③–国会と選挙制度
第13回　憲法と死刑制度①–日本国憲法と死刑制度
第14回　憲法と死刑制度②–立法政策上の諸課題
第15回　全体まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

講義内容の理解度をはかる期末試験による（100％）。

日本国憲法 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業内容の理解に有益な読書を行ったり、講義内容を復習すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

憲法史　立憲主義　基本的人権　統治機構

メンタル・ヘルスI 【昼】

担当者名 /Instructor　中島　俊介 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

メンタル・ヘルスⅠ	PSY001F

授業の概要　/Course Description

授業のねらい、テーマ

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは，病気や不適応事例の発生予防だけでなく，もっと幅広く，多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあっては，メンタルなタフさがなければ生活人としての活動は難しい世相である。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされ，ストレスに関連した多くの疾病に見舞われる危険も多くなっている。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下，生活上の事故やミス，無気力や抑うつ症状などを生じさせる。

本講義では一般的な心理学やアドラー心理学や森田療法を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を多角的かつ発達的な視点からとらえ日々の生活と人生を充実させるためのストレスマネジメントのカを身につけることを目標とする。

教科書　/Textbooks

テキスト　「こころと人生」中島俊介　編著　　ナカニシヤ出版　2017

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「森田療法」　岩井　寛　著　講談社現代新書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール
第1回　メンタルヘルスとは……メンタルヘルスの歴史・最近の推移・受講上の注意
第2回　心の健康と人生……人間の発達・社会と心理学・生涯発達の理論
第3回　胎児・乳幼児のこころの健康……胎児の能力・誕生の危機・乳児の課題
第4回　幼児期・学童期の心の健康……自律と積極性・しつけ・勤勉性と劣等感
第5回　思春期の心理学……思春期の特徴とその対応。適応の困難さと向き合う
第6回　青年期……同一性（アイデンティティ）の心理……青年期のこころの病
第７回　若い成人期……親密性の発達。働く上でのメンタルヘルス
第8回　ライフスタイル診断とこころの健康……うつ病・神経症など
第9回　発達障害についての理解１…ADHD・LD・アスペルガーなどの基本的知識
第10回　発達障害についての理解２…実際の対応の仕方、留意点
第11回　こころの健康の展望……自己受容・自己開示・あるがままの心理学
第12回　成人期の心の健康……生きがい・職場の心理学
第13回　老年期の心の健康……機能の低下・高齢者の心理学
第14回　病と死の心理学……自殺を打ち明けられたら。死の教育（デス工デュケーション）
第15回　講義のまとめ……講義のまとめ・ふりかえり

メンタル・ヘルスI 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

①毎回の授業への参加熱意と態度（40％）②定期試験（60％）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

心理学一般に関する様々な知識があれば理解は深まりやすい。日頃の生活の中で心理学や社会学、また科学的手法に関わるテーマについて自分の興味を深めていくような態度を習慣にしていくことが大切だと考える。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業に対する質問や感想を小片紙に書いてもらうので積極的な姿勢で毎回の授業に取り組んでほしい。

キーワード　/Keywords

メンタル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor　中島　俊介 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力	●	自分自身で心身及び社会的健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

メンタル・ヘルスII	PSY002F

授業の概要　/Course Description

授業のねらい，テーマ
　心の健康な人とは異端・極端を認め，そこから思考しようと努力する人のことである。よって本来，メンタルヘルスとは「一人ひとりの幸福な生き方を配慮し援助する実践的な思想」といえる。
　本講座では，一般的な心理学を基盤にした「メンタルヘルスI」を前提として，さらに健康科学やポジティブ心理学の領域から心の健康増進にも役立つような要件を学ぶ。人は人の中にあって人となる。人生の方向性を正しく導く「逞しき知恵」と「強き生命力」をどうすれば体得できるかを受講生と共に考えたい。食事，睡眠，運動による健康な身体作りも心の基盤として重要である。青年期における健康な生活スタイルにも言及したい。アドラー心理学などの欧米の理論も紹介しながら，特にわが国の文化的背景から出てきた，森田療法などの心の健康法にもふれることにより，受講者自身のセルフカウンセリングの能力が高まることを期待したい。

教科書　/Textbooks

テキスト　特に設けない

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「神経症の時代」　渡辺利夫　著　学陽書房　1999

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール
第1回　オリエンテーション……受講上の注意・評価・人間の発達と自己形成
第2回　人間関係の心理学１……自己開示について
第3回　人間関係の心理学２……聞く力と話す力
第4回　自己愛の心理学と心の健康１……コフート理論・自己対象理論
第5回　自己愛の心理学と心の健康２……生涯発達の視点から
第6回　アドラー心理学から観た心の健康１……共同体感覚と感情道具論
第７回　アドラー心理学から観た心の健康２……健康な集団つくり
第8回　心のリフレッシュ１……内観法・森田療法
第9回　心のリフレッシュ２……脳と心について・認知行動療法
第10回　発達障害についての理解…自分の場合・他者の場合
第11回　平和と暴力１……対話の文化を
第12回　平和と暴力２……人権の文化を
第13回　心の健康と感情……感情の理論
第14回　心の健康と芸術……映画の力
第15回　講義のまとめ……講義のまとめ・ふりかえり

メンタル・ヘルスII 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

①毎回の授業への参加熱意と態度（40％）②定期試験（60％）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

人間社会に関する興味や心理学一般に関する様々な知識があれば理解は深まりやすい。日頃の生活の中で心理学や社会学、また科学的手法に関わるテーマについて自分の興味を深めていくような態度を習慣にしていくことが大切だと考える。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

毎回の授業の感想や質問などを積極的に自己開示してもらいたい。授業後の個別の質問などは大歓迎である。

キーワード　/Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor　高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・ヘルスⅠ	HSS001F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書　/Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　健康と体力（体力とトレーニング）
３回　体力測定（筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など）＜実習＞
４回　準備運動と整理運動
５回　ストレッチング実習＜実習＞
６回　自分にとって必要な体力とは？
７回　運動処方
８回　運動強度測定（心拍数測定）＜実習＞
９回　自分にとって最適な運動強度とは？
１０回　自分に適した運動の種類や方法とは？
１１回　正しいウォーキングとは？＜実習＞
１２回　道具を使用したトレーニング（バランスボールなど）＜実習＞
１３回　スポーツビジョントレーニング（バレーボールを利用して）＜実習＞
１４回　運動・スポーツの動機付け
１５回　北九州市立大学散策マップ作成（100kcal運動）＜実習＞

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み …　７０％　　レポート …　３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・ヘルスI【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業内容（講義･実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI 【昼】

担当者名 /Instructor　徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・ヘルスⅠ	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、

この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　健康体力の理解
３回　身体のケアについて　メンタル面
４回　身体のケアについて　フィジカル面
５回　ウォーミングアップとクーリングダウン
６回　用具を使って身体を整える
７回　セルフマッサージで身体を整える
８回　テーピングによる簡単な予防
９回　トレーニングによって身体を整える
１０回　ウエイトトレーニングの注意点
１１回　体脂肪を減らすトレーニング
１２回　柔軟性を高める運動　一人で行うもの
１３回　柔軟性を高める運動　二人で行うもの
１４回　腰痛と運動
１５回　運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　レポート…３０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

フィジカル・ヘルスI【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
授業内容（講義･実習）によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・ヘルスI 【昼】

担当者名 /Instructor　加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・ヘルスⅠ	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

（【 】はキーワード）
１回　オリエンテーション
２回　仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
３回　（実習）ソフトバレーボール【笑顔】
４回　（講義）ストレッチの理論
５回　（実習）ストレッチの実際、ゲーム
６回　（講義）ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコペース】
７回　（実習）軽運動、エアロビクス･ダンス【笑顔】
８回　（講義）フェアプレイ、スポーツマンシップとは
９回　（実習）球技を楽しもう①（卓球、バドミントン・ショートテニス）【スポーツマンシップ】
１０回　（実習）球技を楽しもう②（卓球、バドミントン・ショートテニス）【スポーツマンシップ】
１１回　（講義）これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
１２回　（講義）これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
１３回　（講義）レッツ・スポーツ【計画・企画】
１４回　（実習）レッツ・スポーツ【主体性】
１５回　まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み　…７０％　　レポート　…３０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実習を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

フィジカル・ヘルスI【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。
実習の場合は、運動ができる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

授業全体のキーワードは、
【笑顔】と【コミュニケーション】である。

フィジカル・ヘルスII 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor　高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・ヘルスⅡ	HSS002F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書　/Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　健康と体力（体力とトレーニング）
３回　体力測定（筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など）＜実習＞
４回　準備運動と整理運動
５回　ストレッチング実習 ＜実習＞
６回　自分にとって必要な体力とは？
７回　運動処方
８回　運動強度測定（心拍数測定）＜実習＞
９回　自分にとって最適な運動強度とは？
１０回　自分に適した運動の種類や方法とは？
１１回　正しいウォーキングとは？ ＜実習＞
１２回　道具を使用したトレーニング（バランスボールなど）＜実習＞
１３回　スポーツビジョントレーニング（バレーボールを利用して）＜実習＞
１４回　運動・スポーツの動機付け
１５回　北九州市立大学散策マップ作成（100kcal運動）＜実習＞

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み …　７０％　　レポート …　３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・ヘルスII 【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業内容（講義･実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

スポーツを科学する、健康と体力

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor　徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・ヘルスⅡ	HSS002F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　健康体力の理解
３回　身体のケアについて　メンタル面
４回　身体のケアについて　フィジカル面
５回　ウォーミングアップとクーリングダウン
６回　用具を使って身体を整える
７回　セルフマッサージで身体を整える
８回　テーピングによる簡単な予防
９回　トレーニングによって身体を整える
１０回　ウエイトトレーニングの注意点
１１回　体脂肪を減らすトレーニング
１２回　柔軟性を高める運動　一人で行うもの
１３回　柔軟性を高める運動　二人で行うもの
１４回　腰痛と運動
１５回　運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　レポート…３０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

フィジカル・ヘルスII 【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
授業内容（講義･実習）によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor	加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科										
履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義・演習	クラス /Class	1年		

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・ヘルスII	HSS002F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

（【 】はキーワード）
１回　オリエンテーション
２回　仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
３回　（実習）ソフトバレーボール【笑顔】
４回　（講義）ストレッチの理論
５回　（実習）ストレッチの実際、ゲーム
６回　（講義）ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコペース】
７回　（実習）軽運動、エアロビクス･ダンス【笑顔】
８回　（講義）フェアプレイ、スポーツマンシップとは
９回　（実習）球技を楽しもう①（卓球、バドミントン・ショートテニス）【スポーツマンシップ】
１０回　（実習）球技を楽しもう②（卓球、バドミントン・ショートテニス）【スポーツマンシップ】
１１回　（講義）これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
１２回　（講義）これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
１３回　（講義）レッツ・スポーツ【計画・企画】
１４回　（実習）レッツ・スポーツ【主体性】
１５回　まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み　…７０％　　レポート　…３０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実習を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

フィジカル・ヘルスII 【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。
実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

授業全体のキーワードは、
【笑顔】と【コミュニケーション】である。

自己管理論 【昼】

担当者名 /Instructor　山本　浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	自分自身で心身の健康保持増進を行う。
	社会的責任・倫理観	●	人間の総合的理解を通して得られた責任感、倫理観を自覚し、その深い理解をもって社会で積極的に行動する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

自己管理論	HSS003F

授業の概要　/Course Description

青年期である大学生は自我意識が高まる時期であり、初めて一人暮らしをする学生にとっても、自己決定に基づく健康的で自立した生活をすることは容易なことではない。これからは、様々な角度から自己管理についての正しい知識と、自分を守り人にも役立つ健康の意識を高め、実践力を身につけることが大切である。今回の自己管理論は、各分野におけるプロフェッショナルの実体験や知識を学び、社会人になっても大いに役立ち、心身ともに健康で前向きに生きられる自分づくりをめざす。

教科書　/Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１．オリエンテーション
２．防犯の心得【警察官】：安心・安全とはなにか．被害にあわないための具体的な自己防衛法について学ぶ
３．若者に最も大切な栄養の話【管理栄養士】：健康的に生活するために必要な栄養について学ぶ
４．体の健康【運動生理学】：多様な疾病・リスクを中心に生涯にわたる健康を見直す
５．ストレスと健康【心理学】：ストレスに負けない身体・精神について学ぶ
６． 地域スポーツ【社会学】：人間関係を円滑にするためのコミュニケーションについて学ぶ
７．防災について【関係専門職】：身近に起こりうる災害に対する防災の仕方について学ぶ
８．歯と口と健康を保つセルフケア【歯科技師】：歯および口腔のセルフケアについて学ぶ
９．依存と健康【精神科専門職】：心身ともに破滅に陥りやすい依存症の医学的知識を学ぶ
１０．心の健康【臨床心理士】：心と身体の関係から起こる疾病の予防，対処法について学ぶ
１１．喫煙・飲酒・薬物【関係専門職】：煙草やお酒，薬物の正しい知識を学ぶ
１２．思春期と健康【関係専門職】：思春期の健康について学び，今後の人生設計を描いていく
１３．人権・ハラスメント関係【関係専門職】：人権侵害，ハラスメント防止などの知識と予防対策について学ぶ
１４．自己管理論まとめ：ポイントの復習などで総合的に理解を深める
１５．小試験（選択，記述）

成績評価の方法　/Assessment Method

毎回のミニレポート・・ 70%　　小試験・・ 30%

自己管理論 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回、講義内容、講師が異なります。講義前には、内容を文献やインターネット等で調べておくこと。講義後にミニレポートを課します。講義の内容を振り返り、レポートを作成すること。また、質問等はそのレポートに記載する欄を設けています。

履修上の注意　/Remarks

①1回目のオリエンテーションで「自己管理論」のプログラムを配布する。1回目から出席をとります。
②外部講師による講義のため、授業開始後15分には入室を禁止する。私語厳禁。
③毎回のミニレポートは出席確認としても取り扱う。
④最終回では、小試験をするため必ず出席すること。
⑤4分の3以上の出席を必要とする。
授業前に予めどのような専門職の方が話をするのか把握し、授業終了後には配布された資料をもとに復習すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

外部講師の都合により，授業計画の順番が変更することがあります。また，「履修上の注意」にも記載していますが，外部講師による講義が主となるため，通常の大学講義とは異なる点が多くあります。その点に関しては，第一回のオリエンテーションでプリントを配布し，説明しますので，第一回目から必ず出席してください。

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) 【昼】

担当者名 /Instructor　黒田　次郎 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　キャッチボール (スローイング、キャッチング)
３回　ピッチング (ウインドミル)
４回　バッティング (トスバッティング)
５回　ゴロの捕球・フライの捕球
６回　守備練習
７回　フリーバッティング
８回　ベースランニング
９回　ルール説明
１０回　審判法
１１回　ゲーム (１)　内野の連係プレイ
１２回　ゲーム (２)　内外野の連係プレイ
１３回　ゲーム (３)　走者の進め方
１４回　ゲーム (４)　まとめ
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズI（サッカー）【昼】

担当者名 /Instructor　山崎　将幸 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　サッカーの基本技術（リフティング）の習得と試しのゲーム（１）
３回　サッカーの基本技術（パス）の習得と試しのゲーム（２）
４回　サッカーの基本技術（シュート）の習得と試しのゲーム（３）
５回　サッカーの戦術（ディフェンス）の説明
６回　サッカーの戦術（ディフェンス）の習得と応用ゲーム
７回　サッカーの戦術（オフェンス）の説明
８回　サッカーの戦術（オフェンス）の習得と応用ゲーム
９回　サッカーの戦術の応用説明
１０回　サッカーの戦術の応用ゲーム
１１回　審判法の習得と試しのゲーム
１２回　リーグ戦方式の試合（１）パスを意識して
１３回　リーグ戦方式の試合（２）戦術を意識して
１４回　リーグ戦方式の試合（３）まとめ
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズI（サッカー）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズI（テニス）【昼】

担当者名 /Instructor　黒田　次郎 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　ストロークの基礎練習（球出しによるフォアハンド練習）
３回　ストロークの基礎練習（ラリーの中でのフォアハンド練習）
４回　ストロークの基礎練習（球出しによるバックハンド練習）
５回　ストロークの基礎練習（ラリーの中でのバックハンド練習）
６回　サービスの基礎練習
７回　ボレーの基礎練習
８回　スマッシュの基礎練習
９回　ルールの説明
１０回　戦術の説明・実践
１１回　シングルスゲーム（１）ゲーム法の解説
１２回　シングルスゲーム（２）ゲームの実践
１３回　ダブルスゲーム（１）ゲーム法の解説
１４回　ダブルスゲーム（２）ゲームの実践
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズI（テニス）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor　美山　泰教 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　サーブ練習（１）<アンダーサーブ>
３回　サーブ練習（２）<オーバーサーブ>
４回　パス練習（１）<アンダーパス>
５回　パス練習（２）<オーバーパス>
６回　サーブカット練習
７回　アタック練習（１）<サイド>
８回　アタック練習（２）<センター>
９回　ルール説明
１０回　チーム練習
１１回　ゲーム（１）　<サーブに留意して>
１２回　ゲーム（２）　<サーブカットに意識して>
１３回　ゲーム（３）　<アタックに留意して>
１４回　ゲーム（４）　<フォーメーションに留意して>
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor　鯨　吉夫 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関しての諸注意)
２回　バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
３回　導入実技
４回　基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
５回　基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
６回　サービスの練習
７回　応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
８回　応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
９回　ゲームの展開方法と審判法の習得
１０回　戦術の説明
１１回　ダブルスのゲーム法の解説
１２回　ダブルスの陣形の解説
１３回　ダブルスゲームの実践
１４回　ダブルスゲームのまとめ
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor　山本　浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関しての諸注意)
２回　バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
３回　スキル獲得テスト①
４回　基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
５回　基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
６回　サービスの練習
７回　ゲームの展開方法と審判法の習得
８回　ダブルスのゲーム法の解説
９回～１４回　ダブルスゲーム (リーグ戦)
１５回　スキル獲得テスト②

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみること。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、４分の３以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず 履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズI（女性のスポーツ）【昼】

担当者名 /Instructor　加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、身体活動の理論を踏まえ、レクリエーションスポーツ種目を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そしてその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

スポーツルール百科

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス（受講上の注意）
２回　バレーボール（１）　サーブ、パスの基礎練習
３回　バレーボール（２）　ルール説明とゲーム
４回　バドミントン（１）　基本的な打ち方とフライト練習
５回　バドミントン（２）　ダブルスのルール説明とゲーム
６回　卓球（１）　フォアハンド、バックハンドの基礎練習
７回　卓球（２）　ダブルスのルール説明とゲーム
８回　ソフトバレーボール（１）　サーブ、パス、アタックの基本練習
９回　ソフトバレーボール（２）　ルール説明とゲーム
１０回　ショートテニス（１）　フォアハンド、バックハンドの基礎練習
１１回　ショートテニス（２）　ルール作りとゲーム
１２回　選択種目（１）　【バレーボール】　【卓球】
１３回　選択種目（２）　【バドミントン】　【ショートテニス】
１４回　選択種目（３）　【ソフトバレーボール】　【バドミントン】
１５回　スキル獲得の確認（選択種目）

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み　…７０％　　スキル獲得テスト　…３０％

フィジカル・エクササイズI（女性のスポーツ）【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

その種目に関する映像視聴などで、ルールの確認やイメージを持つこと。
運動後のクールダウンは時間を設けて行わないので、各自で主要筋のストレッチをして身体ケアをすること。

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること。

本講義では、障害者差別解消法に基づき、生涯の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、　ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor　山崎　将幸 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズⅡ	HSS082F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　バドミントンの基本原則・知識の習得
３回　ストローク練習（１）<スマッシュ>
４回　ストローク練習（２）<ドロップ、ハイクリアー>
５回　ストローク練習（３）<ドライブ、ヘアピン>
６回　サービス練習　<ショートサービス、ロングサービス>
７回　攻めと守りのコンビネーション練習（１）<ヘアピンからリターン>
８回　攻めと守りのコンビネーション練習（２）<ドロップからリターン>
９回　ルール説明
１０回　審判法
１１回　ダブルスゲーム（１）<ゲーム法の解説>
１２回　ダブルスゲーム（２）<陣形の解説>
１３回　ダブルスゲーム（２）<ゲームの実践>
１４回　ダブルスゲーム（３）<まとめ>
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor　黒田　次郎 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズⅡ	HSS082F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　バドミントンの基本原則・知識の習得
３回　フライト練習（１）<ヘアピン>
４回　フライト練習（２）<ハイクリアー>
５回　フライト練習（３）<ドライブ、スマッシュ>
６回　サービス練習　<ショートサービス、ロングサービス>
７回　攻めと守りのコンビネーション練習（１）<ヘアピンからリターン>
８回　攻めと守りのコンビネーション練習（２）<ドロップからリターン>
９回　ルール説明
１０回　審判法
１１回　ダブルスゲーム（１）<ゲーム法の解説>
１２回　ダブルスゲーム（２）<陣形の解説>
１３回　ダブルスゲーム（２）<ゲームの実践>
１４回　ダブルスゲーム（３）<まとめ>
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズII（バスケットボール）【昼】

担当者名 /Instructor　黒田　次郎 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズⅡ	HSS082F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バスケットボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　集団行動〔走る（ラン）・跳ぶ（ジャンプ）・投げる（スロー）〕
３回　ボールに慣れる（ドリブル・パス・シュート）
４回　シュートの基礎練習（レイアップシュート・ジャンプシュート）
５回　応用練習（２対１）
６回　応用練習（３対２）
７回　ルール・戦術の説明
８回　簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
９回　スキルアップ（ドリブルシュート・リバウンド）
１０回　スキルアップ（速攻、スクリーンプレイ）
１１回　ゲーム（１）　ゾーンディフェンス（２－３）
１２回　ゲーム（２）　ゾーンディフェンス（２－１－２）
１３回　ゲーム（３）　マンツーマンディフェンス
１４回　ゲーム（４）　まとめ
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・エクササイズII（バスケットボール）【昼】

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor　美山　泰教 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　サーブ練習（１）<アンダーサーブ>
３回　サーブ練習（２）<オーバーサーブ>
４回　パス練習（１）<アンダーパス>
５回　パス練習（２）<オーバーパス>
６回　サーブカット練習
７回　アタック練習（１）<サイド>
８回　アタック練習（２）<センター>
９回　ルール説明
１０回　チーム練習
１１回　ゲーム（１）　<サーブに留意して>
１２回　ゲーム（２）　<サーブカットに意識して>
１３回　ゲーム（３）　<アタックに留意して>
１４回　ゲーム（４）　<フォーメーションに留意して>
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor　美山　泰教 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズⅡ	HSS082F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　バドミントンの基本原則・知識の習得
３回　フライト練習（１）<ヘアピン>
４回　フライト練習（２）<ハイクリアー>
５回　フライト練習（３）<ドライブ、スマッシュ>
６回　サービス練習　<ショートサービス、ロングサービス>
７回　攻めと守りのコンビネーション練習（１）<ヘアピンからリターン>
８回　攻めと守りのコンビネーション練習（２）<ドロップからリターン>
９回　ルール説明
１０回　審判法
１１回　ダブルスゲーム（１）<ゲーム法の解説>
１２回　ダブルスゲーム（２）<陣形の解説>
１３回　ダブルスゲーム（２）<ゲームの実践>
１４回　ダブルスゲーム（３）<まとめ>
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII（バドミントン）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズII（サッカー）【昼】

担当者名 /Instructor　山崎　将幸 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズⅡ	HSS082F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　サッカーの基本技術（リフティング）の習得と試しのゲーム（１）
３回　サッカーの基本技術（パス）の習得と試しのゲーム（２）
４回　サッカーの基本技術（シュート）の習得と試しのゲーム（３）
５回　サッカーの戦術（ディフェンス）の説明
６回　サッカーの戦術（ディフェンス）の習得と応用ゲーム
７回　サッカーの戦術（オフェンス）の説明
８回　サッカーの戦術（オフェンス）の習得と応用ゲーム
９回　サッカーの戦術の応用説明
１０回　サッカーの戦術の応用ゲーム
１１回　審判法の習得と試しのゲーム
１２回　リーグ戦方式の試合（１）パスを意識して
１３回　リーグ戦方式の試合（２）戦術を意識して
１４回　リーグ戦方式の試合（３）まとめ
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII（サッカー）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor　鯨　吉夫 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズⅡ	HSS082F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関しての諸注意)
２回　バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
３回　導入実技
４回　基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
５回　基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
６回　サービスの練習
７回　応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
８回　応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
９回　ゲームの展開方法と審判法の習得
１０回　戦術の説明
１１回　ダブルスのゲーム法の解説
１２回　ダブルスの陣形の解説
１３回　ダブルスゲームの実践
１４回　ダブルスゲームのまとめ
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズII（サッカー）【昼】

担当者名 /Instructor　鯨　吉夫 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズⅡ	HSS082F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション（授業の展開方法や履修に関しての諸注意）
２回　サッカーの基本技術（リフティング）の習得と試しのゲーム（１）
３回　サッカーの基本技術（パス）の習得と試しのゲーム（２）
４回　サッカーの基本技術（シュート）の習得と試しのゲーム（３）
５回　サッカーの戦術（ディフェンス）の説明
６回　サッカーの戦術（ディフェンス）の習得と応用ゲーム
７回　サッカーの戦術（オフェンス）の説明
８回　サッカーの戦術（オフェンス）の習得と応用ゲーム
９回　サッカーの戦術の応用習得
１０回　サッカーの戦術の応用ゲーム
１１回　審判法の習得と試しのゲーム
１２回　リーグ戦方式の試合（１）パスを意識して
１３回　リーグ戦方式の試合（２）戦術を意識して
１４回　リーグ戦方式の試合（３）まとめ
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・エクササイズII（サッカー）【昼】

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor　徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズⅡ	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　バドミントンの基本原則・知識の習得
３回　フライト練習（１）<ヘアピン>
４回　フライト練習（２）<ハイクリアー>
５回　フライト練習（３）<ドライブ、スマッシュ>
６回　サービス練習　<ショートサービス、ロングサービス>
７回　攻めと守りのコンビネーション練習（１）<ヘアピンからリターン>
８回　攻めと守りのコンビネーション練習（２）<ドロップからリターン>
９回　ルール説明
１０回　審判法
１１回　ダブルスゲーム（１）<ゲーム法の解説>
１２回　ダブルスゲーム（２）<陣形の解説>
１３回　ダブルスゲーム（３）<ゲームの実践>
１４回　ダブルスゲーム（４）<まとめ>
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、傷害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義は実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際に相談ください。

キーワード　/Keywords

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor　眞鍋　和博 / MANABE　KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。

キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要　/Course Description

大学生活を実りあるものにするための授業です。その為に、自己理解やコミュニケーションスキルの向上が必要と考えます。また、大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。
①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
③コミュニケーションをとることに慣れる
④社会人としての基本的な態度を身につける
⑤自分について知る
授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間にしたいと考えています。

教科書　/Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
2回　進路の現状【就職･公務員･教員等の進路準備スケジュール】
3回　学生生活とキャリア【社会人基礎力･学士力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
4回　自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
5回　インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
6回　仕事をするということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
7回　企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
8回　働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
9回　就職試験を体験する【ＳＰＩ、一般常識】
10回　様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
11回　キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
12回　自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
13回　就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
14回　学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
15回　まとめ【授業全体を振り返る、総括】

キャリア・デザイン 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…60%　　授業内のレポート…20%　　まとめのレポート…20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

初回の講義時に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に各テーマについて調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分自身のキャリア形成に向けて何をすべきかについて考えを深めてください。

履修上の注意　/Remarks

授業への積極的かつ主体的な参加、また自主的な授業前の予習と授業後の振り返りなど、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10カ条を守ってください。
①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

キーワード　/Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、ＳＰＩ、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor　石川　敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。

キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要　/Course Description

木曜３限の「キャリア・デザイン」では、皆さんの来るべき将来に向けて、いま何を考え、何をすべきかということを考える授業を行います。皆さんの将来は未来に独立して存在しているわけではなく、現在の延長線上にあります。その意味で、大学生としての時間をいかに過ごすのかは皆さんの「キャリア」に直接つながってきます。この授業では、大学生として充実した時間を過ごすためのヒントや刺激を受けられるようなコンテンツをたくさん提供したいと思います。特に、本授業では、ゲストスピーカーによる講演会を数回開催します。各分野で活躍されている人生の先輩方のお話を聞くことで多くを学ぶことができると思います。また、様々な資料（映像・新聞記事・映画・webなど）を用い、それらを題材とすることで皆さんの進むべき道ややるべきことなども考えてもらいます。キャリア（人生デザイン）は他人から教えられるものではなく、自分で考えて切り拓いていくものだと思います。授業を通じてそのためのきっかけが提供できればと思います。

教科書　/Textbooks

教科書は使用しません。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業内で適宜お伝えします。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　ガイダンス
2回　充実した大学生活（新生活）のためのリスクマネジメント
3回　大学の「使い方」
4回　「理想」の大学生活・・なんてあるの？
5回　ゲストスピーカーによるご講演（世界の果てで子どもを救う）
6回　大学での勉強、どうする？
7回　健康的な大学生活（セルフカウンセリングについて）
8回　自分の可能性を広げるために
9回　「自分」はだれか？
10回　かわいい子には「旅」をさせるべき？
11回　ゲストスピーカーによるご講演（国際キャリアのつくりかた）
12回　変わりつつある世界の中でどう生きるか
13回　ゲストスピーカーによるご講演（他者のために生きる人生）
14回　ようこそ先輩
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

各回の授業内レポート50%　課題レポート50%

キャリア・デザイン 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回の授業終了時に次回の授業内容を伝えますので、前もって関連する知識を学習しておいてください。
また、本授業は「答え」のない授業ですので、各回の授業が終わった後には、自分なりの「答え」を探してもらいたいと思います。

履修上の注意　/Remarks

たくさんの問いかけをしますので、自分の頭でしっかりと考える姿勢をもって授業に望んでください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

１年生だけでなく、２年生以上の学生の受講も歓迎します。

キーワード　/Keywords

自分で考え、つくるキャリアデザイン

キャリア・デザイン 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

担当者名 /Instructor　見舘　好隆 / Yoshitaka　MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。

キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要　/Course Description

＜目的＞本授業の目的は、みなさんが持つことが想定される、将来の進路に対する不安や迷いを解消し、有意義な大学生活を営むために何をすればいいのかを学ぶことです。近年、少子高齢化やグローバル化、IT化、環境や エネルギー、そして地方創生など、今までのビジネスモデルからの脱却およびイノベーションが求められる中、社会が求める人材も大きく変わりつつあります。日本経済団体連合会（2016年11月）の調査によると、「コミュニケーション能力」が13年連続で第１位、「主体性」が７年連続で第２位となり、以下、第３位「協調性」、第４位「チャレンジ精神」と続き、コミュニケーション能力は当然として、主体性・協調性・チャレンジ精神といった、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力が求められる時代となりました。よってこれらの資質を就職活動を行うまでに高めておく必要があります。

もちろん、大学生の本分は学習であり、今から就職活動の準備をする必要はありません。しかし、これらの力は、一朝一夕で身につくものではありません。ではどうすればいいのか？　それは大学生活全体、つまり、学習および課外活動、そして日常生活において、社会が求める資質を獲得することを意識して過ごすことが大切になるのです。その方法（キャリアをデザインする方法）を本授業で学びます。

自らのキャリアをデザインするために必要な行動とは、以下の3つです。

１．コミュニケーション能力
２．幅広い視野・柔軟性
３．失敗を恐れない志向性

＜進め方と目標＞
3つの力を身に付けるために、まずグループワーク・ペアワークを実践して「コミュニケーション能力」を獲得します。同時に、たくさんの先輩や社会人のゲスト（ロールモデル）との対話や、その他様々な課題を通して「幅広い視野・柔軟性」や「失敗を恐れない志向性」を理解し、他の授業や課外活動、そして日常生活において授業での学びを実践し、最終回までに身に付けていただきたいと思います。授業の途中で、様々なイベント（プロジェクトや海外インターンシップなど）の情報を提供しますので、楽しみにしていてください。

教科書　/Textbooks

テキストはありません。適宜資料を学習支援フォルダにアップしますので、印刷して精読し、持参してください。特に事前課題が含まれる時には、その課題をこなしていないと授業に参加できませんので注意してください。

キャリア・デザイン 【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。
以下書籍はその参考例です。
キャロル S.ドゥエック『「やればできる!」の研究–能力を開花させるマインドセットの力』草思社
○金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
大久保幸夫『キャリアデザイン入門 1 基礎力編』日本経済新聞社
○渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
○モーガン・マッコール『ハイフライヤー　次世代リーダーの育成法』プレジデント社
○エドガー H.シャイン『キャリア・アンカー　自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
○平木典子『改訂版　アサーション・トレーニング –さわやかな〈自己表現〉のために』金子書房
○中原淳・長岡健『ダイアローグ 対話する組織』ダイヤモンド社
○香取 一昭・大川 恒『ワールド・カフェをやろう！』日本経済新聞出版社
○金井寿宏『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
○J.D.クランボルツ、A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
スプツニ子!『はみだす力』宝島社
アンジェラ・ダックワース『やり抜く力 GRIT (グリット) –人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』ダイヤモンド社
○リンダ グラットン『ワーク・シフト–孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』プレジデント社
リンダ グラットン、アンドリュー スコット『LIFE SHIFT (ライフ・シフト) 』東洋経済新報社
○見舘好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方–マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究 』プレジデント社
中原淳、見舘好隆ほか『人材開発研究大全』東京大学出版会

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

※獲得目標の3つの力：【1】コミュニケーション能力、【2】幅広い視野・柔軟性、【3】失敗を恐れない志向性
１回　全体ガイダンス【1】【2】【3】
２回　社会で求められる力【1】【2】【3】
３回　インターンシップや地域活動 (先輩登壇) 【1】【2】【3】
４回　傾聴【1】
５回　アサーション・トレーニング【1】
６回　アイデンティティ【1】【2】【3】
７回　働くということ (社会人登壇) 【1】【2】【3】
８回　新しい仕事を創る【1】【2】【3】
９回　ダイアローグ【1】【2】
１０回　就職活動を知る (内定者登壇) 【1】【2】【3】
１１回　企業団体研究【1】【2】
１２回　計画された偶発性【1】【2】【3】
１３回　ロールモデルインタビュー (社会人を取材する) 【1】【2】【3】
１４回　ロールモデルインタビュー (先輩を取材する) 【1】【2】【3】
１５回　本授業の統括【1】【2】【3】

成績評価の方法　/Assessment Method

毎回の授業でのグループワークの相互評価および小テスト：73%
課題レポート (2回) ：12%
最終レポート (相互評価) ：15%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前に予め学習支援フォルダを確認し、授業で用いるレジュメやワークシートを印刷し、事前学習をしておくこと。授業終了後に指定するフォームを用いて、期日までに授業の振り返りを行うこと。2つのインタビュー課題をレポートにまとめて期日までに提出すること。

履修上の注意　/Remarks

【基本事項】
※月曜日と火曜日の授業の内容は同じです。
※眞鍋和博先生の「キャリアデザイン」(木曜・金曜) もほとんど同じ内容です。
※本授業は必修ではありませんが、将来のために大学生活をどう営むかを考える、1年生向けの授業です。よって、私もしくは眞鍋和博先生ほかの「キャリアデザイン」のいずれかを履修することをお勧めします。
※曜日や時限を間違って履修しても出席にはなりませんので注意してください。

【履修者調整について】
※グループワークの質を維持するために、受講人数の上限は160名とします。もし、上限を超える時は、1年生を優先とします。ただし、160名以内であれば2年生以上も受講できます。また、160名を超えた場合は、1年生であっても受講者数調整の対象になります。
※第1回の授業で受講人数を確認します。よって、第1回の授業に欠席した学生は履修できません (私のコマの中であれば、160名を超えない限り移動は可能です) 。

キャリア・デザイン 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループワークのメンバーは毎回シャッフルされます（グループを固定する回もあり）。毎週、初対面の学生と話せて学内の知り合いが増えます。また、インターンシップや地域活動など、自らのキャリア形成に役立つインフォメーションもあります。積極的にご参加ください。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観

コミュニケーション実践 【昼】

担当者名 /Instructor	眞鍋　和博 / MANABE　KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	自分の将来を切り拓いていくためのコミュニケーション能力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。

コミュニケーション実践	CAR111F

授業の概要　/Course Description

日本経団連の調査では、大卒新卒者に求める能力として『コミュニケーション力』が常にトップとなっています。ダイバーシティと言われるように、多様な価値観を持った人と円滑なコミュニケーションができることが、仕事を進めていく上でのポイントになります。
しかし、コミュニケーションが得意であると感じている人は少ないのではないでしょうか。
この授業では、コミュニケーションに対する考え方から基本的技術、ディスカッション技法など、コミュニケーションにおける実践的な知識、技術をテーマとします。
コミュニケーションが苦手な人にとってはコミュニケーションへの抵抗感を軽減しコミュニケーションに慣れていただきます。それだけではなく、就職活動や将来社会で実践できるコミュニケーションについて体験します。
講師は企業研修等の実務を行っている方が担当します。講師の話を聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながらコミュニケーションのトレーニングをします。したがって1クラスの人数を限定した講義となります。多数コマ開講していますので、都合のいい時間のコマに受講してください。

教科書　/Textbooks

レジュメを準備して進めていきます。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

コミュニケーション実践 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　全体ガイダンス　　【授業の目的、授業のルール、カリキュラム説明、評価方法、持参物など】
2回　コミュニケーション上手になるために
　　【名札作成、自己紹介、コミュニケーションとは、自分の価値観・固定観念の気づき、ミスコミュニケーションの原因など】
3回　聴くことの重要性
　　【「きく」の種類と重要性、聴く技術を磨く、あいづち、興味、関心を与える態度、安心を与える距離と位置と姿勢など】
4回　話す・伝えるテクニック
　　【効果的な表現力、伝えるときの態度、声を出す、目線・アイコンタクト、発声法、ジェスチャー、身振り・手振りなど】
5回　マナーおもてなしの心
　　【挨拶、言葉、笑顔、態度、身だしなみ、ホスピタリティマインドなど】
6回　美しい敬語をマスターする
　　【正しい日本語で話す、二セ丁寧語、若者言葉とはなど】
7回　障害をお持ちの方へのコミュニケーション
　　【高齢者、視覚状態体験、肢体不自由な方、杖をお持ちの方への歩行など】
8回　プレゼンテーションを磨く
　　【プレゼンテーションとは　、効果的な伝え方、姿勢、目線、声、表現方法、構成方法（PREP法）など】
9回　質問応対力（面接）
　　【面接力強化の為に必要な力、評価の高い応え方、授業で実践した表現復習など】
10回　グループディスカッション①
　　【ワンワード、ウィッシュポエム、ワールドカフェなど】
11回　グループディスカッション②
　　【グループディスカッションとは、ディスカッションの流れ、評価基準など】
12回　ディベート
　　【ディベートとは、目的、流れなど】
13回　授業の振り返り
　　【授業の振り返り、コミュニケーションとは、みなさんへのメッセージなど】
14回　発表
　　【1人プレゼンテーション】
15回　まとめ
　　【授業のまとめ、総括】

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…50%、授業の成果物…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前には、授業で取り扱う言葉の意味を理解しておいてください。また、授業後には学習した内容を振り返り、日常生活で活用できるように努めてください。

履修上の注意　/Remarks

特に準備することはありません。
講義の性格上、1クラス50名程度での開講となります。例年多数の履修希望者があり抽選となっています。まずは、履修登録をしていただきますが、その後の履修者調整の方法は掲示等でお知らせしますので、注意しておいてください。
また、抽選に当たったにも関わらず、授業を履修しない学生が見られます。そうすると、本当に受講したくても受講できない学生に迷惑がかかります。受講したいという意思を強く持っている学生に履修登録をしていただきたいと思います。
授業開始前までに予め前回授業の内容を振り返っておいてください。授業終了後には学修したスキルについて自主練習を行い、授業の内容を反復してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

コミュニケーション、マナー、傾聴、プレゼンテーション

プロフェッショナルの仕事I 【昼】

担当者名 /Instructor　見舘　好隆 / Yoshitaka　MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	ロールモデルを参考に、自己を省察し、現在何をすべきかに気付き、自らを成長させるために、主体的・積極的に活動する力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	社会で働く上で必要となるマナーはもちろん、企業団体や自己の利益追求のみならず、自らの仕事が社会に何らかの形で貢献すべきことを学ぶ。
	生涯学習力	●	ロールモデルを参考に、将来自らが生き生きと働くことができる仕事や業界への見通しをつかみ、大学生活をデザインする力を身につける。
	コミュニケーション力		

プロフェッショナルの仕事 I	CAR210F

授業の概要　/Course Description

＜目的＞現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した学生時代の物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの現状　②仕事の現実　③将来のために大学時代に何をすべきかを学びます。プレゼンテーションの流れは以下です。

1.企業団体の概要（現在および今後の方向性について）
2.仕事の概要（大卒の1年目、3年目、そして5年目の社員・職員が就く仕事内容と、仕事のやりがい）
3.大学時代にすべきこと・してほしいこと
4.学生へのメッセージ（学生が自分の将来を考えていく上でのアドバイス）

＜進め方＞講演者の企業団体および仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

＜目標＞様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くことです。そして、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解します。

教科書　/Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。原則、当日企業団体のパンフレットを配布します（用意できない時もあります）。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページをみて予習してください。

プロフェッショナルの仕事I 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　　全体ガイダンス
第2～15回　各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

※以下は過去の実績です。
＜2017年度＞株式会社サニーサイドアップ / 株式会社ジンズ（JINS） / JR九州エージェンシー株式会社 / 全日本空輸株式会社（ANA） / 日本放送協会（NHK） / 株式会社キャメル珈琲（カルディ・コーヒーファーム） / ヒルトン福岡シーホーク / 株式会社モスフードサービス（モスバーガー） / 日本たばこ産業株式会社（JT） / 株式会社スタートトゥデイ（ZOZOTOWN） / 京セラ株式会社 / 北九州市役所 / 株式会社西日本新聞社 / 株式会社近畿日本ツーリスト九州

＜2016年度＞株式会社電通九州 / 株式会社studio-L / 株式会社フジドリームエアラインズ / アイリスオーヤマ株式会社 / 福岡県庁 / 株式会社力の源ホールディングス（一風堂） / 株式会社ジャパネットホールディングス / 株式会社ワークスアプリケーションズ / 福岡地方検察庁 / 株式会社エイチ・アイ・エス / 株式会社西日本シティ銀行 / 株式会社星野リゾート・マネジメント / 株式会社ウェザーニューズ / 旭酒造株式会社（獺祭）

＜2015年度＞株式会社ムーンスター / 社団法人日本放送協会（NHK） / 株式会社ホテルオークラ福岡 / 宇宙航空研究開発機構（JAXA） / 九州旅客鉄道株式会社（JR九州） / 旭化成ホームズ株式会社 / 株式会社福岡銀行 / 株式会社タカギ / ソニーリージョナルセールス株式会社 / 株式会社阪急交通社 / 株式会社博報堂プロダクツ / 日本航空株式会社（JAL） / 株式会社ニトリ / 北九州市

＜2014年度＞株式会社クロスカンパニー / 北九州市 / 株式会社ジェイアイエヌ / 株式会社東急ハンズ / ハウステンボス株式会社 / 株式会社朝日新聞社 / 株式会社日本アクセス / 東京海上日動火災保険株式会社 / 株式会社JTB九州 / アイ・ケイ・ケイ株式会社 / 伊藤忠エネクス株式会社 / 株式会社山口フィナンシャルグループ（山口銀行・北九州銀行・もみじ銀行） / 株式会社再春館製薬所 / 全日本空輸株式会社

成績評価の方法　/Assessment Method

毎回の授業で課される予習とレポート…91%　　最終レポート…9%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前に指定するフォームを用いて、期日までに登壇企業団体の事前学習を提出すること。また、学習支援フォルダを確認し、授業で用いるレジュメやワークシートがあれば印刷して精読し持参すること。
授業終了後に指定するフォームを用いて、期日までに授業の振り返りを提出すること。

履修上の注意　/Remarks

履修者人数の確認を行いますので必ず第1回は出席するようにしてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体で働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。また、本学の学生を是非採用したいと考える企業団体です。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

キーワード　/Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ

プロフェッショナルの仕事II 【昼】

担当者名 /Instructor　見舘　好隆 / Yoshitaka　MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理力	●	アクティブラーニングを通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気付き、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	アクティブラーニングを通して、社会で働く上で必要となるマナーや素養、能力を身につける。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

プロフェッショナルの仕事Ⅱ	CAR211F

授業の概要　/Course Description

＜目的＞社会で働くために必要とされる課題解決能力を身につけるために、地元企業団体の現場の課題を題材に、グループで課題解決案を策定・発表し、その企業団体から評価をもらうことが目的です。

＜進め方＞以下のスキームで企業団体（5団体）の課題に挑戦し、各チームで競います。

1.企業団体の社会人にご登壇頂き、現場で対峙しているリアルな課題を提示していただきます。
2.提示された課題についての解決プランを作成します。
3.企業団体の社会人に対し、解決プランを中間発表します。
　ここで社会人の方から直接、修正・改善のフィードバックを頂きます。
4.フィードバックを手掛かりに、提示された課題についての解決プランの最終案を作成します。
5.企業団体の社会人に対し、解決プランの最終案を提示します。
　社会人の方が直接評価を行い、その結果がそのまま成績に反映されます。

＜目標＞現場で働く社会人から自らがプランした案に対してフィードバックを頂き、修正し、最終評価を頂くことで、企業団体にて実際に働くために必要とされる課題解決能力を身につけます。そして、その経験を糧に、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解します。

教科書　/Textbooks

テキストはありませんが、企業団体の資料はその都度配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなど行い、中間および最終発表の準備をしてください。
また、以下書籍を参考にしてください。
○ジェームス W.ヤング『アイデアのつくり方』CCCメディアハウス
○嶋浩一郎『嶋浩一郎のアイデアのつくり方』ディスカヴァー・トゥエンティワン
○加藤昌治『考具 - 考えるための道具、持っていますか?』CCCメディアハウス
○加藤昌治『チームで考える「アイデア会議」 考具 応用編』CCCメディアハウス
○香取 一昭・大川 恒『ワールド・カフェをやろう！』日本経済新聞出版社
○金井寿宏『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
○J.D.クランボルツ、A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
スプツ二子!『はみだす力』宝島社

プロフェッショナルの仕事II 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　　全体ガイダンスと課題解決の方法についての講義
第2～4回　各企業団体による課題提示
第5回　課題解決の方法についての講義
第6～10回　中間発表
第11～15回　最終発表

※参考
＜2017年度の企業団体と課題＞
■NHK北九州放送局
毎日見たくなる「ニュースブリッジ北九州」になるためには？
■北九州市役所（漫画ミュージアム）
北九州市漫画ミュージアムの魅力を高め、集客実績をあげるには？
■株式会社力の源ホールディングス（一風堂）
来春、一風堂○○店の月600 名以上の客数アップ策について
■株式会社タカギ
一体型浄水器に乗り換え大作戦！
■株式会社大創産業（DAISO）
学生がアルバイトをしたくなるお店とは？

＜2016年度の企業団体＞
NHK北九州放送局 / 北九州市役所 / 株式会社力の源ホールディングス（一風堂） / 株式会社タカギ / 株式会社大創産業（DAISO）

＜2015年度の企業団体＞
株式会社インテリジェンス / 北九州市役所 / 株式会社力の源ホールディングス（一風堂） / 株式会社タカギ / 株式会社スターフライヤー

＜2015年度の企業団体＞
株式会社名門大洋フェリー / 株式会社朝日新聞社 / 株式会社井筒屋 / 株式会社タカギ / 北九州市役所

成績評価の方法　/Assessment Method

毎回の授業への取り組み（リフレクション）･･･65%
最終発表に対する評価（企業団体からの評価と相互評価）･･･30%
最終レポート･･･5%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなど行い、中間および最終発表の準備をしてください。また、授業終了後は指定するフォームにて振り返りを行ってください。

履修上の注意　/Remarks

※第1回で挑戦する課題とグループを決めますので、必ず第1回は出席してください。何らかの事情で出席できない場合は、事前に教員（mitate@kitakyu-u.ac.jp）までメールで連絡をしてください。
※課題に対する取り組み（授業時間以外でのグループワークやフィールドリサーチ、統計資料収集など）による、最終発表が評価の半分を占めます。企業団体のリアルな課題に対し、企業団体の現役社員（職員）からの生のフィードバックが頂ける企業な経験を積むことができます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

就職活動のスケジュールが変わり、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップが、将来の見通しを見出すために重要なファクターとなります。しかし、インターンシップは必ずしも希望する学生全てが参加できません（受け入れ企業団体が少ないため）。ゆえに、「授業の中」に企業団体の課題に取り組む機会を作り込み、現場の仕事を体感することで、多くの学生が働くことをイメージすることを狙って設計した授業です。企業団体の方から、直接フィードバックをもらえる機会はなかなかありません。本授業での経験を手掛かりに将来の見通しのヒントを得て、そのヒントを今後の大学生活における学業や課外活動への取組に活かすことを切に願っています。

キーワード　/Keywords

キャリア、成長、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、マーケティング、クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、リーダーシップ

地域の達人 【昼】

担当者名 /Instructor　眞鍋　和博 / MANABE　KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	社会人からキャリアを構築するための思考様式、行動様式について学ぶ。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの必要性を理解し実践し続けることができる。
	コミュニケーション力		

地域の達人	CAR212F

授業の概要　/Course Description

この授業のコンセプトは、「もうひとつの名刺を持つ」

・ 会社組織やNPO法人などで、仕事として社会貢献・ 地域貢献活動を行っている方
・ 仕事以外で社会貢献・ 地域貢献活動を行っている方
・ 雇われないで個人として仕事をしている方
・ 会社やお店を経営している方
このような社会人をお招きし、以下の点についてお話していただきます。

①どんな活動をしているのか
②活動のねらい、社会的意義、成果
③活動するときに乗り越えた壁
④人、組織をどう動かすのか
⑤将来ビジョン

企業に雇われて働くというキャリアが唯一のキャリアではありません。
この授業ではサラリーマン以外の道を歩まれている方から、
自分でやること、社会や地域のためにやるべきこと、リーダーシップなどを学びます。

教科書　/Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特に指定しません。

地域の達人 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回～13回　地域の達人によるお話
第14回　達人を振り返る
第15回　まとめ

【これまでの登壇者】
海外ボランティアNPO法人代表、ソーシャル大学学長、公務員、ボーカリスト、障がい者自立団体代表、銀行員兼産学連携コーディネーター、照明デザイナー、物流・運送会社社長、総合交通産業社長、サラリーマン兼ギタリスト、IT企業起業家、不動産会社社長、まりづくりプロデューサー、といった方に登壇いただきました。どの「達人」も仕事かどうかにかかわらず、「社会に役立つこと」を考え、強い想いの下に実践をされている方ばかりでした、
2016年度も昨年度と同様に「熱い達人」たちをゲストにお招きする予定です。

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…60%　レポート…40%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

初回の講義時に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に話者について調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分のキャリアや将来展望にどのような影響があったのかについて考えを深めてください。

履修上の注意　/Remarks

外部から講師をお招きします。遅刻や授業途中の入退室はしないでください。
授業開始前までに予告された情報をもとに、登壇者について事前に調べておいてください。授業終了後にはお話をお聞きする中で生じた疑問について各自で調べ、疑問を解消するようにしてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

facebookに『地域の達人』ページを開設しています。予告とアーカイブを掲載していますので、確認しながら授業を受講してください。

キーワード　/Keywords

NPO、NGO、地域貢献、社会貢献、ソーシャルビジネス、コミュニティビジネス、会社経営、起業、キャリア、まちづくり、個人事業主

サービスラーニング入門I 【昼】

担当者名 /Instructor　石川　敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の課題に関心を持ち、気づき、考えられるようになる。
関心・意欲・態度	自己管理力	●	地域で活動する上で求められる自己管理力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの重要性を理解する。
	コミュニケーション力		

サービスラーニング入門I	CAR110F

授業の概要　/Course Description

本講義は地域共生教育センター担当科目として開講します。
地域貢献活動に参加するための入門科目として、主に以下の点を目的とします。

・ サービスラーニングに向けた基本的知識の学習
・ サービスラーニングに向けた実践的方法論の習得
・ 地域活動に参加している学生との交流を通じた地域活動に対する参加意欲の向上
・ 地域活動の実践と学び

教科書　/Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第１回目　ガイダンス　講義の目的、受講に当たっての留意事項の説明、レポート課題の説明
第２回目　サービスラーニング概論①（サービスラーニングという概念と考え方）
第３回目　サービスラーニング概論②（サービスラーニングの理論と実践）
第４回目　地域活動概論①（地域活動の紹介）
第５回目　地域活動概論②（コミュニティワークの紹介と応用）
第６回目　地域活動参加学生とのワークショップ①
第７回目　地域活動参加学生とのワークショップ②
第８回目　サービスラーニング活動の紹介
第９回目　サービスラーニングに向けて①（マナー・ルール・手続き等について）
第１０回目　サービスラーニングに向けて②（サービスラーニングを通じた学びへの姿勢）
第１１回目　実践報告①
第１２回目　実践報告②
第１３回目　実践報告③
第１４回目　実践報告④
第１５回目　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

「第一回講義時の事前レポート＋講義中の課題」（６０点）+「実践報告レポート」（４０点）＝合計１００点評価

サービスラーニング入門I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたり、事前の綿密な準備や計画を必要とします。受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また、「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

履修上の注意　/Remarks

本科目は、受講者の「サービス・ラーニング」への参加を前提としています。したがって受講生は、自ら「サービス・ラーニング」を受け入れてくれる団体を探し、受け入れの交渉と了解を得、その後、実際に活動をしてもらいます。
このような意味から、本講義は受講者の積極性や自発性を必要とします。そのため第一回目の授業の際に、この科目の履修するにあたっての思いや学びに向けた考えなどについて「事前レポート」（１５００字程度）を書いてもらい、それを第二回目の講義の際に提出してもらっています。このレポートの提出は単位取得のための必須条件としています。本講義では、こうした課題などに積極的にコミットする受講生を求めます。
さらに本講義では、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査や面談のためのアポイント、学習計画書の作成や実習に出向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことを望みます。詳細は第一回のガイダンスの際に説明しますので必ず出席してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本科目は、全学組織である地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。また、この講義は、第二学期開講の「サービス・ラーニング入門II」と連動していますので、続けて履修されることを望みます。

キーワード　/Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び

サービスラーニング入門II 【昼】

担当者名 /Instructor　石川　敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の課題に気づき、考え、解決に向けて行動が起こせるようになる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの重要性を理解する。
	コミュニケーション力	●	他者とともに円滑な活動ができるために必要な、基礎的な力を身につける。

サービスラーニング入門II	CAR180F

授業の概要　/Course Description

地域共生教育センターが担当する科目です。この授業の目的は、受講生が実際に地域活動に参加し、その実践をふりかえることでより深い学びを得るところにあります。授業では、各学生が自らの参加が参加した「サービスラーニング」の活動内容とそこでの学びを報告し合い、互いの議論を通じて、学習と理解を深めていきます。この授業を通じて多くの学びと気付きを得られることを期待します。

教科書　/Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1　ガイダンス
2　サービス・ラーニング概論①（サービスラーニングの理論枠組み）
3　サービス・ラーニング概論②（実践としてのサービスラーニングについて）
4　サービス・ラーニングの実践と学び①（受入先の探索）
5　サービス・ラーニングの実践と学び②（実践にむけての心構えと準備）
6　サービス・ラーニングの実践に向けて①（実習先での学習計画の作成・提出）
7　サービス・ラーニングの実践に向けて②（学習計画書の修正・提出）
8　計画発表会①
9　計画発表会②
10　実践報告①
11　実践報告②
12　実践報告③
13　実践報告④
14　受講生による振り返り
15　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加貢献（50点）+ 活動報告書（50点）= 100点

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたり、事前の綿密な準備や計画を必要とします。受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また、「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

サービスラーニング入門II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

本科目は、前期の「サービス・ラーニング入門I」と連動しています。そのため講義内容も「サービス・ラーニング入門I」を履修した学生を対象にしたものとなります。ですので、受講希望者は１学期の「サービス・ラーニング入門I」を履修してから本科目を登録するようにしてください。「サービス・ラーニング入門I」の単位を取得していない学生の履修を認めないわけではありませんが、上述のように「サービス・ラーニング入門Iの内容を踏まえた講義になりますので、「サービス・ラーニング入門II」から履修しようとする学生に対しては、授業のはじめに別途課題を課します。そして、その課題＋「サービス・ラーニング入門IIの課題」の両方を提出して、初めて単位を認めるかたちとします。以上の点を十分に留意し履修登録して下さい。
また本講義は、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査やアポイント、学習計画書の作成、実習に出向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことを望みます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

「サービス・ラーニング入門I」で得られた学びをより深めていくことを目的としています。社会への貢献活動を通じて多くの学びと喜びを得てください。

キーワード　/Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び、ピアディスカッション

プロジェクト演習I 【昼】

担当者名 /Instructor	見舘　好隆 / Yoshitaka　MITATE / 地域戦略研究所
履修年次 /Year	2年次
単位 /Credits	2単位
学期 /Semester	1学期
授業形態 /Class Format	演習
クラス /Class	２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気付き、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	初対面の人でもすぐに打ち解ける力を身につけるために、多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとるスキルを獲得する。

プロジェクト演習Ⅰ	CAR280F

授業の概要　/Course Description

＜目的＞教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

＜演習の進め方＞最初に自己分析を行い、成長させたい力と、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

＜期待される効果＞将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2018年1月現在の対象プロジェクト：オープンキャンパスプロジェクト、キャリアーナ

教科書　/Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　　目標設定と実施計画策定
第2～14回　プロジェクトに取り組みます。
第15回　　リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法　/Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

プロジェクトによって内容や時期が変わります。随時指示をします。オープンキャンパスプロジェクトの場合は昨年度の報告書を精読してください。

プロジェクト演習I 【昼】

履修上の注意　/Remarks

※時期にもよりますが、毎週ないし月に数回、全体でのミーティングや、リーダーのみのミーティングを設定し、その都度、情報共有と課題に対する議論、そして次回ミーティングまでの課題を洗い出して、メンバーで話し合って決めたスケジュール（ガントチャートなど）に基づき、主体的に活動を行ってください。
※履修対象者は原則2年次です。
※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認してから履修登録してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード　/Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

プロジェクト演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　見舘　好隆 / Yoshitaka　MITATE / 地域戦略研究所, 柳井　雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気付き、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	初対面の人でもすぐに打ち解ける力を身につけるために、多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとるスキルを獲得する。

プロジェクト演習Ⅱ	CAR281F

授業の概要　/Course Description

＜目的＞教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

＜演習の進め方＞最初に自己分析を行い、成長させたい力と、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

＜期待される効果＞将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2018年1月現在の対象プロジェクト：JOB×Project、キャリアーナ

教科書　/Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　目標設定と実施計画策定
第2～14回　プロジェクトに取り組みます。
第15回　リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法　/Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

プロジェクトによって内容や時期が変わります。随時指示をします。JOB×Projectの場合は昨年度の報告書を精読してください。

プロジェクト演習II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

※時期にもよりますが、毎週ないし月に数回、全体でのミーティングや、リーダーのみのミーティングを設定し、その都度、情報共有と課題に対する議論、そして次回ミーティングまでの課題を洗い出して、メンバーで話し合って決めたスケジュール（ガントチャートなど）に基づき、主体的に活動を行ってください。
※履修対象者は原則2年次です。
※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認して、2学期の履修登録の修正登録期間に履修登録してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード　/Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

プロジェクト演習III 【昼】

担当者名 /Instructor	見舘　好隆 / Yoshitaka　MITATE / 地域戦略研究所
履修年次 /Year	3年次
単位 /Credits	2単位
学期 /Semester	1学期
授業形態 /Class Format	演習
クラス /Class	3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気付き、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会人との交流をヒントに、将来自らが生き生きと働くことができる仕事や業界への見通しをつかみ、大学生活をデザインする力を身につける。
	コミュニケーション力		

プロジェクト演習Ⅲ	CAR380F

授業の概要　/Course Description

＜目的＞教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

＜演習の進め方＞最初に自己分析を行い、成長させたい力と、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

＜期待される効果＞将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2018年1月現在の対象プロジェクト：オープンキャンパスプロジェクト、キャリアーナ

教科書　/Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　　目標設定と実施計画策定
第2～14回　プロジェクトに取り組みます。
第15回　　リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法　/Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

プロジェクトによって内容や時期が変わります。随時指示をします。オープンキャンパスプロジェクトの場合は昨年度の報告書を精読してください。

プロジェクト演習III 【昼】

履修上の注意　/Remarks

※時期にもよりますが、毎週ないし月に数回、全体でのミーティングや、リーダーのみのミーティングを設定し、その都度、情報共有と課題に対する議論、そして次回ミーティングまでの課題を洗い出して、メンバーで話し合って決めたスケジュール（ガントチャートなど）に基づき、主体的に活動を行ってください。
※履修対象者は原則3年次です。
※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認してから履修登録してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード　/Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

プロジェクト演習IV 【昼】

担当者名 /Instructor　見舘　好隆 / Yoshitaka　MITATE / 地域戦略研究所, 柳井　雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気付き、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会人との交流をヒントに、将来自らが生き生きと働くことができる仕事や業界への見通しをつかみ、大学生活をデザインする力を身につける。
	コミュニケーション力		

プロジェクト演習IV	CAR381F

授業の概要　/Course Description

＜目的＞教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

＜演習の進め方＞最初に自己分析を行い、成長させたい力と、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

＜期待される効果＞将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2018年1月現在の対象プロジェクト：JOB×Project、キャリアーナ

教科書　/Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　　目標設定と実施計画策定
第2～14回　プロジェクトに取り組みます。
第15回　　リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法　/Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

プロジェクトによって内容や時期が変わります。随時指示をします。JOB×Projectの場合は昨年度の報告書を精読してください。

プロジェクト演習IV 【昼】

履修上の注意　/Remarks

までの課題を洗い出して、メンバーで話し合って決めたスケジュール（ガントチャートなど）に基づき、主体的に活動を行ってください。
※履修対象者は原則3年次です。
※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認して、2学期の履修登録の修正登録期間に履修登録してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード　/Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

教養特講I (教養を磨く『新聞のちから』) 【昼】

担当者名 /Instructor　読売新聞西部本社､基盤教育センター 稲月 正、永末 康介

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

教養特講Ⅰ	SPL001F

授業の概要　/Course Description

社会を映す鏡として生きた教材になる新聞を活用し、将来の就職活動や社会人生活に役立つ「読む力」「書く力」「話す (伝える) 力」とともに、時事問題の知識や教養を身につけます。グループワークも実施し、物事を深く考えて企画する力や、チームで働く力なども身につけられるようアシストします。様々な学部等の学生が集まり、共に学ぶことができる講座です。

教科書　/Textbooks

教科書は使用しません。読売新聞朝刊 (講義開催週の３日分、全15回分で税込み計1800円) を授業資料として活用する予定です。１回目の授業で、新聞の受け取り方法等について説明します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

図書館にある読売新聞以外の新聞も活用します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１～２回　　オリエンテーション
第３～１０回【個々の力を伸ばす】　新聞活用術や時事問題に対する考え方、文章の書き方、取材・調査方法などを学ぶ
第１１～１５回【共に働く力を伸ばす】 グループワークや発表

「時事問題や正しい日本語の使い方に関するクイズ」「新聞への投稿」「まわし読み新聞」など、新聞を活用した演習を実施します。文章添削も行う予定です。

成績評価の方法　/Assessment Method

課題やグループワークへの取り組みの度合いで総合的に判断します。
詳しくは１回目の授業で説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

新聞を毎回活用します。
就職活動に役立ちそうな簡単な演習などを課題として出題する予定です。

履修上の注意　/Remarks

受講生の理解度や講義の進捗に応じて授業計画等が変わる場合もあります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

新聞社、大学、若い皆さんが力を合わせ、楽しみながら社会に通用する実践力を身につける講座にしたいと考えています。

キーワード　/Keywords

新聞、メディア、現代社会、情報リテラシー、就職活動、社会人基礎力

教養特講II (現代社会とエシカル消費) 【昼】

担当者名 /Instructor　大平　剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

教養特講Ⅱ	SPL002F

授業の概要　/Course Description

グローバル化が進むことによって、人、モノ、カネ、情報の流れが加速化し、感覚的に私たちは地球を小さく感じるようになった。また、相互依存が深化したことで、今や遠い地の出来事を他人事として済ますことはできなくなってきた。私たちの豊かな暮らしは誰かの犠牲の上に成り立っているのではないか、そのような不正義は許されるのかという意識、すなわち「グローバルな倫理」が問われる時代になっている。

本講義では、具体的な事例をもとに、私たちの消費活動を倫理的観点から捉え直してみたい。そこで、「フェアトレード」「ファスト・ファッションとエシカル・ファッション」「紛争鉱物とエシカル・スマホ」「ペットボトルと水道水」「100円ショップ」を具体的事例として取り上げ、倫理的消費について学生とともに考えたい。

この講義を通して、受講生が日々の暮らしを見つめ直し、環境に負荷をかけない生活を考えるとともに、先進国の大量消費活動の裏側でどのような事態が進行しているのかを考える契機としたい。

教科書　/Textbooks

特に指定はありません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に指示しますが、次に挙げる文献はとても参考になります。
○子島進他『館林発フェアトレード - 地域から発信する国際協力』上毛新聞社、2010年。
アジア太平洋資料センター編『徹底解剖100円ショップ』コモンズ、2004年。
末吉里花『はじめてのエシカル』山川出版社、2016年。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション (講義の目的、進め方、文献案内など)、「エシカル消費」について
第2回　アジア太平洋資料センター (PARC) 編『もっと！フェアトレード』(DVD) の上映とディスカッション
第3回　フェアトレードの展開、役割、課題
第4回　宮下緑氏の講演：「お買物で世界は変わる–人と環境にやさしいライフスタイルの提案」
第5回　ファスト・ファッションとエシカル・ファッション『ザ・トゥルー・コスト』(DVD) 前半
第6回　『ザ・トゥルー・コスト』(DVD) 後半の上映とディスカッション
第7回　紛争問題と私たちの暮らしの関係
第8回　アジア太平洋資料センター (PARC) 編『スマホの真実』(DVD) の上映とディスカッション
第9回　山田麻樹氏による講演：「等身大の自分でチャレンジするフェアトレードビジネス」
第10回　ペットボトルが生み出す環境破壊
第11回　「100円ショップ」の舞台裏
第12回　アジア太平洋資料センター (PARC) 編『徹底解剖！100円ショップ』の上映とディスカッション
第13回　牛嶋麻里子氏による講演：「チョコレートから考えるフェアトレード」(仮)
第14回　受講生によるプレゼンテーション大会1
第15回　受講生によるプレゼンテーション大会2

教養特講II（現代社会とエシカル消費）【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

課題の提出（5回×20％）・・・ 100％
テーマが終了する度に、そこで学んだことについてレポートを課します（A4一枚程度）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習として、各回のキーワードについてウェブサイトなどで調べておいてください。事後学習としては、実生活を通して学んだことの確認を行ってください。

履修上の注意　/Remarks

DVDを視聴し、理解を深めます。その際、ディスカッションを行いますので、他人と議論するのを恐れずに、積極的に参加してください。また、第14回と第15回では、関心を持った事柄について、個人ないしはグループでのプレゼンテーションを予定しています。それを念頭に受講して下さい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業では、各方面で活躍されている外部講師の方を3名お招きし、実際の現場の話を交えてご講義いただきます。

キーワード　/Keywords

フェアトレード、エシカル

教養特講III（まなびとESD講座I）【昼】

担当者名 /Instructor	眞鍋　和博 / MANABE　KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
1年次	2単位	1学期	講義	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

教養特講Ⅲ	SPL003F

授業の概要　/Course Description

本授業では、ESD（持続可能な発展のための教育）に必要となる、様々な分野の領域を横断的に学習することによって、持続可能な社会を構築するための知識や能力を育成することを目的とする。特に、公害を克服し、環境都市として変貌を遂げたプロセスに関わった方々のお話をお聞きすることで、地域の持続可能性について考えていただきます。
また、地域活動に必要な素養を身につけることも一つの狙いである。
この講義は、大学間連携共同教育推進事業の一環で開設した「北九州まなびとESDステーション」で6大学の単位互換講座として開講され、北九州市内の各大学の様々な分野の教員も担当する。

教科書　/Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1日目（第1回～第3回）
・ ESDとは何か？（オリエンテーション）、学びに対する目標設定等
2日目（第4回～第6回）
・ ESDとテーマ①
3日目（第7回～第9回）
・ ESDとテーマ②
4日目（第10回～第12回）
・ ESDとテーマ③
5日目（第13回～第15回）
・ 学びの成果共有ワークショップ

※講義の詳細が決定次第お知らせします。

成績評価の方法　/Assessment Method

・ 授業への貢献度：60%
・ 授業における成果物：40%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前には、授業で取り扱う言葉の意味を理解しておいてください。また、授業後には学習した内容を振り返り、日常で活用できるように努めてください。

教養特講III（まなびとESD講座I）【昼】

履修上の注意　/Remarks

・本授業は、「北九州まなびとESDステーション（小倉北区の魚町商店街内）」等にて開講されます。
・基本的に土曜日や日曜日の10:30～16:00(休憩含む)で開講されます。
・横断的学習を行うに当たり、グループディスカションや屋外活動およびフィールドワークなどが課されることもあります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

持続可能な社会を構築するためには、特定の分野のみの知識の習得だけでは限界があります。環境・福祉・生活・次世代教育（子供）・生活学・国際理解等、様々な学問分野を横断的に学習する必要があります。本授業はESDに必要な素養を身につけるための基礎講座と位置づけられます。詳細は別途告知します。

キーワード　/Keywords

ESD、大学間連携事業、地域活動、横断的学習

教養特講IV（まなびとESD講座II）【昼】

担当者名 /Instructor　眞鍋　和博 / MANABE　KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

教養特講IV	SPL004F

授業の概要　/Course Description

本授業では、2016年に国連で採択された『SDGs』をテーマとして学びます。具体的には、SDGsとは何かを学んだ後に、北九州市内の各企業と連携し、企業にSDGsを取り入れるための対策について、学生の皆さんが調べ、プランニング、実践します。
この講義は、大学間連携共同教育推進事業の一環で開設した「北九州まなびとESDステーション」で6大学の単位互換講座として開講され、北九州市内の各大学の様々な分野の教員も担当します。

教科書　/Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1日目（第1回～第3回）
・ SDGsとは何か？（オリエンテーション）、学びに対する目標設定等
2日目（第4回～第6回）
・ SDGsテーマ①
3日目（第7回～第9回）
・ SDGsテーマ②
4日目（第10回～第12回）
・ SDGsテーマ③
5日目（第13回～第15回）
・ 学びの成果共有ワークショップ

※講義の詳細が決定次第お知らせします。

成績評価の方法　/Assessment Method

・ 授業への貢献度：60%
・ 授業における成果物：40%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前には、授業で取り扱う言葉の意味を理解しておいてください。また、授業後には学習した内容を振り返り、日常で活用できるように努めてください。

教養特講IV（まなびとESD講座II）【昼】

履修上の注意　/Remarks

・本授業は、「北九州まなびとESDステーション（小倉北区の魚町商店街内）」等にて開講されます。
・基本的に土曜日や日曜日の10:30～16:00(休憩含む)で開講されます。
・横断的学習を行うに当たり、グループディスカションや屋外活動およびフィールドワークなどが課されることもあります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

持続可能な社会を構築するためには、特定の分野のみの知識の習得だけでは限界があります。環境・福祉・生活・次世代教育（子供）・生活学・国際理解等、様々な学問分野を横断的に学習する必要があります。

キーワード　/Keywords

ESD、大学間連携事業、地域活動、横断的学習

教養特講IV（現代の日本の食と若者を考える）【昼】

担当者名 /Instructor　三宅 博之 / HIROYUKI　MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　集中　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

教養特講IV	SPL004F

授業の概要　/Course Description

近年、家でじっくり調理を行い、家族全員で談笑しながら食事を楽しむといった昭和半ばのサザエさんのような家族の光景はなくなってきた。時代の変化は早い。現在、人々が多忙になる中、中食、外食産業が発達し、大半の家族がそれらに頼っている。現在の若者たちは、なおさらである。同時に、中食や外食でもきちんと食べていればよいが、食べていない学生が多い。本学の学生の健康診断の結果を見れば、女子大学生の4分の1がやせすぎに入っている。今からきちんとした健康な身体づくりをしておいてください。そのために本演習があります。時間が合えば、保健師さんや管理栄養士さんに指導をお願いしています。

教科書　/Textbooks

＊秋山龍三・草野かおる（2015）『「食事」をただせば、病気、不調知らずのからだになれる』Discover、1500円
＊三浦理代・永山久夫（2010）『からだによく効く　食材＆食べあわせ手帖』池田書店、1200円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

＊上岡美保（2010）『食生活と食育～農と環境へのアプローチ』農林統計出版、1500円
＊外山紀子・長谷川智子・佐藤浩一郎編（2017）『若者たちの食卓～自己、家族、格差、そして社会』ナカニシヤ出版、3500円
＊岩村暢子（2014）『変わる家族、変わる食卓』中公文庫、895円

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

集中講義形式なので、１日目：４限、２日目：４限、３日目：４限　　４日目：３限
第１回　本授業の簡単な説明（グループ分けアクティビティ）
第２回　食育とは、グループディスカッション高校での家庭科教科書を参考にもしくは映画を教材に
第３回　簡単な調理：フルーツを皮をむいて切って、食べよう。直に包丁で切ってみよう。
第４回　栄養を学ぼう。。葉酸の働きとは？
第５回　台所用品とは何か？　包丁の使い方講習と実践
第６回　調理をやってみよう　（レジピはなんだ？）
第７回　調理をやってみよう
第８回　今日の振り返り
第９回　出汁を比べてみよう　（出汁の差によってこれぐらいが）　　お茶を比べてみよう
第１０回　調理をやってみよう　（レシピは何か？）
第１１回　調理をやってみよう
第１２回　今日の振り返り
第１３回　食べ合わせと栄養・調理法・保存法
第１４回　食の社会学～若者たちの食をめぐって。。。簡単な読みものとディスカッション
第１５回　レポートを書く

教養特講IV（現代の日本の食と若者を考える）【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

３０％：参加態度　　４０％：調理方法の上達　　30％：筆記試験

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に文献を読み、家でもよく調理をこころがけること。事後は、一日学んだことを振り返り、ノートにまとめる。

履修上の注意　/Remarks

食材を購入するのに、お金が必要です。厨房が設置されてあるところへの移動は大変かと思いますが、動きやすい格好で来てください。三角巾、手をふくタオル、マスクを持参ください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

とにかく、楽しくしましょう。食を通しての家族の団欒を知りましょう。

キーワード　/Keywords

食育、食べ合わせ、厨房、家庭、調理

地域の文化と歴史 【昼】

担当者名 /Instructor　南　博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年（2016年度以降入学生）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域の文化と歴史を理解し、愛着を持って地域のことを考える力を持つ。
技能	情報活用能力		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	北九州・下関地域の文化と歴史を知ることを通じ、地域の特長・課題を分析・考察できるようになる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	北九州・下関地域など、自ら関わる地域の文化や歴史に対して継続的に関心を持つ意欲を涵養する。
	コミュニケーション力		

地域の文化と歴史	HIS170F

授業の概要　/Course Description

北九州・下関地域のあゆみ、及びその過程で生まれた地域における文学を始めとする様々な文化に関して、基本的な事項を学ぶ。そのことを通じ、北九州市等の地域への愛着を深めるとともに、地域の課題を考察するきっかけをつかむことを目指す。

授業においては、各トピックに関する北九州・下関地域の第一人者をゲストスピーカーとしてお招きし、北九州・下関地域出身者のみならず地域外出身者にとっても学生生活やその後の諸活動に際しての学びとなるお話しをいただく。

教科書　/Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第　１回：　ガイダンス、本授業で対象とする「地域」とは
第　２回：　原始の地域
第　３回：　古代の地域
第　４回：　中世・近世の地域
第　５回：　幕末期の地域
第　６回：　明治以降の日本の近代化と地域
第　７回：　戦前・戦中・戦後復興期の地域
第　８回：　地域の美術、現代アート
第　９回：　地域の漫画文化、ポップカルチャー
第１０回：　地域の映画文化
第１１回：　地域の芸術、音楽、演劇①　【総論】
第１２回：　地域の芸術、音楽、演劇②　【各論】
第１３回：　地域の文学①　【総論】
第１４回：　地域の文学②　【各論】
第１５回：　地域の文化財 ～「日本遺産」について

※ゲストスピーカーの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。
※ゲストスピーカーは、地域で御活躍の文化人、北九州市・下関市の博物館・文学館等のミュージアムの専門職員、および市役所の担当部局の職員の方々等である。

地域の文化と歴史 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み：　30%
中間レポート：　35%
期末レポート：　35%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

　各回授業のテーマに関し、各自、事前に自分自身が知りたい内容を考えて授業に臨むこと。
　授業中に興味を持った事項について、各回授業後に各自が文献やインターネット情報等を用いて自主的に調べたり、北九州・下関地域の各種ミュージアム等を見学したりして理解を深めること。

履修上の注意　/Remarks

　授業計画については、ゲストスピーカーの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

　皆さんがこれから学生時代を過ごす北九州・下関地域の文化や歴史を学ぶことで、皆さんのこれからの学習やキャリア形成、また趣味の活動等にとってプラスとなる知識等を得ることができ、地域に対する関心が増して有意義な学生生活を送ることにつながる授業になると考えます。

キーワード　/Keywords

北九州・下関地域（関門地域）、歴史、文化、文学、芸術

地域の社会と経済 【昼】

担当者名 /Instructor　吉村　英俊 / YOSHIMURA, Hidetoshi / 経営情報学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年（2016年度以降入学生）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域の社会と経済を理解し、愛着を持って地域のことを考える力を持つ。
技能	情報活用能力		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	北九州・下関地域の社会と経済を知ることを通じ、現在の地域が抱える課題を分析・考察できるようになる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

地域の社会と経済	ECN170F

授業の概要　/Course Description

地域活性化や地域再生が日本における重要なキーワードになっている中、皆さんにおいて「地元」という言葉はどのように響くのか。１つの地域に愛情を持って、真剣に学習してみることは、自分の地元を考える良いきっかけとなる。この授業は、日本および世界における北九州・下関地域の社会的・経済的特性について様々な観点から学び、理解を深めることを通じて、地域の課題を発見し、何をすべきか、自らの意思で考えることを目指している。

本授業では、各トピックに関して現場での経験や造詣が深い方々をゲストスピーカとして招き、北九州・下関地域出身者、地域外出身者の双方にとって学びとなるお話をしていただく。

教科書　/Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回ガイダンス
第2回人口を通じてみる関門地域
第3回北九州の産業・社会
第4回北九州市政と市民
第5回下関の産業・社会・都市戦略
第6回地域の企業①
第7回地域の企業②
第8回地域再生の世界の様々な動きと北九州・下関地域の未来
第9回国際化によるビジネス環境の変化
第10回わが国の国際貢献の現状
第11回北九州市の国際化の取り組み
第12回新興国の現状と本学の取り組み
第13回企業の海外展開の現状
第14回企業の海外展開の現状
第15回国際化が進展する中で、いかに生きるか

地域の社会と経済 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

　北九州・下関地域の社会的・経済的特性に対して理解し説明ができること。さらに地域に関する多様な課題について、独自の思考で提言ができること。
・ショートレポート；５０％
・期末レポート；５０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

日ごろから新聞やインターネットなどを通じて、地域情報の収集に努めること。またさまざまな機会を通じて、地域の現状や展望について意見交換に励むこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

地域の社会と経済 【昼】

担当者名 /Instructor　柳　永珍 / RYU Young-Jin / 地域戦略研究所

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年（2016年度以降入学生）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域の社会と経済を理解し、愛着を持って地域のことを考える力を持つ。
技能	情報活用能力		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	北九州・下関地域の社会と経済を知ることを通じ、現在の地域が抱える課題を分析・考察できるようになる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

地域の社会と経済	ECN170F

授業の概要　/Course Description

地域活性化や地域再生が日本における重要なキーワードになっている中、皆さんにおいて「地元」という言葉はどのように響くのか。１つの地域に愛情を持って、真剣に学習してみることは、自分の地元を考える良いきっかけとなる。この授業は、日本および世界における北九州・下関地域の社会的・経済的特性について様々な観点から学び、理解を深めることを通じて、地域の課題を発見し、何をすべきか、自らの意思で考えることを目指している。
　本授業では、各トピックに関して現場での経験や造詣が深い方々をゲストスピーカとして招き、北九州・下関地域出身者、地域外出身の双方にとって学びとなるお話をしていただく。

教科書　/Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回　北九州の産業・社会
第3回　北九州市政と市民
第4回　下関の産業・社会・都市戦略　【地域シンクタンクや公共機関、NPO等から専門家招聘】
第5回　地域再生の世界の様々な動きと北九州・下関地域の未来　【地域シンクタンクや公共機関、NPO等から専門家招聘】
第6回　人口を通じてみる関門地域
第7回　地域の企業①　【地元企業の方招聘】
第8回　地域の企業②　【地元企業の方招聘】
第9回　国際化によるビジネス環境の変化
第10回　わが国の国際貢献の現状　【地域シンクタンクや公共機関、NPO等から専門家招聘】
第11回　北九州市の国際化の取り組み　【地域シンクタンクや公共機関、NPO等から専門家招聘】
第12回　新興国の現状と本学の取り組み
第13回　企業の海外展開の現状　【地元企業の方招聘】
第14回　企業の海外展開の現状　【地元企業の方招聘】
第15回　国際化が進展する中で、いかに生きるか
*講義のテーマ、順番、講師陣については若干の変更がある可能性をご承知おきください。

成績評価の方法　/Assessment Method

北九州・下関地域の社会的・経済的特性に対して理解し説明ができること。さらに地域に関する多様な課題について、独自の思考で提言ができること。
・ショートレポート；５０％
・期末レポート；５０％

地域の社会と経済 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

北九州・下関地域の社会や経済に関する情報は常にアップデートされ、メディアでも多く扱われています。日ごろから新聞、TV、インターネット等を通じて、アンテナを張って情報収集に努めてください。

履修上の注意　/Remarks

・遅刻、私語は他の受講生やゲストスピーカーの方の迷惑になるため、厳禁とします。
・ゲストスピーカーの都合等により、トピックの順番・内容が一部変更する場合があります。
・授業中に興味を持った事項について、各授業後に各自調べて理解を深めること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

皆さんがこれから学生時代を過ごす北九州・下関地域の社会や経済を学ぶことで、皆さんがこれからの学習やキャリア形成にとってプラスとなる知識等を得ることができ、地域に対する関心が増やして有意義な学生生活を送ることにつながる授業になると考えます。また、地域の現状と事情に密着した人材として、創造性の持つ人材として、地域での活躍ができる一歩であるとも考えています。

キーワード　/Keywords

シビックプライド、地域愛着、グローカル化、地域活性化

地域のにぎわいづくり 【昼】

担当者名 /Instructor　南　博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　2年（2016年度以降入学生）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域におけるにぎわいづくりの可能性や意義を理解し、地域に対する愛着を高める。
技能	情報活用能力		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	北九州・下関地域におけるにぎわいづくりに関する課題を現状に則して把握・分析し、課題解決に向けた方策の検討を行える力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

地域のにぎわいづくり	RDE270F

授業の概要　/Course Description

北九州・下関地域において、観光振興や各種イベント開催などを通じて地域を訪れる人々（交流人口）の増加等を図り、地域活性化につながる方策について学ぶ。また、地域活性化実現に向けた現状と課題を把握し、それを踏まえたにぎわいづくりプランを自ら立案する基礎的な力を得ることを目指す。

2018年度授業においては、2017年から供用開始されたミクニワールドスタジアム北九州（小倉駅から徒歩約7分）を主たる題材とし、スポーツを活かしたまちづくりの観点から、小倉駅周辺の活性化を視野に入れた「ミクニワールドスタジアム北九州集客プラン」をグループワークで作成する。作成に際し、ゲストスピーカーによる講義や、フィールドワーク等も実施する。授業は北九州市役所およびギラヴァンツ北九州等の協力のもとで実施する。

教科書　/Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

地域のにぎわいづくり 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第　１回：　ガイダンス　～講義の目的、履修上の注意など
第　２回：　にぎわいづくり政策（大規模スポーツ大会、MICE誘致、観光推進等）の意義
第　３回：　フィールドワーク①　ラグビー国際大会観戦（ミクニワールドスタジアム北九州）
　　【スタジアムの立地条件等の視察】
第　４回：　フィールドワーク①　ラグビー国際大会観戦（ミクニワールドスタジアム北九州）
　　【国際大会でのスタジアム利用の視察】
　　※第３～４回は、4月21日（土）または22日（日）に開催
第　５回：　ミクニワールドスタジアム北九州の概要、およびＪリーグクラブ：ギラヴァンツ北九州の社会的存在意義
第　６回：　課題設定：ミクニワールドスタジアム北九州集客プラン作成について
第　７回：　フィールドワーク②　ギラヴァンツ北九州試合観戦（ミクニワールドスタジアム北九州）
　　【試合前の各種イベントや飲食店舗等の状況視察】
第　８回：　フィールドワーク②　ギラヴァンツ北九州試合観戦（ミクニワールドスタジアム北九州）
　　【試合中の観客の盛り上がり等の状況視察】
第　９回：　フィールドワーク②　ギラヴァンツ北九州試合観戦（ミクニワールドスタジアム北九州）
　　【試合後の観客の小倉駅周辺回遊動向等の状況視察】
　　※第７～９回は5月中下旬の同一日（土曜または日曜）に開催
第１０回：　プラン作成①　【現状分析、課題抽出】
第１１回：　プラン作成②　【アイデア検討】
第１２回：　ギラヴァンツ北九州の実際の集客戦略の学習、およびプラン作成③【アイデア検討の深化】
第１３回：　プラン作成④　【プランとりまとめ】
第１４回：　ミクニワールドスタジアム北九州集客プラン報告会
第１５回：　各プランに対する詳細評価と実現に向けた課題の検討

※受講者数やギラヴァンツ北九州の試合開催日程等を踏まえ、授業計画を一部変更する場合がある。

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み（集客プラン作成への取り組み姿勢等）：　75%
期末レポート：　25%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

課題への取り組み（プラン作成）に向けては、講義時間以外において各自による情報収集・考察や、必要に応じたグループワークが必要となる。メンバーで協議の上、事前・事後学習に計画的に取り組むことが必要となる。
また、休日等に小倉駅周辺を散策するなどして、にぎわいづくりのあり方を考えることも事前・事後学習の一環となる。

履修上の注意　/Remarks

原則として２回のフィールドワーク（いずれも土曜または日曜に実施）への参加を必須とする。具体的日程は第１回授業において提示する。やむを得ない理由での欠席者には別日程でのフィールドワーク実施を検討する予定である。
フィールドワークにおいて、試合観戦料（計2,000円程度）および小倉駅までの交通費が必要となり、受講者の自己負担となる。
グループワークを行う班は、くじ引きで無作為にメンバーを決定する予定である。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

北九州・下関地域のにぎわいづくりプラン（2018年度においてはミクニワールドスタジアム北九州集客プラン）をグループワークで検討することにより、皆さんのこれからの多様な学習やキャリア形成にとってプラスとなる知識や経験を得ることができ、また、地域に対する関心が増して有意義な学生生活を送ることにつながる授業になると考えます。

キーワード　/Keywords

観光、イベント、MICE、集客、課題解決、スポーツを活かしたまちづくり、ミクニワールドスタジアム北九州（北九州スタジアム）

北九州市の都市政策 【昼】

担当者名 /Instructor　内田　晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年（2016年度以降入学生）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州市の都市政策全般についての知識を習得し、分野ごとの個別政策について理解を深めることで、地域への愛着を高める。
技能	情報活用能力		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	北九州市の都市政策を知り、地域の政策課題を見極めることで、課題解決に向けた総合的な判断力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	北九州市の都市政策を知り、現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高めることで、社会的責任と倫理観を持って行動することができる素養を身につける。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

北九州市の都市政策	PLC270F

授業の概要　/Course Description

北九州市の都市政策について、都市づくり、港湾、産業、保健福祉、環境など分野ごとの政策、及び個別プロジェクトに至るまで包括的に学ぶことで、地域への愛着を深めるとともに、地域の課題を考察するきっかけをつかむことを目指す。

本授業においては、各テーマに関して精通している北九州市役所の担当者等をゲストスピーカーとしてお招きし、北九州市出身者のみならず、市外出身者の双方にとって学びとなるお話をしていただく。

教科書　/Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス
第２回　北九州市の都市政策の歴史【五市合併、ルネッサンス構想、「元気発進！北九州」プラン】
第３回　北九州市の都市計画【都市計画マスタープラン、立地適正化計画】
第４回　北九州市の都市交通政策【環境首都総合交通戦略、モビリティマネジメント】
第5回　都心・副都心のまちづくり【紫川マイタウンマイリバー事業、再開発事業】
第6回　大規模未利用地を活かしたまちづくり【土地区画整理事業、城野ゼロカーボン地区、エリアマネジメント】
第7回　市民に親しまれる道づくり【バリアフリー、国家戦略特区を活用した賑わいづくり】
第8回　北九州市の港湾政策【響灘コンテナターミナル、北九州空港、インバウンド】
第9回　北九州市の産業・雇用政策【新成長戦略、企業誘致】
第10回　北九州市の保健福祉政策【子育て支援、高齢者支援】
第11回　公害克服と環境協力・環境学習【公害克服、環境国際協力、環境ビジネス、ESD、環境首都検定】
第12回　環境保全の幅広い取組み【公害防止法令、環境監視、ＰＣＢ処理、リスクマネジメント、生物多様性】
第13回　ごみの適正処理と資源循環【ごみ分別と有料化、資源循環、北九州エコタウン事業、環境未来助成】
第14回　地球温暖化と環境エネルギー対策【地球環境問題、京都議定書、再生可能エネルギー】
第15回　まとめ / 期末レポートの説明

※ゲストスピーカーは主に行政施策を担当している北九州市役所の担当部局職員の方を想定しています。なお、ゲストスピーカーの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性があります。

成績評価の方法　/Assessment Method

・毎回の授業レポート：30%
・期末レポート：70%

北九州市の都市政策 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

講義で習得する都市政策に関する知見や情報は、皆さんが普段から居住、通学している市街地に常に存在しています。普段から都市政策やまちづくりの事を意識しながら、まちを観察してみてください。講義中に興味を持った事は、事後に各自調べて理解を深めること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

北九州市のこれまでの都市づくり、これからの都市づくりを理解する上で、大変参考となる話を聞くことができます。本講義を受けることで、北九州市への愛着が増し、将来的に北九州市に定住する意向を強めてくれることを期待します。

キーワード　/Keywords

まなびと企業研究I 【昼】

担当者名 /Instructor	田中　ひろみ / Hiromi Tanaka / 地域戦略研究所

履修年次 /Year	2年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義・演習	クラス /Class	2年（2016年度以降入学生）

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域の企業特性や現況を認識し、地域企業の動向を総合的に理解する。
技能	情報活用能力		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域企業の課題を認識し、論理的に考察・分析を行い、課題解決を図る基礎力を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理力	●	仕事や人生で実現したいことを自己認識し、目的意識をもって主体的に行動する力を身に付ける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

まなびと企業研究Ⅰ	CAR270F

授業の概要　/Course Description

北九州・下関地域の企業(組織)について現状、課題、展望を認識し、考察することで理解を深めることがねらいです。
身近な地域企業や地域人材について学ぶことを通じ、働くことの価値、自己のキャリア、幅広い観点で社会動向を考える契機になることを期待します。
授業は、本地域の企業で働く社会人の講話を聴くことに加え、アクティブラーニングによる調査学習、グループ討議、課題の発表を実施するため、主体的に参加することが求められます。

教科書　/Textbooks

適宜、パワーポイント投影、ワークシートおよび資料を配布します

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

事前課題に基づき、必要な資料、図書、ホームページにて予習をしてください

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回　企業研究の意義と方法
第3回　企業研究の実践【「北九州・下関業界マップ」の活用】
第4回　地域企業の理解(1)【地域企業による講話、自己認識・考察】
第5回　地域企業の理解(1)【グループ討議、発表】テーマ：企業講話に基づき提示
第6回　地域企業の理解(2)【地域企業による講話、自己認識・考察】
第7回　地域企業の理解(2)【グループ討議、発表】テーマ：企業講話に基づき提示
第8回　フィードバック(リフレクション)
第9回　課題解決の手法と実践
第10回　地域企業の理解(3)【地域企業による講話(企業の課題提起)、自己認識・考察】
第11回　地域企業の理解(3)【グループ討議】テーマ：企業が提起する課題
第12回　地域企業の理解(3)【発表】
第13回　フィードバック(リフレクション)
第14回　地域企業の魅力発見【主要都市圏の企業比較、魅力的な働き方】
第15回　総括

※セルフワーク、グループワークを伴う「参加型授業」です
※本地域の企業で働く社会人による講話の予定回以外にもゲストスピーカーを招聘することがあります
※講話の予定業種【製造、サービス(含情報、人材)、金融、運輸 等】
※社会人とより近い距離で接し、企業概要のみならず、幅広くキャリア形成の話しを聴けると同時に、学生の質問に応えていただけます
※就職活動は、主に3年生から開始しますが、事前に企業研究の方法や社会人の生の声を聴くことにより動機付けを行います
※低学年インターンシップと就活生インターンシップの違いや意義、効用について知ることができます

まなびと企業研究I 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業の参加姿勢(質問、討議、発表、課題レポート)…90%
最終レポート…10%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：事前課題の予習
事後学習：事後課題の考察、発表準備、レポート作成

履修上の注意　/Remarks

・次年度開講「まなびと企業研究II」(インターンシップ)の履修希望者は、本授業を履修し、企業研究の方法、グループ討議の仕方について学習しておいてください
・原則、遅刻や授業途中の退室はできません
・事前課題や事後課題については、授業内で提示します
・グループワークを含むため、積極的に相互理解、協働学習に取り組んでください

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

社会人の準備段階である大学生活において、広い視野で物事を捉え、考え、行動することを習慣化し、地域社会の活性化を担う人材に成長してください。

2年生から社会人と接し、様々な働き方、企業のビジョンや職場環境等について理解を深め、自身の進路選択に活かしたい、あるいは就職の不安を払拭したい、就職活動を充実させたい、グループ討議や発表の機会を得たい学生の履修をお勧めします。

キーワード　/Keywords

地域企業、地域人材、課題解決、主体的行動、地域志向

まなびと企業研究II 【昼】

担当者名 /Instructor　田中　ひろみ / Hiromi Tanaka / 地域戦略研究所

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　集中　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　3年(2016年度以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域の企業実習を通して企業特性や現況を実践的に捉え、地域企業(現場)の動向を総合的に理解する。
技能	情報活用能力		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域企業の事象から問題を見抜き、課題を発見し、論理的に考察・分析を行い、解決策を表現することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力	●	仕事や人生で実現したいことに目的意識をもち、主体的に行動することで、成果に結びつく力を身に付ける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地域や社会の情勢に関心を抱き、的確に捉え、課題解決のための学びを持続することができる。
	コミュニケーション力	●	自己の考えを他者に分かりやすく説明する意欲を高め、積極的に相互関係を築く力を身に付ける。

まなびと企業研究Ⅱ	CAR370F

授業の概要　/Course Description

北九州・下関地域等の企業(組織)について企業研究をし、実際の職場を体験することで知識と実践の学びを深めることができます。
進路選択(就職活動)では、自分が希望する業種、企業、職種、あるいは規模、事業内容、雇用条件等が本当に自分に合っているのか見極める必要があります。
そのためには、自分の価値観や職業観だけではなく、進路先となる企業の価値観を理解し、その価値観に基づき、自分が力を発揮することができるのか、向上しようと努力できるのか、企業・組織から必要とされる人間力を形成できるのか等、熟慮しなければなりません。

身近な地域企業や地域人材について、インターンシップを通じて学び、働くことの価値、自己のキャリア、幅広い観点で社会動向を考え、自身の進路選択の指標にすることがねらいです。

授業は、事前研修、実習(インターンシップ)、事後研修の3つのパートで構成します。
【事前研修】
インターンシップの効用、社会人としてのマナー等を学び、インターンシップに目的意識を持って参加できるよう事前の目標設定をします。
【実習：インターンシップ】
実際の現場に身を置き、自分の五感+αを使い、調べたり、聞いただけでは分からないことを体験する実学の場とします。企業・組織では、日々何らかの課題解決をし、業務を遂行しているため、学生は提起された課題に真摯に取り組むことで、主体性や問題発見力、課題解決力、提案力を身に付けます。
【事後研修】
体験を通じて何を習得し、どのような工夫をしながら取り組んだのか、今後向上させる点はどんなところか、具体的にどのように研鑽するのか等、振り返りを行います。
実習報告書の作成に加え、自身の体験に基づく考えを他者へ発信する経験を積むため、報告会において発表をしてもらいます。発表へのフィードバックを受けることで、自己概念の見直しをします。

教科書　/Textbooks

適宜、パワーポイント投影、ワークシートおよび資料を配布します

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

インターンシップ先の選択時に、必要な資料、図書、ホームページにて企業研究をしてください

まなびと企業研究II 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス【学内インターンシップガイダンス充当】
・必ず1コマ受講
・5月中旬に実施予定
第2回　インターンシップ事前研修(1)【学内共通事前研修充当】
第3回　インターンシップ事前研修(2)【学内共通事前研修充当】
第4回　インターンシップ事前研修(3)【学内共通事前研修充当】
・第2回～第4回は、学内必須講座3種を各1コマ受講
・7月下旬～8月上旬に実施予定
第5回　インターンシップ事前研修(4)【インターンシップの意義と効用、目標設定、実習報告書の書き方】
・7月下旬～8月上旬に実施予定
第6回～第13回　実習【インターンシップ：地域企業の理解と実践】
・8月中旬～9月下旬(日程は、受入先によって異なります)
第14回～第15回　インターンシップ事後研修【活動報告、振り返り、総括】
・9月下旬に連続2コマにて実施予定(第2学期授業開始後の場合、平日夜間または土曜日に実施)

※各日程については、就職支援室(キャリアセンター)のスケジュールが決定次第発表します
※学内インターンシップガイダンスで紹介される連携企業等、北九州・下関市内企業の実習を原則とします、ただしエントリーが受理されなかった学生は、学外でのエントリーや他地域での振替をする必要があります(応相談)

《実習日数》4日以上 / 社
《実習時間》6時間以上 / 日(休憩時間を除く)

成績評価の方法　/Assessment Method

ガイダンス、事前研修、実習(インターンシップ：条件を満たす)、事後研修の全てに参加した学生のみ評価対象とします
参加姿勢(質問、討議、発表、課題レポート、実習状況)…90%
最終レポート「実習報告書」…10%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：インターンシップ先を選択するための企業研究、インターンシップ先決定後の更なる企業研究
事後学習：インターンシップ参加期間中は、実習日誌(レポート)を作成し、1日を振り返ります

履修上の注意　/Remarks

・単位取得には、ガイダンス、事前研修、実習(インターンシップ：条件を満たす)、事後研修の全てに参加する必要があります
・授業は、変則的な日程のため、他の授業や課外活動と重複しないよう調整をしてください
・講義および実習(受入先の実施内容による)では、グループワークを含むため、積極的に相互理解、協働学習に取り組んでください

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

社会人の準備段階である大学生活において、広い視野で物事を捉え、考え、行動することを習慣化し、地域社会の活性化を担う人材に成長してください。

社会では、「社会人基礎力」や「基礎的・汎用的能力」等の社会人として必要な能力を有する人材が求められており、インターンシップは、学生が社会の要請について実践の場を通じて知見を深める絶好の機会です。
経験値を増やすことで、自己概念が覆されることや、自分では気付いていなかった能力を知るきっかけにもなります。

インターンシップでの実学から、自身の知識や技能、人間力のステップアップが図れるよう、是非チャレンジしてください。

キーワード　/Keywords

地域企業、地域人材、課題解決、主体的行動、地域志向、就業体験、企業理解

データ処理 【昼】

担当者名 /Instructor　山田　寛 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国１－１．国１－２．再履

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

データ処理	INF101F

授業の概要　/Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書　/Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　本学の情報システム利用環境について 【ID】 【パスワード】 【ポータルサイト】 【北方Moodle】
２回　正確な文字入力と電子メールの送受信方法 【タイピング】 【電子メール】
３回　ネットワークの光と影１ 【情報倫理】 【セキュリティ】
４回　ネットワークの光と影２ 【著作権】 【個人情報保護】
５回　表作成の基本操作 【セル】 【書式】 【罫線】 【数式】 【合計】
６回　見やすい表の作成 【列幅】 【結合】 【ページレイアウト】 【印刷】
７回　関数を活用した集計表 【セルの参照】 【平均】
８回　グラフ作成の基礎 【グラフ】
９回　グラフ作成の応用 【目的に合ったグラフ】 【複合グラフ】
１０回　表・グラフ作成演習
１１回　データ処理の基礎 【散布図】 【相関】
１２回　データ処理演習１ 【データ処理の計画】
１３回　データ処理演習２ 【データ処理の実践】
１４回　データ処理演習３ 【データ処理手法の見直し】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に提示する課題 … 50%、
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む） … 50%

データ処理 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の内容を読んでおくこと。また、北方Moodleからアクセスできる表計算ソフトの使い方に関する動画教材は、パソコンはもちろんのこと、スマートフォン等の携帯端末からも視聴できる。積極的に視聴し、事前学習を行っておくこと。
授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。また、北方Moodleの動画教材も活用すること。
タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

コンピュータの基本的な操作 (キーボードでの文字入力、マウス操作など) ができるようになっておくと受講しやすい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード　/Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

データ処理 【昼】

担当者名 /Instructor　棚次　奎介 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
1年次	2単位	1学期	講義	国１－３．国１－４．再履

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

データ処理	INF101F

授業の概要　/Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書　/Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　本学の情報システム利用環境について 【ID】 【パスワード】 【ポータルサイト】 【北方Moodle】
２回　正確な文字入力と電子メールの送受信方法 【タイピング】 【電子メール】
３回　ネットワークの光と影１ 【情報倫理】 【セキュリティ】
４回　ネットワークの光と影２ 【著作権】 【個人情報保護】
５回　表作成の基本操作 【セル】 【書式】 【罫線】 【数式】 【合計】
６回　見やすい表の作成 【列幅】 【結合】 【ページレイアウト】 【印刷】
７回　関数を活用した集計表 【セルの参照】 【平均】
８回　グラフ作成の基礎 【グラフ】
９回　グラフ作成の応用 【目的に合ったグラフ】 【複合グラフ】
１０回　表・グラフ作成演習
１１回　データ処理の基礎 【散布図】 【相関】
１２回　データ処理演習１ 【データ処理の計画】
１３回　データ処理演習２ 【データ処理の実践】
１４回　データ処理演習３ 【データ処理手法の見直し】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に提示する課題 … 50%、
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む） … 50%

データ処理 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の内容を読んでおくこと。また、北方Moodleからアクセスできる表計算ソフトの使い方に関する動画教材は、パソコンはもちろんのこと、スマートフォン等の携帯端末からも視聴できる。積極的に視聴し、事前学習を行っておくこと。
授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。また、北方Moodleの動画教材も活用すること。
タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

コンピュータの基本的な操作 (キーボードでの文字入力、マウス操作など) ができるようになっておくと受講しやすい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード　/Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

データ処理 【昼】

担当者名 /Instructor　中尾　泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1学期未修得者再履

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

データ処理	INF101F

授業の概要　/Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書　/Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　本学の情報システム利用環境について 【ID】 【パスワード】 【ポータルサイト】 【北方Moodle】
２回　正確な文字入力と電子メールの送受信方法 【タイピング】 【電子メール】
３回　ネットワークの光と影１ 【情報倫理】 【セキュリティ】
４回　ネットワークの光と影２ 【著作権】 【個人情報保護】
５回　表作成の基本操作 【セル】 【書式】 【罫線】 【数式】 【合計】
６回　見やすい表の作成 【列幅】 【結合】 【ページレイアウト】 【印刷】
７回　関数を活用した集計表 【セルの参照】 【平均】
８回　グラフ作成の基礎 【グラフ】
９回　グラフ作成の応用 【目的に合ったグラフ】 【複合グラフ】
１０回　表・グラフ作成演習
１１回　データ処理の基礎 【散布図】 【相関】
１２回　データ処理演習１ 【データ処理の計画】
１３回　データ処理演習２ 【データ処理の実践】
１４回　データ処理演習３ 【データ処理手法の見直し】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に提示する課題 … 50%、
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む） … 50%

データ処理 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の内容を読んでおくこと。また、北方Moodleからアクセスできる表計算ソフトの使い方に関する動画教材は、パソコンはもちろんのこと、スマートフォン等の携帯端末からも視聴できる。積極的に視聴し、事前学習を行っておくこと。
授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。また、北方Moodleの動画教材も活用すること。
タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

コンピュータの基本的な操作 (キーボードでの文字入力、マウス操作など) ができるようになっておくと受講しやすい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード　/Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

情報表現 【昼】

担当者名 /Instructor　浅羽　修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。

情報表現	INF230F

授業の概要　/Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける。

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書　/Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１回　コンピュータを用いた情報表現 【ガイダンス】
２回　データの収集 【検索エンジン】 【情報の信頼性】
３回　データの加工 【表計算の復習】 【グラフ】 【チャート】
４回　データの表現 【レイアウト】 【デザイン】
５回　論理的な思考法の基礎１ 【課題発見】
６回　論理的な思考法の基礎２ 【原因分析】 【解決手段検討】
７回　プレゼンテーション作成演習
８回　個人発表
９回　個人発表とふりかえり
１０回　グループによる発表テーマ設定
１１回　グループによるスライド作成演習
１２回　発表配布資料作成演習
１３回　グループによる発表
１４回　グループによる発表と相互評価
１５回　まとめ

情報表現 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に提示する課題… 90％ 、積極的な授業参加 … 10％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業終了後には、必要に応じてパソコン自習室や自宅のパソコン等を用いて授業内容を反復すること。授業で提示された課題や演習に取り組む際は、授業時間外を積極的に活用し、特に、グループ活動においては、グループメンバーとよく議論を重ねること。

履修上の注意　/Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによるアクティブ・ラーニングを導入している。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード　/Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

情報表現 【昼】

担当者名 /Instructor　棚次　奎介 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。

情報表現	INF230F

授業の概要　/Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける。

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書　/Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１回　コンピュータを用いた情報表現 【ガイダンス】
２回　データの収集 【検索エンジン】 【情報の信頼性】
３回　データの加工 【表計算の復習】 【グラフ】 【チャート】
４回　データの表現 【レイアウト】 【デザイン】
５回　論理的な思考法の基礎１ 【課題発見】
６回　論理的な思考法の基礎２ 【原因分析】 【解決手段検討】
７回　プレゼンテーション作成演習
８回　個人発表
９回　個人発表とふりかえり
１０回　グループによる発表テーマ設定
１１回　グループによるスライド作成演習
１２回　発表配布資料作成演習
１３回　グループによる発表
１４回　グループによる発表と相互評価
１５回　まとめ

情報表現 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に提示する課題… 90％ 、積極的な授業参加 … 10％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業終了後には、必要に応じてパソコン自習室や自宅のパソコン等を用いて授業内容を反復すること。授業で提示された課題や演習に取り組む際は、授業時間外を積極的に活用し、特に、グループ活動においては、グループメンバーとよく議論を重ねること。

履修上の注意　/Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによるアクティブ・ラーニングを導入している。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード　/Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

情報メディア演習 【昼】

担当者名 /Instructor　浅羽　修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	書籍やインターネット、新聞・雑誌、テレビ・ラジオといったメディアの特性を理解し、そこから得た情報を活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	直面する課題を発見し、分析・解決・表現を自立的に行った結果に対して、省察を行うことができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

情報メディア演習	INF330F

授業の概要　/Course Description

本授業のねらいは、情報を伝達する媒介・媒質としての情報メディアの特性を概観し、情報メディアが人間社会に与える影響について考える力を身に付けることである。特に、本授業ではソーシャルメディアに着目し、その成り立ちや技術、社会的な課題を学ぶことで、一人ひとりがメディアへの関わり方を考え、人や社会とのつながりを再設計することで、新たなメディア環境を生きていくための力（メディア・リテラシー）を身に付けることを目的としている。そのことを踏まえて、本授業では、以下のような項目について学ぶ。

●ソーシャルメディアの歴史
●ソーシャルメディアの現在
●ソーシャルメディアの未来
●メディア・リテラシー

本授業では、チューター方式を用いる。すなわち、受講学生が与えられたテーマについて事前に調べ、その内容を授業の中の一部で発表・問題提起する方式である。発表・問題提起された内容を中心に、教員と受講学生とが議論を深めていく。また、場合によっては、グループを組んでひとつのテーマに取り組んでもらう。

教科書　/Textbooks

藤代裕之 編著：ソーシャルメディア論 - つながりを再設計する - 、青弓社、2015年、1,944円。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。

情報メディア演習 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回目：情報メディアとは何か　【ガイダンス】【情報メディア】
２回目：ソーシャルメディアの登場による影響と問題点　【ステルスマーケティング】【フィルターバブル】
３回目：ディスカッションのまとめ方１【ザ・マインドマップ】
４回目：ソーシャルメディアの歴史を知る1【歴史】
５回目：ソーシャルメディアの歴史を知る2【技術】
６回目：ソーシャルメディアの歴史を知る3【法】
７回目：ソーシャルメディアの現在を知る1【ニュースメディア】
８回目：ソーシャルメディアの現在を知る2【広告】
９回目：ディスカッションのまとめ方2【ブレーンストーミング】【KJ法】
１０回目：ソーシャルメディアの現在を知る3【政治】【キャンペーン】
１１回目：ソーシャルメディアの現在を知る4【都市】【権利】
１２回目：ソーシャルメディアの現在を知る5【モノ】
１３回目：ソーシャルメディアの未来を考える1【メディア】【共同規制】
１４回目：ソーシャルメディアの未来を考える2【システム】
１５回目：ソーシャルメディアの未来を考える3【教育】【人】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に実施する課題・・・ 45%、レポート・・・ 45%、授業への参加態度・・・ 10%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習として、授業開始前までに必ず教科書を読んで、その内容を理解しておくこと。また、チューター方式で授業を行うので、与えられたテーマについては授業時間外を含めて積極的に学習し、チューターとしての準備をしっかり行うこと。
事後学習として、授業内容を反復すること。また、チューターが終わったあとは、そこから学んだことをレポートとしてまとめること。

履修上の注意　/Remarks

「情報表現」を先に受講して、情報収集、情報加工、情報発信に関する知識や技術について学んでいると受講しやすい。
「情報社会への招待」や「情報社会を読む」を先に受講して、情報社会に関連する知識や技術、情報社会の未来に関する内容をある程度把握していると受講しやすい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

分からないところがある場合は、積極的に質問してもらいたい。また、受講者数が多数の場合は、受講者数調整を行う場合もある。

キーワード　/Keywords

ソーシャルメディア、メディア・リテラシー、ザ・マインドマップ、ブレーンストーミング、KJ法

情報メディア演習 【昼】

担当者名 /Instructor　中尾　泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	書籍やインターネット、新聞・雑誌、テレビ・ラジオといったメディアの特性を理解し、そこから得た情報を活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	直面する課題を発見し、分析・解決・表現を自立的に行った結果に対して、省察を行うことができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

情報メディア演習	INF330F

授業の概要　/Course Description

この授業では，プログラミング初心者でもコンピュータを能動的に使いこなし，プログラミングの基礎能力を獲得することを目指す。具体的には以下のような項目を身につける：

- 同じ処理を何度もくり返さなくても済むように，処理を自動化するテクニック
- 状況に応じて異なる処理をおこなう条件分岐テクニック
- グラフィックスを思い通りに制御するテクニック

教科書　/Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。適宜紹介する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１回　コンピュータのしくみの理解 【ガイダンス】
２回　プログラムを書いてみる 【エディタ】【エラーとバグ】
３回　プログラムで図形を描く 【キャンバス】【点と線】【円】
４回　プログラムで色を制御する【RGB】【HSB】【アルファチャンネル】
５回　計算と変数 【データ型】
６回　くり返し処理 【ループ】【乱数】
７回　座標の概念
８回　条件分岐
９回　作品制作１
１０回　作品中間発表
１１回　プログラミングにおける関数
１２回　変数についてより詳しく【ローカル変数】【グローバル変数】【配列】
１３回　インタラクティブな操作性【イベント処理】
１４回　作品制作２
１５回　作品発表とまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に実施する課題提出… 90% 、積極的な授業参加 … 10%

情報メディア演習 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

参考情報をはじめ，授業の資料等はe-Learningサイト「北方Moodle」に掲載する予定である。事前学習・事後学習に利用してもらいたい。また，プログラミング作品制作は授業外での作業が中心になる。

履修上の注意　/Remarks

プログラミングに関する知識は一切前提としないが，コンピュータ操作にある程度慣れておくと受講しやすいだろう。また，授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
授業の性格上，受講者数に制限を設けるため，受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業で，プログラミングに関する一通りの知識を習得すれば，さまざまなプログラミング言語への応用も可能になるだろう。

キーワード　/Keywords

プログラミング，マルチメディア

英語I (国 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor　葛西　宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語 I	ENG101F

授業の概要　/Course Description

重要な文法事項の確認と語彙力の増強を行いながら、英語の読解力と聴解力を養うことを目的とする。また、ＴＯＥＩＣ形式の問題演習を通して、ＴＯＥＩＣ形式に慣れることも目的とする。

教科書　/Textbooks

生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　Chapter 1
３回　Chapter 2
４回　Chapter 3
５回　Chapter 4
６回　Chapter 5
７回　Chapter 6
８回　Chapter 7
９回　Chapter 8
１０回　Chapter 9
１１回　Chapter 10
１２回　Chapter 11
１３回　Chapter 12
１４回　Chapter 13
１５回　Chapter 14

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験…５５％　小テスト・課題…３０％　日常の授業への取り組み…１５％

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：指定された範囲の予習
事後学習：授業で扱った内容の復習

履修上の注意　/Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として１学期に１回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。

英語I (国 1 - A) 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語I (国 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor　永末　康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語 I	ENG101F

授業の概要　/Course Description

基礎的な英語能力の定着を目的とする。さまざまな分野の英文を通して、文法能力・語彙力に加えて特に読む力（リーディング力）や聴く力（リスニング力）の向上を目指す。

教科書　/Textbooks

特になし。
適宜プリントなどを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜授業時や北方Moodleにて紹介。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション
2回　自分の好きな仕事(1)
3回　自分の好きな仕事(2)
4回　少子高齢化(1)
5回　少子高齢化(2)
6回　英語とのつきあい方(1)
7回　環境(1)
8回　環境(2)
9回　オリンピック(1)
10回　オリンピック(2)
11回　少子高齢化(3)
12回　これからの教育(1)
13回　これからの教育(2)
14回　英語とのつきあい方(2)
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験…30%、平常の学習状況（小テストを含む)…70%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業内で説明するか北方Moodle上に情報を掲載するので、各自でその指示に従うこと。

英語I (国 1 - B) 【昼】

履修上の注意　/Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。
初回授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語I (国 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor　渡邉　嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語 I	ENG101F

授業の概要　/Course Description

TOEIC受験を前提にした、英語リスニングとリーディングの能力を伸ばすことをテーマとする。

教科書　/Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　ガイダンス
2回 Unit 1 Eating Out
3回 Unit 2 Travel
4回 Unit 3 Amusement
5回 Unit 4 Meetings
6回 Unit 5 Personnel
7回 Unit 6 Shopping
8回 まとめ (1)
9回 Unit 7 Advertisement
10回 Unit 8 Daily Life
11回 Unit 9 Office Work
12回 Unit 10 Business
13回 Unit 11 Traffic
14回 Unit 12 Finance and Banking
15回 まとめ (2)

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の学習状況… 30%　課題・小テスト … 30%　期末試験 … 40%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前：　教科書の予習
事後：　重要語句、表現の再確認

履修上の注意　/Remarks

授業開始前までに教科書の予習を完了し、授業終了後は授業における学習内容の復習をすること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

英語I (国 1 - C) 【昼】

キーワード　/Keywords

英語II (国 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor　永末　康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅱ	ENG111F

授業の概要　/Course Description

基礎的な英語能力の定着を目的とする。さまざまな分野の英文テキストを通して、文法能力・語彙力に加えて特に読む力（リーディング力）や聴く力（リスニング力）の向上を目指す。

教科書　/Textbooks

特になし。
適宜プリントなどを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜授業時や北方Moodleにて紹介。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション
2回　自分の好きな仕事(1)
3回　自分の好きな仕事(2)
4回　少子高齢化(1)
5回　少子高齢化(2)
6回　英語とのつきあい方(1)
7回　環境(1)
8回　環境(2)
9回　オリンピック(1)
10回　オリンピック(2)
11回　少子高齢化(3)
12回　これからの教育(1)
13回　これからの教育(2)
14回　英語とのつきあい方(2)
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験…30%、平常の学習状況（小テストを含む)…70%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業内で説明するか北方Moodle上に情報を掲載するので、その指示に従うこと。

履修上の注意　/Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。
初回授業に必ず出席すること。

英語II（国 1-A ）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語II (国 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor　葛西　宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅱ	ENG111F

授業の概要　/Course Description

重要な文法事項の確認と語彙力の増強を行いながら、英語の読解力と聴解力を養うことを目的とする。また、ＴＯＥＩＣ形式の問題演習を通して、ＴＯＥＩＣ形式に慣れることも目的とする。

教科書　/Textbooks

生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　Chapter 1
３回　Chapter 2
４回　Chapter 3
５回　Chapter 4
６回　Chapter 5
７回　Chapter 6
８回　Chapter 7
９回　Chapter 8
１０回　Chapter 9
１１回　Chapter 10
１２回　Chapter 11
１３回　Chapter 12
１４回　Chapter 13
１５回　Chapter 14

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験…５５％　小テスト・課題…３０％　日常の授業への取り組み…１５％

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：指定された範囲の予習
事後学習：授業で扱った内容の復習

英語II (国 1 - B) 【昼】

履修上の注意　/Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として 1 学期に 1 回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語II (国 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor　渡邉　嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅱ	ENG111F

授業の概要　/Course Description

TOEIC受験を前提にした、英語リスニングとリーディングの能力をさらに伸ばすことをテーマとする。時事英語を教材として、語彙力を伸ばし、迅速な内容把握ができるよう努める。

教科書　/Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　ガイダンス
2回　Unit 1 Amusement
3回　Unit 2 Meetings
4回　Unit 3 Personnel
5回　Unit 4 Shopping
6回　Unit 5 Advertisemnet
7回　Unit 6 Daily Life
8回　まとめ (1)
9回　Unit 7 Office Work
10回　Unit 8 Business
11回　Unit 9 Traffic
12回　Unit 10 Finance and Banking
13回　Unit 11 Media
14回　Unit 12 Health and Welfare
15回　まとめ (2)

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の学習状況… 30%　課題・小テスト … 30%　期末試験 … 40%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前：　教科書の予習
事後：　重要語句、表現の再確認

履修上の注意　/Remarks

毎週、指示する予習・復習をして、授業に出席してください。

英語II（国１-Ｃ）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語III (国 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor　デビッド・アダム・ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

We will study political, social and environmental issues from around the world. The content comes from documentary videos shown on British and Australian TV.

In addition to enhancing their understanding of these issues, students will also improve their ability to read newspapers and listen to news in English.

教科書 /Textbooks

None. The instructor will design and distribute all materials.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1 回Orientation
2 回Laos, the Amazon of Asia
3 回China's Dirty Secrets
4 回China, Beyond the Lost Horizon
5 回UK, The Cost of Going Green
6 回Philippines, Living with Slums
7 回Indonesia, Rainforest Warriors
8 回Indonesia, Paper Tiger
9 回Thailand, Red and Yellow
1 0 回UK, The Generation Game
1 1 回UK, Snatched Kids
1 2 回UK, The Great British Wedding
1 3 回UK, Tax the Fat
1 4 回USA, City of the Century
1 5 回Student Presentations

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み…50%　学期末試験…30% プレゼンテーション…20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please review all content after the class.

英語III（国 1-A ）【昼】

履修上の注意　/Remarks

Reading and listening to news.

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

Good luck with your studies. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

キーワード　/Keywords

Politics; development; environment; international relations; social studies.

英語III (国 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor　マイケル・バーグ / michael berg / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要　/Course Description

This task-based course aims to improve students' ability to use English for daily communication. Speaking English individually and in small groups is required in each class. Focus on conversation and writing

教科書　/Textbooks

First Class Service 2: :Student Text with Audio CD, ISBN 9789814319947

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

No

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

Week 1: Orientation
Week 2: Answering the phone
Week 3: Where are you from?
W4: Saying sorry
W5: Suggesting alternatives
W6: Choosing options
W7: Directions
W8: Recommendations
W9: Ordering in restaurants
W10: Transportation
W11: Reading manuals
W12: Repeating information
W13: Apologizing
W14: Explaining rules
W15: Thanking customers/final review

成績評価の方法　/Assessment Method

Homework - 20%
Presentation - 2 X 15%
Final exam - 20%
Participation - 30%

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

no

履修上の注意　/Remarks

No

英語III（国1-B）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

Good luck with your studies. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

キーワード　/Keywords

No

英語III（国１-Ｃ）【昼】

担当者名 /Instructor　デビット・ニール・マクレーラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国１－Ｃ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要　/Course Description

Communication and Critical Thinking

教科書　/Textbooks

In Focus 3 (Cambridge University Press)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

電子辞典

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回: Orientation
第２回: Gender Equality I
第３回: Gender Equality II
第４回: Water Resources I
第５回: Water Resources II
第６回: Class Presentations I
第７回: Clean Energy I
第８回: Clean Energy II
第９回: Free Trade I
第１０回: Free Trade II
第１１回: Class Presentations II
第１２回: Online Retailing I
第１３回: Online Retailing II
第１４回: Online Addiction I
第１５回: Class Presentations III

成績評価の方法　/Assessment Method

Class participation and homework assignments

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

As instructed by teacher

履修上の注意　/Remarks

必修科目

Please check Moodle resource

英語III（国 1-C ）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

Let's enjoy discussing in English together

キーワード　/Keywords

Meet people \ Make friends \ Have fun!

英語IV (国 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor　デビッド・アダム・ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語IV	ENG112F

授業の概要 /Course Description

We will study political, social and environmental issues from around the world. The content comes from documentary videos shown on British and Australian TV.

In addition to enhancing their understanding of these issues, students will also improve their ability to read newspapers and listen to news in English.

教科書 /Textbooks

None. The instructor will design and distribute all materials.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1 回Egypt, Sisters of the Revolution
2 回Nigeria, the Legacy of Empire
3 回Africa, End of the Elephant
4 回Africa, The Curse of Gold
5 回Zimbabwe, Blood Diamonds
6 回Libya, The Gaddafi Years
7 回Kenya, School of Olympic Dreams
8 回UK, Getting the Balance Right
9 回Asia, The Spratly Islands
1 0 回UK, The Parent Trap
1 1 回Japan, Sayonara Baby
1 2 回New Zealand, Adrenalin Nation
1 3 回Australia's Hidden Valley
1 4 回European Union, Joining the Club
1 5 回Student Presentations

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み…50%　学期末試験…30% プレゼンテーション…20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please review all content after the class.

英語IV (国 1 - A) 【昼】

履修上の注意　/Remarks

Reading and listening to news.

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

Good luck with your studies. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

キーワード　/Keywords

Politics; development; environment; international relations; social studies.

英語IV (国 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor　ロバート･マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語IV	ENG112F

授業の概要 /Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、英語会話コミュニケーション能力と作文能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

New Optimal Levels! Fun Flavor Book 1
Optimal Levels! Project Book

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・ 内容 /Class schedules and Contents

第1回 Introduction / Writing
第2回 Travel-Introductions
第3回 Travel-Building Skills
第4回 Travel-Essay composition
第5回 Presentation
第6回 Shopping-Introduction
第7回 Shopping-Building Skills
第8回 Shopping-Essay composition
第9回 Presentation
第10回 Movies-Introduction
第11回 Movies-Building Skills
第12回 Movies-Essay Composition
第13回 Presentation
第14回 Composition
第15回 Discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各25% (計3回) 試験(essay) 25%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4~6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。Project Bookは宿題です。講義終了後、次回講義までに2~3ページを終わらせておいてください。

履修上の注意 /Remarks

英語IV (国 1 - B) 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード　/Keywords

英語IV (国 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor: デビット・ニール・マクレーラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year: 1年次　単位 /Credits: 1単位　学期 /Semester: 2学期　授業形態 /Class Format: 講義　クラス /Class: 国 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語IV	ENG112F

授業の概要 /Course Description

Communication and Critical Thinking

教科書 /Textbooks

In Focus 3 (Cambridge University Press)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1 回: Gender Equality III
第 2 回: Gender Equality IV
第 3 回: Food Resources I
第 4 回: Food Resources II
第 5 回: Class Presentations IV
第 6 回: New Energy I
第 7 回: New Energy II
第 8 回: Global Equality I
第 9 回: Global Equality II
第 1 0 回: Class Presentations V
第 1 1 回: High Tech Workplace I
第 1 2 回: High Tech Workplace II
第 1 3 回: Social Media I
第 1 4 回: Social Media II
第 1 5 回: Class Presentations VI

成績評価の方法 /Assessment Method

Class projects and homework assignments

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As instructed by teacher

履修上の注意 /Remarks

必要科目

Please check Moodle resource

英語IV (国 1 - C) 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

Let’s have fun discussing in English together

キーワード　/Keywords

Communicate / make friends / have fun

英語V（国２-Ａ）【昼】

担当者名 /Instructor　十時　康 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国２ - Ａ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅴ	ENG201F

授業の概要　/Course Description

このコースではTOEIC Listening & Reading Test（以下TOEICと略します）対策をします。テキストは2冊使用します。

テキスト①はいわゆる公式の問題集です。このテキストでTOEICの形式を知り、それぞれに対してどのようなアプローチで解答すればよいかを実践的にトレーニングしていきます。これがベースとなるテキストです。このテキストに書いてある文法事項、登場する単語やフレーズを徹底的に習得します。

またテキスト②を使って、数多くの例文や語にあたりTOEICに必要な表現と語彙を習得していきます。

数多くの英語に触れることで、必然的に大量の英語をインプットすることになるでしょう。この授業では「解いて終わり」ではありません。その後、テキストや問題集の英語を使って、ディクテーションや音読などのトレーニングを徹底的に行って、語彙、文法事項の定着を目指します。

教科書　/Textbooks

①『公式TOEIC Listening & Reading問題集 3』 国際ビジネスコミュニケーション協会　￥3,024
②TOEIC L & R TEST 出る単特急 金のフレーズ (TOEIC TEST 特急シリーズ) TEX加藤、朝日新聞出版　￥961

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『一億人の英文法ーすべての日本人に贈る「話すため」の英文法』大西泰斗、ポール・マクベイ著、東進ブックス
○『TOEICテスト新公式問題集<Vol. 1~ 6>』国際ビジネスコミュニケーション協会

英語V（国２-Ａ）【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１．ガイダンス（TOEICについて、英語学習方法、授業のコンセプト、各種トレーニング方法紹介、学習用アプリの紹介など）
２．Part 1, Part 2(1)
３．Part 2(2)
４．Part 5 (1)
５．Part 5 (2)
６．Part 6
７．Part 7 (1)
８．Part 7 (2)
９．Part 3 (1)
１０．Part 3 (2)
１１．Part 4 (1)
１２．Part 4 (2)
１３．Part 4 (3)
１４．Listening section review
１５．Reading section review

以上はテキスト①のものです。テキスト②はドリル的に毎回使用しますので、常時持参してください。

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点(発言回数、自主学習状況):20%
毎回の小テスト:30%
期末試験:50%

受講生は学期中にTOEIC の受験が必要で、最終成績にもその結果が反映されます。詳細は初回の授業で説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

単語テストに備えて、学習した範囲の単語学習をする。単語テストは意味が「分かる」レベルでは不十分です。英→日の転換をできるだけ高速にすることを要求します。

履修上の注意　/Remarks

辞書を必ず持参すること。書籍の辞書でも構いませんが、電子辞書がベストです。特にリスニング対策として調べた単語の発音を確認するひと手間が大切なのです。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

英語を「勉強する」という意識、また「勉強させられている」という意識を捨て、「英語学習者である」というアイデンティティを持つようにしましょう。

キーワード　/Keywords

TOEIC

英語V (国２-Ｂ) 【昼】

担当者名 /Instructor　杉山　智子 / SUGIYAMA　TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次　2年次 /Year　単位　1単位 /Credits　学期　1学期 /Semester　授業形態　講義 /Class Format　クラス　国２ - Ｂ /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅴ	ENG201F

授業の概要　/Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また比較的難易度の高い英文を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書　/Textbooks

生協の教科書リストを確認されたい。

その他、適宜、プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて、授業時に指定する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　リスニング　プレテスト
2回　リスニング　ユニット1、リーディング　ユニット1
3回　リスニング　ユニット2、リーディング　ユニット2
4回　リスニング　ユニット3、リーディング　ユニット3
5回　リスニング　ユニット4、リーディング　ユニット4
6回　リスニング　ユニット5、リーディング　ユニット5
7回　リスニング　ユニット6、リーディング　ユニット6
8回　リスニング　ユニット７、リーディング　ユニット7
9回　リスニング　ユニット8、リーディング　ユニット8
10回　リスニング　ユニット9、リーディング　ユニット9
11回　リスニング　ユニット10、リーディング　ユニット10
12回　リスニング　ユニット11、リーディング　ユニット11
13回　リスニング　ユニット12、リーディング　ユニット12
14回　リスニング　ポストテスト
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験・小テスト　80%
課題　20%

欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業時に指定する課題とリーディング教材の予習・復習を行うこと。

英語V（国２-Ｂ）【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語V（国２-Ｃ）【昼】

担当者名 /Instructor　渡邉　嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国２ - C

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語V	ENG201F

授業の概要　/Course Description

TOEIC受験を前提にした、英語リスニングとリーディングの能力を伸ばすことをテーマとする。

教科書　/Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　Unit 1 Eating Out
３回　Unit 2 Travel
４回　Unit 3 Amusement
５回　Unit 4 Meetings
６回　Unit 5 Personnel
７回　Unit 6 Shopping
８回　まとめ (1)
９回　Unit 7 Advertisement
１０回　Unit 8 Daily Life
１１回　Unit 9 Office Work
１２回　Unit 10 Business
１３回　Unit 11 Traffic
１４回　Unit 12 Finance and banking
１５回　まとめ (2)

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の学習状況… 30%　課題・小テスト … 30%　期末試験 … 40%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前：　教科書の予習
事後：　重要語句、表現の再確認

履修上の注意　/Remarks

毎週、指示する予習・復習をして、授業に出席してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

英語V（国２-Ｃ）【昼】

キーワード　/Keywords

英語VI (国２-Ａ) 【昼】

担当者名 /Instructor　十時　康 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国２ - Ａ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語VI	ENG211F

授業の概要　/Course Description

このコースではTOEIC Listening & Reading Test（以下TOEICと略します）対策をします。テキストは2冊使用します。

テキスト①はいわゆる公式の問題集です。このテキストでTOEICの形式を知り、それぞれに対してどのようなアプローチで解答すればよいかを実践的にトレーニングしていきます。これがベースとなるテキストです。このテキストに書いてある文法事項、登場する単語やフレーズを徹底的に習得します。

またテキスト②を使って、数多くの例文や語にあたりTOEICに必要な表現と語彙を習得していきます。

数多くの英語に触れることで、必然的に大量の英語をインプットすることになるでしょう。この授業では「解いて終わり」ではありません。その後、テキストや問題集の英語を使って、ディクテーションや音読などのトレーニングを徹底的に行って、語彙、文法事項の定着を目指します。

教科書　/Textbooks

①『公式TOEIC Listening & Reading問題集 3』 国際ビジネスコミュニケーション協会　￥3,024
②TOEIC L & R TEST 出る単特急 金のフレーズ (TOEIC TEST 特急シリーズ) TEX加藤、朝日新聞出版　￥961

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『一億人の英文法ーすべての日本人に贈る「話すため」の英文法』大西泰斗、ポール・マクベイ著、東進ブックス
○『TOEICテスト新公式問題集<Vol. 1~ 6>』国際ビジネスコミュニケーション協会

英語VI (国２-Ａ) 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１．ガイダンス (TOEICについて、英語学習方法、授業のコンセプト、各種トレーニング方法紹介、学習用アプリの紹介など)
２．Part 1, Part 2(1)
３．Part 2(2)
４．Part 5 (1)
５．Part 5 (2)
６．Part 6
７．Part 7 (1)
８．Part 7 (2)
９．Part 3 (1)
１０．Part 3 (2)
１１．Part 4 (1)
１２．Part 4 (2)
１３．Part 4 (3)
１４．Listening section review
１５．Reading section review

以上はテキスト①のものです。テキスト②はドリル的に毎回使用しますので、常時持参してください。

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点(発言回数、自主学習状況):20%
毎回の小テスト:30%
期末試験:50%

受講生は学期中にTOEIC の受験が必要で、最終成績にもその結果が反映されます。詳細は初回の授業で説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

単語テストに備えて、学習した範囲の単語学習をする。単語テストは意味が「分かる」レベルでは不十分です。英→日の転換をできるだけ高速にすることを要求します。

履修上の注意　/Remarks

辞書を必ず持参すること。書籍の辞書でも構いませんが、電子辞書がベストです。特にリスニング対策として調べた単語の発音を確認するひと手間が大切なのです。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

英語を「勉強する」という意識、また「勉強させられている」という意識を捨て、「英語学習者である」というアイデンティティを持つようにしましょう。

キーワード　/Keywords

TOEIC

英語VI (国２-Ｂ) 【昼】

担当者名 /Instructor　渡邉　嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国２ - Ｂ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語VI	ENG211F

授業の概要　/Course Description

TOEIC受験を前提にした、英語リスニングとリーディングの能力を伸ばすことをテーマとする。

教科書　/Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　Unit 1 Amusement
３回　Unit 2 Meetings
４回　Unit 3 Personnel
５回　Unit 4 Shopping
６回　Unit 5 Advertisement
７回　Unit 6 Daily Life
８回　まとめ (1)
９回　Unit 7 Office Work
１０回　Unit 8 Business
１１回　Unit 9 Traffic
１２回　Unit 10 Finance and Banking
１３回　Unit 11 Media
１４回　Unit 12 Health and Welfare
１５回　まとめ (2)

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の学習状況… 30%　　課題・小テスト … 30%　　期末試験 … 40%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前：　教科書の予習
事後：　重要語句、表現の再確認

履修上の注意　/Remarks

毎週、指示する予習・復習をして、授業に出席してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

英語VI (国２-Ｂ) 【昼】

キーワード　/Keywords

英語VI (国２-Ｃ) 【昼】

担当者名 /Instructor　杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国２ - Ｃ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語VI	ENG211F

授業の概要　/Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また比較的難易度の高い英文を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書　/Textbooks

生協の教科書リストを確認されたい。

その他、適宜、プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて、授業時に指定する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　リスニング　プレテスト
2回　リスニング　ユニット1、リーディング　ユニット1
3回　リスニング　ユニット2、リーディング　ユニット2
4回　リスニング　ユニット3、リーディング　ユニット3
5回　リスニング　ユニット4、リーディング　ユニット4
6回　リスニング　ユニット5、リーディング　ユニット5
7回　リスニング　ユニット6、リーディング　ユニット6
8回　リスニング　ユニット７、リーディング　ユニット7
9回　リスニング　ユニット8、リーディング　ユニット8
10回　リスニング　ユニット9、リーディング　ユニット9
11回　リスニング　ユニット10、リーディング　ユニット10
12回　リスニング　ユニット11、リーディング　ユニット11
13回　リスニング　ユニット12、リーディング　ユニット12
14回　リスニング　ポストテスト
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験・小テスト　80%
課題　20%

欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業時に指定する課題とリーディング教材の予習・復習を行うこと。

英語VI（国２-Ｃ）【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語VII (国２-Ａ) 【昼】

担当者名 /Instructor	デビット・ニール・マクレーラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
2年次	1単位	1学期	講義	国２ - Ａ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語VII	ENG202F

授業の概要 /Course Description

Communication and Critical Thinking

教科書 /Textbooks

In Focus 3 (Cambridge University Press)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回: Orientation
第２回: Gender Equality I
第３回: Gender Equality II
第４回: Water Resources I
第５回: Water Resources II
第６回: Class Presentations I
第７回: Clean Energy I
第８回: Clean Energy II
第９回: Free Trade I
第１０回: Free Trade II
第１１回: Class Presentations II
第１２回: Online Retailing I
第１３回: Online Retailing II
第１４回: Online Addiction I
第１５回: Class Presentations III

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation and homework assignments

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As instructed by teacher

履修上の注意 /Remarks

必要科目
Please check Moodle resource

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's have fun discussing in English together

英語Ⅶ（国２-Ａ）【昼】

キーワード　/Keywords
Communicate / make friends / have fun

英語Ⅶ（国２-Ｂ）【昼】

担当者名 /Instructor　デビッド・アダム・ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国２ - Ｂ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅶ	ENG202F

授業の概要　/Course Description

We will study political, social and environmental issues from around the world. The content comes from documentary videos shown on British and Australian TV.

In addition to enhancing their understanding of these issues, students will also improve their ability to read newspapers and listen to news in English.

教科書　/Textbooks

None. The instructor will design and distribute all materials.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1 回Orientation
2 回Laos, the Amazon of Asia
3 回China's Dirty Secrets
4 回China, Beyond the Lost Horizon
5 回UK, The Cost of Going Green
6 回Philippines, Living with Slums
7 回Indonesia, Rainforest Warriors
8 回Indonesia, Paper Tiger
9 回Thailand, Red and Yellow
1 0 回UK, The Generation Game
1 1 回UK, Snatched Kids
1 2 回UK, The Great British Wedding
1 3 回UK, Tax the Fat
1 4 回USA, City of the Century
1 5 回Student Presentations

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…50%　学期末試験…30% プレゼンテーション…20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Please review all content after the class.

英語Ⅶ（国２-Ｂ）【昼】

履修上の注意　/Remarks

Reading and listening to news.

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

Good luck with your studies. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

キーワード　/Keywords

Politics; development; environment; international relations; social studies.

英語Ⅶ (国２-Ｃ) 【昼】

担当者名 /Instructor　マイケル・バーグ / michael berg / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国２ - Ｃ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅶ	ENG202F

授業の概要　/Course Description

This task-based course aims to improve students' ability to use English for daily communication. Speaking English individually and in small groups is required in each class. Focus on conversation and writing.

教科書　/Textbooks

no

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

First Class Service 2: :Student Text with Audio CD, ISBN 9789814319947

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Week 1: Orientation
Week 2: Answering the phone
Week 3: Where are you from?
W4: Saying sorry
W5: Suggesting alternatives
W6: Choosing options
W7: Directions
W8: Recommendations
W9: Ordering in restaurants
W10: Transportation
W11: Reading manuals
W12: Repeating information
W13: Apologizing
W14: Explaining rules
W15: Thanking customers/final review

成績評価の方法　/Assessment Method

Homework - 20%
Presentation - 2 X 15%
Final exam - 20%
Participation - 30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

no

履修上の注意　/Remarks

no

英語Ⅶ（国２-Ｃ）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

Good luck with your studies. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

キーワード　/Keywords

no

英語VIII (国２-Ａ) 【昼】

担当者名 /Instructor　デビット・ニール・マクレーラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国２ - Ａ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

Communication and Critical Thinking

教科書 /Textbooks

In Focus 3 (Cambridge University Press)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回: Gender Equality III
第２回: Gender Equality IV
第３回: Food Resources I
第４回: Food Resources II
第５回: Class Presentations IV
第６回: New Energy I
第７回: New Energy II
第８回: Global Equality I
第９回: Global Equality II
第１０回: Class Presentations V
第１１回: High Tech Workplace I
第１２回: High Tech Workplace II
第１３回: Social Media I
第１４回: Social Media II
第１５回: Class Presentations VI

成績評価の方法 /Assessment Method

Class projects and homework assignments

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As instructed by teacher

履修上の注意 /Remarks

必要科目

Please check Moodle resource

英語VIII（国２-Ａ）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

Let’s have fun discussing in English together

キーワード　/Keywords

Communicate / make friends / have fun

英語Ⅷ（国２-Ｂ）【昼】

担当者名 /Instructor　デビッド・アダム・ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国２ - Ｂ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要　/Course Description

We will study political, social and environmental issues from around the world. The content comes from documentary videos shown on British and Australian TV.

In addition to enhancing their understanding of these issues, students will also improve their ability to read newspapers and listen to news in English.

教科書　/Textbooks

None. The instructor will design and distribute all materials.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1 回Egypt, Sisters of the Revolution
2 回Nigeria, the Legacy of Empire
3 回Africa, End of the Elephant
4 回Africa, The Curse of Gold
5 回Zimbabwe, Blood Diamonds
6 回Libya, The Gaddafi Years
7 回Kenya, School of Olympic Dreams
8 回UK, Getting the Balance Right
9 回Asia, The Spratly Islands
1 0 回UK, The Parent Trap
1 1 回Japan, Sayonara Baby
1 2 回New Zealand, Adrenalin Nation
1 3 回Australia's Hidden Valley
1 4 回European Union, Joining the Club
1 5 回Student Presentations.

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…50%　学期末試験…30% プレゼンテーション…20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Please review all content after the class.

英語VIII (国 2 - B) 【昼】

履修上の注意　/Remarks

Reading and listening to news.

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

Good luck with your studies. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

キーワード　/Keywords

Politics; development; environment; international relations; social studies.

英語Ⅷ（国２-Ｃ）【昼】

担当者名 /Instructor　ロバート･マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国２ - Ｃ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要　/Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、英語会話コミュニケーション能力と作文能力の向上をねらいとする。

教科書　/Textbooks

New Optimal Levels! Philosophy Flavor Book 1
Optimal Levels! Project Book

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回 Introduction / Writing
第2回 Love-Introductions
第3回 Love-Building Skills
第4回 Love-Essay composition
第5回 Presentation
第6回 Justice-Introduction
第7回 Justice-Building Skills
第8回 Justice-Essay composition
第9回 Presentation
第10回 Humanity-Introduction
第11回 Humanity-Building Skills
第12回 Humanity-Essay Composition
第13回 Presentation
第14回 Composition
第15回 Discussion

成績評価の方法　/Assessment Method

プレゼンテーション 各25% (計3回) 試験(essay) 25%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4~6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。Project Bookは宿題です。講義終了後、次回講義までに2~3ページを終わらせておいてください。

履修上の注意　/Remarks

英語VIII（国２-Ｃ）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード　/Keywords

英語IX (英中国３年) 【昼】

担当者名 /Instructor　永末　康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次
単位 /Credits　1単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　英中国３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語IX	ENG301F

授業の概要　/Course Description

時事的な英文記事や学術的な英文などを用いて、言語運用能力に磨きをかけることを目的とする。あわせて、関連する文化的事象についての理解を深めていくことも目的とする。

教科書　/Textbooks

配布プリントなど

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

【授業参加者の意見などを踏まえて変更される場合があります。】

１回　オリエンテーション、授業テーマについて①
２回　授業テーマについて②
３回　時事英語①
４回　アカデミックリーディング①
５回　グループワーク①
６回　グループワーク②
７回　時事英語②
８回　アカデミックリーディング②
９回　グループワーク③
１０回　グループワーク④
１１回　時事英語③
１２回　アカデミックリーディング③
１３回　グループワーク⑤
１４回　グループワーク⑥
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験あるいは期末課題…30%、平常の学習状況…70%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業内で説明するか北方Moodle上に情報を掲載するので、各自でその指示に従うこと。

履修上の注意　/Remarks

授業内容などについて話しあいますので、初回授業に必ず出席すること。

英語IX (英中国 3 年) 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語X (英中国３年) 【昼】

担当者名 /Instructor　葛西　宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語X	ENG311F

授業の概要　/Course Description

言語に関するエッセイを読みながら、英語の読解力の向上だけではなく、言語そのものに対する理解を深めることを目標とする。毎回、一人ないし、二人の担当者が教科書の内容をレポートしながら授業を進めていく。他の受講者は、十分に予習をし、積極的にディスカッションに参加することが、求められる。また、授業で扱ったテーマに関して、受講生にプレゼンテーションをしてもらう予定である。

教科書　/Textbooks

生協の教科書リストに掲載する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　Chapter 1
３回　Chapter 2
４回　Chapter 3
５回　Chapter 4
６回　Chapter 4
７回　Chapter 5
８回　Chapter 5
９回　Chapter 6
１０回　Chapter 6
１１回　Chapter 7
１２回　Chapter 7
１３回　Chapter 8
１４回　Chapter 8
１５回　プレゼンテーション

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…30%　　レポート…50%　プレゼンテーション…20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：指定された範囲の予習
事後学習：授業で扱った内容の復習

履修上の注意　/Remarks

英語X (英中国 3 年) 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語XI（英中国比人３年）【昼】

担当者名 /Instructor　ダンカン・ウォトリィ / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国比人３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語ＸＩ	ENG302F

授業の概要　/Course Description

The course should help you communicate in English. Each class aims to provide an atmosphere where you can activate and exchange the knowledge of English you have. We also try to develop and extend this knowledge in a meaningful way. Activities such as listening, reading, writing, presenting ideas and doing special individual or pair-work projects will be used. In addition, all students will keep an English dairy which should help them express their experiences and personalize their English development. We will use eight basic themes or topics as a basis for classwork and associated homework tasks.

教科書　/Textbooks

There will be no text book. The course will be based on topics and projects negotiated with the teacher

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Access to computer and internet
Dictionary

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Week One	Introduction	Ourselves
Week Two	Unit One	Our hometowns
Week Three	Unit One	Daily Life A
Week Four	Unit Two	Daily Life B
Week Five	Unit Two	Activities and Events
Week Six	Unit Three	Shopping and Negotiating A
Week Seven	Unit Three	Shopping and Negotiating B
Week Eight	Unit Four	Getting Information A
Week Nine	Unit Four	Getting Information B
Week Ten	Unit Five	Other Places A
Week Eleven	Unit Five	Other Places B
Week Twelve	Unit Six	Innovating and Creating 1
Week Thirteen	Unit Seven	Innovating and Creating 2
Week Fourteen	Unit Eight	Topic to be Negotiated
Week Fifteen	Review	

成績評価の方法　/Assessment Method

20 % Diary and Diary Discussion
40% Folio - Diary, Written assignments, scripted dialogs, other assigned tasks, class notes
20% Presentations
20% Final Test

英語XI（英中国比人３年）【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Students are expected to complete a diary entry each week. Additionally, there will be homework tasks as well as preparation for projects that students should complete. These will be discussed in class each week.

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

I am looking forward to meeting you and to helping you improve your English.

キーワード　/Keywords

英語XII（英中国比人３年）【昼】

担当者名 /Instructor　ロバート･マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次
単位 /Credits　1単位
学期 /Semester　2学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　英中国比人３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語ＸⅡ	ENG312F

授業の概要　/Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、英語会話コミュニケーション能力と作文能力の向上をねらいとする。

教科書　/Textbooks

New Optimal Levels! Philosophy Flavor Book 1
Optimal Levels! Project Book

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回 Introduction / Writing
第2回 Love-Introductions
第3回 Love-Building Skills
第4回 Love-Essay composition
第5回 Presentation
第6回 Justice-Introduction
第7回 Justice-Building Skills
第8回 Justice-Essay composition
第9回 Presentation
第10回 Humanity-Introduction
第11回 Humanity-Building Skills
第12回 Humanity-Essay Composition
第13回 Presentation
第14回 Composition
第15回 Discussion

成績評価の方法　/Assessment Method

プレゼンテーション 各25% (計3回) 試験(essay) 25%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4~6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。Project Bookは宿題です。講義終了後、次回講義までに2~3ページを終わらせておいてください。

履修上の注意　/Remarks

英語XII（英中国比人３年）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード　/Keywords

中国語I 【昼】

担当者名 /Instructor　板谷　秀子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国１ - A

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語Ⅰ	CHN101F

授業の概要　/Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
(1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
(2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
(3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書　/Textbooks

『精彩漢語　基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第一課　発音【単母音】【声調】【軽声】
２回　第二課　発音【子音】
３回　第二課　発音【複合母音】【鼻母音】
４回　第三課　総合知識
５回　第三課　総合練習
６回　第四課　私達はみんな友達です　【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
７回　第四課　これは一枚の地図です（本文）　練習
８回　第五課　私は最近忙しい　【形容詞の文】【動詞の文】など
９回　第五課　あなたはいつ北京へ行きますか(本文）　練習
１０回　第六課　私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
１１回　第六課　私は松本葉子です(本文）　練習
１２回　第七課　私達の学校は九州にあります　【在】【方位詞】【了】など
１３回　第七課　大学の生活(本文）　練習
１４回　第八課　あなたは長城に行ったことがありますか【動詞＋过】【是……的】など
１５回　第八課　全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文）　練習

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験・・６０％　小テスト・・２０％　日常の授業への取り組み・・２０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

中国語I 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　文法　中国への理解

中国語I 【昼】

担当者名 /Instructor　板谷　俊生 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国１ - B

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語Ⅰ	CHN101F

授業の概要　/Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
(1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
(2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
(3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書　/Textbooks

『精彩漢語　基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第一課　発音【単母音】【声調】【軽声】
２回　第二課　発音【子音】
３回　第二課　発音【複合母音】【鼻母音】
４回　第三課　総合知識
５回　第三課　総合練習
６回　第四課　私達はみんな友達です　【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
７回　第四課　これは一枚の地図です（本文）　練習
８回　第五課　私は最近忙しい　【形容詞の文】【動詞の文】など
９回　第五課　あなたはいつ北京へ行きますか(本文）　練習
１０回　第六課　私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
１１回　第六課　私は松本葉子です(本文）　練習
１２回　第七課　私達の学校は九州にあります　【在】【方位詞】【了】など
１３回　第七課　大学の生活(本文）　練習
１４回　第八課　あなたは長城に行ったことがありますか【動詞＋过】【是……的】など
１５回　第八課　全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文）　練習

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験・・６０％　小テスト・・２０％　日常の授業への取り組み・・２０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

中国語I 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　文法　中国への理解

中国語I 【昼】

担当者名 /Instructor　野村　和代 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国１－Ｃ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語Ⅰ	CHN101F

授業の概要　/Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
(1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
(2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
(3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書　/Textbooks

『精彩漢語　基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第一課　発音【単母音】【声調】【軽声】
２回　第二課　発音【子音】
３回　第二課　発音【複合母音】【鼻母音】
４回　第三課　総合知識
５回　第三課　総合練習
６回　第四課　私達はみんな友達です　【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
７回　第四課　これは一枚の地図です（本文）　練習
８回　第五課　私は最近忙しい　【形容詞の文】【動詞の文】など
９回　第五課　あなたはいつ北京へ行きますか(本文）　練習
１０回　第六課　私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
１１回　第六課　私は松本葉子です(本文）　練習
１２回　第七課　私達の学校は九州にあります　【在】【方位詞】【了】など
１３回　第七課　大学の生活(本文）　練習
１４回　第八課　あなたは長城に行ったことがありますか【動詞＋过】【是……的】など
１５回　第八課　全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文）　練習

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験・・６０％　小テスト・・２０％　日常の授業への取り組み・・２０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

中国語I 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　文法　中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor　板谷　秀子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国１－Ａ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語Ⅱ	CHN111F

授業の概要　/Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
(1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
(2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
(3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書　/Textbooks

『精彩漢語　基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第九課　彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可以】など
２回　第九課　田中さんが病気になりました(本文）　練習
３回　第十課　私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
４回　第十課　雪中に炭を送る(本文）　練習
５回第十一課　彼らが言ってることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
６回第十一課　電話を掛ける(本文）　練習
７回第十二課　私と外灘にコーヒーを飲みに行ってくれますか【要】【"把"構文】など
８回第十二課　ウィンドウショッピング(本文）　練習
９回第十三課　陳紅さんは私に上海に転校して留学をしてほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
１０回第十三課　"福"字を貼る(本文）　練習　【存現文】【因为……所以　】など
１１回第十四課　私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【"被"の文】
１２回第十四課　円明園(本文）　練習　【不但……而且】など
１３回第十五課　あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
１４回第十五課　日本概況(本文）　練習　【虽然……但是】など
１５回総合練習

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験・・６０％　小テスト・・２０％　日常の授業への取り組み・・２０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

中国語II 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　文法　中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor　板谷　俊生 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国１－Ｂ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語Ⅱ	CHN111F

授業の概要　/Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
(1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
(2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
(3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書　/Textbooks

『精彩漢語　基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第九課　彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可以】など
２回　第九課　田中さんが病気になりました(本文）　練習
３回　第十課　私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
４回　第十課　雪中に炭を送る(本文）　練習
５回第十一課　彼らが言ってることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
６回第十一課　電話を掛ける(本文）　練習
７回第十二課　私と外灘にコーヒーを飲みに行ってくれますか【要】【"把"構文】など
８回第十二課　ウィンドウショッピング(本文）　練習
９回第十三課　陳紅さんは私に上海に転校して留学をしてほしい【使役動詞】【動詞／形容詞の重ね形】
１０回第十三課　"福"字を貼る(本文）　練習　【存現文】【因为……所以　】など
１１回第十四課　私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【"被"の文】
１２回第十四課　円明園(本文）　練習　【不但……而且】など
１３回第十五課　あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
１４回第十五課　日本概況(本文）　練習　【虽然……但是】など
１５回総合練習

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験・・６０％　小テスト・・２０％　日常の授業への取り組み・・２０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

中国語II 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　文法　中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor　野村　和代 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国１－Ｃ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語Ⅱ	CHN111F

授業の概要　/Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
(1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
(2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
(3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書　/Textbooks

『精彩漢語　基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第九課　彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可以】など
２回　第九課　田中さんが病気になりました(本文）　練習
３回　第十課　私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
４回　第十課　雪中に炭を送る(本文）　練習
５回第十一課　彼らが言ってることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
６回第十一課　電話を掛ける(本文）　練習
７回第十二課　私と外灘にコーヒーを飲みに行ってくれますか【要】【"把"構文】など
８回第十二課　ウィンドウショッピング(本文）　練習
９回第十三課　陳紅さんは私に上海に転校して留学をしてほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
１０回第十三課　"福"字を貼る(本文）　練習　【存現文】【因为……所以　】など
１１回第十四課　私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【"被"の文】
１２回第十四課　円明園(本文）　練習　【不但……而且】など
１３回第十五課　あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
１４回第十五課　日本概況(本文）　練習　【虽然……但是】など
１５回総合練習

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験・・６０％　小テスト・・２０％　日常の授業への取り組み・・２０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

中国語II 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　文法　中国への理解

中国語III 【昼】

担当者名 /Instructor　馮　戦兵 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国１－Ａ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語Ⅲ	CHN102F

授業の概要　/Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
(3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
(4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書　/Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第一課　発音【単母音】【声調】【軽声】、練習問題
２回　第二課　発音【子音】、練習問題
３回　第三課　発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
４回　総合知識
５回　総合練習
６回　第四課　紹介
７回　第四課　自己紹介　練習問題
８回　第五課　入国・北京紹介
９回　第五課　飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
１０回　第六課　レストランにて・天津紹介
１１回　第六課　レストランにて、練習問題
１２回　第七課　道を尋ねる・上海紹介
１３回　第七課　交通、練習問題
１４回　第八課　観光する・蘇州と杭州紹介
１５回　第八課　観光、練習問題

成績評価の方法　/Assessment Method

複数回の小テスト・・４０％　暗誦・・３０％　日常の授業への取り組み・・３０％

中国語III 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　会話　表現　コミュニケーション

中国語III 【昼】

担当者名 /Instructor　王　晨 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国１－Ｂ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語Ⅲ	CHN102F

授業の概要　/Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
(3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
(4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書　/Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第一課　発音【単母音】【声調】【軽声】、練習問題
２回　第二課　発音【子音】、練習問題
３回　第三課　発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
４回　総合知識
５回　総合練習
６回　第四課　紹介
７回　第四課　自己紹介　練習問題
８回　第五課　入国・北京紹介
９回　第五課　飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
１０回　第六課　レストランにて・天津紹介
１１回　第六課　レストランにて、練習問題
１２回　第七課　道を尋ねる・上海紹介
１３回　第七課　交通、練習問題
１４回　第八課　観光する・蘇州と杭州紹介
１５回　第八課　観光、練習問題

成績評価の方法　/Assessment Method

複数回の小テスト・・４０％　暗誦・・３０％　日常の授業への取り組み・・３０％

中国語III 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　会話　表現　コミュニケーション

中国語III 【昼】

担当者名 /Instructor　葉 言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国１－Ｃ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語Ⅲ	CHN102F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
(3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
(4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　第一課　発音【単母音】【声調】【軽声】、練習問題
２回　第二課　発音【子音】、練習問題
３回　第三課　発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
４回　総合知識
５回　総合練習
６回　第四課　紹介
７回　第四課　自己紹介　練習問題
８回　第五課　入国・北京紹介
９回　第五課　飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
１０回　第六課　レストランにて・天津紹介
１１回　第六課　レストランにて、練習問題
１２回　第七課　道を尋ねる・上海紹介
１３回　第七課　交通、練習問題
１４回　第八課　観光する・蘇州と杭州紹介
１５回　第八課　観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・４０％　暗誦・・３０％　日常の授業への取り組み・・３０％

中国語III 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　会話　表現　コミュニケーション

中国語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor　馮　戦兵 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国１－Ａ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語Ⅳ	CHN112F

授業の概要　/Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
(3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
(4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書　/Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

中日・日中」電子辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第九課　　買い物をする・義烏と横店紹介
２回　第九課　　買い物、練習問題
３回　第十課　　お金を両替・西安と洛陽紹介
４回　第十課　　銀行にて、練習問題
５回　第十一課　ホテルに泊まる・成都紹介
６回　第十一課　ホテルにて、練習問題
７回　第十二課　電話を掛ける・昆明紹介
８回　第十二課　電話、練習問題
９回　第十三課　興味について語る・広州紹介
１０回　第十三課　興味、練習問題
１１回　第十四課　見方について語る・大連紹介
１２回　第十四課　語り合い、練習問題
１３回　第十五課　搭乗手続き・日本の紹介
１４回　第十五課　空港での搭乗手続き・免税店にて
１５回　総合練習

成績評価の方法　/Assessment Method

複数回の小テスト・・４０％　暗誦・・３０％　日常の授業への取り組み・・３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

中国語IV 【昼】

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

必ず出席すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　会話　表現　コミュニケーション

中国語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor　王　晨 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国１－Ｂ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語Ⅳ	CHN112F

授業の概要　/Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
(3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
(4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書　/Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

中日・日中」電子辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第九課　　買い物をする・義烏と横店紹介
２回　第九課　　買い物、練習問題
３回　第十課　　お金を両替・西安と洛陽紹介
４回　第十課　　銀行にて、練習問題
５回　第十一課　ホテルに泊まる・成都紹介
６回　第十一課　ホテルにて、練習問題
７回　第十二課　電話を掛ける・昆明紹介
８回　第十二課　電話、練習問題
９回　第十三課　興味について語る・広州紹介
１０回　第十三課　興味、練習問題
１１回　第十四課　見方について語る・大連紹介
１２回　第十四課　語り合い、練習問題
１３回　第十五課　搭乗手続き・日本の紹介
１４回　第十五課　空港での搭乗手続き・免税店にて
１５回　総合練習

成績評価の方法　/Assessment Method

複数回の小テスト・・４０％　暗誦・・３０％　日常の授業への取り組み・・３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

中国語IV 【昼】

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

必ず出席すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　会話　表現　コミュニケーション

中国語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor　葉 言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国１－Ｃ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語Ⅳ	CHN112F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
(3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
(4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　第九課　　買い物をする・義烏と横店紹介
２回　第九課　　買い物、練習問題
３回　第十課　　お金を両替・西安と洛陽紹介
４回　第十課　　銀行にて、練習問題
５回　第十一課　ホテルに泊まる・成都紹介
６回　第十一課　ホテルにて、練習問題
７回　第十二課　電話を掛ける・昆明紹介
８回　第十二課　電話、練習問題
９回　第十三課　興味について語る・広州紹介
１０回　第十三課　興味、練習問題
１１回　第十四課　見方について語る・大連紹介
１２回　第十四課　語り合い、練習問題
１３回　第十五課　搭乗手続き・日本の紹介
１４回　第十五課　空港での搭乗手続き・免税店にて
１５回　総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・４０％　暗誦・・３０％　日常の授業への取り組み・・３０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

中国語IV 【昼】

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

必ず出席すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　会話　表現　コミュニケーション

中国語V 【昼】

担当者名 /Instructor　野村　和代 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国２ - A

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語V	CHN201F

授業の概要　/Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。
皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。
(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書　/Textbooks

『遊学漢語シリーズ　東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第一課　ポイント説明　日本紹介（本文）
２回　第二課　ポイント説明
３回　第二課　東京（本文）
４回　第三課　ポイント説明
５回　第三課　横浜（本文）
６回　第四課　ポイント説明
７回　第四課　富士山と東照宮（本文）
８回　第五課　ポイント説明
９回　第五課　静岡と名古屋（本文）
１０回　第六課　ポイント説明
１１回　第六課　京都（本文）
１２回　第七課　ポイント説明
１３回　第七課　奈良（本文）
１４回　第八課　ポイント説明
１５回　第八課　大阪（本文）

中国語V 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…６０％　　日常の授業への取り組み、小テスト等…４０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　文法　日本の理解

中国語V 【昼】

担当者名 /Instructor　板谷　秀子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国２ - B

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語V	CHN201F

授業の概要　/Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。
皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。
(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書　/Textbooks

『遊学漢語シリーズ　東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第一課　ポイント説明 日本紹介（本文）
２回　第二課　ポイント説明
３回　第二課　東京（本文）
４回　第三課　ポイント説明
５回　第三課　横浜（本文）
６回　第四課　ポイント説明
７回　第四課　富士山と東照宮（本文）
８回　第五課　ポイント説明
９回　第五課　静岡と名古屋（本文）
１０回　第六課　ポイント説明
１１回　第六課　京都（本文）
１２回　第七課　ポイント説明
１３回　第七課　奈良（本文）
１４回　第八課　ポイント説明
１５回　第八課 大阪（本文）

中国語V 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…６０％　　日常の授業への取り組み、小テスト等…４０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　文法　日本の理解

中国語V 【昼】

担当者名 /Instructor　板谷　俊生 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国２ - C

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語V	CHN201F

授業の概要　/Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。
皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。
(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書　/Textbooks

『遊学漢語シリーズ　東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第一課　ポイント説明　日本紹介（本文）
２回　第二課　ポイント説明
３回　第二課　東京（本文）
４回　第三課　ポイント説明
５回　第三課　横浜（本文）
６回　第四課　ポイント説明
７回　第四課　富士山と東照宮（本文）
８回　第五課　ポイント説明
９回　第五課　静岡と名古屋（本文）
１０回　第六課　ポイント説明
１１回　第六課　京都（本文）
１２回　第七課　ポイント説明
１３回　第七課　奈良（本文）
１４回　第八課　ポイント説明
１５回　第八課　大阪（本文）

中国語V 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…６０％　　日常の授業への取り組み、小テスト等…４０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　文法　日本の理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor　野村　和代 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国２ - A

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語VI	CHN211F

授業の概要　/Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。
皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。
(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書　/Textbooks

『遊学漢語シリーズ　東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第九課　　ポイント説明
２回　第九課　　宮島と下関（本文）
３回　第十課　　ポイント説明
４回　第十課　　九州（本文）
５回　第十一課　ポイント説明
６回　第十一課　福岡（本文）
７回　第十二課　ポイント説明
８回　第十二課　佐賀（本文）
９回　第十三課　ポイント説明
１０回　第十三課　長崎（本文）
１１回　第十四課　ポイント説明
１２回　第十四課　四国（本文）
１３回　第十五課　ポイント説明
１４回　第十五課　仙台と北海道（本文）
１５回　総合練習

中国語VI 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…６０％　　日常の授業への取り組み、小テスト等…４０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず予習と復習すること。

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　文法　日本の理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor　板谷　秀子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
2年次	1単位	2学期	講義	国２ - B

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語VI	CHN211F

授業の概要　/Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。
皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。
(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書　/Textbooks

『遊学漢語シリーズ　東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第九課　　ポイント説明
２回　第九課　　宮島と下関（本文）
３回　第十課　　ポイント説明
４回　第十課　　九州（本文）
５回　第十一課　ポイント説明
６回　第十一課　福岡（本文）
７回　第十二課　ポイント説明
８回　第十二課　佐賀（本文）
９回　第十三課　ポイント説明
１０回　第十三課　長崎（本文）
１１回　第十四課　ポイント説明
１２回　第十四課　四国（本文）
１３回　第十五課　ポイント説明
１４回　第十五課　仙台と北海道（本文）
１５回　総合練習

中国語VI 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…６０％　　日常の授業への取り組み、小テスト等…４０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず予習と復習すること。

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　文法　日本の理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor　板谷　俊生 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国２ - C

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語VI	CHN211F

授業の概要　/Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。
皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。
(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書　/Textbooks

『遊学漢語シリーズ　東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第九課　　ポイント説明
２回　第九課　　宮島と下関（本文）
３回　第十課　　ポイント説明
４回　第十課　　九州（本文）
５回　第十一課　ポイント説明
６回　第十一課　福岡（本文）
７回　第十二課　ポイント説明
８回　第十二課　佐賀（本文）
９回　第十三課　ポイント説明
１０回　第十三課　長崎（本文）
１１回　第十四課　ポイント説明
１２回　第十四課　四国（本文）
１３回　第十五課　ポイント説明
１４回　第十五課　仙台と北海道（本文）
１５回　総合練習

中国語VI 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…６０％　　日常の授業への取り組み、小テスト等…４０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず予習と復習すること。

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　文法　日本の理解

中国語VII 【昼】

担当者名 /Instructor　陳　青鳳 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国２ - A

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語VII	CHN202F

授業の概要　/Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。
皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。
(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかり定着させます。
(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書　/Textbooks

『遊学漢語シリーズ　東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

中国語Ⅶ 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第一課　日本紹介（会話）　練習
２回　第二課　東京（会話）
３回　第二課　練習
４回　第三課　横浜（会話）
５回　第三課　練習
６回　第四課　富士山と東照宮（会話）
７回　第四課　練習
８回　第五課　静岡と名古屋（会話）
９回　第五課　練習
１０回　第六課　京都（会話）
１１回　第六課　練習
１２回　第七課　奈良と神戸（会話）
１３回　第七課　練習
１４回　第八課　大阪（会話）
１５回　第八課　練習

成績評価の方法　/Assessment Method

複数回の小テスト・・４０％　暗誦・・３０％　日常の授業への取り組み・・３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　文法　日本の理解

中国語VII 【昼】

担当者名 /Instructor　周　艶阳 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国２ - B

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語VII	CHN202 F

授業の概要　/Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。
皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。
(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかり定着させます。
(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書　/Textbooks

『遊学漢語シリーズ　東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

中国語VII 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第一課　日本紹介（会話）　練習
２回　第二課　東京（会話）
３回　第二課　練習
４回　第三課　横浜（会話）
５回　第三課　練習
６回　第四課　富士山と東照宮（会話）
７回　第四課　練習
８回　第五課　静岡と名古屋（会話）
９回　第五課　練習
１０回　第六課　京都（会話）
１１回　第六課　練習
１２回　第七課　奈良と神戸（会話）
１３回　第七課　練習
１４回　第八課　大阪（会話）
１５回　第八課　練習

成績評価の方法　/Assessment Method

複数回の小テスト・・４０％　暗誦・・３０％　日常の授業への取り組み・・３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　文法　日本の理解

中国語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor　王　晨 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国２ - C

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語Ⅶ	CHN202F

授業の概要　/Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。
皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。
(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかり定着させます。
(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書　/Textbooks

『遊学漢語シリーズ　東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

中国語Ⅶ 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第一課　日本紹介（会話）　練習
２回　第二課　東京（会話）
３回　第二課　練習
４回　第三課　横浜（会話）
５回　第三課　練習
６回　第四課　富士山と東照宮（会話）
７回　第四課　練習
８回　第五課　静岡と名古屋（会話）
９回　第五課　練習
１０回　第六課　京都（会話）
１１回　第六課　練習
１２回　第七課　奈良と神戸（会話）
１３回　第七課　練習
１４回　第八課　大阪（会話）
１５回　第八課　練習

成績評価の方法　/Assessment Method

複数回の小テスト・・４０％　暗誦・・３０％　日常の授業への取り組み・・３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　文法　日本の理解

中国語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor　陳　青鳳 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国２ - A

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語Ⅷ	CHN212F

授業の概要　/Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。
皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。
(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかり定着させます。
(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書　/Textbooks

『遊学漢語シリーズ　東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

中国語VIII 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第九課　　宮島と下関（会話）
２回　第九課　　練習
３回　第十課　　九州（会話）
４回　第十課　　練習
５回　第十一課　福岡（会話）
６回　第十一課　練習
７回　第十二課　佐賀（会話）
８回　第十二課　練習
９回　第十三課　長崎（会話）
１０回　第十三課　練習
１１回　第十四課　四国（会話）
１２回　第十四課　練習
１３回　第十五課　仙台と北海道（会話）
１４回　第十五課　練習
１５回　総合練習

成績評価の方法　/Assessment Method

複数回の小テスト・・４０％　暗誦・・３０％　日常の授業への取り組み・・３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　文法　日本の理解

中国語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor　周　艶阳 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国２ - B

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語Ⅷ	CHN212F

授業の概要　/Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。
皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。
(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかり定着させます。
(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書　/Textbooks

『遊学漢語シリーズ　東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

中国語VIII 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第九課　　宮島と下関（会話）
２回　第九課　　練習
３回　第十課　　九州（会話）
４回　第十課　　練習
５回　第十一課　福岡（会話）
６回　第十一課　練習
７回　第十二課　佐賀（会話）
８回　第十二課　練習
９回　第十三課　長崎（会話）
１０回　第十三課　練習
１１回　第十四課　四国（会話）
１２回　第十四課　練習
１３回　第十五課　仙台と北海道（会話）
１４回　第十五課　練習
１５回　総合練習

成績評価の方法　/Assessment Method

複数回の小テスト・・４０％　暗誦・・３０％　日常の授業への取り組み・・３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　文法　日本の理解

中国語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor　王　晨 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国２ - C

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語Ⅷ	CHN212F

授業の概要　/Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。
皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。
(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかり定着させます。
(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書　/Textbooks

『遊学漢語シリーズ　東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

中国語VIII 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第九課　　宮島と下関（会話）
２回　第九課　　練習
３回　第十課　　九州（会話）
４回　第十課　　練習
５回　第十一課　福岡（会話）
６回　第十一課　練習
７回　第十二課　佐賀（会話）
８回　第十二課　練習
９回　第十三課　長崎（会話）
１０回　第十三課　練習
１１回　第十四課　四国（会話）
１２回　第十四課　練習
１３回　第十五課　仙台と北海道（会話）
１４回　第十五課　練習
１５回　総合練習

成績評価の方法　/Assessment Method

複数回の小テスト・・４０％　暗誦・・３０％　日常の授業への取り組み・・３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　文法　日本の理解

上級中国語I 【昼】

担当者名 /Instructor　唐　雋 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英国済営比人３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

上級中国語Ⅰ	CHN301F

授業の概要　/Course Description

上級中国語Iは、中国語初・中級をひととおり終えた学習者のために、さらに一歩上の段階で学ぶ講義である。
　本講義は初・中級に続き、単語練習、聴解練習、短文作文、応用練習などすることによって、中国語の聴解と会話、作文力を身につけることを目標とする。
　主に聴く、話す、文章の作成能力に重点を置く。

世界共通中国政府公認のビジネス中国語試験（ＢＣＴ初級テスト）の内容も同時に指導する。

参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。

教科書　/Textbooks

第1回の授業で指定する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要応じて参考資料を配布する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１学期
第 1回　授業説明、基礎復習
第 2回　第1課文法、聴解練習
第 3回　第1課読む、会話、作文練習
第 4回　第2課文法、聴解練習
第 5回　第2課読む、会話、作文練習
第 6回　第3課文法、聴解練習
第 7回　第3課読む、会話、作文練習
第 8回　場面の体験1
第 9回　第4課文法、聴解練習
第10回　第4課読む、会話、作文練習
第11回　第5課文法、聴解練習
第12回　第5課読む、会話、作文練習
第13回　第6課文法、聴解練習
第14回　第6課読む、会話、作文練習
第15回　場面の体験2

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み30%　発表30%　定期試験40%

上級中国語I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業中に指示する。

履修上の注意　/Remarks

予習および復習する必要がある。
できるだけ欠席しないこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

一緒に楽しく中国語を学びましょう。

就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（ＢＣＴ初級テスト）に挑戦してほしい。

キーワード　/Keywords

日常生活用語　　ビジネス用語、　会話力、　翻訳力

上級中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor　唐　雋 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英国済営比人３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

上級中国語Ⅱ	CHN311F

授業の概要　/Course Description

上級中国語IIは、中国語初・中級をひととおり終えた学習者のために、さらに一歩上の段階で学ぶ講義である。
　本講義は初・中級に続き、単語練習、聴解練習、短文作文、応用練習などをすることによって、中国語の聴解と会話、作文力を身につけることを目標とする。
　主に翻訳、話す、文章の作成能力に重点を置く。
　参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。

中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（ＢＣＴ初級テスト）の内容も同時に指導する。

教科書　/Textbooks

前期の上級中国語Iと同じ教科書を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて参考資料を配布する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第２学期
第 1回　第7課文法、聴解練習
第 2回　第7課読む、会話、作文練習
第 3回　第8課文法、聴解練習
第 4回　第8課読む、会話、作文練習
第 5回　場面の体験1
第 6回　第9課文法、聴解練習
第 7回　第9課読む、会話、作文練習
第 8回　第10課文法、聴解練習
第 9回　第10課読む、会話、作文練習
第10回　場面の体験2
第11回　第11課文法、聴解練習
第12回　第11課読む、会話、作文練習
第13回　第12課文法、聴解練習
第14回　第12課読む、会話、作文練習
第15回　場面の体験3

上級中国語II 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み30%　発表30%　定期試験40%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業中に指示する。

履修上の注意　/Remarks

予習する必要がある。
できるだけ欠席しないこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

一緒に楽しく中国語を学びましょう。

就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（ＢＣＴ初級テスト）に挑戦してほしい。

キーワード　/Keywords

日常生活用語　　ビジネス用語、　会話力、　ビジネス文章

上級中国語III 【昼】

担当者名 /Instructor　王　晨 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英国済営比人３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

上級中国語Ⅲ	CHN302F

授業の概要　/Course Description

授業は中国語と日本語、混合で行う。

グループワークを課し、全員がプレゼンテーションする機会を設け、話す力および聞く力の磨きを通じて、さまざまな場面における中国語会話力を向上させる。

教科書　/Textbooks

プリント配布　(『中国語口語速成　基礎編』第二版　馬箭飛　主編　李徳君、成文　編著　北京言語大学出版社)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『精彩漢語　遊走中国』(日本語版) 中国・高等教育出版社
『遊学中国語　東遊記』中国・華語教学出版社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回目　第1課　「认识一下」新出単語　本文会話1　2
2回目　第2課　「吃点儿什么」新出単語　本文会話1　2
3回目　第1課、第2課会話練習
4回目　第3課「在校园里」新出単語　注釈　本文会話1
5回目　第3課「在校园里」注釈　本文会話2
6回目　第4課「住的麻烦」新出単語　注釈　本文会話1
7回目　第4課「住的麻烦」注釈　本文会話2
8回目　中間復習
9回目　第5課「做客」新出単語　注釈　本文会話1
10回目　第5課「做客」注釈　本文会話2
11回目　第6課「旅行计划」新出単語　注釈　本文会話1
12回目　第6課「旅行计划」注釈　本文会話2
13回目　第7課「生活服务」新出単語　注釈　本文会話1
14回目　第7課「生活服务」注釈　本文会話2
15回目　総復習

成績評価の方法　/Assessment Method

成績評価
平常点60%(授業時の応答や取り組み、予習、復習、小テストなど)
定期試験40%

上級中国語III 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前には必ず新出単語、および本文会話にわからない単語を調べ、発音と日本語意味を覚えておくこと。
毎回学習した単元の単語・本文会話等を復習する。

履修上の注意　/Remarks

予習および復習は必ず行ってから授業に参加ください。また、授業中の学生の積極的な発言、参加を求めます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

中国語のみの授業を目指しましょう。

キーワード　/Keywords

中国語　コミュニケーション　会話　リスニング

上級中国語IV 【昼】

担当者名 /Instructor　王　晨 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英国済営比人３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

上級中国語IV	CHN312F

授業の概要　/Course Description

授業は中国語と日本語、混合で行う。

グループワークを課し、全員がプレゼンテーションする機会を設け、話す力および聞く力の磨きを通じて、さまざまな場面における中国語会話力を向上させる。

教科書　/Textbooks

プリント配布　(『中国語口語速成　基礎編』第二版　馬箭飛　主編　李徳君、成文　編著北京言語大学出版社)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『精彩漢語　遊走中国』(日本語版) 中国・高等教育出版社
『遊学中国語　東遊記』中国・華語教学出版社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

一回目　第11課「购物」新出単語　注釈　本文会話1
二回目　第11課「购物」注釈　本文会話2
三回目　第12課「谈论朋友」新出単語　注釈　本文会話1
四回目　第12課「谈论朋友」注釈　本文会話2
五回目　第14課「体育健身」新出単語　注釈　本文会話1
六回目　第14課「体育健身」注釈　本文会話2
七回目　中間復習
八回目　第15課「各有所爱」新出単語　注釈　本文会話1
九回目　第15課「各有所爱」注釈　本文会話2
十回目　第16課「理想的职业」新出単語　注釈　本文会話1
十一回目第16課「理想的职业」注釈　本文会話2
十二回目第17課「业余爱好」新出単語　注釈　本文会話1
十三回目第17課「业余爱好」注釈　本文会話2
十四回目第18課「中国家庭」新出単語　注釈　本文会話1
十五回目総復習

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点60%(授業時の応答や取り組み、予習、復習、小テストなど)
定期試験40%

上級中国語IV 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前には必ず新出単語、および本文会話にわからない単語を調べ、発音と日本語意味を覚えておくこと。
毎回学習した単元の単語・本文会話等を復習する。

履修上の注意　/Remarks

予習および復習は必ず行ってから授業に参加ください。また、授業中の学生の積極的な発言、参加を求めます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

中国語のみの授業を目指しましょう。

キーワード　/Keywords

中国語　コミュニケーション　会話　リスニング

朝鮮語I 【昼】

担当者名 /Instructor　金　貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

朝鮮語Ⅰ	KRN101F

授業の概要　/Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階である１学期はハングル文字と発音を正確に習得することが重要である。したがって、この講義では一言会話とともに正確に読み書きができることを目指す。

教科書　/Textbooks

『韓国語の初歩』（厳　基珠他、白水社、2,200円）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

辞典（必携）
『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　文字と発音【単母音】【鼻音】
３回　文字と発音【単母音その２】【流音】
４回　文字と発音【平音】【半母音】
５回　文字と発音【激音】【濃音】
６回　文字と発音【合成母音】まとめと復習
７回　文字と発音【パッチム】
８回　発音の規則【有声音化】【連音化】
９回　発音の規則【濃音化】【激音化】
１０回　発音の規則【流音化】【口蓋音化】【その他】
１１回　まとめと復習
１２回　第11課　指定詞の丁寧形【～です】
１３回　第12課　指定詞の丁寧な否定表現【～ではありません】
１４回　第11課と第12課の復習
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題…３０％　　期末試験…７０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

前回の授業時に指定した課題を確実に履行する。また、学習した語彙・文法・意味を確実に理解し、暗記すること。

履修上の注意　/Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

朝鮮語IIIと並行して受講することが望ましい。

朝鮮語I 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor　金　貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

朝鮮語Ⅱ	KRN111F

授業の概要　/Course Description

初級段階で必要な文法や基本文型、語彙を学習し、同等レベルの作文と読解ができることを目指す。

教科書　/Textbooks

『韓国語の初歩』（厳 基珠他、白水社、2,200円）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

辞典（必携）
『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　前期の復習
３回　第13課　どこで習っていますか？【かしこまった丁寧形①】
４回　第14課　暑くありませんか？【かしこまった丁寧形の否定表現】
５回　フリートーキング
６回　数詞のまとめ
７回　第15課　誕生日はいつですか？【指定詞の打ち解けた丁寧形】
８回　第16課　どこに住んでいますか？【指定詞以外の打ち解けた丁寧形】
９回　復習とフリートーキング
１０回　第17課　先生いらっしゃいますか？【特殊な尊敬語】
１１回　第18課　何をお探しですか？【打ち解けた丁寧形の尊敬表現】
１２回　第19課　何をしましたか？【過去形】
１３回　復習とフリートーキング
１４回　何を召し上がりますか？【好みを言ってみよう】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題…３０％　　期末試験…７０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

前回の授業時に指定した課題を確実に履行する。また、学習した語彙・文法・意味を確実に理解し、暗記すること。

履修上の注意　/Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

朝鮮語IVと並行して受講するほうが望ましい。

朝鮮語II 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

朝鮮語III 【昼】

担当者名 /Instructor　金　光子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

朝鮮語Ⅲ	KRN102F

授業の概要　/Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。文字はまるで記号のようにみえるが、実はとても科学的かつ合理的に作られており、パズルのように子音と母音を組み合わせていけば容易に覚えられる。入門段階では、こうした文字の仕組みを理解しながら、難しいと思われる発音とともに、読む・書く力を身につけていく。また、ペアで行う反復練習を通じて、簡単で日常的な挨拶に慣れることで、朝鮮語によるコミュニケーション力の習得につなげていく。

教科書　/Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』　金順玉・阪堂千津子（白水社）　定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』　油谷幸利他（小学館）
『韓国語ビジュアル単語集』　李恩周（高橋書店）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１．【基本母音】
２．【基本子音】
３．【激音と濃音】
４．【合成母音字】
５．【終声①】【終声②】
６．発音のルール【連音化】【濃音化】
７．発音のルール【激音化】【鼻音化】
８．その他の発音法則
９．【指定詞の丁寧形】
１０．【指定詞の丁寧形・疑問と否定】
１１．【自己・物を紹介する時の表現（～といいます）】
１２．【存在詞のうちとけた丁寧形】【場所を表す単語および助詞】
１３．【存在詞のうちとけた丁寧形・疑問】【時を表す単語および助詞】
１４．【存在詞のうちとけた丁寧形・否定】【位置を表す単語および助詞】
１５．まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%
学期末試験・・・50%

朝鮮語III 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。
授業で行った課題を復習しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

キーワード　/Keywords

朝鮮語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor　金　光子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

朝鮮語Ⅳ	KRN112F

授業の概要　/Course Description

朝鮮語IIIで学んだ基本的知識を踏まえて、発音変化を伴う単語や文章をより正確に読める力を身につける。また、初級テキストにあげる基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようになることを目標とする。自己紹介だけでなく、様々なシチュエーションでの実践的な対話力を養成する。講義では、短い文を覚えペアでの会話練習を取り入れながら、会話をするうえで重要である動詞と形容詞に慣れ、より豊かな表現ができることを目指す。

教科書　/Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社）定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利他（小学館）
『韓国語単語練習帳』 金京子（白水社）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１．前期のまとめ
２．【指示代名詞】【疑問代名詞】
３．【指定詞の丁寧形・疑問と否定】
４．【助詞と疑問詞のまとめ】【数詞①】
５．【動詞の丁寧形】【数詞②】
６．【一週間の予定】【曜日と時間】
７．【動詞と形容詞の丁寧形①】
８．　【動詞と形容詞の丁寧形②疑問と否定】
９．【目的表現】【好みの表現】
１０．【変則活用①】
１１．【変則活用②】
１２．【動詞と形容詞の過去形】
１３．【願望表現】【確認表現】
１４．【意思表現】【動作の進行】
１５．まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・ 25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・ 25%
学期末試験・・・ 50%

朝鮮語IV 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

次回学習する単語や文を訳して読めるように予習しておくこと。
授業で行った課題を復習しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

キーワード　/Keywords

朝鮮語V 【昼】

担当者名 /Instructor　金　貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

朝鮮語V	KRN201F

授業の概要　/Course Description

韓国語の基礎的な文法・語彙・表現力などをさらに深め、初級文法の完成を目指す。テキストの他、応用作文の練習を多く行い、簡単な手紙、日記などの文章が書けるようになること、また同程度の読解ができることを目指す。

教科書　/Textbooks

おはよう韓国語２（崔柄珠著、朝日出版社、978-4-255-55638-3：B5判）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか（小学館）
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回目　オリエンテーション
第２回目　『朝鮮語I・II』の復習
第３回目　第１課　フランスから来ました【文法、単語】
第４回目　第１課　フランスから来ました【練習問題、スキット】
第５回目　第２課　家族は何名様ですか【文法、単語】
第６回目　第２課　家族は何名様ですか【練習問題、スキット】
第７回目　第３課　キム・ミンスさんのお宅ですよね【文法、単語】
第８回目　第３課　キム・ミンスさんのお宅ですよね【練習問題、スキット】
第９回目　【復　習】
第10回目　第４課　野菜が多くて体にもいいです【文法、単語】
第11回目　第４課　野菜が多くて体にもいいです【練習問題、スキット】
第12回目　第５課　夏休みに何をするつもりですか【文法、単語】
第13回目　第５課　夏休みに何をするつもりですか【練習問題、スキット】
第14回目　【復　習】
第15回目　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

課題・小テスト　30%　定期試験　70%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などは調べること。
また、授業終了後は復習や暗記を徹底すること。

朝鮮語V 【昼】

履修上の注意　/Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す。
朝鮮語VIIと並行して受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード　/Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor　金　貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

朝鮮語VI	KRN211F

授業の概要　/Course Description

初級レベルでは学習しなかった、より高度な会話や文章の読解を目指す。1学期に引き続き、主として表現・文法の学習を中心とし、その学習を効果的に行うため、会話や読解、作文練習などに力を入れる。

教科書　/Textbooks

おはよう韓国語２（崔柄珠著、朝日出版社、978-4-255-55638-3 : B5判）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか（小学館）
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第 1回目　オリエンテーション
第 2回目　『朝鮮語V』の復習
第 3回目　第６課　どのように行けばいいですか【文法、単語】
第 4回目　第６課　どのように行けばいいですか【練習問題、スキット】
第 5回目　第７課　写真を添付しますよ【文法、単語】
第 6回目　第７課　写真を添付しますよ【練習問題、スキット】
第 7回目　第８課　みんな一緒に歌を歌いましょう【文法、単語】
第 8回目　第８課　みんな一緒に歌を歌いましょう【練習問題、スキット】
第 9回目　【復　習】
第10回目　第９課　どんなアルバイトをしていますか【文法、単語】
第11回目　第９課　どんなアルバイトをしていますか【練習問題、スキット】
第12回目　第10課　何にも聞いていませんが【文法、単語】
第13回目　第10課　何にも聞いていませんが【練習問題、スキット】
第14回目　【復　習】
第15回目　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

課題・小テスト　30%　定期試験　70%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などを調べること。
また、次回までに復習や暗記を徹底すること。

朝鮮語VI 【昼】

履修上の注意　/Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す。

朝鮮語VIIと並行して受講するほうが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード　/Keywords

朝鮮語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor　金　貞淑 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

朝鮮語Ⅶ	KRN202F

授業の概要　/Course Description

毎回、先週の出来事などを報告してもらい、自然な日常会話に慣れるよう心かける。日常生活の様々な場面で使える実用的な会話を中心に暗記や発話の練習を反復し、またペアなどを組んで応答練習を多く行う。この際は、受講者自らの表現による会話なども演じさせ、実際に自分の言葉で表現できるよう訓練していく。学習事項にこだわらず、その時期の韓国の若者の流行語なども紹介し、朝鮮語の表現をより豊かにしたい。

教科書　/Textbooks

金順玉　他『ちょこっとチャレンジ！韓国語　改訂版』、白水社（2017年3月）、2,400円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション
2回　お名前なんとおっしゃいますか？【インタビューする】
3回　お名前なんとおっしゃいますか？【インタビューする】
4回　朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
5回　朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
6回　朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
7回　魚は焼かないでください。【決まりを言う】
8回　魚は焼かないでください。【決まりを言う】
９回　ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
１０回　ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
１１回　ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
１２回　道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
１３回　道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
１４回　道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50%（発表・課題・小テスト・態度）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を確かめながら、どのくらい理解できたのか復習する。

朝鮮語Ⅶ 【昼】

履修上の注意　/Remarks

毎回、先週のできことを報告してもらう。
予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

楽しく話しましょう！

キーワード　/Keywords

朝鮮語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor　金　貞淑 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　国２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

朝鮮語Ⅷ	KRN212F

授業の概要　/Course Description

毎回、先週の出来事を報告してもらい、自然な会話に慣れるよう心懸ける。日常生活の様々な場面で使える実用的な会話を中心に暗記や発話の練習を反復し、またペアなどを組んで応答練習を多く行う。この際は、受講者自らの表現による会話なども演じさせ、実際に自分の言葉で表現できるよう訓練していく。学習事項にこだわらず、その時期の韓国の若者の流行語なども紹介し、朝鮮語の表現をより豊かにしたい。

教科書　/Textbooks

金順玉　他『ちょこっとチャレンジ！韓国語　改訂版』、白水社（2017年3月）、2,400円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　自由会話【夏休みの出来事】
2回　ファンの集いへ行ってみたんですけど。【感想を言う】
3回　ファンの集いへ行ってみたんですけど。【感想を言う】
4回　少し安くしてください。【買い物をする】
５回　少し安くしてください。【買い物をする】
６回　少し安くしてください。【買い物をする】
７回　私の気持ちですから受け取ってください。【プレゼントをする】
８回　私の気持ちですから受け取ってください。【プレゼントをする】
９回　咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
１０回　咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
11回　咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
12回　字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
13回　字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
１４回　字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50%（発表・課題・小テスト・態度）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を確かめながら、どのくらい理解できたのか復習する。

朝鮮語VIII 【昼】

履修上の注意　/Remarks

毎回、先週のできことを報告してもらう。
予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので、必ずノートを作ること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

楽しく話しましょう！

キーワード　/Keywords

上級朝鮮語I 【昼】

担当者名 /Instructor　金　貞淑 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人 3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

上級朝鮮語 I	KRN301F

授業の概要　/Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。　同時にテーマに沿った応用作文の練習を多く行い、文章力の養成を目指す。学習事項にこだわらず、慣用句や韓国独自の表現なども紹介し、韓国語による文章力をより高めていきたい。授業中の言葉は原則として朝鮮語を使う。

教科書　/Textbooks

曺喜澈 『ウリマル』、白帝社（2006年2月）、2,600円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』（小学館）など。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション
2回　自己紹介【講読】
3回　自己紹介【作文】
4回　私の家【講読】
6回　私の家【作文】
7回　私の学校【講読】
8回　私の学校【作文】
9回　病院と薬局【講読】
10回　病院と薬局【作文】
11回　手紙【講読】
12回　手紙【作文】
13回　趣味【講読】
14回　趣味【作文】
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50%（作文・小テスト・課題・態度）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を確かめながら、どのくらい理解できたのか復習する。

上級朝鮮語I 【昼】

履修上の注意　/Remarks

毎回、訳を作成してもらうので必ず辞書を持参すること。
予習の課題が多いのでノートを作ること。
テキストに出る文型や語句を覚えること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

キーワード　/Keywords

上級朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor　金　貞淑 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人 3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

上級朝鮮語Ⅱ	KRN311F

授業の概要　/Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時にテーマに沿った応用作文の練習を多く行い、文章力の養成を目指す。学習事項にこだわらず、慣用句や韓国独自の表現なども紹介し、韓国語による文章力をより高めていきたい。授業中の言葉は原則として朝鮮語を使う。

教科書　/Textbooks

曺喜澈『ウリマル』、白帝社（2006年2月）、2,600円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』（小学館）など。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション
2回　映画【講読】
3回　映画【作文】
4回　地下鉄【講読】
5回　地下鉄【作文】
6回　感想文【講読】
8回　感想文【作文】
9回　日記【講読】
10回　日記【作文】
11回　試験【講読】
12回　試験【作文】
13回　韓国と日本【講読】
14回　韓国と日本【作文】
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻、私語、無断欠席などで注意さらた場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50%（作文・小テスト・課題・態度）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を確かめながら、どのくらい理解できたのか復習する。

上級朝鮮語II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

毎回、訳を作成してもらうので必ず辞書を持参すること。
予習の課題が多いのでノートを作ること。
テキストに出る文型や語句を覚えること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

キーワード　/Keywords

上級朝鮮語III 【昼】

担当者名 /Instructor　金　貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

上級朝鮮語Ⅲ	KRN302F

授業の概要　/Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書　/Textbooks

金京子『読んでみよう韓国語--中級読解コース--』（白水社、2018年3月、2300円＋税）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

辞典（必携）
『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）、『韓国語上級表現ノート』（前田、明石書店、1890円）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第 1回目　オリエンテーション
第 2回目　『朝鮮語V/VI』の復習
第 3回目　第１課　学校生活【スキットを読んでみよう】
第 4回目　第１課　学校生活【文法、練習問題】
第 5回目　第２課　アルバイト【スキットを読んでみよう】
第 6回目　第２課　アルバイト【文法、練習問題】
第 7回目　第３課　私の一日【スキットを読んでみよう】
第 8回目　第３課　私の一日 【文法、練習問題】
第 9回目　第４課　プレゼント【スキットを読んでみよう】
第10回目　第４課　プレゼント 【文法、練習問題】
第11回目　第５課　風邪【スキットを読んでみよう】
第12回目　第５課　風邪【文法、練習問題】
第13回目　第６課　休日【スキットを読んでみよう】
第14回目　第６課　休日約束【文法、練習問題】
第15回目　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題…４０％　　期末試験…６０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などを調べること。
また、授業後は学習内容の理解や暗記を徹底すること。

上級朝鮮語III 【昼】

履修上の注意　/Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

上級朝鮮語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor　金　貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

上級朝鮮語Ⅳ	KRN312F

授業の概要　/Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書　/Textbooks

金京子『読んでみよう韓国語--中級読解コース--』（白水社、2018年3月、2300円＋税）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

辞典（必携）
『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）、『韓国語上級表現ノート』（前田、明石書店、1890円）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第 1回目　オリエンテーション
第 2回目　前期の復習
第 3回目　第７課 夏休み【スキットを読んでみよう】
第 4回目　第７課 夏休み【文法、練習問題】
第 5回目　第８課　趣味【スキットを読んでみよう】
第 6回目　第８課　趣味【文法、練習問題】
第 7回目　第９課　大学祭【スキットを読んでみよう】
第 8回目　第９課　大学祭【文法、練習問題】
第 9回目　第10 課 仕事【スキットを読んでみよう】
第10回目　第10 課　仕事【文法、練習問題】
第11回目　第11課　日記　【スキットを読んでみよう】
第12回目　第11課　日記　【文法、練習問題】
第13回目　第12課　外国語の勉強【スキットを読んでみよう】
第14回目　第12課　外国語の勉強【文法、練習問題】
第15回目　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題…４０％　　期末試験…６０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などを調べること。
また、授業後は学習内容の理解や暗記を徹底すること。

上級朝鮮語IV 【昼】

履修上の注意　/Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ロシア語I 【昼】

担当者名 /Instructor　芳之内　雄二 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律 政１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ロシア語 I	RUS101F

授業の概要　/Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣などについて解説することにより、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書　/Textbooks

「１年生のロシア語」戸辺又方編著　白水社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編　白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編　白水社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ロシア語概論、アルファベット
２回　文字と発音：母音、子音(１)、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方(１)
３回　子音(２)、疑問詞のある疑問文と答え方(２)、硬子音と軟子音、名詞の性
４回　所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方(３)、有声子音と無声子音、子音の発音規則
５回　硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
６回　50音のロシア文字表記法
７回　一課前半　テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
８回　一課後半　テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
９回　二課前半　テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
１０回　二課後半　テキストの読み、内容解説、名詞格変化(対格)、和文露訳
１１回　三課前半　テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化(前置格)、練習問題
１２回　三課後半　テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
１３回　四課前半　テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
１４回　四課後半　テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化(生格)、和文露訳
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験 … 60%　　小テスト・ 和文露訳課題 … 20%　　学習状況...20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業後、授業前に、前回習った重要な文法事項、語彙などの復習をすること。小テスト、或は和文露訳の問題を課するので復習と合わせて準備を怠らぬように。

履修上の注意　/Remarks

最初数回の授業でアルファベットの読み書きを学習するので、スタート時期に欠席するのは好ましくない。

ロシア語I 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ロシア語II 【昼】

担当者名 /Instructor　芳之内　雄二 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律 政１年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ロシア語Ⅱ	RUS111F

授業の概要　/Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣などについて解説し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書　/Textbooks

「１年生のロシア語」戸辺又方編著　白水社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編　白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編　白水社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　一学期に習ったことの復習(１)
２回　一学期に習ったことの復習(２)
３回　五課前半　テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(１)、曜日
４回　五課後半　テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
５回　六課前半　テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
６回　六課後半　テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
７回　七課前半　テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
８回　七課後半　テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
９回　八課前半　テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(１)(２)
１０回　八課後半　テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(３)、和文露訳
１１回　九課前半　テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
１２回　九課後半　テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
１３回　十課前半　テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
１４回　十課後半　テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験 … 60%　　小テスト・和文露訳課題 … 20%　　学習状況 … 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業後、授業前に、前回習った重要な文法事項、語彙などの復習をすること。小テスト、或は和文露訳の問題を課するので復習と合わせて準備を怠らぬように。

ロシア語II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ロシア語III 【昼】

担当者名 /Instructor　ナタリア・シェスタコーワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律 政１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ロシア語Ⅲ	RUS102F

授業の概要　/Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書　/Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著　白水社 ￥１，４００
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編　白水社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ロシア語とはどんな言葉か？【母音と母音文字】、【こんにちは】
２回　ロシア語のアルファベット【交際】
３回　短文のイントネーション　【これは誰ですか】、【これは何ですか】
４回　簡単な問いと答え　【あなたは学生ですか】、【お元気ですか】
５回　第１課①　【挨拶】、【紹介】
６回　第１課②　【ロシア人の名前】、【これは誰のものですか】
７回　第１課③　会話
８回　第２課①　【教室でロシア語】
９回　第２課②　【動詞現在変化】、【私は本を読んでいます】
１０回　第２課③　【趣味】、【私はロシア語を話します】
１１回　第３課①　【家族の紹介】
１２回　第３課②　【名詞の前置格】、【あなたの家族はどこにお住まいですか】
１３回　第３課③　【形容詞】、【これは新しい車です】
１４回　復習
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の学習状況（小テスト含む）…１０％　宿題…１０％　期末試験…８０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。（必要な学習時間の目安は、予習 60分、
復習 60分です。）

ロシア語III 【昼】

履修上の注意　/Remarks

できるだけロシア語の音声資料などで耳慣らしをして発音練習をすること、また
毎回、授業の前と後で単語・表現、挨拶言葉などの予習・復習を怠らないこと。
正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ロシア語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor　ナタリア・シェスタコーワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律 政１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ロシア語Ⅳ	RUS112F

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著　白水社　￥１，４００
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編　白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　第４課①　【一日の生活】、【過去の表現】
２回　第４課②　【時間表現】
３回　第４課③　【動詞の体】、【昨日あなたは何をしましたか】
４回　第４課④　【不完了体と完了体】、【あなたは宿題をしてしまいましたか】
５回　第５課①　【休日】、【動詞の未来】
６回　第５課②　【曜日名】、【明日あなたは何をしますか】
７回　第５課③　【名詞の造格】、【命令形】
８回　第５課④　【どうぞ、午後に私に電話してください】
９回　第６課①　【交通】、【運動の動詞】
１０回　第６課②　【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
１１回　第６課③　【電話】、【出発と倒着の表現】
１２回　第６課④　【あなたはどこから来ましたか】
１３回　会話　【どこへ】、【どこに】、【どこから】
１４回　復習
１５回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テスト含む）…１０％　宿題…１０％　期末試験…８０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。（必要な学習時間の目安は、予習 60分、
復習 60分です。）

ロシア語IV 【昼】

履修上の注意　/Remarks

できるだけロシア語の音声資料などで耳慣らしをして発音練習をすること、また
毎回、授業の前と後で単語・表現、挨拶言葉などの予習・復習を怠らないこと。
正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ロシア語V 【昼】

担当者名 /Instructor　芳之内　雄二 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ロシア語V	RUS201F

授業の概要　/Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、書き言葉に特徴的な複文（関係代名詞、関係副詞、分詞構文）の「文法・語法」学習、動詞の体の用法・派生、運動の動詞など、より複雑な文法の学習を行う。到達目標は、文章語の読解力を養うこと。

教科書　/Textbooks

古賀・鴻野著『ロシア語の教科書』（第２版）、ナウカ出版

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

佐藤純一著『NHK新ロシア語入門』日本放送出版協会
○プリキナ著『新ロシア語文典』我妻書房

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　定動詞・不定動詞（１）、完了体・不完了体
２回　関係代名詞（１）、形容詞・副詞の比較級と最上級
３回　個数詞と名詞句の結合、年齢表現、値段表現
４回　時間表現、不定使用法、不規則変化動詞
５回　不定人称文、仮定法（１）、複文（１）
６回　移動動詞の派生、曜日表現
７回　関係副詞、関係代名詞（２）、勧誘法表現、年月日表現
８回　相互代名詞、述語生格、仮定法（２）、普遍人称文
９回　無人称動詞、定動詞・不定動詞（２）、再帰所有代名詞、「春の祝日について」
１０回　副動詞、形動詞現在
１１回　完了動詞・不完了動詞の派生、祝辞表現
１２回　時刻表現、概数、姓の格変化
１３回　複文（２）、存在状態を表す動詞と動作動詞（「横たわっている」と「横になる・横たわせる」）
１４回　形動詞過去、間接命令法
１５回　定代名詞、特殊変化動詞、「呼格について」

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験 … 60%　　小テスト・課題・学習状況 … 40 %
（欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

履修者には、テキストの読み、練習問題の課題を課すので準備が必要。なお、授業後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

ロシア語V 【昼】

履修上の注意　/Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」「ロシア語II」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

ロシア語の参考書、学習教材は図書館に相当点数（数十冊以上）ありますので利用してください。

キーワード　/Keywords

ロシア語VI 【昼】

担当者名 /Instructor　芳之内　雄二 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ロシア語VI	RUS211F

授業の概要 /Course Description

テキスト「ロシアでの一ヶ月」の読み、訳、練習問題をこなすことで、ロシア語運用力の向上を目指す。さらに、マスコミ記事などの読解を通じて、ロシア社会、ロシア文化についての理解を深める。
到達目標は、ノーマルスピードのやさしい会話が理解できるようになること、読解力を養うこと。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」など数万語以上の見出し語を持つロシア語辞書が必要

授業計画・ 内容 /Class schedules and Contents

１回　ГОСТИНИЦА　その1　読み、訳、練習問題
２回 ГОСТИНИЦА　その2　読み、訳、練習問題
３回 СТОЛОВАЯ　その1　読み、訳、練習問題
４回 СТОЛОВАЯ　その2　読み、訳、練習問題
５回　ГАСТРОНОМ　読み、訳、練習問題
６回　УНИВЕРМАГ　読み、訳、練習問題
７回　ТРАНСПОРТ　読み、訳、練習問題
８回　ПОЧТА　読み、訳、練習問題
９回　ТЕЛЕФОН　読み、訳、練習問題
１０回　ВОКЗАЛ　読み、訳、練習問題
１１回　ПОЛИКЛИНИКА　読み、訳、練習問題
１２回　ПАРИКМАХЕРСКАЯ　読み、訳、練習問題
１３回　ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ　その1　読み、訳、練習問題
１４回　ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ　その2　読み、訳、練習問題
１５回　ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ　その3　読み、訳、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験５０%、授業での発表 ５０％
(全授業回数の三分の一以上の欠席者は期末試験の受験資格はありません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので準備が必要。

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」「ロシア語II」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ロシア語の参考書、学習教材は図書館に相当点数 (数十冊以上) ありますので利用してください。

ロシア語VI 【昼】

キーワード　/Keywords

ロシア語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor　ナタリア・シェスタコーワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
2年次	1単位	1学期	講義	英中国済営比人律 政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ロシア語Ⅶ	RUS202 F

授業の概要 /Course Description

これまでに習ったロシア語の語彙、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上をめざす。「聞き取り·会話」と「作文」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「ロシア語の教科書」古賀義顕・鴻野わか菜、アンナ・パーニナ校閲、ナウカ出版、2016年改訂版
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」　安藤 厚編　白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回　第9 課①　【動詞の未来形】、【無人称文】
2回　第9 課②　【夏休みの計画】、【特殊変化】
3回　第9 課③　会話練習
4回　第10 課①　【命令形】、【否定性格】
5回　第10 課②　【全否定の表現】、【不規則動詞】
6回　第10 課③　【様々は…が痛い】、【私は気分がいい】
7回　第10 課④　会話練習
8回　第11 課①　【造格】
9回　第11 課②　【移動動詞 ①】
10回　第11 課③　【先生の語り】
11回　第12 課①　【移動動詞 ②】、【不完了体と完了体】
12回　第12 課②　【体のペア】、【体の用法】
13回　ビデオ学習①【В ГОСТИНИЦЕ】
14回　ビデオ学習②　会話練習
15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テスト含む）…１０％　宿題…３０％　期末試験…６０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

できるだけロシア語の音声資料などで耳慣らしをして発音練習をすること、また
毎回、授業の前と後で単語・表現、挨拶言葉などの予習・復習を怠らないこと。
正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

ロシア語Ⅶ 【昼】

履修上の注意　/Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語III」、「ロシア語IV」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ロシア語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor　ナタリア・シェスタコーワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year	2年次	単位 /Credits	1単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ロシア語Ⅷ	RUS212F

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「ロシア語の教科書」古賀義顕・鴻野わか菜、アンナ・パーニナ校閲、ナウカ出版、2016年改訂版
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」　安藤 厚編　白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回　第12 課③　【完了体未来】
2回　第12 課④　【手紙を書く】
3回　第12 課⑤　会話練習
4回　ビデオ学習①【ЗИМНЯЯ СЮИТА】
5回　ビデオ学習②　会話練習【У ВРАЧА】
6回　ビデオ学習③　作文【Я И СПОРТ】
7回　第13 課①　【関係代名詞 КОТОРЫЙ】、【形容詞・副詞の比較級 ①】
8回　第13 課②　【形容詞・副詞の比較級 ②】
9回　第13 課③　【学生たちの会話】
10回　第13 課④　会話練習
11回　第14 課①　【個数詞と名詞】、【年齢の表現】
12回　第14 課②　【値段の表現】、【時核の表現】
13回　第14 課③　会話練習
14回　第14 課④　【コートを買いに】
15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テスト含む）…１０％　宿題…３０％　期末試験…６０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

できるだけロシア語の音声資料などで耳慣らしをして発音練習をすること、また
毎回、授業の前と後で単語・表現、挨拶言葉などの予習・復習を怠らないこと。
正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

ロシア語VIII 【昼】

履修上の注意　/Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語III」、「ロシア語IV」、「ロシア語VII」を
履修しておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ドイツ語I 【昼】

担当者名 /Instructor　山下　哲雄 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ドイツ語Ⅰ	GRM101F

授業の概要　/Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

教科書　/Textbooks

CD付き『独検５級・4級・3級対応　ドイツ語文法』三修社、著者：在間進、亀ヶ谷 昌秀

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音・つづり・母音の長短】（５級対応）
２回　自己紹介。【動詞の現在人称変化】
３回　ハンスは今、テニスをしています。【分の作り方。平叙文、疑問文】
４回　その母親はワインを飲みます。【名詞の性と冠詞】
５回　その犬のその名前はタロウです。【名詞と冠詞の格】
６回　フランクはアナのために10本のバラを買います。【複数形の作り方】（4級対応）
７回　その子供達はサッカーをするのが好きです。【複数形の使い方】
８回　ケンはこのスポーツカーを買います。【定冠詞類】
９回　私の犬はタロウという名前です。【不定冠詞類】
１０回　その息子はその犬と遊ぶのが好きです。【前置詞の格支配】
１１回　私達は今日、ケンとその学食に行きます。【３・４格支配の前置詞】
１２回　彼は彼女に一通の手紙を書きます。【人称代名詞】
１３回　私は私の歯をみがきます。【再帰代名詞】
１４回　私は明日、ドイツ語を学ぶつもりです。【助動詞】
１５回　彼は週末に何をするのでしょうか。【未来形】

成績評価の方法　/Assessment Method

数回の小テスト（５０％）　学期末試験（５０％）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を３度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意　/Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun（発音：ツァウン、「垣根」）とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

ドイツ語I 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ドイツ語II 【昼】

担当者名 /Instructor　山下　哲雄 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ドイツ語Ⅱ	GRM111F

授業の概要　/Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

教科書　/Textbooks

CD付き『独検５級・4級・3級対応　ドイツ語文法』三修社、著者：在間進、亀ヶ谷昌秀

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。ハンスはパーティーを開きました。【過去形】（3級対応）
２回　私達は寿司を食べに行きます。【動詞の特殊な使い方】
３回　君達は何をしましたか。【完了形】
４回　私達は食べてしまっていました。【過去完了形】
５回　アナはいつも先生にほめられます。【受動文】
６回　私は昨日、先生にほめられました。【受動の過去形と完了形】
７回　ハンスはオーストリアあるいはスペインへ行きます。【並列接続詞】
８回　彼は仕事に行く前に、いつも新聞を読みます。【従属接続詞と副文の作り方】
９回　フランクはカナを愛しています、しかしお金を持っていない、と言いました。【接続法第1式】
１０回　もし僕がとても金持ちならば、僕はカナと世界旅行をするでしょうに。【接続法第2式】
１１回　私は私の学友達よりもずっと勤勉でした。【比較変化】
１２回　その車は私が期待したと同じように速く走ります。【同等の比較】
１３回　あそこで歌っているその少年は、私の孫です。【関係文】
１４回　それを主張する人は、嘘をついています。【不定関係代名詞】
１５回　彼等は冷たい飲み物を飲みます。【形容詞の格変化】

成績評価の方法　/Assessment Method

数回の小テスト(５０%)　　学期末試験（５０%）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を３度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

ドイツ語II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun (発音：ツァウン、「垣根」) とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化· 歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ドイツ語III 【昼】

担当者名 /Instructor　山下　哲雄 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ドイツ語Ⅲ	GRM102F

授業の概要　/Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じること。

教科書　/Textbooks

『スツエーネン１　場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、１・２人称、】
２回　名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
３回　紹介、数字、電話番号【３人称、数詞】
４回　各国の国名、車のナンバープート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
５回　履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
６回　ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
７回　趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
８回　ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
９回　好物、外国料理【接続詞】
１０回　ドイツの食事【頻度を表す副詞】
１１回　家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、１(主)格】
１２回　ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
１３回　１回から６回までのキーワードの復習
１４回　７回から１２回までのキーワードの復習
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

数回の小テスト（５０％）　学期末試験（５０％）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を３度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意　/Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun（発音：ツァウン、「垣根」）とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

ドイツ語III 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ドイツ語IV 【昼】

担当者名 /Instructor　山下　哲雄 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ドイツ語IV	GRM112F

授業の概要　/Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じること。

教科書　/Textbooks

『スツエーネン１　場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１回　持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
２回　傘はドイツ語でなんと言うか【４（直接目的）格】
３回　住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の３格、】
４回　家賃はいくらですか、部屋の広さは
５回　時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
６回　日付、曜日、誕生日、今週の予定
７回　大学の建物、道案内、【副詞】
８回　交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
９回　休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
１０回　ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
１１回　過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
１２回　クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
１３回　１回から６回までのキーワードの復習
１４回　７回から１２回までのキーワードの復習
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

数回の小テスト（５０％）　学期末試験（５０％）

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を３度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意　/Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun（発音：ツァウン、「垣根」）とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

ドイツ語IV 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ドイツ語V 【昼】

担当者名 /Instructor　山下　哲雄 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律 政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ドイツ語V	GRM201F

授業の概要　/Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
　旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書　/Textbooks

『スツェーネン２　場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
２回　駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
３回　私達は注文したいのですが。【レストランで】
４回　部屋は空いていますか？【ホテルで】
５回　郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
６回　円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
７回　フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
８回　ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
９回　どこが悪いのですか？【病気】
１０回　頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
１１回　君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
１２回　ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生祝い】
１３回　ドイツ語でクロスワード遊び。
１４回　一日の活動を日記に書く。
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

数回の小テスト（５０％）　学期末試験（５０％）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で理解した文を３回音読しましょう。

履修上の注意　/Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

ドイツ語V 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor　山下　哲雄 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律 政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ドイツ語VI	GRM211F

授業の概要　/Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
　旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書　/Textbooks

『スツェーネン２　場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　パーティーに何を着ますか？【服装】
２回　このグレーのスラックスはいいかがですか？【お店で】
３回　家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
４回　ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
５回　ここで犬を放してはいけません。【禁止】
６回　何歳になったら何ができますか？【選挙権】
７回　ドイツの学校制度。【教育】
８回　パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
９回　あなたは何に興味がありますか？【職業】
１０回　イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
１１回　イースターのウサギが語ります【祭り】
１２回　君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
１３回　君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
１４回　クリスマスクッキーの作り方。
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

数回の小テスト（５０％）　　学期末試験（５０％）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で理解した文を３回音読しましょう。

履修上の注意　/Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

ドイツ語VI 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ドイツ語VII 【昼】

担当者名 /Instructor　山下　哲雄 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律 政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ドイツ語VII	GRM202F

授業の概要　/Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
　旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書　/Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
２回　人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
３回　軽く詫びて話しかけるとき、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
４回　ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
５回　人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
６回　相手の言うことが聞き取れないとき
７回　理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くとき
８回　綴りを聞くとき、英語の分る人を探すとき、いい直しをするとき
９回　ドイツのビデオ、５回から８回までの復習
１０回　場所を聞くとき、道順・方向を聞くとき、距離を聞くとき
１１回　時刻を聞くとき、時間を聞くとき、曜日を聞くとき、日付を聞くとき
１２回　値段を聞くとき、数量を聞くとき、方法を聞くとき、理由を聞くとき
１３回　目的を聞くとき、住所を聞くとき、出身地を聞くとき、生年月日を聞くとき
１４回　ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

数回の小テスト（５０％）　学期末試験（５０％）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で理解した文を３回音読しましょう。

履修上の注意　/Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

ドイツ語VII 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ドイツ語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor　山下　哲雄 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ドイツ語VIII	GRM212F

授業の概要　/Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
　旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書　/Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
２回　両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
３回　服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
４回　ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
５回　相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
６回　自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くとき、相手の感想を聞くとき
７回　相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
８回　予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
９回　ドイツのビデオ、５回から８回までの復習
１０回　病状を言うとき、身体の具合を聞くとき、体調を言うとき
１１回　会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くとき
１２回　自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
１３回　贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くとき、料理を勧めるとき
１４回　ドイツビデオ、１０回から13回までの復習
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

数回の小テスト（５０％）　学期末試験（５０％）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で理解した文を３回音読しましょう。

履修上の注意　/Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

ドイツ語VIII 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フランス語I 【昼】

担当者名 /Instructor　山下　広一 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

フランス語 I	FRN101F

授業の概要　/Course Description

初級文法の習得をとおしてフランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。

教科書　/Textbooks

『新・彼女は食いしん坊！１』　（藤田裕二著　朝日出版社　￥２４００＋税）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

教科書は全１２課、配列に従って原則二回で１課進み、1学期は第６課まで終了。
以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

１回　フランス語の発音とつづり字
２回　国籍・職業をいう
３回　主語人称代名詞と動詞 etre の使い方
４回　名前・持ち物をいう
５回　動詞 avoir と冠詞の使い方
６回　友人・家族を紹介する
７回　第一群規則動詞と所有形容詞の使い方
８回　疑問文の作り方
９回　人・物を説明する
１０回　形容詞の使い方
１１回　電話をかける、近い未来・過去についていう
１２回　指示形容詞、人称代名詞強勢形の使い方
１３回　人、物、場所、時についてたずねる
１４回　疑問詞の使い方
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…20%　　期末試験…80%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文（会話文）を付属ＣＤをつかって聴き取りと発音練習をしてください。
事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

フランス語I 【昼】

履修上の注意　/Remarks

仏和辞典を各自用意すること(紙・電子どちらでもよい）
遅くとも２回目の講義までには教科書を用意しておくこと（事情により入手が遅れる場合は、講義開始前に申し出ること）

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

連続して欠席すると、講義内容についていくのが困難となります。
正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード　/Keywords

はじめて学ぶフランス語

フランス語II 【昼】

担当者名 /Instructor　山下　広一 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

フランス語Ⅱ	FRN111F

授業の概要　/Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。

教科書　/Textbooks

『新・彼女は食いしん坊！１』　（藤田裕二著　朝日出版社　￥２４００＋税）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

教科書は全１２課、配列に従って２学期は第７課から第１２課まで。
以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

１回　食べ物・飲み物についていう
２回　部分冠詞、数量の表現について
３回　時刻・天候についていう
４回　疑問形容詞と命令形
５回　非人称構文と第二群規則動詞について
６回　人・物を比較する
７回　比較級と最上級の表現
８回　人を紹介する
９回　補語人称代名詞の使い方
１０回　代名動詞について
１１回　過去のことを話す
１２回　複合過去の作り方
１３回　未来のことを話す
１４回　単純未来の作り方
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…20%　　期末試験…80%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文（会話文）を付属のＣＤをつかって聴き取りと発音練習をしてください。
事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

フランス語II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

仏和辞典を各自用意すること（紙・電子どちらでもよい）
教科書は1回目の講義から用意しておくこと。
１学期に最低1科目はフランス語の講義を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード　/Keywords

フランス語を生きた言葉として実感

フランス語III 【昼】

担当者名 /Instructor　坂田　由紀 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

フランス語Ⅲ	FRN102F

授業の概要　/Course Description

初歩的な文法を学び、簡単な日常会話の練習とそれに関する文章を読むことによって知識を定着させます。

教科書　/Textbooks

『パリ・ボルドー　フランスの世界遺産と食文化を巡る旅』藤田裕二著　（朝日出版社　２０１６年　２５００円）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回目　発音の仕方
２回目　綴り字の読み方　（１課終了）
３回目　主語人称代名詞
４回目　国籍を表す形容詞（２課終了）
５回目　名詞と不定冠詞
６回目　名詞と形容詞　（３課終了）
７回目　第１群規則動詞の活用
８回目　定冠詞　疑問文　（４課終了）
９回目　指示形容詞
１０回目　動詞＜avoir＞の活用　否定文　（５課終了）
１１回目　動詞＜aller＞の活用
１２回目　疑問代名詞　不規則動詞　（６課終了）
１３回目　所有形容詞と疑問形容詞
１４回目　人称代名詞強勢形　（７課終了）
１５回目　il y a の表現

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点：オラル・ペーパーテスト：４０％　定期試験：６０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習としてあらかじめテキスト準拠のホームページでディアローグと文化の映像を見て何を学ぶかを確認しておくこと。事後学習として、文法項目ごとにノート整理をし、単語帳や例文リストを作成し「発音する・書く」を繰り返して暗記すること。

履修上の注意　/Remarks

仏和辞典（電子でも紙でもよい）必携のこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

フランス語III 【昼】

キーワード　/Keywords

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor　坂田　由紀 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

フランス語Ⅳ	FRN112F

授業の概要　/Course Description

１学期に引き続き、基本文法を会話表現を通して学び、簡単な文章を読むことによってそれらを確認します。

教科書　/Textbooks

『パリ・ボルドー　フランスの世界遺産と食文化を巡る旅』藤田裕二著（朝日出版　２０１６年　２５００円）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回目　定冠詞の縮約
２回目　補語人称代名詞　（８課終了）
３回目　代名動詞
４回目　中性代名詞　y　（９課終了）
５回目　非人称構文
６回目　命令形　感嘆文　（１０課終了）
７回目　部分冠詞
８回目　中性代名詞　en　（１１課終了）
９回目　比較級
１０回目　単純未来形　（１２課終了）
１１回目　複合過去　1
１２回目　複合過去２
１３回目　半過去　（１３課終了）
１４回目　条件法現在
１５回目　接続法現在　（１４課終了）

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点：オラル・ペーパーテスト４０％　定期試験：６０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習としてにテキスト準拠のホームページでディアローグと文化の映像を見て何を学ぶかを確認すること。事後学習としては、文法項目ごとにノート整理をし、単語帳や例文のリストを作成し「発音する・書く」を繰り返して暗記すること。

履修上の注意　/Remarks

仏和辞書（紙でも電子でもよい）必携

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

フランス語IV 【昼】

キーワード　/Keywords

フランス語V 【昼】

担当者名 /Instructor　坂田　由紀 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

フランス語V	FRN201F

授業の概要　/Course Description

会話文と日記文を通して初級で学んだ文法を復習し、より複雑な表現を口頭練習や作文練習を通して定着させます。

教科書　/Textbooks

『パリ・ブルゴーニュ　フランスの世界遺産と食文化を巡る旅２』藤田裕二著（朝日出版　２０１７年　２５００円）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回目　受動態
２回目　なぜ？ーなぜなら、の表現　（１課終了）
３回目　形容詞の最上級
４回目　関係代名詞１　（２課終了）
５回目　関係代名詞２
６回目　勧誘と応答の表現　（３課終了）
７回目　疑問代名詞
８回目　不定代名詞 on（４課終了）
９回目　条件法現在
１０回目　条件法過去　（５課終了）
１１回目　代名動詞の複合過去
１２回目　複合過去復習　過去分詞の性数一致　（６課終了）
１３回目　半過去
１４回目　指示代名詞　ce　（７課終了）
１５回目　まとめと復習

成績評価の方法　/Assessment Method

宿題：２０％　小テスト：２０％　定期試験：６０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習としてテキスト準拠ホームページでディアローグと文化の映像を見て何を学ぶかを把握しておくこと。事後学習として、文法項目ごとにノート整理をし、単語帳、例文リストを作成し暗記すること。

履修上の注意　/Remarks

辞書（紙でも電子でもよい）を必携すること。１年次で使用したテキストを復習用として活用すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

フランス語V 【昼】

キーワード　/Keywords

フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor　坂田　由紀 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

フランス語VI	FRN211F

授業の概要　/Course Description

１学期に引き続き、中級レベルの会話文や日記文を参考にして、より正確にまたニュアンスのある表現力を身に着けます。

教科書　/Textbooks

『パリ・ブルゴーニュ　フランスの世界遺産と食を巡る旅２』藤田裕二著　（朝日出版社　２０１７年　２５００円）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回目　接続法現在
２回目　「～のように見える」の表現　（８課終了）
３回目　位置を表す前置詞
４回目　勧誘・提案の表現３　（９課終了）
５回目　現在分詞
６回目　ジェロンディフ　（１０課終了）
７回目　副詞について
８回目　時と場所の副詞　（１１課終了）
９回目　所有代名詞
１０回目　お礼の表現　（１２課終了）
１１回目　間接話法
１２回目　時制の一致　（１３課終了）
１３回目　強調構文
１４回目　時を表す前置詞句　（１４課終了）
１５回目　まとめと復習

成績評価の方法　/Assessment Method

宿題：２０％　小テスト：２０％　定期試験：６０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前にテキスト準拠のホームページでディアローグと文化の映像を見て何を学ぶかを把握しておくこと。事後には文法を項目ごとにまとめ、単語帳と例文リストを作成し暗記すること。

履修上の注意　/Remarks

授業には辞書を必携すること。１年次に使用したテキストを復習用として活用すること。

フランス語VI 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フランス語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor　小野　菜都美 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

フランス語Ⅶ	FRN202F

授業の概要　/Course Description

日常的なシーンでのフランス語会話力を養うことを中心に、発音や聞き取り、読解の力をつけることも目指します。
ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。
授業は主に教科書に沿って進めますが、定期的にプリントを配布したり、映像を流したりして、リスニングやリーディングの練習も行います。

教科書　/Textbooks

Rythmes & communication

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１）unité 1：自己紹介（前半）
２）unité 1：自己紹介（後半）
３）unité 1：自己紹介（復習）
４）unité 2：質問する（前半）
５）unité 2：質問する（後半）
６）unité 2：質問する（復習）、小テスト
７）unité 3：買い物をする（前半）
８）unité 3：買い物をする（後半）
９）unité 3：買い物をする（復習）
１０）unité 4：いつ（前半）
１１）unité 4：いつ（後半）
１２）unité 4：いつ（復習）、小テスト
１３）unité 5：どこ（前半）
１４）unité 5：どこ（後半）
１５）前期の復習、小テスト
上記は目安であり、受講生の理解度や関心に合わせて変更する場合があります。

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の取り組み・・・２０％
小テスト（３回）・・・６０％
期末テスト・・・２０％
授業中の「取り組み」は２０％ですが、出席が評定の前提となっています。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

フランス語Ⅶ 【昼】

履修上の注意　/Remarks

すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フランス語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor　小野　菜都美 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

フランス語Ⅷ	FRN212F

授業の概要　/Course Description

日常的なシーンでのフランス語会話力を養うことを中心に、発音や聞き取り、読解の力をつけることを目指します。
ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。
授業は主に教科書に沿って進めますが、定期的にプリントを配布したり、映像を流したりして、リスニングやリーディングの練習も行います。

教科書　/Textbooks

Rythmes & communication

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１）前期の復習、unité 6：誰（前半）
２）unité 6：誰（後半）
３）unité 6：誰（復習）、リスニング
４）unité 7：何（前半）
５）unité 7：何（後半）
６）unité 7：何（復習）、小テスト
７）unité 8：どのように（前半）
８）unité 8：どのように（後半）
９）unité 8：どのように（復習）、読解
１０）unité 9：過去について（前半）
１１）unité 9：過去について（後半）
１２）unité 9：過去について（復習）、小テスト
１３）unité 10：仮定、条件（前半）
１４）unité 10：仮定、条件（後半）
１５）後期の復習、プレゼンテーション
上記は目安であり、受講生の理解度や関心に合わせて変更する場合があります。

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の取り組み・・・２０％
小テスト（２回）・・・４０％
プレゼンテーション・・・２０％
レポート・・・２０％
授業中の「取り組み」は２０％ですが、出席が評定の前提となっています。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

フランス語VIII 【昼】

履修上の注意　/Remarks

すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

スペイン語I 【昼】

担当者名 /Instructor　岡住　正秀 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
1年次	1単位	1学期	講義	中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

スペイン語 I	SPN101F

授業の概要　/Course Description

スペイン語はヨーロッパの諸言語のなかでも、われわれ日本人には「やさしい」言語です。単語一つ一つは５つの母音字（ア・エ・イ・オ・ウ）と子音字の組み合わせので、発音はいたって簡単です。この授業では、アルファベットから単語の発音・アクセントの法則から始めて、スペイン語の初歩的文法を中心に学びます。学んだ文法事項を応用して、平易な短文を読めるようにします。

またスペインおよびスペイン語圏の国々・地域の事情についても適宜お話しします。

教科書　/Textbooks

『初級スペイン語文法』改訂版（朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

ロボ、大森ほか『スペイン語基礎文法』（ピアソンエデュケーション）
『スペイン語とつきあう本』（寿里、東洋書店）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　スペイン語の歴史について簡潔な説明、アルファベット
2回　５つの母音と子音について、正書法による発音とアクセント
3回　名詞と冠詞、性と数、簡単なあいさつ表現
4回　人称代名詞、一般動詞の活用（３つのタイプ）：直説法現在
５回　一般動詞の活用（１）と基本文例、肯定文、否定文
6回　一般動詞の活用（２）と基本文例、　否定文、疑問文
7回　一般動詞の活用（３）と基本文例、目的語と前置詞
8回　一般動詞の復習、形容詞
9回　ser動詞とestar動詞（１）
10回　ser動詞とestar動詞（２）およびhayについて
11回　疑問詞を使った疑問文（１）
12回　疑問詞を使った疑問文（２）
13回　不規則動詞の活用、指示詞
14回　短文を読む（プリント）
15回　復習

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験　１００％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

外国語の学習には辞書が必須です。毎回の授業前には単語の意味を調べておきましょう。また、テキストの各課には「練習問題」がありますが、回答を正しく表記できるか問題文（スペイン語）を含めて、自分で書いてください。強制ではありませんが、毎回提出すれば、教員が「赤」を入れて返却します。

スペイン語I 【昼】

履修上の注意　/Remarks

第二外国語はそれなりの忍耐も必要です。毎回出席し、予習・復習をしましょう。辞書は必要不可欠です。授業中に質問の時間を設けています。わからないことがあれば、いつでも質問しましょう。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

外国語の学習は新しい世界観につながります。

キーワード　/Keywords

スペイン語II 【昼】

担当者名 /Instructor　岡住　正秀 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

スペイン語Ⅱ	SPN111F

授業の概要　/Course Description

スペイン語Ⅰの続編です。基本は直説法現在時制です。一般動詞（規則動詞）に加えて、重要な不規則動詞の活用とその基本的文例を幅広く学び、一通りスペイン語文法の基礎を終了します。授業では平易な短い文章を読めるようにし、同時にスペインの歴史や文化、およびスペイン語圏の国々と地域にも触れて、進めたいと思います。

教科書　/Textbooks

和佐敦子『初級スペイン語文法』改訂版（朝日出版）
短文のプリント配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

ロボ、大森『スペイン語基礎文法』（ピアソンエデュケーション）
『スペイン語とつきあう本』（寿里、東洋書店）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　スペイン語Ⅰの復習
2回　直説法現在ー不規則動詞の活用（１）
3回　指示代名詞と基本文例
4回　指示形容詞と基本文例
5回　不規則動詞の活用（２）
6回　所有形容詞と文例、人称代名詞目的格
7回　不規則動詞の活用（３）直接目的格
8回　不規則動詞の活用（４）間接目的格
9回　前置詞と基本文例
10回　前置詞と人称代名詞
11回　gustar型の動詞（１）
12回　gustar型の動詞（２）
13回　再帰動詞と基本表現
14回　無人称表現、曜日・日付の表現
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験　１００％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず授業の前に、辞書で単語の意味を調べてください。毎回授業には辞書を持参しましょう。また、教科書の各課には練習問題があります。授業で終わった段階で、練習問題文（スペイン語）を含めて、回答を正確に表記できるか確かめましょう。できれば、毎回提出すれば、「赤」を入れて返却します。

スペイン語II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

辞書は必要不可欠です。初めての単語は必ず辞書で調べましょう。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

スペインもイスパノアメリカも「情熱の国です！」。熱意でスペイン語に挑戦！

キーワード　/Keywords

スペイン語III 【昼】

担当者名 /Instructor　辻　博子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

スペイン語Ⅲ	SPN102F

授業の概要　/Course Description

この授業では日常会話に必要な語彙や言い回し・会話表現に有効な文法事項を学びながら、簡単なコミュニケーションを取ることを目指します。教科書に従い、モデルとなる短い会話例をまず暗記します。その後、語彙を増やしながら応用の会話もすぐ口から出てくるように何度も練習します。その際、ペアで、あるいは３－４人のグループでの会話練習を行います。
スペイン語の知識が全くない人を対象に、スペイン語の読み方・発音・アクセントの規則からはじめます。スペイン語の発音は日本語話者に易しく、発音しやすいのでどんどん単語や文を発音し慣れていきましょう。

教科書　/Textbooks

坂東省次、泉水浩隆、Alejandro CONTRERAS著『対話で学ぶスペイン語　改訂版』三修社、2016第1版

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。開講前に慌てて購入することはありません。
西和辞書として薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　スペイン語とスペイン語圏について、教室での表現、スペイン語のアルファベット「スペイン語で何といいますか？」
２回　スペイン語の発音とアクセントの位置、挨拶「おはよう。」
３回　１課　主語とser動詞、肯定文・否定文。名前・国籍・職業を言う「私はソニアです。」
４回　estar動詞、疑問文「元気ですか？」
５回　２課　名詞の性と数、冠詞、指示詞、他人の紹介「こちらはフアンです。」
６回　数字1 - 100「消防の電話番号は？」
７回　３課　規則活用動詞1　「わたしは文学を学んでいます。」
８回　規則活用動詞2　「スペイン語を話しますか？」
９回　４課　ser,estar,hayの使い方「近くにレストランはありますか？」
１０回　ir動詞　「どこに行きますか？」
１１回　５課　gustar動詞　「好きな食べ物は？」
１２回　料理の注文　「メキシコ料理は好きですか？」
１３回　６課　家族について　「私の祖父はホルヘです。」
１４回　家族について　tener動詞　「兄弟はいますか？」
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験　50%、　小テスト　30%、　日常の授業への取り組み　20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

スペイン語III 【昼】

履修上の注意　/Remarks

スペイン語I（文法）の授業を履修しながら（あるいはすでに過去に履修など）であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

初めて接する言語ですから、何度も声に出して発音しましょう。自身で発音し、その音を耳にすることも立派な学習です。
また、スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。
参考サイト：
http://www.rtve.es/　（スペイン国営放送　ＴＶＥ）
http://los40.com/　（スペイン語圏に広がるＦＭラジオ放送のサイト。音楽が中心。）
http://www.cadena100.es/　（スペインのＦＭラジオ放送のサイト。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。）

キーワード　/Keywords

スペイン語、スペイン、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語IV 【昼】

担当者名 /Instructor　辻　博子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

スペイン語IV	SPN112F

授業の概要　/Course Description

スペイン語IIIの続きから、更に表現を学んでいきます。IIIと同様、会話表現の文法事項を学びながら、モデル会話を覚え、語彙を増やして行きましょう。会話の応用練習をペアで、あるいは３ - ４人のグループで行います。口に出して発音をすることでフレーズを覚えましょう。

教科書　/Textbooks

IIIと同じテキストを使用。
坂東省次、泉水浩隆、Alejandro CONTRERAS著『対話で学ぶスペイン語　改訂版』三修社、2016第1版

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

西和辞書についてはIIIの開講時に指示したものと同じです。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１回　1学期の復習、7課「これはスペイン語で何といいますか？」
２回　7課　店での会話「こんな上着がほしいんですが。」
３回　8課　「カルロスの家は3部屋で、トイレは２つあります。」
４回　「住まいはどんなですか？」
５回　9課　時間表現「何時ですか？」
６回　再帰動詞「何時におきますか？」
７回　1週間のスケジュール「週末は何をしますか？」
８回　10課　大学で「ガルシア先生の研究室はどこですか？」
９回　肯定命令「クラスメートと会話をしなさい。」
１０回　大学の時間割「週に何度スペイン語の授業がありますか？」
１１回　11課　現在完了「週末はどうでしたか？」
１２回　「美術館はどうでしたか？」
１３回　12課　休暇の予定「夏にはどこへ行きますか？」
１４回　「タンゴを踊りたいですか、それともフラメンコ？」
１５回　2学期まとめ

＊テキストの順に従い記していますが、進度に応じ多少変更する可能性があります。

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験　50%、　小テスト　30%、　日常の授業への取り組み　20%

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

スペイン語IV 【昼】

履修上の注意　/Remarks

スペイン語II（文法）の授業を履修しながら（あるいはすでに過去に履修など）であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

何度も声に出して発音しましょう。自身で発音し、その音を耳にすることも立派な学習です。 また、スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。
参考サイト： http://www.rtve.es/
http://los40.com/
http://www.cadena100.es/
また、YoutubeやTwitter, Instagram, Facebookなど、気に入ったSNSを見つけいろいろなスペイン語に触れてみるのも勧めます。

キーワード　/Keywords

スペイン語、スペイン語圏、スペイン、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語V 【昼】

担当者名 /Instructor　青木　文夫 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律 政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

スペイン語V	SPN201F

授業の概要　/Course Description

中級程度以上のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします 授業を通じて随時スペイン語圏の文化に接することができるような教材も紹介します。

教科書　/Textbooks

初級スペイン語文法（和佐敦子著、朝日出版）昨年度のテキストの続きをします。改訂版なので昨年の2年生で使ったものとは違いますので、注意して下さい（現在生協で売っているものです）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

西和辞典：
スペイン語中辞典（小学館）
新スペイン語（研究社）
現代スペイン語辞典（白水社）
プログレッシブスペイン語辞典（小学館）
パスポート初級スペイン語辞典（白水社）
他多数有。
白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
和西辞典：
和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）
クラウン和西辞典（三省堂）
その他
図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
スペイン（増田監修：新潮社）
スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）
スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

スペイン語V 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1 １年の復習（代名詞を中心に）
2 １年の復習（代名詞を中心に）
3 再帰動詞、無人称文など
4 再帰動詞、無人称文など
5 動詞の派生形とその用法（進行形、完了形、命令形など）
6 同上
7 ここまでの復習
8 点過去、現在完了の用法
9 同上
10 同上
11 線過去の用法
12 同上
13 点過去と線過去の違いについてと、ここまでの復習
14 視聴覚教材を使って
15 同上
授業全体を通じて、スペイン語の表現を覚えるための会話・講読教材（プリント配布）を視聴覚教材として随時学びます。

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。 具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普段の教室でのやりとり（読む、書くなど）や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合（例えば小テストを受けていないなど）で平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

動詞の活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう。

履修上の注意　/Remarks

上記テキストに対するプリントなどの補助教材はポータルから送ります。授業時に詳しく説明します。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもＯＫです。メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード　/Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor　青木　文夫 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律 政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

スペイン語VI	SPN211F

授業の概要　/Course Description

スペイン語の中級から上級の文法を理解し使えるようにすることを目標にします。詳しくは授業計画を参照。前期のスペイン語Ｖに引き続き、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします

教科書　/Textbooks

初級スペイン語文法（和佐敦子著、朝日出版）昨年度のテキストの続きをします。
最後にスペイン語版「となりのトトロ」を見ながら、表現の聞き取りの練習を楽しみながらやりましょう。
スペイン語Vのプリントも文書管理に残っているので、スペイン語VIから受講の場合も教材はすべてそろいます。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

スペイン語中辞典（小学館）
新スペイン語（研究社）
現代スペイン語辞典（白水社）
プログレッシブスペイン語辞典（小学館）
パスポート初級スペイン語辞典（白水社）
他多数有。
白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
和西辞典：
和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）
クラウン和西辞典（三省堂）
その他
図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
スペイン（増田監修：新潮社）
スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）
スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

スペイン語VI 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1 未来形とその関連時制の用法
2 同上
3 前期を含め、様々な構文のまとめ（受け身、使役、放任、比較など）
4 同上
5 過去完了と時制の一致
6 受け身文、無人称文
7 同上
8 接続法の活用全般について
9 接続法の用法
10 接続法の用法
11 スペイン語版トトロを理解する
12 スペイン語版トトロを理解する
13 スペイン語版トトロを理解する
14 スペイン語版トトロを理解する
15 まとめ
授業全体を通じて、スペイン語の表現を覚えるための会話・講読教材を随時学びます。

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。 具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普段の教室でのやりとり（読む、書くなど）や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合（例えば小テストを受けていないなど）で平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう。

履修上の注意　/Remarks

上記テキスト以外のプリントなどの補助教材はポータルから送ります。授業時に説明します。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもＯＫです。メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード　/Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

スペイン語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor　辻　博子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

スペイン語Ⅶ	SPN202F

授業の概要　/Course Description

前年度のスペイン語III・IV（会話表現）を更に発展させていきます。プリントとビデオでいろいろな場面に応じた会話表現を学んで行き、映像や音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行います。そのうえで、実際の場面に応じた会話をペアやグループで行い、時折発表もします。
会話表現内で、前年度学んでいない文法項目については適宜解説します。

教科書　/Textbooks

プリント配布　（テキスト購入不要）
始めの方は前年度の教科書を持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。
西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。
和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　前年度スペイン語の復習、自己紹介
2回　他人の紹介、人についての表現
3回　一日のスケジュール
4回　日常の紹介（１）
5回　日常の紹介（２）
6回　買い物（１）
7回　買い物（２）
8回　好きなこと
9回　食事について（１）パエージャの作り方
10回　食事について（２）
11回　旅行
12回　休暇の過ごし方　どこへ？
13回　スペイン語圏について
14回　町の紹介
15回　まとめ

＊上記、理解度に応じ順番を多少前後することがあります。

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験　50%、日常の授業への取り組み　50%

スペイン語Ⅶ 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：会話のテキストを配るので、指定された箇所を予習してくること。また、指定されたＷｅｂ上の字幕付きビデオを見て、内容把握をしてくること。
事後学習：授業中に行う和訳をもとに、もう一度、その日の授業内でのスペイン語会話（スクリプトや会話プリント）を全て読み、文法事項と内容の把握に努めること。

履修上の注意　/Remarks

辞書必携です。
スペイン語初級（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ･Ⅳ）の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

スペイン語の1年目を終え、基礎的なことを理解した後は、会話テキストや実際の映像などをもとに、その会話使用例をどんどん覚えてもらいたいと考えています。授業の予習は大変ですが、目にする単語を引いて覚えること、イラストや映像の状況をもとにどんな会話がなされているか推測することも練習の一つです。また、出てきたフレーズを理解し、自分でも同じように発音することでスペイン語をより身につけることができるはずです。
また、オンラインで見られるスペインの映像・音声も随時参考にしてください。
http://www.rtve.es/　（スペイン国営放送　ＴＶＥ）
http://los40.com/　（スペイン語圏に広がる音楽ＦＭ放送）
http://www.cadena100.es/　（スペインのＦＭ放送ラジオ。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。）
また、YoutubeやTwitter, Instagram, Facebookなど、気に入ったSNSを見つけいろいろなスペイン語に触れてみるのも勧めます。

キーワード　/Keywords

スペイン語　スペイン語圏　中南米　ラテンアメリカ

スペイン語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor　辻　博子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

スペイン語Ⅷ	SPN212F

授業の概要　/Course Description

前期のスペイン語VIIをさらに発展させていきます。プリントとビデオでいろいろな場面に応じた会話表現を学んで行き、映像や 音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行います。そのうえで、実際の場面に応じた会話をペアやグループで行い、時折発表もします。 会話表現内で、学んでいない文法項目については適宜解説します。

教科書　/Textbooks

プリント配布
（テキスト購入不要）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。
西和辞書で薦めるものは電子辞書、『クラウン西和辞典』三省堂、2005、『現代スペイン語辞典』白水社、1999などです。
詳細は開講時に指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　前期表現の復習、休暇中のこと
2回　さあ食べよう！ 今日の定食
3回　趣味の事（１）
4回　趣味のこと（２）
5回　仕事の紹介
6回　企業について
7回　旅行（１）
8回　旅行（２）
9回　過去の出来事（１）
10回　小さかった時
11回　過去の出来事（２）
12回　現在の推測
13回　スペイン語のDVDを理解する（１）
14回　スペイン語のDVDを理解する（２）
15回　まとめ、スペイン語の表現、動詞の時制のまとめ

＊上記、理解度に応じ順番を多少前後することがあります。

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験50%、日常の授業への取り組み50%

スペイン語VIII 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：会話のテキストを配るので、指定された箇所を予習してくること。また、指定されたＷｅｂ上のビデオを見て、字幕を読み予習をしてくること。
事後学習：授業中に行う和訳をもとに、もう一度、その日の授業内でのスペイン語会話（スクリプトや会話プリント）を全て読み、文法事項と内容の把握に努めること。

履修上の注意　/Remarks

辞書必携です。疑問に思ったことはどんどん辞書を引いてください。
スペイン語I・II・III・IV・V・VIIの単位履修は必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

スペイン語の2年目前期を終え、会話実例がどんどん出てくることに慣れてきたと思います。後期では過去形もふんだんに使用するビデオを見ていきます。授業の予習は大変ですが、目にする単語を引いて覚えること、イラストや映像の状況をもとにどんな会話がなされているか 推測することも訓練の一つです。また、出てきたフレーズを理解し、自分でも同じように発音することでスペイン語をより身につけることがで きるはずです。 また、オンラインで見られる映像・音声も随時参考にしてください。
http://www.rtve.es/ など

キーワード　/Keywords

スペイン語、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

日本語I 【昼】

担当者名 /Instructor　清水　順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　留学生１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。
日本語Iでは、特に「大学生活へのオリエンテーション」と「読み」に焦点を当てる。「大学生活へのオリエンテーション」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。さらに、学期最後の一カ月は、チュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

教科書　/Textbooks

『スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための２５のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』(佐々木瑞枝他、The Japan　Times)
○『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション
2回　大学生生(1)【自己紹介から始めよう】
3回　大学生活(2)【高校と大学の違い/大学について学ぶ】
4回　大学生活(3)【キャンパスツアー】
5回　大学生活(4)【大学教員・職員との付き合い方】
6回　大学生活(5)【図書館ツアー】
7回　大学生活(6)【大学生活のデザイン】
8回　大学生活(7)【講義の上手な受け方】
9回　大学生活(8)【演習に参加するコツ】
10回　大学生活(9)【大学の定期試験】
11回　チュートリアル(1)【学習計画】
12回　チュートリアル(2)【振り返り】
13回　チュートリアル(3)【修正】
14回　チュートリアル(4)【評価】
15回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み　…　30　%
ポートフォリオ評価　…　70%(学習者評価　30%　　ピア評価　20%　実習生評価　20%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに予め授業範囲を予習し、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

日本語Iと日本語IIと日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

大学に「適応」して、自分らしい大学生活を送りましょう。

キーワード　/Keywords

生活日本語　大学生活日本語　大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)　チュートリアル

日本語II 【昼】

担当者名 /Instructor　則松　智子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　留学生１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また日本語IIでは、実際に日本語を使う場面で、文字によるコミュニケーション（書く）の能力を伸ばす。「対人性」と「場面性」を理解することで、適切な文章構成・日本語表現ができるようになる。そして、「自己推敲能力」を伸ばすために、自分の書いたものを自己評価し、より良いものに修正する。

教科書　/Textbooks

『中級からの日本語プロフィシエンシーライティング』（由井紀久子他、凡人社）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『日本語Eメールの書き方』（簗晶子他、The Japan Times）
『外国人のためのケータイメール@にっぽん』（笠井淳子他、アスク）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　授業オリエンテーション【文のスタイル】【配慮】【負担】【良好な関係】【今後のこと】
2回　アポイントをとる【PCメール】
3回　問い合わせる【PCメール】
4回　伝言する【メモ】
5回　誘う【携帯メール】
6回　誘われる【携帯メール】
7回　依頼する【PCメール】
8回　依頼される【PCメール】
9回　謝る【PCメール】
10回　お礼を言う【PCメール】
11回　報告する【PCメール】
12回　なぐさめる・一緒に喜ぶ【携帯メール】
13回　募集する【チラシ】【掲示】
14回　アドバイスを求める【PCメール】
15回　評価【学びを振り返る】

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…50%　日常の授業への取り組み（発表や課題を含む）…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業内容の復習を行い、提示された課題をメールで送ること。

履修上の注意　/Remarks

日本語教育実習生（文学部比較文化学科日本語教師養成課程）が一部の授業を教育実習として担当することがある。
日本語I、日本語II、日本語IIIは授業内容の関連が深いので同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

プロフィシエンシー　書く　対人性　場面性

日本語III 【昼】

担当者名 /Instructor　徐　暁輝 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　留学生１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。
日本語IIIでは、大学生に求められる日本語文章表現能力の育成を目指す。具体的には、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い日常的な身体の感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。留学生にとって、第二言語である日本語で自己表現を行い大学生活を過ごすためには、まず、自己の身体感覚を第二言語で言語化する経験が重要となる。

教科書　/Textbooks

『TAEによる文章表現ワークブック』(得丸さと子、図書文化)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　授業オリエンテーション
　【フェルトセンス】【リラックスのワーク】
2回　【色模様のワーク】
3回　【オノマトペのワーク】
4回　【比喩のワーク】
5回　【花束のワーク】
6回　【コツのワーク】【共同詩のワーク】
7回　【励ます言葉のワーク】
8回　【マイセンテンス】
9回　【パターンを見つける】
10回　【パターンを交差させる】
11回　【自己PR文を作ろう】
12回　【資料を使って論じよう】
13回　【経験から論じよう】
14回　【感想文を書こう】
15回　評価【学びを振り返る】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み・・・30%　発表・課題・・・30%　自己評価…20%　ピア評価…20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に学習目標を確認し、ワークの手順を読んで理解しておく。
学習活動終了後、学習目標に基づき、どんなことができたか、できなかったかなどを振り返る。

履修上の注意　/Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定です。
日本語I及び日本語II、日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払っていてください。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋げます。
自主的に練習をすることで、授業内容の理解が深まるので、後日繰り返し練習をすること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

TAE　身体の感じ　日本語の私　母語の私

日本語IV 【昼】

担当者名 /Instructor　清水　順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　留学生１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。
日本語IVでは、特に「プレゼンテーション」に焦点を当てる。自己表現の手段としてのプレゼンテーション能力について「説明」と「説得」の二つの側面を考えながら育成する。さらに、日本語I同様、学期最後の一カ月はチュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

教科書　/Textbooks

『プラクティカル・プレゼンテーション(改訂版)』(上村和美他、くろしお出版)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『アカデミックプレゼンテーション入門』(三浦香苗他、ひつじ書房)
○『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション
2回　セルフチェックしよう【発表・評価】
3回　国際空港の中を説明しよう【サンドイッチ構成】
4回　レシートのコンテンツを発表しよう【マトリックス思考】
5回　国際会議場の使用プランを立てよう【問題点と解決策】
6回　レジュメを作ろう【要点】
7回　パワーポイントを作成しよう【デジタル・プレゼンテーション】
8回　発表しよう・コメント/質問しよう【質疑応答】
9回　発表についてセルフチェックしよう【自己評価】
10回　同窓会の幹事をしよう【企画・進行】
11回　チュートリアル(1)【学習計画】
12回　チュートリアル(2)【振り返り】
13回　チュートリアル(3)【修正】
14回　チュートリアル(4)【評価】
15回　総括【一年間を振り返る】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み　…30%
ポートフォリオ評価　…70%(自己評価　30%　ピア評価　20%　実習生評価　20%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに予め授業範囲を予習すること、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。
日本語IVと日本語V、日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

日頃から自分の話し方を意識しておいてください。

キーワード　/Keywords

デジタル・プレゼンテーション　Contents(内容)　Techniques(技術)　Tools(道具)

日本語V 【昼】

担当者名 /Instructor　則松　智子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　留学生１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。
日本語Vでは、特に「スタディスキル」と「日本語発想力・読解力・表現力」に焦点を当てる。
「スタディスキル」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。
「日本語発想力・読解力・表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。

教科書　/Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times
○石黒圭『この1冊できちんと書ける！論文・レポートの基本』日本実業出版社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回	オリエンテーション	
2回	スタディスキル(1)チームで力を発揮する	論理的思考力(1)リストアップする・マッピングする
3回	スタディスキル(2)テーマを決めよう①	論理的思考力(2)イラスト・文章・表の内容を読み取る
4回	スタディスキル(3)テーマを決めよう②	論理的思考力(3)マッピングをして読む
5回	スタディスキル(4)資料を探そう	論理的思考力(4)登場人物になったつもりで読む
6回	スタディスキル(5)インターネットで情報を探す	論理的思考力(5)どちらがいいか考えながら読む
7回	スタディスキル(6)図解で考える	論理的思考力(6)理由を考えながら読む
8回	スタディスキル(7)表・グラフを描いてみる	論理的思考力(7)意味を考えながら読む
9回	スタディスキル(8)レポートの特徴	論理的思考力(8)順序を考えて書いてみる
10回	スタディスキル(9)レジュメを作成する	論理的思考力(9)理由を考えて書いてみる
11回	スタディスキル(10)レポートの基本	論理的思考力(10)論理的に考えて書いてみる
12回	スタディスキル(11)パソコンを使ったプレゼン（テーマ決め・準備）	
13回	スタディスキル(12)パソコンを使ったプレゼン発表①	
14回	スタディスキル(13)パソコンを使ったプレゼン発表②	
15回	総括	

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…50%　　日常の授業への取り組み（発表や課題を含む）…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

本文を読んで予習し、目標や身につけるスキルを確認しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する場合がある。
日本語IVと日本語Vと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

論理的思考　大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)　ピア・リーディング　スタディスキル

日本語VI 【昼】

担当者名 /Instructor　徐　暁輝 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　留学生１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。
日本語VIでは、学生が学び手として互いに協力し合い、課題達成に向けて取り組めるようになることを目指す。具体的には、「自己目標の明確化」を目指すために活動(1)「自己PR」を行う。そして、「能動的読解」のために活動(2)「ブック・トーク」を行い、「外部から得た情報や知識を適切に配列し、引用表現を用いて自分の意見と区別しながら書く」ことを目指すために活動(3)「ブック・レポート」を行う。

教科書　/Textbooks

『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション：プレゼンテーションとライティング』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　自己PR(1)【自分を伝える】
３回　自己PR(2)【情報を整理する】
４回　自己PR(3)【スピーチの準備をする】
５回　自己PR(4)【スピーチをする】
６回　自己PR(5)【志望動機書 / 学習計画書を読みあう】
７回　ブック・トーク(1)【情報を探す】
８回　ブック・トーク(2)【情報を読んで伝える】
９回　ブック・トーク(3)【アウトラインを書く】
10回　ブック・トーク(4)【ポスター発表を準備する】
11回　ブック・トーク(5)【発表する】
12回　ブック・レポート(1)【書く】
13回　ブック・レポート(2)【内容を検討する】
14回　ブック・レポート(3)【表現や形式を点検する】
15回　総括【全体を振り返る】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み　…40％
ポートフォリオ評価　…60％(自己評価　30％　ピア評価　30％)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に学習目標を確認し、日本語エクササイズのワークシートを使って各課に必要な日本語表現を勉強しておく。
学習活動終了後、学習目標に基づき、どんなことができたか、できなかったかなどを振り返る。

履修上の注意　/Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。
日本語IVと日本語Vと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
テキストに付属する「日本語エクササイズ」は、授業外での自主学習とする。なお、2つの課題を発表する際、ビジターを交える可能性がある。
また、ポートフォリオを作成して学習の軌跡を保存することで、自己評価に繋げます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)　ピア・ラーニング　相互リソース化　批判的思考の獲得　社会的関係の構築

日本語VII 【昼】

担当者名 /Instructor　小林　浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　留学生２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。
日本語VIIでは、日本語で読むことを中心とする。特に、大学で必要なクリティカル・リーディング(批判的な読み)ができるようになることを目標とする。書かれたテキストに対して正確に読み取った上で、さらに複眼的な視点から検討するための思考技術を養成する。授業ではピア（仲間）活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書　/Textbooks

『読む力(中上級)』（奥田純子他、くろしお出版）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『ひとりで読むことからピア･リーディングへ：日本語学習者の読解過程と対話的協働学習』（舘岡洋子、東海大学出版会）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション【クリティカル・リーディング/複眼思考レッスン】
2回　私の二ュースの読み方【主張や論点、問題提起、意図】
3回　価値の一様性【主張や論点、問題提起、意図】
4回　言葉の起源をもとめて【研究動機と仮説の概要】
5回　経済学とは何か【分野の概要】
6回　思いやり【比較、対照、構造化、アナロジー】
7回　住まい方の思想【比較、対照、構造化、アナロジー】
8回　決まった道はない。ただ行き先があるのみだ【比較、対照、構造化、アナロジー】
9回　メディアがもたらす環境変容に関する意識調査【研究論文の概要】
10回　改訂　介護概論【目次から読む】
11回　ことばの構造、文化の構造【入門書】
12回　観光で行きたい国はどこ【調査結果】
13回　化粧する脳【現状、展望、原因、問題点】
14回　クリティカル・リーディングを磨こう
15回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み…40%　課題…40%　ピア評価…20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業は、課題の予習を全体として進めます。ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋げます。

履修上の注意　/Remarks

日本語VII及びVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えておくと、授業での学びがより効果的になる。

キーワード　/Keywords

クリティカル・リーディング　ピア・ラーニング　複眼的思考

日本語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor　清水　順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　留学生２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。
日本語VIIIでは、日本語で書くことを中心とする。特に、論拠を基に意見を述べる「論証型レポート」を作成することを目標とする。レポートを作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけではなく、構想からレポートの完成に至る一連の過程を学ぶ。授業ではピア（仲間）活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書　/Textbooks

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』（大島弥生他、ひつじ書房）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『レポートの組み立て方』（木下是雄、筑摩書房）
○『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』(二通信子他、東京大学出版会)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　授業の目的及び必要性を知る【知る/課題の条件を確認する】
2回　レポートとは何かを考える【論証型レポート/根拠の大切さを知る】
3回　レポートのテーマを考える【構想マップ/練る】
4回　情報をカード化する【情報の信頼性/調べる】
5回　目標を仮に規定する【情報の整理/絞る】
6回　アウトラインを作る【序論・本論・結論】
7回　パラグラフライティング【中心文/説明文・指示文】
8回　パラグラフライティング【引用/引用文献リスト】
9回　文章を点検する【校正/表現の点検】
10回　文章を点検する【形式の点検/ピア・レスポンス】
11回　レポートの完成【体裁】
12回　発表を準備する【発表の意義・レジュメの作成】
13回　発表する【話し手/聴き手/司会】
14回　発表を踏まえてレポートを修正する【最終稿提出】
15回　学習プロセスを振り返る【自己評価・ピア評価】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み…40%　　レポート・発表…40%　　ピア評価…20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに自己のテーマに関する参考文献の収集や精読を行っておくこと、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

日本語VII及びVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。
日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えていてほしい。
日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

論証型レポート　ピア・ラーニング　論理的思考

日本事情（人文）A 【昼】

担当者名 /Instructor	清水　順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス　非常勤講師										
履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	留学生１年		

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

日本事情(人文)Aでは、現代日本人に通ずる伝統文化「茶道」「歌舞伎」を通して、「日本社会・日本文化・日本人とは何か」を考える。そして、文化を理解する視点を持つことで、グローバル化した現代社会の中で、時代に流されない生き方を模索する。具体的には、日本の伝統芸能である「茶道」や「歌舞伎」を主たる題材として、体験学習を行う。その過程で立ち昇る日本文化について、クラス内で議論を重ねて行く。それらの過程で一人ひとりが、改めてそれぞれの文化を見つめ直し、気づきを得ることをもう一つのねらいとする。
授業では、日本語の古語があまり得意ではない受講者のために、できるだけ視覚的聴覚的に工夫を凝らすことで理解を促進する。

教科書　/Textbooks

毎回プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『茶の湯六ヶ国語会話』(淡交社編集局、淡交社)
○『「お茶」の学びと人間教育』(梶田叡一、淡交社)
○『表千家茶道十二か月』(千宗左、日本放送出版協会)
○『歌舞伎入門事典』(和角仁・樋口和宏、雄山閣出版)
○『歌舞伎登場人物事典』(古井戸秀夫、白水社)
『歌舞伎のびっくり満喫図鑑』(君野倫子、小学館)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション【伝統文化】【現代生活】
2回　茶道(1)茶道の世界をのぞく【茶室】【茶道具】【わびさびの世界】
3回　茶道(2)茶道から歴史を学ぶ【千利休】
4回　茶道(3)現代に続く伝統【工芸】【作法】
5回　茶道(4)体験する【薄茶をいただく】
6回　歌舞伎(1)歌舞伎の世界をのぞく【人間国宝】【女形】【大道具】
7回　歌舞伎(2)歌舞伎から歴史を学ぶ【江戸の町と町民文化】
8回　歌舞伎(3)演じる【竹本・義太夫】【現代に残る名台詞】
9回　歌舞伎(4)歌舞伎を観る【仮名手本忠臣蔵大序・三段目・四段目】
10回　歌舞伎(5)現代のサムライ【切腹】【武士道】
11回　歌舞伎(6)忠臣蔵と現代社会【世界観】【義】
12回　歌舞伎(7)魅力【大衆性】【芸術性】
13回　伝統文化と現代社会(1)日本へ与えた影響【文化の伝承】【サブカルチャー】
14回　伝統文化と現代社会(2)外国へ与えた影響【文化の融合】【新しい文化】
15回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

課題レポート…40%　　ポートフォリオ評価60%(自己評価…20%　ピア評価…20%　教師評価…20%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに予め指定された教材を視聴しておくこと、授業終了後には指示された課題を行い、復習すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

学期の途中ではあるが、希望者を募り6月に博多座へ歌舞伎鑑賞に行く予定である。
日頃から伝統的な文化(日本文化や自国文化を問わず)に興味を持っていると授業を楽しみやすいと思う。
美しい所作(身のこなしや箸の持ち方、茶や菓子の頂き方)についても実践する。

キーワード　/Keywords

茶道　歌舞伎　日本文化　自文化　異文化　伝統文化　現代生活　サブカルチャー　文化の伝承

日本事情（人文）B 【昼】

担当者名 /Instructor　則松　智子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　留学生１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

言語の学習と密接な関係にある文化について考える。文化とは何か、文化を学ぶとはいったいどのようなものであるのかを考えるにあたって、3つの読み物を題材とする。これらの題材をクラス内で議論しながら、最終的には一人ひとりが自分にとっての文化をレポートとしてまとめていく。

教科書　/Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

川上弘美『あるようなないような』中公文庫
河合隼雄「『母性』と『父性』の間をゆれる」『国語総合』大修館書店
細川英雄『日本語教育と日本事情ー異文化を超えるー』明石書店

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　「境目」を読む
３回　「境目」について話し合う
４回　「『母性』と『父性』の間をゆれる」を読む
５回　「『母性』と『父性』の間をゆれる」について話し合う
６回　「ことばと文化を結ぶために」を読む
７回　「ことばと文化を結ぶために」について話し合う
８回　文化観を比較する
９回　その他の読み物を読む
10回　レポートの作成（１）「私にとって文化とは何か」
11回　ピア・リーディング　クラスメートのレポートを読んでコメントする
12回　レポートの作成（２）修正する
13回　完成したレポートをクラス内でピア・リーディングする①
14回　完成したレポートをクラス内でピア・リーディングする②
15回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート…50%　　日常の授業への取り組み（発表や課題を含む）…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業は課題の予習を前提として進める。配布された読み物を読み、わからない語句については事前に調べておくこと。

履修上の注意　/Remarks

受講者が多数の場合、2年次以上の学生を優先します。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

文化　比較　交換

日本事情（社会）A 【昼】

担当者名 /Instructor　小林　浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　留学生１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

「日本事情(社会)」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるのかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。
ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の見解を求めるものではなく、「日本社会で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。

ビジネスケースメソッドを用いて、実在する企業のビジネスケースを題材とするグローバリゼーションやローカライゼーションを考えていきます。具体的には、ディスカッションを通して分析能力や批判力を養うと同時にコミュニケーションスキルも伸ばしていきます。つまり、内容と言語を統合した学習を行うことにより、より高度な日本語能力の育成も図っているのです。
実在する企業を題材とすることで学習内容がテキストに限定されずに、具体的かつリアリティのあるものになり、また最新の情報を授業の中に取り入れることも可能になります。そして、多国に展開するグローバル企業の日本における戦略を考察することで、日本の社会や文化に対する理解を新たにすることが期待されます。

教科書　/Textbooks

『ビジネスケースで学ぶ日本語』(筒井通雄監修・高見智子著、TheJapanTimes)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『ケース･スタディ　日本企業事例集』(ハーバード･ビジネス･スクール著、ダイヤモンド社)
○『日本型企業文化論-水平的集団主義の理論と実証』(佐藤和著、慶應義塾大学出版会)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　授業オリエンテーション
２回　「1.日本コカ・コーラ」①前作業：スキーマビルディング、資料の読み取り
３回　「1.日本コカ・コーラ」②読み物：内容理解
４回　「1.日本コカ・コーラ」③タスク：ジグソー、ディスカッション、意思決定・問題解決
５回　「2．任天堂」①前作業：スキーマビルディング、資料の読み取り
６回　「2．任天堂」②読み物：内容理解
７回　「2．任天堂」③タスク：ジグソー、ディスカッション、意思決定・問題解決
８回　「3.コーチ」①前作業：スキーマビルディング、資料の読み取り
９回　「3.コーチ」②読み物：内容理解
１０回　「3.コーチ」③タスク：ジグソー、ディスカッション、意思決定・問題解決
１１回　「4.ウォルマート」①前作業：スキーマビルディング、資料の読み取り
１２回　「4.ウォルマート」②読み物：内容理解
１３回　「4.ウォルマート」③タスク：ジグソー、ディスカッション、意思決定・問題解決
１４回　「5.トヨタ」①前作業：スキーマビルディング、資料の読み取り
１５回　「5.トヨタ」②読み物：内容理解

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度…30%　　ポートフォリオ評価…70%(自己評価30%　ピア評価20%　教員評価20%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業では、予習を前提として進めます。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋げます。
各企業に対する理解を深めた後で、学びの統合を行います。

履修上の注意　/Remarks

外国人留学生対象の授業ではあるが、言語技能としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められ、かつ、情報リテラシーや批判的思考力に基づく理論構築を目指していくので、初回のオリエンテーションに必ず参加して、履修するかどうかを判断しよう。
この授業ではポートフォリオを作成します。必ず、この授業専用のファイルを１つ用意してください。
（ポートフォリオの内容については１回目の授業オリエンテーションで詳しく説明します。）
日本語の文法・語彙などは、チューター学生とともに予習・復習をしてください。

日本事情（社会）A 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

ビジネスについて専門的に学ぶ授業ではありませんが、誰もが知っている実際の企業について、情報を収集し、日本語で読み、日本語で考え、日本語で話す合うことによって、知識(内容)と言語の両方を伸ばすことのできる授業です。皆さんの、主体的かつ協同的な学習姿勢を期待しています。

キーワード　/Keywords

内容言語統合学習　ケースメソッド　日本語運用能力　インプットからアウトプットへ　グローバル企業

日本事情（社会）B 【昼】

担当者名 /Instructor　小林　浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　留学生１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

「日本事情(社会)」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるのかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。
ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の理解を求めるものではなく、「日本で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。

授業では、在日外国人、特に留学生を対象とした研究論文や調査研究を読み進め、単に知識を得るだけでなく、自分自身の過去及び現在を理解し、未来を描くことに繋げられるように、クリティカル･リーディングを行う。そして、留学生や元留学生にまつわる言説を分析し、自分の人生を自分で切り拓けるようになることを目指す。

教科書　/Textbooks

教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○岡益巳･ 深田博己『中国人留学生と日本』白帝社
○坪谷美欧子『「永続的ソジョナー」中国人のアイデンティティ-中国からの日本留学にみる国際移民システム』有信堂
○葛文綺『中国人留学生･ 研修生の異文化適応』溪水社
　吉沅洪『日中比較による異文化適応の実際』溪水社
○榎本博明 (2002)『＜ほんとうの自分＞のつくり方-自己物語の心理学』講談社現代新書
○高松里 (2015)『ライフストーリー･レビュー入門』創元社

授業計画･ 内容　/Class schedules and Contents

第１回　授業オリエンテーション
第２回　「研究論文を読む」「調査報告を読む」とは：クリティカル･リーディングの復習
第３回　クリティカル･リーディングの実践：研究論文を読む
第４回　留学生や元留学生にまつわる言説 (１) 日本社会の中の外国人という視点から
第５回　言説の考察 (１)
第６回　留学生や元留学生にまつわる言説 (２) 留学の意義と留学に対する評価の視点から
第７回　言説の考察 (２)
第８回　自己物語とアイデンティティ
第９回　自己物語を書こう (１) 自己物語の実際
第１０回　自己物語を書こう (２) 自己物語の書き方
第１１回　自己物語を読もう (１) 論理実証モードと物語モード
第１２回　自己物語を読もう (２) 共感から共鳴へ
第１３回　自己物語を語り直そう
第１４回　留学生のキャリア発達
第１５回　「ほんとうの自分」のつくり方

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度…30%　　課題…30%　　レポート40%

事前･ 事後学習の内容　/Preparation and Review

前半は、研究論文、エッセイをリソースとした学習を行うため、予習タスクをします。
事後学習では、各研究論文、エッセイでの学習を統合するための作業をします。

履修上の注意　/Remarks

外国人留学生対象の授業ではあるが、言語技能としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められ、かつ、情報リテラシーや批判的思考力に基づく理論構築を目指していくので、初回のオリエンテーションに必ず参加して、履修するかどうかを判断しよう。
授業は課題に対する予習を前提として進めます。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋げます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

日本事情（社会）B 【昼】

キーワード　/Keywords
言説　　留学生のキャリア発達　　自己物語

英米文化概論I 【昼】

担当者名 /Instructor　久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	英米文化(主にイギリス)の特性について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	英米文化(主にイギリス)に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

（国関）英米文化概論 I	ARE130M
（比文）イギリス文化史	ARE233M

授業の概要 /Course Description

イギリスを中心に、アメリカ等も含む英語圏の文化を幅広く検討する。異文化に接近するための方法論と基礎知識を身につける。

教科書 /Textbooks

指定しない。各回でレジュメ等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 イントロダクション【イギリス文化】
第2回 英米文化への接近方法【異文化理解】【コミュニケーション】
第3回 イギリスには建国記念日がない【アングロ･サクソン】【ノルマン征服】
第4回 イギリスの国王は(意外と)権力が強い【立憲君主政】【マグナ･カルタ】
第5回 20世紀まで英語は国際言語ではなかった【英語】【百年戦争】
第6回 イギリス国旗には緑がない【国旗】【ウェールズ】
第7回 スコットランド人は「秘密の多い世界」を好むといわれる 【帝国】【スコットランド】
第8回 イギリス国歌には歌われない歌詞がある【国歌】【名誉革命体制】
第9回 イギリスでは厳格な政教分離がなされていない 【政教分離】【国教会】
第10回 アイルランドは「ケルト」ではない(1) 【アイルランド】【カソリック】
第11回 アイルランドは「ケルト」ではない(2) 【アイルランド】【北アイルランド問題】
第12回 ホワイトハウスが白いのはイギリスのせいでもある【アメリカ独立】【自由】
第13回 イギリスの覇権は奴隷貿易がもたらした【奴隷貿易】【産業革命】
第14回 イギリスにもねじれ国会があった【貴族】【国制】
第15回 まとめ【イギリス文化】
期末試験

成績評価の方法 /Assessment Method

試験(小テスト含む)...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示されたことを、授業の事前・事後に学習・準備すること。

履修上の注意 /Remarks

英米文化概論I 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英米文学概論I 【昼】

担当者名 /Instructor	齊藤　園子 / SAITO SONOKO / 英米学科
履修年次 /Year	1年次
単位 /Credits	2単位
学期 /Semester	1学期
授業形態 /Class Format	講義
クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	英米文学（主にアメリカ）と文化的多様性についての基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	自ら調査・研究を行って多角的に思考する姿勢を身に付ける。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英米文学概論 I	LIT130M

授業の概要　/Course Description

アメリカ文学史上で知られる作家や作品を取り上げながら、作品が生まれた歴史的社会的背景を学びながら鑑賞する。米国に関わる文学の特質や普遍性について理解を深めるとともに、文化的多様性の理解に基づき、国家概念や文学史の形成過程についても考察を深めることを目指す。

教科書　/Textbooks

授業内で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『作品ガイド150 たのしく読めるアメリカ文学』　高田賢一、野田研一、笹田直人　編　（ミネルヴァ書房, 1994年 ）
○『新版 アメリカ文学史：コロニアルからポストコロニアルまで』　別府恵子、渡辺和子　編　（ミネルヴァ書房, 2000年 ）
○『アメリカ文学入門』　諏訪部浩一　ほか　（三修社, 2013年 ）

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第1回　オリエンテーション (授業の概要、成績評価の方法、参考図書などの説明)
第2回　アメリカ文学史の全体像、植民地時代とネイティブ・ アメリカンの文学
第3回　超越主義の時代： 象徴としての自然
第4回　ロマン主義の時代 (１)： 理性と身体の相克
第5回　ロマン主義の時代 (２)： ピューリタンの掟と情念
第6回　リアリズム文学の時代 (１)： ミシシッピー川を下って何処かへ
第7回　リアリズム文学の時代 (２)： 相対化される「私」
第8回　自然主義文学の時代： 進化論の悲劇
第9回　女性作家と文学史： 自我の目覚め
第10回　《作品鑑賞》 ケイト・ ショパン
第11回　モダニズムの時代 (１)： パリのアメリカ人
第12回　モダニズムの時代 (２)： 再生の希求、故郷との和解
第13回　エスニシティと多文化主義 (１)：メキシコ系作家
第14回　エスニシティと多文化主義 (２)：ユダヤ系作家
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の学習状況 (小テスト、課題提出など)…80%
期末試験…20%

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに、予め各回に扱う内容について準備すること
また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと

履修上の注意　/Remarks

教科書以外に英和・ 和英・ 英英辞典を持参すること

英米文学概論I 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

受講者はできるだけ多くの作品に触れて外国の作品を読む楽しみを味わうとともに、英語圏の文化についてより深い教養を身に付けることを目指してもらいたい。

キーワード　/Keywords

英米文学概論II 【昼】

担当者名 /Instructor　齋藤　園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	英米文学（主にイギリス）と文化的多様性についての基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	自ら調査・研究を行って多角的に思考する姿勢を身に付ける。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英米文学概論Ⅱ	LIT131M

授業の概要 /Course Description

代表的な作家や作品に着目することでイギリス文学史を概観し，作品が生まれた歴史的社会的背景に留意しながら鑑賞する。英国に関わる文学の特質や普遍性について理解を深めるとともに、文化的多様性の理解に基づき、国家概念や文学史の形成過程についても考察を深めることを目指す。

教科書 /Textbooks

『よくわかるイギリスの文学』　清宮倫子，清宮協子　編著　（南雲堂, 2011年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『作品ガイド150　たのしく読めるイギリス文学』　中村邦生，木下卓，大神田丈二　編著　（ミネルヴァ書房, 1994年）
○『イギリス文学入門』　石塚久郎　ほか　（三修社, 2014年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　授業の進め方・成績評価の方法などについての説明，イギリス文学史概観
第2回　古英語とアングロ・サクソンの英雄：『ベオウルフ』
第3回　中英語と中世の人間模様：『カンタベリー物語』
第4回　ルネサンスとイギリス演劇の勃興：ウィリアム・シェイクスピア
第5回　階級社会と結婚：サミュエル・リチャードソンとジェイン・オースティン
第6回　《作品鑑賞》『高慢と偏見』
第7回　スコットランドの言語と伝統：ロバート・バーンズ
第8回　ロマン派詩とヴィクトリア朝時代の詩：ウィリアム・ワーズワス，ロバート・ブラウニング他
第9回　ヴィクトリア朝時代の市井の人々：チャールズ・ディケンズ
第10回　女性作家のまなざし：ブロンテ姉妹とジョージ・エリオット
第11回　進化論と自然主義：トマス・ハーディ
第12回　２０世紀とモダニズムの詩人たち：W. B. イエイツとT. S. エリオット
第13回　原始的な生命力の再評価：D. H. ロレンス
第14回　モダニズム文学と意識の流れ：ヴァージニア・ウルフとジェイムズ・ジョイス
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テスト，課題提出，発表を含む）... 80%
期末試験 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに，予め各回に扱う内容について準備すること
また授業終了後には，授業の内容を反復し課題等に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

原書からの抜粋を読むため，授業には英和辞典・英英辞典を持参すること

英米文学概論II 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

受講者はできるだけ多くの作品に触れて外国の作品を読む楽しみを味わうとともに，英語圏の文化についてより深い教養を身に付けることを目指してもらいたい。

キーワード　/Keywords

経済学の基礎 【昼】

担当者名 /Instructor　伊藤　正哉 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	経済学の基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	経済学の基礎的な理解に必要な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済学の基礎	ECN100M

授業の概要　/Course Description

経済問題は、私たちの日常生活にも、地域にも国にも、また国際社会にも大きな影響を及ぼしています。経済を理解することで国際関係分野と地域研究分野でより深い理解を得ることができます。

この授業では、経済の仕組みを理解するうえで最低限必要な経済学の知識と見方・考え方を身に付けることをめざします。この授業では、テキストにしたがって日常の経済取引を扱う「市場」に関する項目(ミクロ経済）から始めて、国全体の経済を扱う項目（マクロ経済）へと進めていきます。説明では複雑な数式は使わず、できるだけ具体的な事例を出しながら説明していきます。また、随時経済に関する時事トピックを取り上げて解説します。

教科書　/Textbooks

小塩隆士著「高校生のための経済学入門」、ちくま新書、2002年

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

伊藤元重「はじめての経済学」（上・下）、日本経済新聞出版社、2004年　（○）
岩田規久男「経済学への招待」、新生社、2007年
宮崎勇・田谷禎三「世界経済図説　第三版」、岩波新書、2012年　(○)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　イントロダクション
第２回　需要の決まり方
第３回　供給の決まり方
第４回　市場メカニズムのメリット
第５回　なぜ政府が必要なのか（１）市場の失敗
第６回　なぜ政府が必要なのか（２）所得再分配
第７回　なぜ政府が必要なのか（３）経済の安定化
第８回　経済全体の大きさを測る
第９回　物価と経済成長
第１０回　お金の役割
第１１回　金融政策
第１２回　大きな政府と小さな政府
第１３回　財政赤字をめぐるさまざまな議論
第１４回　地域と国際
第１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験…９０％、授業中の課題…１０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習としては、教科書を予習し、新聞や雑誌の経済関連記事にも目を通すことを心がける。事後学習としては、教科書を読み直すとともに、新たに学んだ専門的な概念や理論について参考図書を読んで理解を深める。

経済学の基礎 【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

市場　GDP　財政

政治学 【昼】

担当者名 /Instructor　秦　正樹 / HATA Masaki / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政治学の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政治上の課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	政治現象が抱える課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政治学	PLS100M

授業の概要　/Course Description

本講義では，①「政治」が必要であることの理由，②戦後日本における政治過程，③政治家・官僚や有権者などの様々なアクターの意思決定や行動様式など，政治学の基盤となる理論や概念について概説します．また本講義では，現在日本が抱える諸問題の原因がどこに（何に）あるのかを自ら発見し，その解決策を模索するための基礎的能力を身につけることを目指します．

教科書　/Textbooks

特に教科書は指定せず，毎回，レジュメを作成し配布します．

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

新川敏光・大西裕・大矢根聡・田村哲樹 (2017)『政治学』有斐閣．
砂原庸介 (2015)『民主主義の条件』東洋経済新報社．
伊藤光利編 (2009)『ポリティカル・サイエンス事始め (第3版)』有斐閣．

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1.イントロダクション　【政治と政治学】【規範】【実証】
2.政治と権力(1)　【直接民主制】【間接民主制】【国民主権】
3.政治と権力(2)　【権力】【権威】
4.日本の政治 (1)　【保守と革新】【自社対立】【55年体制】
5.日本の政治 (2)　【政治改革】【民主党】【小泉自民党】【無党派層】
6.日本の政治 (3)　【政権交代】【改革勢力】【安倍政権と自民党】【維新の会】
7.政治制度　【二大政党制】【選挙制度】【アメリカ政治】
8.政党制度　【社会的亀裂】【多党制】【ヨーロッパ政治】
9.議員と官僚　【官僚主導】【政治主導】【本人―代理人理論】
10.地方政治 (1)　【二元代表制】【地方分権】【団体自治】
11.地方政治 (2)　【足による投票】【都市の限界】【住民自治】
12.市民と政治(1)　【政治参加】【若者の低投票率】【投票行動】
13.市民と政治(2)　【市民参加】【新しい公共】【NPO/NGO】
14.国際政治　【リアリズム】【コンストラクティビズム】【紛争発生】
15.まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

・ 期末試験：80%
・ 講義への参加の積極性 (リアクションペーパー・授業中の質問など)：20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

予習として事前にその週の授業内容に関連する政治ニュースを調べておいてください．また，各授業内容のレジュメには毎回参考文献を示しているので，それら文献を読むなどの復習をしてください．

政治学 【昼】

履修上の注意　/Remarks

本講義の性質上，授業の中で時事的なトピックに触れることがありますので，積極的に新聞やテレビなどで政治のニュースに触れるようにしておきましょう．

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

高校までの公民や現代社会・政治経済などでは知識を習得することがメインだったかと思いますが，本講義では，むしろ皆さん自身が考えて答えを出すための材料を提供することが重要だと考えています．政治学の知見の習得を通じて，さまざまな社会問題に対する処方箋を考えてみましょう！

キーワード　/Keywords

政治理論・実証政治学・行政学

アメリカの社会 【昼】

担当者名 /Instructor　北　美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカの社会の特性について理解する。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカの社会に関する情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカの社会	ARE225M

授業の概要　/Course Description

アメリカ合衆国の人種的・民族的多様性をその起源にさかのぼり歴史的に概観するとともに、現在のエスニック状況も考察する。また、近年アメリカ合衆国で起こった、ないし起こりつつある出来事の中から顕著なものを取り上げ、各項目について具体的事例、その歴史的背景、争点、多様な見解を解説する。

教科書　/Textbooks

明石紀雄・飯野正子『エスニック・アメリカ　多民族社会における統合の現実（第3版）』有斐閣選書、2011年。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○大下尚一ほか編『史料が語るアメリカ：メイフラワーから包括通商法まで』有斐閣、1989年。
その他多数。授業中に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　イントロダクション--近年のトピック / 文献紹介
第２回　多民族国家アメリカ--概観
第３回　同化の諸概念
第４回　新大陸で出会った三つの人種集団
第５回　アングロ・アメリカ社会の形成
第６回　国民的統合に向けて
第７回　2017年の最もカレントなトピックについて（小テストを兼ねる）
第８回　「新移民」の流入（１）--イタリア移民、ユダヤ人移民
第９回　「新移民」の流入（２）--中国と日本からの移民
第10回　自由の女神の涙
第11回　多民族国家アメリカ-続く移民の流れ
第12回　平等の達成（１）--移民法の改正、先住民
第13回　平等の達成（２）--アフリカ系アメリカ人、アジア系アメリカ人
第14回　真の平等を求めて-多様性と統合の調和
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度…20%　小テスト…20%　期末試験…60%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回の授業の前に、教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおくこと。

履修上の注意　/Remarks

高等学校で世界史を履修していない受講生は、世界史の教科書を読んでおくと良い。個人的な学習のための参考書等は授業中に指示する。
開講時期に起こったニュース等に関連させた形で、適宜、その歴史的背景などの解説を行うので、上記スケジュールや順序は変更の可能性がある。その場合は授業中に指示する。

アメリカの社会 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

イギリス研究I 【昼】

担当者名 /Instructor　久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	イギリスの政治・社会などについて専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	イギリスに関する専門的な情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

イギリス研究Ⅰ	ARE236M

授業の概要 /Course Description

ブレア政権成立以後のイギリス社会の状況を、特に教育問題を中心とする内政面から検討する。戦後の大まかな動きを確認し、ブレア政権以降のイギリス社会がどのような状況にあるかを検討する。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小尾美千代ほか(編)『国際関係学の第一歩』法律文化社、2010年。
それ以外は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 イントロダクション 【イギリス】
2回 戦後イギリス社会に関する概説【福祉国家】
3回 ブレア政権成立の背景 【労働党】【サッチャー主義】
4回 「階級社会」(1) 【土曜の夜と日曜の朝】
5回 「階級社会」(2) 【労働者階級】
6回 「階級社会」(3) 【怒れる若者たち】【英国病】
7回 ブレアの改革構想 【国有化】【ヴォランタリズム】
8回 1997年以降のイギリス社会(1) 【New Labour】【第三の道】
9回 1997年以降のイギリス社会(2) 【社会的公正】【グローバル化】
10回 イギリスの社会政策(1) 【市場経済】【雇用問題】
11回 イギリスの社会政策(2) 【包摂社会】【コミュニティ】
12回 イギリスの教育政策(1) 【1988年教育改革法】【Bridging the Gap】
13回 イギリスの教育政策(1) 【NEET】【社会的排除】
14回 21世紀のイギリス社会とブレア改革 【公共利益】【イギリス文化】
15回 まとめ
期末試験

成績評価の方法 /Assessment Method

試験(小テスト含む)…100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示されたことを、授業の事前・事後に学習・準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

イギリス研究I 【昼】

キーワード　/Keywords

イギリス研究II 【昼】

担当者名 /Instructor　久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	イギリスの社会・政治などについて専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	イギリスに関する専門的な情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

イギリス研究Ⅱ	ARE237M

授業の概要 /Course Description

ブレア政権成立以後のイギリス社会の状況を特に外交面から検討する。具体的には、ブレア政権の大きな成果とされる北アイルランド紛争の実質的な終結とブレア政権の躓きの石となったイラク戦争をめぐるイギリス社会・世論の動向について、考察を進める。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小尾美千代ほか(編)『国際関係学の第一歩』法律文化社、2010年。
それ以外は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回　イントロダクション 【イギリス】【アイルランド】
2回 北アイルランド問題の起源(1) 【ナショナリズム】【独立戦争】
3回 北アイルランド問題の起源(2) 【アイルランド内戦】【デヴァレラ】
4回 イギリス社会と北アイルランド紛争 【公民権運動】【IRA】
5回 北アイルランド和平の展開とイギリス(1) 【グッドフライデイ合意】【権限委譲】
6回 北アイルランド和平の展開とイギリス(2) 【武装放棄】【自治政府】
7回 アイルランド社会の現在　【経済成長】【グローバル化】
8回 「帝国」喪失後のイギリス対外政策　【帝国】【植民地】
9回 ブレアの対外政策とイギリス社会の変化　【欧州統合】【戦略防衛見直し】
10回 コソヴォ紛争とイギリス社会 【人権】【旧ユーゴ】
11回 9･11以降のイギリス社会 【アメリカ】【英米関係】
12回 イギリス社会とイラク戦争(1) 【イラク戦争】【世論】
13回 イギリス社会とイラク戦争(2) 【ケリー事件】【ハットン委員会】
14回 21世紀のイギリス社会と対外関係 【帝国意識】【イギリス文化】
15回 まとめ
期末試験

成績評価の方法 /Assessment Method

試験(小テスト含む)…100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示されたことを、授業の事前・事後に学習・準備すること。

履修上の注意 /Remarks

イギリス研究II 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英米文化概論II 【昼】

担当者名 /Instructor　中野・川上

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	英米文化(主にアメリカ)の特性について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	英米文化(主にアメリカ)に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英米文化概論Ⅱ	ARE226M

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の社会を織りなす精神文化、精神的遺産について植民地から21世紀までの歴史的発展を通じて概説する。授業の進行状況と現実政治の推移0にあわせて、内容を変更することがあるので、注意すること。

教科書 /Textbooks

前半はテキストとして斎藤真、古矢旬『アメリカ政治外交史』（東京大学出版会　2012年）を使用する。同書のほかに、後半で基礎文献を追加する場合があるので注意すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献リストをガイダンスで配付する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス【アメリカ合衆国の輪郭】
第2回　英領アメリカ植民地の文化【ピューリタニズム】【自由主義】【多様性】
第3回　独立革命と共和主義【大覚醒】【共和主義】
第4回　19世紀アメリカの形成 【合衆国憲法】 【フェデラリスト】【ジェファソン民主主義】
第5回　市場革命【西部】 【市場革命】【超絶主義】
第6回　奴隷制の拡大と南北戦争【奴隷制】【南北戦争】
第7回　再建の時代【南部の再建】【憲法修正】【市民権】
第8回　19世紀後半から20世紀初頭のアメリカ社会【鉄道】【金ぴか時代】【移民】【ポピュリズム】【革新主義】
第9回　第一次世界大戦から大量消費の時代へ【1920年代】【ジャズ】
第10回　大恐慌から第二次世界大戦へ【ニューディール】
第11回　冷戦と反共思想【マッカーシズム】
第12回　公民権運動【黒人運動】【ソウル・ミュージック】
第13回　1960年代とカウンター・カルチャー【若者文化】【ロック】
第14回　女性の社会進出【フェミニズム】
第15回　21世紀アメリカ社会をめぐる諸問題

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート　50%、期末試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、予習内容を指示するので、それに沿って勉強すること。また、関連事項を参考書等で復習すること。

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までにあらかじめ資料や教科書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと資料や教科書を照合しながら、理解を深めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

アメリカの文化と歴史について包括的な知識を提供します。
授業前にあらかじめ教科書で予習し、授業後は教科書とノートで復習をおこなうこと。

英米文化概論II 【昼】

キーワード　/Keywords
アメリカ　文化　歴史

現代中国の政治 【昼】

担当者名 /Instructor　下野　寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国政治とそれに関連する事項について専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	中国政治とそれに関連する事項について情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代中国の政治	ARE211M

授業の概要　/Course Description

世界有数の経済大国となった共産主義国家・中華人民共和国について研究するための専門的知識を習得し、中国政治に関する情報の収集・分析方法について学ぶ。
授業では、中国の近現代史を政治的観点と人物考察から振り返り、「中国の社会主義」と改革開放の行方について検討する。また、ポスト鄧小平の時代に顕在化した問題群と政治・政策との関連についても解説する。

教科書　/Textbooks

授業中に指示する。
主に授業で配布するプリント・資料を用いる。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

天児慧『中国の歴史11　巨龍の胎動　毛沢東vs　鄧小平』講談社、2004年 (○)
久保亨『シリーズ中国近現代史④　社会主義への挑戦　1945 - 1971』岩波新書、2011年 (○)
下野寿子『中国外資導入の政治過程 - 対外開放のキーストーン』法律文化社、2008年 (○)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　イントロダクション～中国研究の動向と文献紹介、授業の進め方について
２回　なぜ中国は共産主義を選択したのか
３回　中国が国際政治の変遷から受けた影響
４回　建国当初の中国はどのような国家だったのか
５回　社会主義化
６回　文化大革命I【1960年代後半】
７回　文化大革命II【1970年代前半】
８回　近代化の模索
９回　改革開放I【対外開放】
１０回　改革開放II【経済改革】
１１回　改革開放がもたらした歪み
１２回　第二次天安門事件
１３回　改革開放の加速と政治改革の停滞
１４回　現代の課題
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト (3回)　…　90%、　日常の授業への取り組み　…　10　%

現代中国の政治 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

「中国研究概論」を先に受講すれば、本講義の理解がより深いものになります。
授業で資料・文献を指定した場合は期日までに必ず熟読しておくこと。
授業理解に有益な読書、映像視聴などを自主的に行うこと（図書館のDVDなどを活用してください）。
新聞（紙面）を読む習慣をつけること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

現代中国の外交 【昼】

担当者名 /Instructor　下野　寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国外交とそれに関連する事項について専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	中国外交とそれに関連する事項について情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代中国の外交	ARE212M

授業の概要　/Course Description

授業の狙いは、中国の外交政策・対外関係・台湾問題などについて専門的な知識を習得し、中国外交に関する情報の収集・分析方法を総合的に学ぶことである。国内政治、政策の変化、国際環境の変化と、中国外交の変化との関連性を示し、中国の視点から主要国との二国間関係や台湾・香港問題を検討する。中国の海洋進出や地域主義・グローバリズムへの参加といった今日的課題についても、中国国内の議論を紹介しながら説明する。

教科書　/Textbooks

初回の授業で指示する。主に授業中に配布する資料・レジュメを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

青山瑠妙『現代中国の外交』慶應義塾大学出版会、2007年 (○)。
王逸舟『中国外交の新思考』東京大学出版会、2007年 (○)。
服部龍二『日中国交正常化ー田中角栄、大平正芳、官僚たちの挑戦』中公新書、2011年 (○)。
安田淳・門間理良編著『台湾をめぐる安全保障』慶應義塾大学出版会、2016年。
ワン・ジョン『中国の歴史認識はどう作られたのか』東洋経済新報社、2014年。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　イントロダクション～文献紹介と授業の進め方
２回　国内政治・国際環境の変遷と中国外交I【イデオロギー、現実主義】
３回　国内政治・国際環境の変遷と中国外交II【指導者と外交方針】
４回　対日関係I【国交正常化】
５回　対日関係II【ポスト毛沢東時代】
６回　中台関係I【基礎知識】
７回　中台関係II【中国の台湾政策】
８回　中台関係III【中台関係の現状分析】
９回　米中関係I【冷戦期】
１０回　米中関係II【ポスト冷戦期】
１１回　多国間外交：地域主義とグローバリズム
１２回　経済外交・資源外交・安全保障I【概念】
１３回　経済外交・資源外交・安全保障II【対外行動の分析】
１４回　中港関係
１５回　まとめ
(順番が入れ替わることがあります)

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト (3回)　…　90%　　日常の授業への取り組み　…　10　%

現代中国の外交 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

「中国研究概論」「現代中国の政治」を先に（あるいは並行）受講すれば、本講義の理解がより深いものになります。
授業で資料・文献を指定した場合は期日までに必ず熟読しておくこと。
授業理解に有益な読書、映像視聴などを自主的に行うこと（図書館のDVDなどを活用してください）。
新聞（紙面）を読む習慣をつけること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

中国の対外認識と論理を理解して、中国の思考・行動パターンを推察する手がかりを得て下さい。

キーワード　/Keywords

韓国・北朝鮮の政治外交I 【昼】

担当者名 /Instructor　李　東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	韓国・北朝鮮の政治外交について、専門的知見を有している。
技能	専門分野のスキル	●	韓国・北朝鮮の政治外交について、社会科学的な調査・分析を行うことができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

韓国・北朝鮮の政治外交 I	ARE213M

授業の概要　/Course Description

「近くて遠い国」とも言われる隣国、韓国の政治外交に関する講義です（北朝鮮については2学期に開講される「韓国・北朝鮮の政治外交II」にて集中的に探求します）。ご存知のように、韓国は日本植民地支配からの解放と南北分断以来、冷戦体制の最前線に置かれながら、民主化を実現し、経済発展をとげた国です。授業の前半では、独立から現在に至るまでの韓国現代史を政治学と歴史学との接点という視点から概略的に振り返ります。その後、対日・対米・対北政策などの韓国の外交と、民主化・政党政治などの国内政治について考察を加えます。この授業が現代韓国に対する理解を高めるとともに、朝鮮半島問題を中心にした東北アジア国際政治を再考する場となればと思います。

教科書　/Textbooks

○　木宮正史　『国際政治のなかの韓国現代史』（東京：山川出版社、2012年）、1620円。
その他、授業中に配布する資料・レジュメ。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

第1回イントロダクションの際に一応紹介しますが、その後授業の進捗度や受講生の関心に応じて適宜加えます。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション：韓国現代史をどうみるか
第2回　解放、冷戦と南北分断体制の形成
第3回　朝鮮戦争
第4回　李承晩政権の政治・外交・経済
第5回　朴正熙政権の政治・外交・経済
第6回　日韓国交正常化への道程
第7回　デタント、権威主義体制、産業化
第8回　脱冷戦と韓国の外交路線
第9回　民主化への道程
第10回　韓国の同盟政治
第11回　韓国の対日政策
第12回　韓国の統一政策（対北政策）
第13回　韓国の政党政治
第14回　韓国の課題：成長と分配、少子高齢化、民主主義
第15回　まとめ
（注）授業進捗度などにより講義テーマが前後する場合がある。
（注）受講生の関心や必要に応じて外部講師による特別講義を行う。

成績評価の方法　/Assessment Method

コメントカード・・・ 50%
レポート・・・ 30%
読書感想文・・・ 20%、

韓国・北朝鮮の政治外交I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

（１）テキストなどは講義と相互補完的関係にあるので、授業開始までにきちんと読むこと。
（２）授業終了後には復習を行い、コメントカードを提出すること。
（３）本講義は内容的に２学期開講の「韓国・北朝鮮の政治外交II」と深く関わっているため、併せて履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

少々難易度の高い授業になるので集中して受講すること。

キーワード　/Keywords

韓国政治、韓国外交、分断体制、冷戦、脱植民地化、民主化、産業化、同盟、日韓関係、北朝鮮

韓国・北朝鮮の政治外交II 【昼】

担当者名 /Instructor　李　東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	韓国・北朝鮮の政治外交について、専門的知見を有している。
技能	専門分野のスキル	●	韓国・北朝鮮の政治外交について、社会科学的な調査・分析を行うことができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

韓国・北朝鮮の政治外交Ⅱ	ARE214M

授業の概要　/Course Description

「謎に包まれた隣国」とも言われる北朝鮮の政治外交に関する講義です（韓国については1学期に開講される「韓国・北朝鮮治外交I」にて集中的に探求します）。授業の前半では、建国から現在に至るまでの北朝鮮現代史を、政治学と歴史学との接点という視点から振り返ります。その後、北朝鮮の同盟外交と対日・対米・対南政策、国内政治、核・ミサイル問題などについて考察を加えます。この授業が北朝鮮に対する理解を高めるとともに、朝鮮半島問題を中心にした東北アジア国際政治を再考する場となればと思います。

教科書　/Textbooks

授業中に配布する資料。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○　和田春樹　『北朝鮮現代史』（岩波新書）（東京：岩波書店、2012年）、886円。
その他、第1回イントロダクションの際に一応紹介しますが、その後の授業の進捗度や受講生の関心に応じて適宜加えます。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション：北朝鮮をどうみるか
第2回　朝鮮民主主義人民共和国の成立
第3回　北朝鮮からみる朝鮮戦争
第4回　金日成と主体思想（１）：国内政治の側面
第5回　金日成と主体思想（２）：対外政策の側面
第6回　劣勢に立つ北朝鮮：デタント、南北間の産業化競争
第7回　冷戦の終焉と北朝鮮の危機
第8回　金正日の先軍政治
第9回　金正恩政権と北朝鮮の選択
第10回　北朝鮮の同盟政治：朝中ソ３角関係
第11回　北朝鮮と日本、米朝関係
第12回　北朝鮮の統一政策（対南政策）
第13回　北朝鮮の核・ミサイル問題
第14回　東北アジア平和体制と北朝鮮問題
第15回　まとめ
（注）授業進捗度などにより講義テーマが前後する場合がある。
（注）受講生の関心や必要に応じて外部講師による特別講義を行う。

成績評価の方法　/Assessment Method

コメントカード・・・ 50%、読書感想文・・・ 20%、レポート・・・ 30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事後学習を行ったうえで必ずコメントカードを提出すること。

履修上の注意　/Remarks

本講義は内容的に前期開講の「韓国・北朝鮮の政治外交I」を引き継ぐため、併せて履修することが望ましい。

韓国・北朝鮮の政治外交II 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

少々難易度の高い授業になるので集中して受講すること。

キーワード　/Keywords

北朝鮮、核・ミサイル、朝鮮戦争、主体思想、デタント、瀬戸際外交、南北関係、中朝関係、ソ(ロ)朝関係、日朝関係、金日成、金正日、金正恩

東南アジアの社会と歴史 【昼】

担当者名 /Instructor　篠崎　香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	東南アジアについて社会と歴史の側面から理解を深める。
技能	専門分野のスキル	●	東南アジアの社会と歴史に関する基本的な情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

東南アジアの社会と歴史	ARE215M

授業の概要　/Course Description

この授業の目的は、東南アジアについて社会と歴史の側面から理解を深めることである。授業の前半では歴史について取り上げ、後半では社会について取り上げる。歴史・社会いずれの側面においても、多民族社会である東南アジアをとらえ、東南アジアの事例を通じて多文化共生について考える視点を養うことに力点を置く。

教科書　/Textbooks

講義資料を毎回配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　イントロダクション
2回　東南アジアにおける「くに」の形成とインド文明の受容（1～11世紀）
3回　王国の発展と新たな外来文明（イスラム教・仏教）の受容（11～15世紀）
4回　交易の時代（15～18世紀）
5回　東南アジアの植民地化（19～20世紀）
6回　植民地期の社会変容（19～20世紀）
7回　日本軍政と脱植民地化（20世紀後半～21世紀）
8回　開発の時代と権威主義体制（20世紀後半～）
9回　開発と社会是正：信仰への回帰（1970年代～）
10回　信仰と暴力とが結びつけられる時（1）事例紹介・分析
11回　信仰と暴力とが結びつけられる時（2）分析・解説
12回　多民族社会の現在
13回　多民族社会における共存の模索（1）導入・事例紹介
14回　多民族社会における共存の模索（2）事例紹介・分析
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト（2回）…30%　課題（2回）...10%　期末テスト…60%

小テスト実施日に欠席する / した場合、それがやむを得ない理由によることを証明する書類があれば、次の授業までに別途日時を設定して、追試を行うことが可能です。欠席が分かり次第、メールにて担当者にご連絡ください。追試はなるべく柔軟に対応していきます。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

小テストを2回実施するほか、授業中に課題を2回提出してもらう予定です。小テストおよび課題の成績は成績評価全体の4割を占めます。日ごろの授業への取り組みがたいへん重要となります。授業後は復習をしてください。

東南アジアの社会と歴史 【昼】

履修上の注意　/Remarks

東南アジア研究概論を受講したうえで本科目を受講すると、本科目の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

東南アジアの政治と外交 【昼】

担当者名 /Instructor　篠崎　香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	東南アジアについて政治と外交の側面から理解を深める。
技能	専門分野のスキル	●	東南アジアの政治と外交に関する基本的な情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

東南アジアの政治と外交	ARE216M

授業の概要　/Course Description

東南アジアについて政治と外交の側面から理解を深める視点として、この授業ではASEAN（東南アジア諸国連合）を中心に扱う。ASEANは、東南アジアにおける国境線がまだ流動的であった時代に、各国の内政と外交とが絡み合い生じた紛争を経て発足した。発足後のASEANは、発展途上の小国が自国の安全保障に大きく影響を与えうる地域全体の将来を、大国に翻弄されることなく自らの意志で方向づけようと不断に工夫を積み重ねる中で、アジア・太平洋地域で進展する地域統合の核を成す存在にまで発展した。こうしたASEANの歴史を見ることを通じて、東南アジアについて各国の政治と外交から理解を深めるとともに、地域秩序や国際秩序の構築において東南アジア諸国がどのように参画して来たかを理解する。

教科書　/Textbooks

毎回講義資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○山影進『ASEAN–シンボルからシステムへ』東京大学出版会、1991年
○山影進『ASEANパワー–アジア太平洋の中核へ』東京大学出版会、1997年。
○山影進『転換期のASEAN–– 新たな課題への挑戦』日本国際問題研究所、2001年。
○黒柳米司『ASEAN35年の軌跡––'ASEAN Way'の効用と限界』有信堂高文社、2003年。
○黒柳米司編著『アジア地域秩序とASEANの挑戦–– 「東アジア共同体」をめざして』、明石書店、2005年。
○山影進『新しいASEAN–地域共同体とアジアの中心性を目指して』アジア経済研究所、2012年。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

1回　イントロダクション
2回　東南アジアにおける国民国家の成立
3回　東南アジアにおける地域協力という発想の登場
4回　東南アジア連合（ASA）の成立と地域紛争
5回　地域紛争と第2の地域協力機構：マフィリンド（Maphilindo）
6回　東南アジア諸国の政治変化とASEANの成立
7回　ASEANの始動と変容
8回　インドシナ紛争とASEAN諸国（１）「難民」への対応
9回　インドシナ紛争とASEAN諸国（２）カンボジア内戦への関与
10回　ポスト冷戦期のASEAN(1) ASEANの拡大
11回　ポスト冷戦期のASEAN(2) 経済協力への取り組み：AFTA
12回　ASEANのAPECへの参画
13回　ASEAN地域フォーラム（ARF）、ASEAN+3、東アジア首脳会議（EAS）
14回　ASEANの展望
15回　まとめ

東南アジアの政治と外交 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト（3回）…45%　期末テスト…55%

小テスト実施日に欠席する / した場合、それがやむを得ない理由によることを証明する書類があれば、次の授業までに別途日時を設定して、追試を行うことが可能です。欠席が分かり次第、メールにて担当者にご連絡ください。追試はなるべく柔軟に対応していきます。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

小テストを3回実施する予定です。小テストの成績は成績評価全体の4割以上を占めます。日ごろの授業への取り組みがたいへん重要となります。

履修上の注意　/Remarks

東南アジア研究概論を受講したうえで本科目を受講すると、本科目の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

地域研究特講 【昼】

担当者名 /Instructor　ＯＤＵ教員 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　集中　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカの社会と文化についての諸問題について、専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカの社会と文化の諸問題を正しく理解し、情報の収集や分析ができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	卒業後も、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

（英米）アメリカの社会と文化	ARE222M
（国関）地域研究特講	ARE200M

授業の概要　/Course Description
後日掲示。

教科書　/Textbooks
後日掲示。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)
後日掲示。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents
後日掲示。

成績評価の方法　/Assessment Method
後日掲示。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review
後日掲示。

履修上の注意　/Remarks
後日掲示。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor
後日掲示。

キーワード　/Keywords
後日掲示。

アメリカ史の争点 【昼】

担当者名 /Instructor　朝立　康太郎 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカの歴史上の争点について理解する。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカの歴史上の争点に関する情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカ史の争点	ARE320M

授業の概要　/Course Description

【授業の到達目標及びテーマ】
「移民の国」とも称されるアメリカ合衆国は、植民地期から今日まで世界中の様々な人々を吸収し、各々の集団がときに摩擦を起こしながらも、それを発展の「糧」としてきた歴史があります。植民地期における黒人奴隷、建国後の19世紀半ばにおけるアイルランド系やドイツ系の移民、20世紀転換期の東欧系や南欧系のいわゆる「新移民」、また中国系や日系、さらに今日では中米やカリブ海諸島からの移民が、それぞれの時代状況に応じた発展のダイナミズムを作り出すことで、今日の合衆国社会の姿が形作られたといっても過言ではありません。本講義では、こうしたアメリカ合衆国史における人種・エスニックの動向に注目しつつ、各集団が各時代状況において担わされた役割、及び各集団間での諸関係に対する歴史的な理解を通じて、「人種・エスニックのアメリカ」を総合的に把握することを目標とします。

【講義の概要】
下記の〔各回の講義内容〕にありますように、講義は大きく3つのトピックに分けられます。映像資料などを活用しながら、アメリカ合衆国史における人種問題やエスニック問題を考える上でのポイントを理解することに努めます。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

【各回の講義内容】
第1回：オリエンテーション、講義の序論
第2回：人種関係の初期設定における奴隷制の役割(1)–「人種」とは何か？–
第3回：人種関係の初期設定における奴隷制の役割(2)–南北アメリカ大陸における奴隷制の導入と展開–
第4回：人種関係の初期設定における奴隷制の役割(3)–北米英領植民地社会と奴隷制–
第5回：人種関係の初期設定における奴隷制の役割(4)–南北アメリカの人種問題の比較–
第6回：白人性研究の現在(1)–「白人性」とは何か？–
第7回：白人性研究の現在(2)–アイルランド系移民による白人性の追求–
第8回：白人性研究の現在(3)–アメリカ史における「白人」の意味–
第9回：白人性研究の現在(4)–多元的国家における「白人」の創造–
第10回：国民化と人種・エスニックの問題(1)–アメリカにおける「国民」–
第11回：国民化と人種・エスニックの問題(2)–植民地社会と人種奴隷制–
第12回：国民化と人種・エスニックの問題(3)–南北戦争期における国民資格の動揺–
第13回：国民化と人種・エスニックの問題(4)–人種間婚姻禁止体制の盛衰–
第14回：補論–現代アメリカ合衆国における人種・エスニックの問題–
第15回：まとめ

アメリカ史の争点 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

講義への参加度30%、学期末試験70%程度の割合で評価する予定です。出席カードには、講義内容に関する感想や質問、また要望などを書くこと。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

【準備学習等についての具体的指示】
　アメリカ合衆国史の知識を必ずしも前提としませんが、各受講者には講義中に紹介する書籍・映像資料を利用して、各講義のテーマに関する予習を行うことが期待されます。

履修上の注意　/Remarks

講義中は私語を慎むこと。20分以上の遅刻は基本的に出席を認めない。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

現代アメリカ政治 【昼】

担当者名 /Instructor　中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカの現代政治について専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカの現代政治に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代アメリカ政治	ARE322M

授業の概要 /Course Description

現代アメリカ政治の基礎を講じる。

教科書 /Textbooks

久保文明ほか『アメリカ政治』（有斐閣　２０１０年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

斎藤真、古矢旬『アメリカ政治外交史』（東京大学出版会　2012年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回ガイダンス
第2回アメリカ政治の輪郭
第3回合衆国憲法の形成
第4回合衆国憲法の特徴
第5回大統領制
第6回議会
第7回司法
第8回連邦制
第9回選挙と政党制
第10回政党の機能
第11回メディアと圧力団体
第12回イデオロギー対立
第13回政策形成過程
第14回アメリカ民主政の現在
第15回授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト … ７０ %　　レポート … ３０%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、予習内容を支持するので、それに沿って勉強すること。また、関連事項を教科書等で復習すること。

履修上の注意 /Remarks

この講義の内容は英米文化概論IIであつかう内容や、国際関係史であつかうアメリカ外交とあわせて学習すると、よく理解することができるようになります。
授業開始前までにあらかじめ教科書や参考書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと教科書を照合しながら、理解を深めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業開始前までに予め教科書で授業の該当箇所を読み、授業終了後には教科書で復習すること。

現代アメリカ政治 【昼】

キーワード　/Keywords
アメリカ　政治

アメリカ政治研究 【昼】

担当者名 /Instructor　中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカの政治について専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカの政治に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカ政治研究	ARE321M

授業の概要 /Course Description

植民地期から第一次世界大戦までのアメリカ政治の発展を講じる。前半部分では、植民地期から建国期のアメリカについて国際情勢と社会状況を踏まえて、その政治秩序の形成を論じ、続いて南北戦争後に国家秩序が再編された経緯を説明する。そして、後半では門戸開放外交を軸としたアメリカ合衆国の積極的対外政策の展開と第一次世界大戦の衝撃を扱う。

教科書 /Textbooks

斎藤真、古矢旬『アメリカ政治外交史』（東京大学出版会　2012年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中野博文『ヘンリ・アダムズとその時代』（彩流社　2016年）
教科書の参考文献リストを参照。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回ガイダンス
第2回近代ヨーロッパ世界とアメリカ植民地
第3回独立革命再考
第4回合衆国憲法体制
第5回大陸国家と海洋国家
第6回アメリカ合衆国の軍事制度
第7回奴隷制をめぐる国際政治
第8回南北戦争とは何であったのか
第9回合衆国憲法体制の再編
第10回米国のアジア・中南米貿易の発展
第11回自由貿易体制とアメリカ合衆国
第12回帝国主義外交とアメリカ
第13回門戸開放外交とは何であったか
第14回日露戦争から第一次世界大戦へ
第15回総括

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト　…　７０　％　　レポート　…　３０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、予習内容を支持するので、それに沿って勉強すること。また、関連事項を参考書等で復習すること。

アメリカ政治研究 【昼】

履修上の注意　/Remarks

この講義の内容は現代アメリカ政治であつかう内容や、国際関係史であつかうアメリカ外交とあわせて学習すると、アメリカ国家の発展をよく理解することができるようになります。
また授業前にあらかじめ教科書で内容を予習し、授業後は復習すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

上の繰り返しですが、授業開始前までにあらかじめ教科書や参考書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと教科書を照合しながら、理解を深めること。

キーワード　/Keywords

アメリカ　政治

東アジア経済論 【昼】

担当者名 /Instructor　尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	東アジア経済の理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	東アジア経済について一定程度専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

東アジア経済論	ECN352M

授業の概要 /Course Description

東アジア地域は長い期間にわたって経済発展を続けてきた地域でやかあり、今後東アジア経済の動向が世界の中で重要な意味を持つようになる。この授業のねらいは、一つには多様性に富んだ東アジア地域の代表的な国々の経済を概観し、その特徴を深く理解することである。もう一つには、東アジア経済に関連する共通した特徴や課題を理解することである。

授業では、まず東アジア地域全体の統計データを確認して、世界の中での東アジア経済の位置づけと全体像を把握する。次に、東アジア経済の特徴を「工業化」、「サービス化」、「移民」、「体制移行」という4つのキーワードで捉えて、それぞれの特徴について代表的な国の経済を紹介し、そのキーワードに関する理論的背景や歴史的な事情などを解説をしていく。次に、東アジア地域が共通して経験した問題点と、今後取り組むべき課題を取り上げる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

渡辺利夫編『アジア経済読本　第4版』、東洋経済新報社
長谷川啓之編著『アジア経済発展論』、文眞堂
三木敏夫『東アジア経済発展論』、創成社
郭洋春『現代アジア経済論』、法律文化社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回　ガイダンス、世界の中の東アジア
2回　韓国経済
3回　台湾経済
4回　東アジアの工業化戦略
5回　シンガポール経済
6回　香港経済
7回　国際金融・国際物流
8回　マレーシア経済
9回　インドネシア経済
10回　ASEANにおける華人経済
11回　中国
12回　その他移行経済 (ベトナム、ミャンマー、北朝鮮など)
13回　国家と市場、開発独裁
14回　アジア通貨危機
15回　アジアにおける地域統合

東アジア経済論 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の学習状況及び小テスト…40%　　学期末試験…60%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習としては、普段から東アジアの政治経済情勢について新聞、ニュースなどで接するおく。事後学習としては、授業で取り上げたキーワードについての知識と、各国の事例を結ぶつけて復習しておく。

履修上の注意　/Remarks

経済学科以外の受講生は経済学の入門書を読んだり、経済関係の授業を受けて、経済用語に慣れ親しんでおくことを勧めます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

工業化、サービス化、移民・華人、体制移行、アジア通貨危機、地域統合

東アジア地域秩序論I 【昼】

担当者名 /Instructor　金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	東アジア地域秩序の過去・現在・未来に関する様々な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	東アジア地域秩序に関する専門知識を増やし、身につけた専門知識を土台に東アジア地域の現実を分析する力を高める。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

東アジア地域秩序論Ⅰ	ARE315M

授業の概要 /Course Description

国際政治の観点から「東アジア共同体」を多元・重層的に捉えなおし、アジア地域統合の課題や可能性を分析する。そして将来の東アジア地域秩序の構想・構築を展望する。

教科書 /Textbooks

山本吉宣等【編著】『国際政治から考える東アジア共同体』（ミネルヴァ書房、2012）、3200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中、随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講生の報告と補足講義で進行する。
第1回　教科書の紹介、第Ⅰ部第1章　【地域統合】【理論】【制度】
第2回　第Ⅰ部第2章　【東アジア共同体】【ＴＰＰ】【アメリカの関与】
第3回　第Ⅰ部第3章　【ＥＵ事例】【主権】
第4回　第Ⅰ部第4章　【東アジア共同体憲章案】
第5回　第ⅠⅠ部第5章　【ＡＳＥＡＮ】【ヨーロッパ統合】
第6回　第ⅠⅠ部第6章　【北東アジア】【朝鮮半島】
第7回　第ⅠⅠ部第7章　【アジア太平洋】【中国】【アジア地域連帯】
第8回　第ⅠⅠ部第8章　【バルカン】【地域史】
第9回　第ⅠⅠⅠ部第9章　【地域安全保障】【中国】
第10回　第ⅠⅠⅠ部第10章　【安全保障】【地域秩序】
第11回　第ⅠⅠⅠ部第11章　【欧州共同体】【地域の不安定化】
第12回　第ⅠⅤ部第13章　【人の移動】【マイノリティ】
第13回　第Ⅴ部第14章　【アイデンティティ】【東アジア・アイデンティティ】
第14回　第Ⅴ部第15章　【戦後ドイツ】【東アジア地域統合】
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講生の報告（20点）、レポート2本（80点）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業は報告者以外の受講生も予習してくること。授業後の関連文献の自主学習。

履修上の注意 /Remarks

必ず予習と復習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

東アジアの過去と現在に関心を持ち、日本と東アジア地域の将来を展望し構想しましょう。

東アジア地域秩序論I 【昼】

キーワード　/Keywords

東アジア地域秩序論II 【昼】

担当者名 /Instructor　金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	東アジア地域秩序の過去・現在・未来に関する様々な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	東アジア地域秩序に関する専門知識を増やし、身につけた専門知識を土台に東アジア地域の現実を分析する力を高める。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

東アジア地域秩序論II	ARE316M

授業の概要 /Course Description

近代における東アジア地域秩序の変容を論じ、爰らの東アジア地域秩序を考えること。そのため、本講義では、東アジア三国（日本、清国・中国、朝鮮・韓国）のナショナリズムの形成と展開を考察する。その過程で、三国それぞれのナショナリズムの特徴を比較考察する。また、ナショナリズム論も考察する。最後に、三国のナショナリズムと「グローバル化時代の東アジア」を対比し、それを調和させるべく、「東アジア共同体論」を検討する。講義全体のキーワードは【アジアからの視点】【文明論的な視点】【ナショナリズム】【東アジア共同体】

教科書 /Textbooks

米原謙・金鳳珍・區建英著『東アジアのナショナリズムと近代—なぜ対立するか–』大阪大学出版会、2011，3700円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストの精読、受講生の報告、補足講義という形式で行う。

第1回　概説と教科書の序章　【アジアからの視点】【文明論的視点】
第2回　第一章の一　【国体論】【国体ナショナリズム】
第3回　第一章の二、三　【中華世界像】【国民国家】【明治儒学と国体】
第4回　第二章の一、二　【原初ナショナリズム】【近代ナショナリズム】
第5回　第二章の三、四　【ナショナリズムの噴出と相克】
第6回　第三章の一、二　【洋務運動】【戊戌変法】【ナショナリズムの萌芽】
第7回　第三章の三　【辛亥革命】【民族主義】【国粋主義】
第8回　第四章の一　【脱亜】【興亜】【帝国日本】
第9回　第四章の二、三　【戦争】【東亜協同体論】
第10回　第五章の一、二　【抵抗ナショナリズムの離散と噴出】【分極】
第11回　第五章の三、四　【ナショナリズムの離合集散】【分裂と変質】
第12回　第六章の一、二　【アジア主義】【抗日ナショナリズム】
第13回　第六章の三　【アジア民族同盟】【統一戦線】【抗日戦争】
第14回　終章　【ナショナリズムの相克】
第15回　まとめ　【相生と相克】【東アジア共同体】

成績評価の方法 /Assessment Method

受講生の報告（10%）、2本のレポート（1本45%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、教科書の予習をしてくること。それを前提として授業を進める。関連文献を探し、自主学習すること。

履修上の注意 /Remarks

毎回の授業の予習は必須。

東アジア地域秩序論II 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

東アジア三国におけるナショナリズム形成と相克の歴史を学び、それぞれのナショナリズムを相対化すること。そして将来の東アジア国際関係の協調体制と東アジア共同体を構想すること。

キーワード　/Keywords

国際協力論I 【昼】

担当者名 /Instructor　大平　剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際政治経済の一領域として国際協力を捉え、専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	●	国際協力分野における情報を収集し、分析や調査ができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際協力論 I	IRL211M

授業の概要　/Course Description

この講義では、国際協力を行う主体のなかでも二国間援助機関に焦点を当て、政府開発援助（ODA）の仕組み、開発援助の歴史、援助の課題について学習します。60年にもおよぶ援助の歴史があるにもかかわらず、なぜ途上国と呼ばれる世界がいまだに存在し、貧困問題が解決されないのかについて国際政治の観点から考察を行います。

教科書　/Textbooks

特に指定はしません。第1回目の授業および各回の講義の際に文献を紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○下村恭民他『開発援助の経済学（第４版）』有斐閣、2009年。
○下村恭民、辻一人、稲田十一、深川由紀子著『国際協力：その新しい潮流（第3版）』有斐閣、2016年。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　開発援助の主体について【二国間援助機関】、【多国間援助機関】
第2回　WWII後から1960年までの開発援助　【ポイント・フォア】
第3回　南北問題台頭の時代【南北問題】、【UNCTAD】
第4回　1960年代の開発援助【近代化論】、【トリクル・ダウン仮説】
第5回　南北交渉の時代【新国際経済秩序（NIEO）】、【資源ナショナリズム】
第6回　1970年代の開発援助【ベーシック・ヒューマン・ニーズ（BHN）戦略】
第7回　途上国世界の分裂【石油危機】、【累積債務危機】
第8回　1980年代の開発援助【構造調整政策】、【ワシントン・コンセンサス】【経済的コンディショナリティ】
第9回　冷戦の終結と援助パラダイムの変化【人間開発】【政治的コンディショナリティ】
第10回　グローバルな開発目標の設定【MDGs】【SDGs】
第11回　新興国の台頭と秩序の揺らぎ【南南協力】【BRICS】【北京コンセンサス】
第12回　日本のODAの歴史【戦後賠償】、【黒字還元】
第13回　日本のODAの仕組み、理念【開発協力大綱】、【自助努力】
第14回　開発協力の今日的課題
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

課題…40%（10%×4回）　　学期末試験…60%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に第2次世界大戦後の世界史について復習しておくことが望ましい。事後学習としては、Moodle上にアップした課題を提出する際に学習内容を復習して下さい。

国際協力論I 【昼】

履修上の注意　/Remarks

日頃から国際協力機構（JICA）やOECD（経済協力開発機構）DAC（開発援助委員会）のウェブサイトを参照すると、授業理解に役立ちます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

私語厳禁。原則として途中入退室は認めません。

キーワード　/Keywords

国際協力論II 【昼】

担当者名 /Instructor　大平　剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	平和構築における開発の役割について理解し、専門的知識を有している。
技能	専門分野のスキル	●	平和構築における開発の役割について情報を収集し、分析することができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際協力論Ⅱ	IRL212M

授業の概要　/Course Description

この講義では、国際協力として取り組むべき課題のなかでも、1990年代以降活発に議論されている平和構築について学習し専門的知識を身につけます。また、国際社会が新たな脅威に対してどのように対応しているのか、その際にどのような課題があるのかについても学習します。後半部分では紛争再発予防における開発の役割に焦点を当てます。

教科書　/Textbooks

特に指定しない。随時、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○メアリー・ B・ アンダーソン『諸刃の援助 - 紛争地での援助の二面性』明石書店、2008年。（絶版のため書店購入不可）
○リンダ・ ポルマン『クライシス・ キャラバン–紛争地における人道援助の真実』東洋経済新報社、2012年。
○ヨハン・ ガルトゥング『構造的暴力と平和』、中央大学出版部、1991年。
○オリバー・ ラムズボサム、トム・ ウッドハウス、ヒュー・ マイアル『現代世界の紛争解決学』明石書店、2009年。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第1回　平和学の基礎
第2回　国家の破綻と崩壊　事例研究1　ルワンダ①【歴史的経緯】
第3回　ルワンダ② - 国連PKOの実状 - 【ビデオ】【ディスカッション】
第4回　国家の破綻と崩壊　事例研究2　ソマリア①【歴史的経緯経緯】
第5回　ソマリア② - 破綻国家の実状 - 【ビデオ】【ディスカッション】
第6回　国家の破綻と崩壊　事例研究3　アフガニスタン①【歴史的経緯】
第7回　アフガニスタン② - 介入と国家再建 -
第8回　アフガニスタン③ - NGOによる和解の可能性【ビデオ】【ディスカッション】
第9回　国連ＰＫＯの変容
第10回　紛争問題解決アプローチの展開【人道的介入】【保護する責任】
第11回　「平和構築」アプローチの是非
第12回　紛争後復興における開発の役割
第13回　Do No Harm原則①【平和へと向かう力、戦争に向かう力】
第14回　Do No Harm原則②【援助が持つ物質的影響、倫理的メッセージ】
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

課題の提出…30%（10%×3回）　学期末試験…70%

国際協力論II 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前にイントラ上の学習支援フォルダに掲載される資料に目を通しておくこと。事後学習としては、ビデオを観た後で課題に答えて提出して頂きます（3回、Moodleを活用する予定）。

履修上の注意　/Remarks

JICAのホームページから『課題別指針　平和構築』（2009年）をダウンロードして読んでおくと、講義の後半部分の理解に役立ちます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業中の私語は厳禁です。遅刻や途中退室も他の受講生の迷惑になるので禁止します。ビデオを観た回ではグループでディスカッションをしてもらいます。積極的に発言することを心がけてください。

キーワード　/Keywords

国際社会論 【昼】

担当者名 /Instructor　稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	様々な社会の抱える課題について専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	様々な社会の抱える課題に関する情報の収集と分析を行うことができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際社会論	IRL210M

授業の概要 /Course Description

この授業では、（１）国際社会学の基礎概念、（２）国際的な人口移動の様相、（３）国民国家内部での移民の統合と多文化共生社会の形成について理解することを目指す。
グローバル化の進展により国境を越えた人の移動は増加している。それにともなって、世界各地で移民排斥も生じている。日本も例外ではない。排外主義の高まりの中、定住外国人の権利保障、社会参加、多文化共生の地域づくりが重要な課題となってきている。
授業では、グローバル化と社会的排除に関する国際社会学の基礎概念について紹介した後、国際人口移動について概説する。その上で、日系ブラジル人社会、在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係の事例をもとに、移民の社会的排除と社会的統合のプロセスについて実証的に考察していきたい。これらを通して、グローバル化が地域（ローカル）に及ぼす影響を、生活の場から考える視点を身につける。

教科書 /Textbooks

なし（プリント配布）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『よくわかる国際社会学』、樽本英樹著、ミネルヴァ書房
○『多民族社会・日本』、渡戸一郎・井沢泰樹編著、明石書店
○『民族関係における結合と分離』、谷富夫編、ミネルヴァ書房
○『顔の見えない定住化 - 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』、梶田孝道・丹野清人・樋口直人著、名古屋大学出版会
○『外国人へのまなざしと政治意識』、田辺俊介編著、勁草書房
その他、多数あるので、講義の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　国際社会学とは
第２回　国民国家・人種･ネーション・エスニシティ
第３回　エスニシティ活性化の理論
第４回　グローバル化の進展と国境を越えた人口の移動
第５回　移民の社会的排除と統合（１）【ヨーロッパの事例】
第６回　移民の社会的排除と統合（２）【移民と階級、教育、政治】
第７回　日系ブラジル人社会と日本人社会との民族関係（１）【移民の理論】
第８回　日系ブラジル人社会と日本人社会との民族関係（２）【移住システムと移民コミュニティ】
第９回　日系ブラジル人社会と日本人社会との民族関係（３）【社会問題発生のメカニズム】
第10回　在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係（１）【在日朝鮮人とは】
第11回　在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係（２）【多文化コミュニティ形成の条件】
第12回　在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係（３）【社会移動】
第13回　排外主義と排外意識 - 排外意識形成のメカニズム
第14回　統合と多文化共生社会の形成に向けて（１）- 国・自治体・NGOの役割
第15回　統合と多文化共生社会の形成に向けて（２）- 移民と市民権

国際社会論 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

課題･･･ １５％期末試験･･･ ８５％
（総合的に判断する。）

事前･事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
授業テーマと関連のある新聞記事や文献に（できるだけ）目を通すようにすること。

履修上の注意　/Remarks

授業内容を反復するとともに、移民や排外主義に関する新聞･雑誌などの記事に目を通し、グローバル化が地域に及ぼす影響について考えること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業を通してグローバル化の進展を生活の場からとらえ、分析する視角を身につけてほしい。

キーワード　/Keywords

国際社会学、グローバル化、社会的排除、排外主義、排外意識、統合、多文化共生、ネーション、エスニシティ、労働移民、難民、高度技能移民、ディアスポラ、NGO、在日韓国･朝鮮人、日系ブラジル人

国際人権論 【昼】

担当者名 /Instructor　山本　直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際人権の諸側面について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際人権に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際人権論	IRL213M

授業の概要　/Course Description

人間の権利には、どのようなものがあるのでしょうか。それを誰がどのように保護するのでしょうか。現代世界においては、各々の国家が個別にこれらの問いにこたえればよいというわけでは必ずしもなくなっています。
講義では、主に国際政治学と国際法学の観点から、人権に関する規範と制度が国際連合においてどのように形成されているのかを考察し、その課題を探究します。コンディショナリティやヘイトスピーチ、あるいは個人情報のビッグデータ化等、近年の展開も視野に入れる予定です。

教科書　/Textbooks

『国際条約集2018年版』有斐閣、2018年。
複数の出版社が条約集を出していますが、授業では有斐閣のものを用います。
なお、次の場合にかぎり有斐閣の昨年度版（2017年版）を用いることができます。
・ 2017年度開講の同科目を履修登録し、かつ単位を取得しなかったひと、
・ 2017年度開講の国際機構論Ⅰを履修登録したひと。
他の出版社の条約集を教科書として用いることはできません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○阿部浩己・今井直・藤本俊明『テキストブック国際人権法』第3版、日本評論社、2009年．
○トーマス・バーゲンソル『国際人権法入門』東信堂、1999年．
○畑博行・水上千之編『』第4版、有信堂高文社、2006年．
○山本直『EU人権政策』成文堂、2011年．
ほか授業で指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　はじめに
第2回　人権概念の創出
第3回　国際社会と人権保護：19世紀まで
第4回　国際社会と人権保護：国際連盟の時代
第5回　国際連合における人権の規範と制度（国連憲章）
第6回　国際連合における人権の規範と制度（世界人権宣言）
第7回　国際連合における人権の規範と制度（社会権規約と自由権規約）
第8回　国際連合における人権の規範と制度（各種の人権条約）概観
第9回　国際連合における人権の規範と制度（各種の人権条約）ケース・スタディ
第10回　国際連合における人権の規範と制度（人権理事会）概観
第11回　国際連合における人権の規範と制度（人権理事会）ケース・スタディ
第12回　国際刑事裁判所の設立と活動
第13回　現代世界・アジアと人権：人権外交と価値観（１）
第14回　現代世界・アジアと人権：人権外交と価値観（２）
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート・小テスト（5回）20%　期末試験80%

国際人権論 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

ほぼ毎回課題があります。課題をこなしたうえで授業に出席してください。授業の終了後は、授業内容を復習してください。

履修上の注意　/Remarks

教科書に書き込むための附箋と極細ペンを用意すると便利です。
次の該当者は受講できません。教科書を持参していない人、教科書を忘れた人、遅刻した人、早期退室する人。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

国際紛争論 【昼】

担当者名 /Instructor　川上　耕平 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	紛争とそれに関連する事項について専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	紛争に関連する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際紛争論	IRL214M

授業の概要　/Course Description

国際関係の研究は、戦争と平和の研究といっても過言ではない。そのアプローチには、歴史的な方法と理論的な方法の2つがあると思われるが、本講義は、その両方を意識しながら進めていく。具体的には、まず紛争を研究するための視座にあたるようなものを、「覇権」や「分析レベル」といったキーワードに基づいて簡潔にみていく。そうした検討を踏まえながら、具体的な紛争（授業計画を参照）を個別に取り上げ、史学上の学説などを整理することによって、受講者には国際紛争を多面的に捉える力を習得してもらう。

教科書　/Textbooks

教科書は指定せず、各回のテーマごとにレジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

各回のテーマごとに、関連文献を紹介するが、講義全体に関わるものとして、以下の文献を挙げておく。

○K.ウォルツ（渡邉昭夫、岡垣知子 訳）『人間・戦争・国家――国際政治の3つのイメージ』勁草書房、2013年。
○菅英輝『アメリカの世界戦略』中公新書、2008年。
○黒川修司『現代国際関係論』国際書院、2009年。
J.ゴールドステイン（岡田光正 訳）『世界システムと長期波動論争』世界書院、1997年。
○G.モデルスキー（浦野起央、信夫隆司 訳）『世界システムの動態――世界政治の長期サイクル』晃洋書房、1991年。
篠田英朗『国際紛争を読む五つの視座』講談社選書メチエ、2015年。
○J.ナイ他（田中明彦、村田晃嗣 訳）『国際紛争――理論と歴史』原書第10版、有斐閣、2017年。
G.T. Allison, Destined for War: Can America and China Escape Thucydides's Trap?, Houghton Mifflin Harcourt, 2017.

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回　国際紛争を考えるための視角：【分析レベル】、【覇権】、【トゥキディデスの罠】
第3回　三十年戦争【主権国家】：【ウェストファリア体制】
第4回　覇権と国際紛争（１）――スペインからオランダの覇権へ：【世界システム】
第5回　覇権と国際紛争（２）――パックス・ブリタニカの時代：【第二次英仏百年戦争】
第6回　第一次世界大戦（１）：【帝国主義】
第7回　第一次世界大戦（２）：【三国同盟】、【三国協商】
第8回　第二次世界大戦（１）：【ナチズム】
第8回　第二次世界大戦（２）：【連合国】、【枢軸国】
第9回　冷戦と核戦略：【相互確証破壊】
第10回　冷戦期の国際紛争（１）――二つのドイツ：【ベルリン封鎖】
第11回　冷戦期の国際紛争（２）――中国と台湾：【台湾海峡危機】
第12回　冷戦期の国際紛争（３）――朝鮮半島：【朝鮮戦争】
第13回　冷戦期の国際紛争（４）――中東①：【パレスチナ問題】
第14回　冷戦期の国際紛争（５）――中東②：【イラン・イラク戦争】、【湾岸戦争】
第15回　冷戦後の国際紛争――「イスラム国」をめぐる問題：【テロリズム】

国際紛争論 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…70%　　小テスト…30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各テーマのレジュメが事前に配られた場合には、それについて目を通しておくこと。そして講義が終わった後は、講義内容を自分の頭できちんと整理しなおし、講義で紹介した文献のいずれかにも当たってみること。。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

高校などで世界史などを履修したことがない学生でも、十分についていけるよう説明をするので、あとは各自がどれだけ発展的な学習（講義で紹介した文献の消化）に結びつけていけるのか、ということが課題となる。

キーワード　/Keywords

上記の授業計画を参照。

地球環境論 【昼】

担当者名 /Instructor　松本　治彦 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地球環境に関して、専門的な知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	●	地球環境についての情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地球環境論	ENV200M

授業の概要　/Course Description

最近の新聞で話題となっていること、例えば「ミュー粒子でピラミッド内30mの巨大空間発見」「光合成、水を分解するメカニズム解明？」「太陽フレア、地球脅かす」「AI、教材ゼロで超人に？」「日本版GPS4基体制と自動運転」「重力波観測でノーベル物理学賞」「水を見れば生物がわかる（環境DNA）」「ラニーニャ現象と厳冬」「国際ナノカーレース開催」「消えた7番目の大陸【ジーランディア】水没の謎」などの記事が載っています。また熟語としては「５G」「チバニアン」「IoT」「全固体電池」「ソサエティー5.0」「量子コンピューター」「AIスピーカー」「精密農業」など。これらの内容をどのように理解すればよいのか？難しい世の中になりました。「理系の人間だからこれくらいのことは理解しているでしょう」とか、「文系の人間だから知らなくて当然です」と言いたくなるかもしれません。しかし、今の社会では、これら情報の理解度と真偽の判断が、各人のその後の人生に影響を及ぼすことがあります。

そこで、この授業では、受講する皆さんが地球の現在・過去・未来について考える際に、知っておくべき自然科学系の話をします（もちろん、社会科学系の話もします。文系・理系の枠を超えた視点にチャレンジしています）。この授業の最も重要ことは「事実と意見」の区別と「時間と空間のスケール」を常に考えながら話を聞いていただくことです。なるべく、数式や化学式を使わないように話していきますが、これらを利用する際には、基本的な話からはじめて、理解しやすいように工夫をしています。この授業の受講後は、新聞で毎日のように取り上げられている自然科学系（地球の環境も含めて）の記事の内容がある程度、理解できるようになることを期待しています。

教科書　/Textbooks

テキストは使用しません。資料（ウエブ上より各自ダウンロードしてください）に沿って授業を進めます（パワーポイントを利用します）。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

参考書については、第1回目の講義で資料を基に説明します。

地球環境論 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回「地球の歴史、何がわかっているの？そして、未来は？」【事実と意見の区別】【科学の特徴】【時間と空間のスケール】【基本単位を知る】【授業概要】【参考図書の紹介】
２回「宇宙の始まり」【ビックバンとインフレーション】【自然の大きさ】【質量と重さ】【素粒子】【4つの力】【電磁波】【重力波】
３回「地球の誕生・生物の誕生」【年代測定】【ウイルスとの共生】【光合成生物】【カンブリア爆発】【スノーボール・アースイベント】【恐竜の絶滅】
４回「人間社会の形成」【ヒトの進化】【人間活動】【自然生態系と人工生態系】
５回「熱収支と四季」【太陽放射と地球放射】【温室効果】【１日の最高気温は何時？】【１年で最も寒い月は？】
６回「水と大気の大循環」【大気の鉛直構造】【温度とは？】【大気の大循環】【海洋の深層大循環】
７回「森林消失と生物種絶滅」【熱帯林の破壊】【乾燥地帯の農業】【再生への対処法】
８回「オゾン層破壊・PM2.5」【紫外線】【オゾンとフロン】【オゾンホール】【PM2.5とは？】
９回「温暖化モデルとIPCC」【カオス】【IPCCの作業原則】【予防原則】【パリ協定】【私の見解】
１０回「周期的変動」【氷期サイクル】【太陽活動の異変】【海洋の周期的変動】【北極振動と偏西風の蛇行】【エルニーニョとMJO】【黒潮の蛇行】
１１回「化石燃料から再生可能エネルギーへ」【石油・石炭・天然ガス】【シェールガス】【メタンハイドレート】【水力】【バイオ燃料】【地熱】【太陽電池】【風力】【波力】【原子力】
１２回「炭素社会から水素社会に」【燃料電池】【水素発電所】【水素ステーション】【人工光合成】
１３回「未来予測」【2050年までの取り組みが大事】【宇宙のこと】【イノベーション加速】【人口予測】【遺伝子工学】【AIと人間との共存】【自動運転】【軌道エレベータ】【ナノマシン】【レプリケーター】【テラフォーミング】
１４回「天気予報・自然災害への備え」【気象観測】【天気予報とコンピュータ】【火山・地震・津波】【警報の見直し】
１５回「まとめ」

成績評価の方法　/Assessment Method

毎回の授業で配布する質問カードへの記入（感想、質問等を記入する）40%、学期末試験60%で総合評価します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

シラバスに沿った授業を実施しています。各回の授業内容を一読して、授業に備えてください。また、授業後は理解できなかった内容については次回までに自分自身で調べておいてください（質問カードに記載した分からないことについては、次回の授業の最初に私のほうから説明します）。

履修上の注意　/Remarks

毎回、授業の終わりに質問カードに質問・感想等を記入する時間を取ります。しかし、5～10分程度の短い時間ですので、皆さんは短時間で疑問点や感想を箇条書きできるように、日頃から心がけてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業は、概要・授業計画をみると分かるように、広範囲な地球の環境について取り上げています。前半は自然科学系の基本的な知識を中心に理解を深めてもらいます。中ほどでは最近、話題となっている地球環境に影響を与えている自然現象や人間活動などについて「その真偽」を中心にお話をします。後半は、基礎知識、最近の現象を踏まえて、これから望ましい工ネルギー、社会構造、および未来の予測について、私の考えを述べます。なお、受講生の皆さんが高校の時に理系科目をあまり勉強していなくても、この授業を理解できるように工夫（たとえば、質問カードの記入）しています。分からないことは遠慮せずにこのカードに書いてください。次回の授業では、質問に答えることから始めます。

キーワード　/Keywords

「事実と意見の区別」「時間・場所的スケール」「地球温暖化予測モデルの精度」「炭素社会から水素社会へ」

世界経済論 【昼】

担当者名 /Instructor　山川　俊和 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	世界経済の理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	世界経済について一定程度専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

世界経済論	ECN255M

授業の概要　/Course Description

この授業では、現代の世界経済の動向をとらえるための基本的な知識と考え方を得ることを目指します。国際貿易、多国籍企業、途上国開発、地球環境といったトピックを取り上げます。とくに、地球環境問題について、世界経済との関係から詳しく解説します。この授業を通じて、新聞記事をより深く理解できるようになることや、経済学の基本的な理論や学説に親しんでもらうことも狙っています。

教科書　/Textbooks

パワーポイントファイルを配布します。講義は、石田修・板木雅彦・櫻井公人・中本悟編（2010）『現代世界経済をとらえる Ver.5』東洋経済新報社に基づいて進めます。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○岩本武和ほか（2012）『グローバル・エコノミー（第3版）』有斐閣。
寺西俊一ほか編（2018）『農家が消える：自然資源経済論からの提言』みすず書房。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　講義のガイダンス
第2回　国際貿易（１）国際貿易の現代的特徴
第3回　国際貿易（２）国際貿易の基本原理
第4回　国際貿易（３）自由貿易と保護貿易
第5回　国際貿易（４）国際収支と為替レート
第6回　直接投資と多国籍企業（１）直接投資と多国籍企業の現状
第7回　直接投資と多国籍企業（２）グローバル価値連鎖
第8回　直接投資と多国籍企業（３）多国籍企業の社会的責任
第9回　発展途上国の開発問題（１）貧しい国と豊かな国
第10回　発展途上国の開発問題（２）貧困削減政策とフェアトレード
第11回　地球環境問題（１）気候変動の基礎知識と京都議定書
第12回　地球環境問題（２）パリ協定と再生可能エネルギー
第13回　地球環境問題（３）世界経済と環境負荷
第14回　地球環境問題（４）環境と貿易
第15回　全体のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点（リアクションペーパーなど）：20%、期末レポート：80%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習としては、事前に配付される資料を読み、不明点や気になる点をあらかじめチェックしておいてください。また、経済関係の用語をあらかじめ自分で確認しておくことが望ましいです。事後学習としては、講義内容を振り返り、疑問点や新たな発見などをまとめておいてください。

世界経済論 【昼】

履修上の注意　/Remarks

普段から新聞やニュースに触れて経済も含めた世界の動向についての情報を仕入れておくことが望ましいです。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

新聞やニュースを見ると、世界情勢は特に経済の面で激動していることが分かります。この授業をきっかけにして世界経済に関心を持ち、世界経済について正しく理解した上で自分の意見を持てるようになればいいと思います。

キーワード　/Keywords

国際貿易、直接投資･ 多国籍企業、グローバル価値連鎖、南北問題、地球環境問題、再生可能エネルギー。

国際関係特講I 【昼】

担当者名 /Instructor　繁沢　敦子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　集中　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際関係に関する特定の事項について専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際関係に関する特定の情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際関係特講Ⅰ	IRL290M

授業の概要　/Course Description

This course is designed to explore what is known as the Atomic Age--a period of history that emerged when the first atomic bomb was detonated in the summer of 1945.
During the 20th century, the United States rapidly came to power and dominated the world in various terms, e.g. politics, economy and culture. The scientific and technological progress that brought about the birth of the atomic bomb was one of the American achievements that marked the century.
The nuclear arms race started after the use of the first atomic bomb over Hiroshima and Nagasaki more than seven decades ago, which over the years had led to the production of tens of thousands of nuclear warheads. In the meantime, the peaceful uses of atomic energy were promoted and introduced in many countries.
Because the bomb has not been used in anger--in actual war--since 1945, and with the end of the Cold War, some people might consider the period something of the past. Is it really so? The risk of nuclear terrorism and nuclear power plant accidents are still there. The recent tension between the United States and North Korea remain imminent. What does it mean to live in the Atomic Age? How relevant is the event of 1945 to our current lives? How are our times defined by the nuclear energy?
The course will mostly revolve around the events in the 1940s-60s in America. But we will also seek connections with earlier events and with our lives in Japan.

教科書　/Textbooks

We will not be using a particular textbook. Some handout materials will be provided in class.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

繁沢敦子『原爆と検閲』（中公新書、2010年）
Paul Boyer, By the Bomb's Early Light: American thought and culture at the dawn of the atomic age, Chapel Hill: University of North Carolina Press, 1994.
Oliver Stone, Peter Kuznick, "Part Four: The Bomb: The Tragedy of a Small Man," in The Untold History of the United States: Young Readers Edition, 1898-1945, Vol. 1, Atheneum Books for Young Readers, 2014.

国際関係特講I 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Unit 1: Introduction
Unite 2: Discovery of new elements
Unit 3: Discovery of the atom and launching of the Manhattan Project
Unit 4: Decision to use the atomic bomb and Japan’s Surrender
Unit 5: Atomic bomb presented to the world
Unit 6: Atomic bomb suppressed
Unit 7: Formation of the official narrative
Unit 8: Atoms for peace
Unit 9: American Cold War culture
Unit 10: Anti-nuclear movement
Unit 11: Rise of the revisionist views
Unit 12: History wars
Unit 13: Nuclear weapons in international context
Unit 14: From Hiroshima to Fukushima
Unit 15: Living in the atomic age

成績評価の方法　/Assessment Method

Regular attendance is required. Students who miss an excessive number of classes or consistently come late or leave early will not pass the course. A quiz will be given on a regular basis (30%). Students will also write one 5-10 page analytical essay (40% of grade), which should be submitted after the end of the course. Active class participation is also desired (30%).

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

During the intensive course, a reading assignment will be given on a daily basis.

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

the atomic bomb, censorship, World War II, nuclear energy, atomic age

国際関係特講II 【昼】

担当者名 /Instructor　岩﨑　佳孝 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　集中　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際関係に関する特定の事項について専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際関係に関する特定の情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際関係特講Ⅱ	IRL291M

授業の概要　/Course Description

アメリカ合衆国の近現代史における先住民（アメリカ・インディアン、ネイティブ・アメリカン）について、様々な視点から考察を行う。国際的な関係という視点から隣国カナダとの比較も行いつつ、複数の近現代連邦国家内部に統合されていった エスニック・マイノリティとしての先住民の在り様と、そのことが内包する問題点について考察し、特定の情報の収集・分析を行い、専門的な知識を習得する。

以上の内容についての講義を行いつつ、授業内では必要に応じて参加者の積極的な質問、意見、議論も求める。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

阿部珠理・編『アメリカ先住民を知るための62章』（明石書店、2016年）
岩崎佳孝『アメリカ先住民ネーションの形成』（ナカニシヤ出版、2016年）

国際関係特講II 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1　オリエンテーション、北米大陸における先住民通史【コロンブスから19世紀末まで】

2　北米大陸における先住民通史【20世紀～21世紀まで】

3　「インディアン」とは何か（1）【メンバーシップ、ワナビー、ホワイト・インディアン、ヒッピー、ホビイスト】

4　西部における合衆国の国家建設構想と先住民との対立（1）【公有地条例、北西部土地条例、インディアン強制移住法、ジャクソン大統領教書、先住民側の発言（テカムセ等）】

5　合衆国連邦体制内における先住民主権 / 自治【マーシャル三大判決、オクムルギー憲法、セコイア州憲法】

6　「インディアン」とは何か（2）【インディアン「文明化」、黒人解放民（フリードメン、ブラック・インディアン）】

7　南北戦争と先住民【チェロキー・ネーション大首長ロスの演説】

8　これまでの内容に関する質問と討議

9　西部における合衆国の国家建設構想と先住民との対立（2）【自営農地法、ターナーのフロンティア学説、ドーズ法、先住民側の発言（ルイ・リエル、クレージー・ホース、ゴール等）】

10　ボーダーランズと先住民（1）【ボーダーランズとは何か、タートル・マウンテン・チピワ保留地とロッキー・ボーイズ・インディアン保留地の事例】

11　ボーダーランズと先住民（2）【シッティング・ブルのカナダ亡命事件】

12　現在の北米先住民にまつわる問題（1）【インディアン・カントリーの犯罪管轄権から考える】

13　現代の北米先住民にまつわる問題（2）【セレブ、レナード・ペルティエ、ジョン・トゥルーデル】

14　「異なる鏡に映して」【日本と北米先住民（ラナルド・マクドナルド、ジョン・C・ウォルドロン、“ジョッコー”ジョゼフ・ジェームズ・クラーク、ナバホ・コードトーカー、アイラ・ヘイズ、浅野忠信、『RED』】

15　これまでの内容に関する質問と討議、まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

・授業への取り組み　45%
授業内での質問、意見、議論への参加状況、および授業の最後に適宜提出するコメントペーパー（質問、意見等）の提出状況を評価する
・小テスト　25%
授業の最後に提出するコメントペーパー提出時に適宜教員より出される質問（小テスト）で、授業で学んだ内容について理解し、自分なりの視点で考察を展開できているかについて評価する。
・レポート　30%
授業で学んだ内容をよく理解し、自分なりの視点で考察を展開できているかについて検証を行う。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回授業内容の復習をし、考察を深めるとともに、授業の理解に有益な史料検索、読書、映像視聴等を行うこと。
疑問点については次回以降に教員に質問すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業計画は進度に応じて、受講生との相談の上開講後に若干の変更が加えられる場合があります。
授業内での参加者の積極的な質問、意見、議論を期待します。

キーワード　/Keywords

倫理学 【昼】

担当者名 /Instructor　清水　満 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	倫理学について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	倫理に関する情報を収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

倫理学	PHR210M

授業の概要　/Course Description

社会倫理の必要性が叫ばれている現代、古代から現代に至る倫理思想の基礎を学ぶことで、グローバルな視野をもち、公正な倫理観を獲得した人材の育成に資する。社会と個人、国家と個人との関係を倫理学的にとらえることに重点を置き、現代にふさわしい社会倫理を各人が把握できるようにする。

教科書　/Textbooks

各回でレジメ、資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業担当者が毎回、原典と参考文献を紹介する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第１回　イントロダクションおよび古代ギリシャの倫理（１）　ソクラテス
第２回　古代ギリシャの倫理（２）　プラトンの倫理思想　【イデアと国家】
第３回　古代ギリシャの倫理（３）　アリストテレスの倫理思想　【賢慮と公共性】
第４回　キリスト教の倫理（１）　イエスとパウロの倫理思想 【普遍化と信仰義認】
第５回　キリスト教の倫理（２）　ルターの倫理思想 【召命と信仰義認】
第６回　近代の倫理思想（１）　デカルトの倫理思想【旅とコギト】
第７回　近代の倫理思想（２）　ホッブズの倫理思想 【リヴァイアタンと市民】
第９回　近代の倫理思想（３）　スピノザの倫理思想 【オランダの自由】
第８回　近代の倫理思想（４）　ルソーの倫理思想　【自然人と社会契約】
第10回　近代の倫理思想（４）　カントの倫理思想 【定言命法と人格主義】
第11回　近代の倫理思想（５）　フィヒテの倫理思想 【自覚と相互承認】
第12回　近代の倫理思想（６）　ヘーゲルの倫理思想 【理性の神話】
第13回　近代の倫理思想（７）　マルクスの倫理思想 【疎外と物象化】
第14回　現代の倫理思想（１）　フランクフルト学とハーバマスの倫理思想 【討議とコミュニケーション理性】
第15回　現代の倫理思想（２）　フーコーの倫理思想【統治性と権力】

成績評価の方法　/Assessment Method

平常時の学習状況 (リアクション・ ペーパーを含む) 40パーセント
講義で紹介した原典と参考文献のどれかを読んで書く期末レポート 60パーセント

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

講義で紹介した原典、参考文献のうち興味をもったものを選び、自分で読むことを勧めます。

履修上の注意　/Remarks

適宜リアクション・ ペーパーを書き、理解度を見るので、しっかり聴講して下さい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業計画を見るとむずかしそうですが、わかりやすい講義を心がけますので、わかりにくい場合にはどんどん質問をして下さい。

倫理学 【昼】

キーワード　/Keywords

国際機構論I 【昼】

担当者名 /Instructor　山本　直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際機構(主に国際連合)の諸側面について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際機構(主に国際連合)に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際機構論 I	IRL312M

授業の概要　/Course Description

現代世界では、少なくとも数百にのぼる国際機構が設立され、活動しています。これらの機構は、国家や私たちの生活にとってどのような意味をもつのでしょうか。
この講義では、第１に、代表的な国際機構である国際連合に焦点を当てて、その設立、目的、任務、制度、活動状況、国家との関係、課題などを学びます。
第２に、国際連合のような地球規模の機構の先駆といえる国際連盟等にも着目することによって、国際機構の法体系と意思決定方式がどのような史的展開をみてきたのかを考えます。

教科書　/Textbooks

『国際条約集2018年版』有斐閣、2018年．
複数の出版社が条約集を出していますが、授業では有斐閣のものを用います。
なお、次の場合にかぎり2017年版を用いることができます。
・ 2017年度開講の同科目を履修登録したものの、単位を取得しなかったひと、
・ 2017年度開講の国際人権論を履修したひと。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○明石康『国際連合　軌跡と展望』岩波書店、2006年．
○高坂正堯『国際政治』岩波書店、1966年．
○篠原初枝『国際連盟』中央公論新社、2010年．
○最上敏樹『国際機構論　第2版』東京大学出版会、2006年．
○渡部茂己・望月康恵編著『国際機構論　総合編』国際書院、2015年．
ほか適宜指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　はじめに
第2回　国際機構の定義と理論
第3回　国際機構の歴史
第4回　国際連盟（１）設立の背景と組織
第5回　国際連盟（２）活動
第6回　国際連合（１）設立の背景
第7回　国際連合（２）組織
第8回　国際連合（３）活動
第9回　国際政治と国際機構（１）国連安保理：概論
第10回　国際法・国際政治と国際機構（２）国連安保理：ケース・スタディ
第11回　国際法・国際政治と国際機構（３）国連PKO：概論
第12回　国際法・国際政治と国際機構（４）国連PKO：ケース・スタディ
第13回　国際法・国際政治と国際機構（５）国連と日本：概論
第14回　国際法・国際政治と国際機構（６）国連と日本：ケース・スタディ
第15回　まとめ

国際機構論I 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート・小テスト（5回）20%　期末試験80%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

ほぼ毎回課題があります。課題をこなしたうえで授業に出席する必要があります。授業の終了後には復習してください。

履修上の注意　/Remarks

教科書に書き込むための附箋と極細ペンを用意すると便利です。
次の該当者は受講できません。教科書を持参していない人、教科書を忘れた人、遅刻した人、早期退室する人。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

国際機構論II 【昼】

担当者名 /Instructor　山本　直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際機構（主に地域的機構）の諸側面について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際機構（主に地域的機構）に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際機構論Ⅱ	IRL313M

授業の概要　/Course Description

地理的に近接する諸国が、独自に国際機構（地域的国際機構）を設立する。このような動きは、現代世界における特質のひとつになっています。ヨーロッパ連合（EU）、東南アジア諸国連合（ASEAN）、北アメリカ自由貿易協定（NAFTA）、南部共同市場（MERCOSUR）、アラブ連盟、アフリカ連合（AU）、南アジア地域協力連合（SAARC）等は、活動の背景や目的が異なりはしますが、そのような動きの典型であるといえます。
講義では、第1に、このような動きの先駆となったEUに焦点を当てて、その設立、組織、活動状況を多面的に学びます。第2に、現代の地域的機構がもつ含意と将来を、東アジア地域の一部諸国が関わる環太平洋経済連携協定（TPP）や上海協力機構にも留意しながら展望します。

教科書　/Textbooks

辰巳浅嗣編著『EU 欧州統合の現在　第3版』創元社、2012年．
初版および第2版とは内容が異なります。第3版を準備してください。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○庄司克宏『欧州連合』岩波書店、2006年．
○鷲江義勝編著『リスボン条約による欧州統合の新展開』ミネルヴァ書房、2009年．
○中村民雄『EUとは何か』信山社、2015年．
○遠藤乾『欧州複合危機』中央公論新社、2016年．
ほか適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　はじめに
第2回　地域的国際機構の定義と理論
第3回　国際関係の中の地域的国際機構
第4回　テキスト「プロローグ」
第5回　テキスト第1章（ヨーロッパ共同体の設立）
第6回　テキスト第1章（EUの歴史）
第7回　テキスト第2章（EUの組織）
第8回　テキスト第2章（EUの政策決定）
第9回　テキスト第3章（EUの共通政策）
第10回　テキスト第3章（EUの人権保護等）
第11回　テキスト第4章（EUの対外関係）
第12回　テキスト「エピローグ」
第13回　地域的国際機構と東アジア（1）近年の展開
第14回　地域的国際機構と東アジア（2）展望
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート・小テスト（5回）20%　期末試験80%

国際機構論II 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

ほぼ毎回課題があります。課題をこなしたうえで授業に出席してください。授業の終了後は、その内容を復習してください。

履修上の注意　/Remarks

教科書に書き込むための附箋とペンを用意すると便利です。
次の該当するひとは受講できないので注意してください。教科書を持参していない人、教科書を忘れた人、遅刻した人、早期退室する人。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

国際政治経済論I 【昼】

担当者名 /Instructor　阿部　容子 / ABE YOKO / 国際関係学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際政治経済の理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際政治経済に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際政治経済論 I	IRL310M

授業の概要　/Course Description

「円安・円高」という言葉と共に為替レートに関するニュースが増加しています。為替レートの変動は貿易や企業の活動に影響を与えるものですが、為替レートとはどのように決まるのでしょうか。それには市場と国家が複雑に関係しているのです。今日の我々の生活を取り巻く環境は、政治と経済、政策決定の国際的要因と国内的要因とが交錯することに特徴があるといえるでしょう。

この授業では、ブレトンウッズ体制を中心とする戦後の国際経済体制の構築と変容を中心に検討し、政治と経済が複雑に関連しあっている国際政治経済の諸問題について理解を深めると同時に、関連する理論について学習します。

教科書　/Textbooks

とくに使用せず、プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○野林健・大芝亮・納谷政嗣・長尾悟『国際政治経済学・入門 [第3版] 』(有斐閣、2007年)
細谷千博監修 / 滝田賢治、大芝亮編『国際政治経済　「グローバル・イシュー」の解説と資料』(有信堂、2011年)
○関下稔『国際政治経済学要論 : 学際知の挑戦』(晃洋書房、2010年)
○山田高敬、大矢根聡 [編] 『グローバル社会の国際関係論』 [新版] (有斐閣、2011年)。

その他の文献・論文については授業中に紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

(【】内はキーワード)
1. イントロダクション：　国際政治経済学とは何か
2. 現在の国際政治経済システムの特徴と課題【国家、グローバリゼーション】
3. 国際対立の理論【重商主義、ゼロ・サム】
4. 国際協調の理論①【自由主義、ポジティブ・サム】
5. 国際協調の理論②【相互依存論、国際レジーム論】
6. マルキシズム【従属論、世界システム論】
7. ブレトンウッズ体制の成立と展開【金・ドル本位制、ワシントン・コンセンサス】
8. ブレトンウッズ体制の変容【ニクソンショック、変動相場制、石油危機】
9. 前半のまとめ
10. GATTの成立と変遷【ITO憲章、例外規定、国際協定コード】
11. 保護貿易をめぐる政治と経済【戦略的通商政策、通商法301条】
12. WTO体制の展開【ドーハラウンド、紛争処理、コンセンサス方式】
13. 地域経済協定をめぐる国際政治経済①【FTA、関税同盟、GATT24条】
14. 地域経済協定をめぐる国際政治経済②【広域FTA交渉、原産地規則】
15. 授業のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト：15%　　ミニレポート：20%　期末試験：65%

国際政治経済論I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に参考文献を読んでおくこと。
事後は必ず復習をすること。

履修上の注意　/Remarks

日頃から国際政治経済関係に関する出来事について関心を持ち、日々新聞を読む習慣を身につけておくこと。
経済学に関する授業を1、2年次に履修し、その内容を理解しておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

国際政治経済論II 【昼】

担当者名 /Instructor　阿部　容子 / ABE YOKO / 国際関係学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際政治経済の理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際政治経済に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際政治経済論Ⅱ	IRL311M

授業の概要　/Course Description

「国際政治経済論I」に引き続き国際政治経済の主要な理論について学び、それぞれの理論における異なる世界観、国際問題のとらえ方、問題の位置付けを整理し、理解を深めることを目的としています。
政治と経済が複雑に関連しあっている国際政治経済の諸問題、特に多国籍企業やNGOの活動、地球環境問題、グローゼーションと貧困問題などの学習を通じて、政治（国家）と経済（市場）の相互作用についての理解を深めます。

教科書　/Textbooks

テキストは使用せず、プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○野林健・大芝亮・納谷政嗣・長尾悟『国際政治経済学・入門［第3版］』（有斐閣、2007年）
東京経済大学国際経済グループ著『私たちの国際経済』［第3版］（有斐閣ブックス、2013年）
細谷千博監修 / 滝田賢治、大芝亮編『国際政治経済　「グローバル・イシュー」の解説と資料』（有信堂、2011年）
○関下稔『国際政治経済学要論』（晃洋書房、2010年）。
○田中明彦、中西寛［編］『新・国際政治経済の基礎知識』［新版］（有斐閣、2010年）。

その他の文献・論文については授業中に紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

（【】内はキーワード）
1. イントロダクション：ポスト冷戦期の国際政治経済
2. ネオ・リアリズム【覇権安定論、パワー概念】
3. ネオ・リベラリズム【国際レジーム論、囚人のジレンマ】
4. 多国籍企業の発展とグローバルな生産【直接投資、企業誘致】
5. 科学技術と政治経済【テクノ・ナショナリズム、IT革命】
6. グローバリゼーションと知的財産権【TRIPs協定、医薬品特許】
7. ヒトの移動をめぐる国際政治経済【移民政策、移民送金】
8. 前半の総括
9. 資本規制・自由化の政治経済【協調的資本規制、包括的為替管理、「金融化」】
10. 通貨・金融危機の政治経済【中南米、アジア、IMF】
11. 貧困国の累積債務問題【債務危機、構造調整プログラム】
12. 地域統合（１）：北米【地域統合の理論、NAFTA、米国のFTA戦略】
13. 地域統合（２）：アジア【ASEAN、APEC】
14. グローバリゼーションの進展と多国籍企業の社会的責任【外部不経済、BOPビジネス】
15. 講義のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト：15%　ミニレポート：20%　期末試験：65%

国際政治経済論II 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に参考文献を読んでおくこと。
授業後は必ず復習すること。

履修上の注意　/Remarks

日頃から国際政治経済関係に関する出来事について関心を持ち、新聞を読む習慣を身につけておくこと。
経済学に関する授業を1、2年次に履修し、その内容を理解しておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

国際法I 【昼】

担当者名 /Instructor　二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法 I	LAW250M

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際法を一つのシステムとして捉え、国際法とは何か【法源論】【法の性質】、それはどのように形成され【法の定立】、実際に運用されていくのか【法の実施・履行】、【法の適用・解釈】、違反した場合どうなるのか【国際責任】、紛争はどのように処理されるのか【紛争解決】などの問題を取り扱っていきます。

教科書 /Textbooks

横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣・2010） 2800円+税
位田隆一ほか編『コンサイス条約集（第2版）』（三省堂，2015年） 1500円＋税
学習支援フォルダーにある講義レジュメ等は、各自、印刷して授業に持ってくるようにしてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　コースガイダンス

第I部「国際社会における法律作り，国内社会における国際法」
第２回　条約の締結
第３回　条約への留保
第４回　条約の国内的効力と国内適用
第５回　まとめ

第II部「特別法と一般法」
第６回　条約と第三国
第７回　慣習国際法の成立
第８回　慣習国際法の法典化
第９回　条約の無効
第10回　まとめ

第III部「国際社会における秩序の維持」
第11回　国際責任
第12回　紛争の平和的解決義務と武力行使の禁止
第13回　自衛権
第14回　国際司法裁判所(ICJ)
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。
課題①…16.7%　課題②…16.7%　学期末試験…66.6%
なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断します。

国際法I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意　/Remarks

予習、復習を前提とした講義を展開します。
詳細は、北方ムードルの情報で確認してください。
「国際法II」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

４つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国際法の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際法は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード　/Keywords

【国際法の定立】、【国際法の実施・履行】、【国際法の適用・解釈】、【国際責任】、【紛争解決】

国際法II 【昼】

担当者名 /Instructor　二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法Ⅱ	LAW251M

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際社会の基本構成単位としての国家が有する「主権」に注目し、国際法上、国家とは何か【国家の要件】【承認】、国家にはどのような権利が認められ、義務が課されるのか【国家の基本的権利・義務】、それはどのように行使され、どこまで認められるのか【領域】【個人】【管轄権の競合と調整】【国際法によるコントロール】などを取り扱います。

教科書 /Textbooks

横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣・2010）　2800円+税
位田隆一ほか編『コンサイス条約集（第2版）』（三省堂，2015年）　1500円＋税
学習支援フォルダーにある講義レジュメ等は、各自、印刷して授業に持ってくるようにしてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　コースガイダンス

第I部「国際法上の国家」
　第２回　国家と承認制度：国家承認・政府承認
　第３回　国家の基本的権利
　第４回　国家の基本的義務
　第５回　まとめ

第II部「国際法主体としての個人」
　第６回　人権の国際的保障：枠組み・基準設定
　第７回　人権の国際的保障：監視・技術支援
　第８回　国際犯罪
　第９回　国際刑事裁判所(ICC)
　第10回　まとめ

第III部「陸・海・空と国際法」
　第11回　陸と国際法：領土取得の権原・領域主権
　第12回　海と国際法：海上交通
　第13回　海と国際法：海洋資源
　第14回　空と国際法
　第15回　まとめ

国際法II 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。
　　課題①…16.7%　課題②…16.7%　学期末試験…66.6%
なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況なども加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意　/Remarks

予習、復習を前提とした講義を展開します。
詳細は北方ムードルの情報で確認してください。
「国際法I」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

５つの願いがあります。国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国家システム(state system ）の現状と課題を把握してほしい。国際社会における主権国家の機能･役割を正しく理解してほしい。そして国益、共通利益、国際社会の公益について、積極的に考えてほしい。

キーワード　/Keywords

【国家の要件】【承認】【国家の基本的権利･ 義務】【領域】【個人】【管轄権の競合と調整】【国際法によるコントロール】

政策過程論 【昼】

担当者名 /Instructor　申　東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政策と政策過程の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策現象とその課題を見極め、政策論的な分析と論理的な思考に基づき、新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策問題に対する自らの関心を高め、日頃の市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策過程論	PLC212M

授業の概要　/Course Description

政策現象に関する理解と政策知識の取得

①政策学の範囲とその目的、公私の問題、政策と社会(Social Dilemma・ Free Rider)
②政策の分類（Lowiによる分類)・ 政策の便益と費用（J.Q.Wilson)について知ってもらう。

政策過程に関する専門知識の取得：

①政策の決定（Elite論・ 多元主義論とIssue Network・ 制度論と合理的決定：Path dependence・ Idea・ Game theory etc.・ ゴミ箱決定Garbage Can Model、無意思決定Non-Decision Making, Agenda-Setting, Joining of Issues & Streams、政策の窓 [Policy Window]) や政策実施・ 調整 (Policy Learning &Changes)、そして政策終了・ 評価について学習する。

②政策過程におけるアクターの参加（首相・ 内閣・ 官僚・ 国会・ 首長・ 専門家組織・ 世論とメディア・ 裁判・ NPO・ 国際機構）とその構造（補助金・ Rent-Seekingのような利益誘導型政治・ 首相の Leadership、集権的政策決定システム・ 官僚[Downs・ Niskannenの官僚利益追求論・ 政府間関係]）について理解してもらう。

教科書　/Textbooks

『政策過程論』（早川純一外著 学陽書房 2004年 ￥ 2,730 ）
『公共政策学の基礎　新版』（秋吉貴雄・ 伊藤修一郎・ 北山俊哉著 有斐閣ブックス 2015年 ￥ 2,730 ）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『現代日本の政策過程』（中野実著 東京大学出版会 1992年 ￥2,940 ）
○『政治過程論』（伊藤光利・ 真渕勝・ 田中愛治著 有斐閣 2000年 ￥2,625 ）
○『日本政治の政策過程』（中村昭雄著 芦書房 2011年 ￥3,568 ）
『政策過程分析入門 第2版』（草野厚著 東京大学出版会 2012年 ￥2,625 ）

政策過程論 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　授業や本の紹介など
２回 政策の対象、政策の必要性、政策と社会(Social Dilemma・Free Rider)、費用と利益、政策の類型など
３回　政策参加者、政策資源（事例：川辺川ダムの決定を巡る各アクターの利害関係、DVD）
４回　政策過程の理論１　（政策過程論・Elite論・多元主義論とIssue Network・
制度論と合理的決定 Path dependence・Idea・Game theory etc.）
５回　政策過程と事例分析１　（新聞、インターネットで検索した事例分析）
６回　政策過程の理論２　（アジェンダ形成・ゴミ箱決定Garbage Can Model・政策の窓）
７回　政策過程の理論３　（無意思決定論、相互浸透理論など）
８回　政策過程と事例分析２　（新聞、インターネットで検索した事例分析）
９回　政策事例のポスター発表I
１０回　政策実施、政策調整（実施過程の政策変数、官僚と国会、集権的政策システム・
Top-Down Approach ＆ Street Bureaucracy Approach）
１１回　政府間関係と自治体の政策（政府間関係、利益誘導政治、地方の変革・事例：名古屋市）
１２回　本のレポート発表
１３回　政策終了・政策評価と市民参加
１４回　政策事例を選び、政策過程の分析
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

本のレポート 20%、　ポスター 30%　期末試験 50%
（本のレポート発表・ポスター発表をしない学生は期末試験を受けることができない）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前課題・事後学習内容については学習支援フォルダに挙げるので、準備すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

公共政策、政策問題、政策の決定､実施、政策調整、終了、
利益・価値、制度、アクター、選択、メディアの役割、ガバナンス、市民社会、
ネットワーク。

英文法・英作文A 【昼】

担当者名 /Instructor　園迫　雅彦 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で自らの意見を表現するために必要な英語力を身に付ける。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英文法・英作文A	ENG161M

授業の概要　/Course Description

これまでに培った基礎的な英語の文法・構文の知識を深めながら、英文パラグラフの書き方の基礎を学ぶ。身近なトピックからグローバルな話題まで様々な題材について自らの意見を英語で明快に説得力をもって書くスキルの習得を目標とする。

教科書　/Textbooks

Longman Academic Writing Series 3
Alice Oshiima and Ann Hogue 著（Pearson Education, 2016年）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○English Grammar in Use: A Self-Study Reference and Practice Book for Intermediate Learners of English
Raymond Murphy 著（Cambridge UP, 2012年）
○Grammar in Use Intermediate: A Self-Study Reference and Practice for Students of North American English
Raymond Murphy 著, William R. Smalzer 執筆協力（Cambridge UP, 2009年）
○『マーフィーのケンブリッジ英文法： 中級編』
Raymond Murphy 著, William R. Smalzer 執筆協力, 渡辺雅仁 訳（Cambridge UP, 2017年）

英文法・英作文A 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス（テキスト、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明）

第2回　Chapter 1: Academic Paragraphs (1)
英文ライティングの基本について学ぶ

第3回　Chapter 1: Academic Paragraphs (2)
英文ライティングの修正・訂正の基本について学ぶ

第4回　Chapter 2: Narrative Paragraphs (1)
物事を時間の流れに沿って説明するパラグラフの書き方を学ぶ

第5回　Chapter 2: Narrative Paragraphs (2)
時間的順序に沿って説明するパラグラフを書く

第6回　Chapter 3: Basic Paragraph Structure (1)
パラグラフの基本を学ぶ：主題文、支持文、結論文の書き方を学ぶ

第7回　Chapter 3: Basic Paragraph Structure (2)
アウトラインの書き方を学ぶ

第8回　Chapter 3: Basic Paragraph Structure (3)
アウトラインに従ってパラグラフを書く

第9回　Chapter 4: Logical Division of Ideas (1)
論理展開の方法を学ぶ

第10回　Chapter 4: Logical Division of Ideas (2)
一貫性のあるパラグラフを書くための語句や表現方法を学ぶ

第11回　Chapter 4: Logical Division of Ideas (2)
論理的なパラグラフを書く

第12回　Chapter 5: Process Paragraphs (1)
過程や手順を説明するパラグラフの書き方を学ぶ

第13回　Chapter 5: Process Paragraphs (2)
過程や手順を説明するための語句や表現方法を学ぶ

第14回　Chapter 5: Process Paragraphs (3)
過程や手順を説明するパラグラフを書く

第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

原則として、　平常の学習状況（小テストや課題提出含む）　60%、　期末試験　40%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること
また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと

履修上の注意　/Remarks

教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること
フラッシュメモリを持参すること

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

英文法や英語構文、語彙の運用力向上を目指して、日頃から継続的な学習を行っていただきたい。

キーワード　/Keywords

パラグラフ・ライティング

英文法・英作文A 【昼】

担当者名 /Instructor　吉田　禎子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で自らの意見を表現するために必要な英語力を身に付ける。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英文法・英作文A	ENG161M

授業の概要　/Course Description

これまでに培った基礎的な英語の文法・構文の知識を深めながら、英文パラグラフの書き方の基礎を学ぶ。身近なトピックからグローバルな話題まで様々な題材について自らの意見を英語で明快に説得力をもって書くスキルの習得を目標とする。

教科書　/Textbooks

Longman Academic Writing Series 3
Alice Oshiima and Ann Hogue 著（Pearson Education, 2016年）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○English Grammar in Use: A Self-Study Reference and Practice Book for Intermediate Learners of English
Raymond Murphy 著（Cambridge UP, 2012年）
○Grammar in Use Intermediate: A Self-Study Reference and Practice for Students of North American English
Raymond Murphy 著, William R. Smalzer 執筆協力（Cambridge UP, 2009年）
○『マーフィーのケンブリッジ英文法： 中級編』
Raymond Murphy 著, William R. Smalzer 執筆協力, 渡辺雅仁 訳（Cambridge UP, 2017年）

英文法・英作文A 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス（テキスト、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明）

第2回　Chapter 1: Academic Paragraphs (1)
英文ライティングの基本について学ぶ

第3回　Chapter 1: Academic Paragraphs (2)
英文ライティングの修正・訂正の基本について学ぶ

第4回　Chapter 2: Narrative Paragraphs (1)
物事を時間の流れに沿って説明するパラグラフの書き方を学ぶ

第5回　Chapter 2: Narrative Paragraphs (2)
時間的順序に沿って説明するパラグラフを書く

第6回　Chapter 3: Basic Paragraph Structure (1)
パラグラフの基本を学ぶ：主題文、支持文、結論文の書き方を学ぶ

第7回　Chapter 3: Basic Paragraph Structure (2)
アウトラインの書き方を学ぶ

第8回　Chapter 3: Basic Paragraph Structure (3)
アウトラインに従ってパラグラフを書く

第9回　Chapter 4: Logical Division of Ideas (1)
論理展開の方法を学ぶ

第10回　Chapter 4: Logical Division of Ideas (2)
一貫性のあるパラグラフを書くための語句や表現方法を学ぶ

第11回　Chapter 4: Logical Division of Ideas (2)
論理的なパラグラフを書く

第12回　Chapter 5: Process Paragraphs (1)
過程や手順を説明するパラグラフの書き方を学ぶ

第13回　Chapter 5: Process Paragraphs (2)
過程や手順を説明するための語句や表現方法を学ぶ

第14回　Chapter 5: Process Paragraphs (3)
過程や手順を説明するパラグラフを書く

第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

原則として、　平常の学習状況（小テストや課題提出含む）　60%、　期末試験　40%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること
また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと

履修上の注意　/Remarks

教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること
フラッシュメモリを持参すること

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

英文法や英語構文、語彙の運用力向上を目指して、日頃から継続的な学習を行っていただきたい。

キーワード　/Keywords

パラグラフ・ライティング

英文法・英作文A 【昼】

担当者名 /Instructor　冨永　美喜 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で自らの意見を表現するために必要な英語力を身に付ける。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英文法・英作文A	ENG161M

授業の概要　/Course Description

これまでに培った基礎的な英語の文法・構文の知識を深めながら、英文パラグラフの書き方の基礎を学ぶ。身近なトピックからグローバルな話題まで様々な題材について自らの意見を英語で明快に説得力をもって書くスキルの習得を目標とする。

教科書　/Textbooks

Longman Academic Writing Series 3
Alice Oshiima and Ann Hogue 著（Pearson Education, 2016年）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○English Grammar in Use: A Self-Study Reference and Practice Book for Intermediate Learners of English
Raymond Murphy 著（Cambridge UP, 2012年）
○Grammar in Use Intermediate: A Self-Study Reference and Practice for Students of North American English
Raymond Murphy 著, William R. Smalzer 執筆協力（Cambridge UP, 2009年）
○『マーフィーのケンブリッジ英文法： 中級編』
Raymond Murphy 著, William R. Smalzer 執筆協力, 渡辺雅仁 訳（Cambridge UP, 2017年）

英文法・英作文A 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス（テキスト、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明）

第2回　Chapter 1: Academic Paragraphs (1)
英文ライティングの基本について学ぶ

第3回　Chapter 1: Academic Paragraphs (2)
英文ライティングの修正・訂正の基本について学ぶ

第4回　Chapter 2: Narrative Paragraphs (1)
物事を時間の流れに沿って説明するパラグラフの書き方を学ぶ

第5回　Chapter 2: Narrative Paragraphs (2)
時間的順序に沿って説明するパラグラフを書く

第6回　Chapter 3: Basic Paragraph Structure (1)
パラグラフの基本を学ぶ：主題文、支持文、結論文の書き方を学ぶ

第7回　Chapter 3: Basic Paragraph Structure (2)
アウトラインの書き方を学ぶ

第8回　Chapter 3: Basic Paragraph Structure (3)
アウトラインに従ってパラグラフを書く

第9回　Chapter 4: Logical Division of Ideas (1)
論理展開の方法を学ぶ

第10回　Chapter 4: Logical Division of Ideas (2)
一貫性のあるパラグラフを書くための語句や表現方法を学ぶ

第11回　Chapter 4: Logical Division of Ideas (2)
論理的なパラグラフを書く

第12回　Chapter 5: Process Paragraphs (1)
過程や手順を説明するパラグラフの書き方を学ぶ

第13回　Chapter 5: Process Paragraphs (2)
過程や手順を説明するための語句や表現方法を学ぶ

第14回　Chapter 5: Process Paragraphs (3)
過程や手順を説明するパラグラフを書く

第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

原則として、　平常の学習状況（小テストや課題提出含む）　60%、　期末試験　40%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること
また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと

履修上の注意　/Remarks

教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること
フラッシュメモリを持参すること

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

英文法や英語構文、語彙の運用力向上を目指して、日頃から継続的な学習を行っていただきたい。

キーワード　/Keywords

パラグラフ・ライティング

英文法・英作文A 【昼】

担当者名 /Instructor　齊藤　園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　1 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で自らの意見を表現するために必要な英語力を身に付ける。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英文法・英作文A	ENG161M

授業の概要　/Course Description

これまでに培った基礎的な英語の文法・構文の知識を深めながら、英文パラグラフの書き方の基礎を学ぶ。身近なトピックからグローバルな話題まで様々な題材について自らの意見を英語で明快に説得力をもって書くスキルの習得を目標とする。

教科書　/Textbooks

Longman Academic Writing Series 3
Alice Oshiima and Ann Hogue 著（Pearson Education, 2016年）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○English Grammar in Use: A Self-Study Reference and Practice Book for Intermediate Learners of English
Raymond Murphy 著（Cambridge UP, 2012年）
○Grammar in Use Intermediate: A Self-Study Reference and Practice for Students of North American English
Raymond Murphy 著, William R. Smalzer 執筆協力（Cambridge UP, 2009年）
○『マーフィーのケンブリッジ英文法： 中級編』
Raymond Murphy 著, William R. Smalzer 執筆協力, 渡辺雅仁 訳（Cambridge UP, 2017年）

英文法・英作文A 【昼】

専門教育科目
外国語科目
英語必修

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス（テキスト、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明）

第2回　Chapter 1: Academic Paragraphs (1)
英文ライティングの基本について学ぶ

第3回　Chapter 1: Academic Paragraphs (2)
英文ライティングの修正・訂正の基本について学ぶ

第4回　Chapter 2: Narrative Paragraphs (1)
物事を時間の流れに沿って説明するパラグラフの書き方を学ぶ

第5回　Chapter 2: Narrative Paragraphs (2)
時間的順序に沿って説明するパラグラフを書く

第6回　Chapter 3: Basic Paragraph Structure (1)
パラグラフの基本を学ぶ：主題文、支持文、結論文の書き方を学ぶ

第7回　Chapter 3: Basic Paragraph Structure (2)
アウトラインの書き方を学ぶ

第8回　Chapter 3: Basic Paragraph Structure (3)
アウトラインに従ってパラグラフを書く

第9回　Chapter 4: Logical Division of Ideas (1)
論理展開の方法を学ぶ

第10回　Chapter 4: Logical Division of Ideas (2)
一貫性のあるパラグラフを書くための語句や表現方法を学ぶ

第11回　Chapter 4: Logical Division of Ideas (2)
論理的なパラグラフを書く

第12回　Chapter 5: Process Paragraphs (1)
過程や手順を説明するパラグラフの書き方を学ぶ

第13回　Chapter 5: Process Paragraphs (2)
過程や手順を説明するための語句や表現方法を学ぶ

第14回　Chapter 5: Process Paragraphs (3)
過程や手順を説明するパラグラフを書く

第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

原則として、　平常の学習状況（小テストや課題提出含む）　60%、　期末試験　40%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること
また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと

履修上の注意　/Remarks

教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること
フラッシュメモリを持参すること

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

英文法や英語構文、語彙の運用力向上を目指して、日頃から継続的な学習を行っていただきたい。

キーワード　/Keywords

パラグラフ・ライティング

英文法・英作文B 【昼】

専門教育科目
外国語科目
英語必修

担当者名 /Instructor　團迫　雅彦 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で自らの意見を表現するために必要な英語力を身に付ける。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英文法・英作文B	ENG162M

授業の概要　/Course Description

これまでに培った英語の文法・構文の知識をさらに深めながら英文ライティングのスキルを伸ばすことを目指す。様々なタイプの英文パラグラフの書き方を学んだ後に、パラグラフ・ライティングの書き方を発展させて、英文エッセイの書き方を学ぶ。読み手にわかりやすく論理的かつ客観的なアカデミックな文章を書くのに不可欠なポイントを実践を通じて学習する。

教科書　/Textbooks

Longman Academic Writing Series 3
Alice Oshiima and Ann Hogue著（Pearson Education, 2016年）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○English Grammar in Use: A Self-Study Reference and Practice Book for Intermediate Learners of English
Raymond Murphy 著（Cambridge UP, 2012年）
○Grammar in Use Intermediate: A Self-Study Reference and Practice for Students of North American English
Raymond Murphy 著, William R. Smalzer 執筆協力（Cambridge UP, 2009年）
○『マーフィーのケンブリッジ英文法： 中級編』
Raymond Murphy 著, William R. Smalzer 執筆協力, 渡辺雅仁 訳（Cambridge UP, 2017年）

英文法・英作文B 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス（テキスト、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明）
Chapter 6: Definition Paragraphs (1)
定義のパラグラフの書き方を学ぶ

第2回　Chapter 6: Definition Paragraphs (2)
定義のパラグラフに使われる語句や表現方法を学ぶ

第3回　Chapter 6: Definition Paragraphs (3)
定義のパラグラフを書く

第4回　Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs (1)
原因・結果を示すパラグラフの書き方を学ぶ

第5回　Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs (2)
原因・結果を示すパラグラフを書く

第6回　Chapter 8: Comparison / Contrast Paragraphs (1)
比較・対照のパラグラフの書き方を学ぶ

第7回　Chapter 8: Comparison / Contrast Paragraphs (2)
比較・対照のパラグラフを書く

第8回　Chapter 6, Chapter 7, Chapter 8の復習

第9回　Chapter 9: Essay Organization (1)
英文エッセイ・ライティングの基本を学ぶ

第10回　Chapter 9: Essay Organization (2)
英文エッセイのアウトラインの書き方を学ぶ

第11回　Chapter 10: Opinion Essays (1)
意見を述べるエッセイの書き方を学ぶ

第12回　Chapter 10: Opinion Essays (2)
論旨文について学ぶ

第13回　Chapter 10: Opinion Essays (3)
意見を述べるエッセイを書く

第14回　Chapter 10: Opinion Essays (4)
意見を述べるエッセイの修正・訂正を行う

第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

原則として、　平常の学習状況（小テストや課題提出含む）　60%、　期末試験　40%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること
また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと

履修上の注意　/Remarks

教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること
フラッシュメモリを持参すること

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

英文法や構文、語彙の運用力向上を目指して、日頃から継続的な学習を行っていただきたい。

キーワード　/Keywords

パラグラフ・ライティング、エッセイ・ライティング

英文法・英作文B 【昼】

専門教育科目
外国語科目
英語必修

担当者名 /Instructor　吉田　禎子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で自らの意見を表現するために必要な英語力を身に付ける。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英文法・英作文B	ENG162M

授業の概要　/Course Description

これまでに培った英語の文法・構文の知識をさらに深めながら英文ライティングのスキルを伸ばすことを目指す。様々なタイプの英文パラグラフの書き方を学んだ後に、パラグラフ・ライティングの書き方を発展させて、英文エッセイの書き方を学ぶ。読み手にわかりやすく論理的かつ客観的なアカデミックな文章を書くのに不可欠なポイントを実践を通じて学習する。

教科書　/Textbooks

Longman Academic Writing Series 3
Alice Oshiima and Ann Hogue著（Pearson Education, 2016年）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○English Grammar in Use: A Self-Study Reference and Practice Book for Intermediate Learners of English
Raymond Murphy 著（Cambridge UP, 2012年）
○Grammar in Use Intermediate: A Self-Study Reference and Practice for Students of North American English
Raymond Murphy 著, William R. Smalzer 執筆協力（Cambridge UP, 2009年）
○『マーフィーのケンブリッジ英文法： 中級編』
Raymond Murphy 著, William R. Smalzer 執筆協力, 渡辺雅仁 訳（Cambridge UP, 2017年）

英文法・英作文B 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス（テキスト、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明）
Chapter 6: Definition Paragraphs (1)
定義のパラグラフの書き方を学ぶ

第2回　Chapter 6: Definition Paragraphs (2)
定義のパラグラフに使われる語句や表現方法を学ぶ

第3回　Chapter 6: Definition Paragraphs (3)
定義のパラグラフを書く

第4回　Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs (1)
原因・結果を示すパラグラフの書き方を学ぶ

第5回　Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs (2)
原因・結果を示すパラグラフを書く

第6回　Chapter 8: Comparison / Contrast Paragraphs (1)
比較・対照のパラグラフの書き方を学ぶ

第7回　Chapter 8: Comparison / Contrast Paragraphs (2)
比較・対照のパラグラフを書く

第8回　Chapter 6, Chapter 7, Chapter 8の復習

第9回　Chapter 9: Essay Organization (1)
英文エッセイ・ライティングの基本を学ぶ

第10回　Chapter 9: Essay Organization (2)
英文エッセイのアウトラインの書き方を学ぶ

第11回　Chapter 10: Opinion Essays (1)
意見を述べるエッセイの書き方を学ぶ

第12回　Chapter 10: Opinion Essays (2)
論旨文について学ぶ

第13回　Chapter 10: Opinion Essays (3)
意見を述べるエッセイを書く

第14回　Chapter 10: Opinion Essays (4)
意見を述べるエッセイの修正・訂正を行う

第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

原則として、　平常の学習状況（小テストや課題提出含む）　60%、　期末試験　40%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること
また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと

履修上の注意　/Remarks

教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること
フラッシュメモリを持参すること

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

英文法や構文、語彙の運用力向上を目指して、日頃から継続的な学習を行っていただきたい。

キーワード　/Keywords

パラグラフ・ライティング、エッセイ・ライティング

英文法・英作文B 【昼】

担当者名 /Instructor　冨永　美喜 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で自らの意見を表現するために必要な英語力を身に付ける。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英文法・英作文B	ENG162M

授業の概要　/Course Description

これまでに培った英語の文法・構文の知識をさらに深めながら英文ライティングのスキルを伸ばすことを目指す。様々なタイプの英文パラグラフの書き方を学んだ後に、パラグラフ・ライティングの書き方を発展させて、英文エッセイの書き方を学ぶ。読み手にわかりやすく論理的かつ客観的なアカデミックな文章を書くのに不可欠なポイントを実践を通じて学習する。

教科書　/Textbooks

Longman Academic Writing Series 3
Alice Oshiima and Ann Hogue著（Pearson Education, 2016年）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○English Grammar in Use: A Self-Study Reference and Practice Book for Intermediate Learners of English
Raymond Murphy 著（Cambridge UP, 2012年）
○Grammar in Use Intermediate: A Self-Study Reference and Practice for Students of North American English
Raymond Murphy 著, William R. Smalzer 執筆協力（Cambridge UP, 2009年）
○『マーフィーのケンブリッジ英文法： 中級編』
Raymond Murphy 著, William R. Smalzer 執筆協力, 渡辺雅仁 訳（Cambridge UP, 2017年）

英文法・英作文B 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス（テキスト、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明）
Chapter 6: Definition Paragraphs (1)
定義のパラグラフの書き方を学ぶ

第2回　Chapter 6: Definition Paragraphs (2)
定義のパラグラフに使われる語句や表現方法を学ぶ

第3回　Chapter 6: Definition Paragraphs (3)
定義のパラグラフを書く

第4回　Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs (1)
原因・結果を示すパラグラフの書き方を学ぶ

第5回　Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs (2)
原因・結果を示すパラグラフを書く

第6回　Chapter 8: Comparison / Contrast Paragraphs (1)
比較・対照のパラグラフの書き方を学ぶ

第7回　Chapter 8: Comparison / Contrast Paragraphs (2)
比較・対照のパラグラフを書く

第8回　Chapter 6, Chapter 7, Chapter 8の復習

第9回　Chapter 9: Essay Organization (1)
英文エッセイ・ライティングの基本を学ぶ

第10回　Chapter 9: Essay Organization (2)
英文エッセイのアウトラインの書き方を学ぶ

第11回　Chapter 10: Opinion Essays (1)
意見を述べるエッセイの書き方を学ぶ

第12回　Chapter 10: Opinion Essays (2)
論旨文について学ぶ

第13回　Chapter 10: Opinion Essays (3)
意見を述べるエッセイを書く

第14回　Chapter 10: Opinion Essays (4)
意見を述べるエッセイの修正・訂正を行う

第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

原則として、　平常の学習状況（小テストや課題提出含む）　60%、　期末試験　40%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること
また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと

履修上の注意　/Remarks

教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること
フラッシュメモリを持参すること

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

英文法や構文、語彙の運用力向上を目指して、日頃から継続的な学習を行っていただきたい。

キーワード　/Keywords

パラグラフ・ライティング、エッセイ・ライティング

英文法・英作文B 【昼】

担当者名 /Instructor　齊藤　園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　1 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で自らの意見を表現するために必要な英語力を身に付ける。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英文法・英作文B	ENG162M

授業の概要　/Course Description

これまでに培った英語の文法・構文の知識をさらに深めながら英文ライティングのスキルを伸ばすことを目指す。様々なタイプの英文パラグラフの書き方を学んだ後に、パラグラフ・ライティングの書き方を発展させて、英文エッセイの書き方を学ぶ。読み手にわかりやすく論理的かつ客観的なアカデミックな文章を書くのに不可欠なポイントを実践を通じて学習する。

教科書　/Textbooks

Longman Academic Writing Series 3
Alice Oshiima and Ann Hogue著（Pearson Education, 2016年）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○English Grammar in Use: A Self-Study Reference and Practice Book for Intermediate Learners of English
Raymond Murphy 著（Cambridge UP, 2012年）
○Grammar in Use Intermediate: A Self-Study Reference and Practice for Students of North American English
Raymond Murphy 著, William R. Smalzer 執筆協力（Cambridge UP, 2009年）
○『マーフィーのケンブリッジ英文法： 中級編』
Raymond Murphy 著, William R. Smalzer 執筆協力, 渡辺雅仁 訳（Cambridge UP, 2017年）

英文法・英作文B 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス（テキスト、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明）
Chapter 6: Definition Paragraphs (1)
定義のパラグラフの書き方を学ぶ

第2回　Chapter 6: Definition Paragraphs (2)
定義のパラグラフに使われる語句や表現方法を学ぶ

第3回　Chapter 6: Definition Paragraphs (3)
定義のパラグラフを書く

第4回　Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs (1)
原因・結果を示すパラグラフの書き方を学ぶ

第5回　Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs (2)
原因・結果を示すパラグラフを書く

第6回　Chapter 8: Comparison / Contrast Paragraphs (1)
比較・対照のパラグラフの書き方を学ぶ

第7回　Chapter 8: Comparison / Contrast Paragraphs (2)
比較・対照のパラグラフを書く

第8回　Chapter 6, Chapter 7, Chapter 8の復習

第9回　Chapter 9: Essay Organization (1)
英文エッセイ・ライティングの基本を学ぶ

第10回　Chapter 9: Essay Organization (2)
英文エッセイのアウトラインの書き方を学ぶ

第11回　Chapter 10: Opinion Essays (1)
意見を述べるエッセイの書き方を学ぶ

第12回　Chapter 10: Opinion Essays (2)
論旨文について学ぶ

第13回　Chapter 10: Opinion Essays (3)
意見を述べるエッセイを書く

第14回　Chapter 10: Opinion Essays (4)
意見を述べるエッセイの修正・訂正を行う

第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

原則として、　平常の学習状況（小テストや課題提出含む）　60%、　期末試験　40%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること
また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと

履修上の注意　/Remarks

教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること
フラッシュメモリを持参すること

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

英文法や構文、語彙の運用力向上を目指して、日頃から継続的な学習を行っていただきたい。

キーワード　/Keywords

パラグラフ・ライティング、エッセイ・ライティング

English Practicum1A 【昼】

担当者名 /Instructor　アンデリュー・ジッツマン / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的な会話を行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという目的意識を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら他者とコミュニケーションをとることができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum1A	ENG101M

授業の概要　/Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course aims to improve English ability with the use of the four skills, as well as introducing some critical thinking skills. Materials using topics from around the globe will challenge the students and broaden their views of the world around us.

教科書　/Textbooks

Pathways 2: Listening, Speaking, and Critical Thinking, second edition / Cengage Learning, 2018.
Becky Traver Chase

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

dictionary

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Week 1　Course Introduction: Meeting People.
Week 2　Unit 1: Health habits; predicting content
Week 3　Unit 1: keeping conversations going
Week 4　Unit 2: Technology
Week 5　Unit 2: identifying details
Week 6　Unit 2: giving reasons ; synthesizing information
Week 7　Unit 3: Culture and Tradition
Week 8　Unit 3: asking for and giving clarification
Week 9　Unit 3: use of prior knowledge
Week 10　Unit 4: Water
Week 11　Unit 4: expressing opinions
Week 12　Unit 4: prioritizing
Week 13　Unit 5: The Brain
Week 14　Unit 5: making suggestions
Week 15　Review

成績評価の方法　/Assessment Method

Class work 20%,　Presentations 30%
Assignments 20%,　Final Examination 30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

English Practicum1A 【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

English Practicum1A 【昼】

担当者名 /Instructor　アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的な会話を行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという目的意識を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら他者とコミュニケーションをとることができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum1A	ENG101M

授業の概要　/Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course aims to improve English ability with the use of the four skills, as well as introducing some critical thinking skills. Materials using topics from around the globe will challenge the students and broaden their views of the world around us.

教科書　/Textbooks

Pathways 2: Listening, Speaking, and Critical Thinking, second edition / Cengage Learning, 2018.
Becky Traver Chase

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

dictionary

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Week 1　Course Introduction: Meeting People.
Week 2　Unit 1: Health habits; predicting content
Week 3　Unit 1: keeping conversations going
Week 4　Unit 2: Technology
Week 5　Unit 2: identifying details
Week 6　Unit 2: giving reasons ; synthesizing information
Week 7　Unit 3: Culture and Tradition
Week 8　Unit 3: asking for and giving clarification
Week 9　Unit 3: use of prior knowledge
Week 10　Unit 4: Water
Week 11　Unit 4: expressing opinions
Week 12　Unit 4: prioritizing
Week 13　Unit 5: The Brain
Week 14　Unit 5: making suggestions
Week 15　Review

成績評価の方法　/Assessment Method

Class work 20%,　Presentations 30%
Assignments 20%,　Final Examination 30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

English Practicum1A 【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

English Practicum1A 【昼】

専門教育科目
外国語科目
英語必修

担当者名 /Instructor　アンデリュー・ジッツマン / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的な会話を行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという目的意識を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら他者とコミュニケーションをとることができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum1A	ENG101M

授業の概要　/Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course aims to improve English ability with the use of the four skills, as well as introducing some critical thinking skills. Materials using topics from around the globe will challenge the students and broaden their views of the world around us.

教科書　/Textbooks

Pathways 2: Listening, Speaking, and Critical Thinking, second edition / Cengage Learning, 2018.
Becky Traver Chase

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

dictionary

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Week 1　Course Introduction: Meeting People.
Week 2　Unit 1: Health habits; predicting content
Week 3　Unit 1: keeping conversations going
Week 4　Unit 2: Technology
Week 5　Unit 2: identifying details
Week 6　Unit 2: giving reasons ; synthesizing information
Week 7　Unit 3: Culture and Tradition
Week 8　Unit 3: asking for and giving clarification
Week 9　Unit 3: use of prior knowledge
Week 10　Unit 4: Water
Week 11　Unit 4: expressing opinions
Week 12　Unit 4: prioritizing
Week 13　Unit 5: The Brain
Week 14　Unit 5: making suggestions
Week 15　Review

成績評価の方法　/Assessment Method

Class work 20%,　Presentations 30%
Assignments 20%,　Final Examination 30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

English Practicum1A 【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

English Practicum1A 【昼】

担当者名 /Instructor　アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　1 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的な会話を行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという目的意識を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら他者とコミュニケーションをとることができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum1A	ENG101M

授業の概要　/Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course aims to improve English ability with the use of the four skills, as well as introducing some critical thinking skills. Materials using topics from around the globe will challenge the students and broaden their views of the world around us.

教科書　/Textbooks

Pathways 2: Listening, Speaking, and Critical Thinking, second edition / Cengage Learning, 2018.
Becky Traver Chase

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

dictionary

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Week 1　Course Introduction: Meeting People.
Week 2　Unit 1: Health habits; predicting content
Week 3　Unit 1: keeping conversations going
Week 4　Unit 2: Technology
Week 5　Unit 2: identifying details
Week 6　Unit 2: giving reasons ; synthesizing information
Week 7　Unit 3: Culture and Tradition
Week 8　Unit 3: asking for and giving clarification
Week 9　Unit 3: use of prior knowledge
Week 10　Unit 4: Water
Week 11　Unit 4: expressing opinions
Week 12　Unit 4: prioritizing
Week 13　Unit 5: The Brain
Week 14　Unit 5: making suggestions
Week 15　Review

成績評価の方法　/Assessment Method

Class work 20%,　Presentations 30%
Assignments 20%,　Final Examination 30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

English Practicum1A 【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

English Practicum1B 【昼】

担当者名 /Instructor　アンデリュー・ジッツマン / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的な会話を行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという目的意識を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら他者とコミュニケーションをとることができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum1B	ENG111M

授業の概要　/Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course aims to improve English ability with the use of the four skills, as well as introducing some critical thinking skills. Materials using topics from around the globe will challenge the students and broaden their views of the world around us.

教科書　/Textbooks

Pathways 2: Listening, Speaking, and Critical Thinking, second edition / Cengage Learning, 2018.
Becky Traver Chase

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

dictionary

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Week 1　Recap of first semester
Week 2　Unit 6: Food
Week 3　Unit 6: evaluating information
Week 4　Unit 7: Our Active Earth
Week 5　Unit 7: using transitions; predicting
Week 6　Unit 8: Wonders from the Past
Week 7　Unit 8: summarizing
Week 8　Unit 8: applying knowledge
Week 9　Unit 9: Species Survival
Week 10　Unit 9: causes and effects
Week 11　Unit 9: personalizing content
Week 12　Unit 10: Entrepreneurs and Innovators
Week 13　Unit 10: rephrasing
Week 14　Unit 10: interpreting data
Week 15　Review

成績評価の方法　/Assessment Method

Class work 20%,　Presentations 30%
Assignments 20%,　Final Examination 30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

English Practicum1B 【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

English Practicum1B 【昼】

担当者名 /Instructor　アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的な会話を行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという目的意識を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら他者とコミュニケーションをとることができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum1B	ENG111M

授業の概要　/Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course aims to improve English ability with the use of the four skills, as well as introducing some critical thinking skills. Materials using topics from around the globe will challenge the students and broaden their views of the world around us.

教科書　/Textbooks

Pathways 2: Listening, Speaking, and Critical Thinking, second edition / Cengage Learning, 2018.
Becky Traver Chase

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

dictionary

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Week 1　Recap of first semester
Week 2　Unit 6: Food
Week 3　Unit 6: evaluating information
Week 4　Unit 7: Our Active Earth
Week 5　Unit 7: using transitions; predicting
Week 6　Unit 8: Wonders from the Past
Week 7　Unit 8: summarizing
Week 8　Unit 8: applying knowledge
Week 9　Unit 9: Species Survival
Week 10　Unit 9: causes and effects
Week 11　Unit 9: personalizing content
Week 12　Unit 10: Entrepreneurs and Innovators
Week 13　Unit 10: rephrasing
Week 14　Unit 10: interpreting data
Week 15　Review

成績評価の方法　/Assessment Method

Class work 20%,　Presentations 30%
Assignments 20%,　Final Examination 30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

English Practicum1B 【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

English Practicum1B 【昼】

担当者名 /Instructor　アンデリュー・ジッツマン / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的な会話を行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという目的意識を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら他者とコミュニケーションをとることができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum1B	ENG111M

授業の概要　/Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course aims to improve English ability with the use of the four skills, as well as introducing some critical thinking skills. Materials using topics from around the globe will challenge the students and broaden their views of the world around us.

教科書　/Textbooks

Pathways 2: Listening, Speaking, and Critical Thinking, second edition / Cengage Learning, 2018.
Becky Traver Chase

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

dictionary

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Week 1　Recap of first semester
Week 2　Unit 6: Food
Week 3　Unit 6: evaluating information
Week 4　Unit 7: Our Active Earth
Week 5　Unit 7: using transitions; predicting
Week 6　Unit 8: Wonders from the Past
Week 7　Unit 8: summarizing
Week 8　Unit 8: applying knowledge
Week 9　Unit 9: Species Survival
Week 10　Unit 9: causes and effects
Week 11　Unit 9: personalizing content
Week 12　Unit 10: Entrepreneurs and Innovators
Week 13　Unit 10: rephrasing
Week 14　Unit 10: interpreting data
Week 15　Review

成績評価の方法　/Assessment Method

Class work 20%,　Presentations 30%
Assignments 20%,　Final Examination 30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

English Practicum1B 【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

English Practicum1B 【昼】

担当者名 /Instructor　アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　1 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的な会話を行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという目的意識を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら他者とコミュニケーションをとることができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum1B	ENG111M

授業の概要　/Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course aims to improve English ability with the use of the four skills, as well as introducing some critical thinking skills. Materials using topics from around the globe will challenge the students and broaden their views of the world around us.

教科書　/Textbooks

Pathways 2: Listening, Speaking, and Critical Thinking, second edition / Cengage Learning, 2018.
Becky Traver Chase

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

dictionary

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Week 1　Recap of first semester
Week 2　Unit 6: Food
Week 3　Unit 6: evaluating information
Week 4　Unit 7: Our Active Earth
Week 5　Unit 7: using transitions; predicting
Week 6　Unit 8: Wonders from the Past
Week 7　Unit 8: summarizing
Week 8　Unit 8: applying knowledge
Week 9　Unit 9: Species Survival
Week 10　Unit 9: causes and effects
Week 11　Unit 9: personalizing content
Week 12　Unit 10: Entrepreneurs and Innovators
Week 13　Unit 10: rephrasing
Week 14　Unit 10: interpreting data
Week 15　Review

成績評価の方法　/Assessment Method

Class work 20%,　Presentations 30%
Assignments 20%,　Final Examination 30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

English Practicum1B 【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語表現法A 【昼】

担当者名 /Instructor　齊藤　園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で意見交換を行うために必要な高度な英語表現力を身に付ける。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際社会における自らの役割を認識し、明確な目的意識と行動する意欲を有する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら対話関係を築くことができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語表現法A	ENG261M

授業の概要 /Course Description

文化、社会、科学技術、環境などに関わるさまざまな問題に目を向け、多角的、論理的に思考して自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベート、ディスカッションを行う技術を磨くことを目指す。

教科書 /Textbooks

Take a Stance: Discussing Today's Controversial Issues 2
Ichizo Ueda 他著 (Cengage Learning K.K., 2018年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　オリエンテーション (テキスト、授業内容、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
第2回　Unit 1: Staying Connected with Friends or Being Exposed to Risks? (1) --- Understanding the Issue
第3回　Unit 1: Staying Connected with Friends or Being Exposed to Risks? (2) --- Discussion and Debate
第4回　Unit 2: Women's Protection or Gender Equality (1) --- Understanding the Issue
第5回　Unit 2: Women's Protection or Gender Equality (2) --- Discussion and Debate
第6回　Unit 3: Eco or Ego? (1) --- Understanding the Issue
第7回　Unit 3: Eco or Ego? (2) --- Discussion and Debate
第8回　Unit 4: A Rewarding Pastime or a Waste of Time --- Discussion and Debate
第9回　Unit 5: Democracy: Its Advantages and Disadvantages (1) --- Understanding the Issue
第10回　Unit 5: Democracy: Its Advantages and Disadvantages (2) --- Discussion and Debate
第11回　Unit 6: Hopes and Fears around Casinos (1) --- Understanding the Issue
第12回　Unit 6: Hopes and Fears around Casinos (2) --- Discussion and Debate
第13回　Unit 7: Should High Schoolers Work Part-Time --- Discussion and Debate
第14回　Unit 8: The Pros and Cons of Globalization (1) --- Understanding the Issue
第15回　Unit 8: The Pros and Cons of Globalization (2) --- Understanding the Issue --- Discussion and Debate

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、　平常の学習状況 (小テスト、課題提出等)　60%、　期末試験　40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること
また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語運用力を磨くとともに、自ら調査や研究を行って、授業で取り上げる話題に取り組んでください。

英語表現法A 【昼】

キーワード　/Keywords
コミュニケーション力、批判的思考力

英語表現法A 【昼】

担当者名 /Instructor　齊藤　園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で意見交換を行うために必要な高度な英語表現力を身に付ける。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際社会における自らの役割を認識し、明確な目的意識と行動する意欲を有する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら対話関係を築くことができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語表現法A	ENG261M

授業の概要 /Course Description

文化、社会、科学技術、環境などに関わるさまざまな問題に目を向け、多角的、論理的に思考して自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベート、ディスカッションを行う技術を磨くことを目指す。

教科書 /Textbooks

Take a Stance: Discussing Today's Controversial Issues 2
Ichizo Ueda 他著 (Cengage Learning K.K., 2018年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　オリエンテーション (テキスト、授業内容、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
第2回　Unit 1: Staying Connected with Friends or Being Exposed to Risks? (1) --- Understanding the Issue
第3回　Unit 1: Staying Connected with Friends or Being Exposed to Risks? (2) --- Discussion and Debate
第4回　Unit 2: Women's Protection or Gender Equality (1) --- Understanding the Issue
第5回　Unit 2: Women's Protection or Gender Equality (2) --- Discussion and Debate
第6回　Unit 3: Eco or Ego? (1) --- Understanding the Issue
第7回　Unit 3: Eco or Ego? (2) --- Discussion and Debate
第8回　Unit 4: A Rewarding Pastime or a Waste of Time --- Discussion and Debate
第9回　Unit 5: Democracy: Its Advantages and Disadvantages (1) --- Understanding the Issue
第10回　Unit 5: Democracy: Its Advantages and Disadvantages (2) --- Discussion and Debate
第11回　Unit 6: Hopes and Fears around Casinos (1) --- Understanding the Issue
第12回　Unit 6: Hopes and Fears around Casinos (2) --- Discussion and Debate
第13回　Unit 7: Should High Schoolers Work Part-Time --- Discussion and Debate
第14回　Unit 8: The Pros and Cons of Globalization (1) --- Understanding the Issue
第15回　Unit 8: The Pros and Cons of Globalization (2) --- Understanding the Issue --- Discussion and Debate

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、　平常の学習状況 (小テスト、課題提出等)　60%、　期末試験　40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること
また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語運用力を磨くとともに、自ら調査や研究を行って、授業で取り上げる話題に取り組んでください。

英語表現法A 【昼】

キーワード　/Keywords
コミュニケーション力、批判的思考力

英語表現法A 【昼】

専門教育科目
外国語科目
英語必修

担当者名 /Instructor　村田　希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で意見交換を行うために必要な高度な英語表現力を身に付ける。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際社会における自らの役割を認識し、明確な目的意識と行動する意欲を有する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら対話関係を築くことができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語表現法A	ENG261M

授業の概要 /Course Description

文化、社会、科学技術、環境などに関わるさまざまな問題に目を向け、多角的、論理的に思考して自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベート、ディスカッションを行う技術を磨くことを目指す。

教科書 /Textbooks

Take a Stance: Discussing Today's Controversial Issues 2
Ichizo Ueda 他著 (Cengage Learning K.K., 2018年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　オリエンテーション (テキスト、授業内容、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
第2回　Unit 1: Staying Connected with Friends or Being Exposed to Risks? (1) --- Understanding the Issue
第3回　Unit 1: Staying Connected with Friends or Being Exposed to Risks? (2) --- Discussion and Debate
第4回　Unit 2: Women's Protection or Gender Equality (1) --- Understanding the Issue
第5回　Unit 2: Women's Protection or Gender Equality (2) --- Discussion and Debate
第6回　Unit 3: Eco or Ego? (1) --- Understanding the Issue
第7回　Unit 3: Eco or Ego? (2) --- Discussion and Debate
第8回　Unit 4: A Rewarding Pastime or a Waste of Time --- Discussion and Debate
第9回　Unit 5: Democracy: Its Advantages and Disadvantages (1) --- Understanding the Issue
第10回　Unit 5: Democracy: Its Advantages and Disadvantages (2) --- Discussion and Debate
第11回　Unit 6: Hopes and Fears around Casinos (1) --- Understanding the Issue
第12回　Unit 6: Hopes and Fears around Casinos (2) --- Discussion and Debate
第13回　Unit 7: Should High Schoolers Work Part-Time --- Discussion and Debate
第14回　Unit 8: The Pros and Cons of Globalization (1) --- Understanding the Issue
第15回　Unit 8: The Pros and Cons of Globalization (2) --- Understanding the Issue --- Discussion and Debate

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、　平常の学習状況 (小テスト、課題提出等)　60%、　期末試験　40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること
また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語運用力を磨くとともに、自ら調査や研究を行って、授業で取り上げる話題に取り組んでください。

英語表現法A 【昼】

キーワード　/Keywords
コミュニケーション力、批判的思考力

英語表現法A 【昼】

専門教育科目
外国語科目
英語必修

担当者名 /Instructor　薬師寺　元子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で意見交換を行うために必要な高度な英語表現力を身に付ける。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際社会における自らの役割を認識し、明確な目的意識と行動する意欲を有する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら対話関係を築くことができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語表現法A	ENG261M

授業の概要 /Course Description

文化、社会、科学技術、環境などに関わるさまざまな問題に目を向け、多角的、論理的に思考して自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベート、ディスカッションを行う技術を磨くことを目指す。

教科書 /Textbooks

Take a Stance: Discussing Today's Controversial Issues 2
Ichizo Ueda 他著 (Cengage Learning K.K., 2018年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　オリエンテーション (テキスト、授業内容、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
第2回　Unit 1: Staying Connected with Friends or Being Exposed to Risks? (1) --- Understanding the Issue
第3回　Unit 1: Staying Connected with Friends or Being Exposed to Risks? (2) --- Discussion and Debate
第4回　Unit 2: Women's Protection or Gender Equality (1) --- Understanding the Issue
第5回　Unit 2: Women's Protection or Gender Equality (2) --- Discussion and Debate
第6回　Unit 3: Eco or Ego? (1) --- Understanding the Issue
第7回　Unit 3: Eco or Ego? (2) --- Discussion and Debate
第8回　Unit 4: A Rewarding Pastime or a Waste of Time --- Discussion and Debate
第9回　Unit 5: Democracy: Its Advantages and Disadvantages (1) --- Understanding the Issue
第10回　Unit 5: Democracy: Its Advantages and Disadvantages (2) --- Discussion and Debate
第11回　Unit 6: Hopes and Fears around Casinos (1) --- Understanding the Issue
第12回　Unit 6: Hopes and Fears around Casinos (2) --- Discussion and Debate
第13回　Unit 7: Should High Schoolers Work Part-Time --- Discussion and Debate
第14回　Unit 8: The Pros and Cons of Globalization (1) --- Understanding the Issue
第15回　Unit 8: The Pros and Cons of Globalization (2) --- Understanding the Issue --- Discussion and Debate

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、　平常の学習状況 (小テスト、課題提出等)　60%、　期末試験　40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること
また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語運用力を磨くとともに、自ら調査や研究を行って、授業で取り上げる話題に取り組んでください。

英語表現法A 【昼】

キーワード　/Keywords
コミュニケーション力、批判的思考力

英語表現法B 【昼】

担当者名 /Instructor　齊藤　園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で意見交換を行うために必要な高度な英語表現力を身に付ける。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際社会における自らの役割を認識し、明確な目的意識と行動する意欲を有する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら対話関係を築くことができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語表現法B	ENG262M

授業の概要 /Course Description

文化、社会、科学技術、環境などに関わるさまざまな問題に目を向け、多角的、論理的に思考して自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベート、ディスカッションを行う技術を磨くことを目指す。

教科書 /Textbooks

Take a Stance: Discussing Today's Controversial Issues 2
Ichizo Ueda 他著 (Cengage Learning K.K., 2018年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　オリエンテーション (テキスト、授業内容、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
第2回　Unit 9: Humans or AI? (1) --- Understanding the Issue
第3回　Unit 9: Humans or AI? (2) --- Discussion and Debate
第4回　Unit 10: A Valuable Experience or a Disadvantage in Job Hunting (1) --- Understanding the Issue
第5回　Unit 10: A Valuable Experience or a Disadvantage in Job Hunting (2) --- Discussion and Debate
第6回　Unit 11: Big Government or Limited Government? (1) --- Understanding the Issue
第7回　Unit 11: Big Government or Limited Government? (2) --- Discussion and Debate
第8回　Unit 12: Are the Homeless Responsible for Their Homelessness? (1) --- Understanding the Issue
第9回　Unit 12: Are the Homeless Responsible for Their Homelessness? (2) --- Discussion and Debate
第10回　Unit 13: Severe Punishment or Rehabilitation? (1) --- Understanding the Issue
第11回　Unit 13: Severe Punishment or Rehabilitation? (2) --- Discussion and Debate
第12回　Unit 14: Open Borders or Closed Societies? (1) --- Understanding the Issue
第13回　Unit 14: Open Borders or Closed Societies? (2) --- Discussion and Debate
第14回　Unit 15: Tax Hikes: Direct or Indirect? (1) --- Understanding the Issue
第15回　Unit 15: Tax Hikes: Direct or Indirect? (2) --- Discussion and Debate

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、　平常の学習状況 (小テスト、課題提出等)　60%、　期末試験　40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること
また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語運用力を磨くとともに、自ら調査や研究を行って、授業で取り上げる話題に取り組んでください。

英語表現法B 【昼】

キーワード　/Keywords
コミュニケーション力、批判的思考力

英語表現法B 【昼】

担当者名 /Instructor　齊藤　園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で意見交換を行うために必要な高度な英語表現力を身に付ける。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際社会における自らの役割を認識し、明確な目的意識と行動する意欲を有する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら対話関係を築くことができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語表現法B	ENG262M

授業の概要 /Course Description

文化、社会、科学技術、環境などに関わるさまざまな問題に目を向け、多角的、論理的に思考して自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベート、ディスカッションを行う技術を磨くことを目指す。

教科書 /Textbooks

Take a Stance: Discussing Today's Controversial Issues 2
Ichizo Ueda 他著 (Cengage Learning K.K., 2018年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　オリエンテーション (テキスト、授業内容、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
第2回　Unit 9: Humans or AI? (1) --- Understanding the Issue
第3回　Unit 9: Humans or AI? (2) --- Discussion and Debate
第4回　Unit 10: A Valuable Experience or a Disadvantage in Job Hunting (1) --- Understanding the Issue
第5回　Unit 10: A Valuable Experience or a Disadvantage in Job Hunting (2) --- Discussion and Debate
第6回　Unit 11: Big Government or Limited Government? (1) --- Understanding the Issue
第7回　Unit 11: Big Government or Limited Government? (2) --- Discussion and Debate
第8回　Unit 12: Are the Homeless Responsible for Their Homelessness? (1) --- Understanding the Issue
第9回　Unit 12: Are the Homeless Responsible for Their Homelessness? (2) --- Discussion and Debate
第10回　Unit 13: Severe Punishment or Rehabilitation? (1) --- Understanding the Issue
第11回　Unit 13: Severe Punishment or Rehabilitation? (2) --- Discussion and Debate
第12回　Unit 14: Open Borders or Closed Societies? (1) --- Understanding the Issue
第13回　Unit 14: Open Borders or Closed Societies? (2) --- Discussion and Debate
第14回　Unit 15: Tax Hikes: Direct or Indirect? (1) --- Understanding the Issue
第15回　Unit 15: Tax Hikes: Direct or Indirect? (2) --- Discussion and Debate

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、　平常の学習状況 (小テスト、課題提出等)　60%、　期末試験　40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること
また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語運用力を磨くとともに、自ら調査や研究を行って、授業で取り上げる話題に取り組んでください。

英語表現法B 【昼】

キーワード　/Keywords
コミュニケーション力、批判的思考力

英語表現法B 【昼】

担当者名 /Instructor　村田　希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で意見交換を行うために必要な高度な英語表現力を身に付ける。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際社会における自らの役割を認識し、明確な目的意識と行動する意欲を有する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら対話関係を築くことができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語表現法B	ENG262M

授業の概要 /Course Description

文化、社会、科学技術、環境などに関わるさまざまな問題に目を向け、多角的、論理的に思考して自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベート、ディスカッションを行う技術を磨くことを目指す。

教科書 /Textbooks

Take a Stance: Discussing Today's Controversial Issues 2
Ichizo Ueda 他著 (Cengage Learning K.K., 2018年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　オリエンテーション (テキスト、授業内容、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
第2回　Unit 9: Humans or AI? (1) --- Understanding the Issue
第3回　Unit 9: Humans or AI? (2) --- Discussion and Debate
第4回　Unit 10: A Valuable Experience or a Disadvantage in Job Hunting (1) --- Understanding the Issue
第5回　Unit 10: A Valuable Experience or a Disadvantage in Job Hunting (2) --- Discussion and Debate
第6回　Unit 11: Big Government or Limited Government? (1) --- Understanding the Issue
第7回　Unit 11: Big Government or Limited Government? (2) --- Discussion and Debate
第8回　Unit 12: Are the Homeless Responsible for Their Homelessness? (1) --- Understanding the Issue
第9回　Unit 12: Are the Homeless Responsible for Their Homelessness? (2) --- Discussion and Debate
第10回　Unit 13: Severe Punishment or Rehabilitation? (1) --- Understanding the Issue
第11回　Unit 13: Severe Punishment or Rehabilitation? (2) --- Discussion and Debate
第12回　Unit 14: Open Borders or Closed Societies? (1) --- Understanding the Issue
第13回　Unit 14: Open Borders or Closed Societies? (2) --- Discussion and Debate
第14回　Unit 15: Tax Hikes: Direct or Indirect? (1) --- Understanding the Issue
第15回　Unit 15: Tax Hikes: Direct or Indirect? (2) --- Discussion and Debate

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、　平常の学習状況 (小テスト、課題提出等)　60%、　期末試験　40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること
また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語運用力を磨くとともに、自ら調査や研究を行って、授業で取り上げる話題に取り組んでください。

英語表現法B 【昼】

キーワード　/Keywords
コミュニケーション力、批判的思考力

英語表現法B 【昼】

担当者名 /Instructor　薬師寺　元子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で意見交換を行うために必要な高度な英語表現力を身に付ける。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際社会における自らの役割を認識し、明確な目的意識と行動する意欲を有する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら対話関係を築くことができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語表現法B	ENG262M

授業の概要 /Course Description

文化、社会、科学技術、環境などに関わるさまざまな問題に目を向け、多角的、論理的に思考して自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベート、ディスカッションを行う技術を磨くことを目指す。

教科書 /Textbooks

Take a Stance: Discussing Today's Controversial Issues 2
Ichizo Ueda 他著 (Cengage Learning K.K., 2018年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　オリエンテーション (テキスト、授業内容、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
第2回　Unit 9: Humans or AI? (1) --- Understanding the Issue
第3回　Unit 9: Humans or AI? (2) --- Discussion and Debate
第4回　Unit 10: A Valuable Experience or a Disadvantage in Job Hunting (1) --- Understanding the Issue
第5回　Unit 10: A Valuable Experience or a Disadvantage in Job Hunting (2) --- Discussion and Debate
第6回　Unit 11: Big Government or Limited Government? (1) --- Understanding the Issue
第7回　Unit 11: Big Government or Limited Government? (2) --- Discussion and Debate
第8回　Unit 12: Are the Homeless Responsible for Their Homelessness? (1) --- Understanding the Issue
第9回　Unit 12: Are the Homeless Responsible for Their Homelessness? (2) --- Discussion and Debate
第10回　Unit 13: Severe Punishment or Rehabilitation? (1) --- Understanding the Issue
第11回　Unit 13: Severe Punishment or Rehabilitation? (2) --- Discussion and Debate
第12回　Unit 14: Open Borders or Closed Societies? (1) --- Understanding the Issue
第13回　Unit 14: Open Borders or Closed Societies? (2) --- Discussion and Debate
第14回　Unit 15: Tax Hikes: Direct or Indirect? (1) --- Understanding the Issue
第15回　Unit 15: Tax Hikes: Direct or Indirect? (2) --- Discussion and Debate

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、　平常の学習状況 (小テスト、課題提出等)　60%、　期末試験　40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること
また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語運用力を磨くとともに、自ら調査や研究を行って、授業で取り上げる話題に取り組んでください。

英語表現法B 【昼】

キーワード　/Keywords
コミュニケーション力、批判的思考力

English Practicum2A 【昼】

専門教育科目
外国語科目
英語必修

担当者名 /Instructor　クリストファー・カーマン / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的会話を円滑に行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという明確な目的意識を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら他者と円滑にコミュニケーションをとることができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum2A	ENG201M

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English
and is designed to meet the needs of International Relations majors in regard to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple 1 / Pearson Longman, 2013.
Paulette Dale

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Course Introduction
Week 2 Chapter 1: Getting Started
Week 3 Chapter 2: Effective Speech Delivery
Week 4 Chapter 3: Don't Just Tell Me, Show Me!
Week 5 Speech 1: About Me!
Week 6 Speech 2: A Meaningful Object
Week 7 Speech 3: My Worst Fear
Week 8 Chapter 4: Interesting Interviews
Week 9 Speech 4: Report on an Interview
Week 10 Chapter 5: Explain It!
Week 11 Informative Speech - Outlining and Writing
Week 12 Informative Speech Delivery (Round 1)
Week 13 Informative Speech - Writing and Revising
Week 14 Informative Speech Delivery (Round 2)
Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Read the assigned pages and do the assigned writing before class.
After class, review the corrections the teacher made to your work.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

English Practicum2A 【昼】

キーワード　/Keywords

English Practicum2A 【昼】

専門教育科目
外国語科目
英語必修

担当者名 /Instructor　クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的会話を円滑に行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという明確な目的意識を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら他者と円滑にコミュニケーションをとることができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum2A	ENG201M

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English
and is designed to meet the needs of International Relations majors in regard to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple 1 / Pearson Longman, 2013.
Paulette Dale

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Course Introduction
Week 2 Chapter 1: Getting Started
Week 3 Chapter 2: Effective Speech Delivery
Week 4 Chapter 3: Don't Just Tell Me, Show Me!
Week 5 Speech 1: About Me!
Week 6 Speech 2: A Meaningful Object
Week 7 Speech 3: My Worst Fear
Week 8 Chapter 4: Interesting Interviews
Week 9 Speech 4: Report on an Interview
Week 10 Chapter 5: Explain It!
Week 11 Informative Speech - Outlining and Writing
Week 12 Informative Speech Delivery (Round 1)
Week 13 Informative Speech - Writing and Revising
Week 14 Informative Speech Delivery (Round 2)
Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Read the assigned pages and do the assigned writing before class.
After class, review the corrections the teacher made to your work.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

English Practicum2A 【昼】

キーワード　/Keywords

English Practicum2A 【昼】

担当者名 /Instructor　デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的会話を円滑に行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという明確な目的意識を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら他者と円滑にコミュニケーションをとることができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum2A	ENG201M

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English
and is designed to meet the needs of International Relations majors in regard to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple 1 / Pearson Longman, 2013.
Paulette Dale

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1　Course Introduction
Week 2　Chapter 1: Getting Started
Week 3　Chapter 2: Effective Speech Delivery
Week 4　Chapter 3: Don't Just Tell Me, Show Me!
Week 5　Speech 1: About Me!
Week 6　Speech 2: A Meaningful Object
Week 7　Speech 3: My Worst Fear
Week 8　Chapter 4: Interesting Interviews
Week 9　Speech 4: Report on an Interview
Week 10　Chapter 5: Explain It!
Week 11　Informative Speech - Outlining and Writing
Week 12　Informative Speech Delivery (Round 1)
Week 13　Informative Speech - Writing and Revising
Week 14　Informative Speech Delivery (Round 2)
Week 15　Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Read the assigned pages and do the assigned writing before class.
After class, review the corrections the teacher made to your work.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

English Practicum2A 【昼】

キーワード　/Keywords

English Practicum2A 【昼】

担当者名 /Instructor　デイヴィッド・レイモンド・ラッツ / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的会話を円滑に行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという明確な目的意識を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら他者と円滑にコミュニケーションをとることができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum2A	ENG201M

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English
and is designed to meet the needs of International Relations majors in regard to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple 1 / Pearson Longman, 2013.
Paulette Dale

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Course Introduction
Week 2 Chapter 1: Getting Started
Week 3 Chapter 2: Effective Speech Delivery
Week 4 Chapter 3: Don't Just Tell Me, Show Me!
Week 5 Speech 1: About Me!
Week 6 Speech 2: A Meaningful Object
Week 7 Speech 3: My Worst Fear
Week 8 Chapter 4: Interesting Interviews
Week 9 Speech 4: Report on an Interview
Week 10 Chapter 5: Explain It!
Week 11 Informative Speech - Outlining and Writing
Week 12 Informative Speech Delivery (Round 1)
Week 13 Informative Speech - Writing and Revising
Week 14 Informative Speech Delivery (Round 2)
Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Read the assigned pages and do the assigned writing before class.
After class, review the corrections the teacher made to your work.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

English Practicum2A 【昼】

キーワード　/Keywords

English Practicum2B 【昼】

担当者名 /Instructor　クリストファー・カーマン / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的会話を円滑に行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという明確な目的意識を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら他者と円滑にコミュニケーションをとることができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum2B	ENG211M

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English
and is designed to meet the needs of International Relations majors in regard to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple 1 / Pearson Longman, 2013.
Paulette Dale

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1　Course Introduction
Week 2　Introduction to Persuasive Speaking
Week 3　Preparing for the Persuasive Speech
Week 4　Persuasive Speech - Outlining and Writing
Week 5　Persuasive Speech Delivery (Round 1: Group 1)
Week 6　Persuasive Speech Delivery (Round 1: Group 2)
Week 7　Persuasive Speech Delivery (Round 1: Group 3)
Week 8　Persuasive Speech - Writing and Revising
Week 9　Persuasive Speech Delivery (Round 2: Group 1)
Week 10　Persuasive Speech Delivery (Round 2: Group 2)
Week 11　Persuasive Speech Delivery (Round 2: Group 3)
Week 12　Speaking for Special Purposes
Week 13　Symposium - Outlining and Writing
Week 14　Symposium - Delivery
Week 15　Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Read the assigned pages and do the assigned writing before class.
After class, review the corrections the teacher made to your work.

履修上の注意 /Remarks

Please bring a USB memory stick to each class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

English Practicum2B 【昼】

キーワード　/Keywords

English Practicum2B 【昼】

担当者名 /Instructor　クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的会話を円滑に行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという明確な目的意識を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら他者と円滑にコミュニケーションをとることができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum2B	ENG211M

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English
and is designed to meet the needs of International Relations majors in regard to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple 1 / Pearson Longman, 2013.
Paulette Dale

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Course Introduction
Week 2 Introduction to Persuasive Speaking
Week 3 Preparing for the Persuasive Speech
Week 4 Persuasive Speech - Outlining and Writing
Week 5 Persuasive Speech Delivery (Round 1: Group 1)
Week 6 Persuasive Speech Delivery (Round 1: Group 2)
Week 7 Persuasive Speech Delivery (Round 1: Group 3)
Week 8 Persuasive Speech - Writing and Revising
Week 9 Persuasive Speech Delivery (Round 2: Group 1)
Week 10 Persuasive Speech Delivery (Round 2: Group 2)
Week 11 Persuasive Speech Delivery (Round 2: Group 3)
Week 12 Speaking for Special Purposes
Week 13 Symposium - Outlining and Writing
Week 14 Symposium - Delivery
Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Read the assigned pages and do the assigned writing before class.
After class, review the corrections the teacher made to your work.

履修上の注意 /Remarks

Please bring a USB memory stick to each class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

English Practicum2B 【昼】

キーワード　/Keywords

English Practicum2B 【昼】

担当者名 /Instructor　デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的会話を円滑に行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという明確な目的意識を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら他者と円滑にコミュニケーションをとることができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum2B	ENG211M

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English
and is designed to meet the needs of International Relations majors in regard to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple 1 / Pearson Longman, 2013.
Paulette Dale

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1　Course Introduction
Week 2　Introduction to Persuasive Speaking
Week 3　Preparing for the Persuasive Speech
Week 4　Persuasive Speech - Outlining and Writing
Week 5　Persuasive Speech Delivery (Round 1: Group 1)
Week 6　Persuasive Speech Delivery (Round 1: Group 2)
Week 7　Persuasive Speech Delivery (Round 1: Group 3)
Week 8　Persuasive Speech - Writing and Revising
Week 9　Persuasive Speech Delivery (Round 2: Group 1)
Week 10　Persuasive Speech Delivery (Round 2: Group 2)
Week 11　Persuasive Speech Delivery (Round 2: Group 3)
Week 12　Speaking for Special Purposes
Week 13　Symposium - Outlining and Writing
Week 14　Symposium - Delivery
Week 15　Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Read the assigned pages and do the assigned writing before class.
After class, review the corrections the teacher made to your work.

履修上の注意 /Remarks

Please bring a USB memory stick to each class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

English Practicum2B 【昼】

キーワード　/Keywords

English Practicum2B 【昼】

担当者名 /Instructor　デイヴィッド・レイモンド・ラッツ / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的会話を円滑に行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという明確な目的意識を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら他者と円滑にコミュニケーションをとることができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum2B	ENG211M

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English
and is designed to meet the needs of International Relations majors in regard to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple 1 / Pearson Longman, 2013.
Paulette Dale

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1　Course Introduction
Week 2　Introduction to Persuasive Speaking
Week 3　Preparing for the Persuasive Speech
Week 4　Persuasive Speech - Outlining and Writing
Week 5　Persuasive Speech Delivery (Round 1: Group 1)
Week 6　Persuasive Speech Delivery (Round 1: Group 2)
Week 7　Persuasive Speech Delivery (Round 1: Group 3)
Week 8　Persuasive Speech - Writing and Revising
Week 9　Persuasive Speech Delivery (Round 2: Group 1)
Week 10　Persuasive Speech Delivery (Round 2: Group 2)
Week 11　Persuasive Speech Delivery (Round 2: Group 3)
Week 12　Speaking for Special Purposes
Week 13　Symposium - Outlining and Writing
Week 14　Symposium - Delivery
Week 15　Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Read the assigned pages and do the assigned writing before class.
After class, review the corrections the teacher made to your work.

履修上の注意 /Remarks

Please bring a USB memory stick to each class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

English Practicum2B 【昼】

キーワード　/Keywords

英語論文作成法I 【昼】

専門教育科目
外国語科目
英語必修

担当者名 /Instructor　アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　3 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で自らの意見を表現できる高度な英語力を身につける。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	先行研究を参照しながら、自己の意見を確立し、英文で明確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語論文作成法 I	ENG361M

授業の概要　/Course Description

This is an intermediate course designed to give students ample practice in developing and writing paragraphs and eventually essays. Your grade in this class will be based on writing tasks (paragraphs, essays, and in-class writing assignments), quizzes, participation (including homework, attendance, and being on-task), and the final exam. The breakdown is in the following.

教科書　/Textbooks

Basic Steps to Academic Writing from Paragraph to Essay / Cengage Learning, 2011.
Matthew A. Taylor and David E. Kluge

Extra materials, which have been written by the instructor, will also be provided.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Week 1　Units 1, 2, and 3: Understanding the Writing Process
Week 2　Unit 4: Descriptive Paragraph
Week 3　Unit 5: Comparison and Contrast Paragraph
Week 4　Unit 6: Process Paragraph
Week 5　Unit 7: Narrative Paragraph
Week 6　Unit 8: Summary Paragraph
Week 7　Unit 9: Analysis Paragraph
Week 8　Unit 10: Cause and Effect Paragraph
Week 9　Unit 11: Persuasive Paragraph
Week 10　Unit 12: Problem-Solution Paragraph
Week 11　Unit 13: About the Essay
Week 12　Unit 14: Changing a Paragraph into an Essay
Week 13　Unit 15: Writing an Essay from the Beginning
Week 14　Unit 16: Review Essay: Combining Approaches
Week 15　Examination Essay

成績評価の方法　/Assessment Method

Assigned Homework Paragraphs 72%
Examination Essay 28%

英語論文作成法I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson
and have your homework completed as given to you by your instructor.

履修上の注意　/Remarks

No credit will be given to students who are absent four or more times.
If the student is late for class thirty minutes, that will equal one absence.
Therefore, you must provide a document to the instructor as to why you will be or were late or absent.
The student must bring a hospital receipt to the next class attended if she/he is absent because of sickness.

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語論文作成法I 【昼】

担当者名 /Instructor　デイヴィッド・レイモンド・ラッツ / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義・実習
クラス /Class　3 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で自らの意見を表現できる高度な英語力を身につける。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	先行研究を参照しながら、自己の意見を確立し、英文で明確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語論文作成法 I	ENG361M

授業の概要　/Course Description

This is an intermediate course designed to give students ample practice in developing and writing paragraphs and eventually essays. Your grade in this class will be based on writing tasks (paragraphs, essays, and in-class writing assignments), quizzes, participation (including homework, attendance, and being on-task), and the final exam. The breakdown is in the following.

教科書　/Textbooks

Basic Steps to Academic Writing from Paragraph to Essay / Cengage Learning, 2011.
Matthew A. Taylor and David E. Kluge

Extra materials, which have been written by the instructor, will also be provided.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Week 1　Units 1, 2, and 3: Understanding the Writing Process
Week 2　Unit 4: Descriptive Paragraph
Week 3　Unit 5: Comparison and Contrast Paragraph
Week 4　Unit 6: Process Paragraph
Week 5　Unit 7: Narrative Paragraph
Week 6　Unit 8: Summary Paragraph
Week 7　Unit 9: Analysis Paragraph
Week 8　Unit 10: Cause and Effect Paragraph
Week 9　Unit 11: Persuasive Paragraph
Week 10　Unit 12: Problem-Solution Paragraph
Week 11　Unit 13: About the Essay
Week 12　Unit 14: Changing a Paragraph into an Essay
Week 13　Unit 15: Writing an Essay from the Beginning
Week 14　Unit 16: Review Essay: Combining Approaches
Week 15　Examination Essay

成績評価の方法　/Assessment Method

Assigned Homework Paragraphs 72%
Examination Essay 28%

英語論文作成法I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson
and have your homework completed as given to you by your instructor.

履修上の注意　/Remarks

No credit will be given to students who are absent four or more times.
If the student is late for class thirty minutes, that will equal one absence.
Therefore, you must provide a document to the instructor as to why you will be or were late or absent.
The student must bring a hospital receipt to the next class attended if she/he is absent because of sickness.

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語論文作成法I 【昼】

専門教育科目
外国語科目
英語必修

担当者名 /Instructor　ポール・ガラフ・スティール / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　3 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で自らの意見を表現できる高度な英語力を身につける。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	先行研究を参照しながら、自己の意見を確立し、英文で明確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語論文作成法 I	ENG361M

授業の概要　/Course Description

This is an intermediate course designed to give students ample practice in developing and writing paragraphs and eventually essays. Your grade in this class will be based on writing tasks (paragraphs, essays, and in-class writing assignments), quizzes, participation (including homework, attendance, and being on-task), and the final exam. The breakdown is in the following.

教科書　/Textbooks

Basic Steps to Academic Writing from Paragraph to Essay / Cengage Learning, 2011.
Matthew A. Taylor and David E. Kluge

Extra materials, which have been written by the instructor, will also be provided.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Week 1　Units 1, 2, and 3: Understanding the Writing Process
Week 2　Unit 4: Descriptive Paragraph
Week 3　Unit 5: Comparison and Contrast Paragraph
Week 4　Unit 6: Process Paragraph
Week 5　Unit 7: Narrative Paragraph
Week 6　Unit 8: Summary Paragraph
Week 7　Unit 9: Analysis Paragraph
Week 8　Unit 10: Cause and Effect Paragraph
Week 9　Unit 11: Persuasive Paragraph
Week 10　Unit 12: Problem-Solution Paragraph
Week 11　Unit 13: About the Essay
Week 12　Unit 14: Changing a Paragraph into an Essay
Week 13　Unit 15: Writing an Essay from the Beginning
Week 14　Unit 16: Review Essay: Combining Approaches
Week 15　Examination Essay

成績評価の方法　/Assessment Method

Assigned Homework Paragraphs 72%
Examination Essay 28%

英語論文作成法I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson
and have your homework completed as given to you by your instructor.

履修上の注意　/Remarks

No credit will be given to students who are absent four or more times.
If the student is late for class thirty minutes, that will equal one absence.
Therefore, you must provide a document to the instructor as to why you will be or were late or absent.
The student must bring a hospital receipt to the next class attended if she/he is absent because of sickness.

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語論文作成法I 【昼】

担当者名 /Instructor　デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　3 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で自らの意見を表現できる高度な英語力を身につける。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	先行研究を参照しながら、自己の意見を確立し、英文で明確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語論文作成法 I	ENG361M

授業の概要　/Course Description

This is an intermediate course designed to give students ample practice in developing and writing paragraphs and eventually essays. Your grade in this class will be based on writing tasks (paragraphs, essays, and in-class writing assignments), quizzes, participation (including homework, attendance, and being on-task), and the final exam. The breakdown is in the following.

教科書　/Textbooks

Basic Steps to Academic Writing from Paragraph to Essay / Cengage Learning, 2011.
Matthew A. Taylor and David E. Kluge

Extra materials, which have been written by the instructor, will also be provided.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Week 1　Units 1, 2, and 3: Understanding the Writing Process
Week 2　Unit 4: Descriptive Paragraph
Week 3　Unit 5: Comparison and Contrast Paragraph
Week 4　Unit 6: Process Paragraph
Week 5　Unit 7: Narrative Paragraph
Week 6　Unit 8: Summary Paragraph
Week 7　Unit 9: Analysis Paragraph
Week 8　Unit 10: Cause and Effect Paragraph
Week 9　Unit 11: Persuasive Paragraph
Week 10　Unit 12: Problem-Solution Paragraph
Week 11　Unit 13: About the Essay
Week 12　Unit 14: Changing a Paragraph into an Essay
Week 13　Unit 15: Writing an Essay from the Beginning
Week 14　Unit 16: Review Essay: Combining Approaches
Week 15　Examination Essay

成績評価の方法　/Assessment Method

Assigned Homework Paragraphs 72%
Examination Essay 28%

英語論文作成法I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson
and have your homework completed as given to you by your instructor.

履修上の注意　/Remarks

No credit will be given to students who are absent four or more times.
If the student is late for class thirty minutes, that will equal one absence.
Therefore, you must provide a document to the instructor as to why you will be or were late or absent.
The student must bring a hospital receipt to the next class attended if she/he is absent because of sickness.

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語論文作成法II 【昼】

専門教育科目
外国語科目
英語必修

担当者名 /Instructor　アルバート・ オスカー・ モウ / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・ 実習　クラス /Class　3 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で自らの意見を表現できる高度な英語力を身につける。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	先行研究を参照しながら、自己の意見を確立し、英文で明確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語論文作成法Ⅱ	ENG362M

授業の概要　/Course Description

The point of this class is writing a 2,500-word research paper in English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Relations majors' in regards to English composition.
It will help the students to:

Choose a topic.
Organize a paper.
Write the first draft.
Evaluate and rewrite.

教科書　/Textbooks

David E. Kluge & Matthew A. Taylor 'Basic Steps to Writing Research Papers' Second Edition
(Cengage, 2018) ISBN: 978-4-86312-308-3

Extra materials, which have been written by the instructor, will also be provided.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable.

英語論文作成法II 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回 Class Orientation
Unit 1: What is a Research Paper?
Unit 2: Topics

2回 Unit 3: Sources
Conferencing of Topics, as needed

3回 Unit 4: The Beginning Thesis Statement
Conferencing on Thesis Statements, as needed

4回 Unit 5: The Working Outline
Conferencing on Outline, as needed

5回 Unit 6: Revising the Thesis Statement and Working Outline

6回 Unit 7: Writing the First Draft

7回 Unit 8: Writing the Title
Unit 9: Writing the Introduction

8回 Unit 10: Support, Accuracy, Logic
Unit 11: Writing the Body

9回 Unit 12: Writing the Conclusion
Unit 13: Avoiding Plagiarism: Citing and Quoting Sources

10回 Unit 14: Writing the Reference List

11回 Unit 15: Evaluating and Rewriting, Peer Reading 1,Draft 1 due

12回 Draft 1, Returned to Students, Conferencing

13回 Draft 2 due, Peer Reading 2

14回Draft 2, Returned to Students, Conferencing

15回Unit 19: An End and a Beginning, Draft 3 due

成績評価の方法　/Assessment Method

Assigned Report 80%
Final Exanimation 20 %

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson
and have your homework completed as given to you by your instructor.

履修上の注意　/Remarks

No credit will be given to students who are absent four or more times.
If the student is late for class thirty minutes, that will equal one absence.
Therefore, you must provide a document to the instructor as to why you will be or were late or absent.
The student must bring a hospital receipt to the next class attended if she/he is absent because of sickness.

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語論文作成法II 【昼】

専門教育科目
外国語科目
英語必修

担当者名 /Instructor　デイヴィッド・レイモンド・ラッツ / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　3 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で自らの意見を表現できる高度な英語力を身につける。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	先行研究を参照しながら、自己の意見を確立し、英文で明確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語論文作成法Ⅱ	ENG362M

授業の概要　/Course Description

The point of this class is writing a 2,500-word research paper in English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Relations majors' in regards to English composition.
It will help the students to:

Choose a topic.
Organize a paper.
Write the first draft.
Evaluate and rewrite.

教科書　/Textbooks

David E. Kluge & Matthew A. Taylor 'Basic Steps to Writing Research Papers' Second Edition
(Cengage, 2018) ISBN: 978-4-86312-308-3

Extra materials, which have been written by the instructor, will also be provided.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable.

英語論文作成法II 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回 Class Orientation
Unit 1: What is a Research Paper?
Unit 2: Topics

2回 Unit 3: Sources
Conferencing of Topics, as needed

3回 Unit 4: The Beginning Thesis Statement
Conferencing on Thesis Statements, as needed

4回 Unit 5: The Working Outline
Conferencing on Outline, as needed

5回 Unit 6: Revising the Thesis Statement and Working Outline

6回 Unit 7: Writing the First Draft

7回 Unit 8: Writing the Title
Unit 9: Writing the Introduction

8回 Unit 10: Support, Accuracy, Logic
Unit 11: Writing the Body

9回 Unit 12: Writing the Conclusion
Unit 13: Avoiding Plagiarism: Citing and Quoting Sources

10回 Unit 14: Writing the Reference List

11回 Unit 15: Evaluating and Rewriting, Peer Reading 1,Draft 1 due

12回 Draft 1, Returned to Students, Conferencing

13回 Draft 2 due, Peer Reading 2

14回Draft 2, Returned to Students, Conferencing

15回Unit 19: An End and a Beginning, Draft 3 due

成績評価の方法　/Assessment Method

Assigned Report 80%
Final Exanimation 20 %

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson
and have your homework completed as given to you by your instructor.

履修上の注意　/Remarks

No credit will be given to students who are absent four or more times.
If the student is late for class thirty minutes, that will equal one absence.
Therefore, you must provide a document to the instructor as to why you will be or were late or absent.
The student must bring a hospital receipt to the next class attended if she/he is absent because of sickness.

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語論文作成法II 【昼】

担当者名 /Instructor　ポール・ガラフ・スティール / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　3 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で自らの意見を表現できる高度な英語力を身につける。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	先行研究を参照しながら、自己の意見を確立し、英文で明確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語論文作成法Ⅱ	ENG362M

授業の概要　/Course Description

The point of this class is writing a 2,500-word research paper in English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Relations majors' in regards to English composition.
It will help the students to:

Choose a topic.
Organize a paper.
Write the first draft.
Evaluate and rewrite.

教科書　/Textbooks

David E. Kluge & Matthew A. Taylor 'Basic Steps to Writing Research Papers' Second Edition
(Cengage, 2018) ISBN: 978-4-86312-308-3

Extra materials, which have been written by the instructor, will also be provided.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable.

英語論文作成法II 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回 Class Orientation
Unit 1: What is a Research Paper?
Unit 2: Topics

2回 Unit 3: Sources
Conferencing of Topics, as needed

3回 Unit 4: The Beginning Thesis Statement
Conferencing on Thesis Statements, as needed

4回 Unit 5: The Working Outline
Conferencing on Outline, as needed

5回 Unit 6: Revising the Thesis Statement and Working Outline

6回 Unit 7: Writing the First Draft

7回 Unit 8: Writing the Title
Unit 9: Writing the Introduction

8回 Unit 10: Support, Accuracy, Logic
Unit 11: Writing the Body

9回 Unit 12: Writing the Conclusion
Unit 13: Avoiding Plagiarism: Citing and Quoting Sources

10回 Unit 14: Writing the Reference List

11回 Unit 15: Evaluating and Rewriting, Peer Reading 1,Draft 1 due

12回 Draft 1, Returned to Students, Conferencing

13回 Draft 2 due, Peer Reading 2

14回Draft 2, Returned to Students, Conferencing

15回Unit 19: An End and a Beginning, Draft 3 due

成績評価の方法　/Assessment Method

Assigned Report 80%
Final Exanimation 20 %

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson
and have your homework completed as given to you by your instructor.

履修上の注意　/Remarks

No credit will be given to students who are absent four or more times.
If the student is late for class thirty minutes, that will equal one absence.
Therefore, you must provide a document to the instructor as to why you will be or were late or absent.
The student must bring a hospital receipt to the next class attended if she/he is absent because of sickness.

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語論文作成法II 【昼】

専門教育科目
外国語科目
英語必修

担当者名 /Instructor　デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　3 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で自らの意見を表現できる高度な英語力を身につける。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	先行研究を参照しながら、自己の意見を確立し、英文で明確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語論文作成法Ⅱ	ENG362M

授業の概要　/Course Description

The point of this class is writing a 2,500-word research paper in English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Relations majors' in regards to English composition.
It will help the students to:

Choose a topic.
Organize a paper.
Write the first draft.
Evaluate and rewrite.

教科書　/Textbooks

David E. Kluge & Matthew A. Taylor 'Basic Steps to Writing Research Papers' Second Edition
(Cengage, 2018) ISBN: 978-4-86312-308-3

Extra materials, which have been written by the instructor, will also be provided.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable.

英語論文作成法II 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回 Class Orientation
Unit 1: What is a Research Paper?
Unit 2: Topics

2回 Unit 3: Sources
Conferencing of Topics, as needed

3回 Unit 4: The Beginning Thesis Statement
Conferencing on Thesis Statements, as needed

4回 Unit 5: The Working Outline
Conferencing on Outline, as needed

5回 Unit 6: Revising the Thesis Statement and Working Outline

6回 Unit 7: Writing the First Draft

7回 Unit 8: Writing the Title
Unit 9: Writing the Introduction

8回 Unit 10: Support, Accuracy, Logic
Unit 11: Writing the Body

9回 Unit 12: Writing the Conclusion
Unit 13: Avoiding Plagiarism: Citing and Quoting Sources

10回 Unit 14: Writing the Reference List

11回 Unit 15: Evaluating and Rewriting, Peer Reading 1,Draft 1 due

12回 Draft 1, Returned to Students, Conferencing

13回 Draft 2 due, Peer Reading 2

14回Draft 2, Returned to Students, Conferencing

15回Unit 19: An End and a Beginning, Draft 3 due

成績評価の方法　/Assessment Method

Assigned Report 80%
Final Exanimation 20 %

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson
and have your homework completed as given to you by your instructor.

履修上の注意　/Remarks

No credit will be given to students who are absent four or more times.
If the student is late for class thirty minutes, that will equal one absence.
Therefore, you must provide a document to the instructor as to why you will be or were late or absent.
The student must bring a hospital receipt to the next class attended if she/he is absent because of sickness.

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

English Practicum3A 【昼】

担当者名 /Instructor　ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　3 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的会話を円滑に行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum3A	ENG301M

授業の概要　/Course Description

Students will research, summarize and present both facts and opinions on topics related to international relations and contemporary social and cultural issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

教科書　/Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Week 1　Introduction and course objectives
Week 2　Cultural issues in the world
Week 3　Research of cultural issues
Week 4　Expansion of cultural issues
Week 5　Consolidation of cultural issues
Week 6　First group: Presentation and discussion
Week 7　Second Group: Presentation and discussion
Week 8　Analysis and Advice
Week 9　Environmental issues in the world
Week 10　Research of environmental issues
Week 11　Expansion of environmental issues
Week 12　Consolidation of environmental issues
Week 13　Third Group: Presentation and discussion
Week 14　Fourth Group: Presentation and discussion
Week 15　Summary and exam preparation

成績評価の方法　/Assessment Method

Class participation 40%,　Presentations/Group Work 20%,　Homework 20%,　Exam 20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Read the assigned pages and do the assigned writing before class.
After class, review the corrections the teacher made to your work.

履修上の注意　/Remarks

English Practicum3A 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

English Practicum3A 【昼】

担当者名 /Instructor　クリストファー・カーマン / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　3 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的会話を円滑に行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum3A	ENG301M

授業の概要　/Course Description

Students will research, summarize and present both facts and opinions on topics related to international relations and contemporary social and cultural issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

教科書　/Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Week 1　Introduction and course objectives
Week 2　Cultural issues in the world
Week 3　Research of cultural issues
Week 4　Expansion of cultural issues
Week 5　Consolidation of cultural issues
Week 6　First group: Presentation and discussion
Week 7　Second Group: Presentation and discussion
Week 8　Analysis and Advice
Week 9　Environmental issues in the world
Week 10　Research of environmental issues
Week 11　Expansion of environmental issues
Week 12　Consolidation of environmental issues
Week 13　Third Group: Presentation and discussion
Week 14　Fourth Group: Presentation and discussion
Week 15　Summary and exam preparation

成績評価の方法　/Assessment Method

Class participation 40%,　Presentations/Group Work 20%,　Homework 20%,　Exam 20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Read the assigned pages and do the assigned writing before class.
After class, review the corrections the teacher made to your work.

履修上の注意　/Remarks

English Practicum3A 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

English Practicum3A 【昼】

担当者名 /Instructor　デイヴィッド・レイモンド・ラッツ / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　3 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的会話を円滑に行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum3A	ENG301M

授業の概要 /Course Description

Students will research, summarize and present both facts and opinions on topics related to international relations and contemporary social and cultural issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction and course objectives
Week 2 Cultural issues in the world
Week 3 Research of cultural issues
Week 4 Expansion of cultural issues
Week 5 Consolidation of cultural issues
Week 6 First group: Presentation and discussion
Week 7 Second Group: Presentation and discussion
Week 8 Analysis and Advice
Week 9 Environmental issues in the world
Week 10 Research of environmental issues
Week 11 Expansion of environmental issues
Week 12 Consolidation of environmental issues
Week 13 Third Group: Presentation and discussion
Week 14 Fourth Group: Presentation and discussion
Week 15 Summary and exam preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation 40%, Presentations/Group Work 20%, Homework 20%, Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Read the assigned pages and do the assigned writing before class.
After class, review the corrections the teacher made to your work.

履修上の注意 /Remarks

English Practicum3A 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

English Practicum3A 【昼】

担当者名 /Instructor　クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　3 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的会話を円滑に行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum3A	ENG301M

授業の概要　/Course Description

Students will research, summarize and present both facts and opinions on topics related to international relations and contemporary social and cultural issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

教科書　/Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Week 1　Introduction and course objectives
Week 2　Cultural issues in the world
Week 3　Research of cultural issues
Week 4　Expansion of cultural issues
Week 5　Consolidation of cultural issues
Week 6　First group: Presentation and discussion
Week 7　Second Group: Presentation and discussion
Week 8　Analysis and Advice
Week 9　Environmental issues in the world
Week 10　Research of environmental issues
Week 11　Expansion of environmental issues
Week 12　Consolidation of environmental issues
Week 13　Third Group: Presentation and discussion
Week 14　Fourth Group: Presentation and discussion
Week 15　Summary and exam preparation

成績評価の方法　/Assessment Method

Class participation 40%,　Presentations/Group Work 20%,　Homework 20%,　Exam 20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Read the assigned pages and do the assigned writing before class.
After class, review the corrections the teacher made to your work.

履修上の注意　/Remarks

English Practicum3A 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

English Practicum3B 【昼】

担当者名 /Instructor　ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　3 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的会話を円滑に行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum3B	ENG311M

授業の概要　/Course Description

Students will research, summarize and present both facts and opinions on topics related to international relations and contemporary social and cultural issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

教科書　/Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Week 1　Introduction and course objectives
Week 2　Social issues in the world
Week 3　Start to research social issues
Week 4　Expansion of social issues
Week 5　Consolidation of social issues
Week 6　First Group: Presentation and Discussion
Week 7　Second Group: Presentation and Discussion
Week 8　Analysis and Advice
Week 9　Political issues in the world
Week 10　Research of political issues
Week 11　Expansion of political issues
Week 12　Consolidation of political issues
Week 13　Third Group: Presentation and Discussion
Week 14　Fourth Group: Presentation and Discussion
Week 15　Summary and exam preparation

成績評価の方法　/Assessment Method

Class participation 40%,　Presentations/Group Work 20%,　Homework 20%,　Exam 20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Read the assigned pages and do the assigned writing before class.
After class, review the corrections the teacher made to your work.

履修上の注意　/Remarks

English Practicum3B 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

English Practicum3B 【昼】

担当者名 /Instructor　クリストファー・カーマン / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　3 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的会話を円滑に行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum3B	ENG311M

授業の概要　/Course Description

Students will research, summarize and present both facts and opinions on topics related to international relations and contemporary social and cultural issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

教科書　/Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Week 1　Introduction and course objectives
Week 2　Social issues in the world
Week 3　Start to research social issues
Week 4　Expansion of social issues
Week 5　Consolidation of social issues
Week 6　First Group: Presentation and Discussion
Week 7　Second Group: Presentation and Discussion
Week 8　Analysis and Advice
Week 9　Political issues in the world
Week 10　Research of political issues
Week 11　Expansion of political issues
Week 12　Consolidation of political issues
Week 13　Third Group: Presentation and Discussion
Week 14　Fourth Group: Presentation and Discussion
Week 15　Summary and exam preparation

成績評価の方法　/Assessment Method

Class participation 40%,　Presentations/Group Work 20%,　Homework 20%,　Exam 20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Read the assigned pages and do the assigned writing before class.
After class, review the corrections the teacher made to your work.

履修上の注意　/Remarks

English Practicum3B 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

English Practicum3B 【昼】

担当者名 /Instructor　デイヴィッド・レイモンド・ラッツ / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　3 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的会話を円滑に行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum3B	ENG311M

授業の概要　/Course Description

Students will research, summarize and present both facts and opinions on topics related to international relations and contemporary social and cultural issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

教科書　/Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Week 1　Introduction and course objectives
Week 2　Social issues in the world
Week 3　Start to research social issues
Week 4　Expansion of social issues
Week 5　Consolidation of social issues
Week 6　First Group: Presentation and Discussion
Week 7　Second Group: Presentation and Discussion
Week 8　Analysis and Advice
Week 9　Political issues in the world
Week 10　Research of political issues
Week 11　Expansion of political issues
Week 12　Consolidation of political issues
Week 13　Third Group: Presentation and Discussion
Week 14　Fourth Group: Presentation and Discussion
Week 15　Summary and exam preparation

成績評価の方法　/Assessment Method

Class participation 40%,　Presentations/Group Work 20%,　Homework 20%,　Exam 20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Read the assigned pages and do the assigned writing before class.
After class, review the corrections the teacher made to your work.

履修上の注意　/Remarks

English Practicum3B 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

English Practicum3B 【昼】

担当者名 /Instructor　クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　3 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的会話を円滑に行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum3B	ENG311M

授業の概要　/Course Description

Students will research, summarize and present both facts and opinions on topics related to international relations and contemporary social and cultural issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

教科書　/Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Week 1　Introduction and course objectives
Week 2　Social issues in the world
Week 3　Start to research social issues
Week 4　Expansion of social issues
Week 5　Consolidation of social issues
Week 6　First Group: Presentation and Discussion
Week 7　Second Group: Presentation and Discussion
Week 8　Analysis and Advice
Week 9　Political issues in the world
Week 10　Research of political issues
Week 11　Expansion of political issues
Week 12　Consolidation of political issues
Week 13　Third Group: Presentation and Discussion
Week 14　Fourth Group: Presentation and Discussion
Week 15　Summary and exam preparation

成績評価の方法　/Assessment Method

Class participation 40%,　Presentations/Group Work 20%,　Homework 20%,　Exam 20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Read the assigned pages and do the assigned writing before class.
After class, review the corrections the teacher made to your work.

履修上の注意　/Remarks

English Practicum3B 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語学概論 【昼】

担当者名 /Instructor　三宅　啓子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	英語学に関する基礎的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル	●	英語学に関する情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語学概論	LIN130M

授業の概要 /Course Description

英語言語学の主要な研究分野に関する基本的な事項の習得を目標に定め、専門用語の解説を中心に授業を進める。各章の内容を復習するためのComprehension Checkを行い、テキストの応用問題を解く。さらに、インターネットの利用や実践を通して内容の理解を深める。

教科書 /Textbooks

"First Steps in English Linguistics" by T. Kageyama et al.（くろしお出版）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

（【 】はキーワード）
第１回 Introduction: Language（言語）【onomatopoeia】授業の進め方、自宅学習の方法について説明する
第２回 Linguistics（言語学）【language acquisition】【overgeneralization】【UG】
第３回 MorphologyI（形態論I）【morpheme】【Compound Stress Rule】【Phrasal Stress Rule】
第４回 MorphologyII（形態論II）【derivation】【conversion】【inflection】【clipping】【blending】
第５回 SemanticsI（意味論I）【conceptual meaning】【associative meaning】【entailment】【categorization】
第６回 SemanticsII（意味論II）【hyponymy】【meronymy】【synonymy】【antonymy】【polysemy】
第７回 SyntaxI（統語論I）【movement】【deletion】【pro-form】【coordination】
第８回 SyntaxII（統語論II）【labeled bracketing】【tree diagram】【phrase structure】
第９回 Phonetics and PhonologyI（音声学・音韻論I）【pitch】【intonation】【accent】【syllable】
第１０回 Phonetics and PhonologyII（音声学・音韻論II）【organs of speech】【vowels】【consonants】
第１１回 SociolinguisticsI（社会言語学I）【world Englishes】【regional dialects】
第１２回 SociolinguisticsII（社会言語学II）【American English】【British English】【Canadian English】
第１３回 The History of EnglishI（歴史言語学I）【Old English】【Middle English】【Modern English】
第１４回 The History of EnglishII（歴史言語学II）【Proto-Indo-European】【Great Vowel Shift】
第１５回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (提出物を含む) 40%、期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：指定された範囲の予習を行う
事後学習：学習内容の復習を行い、重要な専門用語を中心にノートを作成する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語学概論 【昼】

キーワード　/Keywords

原書講読 【昼】

担当者名 /Instructor　齊藤　園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	グローバル化社会の諸相について、知識と理解を深める。
技能	専門分野のスキル	●	自ら調査・研究を行って、諸問題を多角的に捉え、思考することができる。
	英語力	●	英語で書かれた文献や学術論文などを正確に理解する高度な英語力を身に付ける。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

原書講読	ENG312M

授業の概要 /Course Description

世界的な栄養不良と飢餓問題を主題とし、国連や関連機関の文書や関連記事を読み進める。英語読解力を培うとともに、グローバルな問題に関わる国際社会の取り組みを理解し、その理解に基づいて自らの役割を志向する態度を身につけることを目指す。

教科書 /Textbooks

授業内で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『国連英検特A級・A級準拠　テーマ別　時事英語単語集』日本国際連合協会編、三修社、2008年。
○『グローバル・エキスパートを目指す　上級時事英文法集』日本国際連合協会編、三修社、2012年。
○『国連英検過去問題集 [2013・2014実施] 』E級ー特A級、日本国際連合協会編、メディアイランド、2015年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　Introduction（授業の概要、成績評価方法などの説明）
第2回　国際連盟と国際連合　The League of Nations and the United Nations
第3回　国際連合憲章：前文　The Charter of the United Nations: Preamble
第4回　国際連合憲章：主文　The Charter of the United Nations: Body of the Charter
第5回　国際連合の機構　The Structure of the United Nations
第6回　持続可能な開発目標：位置付け　Sustainable Development Goals: 17 Goals
第7回　持続可能な開発目標：Zero Hunger「飢餓をゼロに」: Sustainable Development Goals and indicators
第8回　UNESCO: Organization and member countries
第9回　UNESCO: Objectives and themes
第10回　UNESCO: Main Programmes
第11回　Presentation
第12回　アジア太平洋地域における飢餓問題と教育の役割
第13回　日本における栄養不良と飢餓
第14回　世界的な栄養不良と飢餓
第15回　Review

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（発表・課題提出）…80%　　小テスト…20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに与えられた課題に取り組んでおくこと
授業終了後には授業の内容を反復し課題等に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

・2018年第9回日本大学英語模擬国連（JUEMUN 2018）に参加し、ユネスコ会議を想定して「世界的な栄養不良と飢餓」（World Malnutrition and Hunger）について他大学の学生と議論する活動を授業で培う能力の実践的修得の場の一つとします。宿泊を伴う研修で、参加は任意です。
・一部の活動について他大学の学生と連携して行う場合があります。

原書講読 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業は議論形式で進めるので、議論に積極的に参加してください。

キーワード　/Keywords

国際連合、持続可能な開発目標（SDGs）、UNESCO、栄養不良、飢餓、アクティブ・ラーニング

国際関係概論 【昼】

専門教育科目
専門基礎科目
必修

担当者名 /Instructor　国際関係学科教員

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会科学の基本的な知識や個々の地域の特性についておおよそ理解する。
技能	専門分野のスキル	●	一定の方向付けを受けて、自分の力で、情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際関係概論	IRL100M

授業の概要 /Course Description

新入生が中等教育までに習得した知識を大学の専門教育に接合するため、双方をにらんだテーマ・素材を用いながら、学生自身に考える機会を提供することを目的とする。多様な地域を対象に、国民国家を中心とする国際社会の形成・変容や人々が生活する社会・環境の変化を踏まえて、現在の世界が抱える諸問題を検討する。

教科書 /Textbooks

授業で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1 ガイダンス
2 文章作成、図書館の活用（１）【新聞の活用】【図書館ツアー】
3 文章作成、図書館の活用（２）【新聞の活用】【図書館ツアー】
4 近代国際社会の形成 【ウェストファリア体制】 【封建制】【植民地建設】
5 国民国家とナショナリズム【国民】【革命】
6 社会主義・共産主義【マルクス主義】【一国社会主義】
7 人の国際移動【移民】【同化】【国民統合】
8 植民地化と脱植民地化【国民国家】【帝国主義】【権威主義体制】
9 東アジアのナショナリズム【歴史克服】【和解】
10 文学作品における国際関係【文化的アイデンティティ】
11 国際関係に対する3つの見方【リアリズム】【リベラリズム】【コンストラクティヴィム】
12 戦争の違法化と集団安全保障【国際連盟】【国際連合】【集団自衛権】
13 新自由主義と貧困・格差【ワシントン・コンセンサス】【絶対的貧困】【相対的貧困】
14 地球環境問題【持続可能な開発】【京都議定書】【排出量取引】
15 グローバリゼーションと地域主義【グローバリズム】【FTA】

成績評価の方法 /Assessment Method

小レポート（80%）、期末レポート（20%）
期末レポートの提出は必須である。再提出を求める場合がある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の担当者の指示に従うこと。授業終了後には復習を行うこと。

国際関係概論 【昼】

専門教育科目
専門基礎科目
必修

履修上の注意　/Remarks

授業の計画と進め方は変更の可能性がある。授業でのアナウンスと掲示に注意すること。
授業中の私語は厳禁とする。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

質問などは授業中にするのが望ましいが、復習時に出てきた疑問などについてはできるだけオフィス･アワーを利用すること。

キーワード　/Keywords

国際関係の争点 【昼】

専門教育科目
専門基礎科目
必修

担当者名 /Instructor　大平　剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	複雑な現代の国際社会の諸相を捉え、その相互連関性について理解している。
技能	専門分野のスキル	●	国際社会が抱える課題について情報を収集し、分析や調査ができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際関係の争点	IRL101M

授業の概要 /Course Description

この講義では、現代の国際社会が抱える様々な課題を取り上げ、その課題を解決するために取り組まれている諸活動を考察します。その際、単に諸問題の表層を捉えるのではなく、解決を困難にしている要因を歴史的文脈からも分析します。また、様々な課題が互いに関連し合っていることを横断的に捉え直すことで、複雑な現代世界の諸相を捉える視点を養います。

教科書 /Textbooks

特に指定はありません。毎回、レジュメを配布します。また、テーマに関係する文献をその都度、提示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

滝田賢治・大芝亮・都留康子『国際関係学–地球社会を理解するために』（第2版）有信堂高文社、2017年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　「変化する国際政治経済秩序」【新興国】【BRICS】【G20】
第2回　「アジアにおける安全保障環境の変化」（１）【中国の台頭】【リバランス戦略】
第3回　「アジアにおける安全保障環境の変化」（２）【防衛装備移転三原則】【集団的自衛権】
第4回　「安全保障観の変容」【人間の安全保障】【国家安全保障】【恐怖からの自由】【欠乏からの自由】
第5回　「保護する責任」（１）【人道的介入】【コソヴォ紛争】【ルワンダ内戦】【内政不干渉原則】
第6回　「保護する責任」（２）【介入と国家主権に関する国際委員会】
第7回　「核兵器を巡る議論と展開」【NPT体制】【核兵器禁止条約】
第8回　「人の非自発的移動」【難民】【国内避難民】【ディアスポラ】
第9回　「アフリカ情勢」【ガバナンス】【汚職・腐敗】【北京コンセンサス】
第10回　「感染症」　【HIV/AIDS】【結核】【マラリア】
第11回　「エネルギー問題」　【原子力】【再生可能エネルギー】
第12回　「ジェンダー」【ジェンダー・ギャップ・インデックス】
第13回　「食と環境」【遺伝子組み換え作物】
第14回　「国家間貿易」【WTOレジーム】【TPP】【FTA/EPA】
第15回　「フェアトレード」【フェアトレードタウン】【倫理的消費】

※順番は入れ替わる可能性があります。また、外部講師を招いての特別講演会が行われる可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

提出物・・・ 20%　　学期末試験・・・ 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配布するレジュメを前週の金曜日を目処にMoodleにアップします。受講生は事前に目を通しておくように。事後学習として、課題レポートを課します（1回）。

履修上の注意 /Remarks

授業で扱うテーマは限定されています。国際関係について関心を深めるためには、新聞を必ず読みましょう。また、授業で紹介する新書などを数多く読むようにして下さい。

国際関係の争点 【昼】

専門教育科目
専門基礎科目
必修

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業中の私語は厳禁です。他の受講生の迷惑になりますので、途中入退室は原則として禁止します。

キーワード　/Keywords

国際関係史 【昼】

専門教育科目
専門基礎科目
必修

担当者名 /Instructor　中野・金

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際関係史について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際関係史に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際関係史	IRL201M

授業の概要 /Course Description

近現代の世界史のなかに東アジア三国(日本、清国・中国、朝鮮・韓国)の発展を位置づけ、国際関係史と地域研究への理解を深める。歴史は「過去と現在との対話」と言われるが、実は「過去と将来との対話」でもある。したがって、過去と現在の「東アジアの中の日本」を考えることや、将来の「東アジア地域秩序の構想・構築」に有意義な観点を見出すことを目指す。

教科書 /Textbooks

第1回～第7回、長田彰文『世界史の中の近代日韓関係』(慶応義塾大学出版会　2013)
第8回～第15回、五百旗頭真編『第3版補訂版　戦後日本外交史』(有斐閣　2014)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンスの時、あるいは授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回　授業のガイダンス、教科書の「はじめに」
2回　朝鮮の開国と当時の国際情勢　【東アジア国際秩序】【征韓論】【朝鮮問題】
3回　日清・日露戦争と朝鮮(韓国)　【大韓帝国】【日英同盟】【日露交渉】
4回　日本の韓国侵略と列国　【保護国化】【統監政治】【韓国併合】
5回　日本の朝鮮統治と国際関係　【武断政治】【三・一運動】【文化政治】
6回　国際情勢の緊迫と朝鮮統治　【満州事変】【大陸兵站基地】【日中戦争】
7回　日本の敗戦と朝鮮の南北分断　【皇民化政策】【太平洋戦争】【朝鮮問題】

8回　第二次世界大戦から冷戦へ　【占領政策】【日本国憲法制定】【封じ込め戦略】
9回　帝国支配の解体　【脱植民地化】【日米安全保障条約】
10回　革命の時代　【中国革命】【中ソ同盟】【朝鮮戦争】
11回　ヴェトナム戦争と戦後秩序の変容　【高度経済成長】【ヴェトナム戦争】【ニクソン政権】
12回　デタントから新冷戦へ　【デタント戦略】【米中接近】【石油危機】
13回　冷戦の終結　【軍縮】【湾岸戦争】
14回　21世紀の世界　【テロとの戦い】
15回　授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート2本(1回分の量はＡ４用紙3～4枚程度)　50%　　期末テスト　50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、予習内容を支持するので、それに沿って勉強すること。また、教科書を用いて、関連事項を教科書等で復習すること。

履修上の注意 /Remarks

二人の先生の担当授業です(1～7回金鳳珍、8～15回中野博文)。
予授業開始前までに予め教科書で授業の該当箇所を読み、授業終了後には教科書で復習すること。

国際関係史 【昼】

専門教育科目
専門基礎科目
必修

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

国際関係　歴史　東アジア

国際関係の理論 【昼】

専門教育科目
専門基礎科目
必修

担当者名 /Instructor　阿部　容子 / ABE YOKO / 国際関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際関係の理解に必要な基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際関係に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際関係の理論	IRL200M

授業の概要　/Course Description

グローバリゼーションの進展は国際関係に大きな変容をもたらしました。それは、紛争の形態が国家間戦争から内戦、テロといった錯綜した状況へと移行したこと、国際機関や多国籍企業、国際NGOといった国家以外のアクターの影響力が増大したこと、各国が単独では解決しえない「グローバル・アジェンダ」への対応の必要性に注目が集まるようになったことなどで表されます。

この授業では、このような国際社会の新たな動向と課題を理解するための方法と基礎知識の獲得をめざします。具体的には、第二次世界大戦後の冷戦期からポスト冷戦期である今日に至るまでの国際関係の流れや国際問題に焦点をあてながら、国際関係の主要な理論について学習します。

教科書　/Textbooks

テキストは特に指定せず、毎回レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○山田高敬、大矢根聡 [編]『グローバル社会の国際関係論』 [新版] (有斐閣、2011年)。
○吉川直人、 野口和彦 [編]『国際関係理論』 [第2版] (勁草書房、2015年)。
○村田晃嗣、君塚直隆、石川卓、他 [著]『国際政治学をつかむ』 (有斐閣、2009年)。
○原彬久 [編]『国際関係学講義』 [第4版] (有斐閣、2011年)。

その他の文献については授業中に紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

(【】内はキーワード)
1. 国際関係学とは何か【理想主義、現実主義】
2. 近代国家の誕生と特質【主権、国民国家】
3. 国際関係の分析視角【自由主義、現実主義、マルクス主義】
4. リアリズム【アナーキー、パワー・ポリティクス、勢力均衡】
5. ネオリアリズム【覇権安定、二極システム】
6. 安全保障体制 (1) : 冷戦の始まりと終焉【安全保障のジレンマ、CTBT】
7. リベラリズム【相互依存、機能主義】
8. 前半の総括
9. ネオリベラリズム【国際レジーム、制度】
10. コンストラクティヴィズム【アイディア、間主観性】
11. 国際貿易体制の成立と変容【GATT、WTO、FTA】
12. 国際通貨体制の成立と変容【ブレトンウッズ体制、IMF】
13. 安全保障体制 (2) : 冷戦の終結と人道的介入【強制措置、人道的介入】
14. 人権の国際問題化と多様なアクター【人権、企業の社会的責任】
15. 講義のまとめ【グローバリゼーションと国際社会】

国際関係の理論 【昼】

専門教育科目
専門基礎科目
必修

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト：20%　ミニレポート：20%　期末試験：60%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前に参考文献を読んでおくこと。
授業後は必ず復習すること。

履修上の注意　/Remarks

日頃から国際関係に関する出来事について関心を持ち、日々新聞を読む習慣を身につけておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

中国研究概論 【昼】

専門教育科目
専門基礎科目
選択

担当者名 /Instructor　下野　寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国の特性について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	中国に関連する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国研究概論	ARE111M

授業の概要　/Course Description

この授業は、主に社会科学的な観点から中国を研究するための基礎知識を養うことを目的とする。建国から間もなく70年を迎えようとする中華人民共和国は経済・政治・軍事の面で世界有数の大国となったが、その未来は決して楽観できない状況にある。日本にとって重要な隣国であり、国際社会へも大きな影響を及ぼす中国を、どのように理解すればよいのか。そのような問題意識をもって、共産党一党独裁下の政治経済体制への理解を深めるとともに、経済格差や少数民族問題など多くの課題を抱える中国の現状について解説する。

教科書　/Textbooks

初回の授業で知らせる。
その他、授業中に配布する資料・レジュメ。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

興梠一郎『中国激流　13億のゆくえ』岩波新書、2005年 (○)。
下野寿子『中国外資導入の政治過程 - 対外開放のキーストーン』法律文化社、2008年 (○)。
毛里和子『日中関係　戦後から新時代へ』岩波新書、2006年 (○)。
遊川和郎他著『中国との距離に悩む周縁』亜細亜大学アジア研究所、2016年 (○)。
吉岡桂子『愛国経済　中国の全球化』朝日新聞出版、2008年。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　イントロダクション～地域研究としての中国研究、授業の進め方について
２回　中国研究の基礎知識
３回　共産党一党支配体制I【経済体制】
４回　共産党一党支配体制II【政治体制】
５回　中央と地方
６回　メディアと情報統制
７回　経済格差I【所得】
８回　経済格差II【社会、民族】
９回　民族
１０回　台湾I【日台関係】
１１回　台湾II【中台関係】
１２回　中国と国際関係
１３回　中国脅威論
１４回　日中関係
１５回　まとめ
(順番が入れ替わることがあります)

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト (3回)　…　90%　　日常の授業への取り組み　…　10　%

中国研究概論 【昼】

専門教育科目
専門基礎科目
選択

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で資料・文献を指定した場合は期日までに必ず熟読しておくこと。
授業理解に有益な読書、映像視聴などを自主的に行うこと（図書館のDVDなどを活用してください）。
新聞（紙面）を読む習慣をつけること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

中国の変化は大変激しいので、日々、新聞の紙面で何が起きているのか確認することが重要です。授業では、その日の講義内容と関連する最新ニュースを取り上げることがあります。

キーワード　/Keywords

朝鮮半島研究概論 【昼】

専門教育科目
専門基礎科目
選択

担当者名 /Instructor　李　東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	近現代の朝鮮半島情勢について、基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	朝鮮半島情勢について、社会科学的な調査・分析を行うことができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

朝鮮半島研究概論	ARE112M

授業の概要　/Course Description

いま不幸にも朝鮮半島は国土が南北に分断されているが、その社会の固有の文化は長きにわたって、日本社会に様々な影響を及ぼしてきた。この講義では、日本との関係を念頭に置きつつ、近代以来の朝鮮半島の歩みを概観することで、この最も親しい隣人と真の和解を遂げるための、基礎的な知識を習得する。なお、近代以降、朝鮮半島は大国の利害が錯綜してきた国際政治の中心舞台であったがゆえに、その経験を学ぶことで、東北アジア国際政治に対する理解を高める。

教科書　/Textbooks

○　趙景達　『近代朝鮮と日本』（ 岩波新書 ）（ 東京：岩波書店、2012年 ）、846円（ 税別 ）。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○　徐仲錫 著・文京洙訳　『韓国現代史60年』（ 東京：明石書店、2008年 ）、2400円（ 税別 ）。
○　ブルース・カミングス　著、 横田安司・小林知子訳『現代朝鮮の歴史–世界のなかの朝鮮』（ 東京：明石書店、2003年 ）。
その他、授業中に配布する資料・レジュメ。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション：朝鮮半島をどうみるか
第2回　近代日本と朝鮮①：征韓論、日朝修好条規、壬午軍乱
第3回　近代日本と朝鮮②：日清戦争、甲申政変、大韓帝国
第4回　近代日本と朝鮮③：日露戦争、日韓併合
第5回　日本の植民地支配①：近代化論vs.収奪論など
第6回　日本の植民地支配②：反日運動、皇民化政策など
第7回　日本の植民地支配③：日本の戦争と朝鮮半島
第8回　解放と独立、南北分断
第9回　朝鮮戦争
第10回　李承晩政権の歩みと北朝鮮の社会主義建設
第11回　朴正熙政権の歩みと金日成の選択
第12回　日韓国交正常化交渉における争点、日朝関係の展開
第13回　デタント、産業化競争と民主化への道程
第14回　南北関係と東北アジア国際政治
第15回　まとめ：2つの朝鮮問題
（注）授業の進捗度などによって変更の可能性あり。

成績評価の方法　/Assessment Method

コメントカード・・・ 50%、読書感想文・・・ 20%、レポート・・・ 30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前にテクストなど指定された資料をきちんと読んだうえで授業に臨むこと。

履修上の注意　/Remarks

授業終了後には復習を行い、必ずコメントカードを提出すること。

朝鮮半島研究概論 【昼】

専門教育科目
専門基礎科目
選択

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

少々難易度の高い講義になるので集中して受講すること。

キーワード　/Keywords

近代、近代化、植民地、解放、分断、日韓関係、民主化、産業化、朝鮮半島問題、北朝鮮

東南アジア研究概論 【昼】

専門教育科目
専門基礎科目
選択

担当者名 /Instructor　篠崎　香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	東南アジアについて基礎的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	東南アジアに関する基本的な情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

東南アジア研究概論	ARE113M

授業の概要　/Course Description

この授業では、東南アジアという地域の特徴をとらえるとともに、自らを東南アジアという地域に位置づけている11カ国のうち主な国を取り上げて、各国の特徴をとらえることを目的とする。東南アジアに関する時事問題の読み解きや、東南アジアに関する専門書を読みこなすうえで必要となる基本的な地理や歴史、各国の現代政治史と今日的な課題などを中心に説明していく。

教科書　/Textbooks

講義資料を毎回配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○弘末雅士『東南アジアの港市世界』岩波書店 、2004年。
○清水一史・田村慶子・横山豪志編著『東南アジア現代政治入門』ミネルヴァ書房、2011年。
このほかにも講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　イントロダクション
2回　「東南アジア」という地域概念の展開＆地理の把握
3回　多様な東南アジア世界：自然環境、言語、宗教
4回　東南アジアの近現代史
5回　島嶼部諸国のプロフィール（１）インドネシア
6回　島嶼部諸国のプロフィール（２）マレーシア
7回　島嶼部諸国のプロフィール（３）シンガポール
8回　島嶼部諸国のプロフィール（４）フィリピン
9回　東南アジアと日本（１）第2次世界大戦前まで
10回　大陸部諸国のプロフィール（１）ベトナム
11回　大陸部諸国のプロフィール（２）カンボジア
12回　大陸部諸国のプロフィール（３）タイ
13回　大陸部諸国のプロフィール（４）ミャンマー
14回　東南アジアと日本（２）第2次世界大戦以降
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト（3回）　…　40%　　期末試験　…　60%

小テスト実施日に欠席する / した場合、それがやむを得ない理由によることを証明する書類があれば、次の授業までに別途日時を設定して追試を行うことが可能です。欠席が分かり次第、メールにて担当者にご連絡ください。追試にはなるべく柔軟に対応していきます。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

小テストを3回実施する予定です。小テストの成績は成績評価全体の4割を占めます。日ごろの授業への取り組みがたいへん重要となります。授業終了後は授業の内容を復習するよう心がけてください。

東南アジア研究概論 【昼】

専門教育科目
専門基礎科目
選択

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

入門演習 【昼】

担当者名 /Instructor　下野　寿子　他５名

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	社会科学の立場から、自分の力で、基本的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を探求する方法を学ぶことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見を参考にしながら、自己の意見を形成し、表現する方法を学ぶことができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人としての倫理観と目的意識について、基本的な題材から考えることができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を、様々な題材を用いて深めることができる。
	コミュニケーション力	●	他者と円滑にコミュニケーションする力を身につける。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

入門演習	SEM110M

授業の概要　/Course Description

入門演習は、皆さんが大学で今後学習を進める上で最低限必要となる技法の習得を目指すために行なう演習形式の科目です。いわば大学での勉学に関するイロハを身につけるための演習です。
「調べること」、「書くこと」、「レジュメを作ること」と「プレゼンテーションを行なうこと」に重点をおきます。
なお、外部講師を招くことがありますので、その際は下記の授業計画・内容の一部が修正されます。

教科書　/Textbooks

授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

この授業では、各自あるいはグループで取り組む作業が中心になります。以下、授業で行なう課題に沿って各回の進行を例示していますが、実際の内容は担当教員によって異なります。

第1回
ガイダンス
第2 - 3回
文献をどのように検索して入手するのか
第4 - 5回
資料をどのように読むのか
第6回
盗用とは何か、それをどのように防ぐのか
第7 - 11回
文章、レポートおよび小論文をどのように作成するのか
第12 - 13回
プレゼンテーションに向けたレジュメをどのように作成するのか
第14 - 15回
プレゼンテーションをどのように行うのか

成績評価の方法　/Assessment Method

参加状況、課題への取り組み状況にしたがって評価します (100%)。ただし、最終レポートを提出していない場合は、他の部分の成績にかかわらず、不可 (D) となります。

入門演習 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回、次回の課題を指示しますので、注意してください。また、宿題や授業内容の振り返りを忘れないようにしてください。

履修上の注意　/Remarks

入門演習は必修科目ですので、指定されたクラスで必ず履修してください。
演習形式の授業で主体になるのは履修生です。皆さんの積極的な参加を求めます。
授業前に担当教員の指示にしたがって作業を行ない、授業後は復習を行なうこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

基礎演習 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

担当者名 /Instructor　金　鳳珍　他５名

履修年次　2年次 /Year　単位　2単位 /Credits　学期　1学期 /Semester　授業形態　演習 /Class Format　クラス　２年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	社会科学の立場から、自分の力で、応用的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を探求する姿勢を身につける。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見を参考にしながら、自己の意見を形成し、自分なりに表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人としての倫理観と目的意識について、応用的な題材から考えることができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を、専門的な観点から深めることができる。
	コミュニケーション力	●	円滑なコミュニケーション力を背景として、協力的に目標を達成する。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習	SEM210M

授業の概要　/Course Description

基礎演習は、入門演習で獲得した知識・力を伸ばすとともに、3年次の専門演習の学習に必要な技法の習得を目指す科目です。学術的な文献の読解に挑戦し、「調べる」、「書く」、「レジュメを作る」、「プレゼンテーションを行う」力を養います。

教科書　/Textbooks

授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

この授業では、各自あるいはグループで取り組む作業が中心になります。以下、授業で行う課題に沿って各回の進行を例示していますが、実際の内容は担当教員によって異なります。

第1回　ガイダンス
第2～5回　文献をどのように読むのか1
第6～7回　プロジェクトワーク1
第8～10回　文献をどのように読むのか2
第11～14回　プロジェクトワーク2　（このうち1回は合同プレゼン大会）
第15回　授業のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

参加状況、課題への取り組み状況にしたがって評価します（100%）。ただし、最終レポートを提出していない場合は、他の部分の成績にかかわらず、不可（D）となります。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前に担当者の指示に沿って作業をおこない、授業後はその振り返りをしてください。

履修上の注意　/Remarks

基礎演習は必修科目です。必ず履修して下さい。
演習形式の授業で主体になるのは履修生です。皆さんの積極的な参加を求めます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

専門演習I 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

担当者名 /Instructor　大平　剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I	SEM311M

授業の概要　/Course Description

2018 年度のこの演習では、2016年度2017年度と同様に、前半では貧困問題を倫理の問題として捉え、なぜ援助をしなければならないのかを哲学的に考えます。後半は、昨今の国際開発協力を取り巻く環境の変化について考察を行い、現状を把握するとともに、開発協力の展望について考察します。

教科書　/Textbooks

前半：デイビッド・ヒューム『貧しい人を助ける理由』日本評論社、2017年。（確定。受講生は第1回授業までに購入しておくこと）
後半：浅沼信爾・小浜裕久『ODAの終焉』勁草書房、2017年。（予定。変更の可能性有り）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション
第2回　『貧しい人を助ける理由』第1章の輪読
第3回　第2章の輪読
第4回　第3章の輪読
第5回　第4章の輪読
第6回　第5章の輪読と全体のまとめ
（以下は、浅沼・小浜（2017）を輪読する場合の予定）
第7回　『ODAの終焉』序章
第8回　第1章の輪読
第9回　第2章の輪読
第10回　第3章の輪読
第11回　第4章の輪読
第12回　第5章の輪読
第13回　第6章の輪読
第14回　終章の輪読
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

課題・・・７０％、ゼミへの貢献度・・・３０％
（課題は事前学習の内容）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習として、毎回の輪読箇所についてのまとめをゼミの前日までに提出してもらいます。
また、事後学習として、毎回のゼミでできた新たな疑問点について調べ物をしてもらいます。

専門演習I 【昼】

履修上の注意　/Remarks

受講生には、事前に関連の文献を読み、毎回のゼミで自分の意見を明確に述べることが求められます。
国際協力論IおよびIIを履修済みであることが望ましく、未履修の場合は、この演習と併せて受講すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

演習で一番必要なことは積極的な姿勢です。恐れずに議論に参加しましょう。

キーワード　/Keywords

専門演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　李　東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I	SEM311M

授業の概要　/Course Description

文献講読を通じて朝鮮半島を含む東北アジアの政治外交に関する知識を広く且つ深く習得するとともに、とりわけ朝鮮半島を取り巻く政治事象について自ら考える力を養う。受講生は自らの研究テーマを絞っていく。

教科書　/Textbooks

オリエンテーションの際に知らせる。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

受講生の関心に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

下記のスケジュールに加えて適宜各自の研究報告を行う。詳細は受講生と相談のうえ決定する。
第1回　イントロ (進め方、テキスト・参考文献の紹介、報告順番の決定など)
第2回　共通テキストの輪読・討論
第3回　同上
第4回　同上
第5回　同上
第6回　同上
第7回　同上
第8回　同上
第9回　同上
第10回　同上
第11回　同上
第12回　同上
第13回　同上
第14回　同上
第15回　まとめ
(ゼミの進捗度などに応じて宿泊型研修 (韓国あるいは国内) を行う。)

成績評価の方法　/Assessment Method

報告・討論への参加度　70%、提出物 (レポートを含む)　30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
ゼミの理解に有益な読書等を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

受講生には、ゼミ開始前までに関連文献を読み、毎回のゼミで自分の意見を明確に述べることが求められる。

専門演習I 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

恐れずに討論に参加しましょう。

キーワード　/Keywords

専門演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I	SEM311M

授業の概要 /Course Description

比較政治思想史の観点から、東アジア地域研究を行うこと。東アジア三国（日本、中国、朝鮮・韓国）の近代政治思想史を（本ゼミのキーワードである）アジアから考える視点と文明論的な視点で読み直す。

教科書 /Textbooks

授業中に適宜必要な教材をプリントして配布し、テキストとして活用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○金鳳珍『東アジア「開明」知識人の思惟空間　鄭観応・福沢諭吉・兪吉濬の比較考察』（九州大学出版会、2004）
○李暁東『近代中国の立憲思想　厳復・楊度・梁啓超と明治啓蒙思想』（法政大学出版会、2005）
○大塚健洋『近代日本政治思想史入門』（ミネルヴァ書房、2008）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

ゼミ生は授業中に配布したテキストや参考文献から担当された部分を解読し、レジュメを作成し報告する。そして参加者全員の質疑・討論を行う。ゼミ担当教員は質疑・討論を仲介しつつ、解説・説明を補足する。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席、報告、討論、質疑応答を基に厳正に行う（100%）。事前連絡のない欠席や納得できない欠席は、1回につき5%減点。課題の報告や提出を怠った時には、その事情によるが、10%減点。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストは事前に配布するので、必ず予習して参加する事。毎回のゼミで紹介された関連文献や参考文献を自主学習すること。

履修上の注意 /Remarks

東アジア地域研究に関心を持ち、多数の分権を解読しようという意欲をもつこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

全員参加型のゼミで、まじめに勉強しつつ、アットホームな雰囲気を醸し出すこと。ときに飲み会などを開き、親密関係を築くこと。

キーワード /Keywords

アジアから考える視点、文明論的な視点

専門演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　阿部　容子 / ABE YOKO / 国際関係学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I	SEM311M

授業の概要　/Course Description

この演習では、国際政治経済学（IPE）の分析視角を用いて、相互にかつ多層的に関連しあう国際政治経済の諸問題を自分なりに捉え、分析し、発表できるようになることを目的とする。専門演習Iでは主に、IPEの基本的な理論について学ぶ。

教科書　/Textbooks

最初のゼミの時間に輪読用の文献を決める。さしあたり以下の文献を選定対象として考えている。
野林健『国際政治経済学入門』（新版第4刷）、有斐閣、 2005年
清水耕介『市民派のための国際政治経済学』社会評論社、2002年
宇沢弘文『社会的共通資本』、岩波新書、2009年
広井良典『ポスト資本主義』、岩波新書、2015年

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○田所 昌幸『国際政治経済学』名古屋大学出版会、 2008年
○石川城太『国際経済学をつかむ』有斐閣、2013年
○桜井 公人　編『グローバル化の政治経済学』晃洋書房、1998年
○坂井昭夫『国際政治経済学とは何か』青木書店、1998年

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション（テキストの決定、進め方の説明、報告順番の決定など）
第2回　グループワーク
第3回　レポートテーマの発表
第4回　文献の輪読とディスカッション①
第5回　文献の輪読とディスカッション②
第6回　IPEに関連するDVD教材の利用①
第7回　レポートの中間報告
第8回　IPEに関連するDVD教材の利用②
第9回　　文献の輪読とディスカッション③
第10回　文献の輪読とディスカッション④
第11回　文献の輪読とディスカッション④
第12回　文献の輪読とディスカッション⑤
第13回　レポートの報告①
第14回　レポートの報告②
第15回　レポートの報告③

成績評価の方法　/Assessment Method

出席・授業への貢献…30%　各自の報告…40%　レポート…30%

専門演習I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・メール等を通じて配布した関連課題を準備の上授業に臨むこと。
・輪読は毎回報告者を決め、報告者は担当する章の内容とそれに関連する事柄をカバーしたレジュメを用意して報告する。報告者以外も取り扱う章に目を通し、論点を用意しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

・個人レポートの作成は計画的に進め、必要に応じて教員との面談を行うこと。
・ゼミ合宿や他大学のゼミとのプレゼン大会を行う可能性がある。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

図書館、オンラインデータベース、相互貸借などを利用して必要な文献・資料を収集する労力を惜しまないこと。

キーワード　/Keywords

専門演習I 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

担当者名 /Instructor　篠崎　香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I	SEM311M

授業の概要　/Course Description

東南アジア地域研究に関する基本的な文献を輪読し、東南アジアに関する理解を深める。卒論において、自分が興味・関心を持って取り組めそうな地域・時代・テーマを見つけることを目標とする。

教科書　/Textbooks

清水一史・田村慶子・横山豪志編著『東南アジア現代政治入門』
その他のテキストは授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　イントロダクション
2回～14回　テキストの輪読
　　前半は『東南アジア現代政治入門』を扱う。
　　後半は受講者の興味・関心を踏まえて、文献を別途指定する。
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業における議論での貢献 … 30 %　授業前提出課題 … 30 %　各自報告 … 40 %
報告担当者が無断で欠席した場合、あるいは正当な理由がない欠席の場合、成績評価の対象としない。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回担当者を決めてテキストの内容を要約してもらい、それをもとに討論する。自分が報告担当でない箇所についてもテキストは熟読するように。テキストの内容について、授業の前日までに、疑問点やコメントなどを送ってもらいます（授業前提出課題）。

履修上の注意　/Remarks

専門演習I 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

専門演習I 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

担当者名 /Instructor　下野　寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I	SEM311M

授業の概要　/Course Description

文献講読を通じて中華圏に関する知識を広く深く習得します。輪読によって読解能力とプレゼンテーション能力を養い、議論を通じて論理的な思考と質疑応答能力の向上を目指します。また、地域研究にとって重要なフィールドワークの実践を通じてインタビューや調査方法を学びます。
※国内外でのフィールドワーク（海外研修を含む）は、休業期間内に実施します。

教科書　/Textbooks

初回の授業で知らせます（事前に掲示することもあるので、掲示板に注意すること）。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

受講生の関心に応じて適宜紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション（テキストの紹介、報告順番の決定、フィールドワークに関する説明など）
第2回　ブックレビュー１
第3回　ブックレビュー2
第4回　文献の輪読１
第5回　文献の輪読２
第6回　文献の輪読３
第7回　フィールドワークの準備１（現地情報の確認と海外研修の安全管理）
第8回　文献の輪読4
第9回　文献の輪読5
第10回　文献の輪読６
第11回　フィールドワークの準備２（訪問地域の選定について）
第12回　文献の輪読７
第13回　文献の輪読８
第14回　文献の輪読９
第15回　フィールドワークの準備３（インタビューの準備）

※課外活動としてゼミ合宿または海外研修を行う可能性があります。

成績評価の方法　/Assessment Method

報告・討論への参加度・発言内容・提出物 … 50%　　ゼミでのその他の貢献…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

詳細はゼミ募集の際に別紙にて提示します。
授業の課題以外に、視聴覚資料や文献講読に自主的に取り組んでください。

専門演習I 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

履修上の注意　/Remarks

ゼミでは各自の学習・研究の進展を基本としながら、集団でプロジェクトを行うための協力が求められます。時間厳守・締切厳守、相手の話をよく聞いてポイントを確認する、無理のない計画を立てて着実に遂行することを心がけましょう。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この演習では中国・台湾を中心に議論しますが、これら以外の中華圏や、非中華圏の文献も読むことをお勧めします。そうした積み重ねが、情報源の探し方に関する知識を深めたり、比較の視点と教養を身につけたりすることにつながります。

キーワード　/Keywords

専門演習I 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

担当者名 /Instructor　中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year　3年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　演習
クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I	SEM311M

授業の概要 /Course Description

政治学の基本文献を輪読する

教科書 /Textbooks

Edited by Quentin Skinner and Russell Price,
Machiavelli: The Prince (Cambridge university press, 1988)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回ガイダンス　第2回 introduction　第３回　１−３章
第4回１−３章　第5回４−６章 第6回７章　第7回８−１０章　第8回１１−１２章
第9回１３−１６章　第10回１７−１９章　第11回２０—２３章　第12回２４—２６章
第13回設定されたテーマに基づく討論　第14回自由討論　第15回　総括

成績評価の方法 /Assessment Method

報告及び授業への参加度　…　７０　％　　レポート　…　３０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、予習内容を支持するので、それに沿って勉強すること。また、参考文献を用いて、関連事項を教科書等で復習すること。

履修上の注意 /Remarks

この講義の内容はアメリカ政治や国際関係史の授業をふりかえって学習すると理解が深まります。
毎回、参考文献で予習し、授業終了後は、内容を復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語文献なので十分に予習復習をして授業に望んでください。

キーワード /Keywords

政治思想　近代　現実主義

専門演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I	SEM311M

授業の概要 /Course Description

近現代イギリス(アイルランドも含む)に関する諸問題を扱い、学問の方法に触れる。

教科書 /Textbooks

必要な文献を授業の最初に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて各自で調査しなければならない。個別の相談に応じる。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 イントロダクション
2回 共通の基礎的な日本語文献の輪読
3回 同上
4回 同上
5回 同上
6回 同上
7回 同上
8回 同上
9回 同上
10回 同上
11回 同上
12回 同上
13回 同上
14回 同上
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告･発言の内容 … 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告の準備、指摘された問題点の確認を行うこと。

専門演習I 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

履修上の注意　/Remarks

授業前は報告準備を丁寧におこない、授業後は次の課題をよく吟味すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

専門演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　山本　直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 /Year　3年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　演習
クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I	SEM311M

授業の概要　/Course Description

国際機構についてみずから「問い」をたてて、それについてともに考え、掘り下げていく。それが、このゼミの目標です。
主な関心は、次のようなものです。
・ 国際機構はなぜ設立され、活動しているのか。それに加盟する国家とはどのような関係にあるのか。それは、人間の生活とありようにどのような影響を与えているのか。
・ 国連やEUの活動をどのように評価するか。
・ 国連PKOや近隣諸国との各種協力・連携に、日本はどのように関わるといいのか。
専門演習Iでは、テキストを講読しつつ、卒業論文のおよそのテーマを決めます。

教科書　/Textbooks

（１）ユヴァル・ノア・ハラリ（柴田裕之訳）『サピエンス全史　文明の構造と人類の幸福（上）』河出書房新社、2016年．1,900円（税別。値段は 2017年10月現在）。（２）ユヴァル・ノア・ハラリ（柴田裕之訳）『サピエンス全史　文明の構造と人類の幸福（下）』
河出書房新社、2016年．1,900 円（同上）。
以上の2冊を専門演習Iで用います。各自で購入し、いずれも一読したうえで初回の授業に持参してください。
紙媒体の新品を購入すること（電子版、中古は不可）。生協販売はしません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

国際関係学科編『リーディングリスト』参照のこと。
その他、授業で指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　はじめに
第2回　教科書講読（１）
第3回　教科書講読（２）
第4回　教科書講読（３）
第5回　教科書講読（４）
第6回　教科書講読（５）
第7回　教科書講読（６）
第8回　教科書講読（７）
第9回　教科書講読（８）
第10回　教科書講読（９）
第11回　教科書講読（10）
第12回　卒業論文に向けて（１）
第13回　卒業論文に向けて（２）
第14回　卒業論文に向けて（３）
第15回　まとめ

専門演習I 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

報告20%、参加80%
自身の報告は大切ですが、報告しない回の参加状況をそれ以上に重視します。
連絡のない欠席は、履修する意志がないものとみなします。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

自身の報告を準備する。報告の終了後は、復習を兼ねて議論の内容をあらためて整理すること。
他の履修生の報告に向けて、コメントするための準備を行なう。

履修上の注意　/Remarks

国際機構論I / IIの両方を履修することを推奨します。
国際人権論を未履修の場合も履修することを推奨します。
ゼミの卒業論文集が学科資料室に配置されています。学科生は自由に閲覧できます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

皆さんがゼミをつくってください。担当者はそれを全力で補助しますが、補助する以上のことはしません。

キーワード　/Keywords

専門演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I	SEM311M

授業の概要　/Course Description

国際関係及び世界情勢を経済の立場から理解し、自分の意見を発表できるようになることを目指す。この演習では、世界経済とアジア経済に関する本を購読して共通する基本的な理解を深めていき、自分なりのテーマを見つけて研究を深めていく。

教科書　/Textbooks

初回にいくつかの候補を示し、その中から選ぶ。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

随時紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　　イントロダクション（テキストの選定、報告順番の決定など）
第2～第14回　テキストの輪読と質疑応答（随時個別報告を入れる）
第15回　　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の学習状況…60%　　レポート…40%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

普段から新聞・雑誌などで国際情勢についての情報に接しておく。また、経済関連科目（経済学の基礎、世界経済論、東アジア経済論など）を履修しているなら、その授業内容を復習する。あるいは、経済学の入門書を読んでおく。

履修上の注意　/Remarks

ゼミでは発表担当者以外にも発言を求めます。該当箇所をあらかじめ読んでおいて、自分の意見を言えるようにしてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

普段から新聞や雑誌に目を通して、日本と世界の動向に関心と理解を深めるように心掛けて下さい。

キーワード　/Keywords

専門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　大平　剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ	SEM312M

授業の概要　/Course Description

2学期に行われるこの演習では、国際開発協力の今日的課題を英語文献を用いて学ぶとともに、課外で実施する海外フィールドワーク研修のための準備を隔週で行います。後者については、訪問先の社会、政治、経済、文化、歴史について、文献をもとに学習するとともに、訪問する援助機関でのインタビュー内容をグループワークを通して準備します。
※海外フィールドワーク研修は、休業期間内に実施します。

教科書　/Textbooks

使用する英語文献については、後日受講生と相談の上、決定します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○下村恭民『開発援助政策』日本経済評論社、2011年。
○下村恭民ほか『開発援助の経済学（第4版）』有斐閣、2009年。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　英語文献の輪読
第2回　海外研修実施国の社会
第3回　英語文献の輪読
第4回　海外研修実施国の政治
第5回　英語文献の輪読
第6回　海外研修実施国の経済
第7回　英語文献の輪読
第8回　海外研修実施国の文化
第9回　英語文献の輪読
第10回　海外研修実施国の歴史
第11回　英語文献の輪読
第12回　訪問先でのインタビュー準備
第13回　英語文献の輪読
第14回　訪問先でのインタビュー準備
第15回　海外研修についての危機管理

※課外活動として海外研修を行う予定です。

専門演習II 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

毎回の課題提出･･･７０％、報告と議論への貢献度･･･３０％

事前･事後学習の内容　/Preparation and Review

１学期と同様に、文献についてのまとめを前日までに提出してもらいます。事後学習としては、ゼミで出てきた新たな疑問点について調べ物をしてもらいます。

履修上の注意　/Remarks

受講生には、事前に関連の文献を読み、毎回のゼミで自分の意見を明確に述べることが求められます。
国際協力論IおよびIIを履修済みであることが望ましく、未履修の場合は、この演習と併せて受講すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

演習で一番必要なことは積極的な姿勢です。恐れずに議論に参加しましょう。

キーワード　/Keywords

専門演習II 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

担当者名 /Instructor　李　東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ	SEM312M

授業の概要　/Course Description

「朝鮮半島問題」を含む現代東北アジアの政治外交を理解するうえで重要な外交文書や研究論文などを輪読し、朝鮮半島をめぐる東北アジアの国際関係に関する知見をさらに高める。なお、指導の下で卒業論文のテーマをさらに絞り、関連文献を熟読する。

教科書　/Textbooks

オリエンテーションの際に知らせる。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

かかる外交文書や論文などのコピを配布する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

下記のスケジュールに加えて、輪読する外交文書などに対して適宜各自の研究報告を行う。詳細は受講生と相談のうえ決定する。
第1回　イント口 (ゼミの進め方、テキストの紹介、報告順番の決定など)
第2回　外交文書などの輪読・討論
第3回　同上
第4回　同上
第5回　同上
第6回　同上
第7回　同上
第8回　同上
第9回　同上
第10回　同上
第11回　同上
第12回　同上
第13回　同上
第14回　同上
第15回　まとめ
(ゼミの進捗度などに応じて宿泊型研修 (韓国あるいは国内) を行う。)

成績評価の方法　/Assessment Method

報告・討論への参加度　70%、提出物 (レポートを含む)　30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
ゼミの理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

受講生はゼミ開始前までに関連文献を読み、毎回のゼミで自分の意見を明確に述べることが求められる

専門演習II 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

恐れずに、積極的に討論に参加しましょう。

キーワード　/Keywords

専門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ	SEM312M

授業の概要 /Course Description

比較政治思想史の観点から、東アジア地域研究を行うこと。東アジア三国(日本、中国、朝鮮・韓国）の近代政治思想史を、アジアから考える視点と文明論的な視点で読み直す。それによって、2学期には、今日の東アジアとその中の日本を考えることや、将来の東アジア地域秩序の構想・構築のために有意義な観点を見出すことを目指す。

教科書 /Textbooks

授業中に適宜、文献や資料をプリントして配布し、テキストとして活用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

ゼミ生はテキストや参考文献から担当された部分を解読し、レジュメを作成し報告する。そして参加者全員の質疑・討論を行う。ゼミ担当教員は討論を仲介し、解説・説明を補足する。
2学期が終わる頃、ゼミ生はレポートを作成し提出する。それを土台に「卒業論文」（2万字程度、A４の15~20枚）を作成していくことをお勧めする。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告、討論、質疑応答を基に厳正に行う（100%）。無断欠席は1回につき5%減点。課題の報告や宿題の提出を怠ったときには、その事情によるが、10%減点。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストは事前に配布するので、必ず予習をしてくること。授業中に紹介された関連文献や参考文献の自主学習。

履修上の注意 /Remarks

東アジア地域研究に関する多数の文献を自主的に読みつつ、とくに関心のあるテーマを選び、卒業論文に備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業論文のテーマを早期決定しておくこと。

キーワード /Keywords

東アジアの歴史、思想、文化、伝統と近代、異種交配、変容、東アジア地域統合、共同体

専門演習II 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

担当者名 /Instructor　阿部　容子 / ABE YOKO / 国際関係学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ	SEM312M

授業の概要　/Course Description

この演習では、国際政治経済学の視点が求められる様々な問題の中から、各自が関心のあるテーマを決定し、資料収集や発表を通じて卒業論文の準備作業を進める。個人研究報告と並行して、グループディスカッションやディベートを行うことで、習得した知識・フレームワークを活用して論理的な発表・議論ができるようになることを目指す。

教科書　/Textbooks

最初のゼミの時に知らせる。差し当たり以下の文献を例示しておく。
石見徹『グローバル資本主義を考える』（ミネルヴァ書房、2007年）
デヴィッド・ハーヴェイ『新自由主義–その歴史的展開と現在』（作品社、2007年）
カウシック・バスー『見えざる手をこえて:新しい経済学のために』（エヌティティ出版、2016年）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション（テキストの決定、進め方の説明、報告順番の決定など）
第2回　グループワーク
第3回　レポートテーマの発表
第4回　文献の輪読とディスカッション①
第5回　文献の輪読とディスカッション②
第6回　IPEに関連するDVD教材の利用①
第7回　レポートの中間報告①
第8回　IPEに関連するDVD教材の利用②
第9回　文献の輪読とディスカッション③
第10回　文献の輪読とディスカッション④
第11回　文献の輪読とディスカッション④
第12回　文献の輪読とディスカッション⑤
第13回　レポートの報告①
第14回　レポートの報告②
第15回　レポートの報告③

成績評価の方法　/Assessment Method

出席・授業への貢献・・・20%　各自の報告・・・50%　レポート・・・30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

メール等を通じて配布した関連課題を準備してから授業に臨むこと。
輪読は毎回報告者を決め、報告者は担当する章の内容とそれに関連する事柄をカバーしたレジュメを用意して報告をする。報告者以外も当該章に目を通し、論点を用意しておくこと。

専門演習II 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

履修上の注意　/Remarks

ゼミ合宿や他大学のゼミとのプレゼン大会を行う可能性がある。
ゼミ論の作成を各自計画的に進め、必要に応じて教員と面談すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

図書館、オンラインデータベース、相互貸借などを利用して必要な文献・資料を収集する労力を惜しまないこと。

キーワード　/Keywords

専門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　篠崎　香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ	SEM312M

授業の概要　/Course Description

卒論で取り上げたいテーマについて、事実関係と先行研究の整理を行う。それをもとにゼミ論を作成し、卒論の作成につなげていく。

教科書　/Textbooks

報告者の関心に沿った文献。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　ガイダンス
2～14回　各自の関心テーマに即した報告
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業における議論への貢献　…　30　%　　課題 ... 30%　　各自報告　…　40　%
報告担当者が無断で欠席した場合、あるいは正当な理由がない欠席の場合、成績評価の対象としない。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

関心テーマについて、各自が調査を進展させておくこと。授業は調査の進捗状況を報告する場にすぎません。授業外の時間でどれだけ調査を進めるかが重要です。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

専門演習II 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

担当者名 /Instructor　下野　寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ	SEM312M

授業の概要　/Course Description

文献講読と各自の研究テーマ探求を通じて、中華圏に関する知識を広く深く習得し、論理的な思考力の向上を目指します。
受講生は、中華圏で観察される諸問題の中から自らの研究テーマを設定し、情報の収集・分析・調査を行います。学期末にはゼミ論文を完成させます。

教科書　/Textbooks

初回の授業で知らせます（事前に掲示することもあるので、掲示板を常に確認すること）。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

受講生の関心に応じて適宜紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

詳細は受講生と相談のうえ決定します。受講生は定められた期日までにゼミ論文提出と口頭発表を行います。
第1回　イントロダクション（テキスト・参考文献の紹介、報告順番の決定など）
第2回　フィールドワーク報告会
第3回　フィールドワーク反省会
第4回　文献の輪読 1
第5回　文献の輪読 2
第6回　文献の輪読 3
第7回　文献の輪読 4
第8回　文献の輪読 5
第9回　文献の輪読 6
第10回　映像で見る中華圏の政治と社会
第11回　ゼミ論構想発表会 1
第12回　ゼミ論構想発表会 2
第13回　ゼミ論指導 1
第14回　ゼミ論指導 2
第15回　研究発表会

※課外活動としてゼミ合宿または海外研修を行う可能性があります。

成績評価の方法　/Assessment Method

報告・討論への参加度・発言内容 … 50%　　ゼミ論…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

ゼミ募集の際に別紙にて指示します。

専門演習II 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

履修上の注意　/Remarks

資料収集はインターネットだけに頼らず、早い段階から関心のあるテーマについて情報収集と文献講読を始めてください。情報の収集・分析には時間がかかります。特に紙媒体で定期的に新聞を閲覧するように心がけましょう。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

専門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ	SEM312M

授業の概要 /Course Description

政治学の基本文献を輪読する

教科書 /Textbooks

受講生と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2−13回　文献輪読
第13回　ガイダンスで設定された課題についての自由討論
第14回　卒業論文の課題とその予備調査の報告 1
第15回　卒業論文の課題とその予備調査の報告 2

成績評価の方法 /Assessment Method

報告及び授業への参加度 … ７０ % レポート … ３０%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、予習内容を支持するので、それに沿って勉強すること。また、テキストを用いて、関連事項を教科書等で復習すること。

履修上の注意 /Remarks

この講義の内容はアメリカ政治や国際関係史の授業をふりかえって学習すると理解が深まります。
毎回、参考文献で予習し、授業終了後は、内容を復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ政治

専門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ	SEM312M

授業の概要 /Course Description

近現代イギリス(アイルランドも含む)に関する諸問題を扱い、学問の方法に触れる。

教科書 /Textbooks

必要な文献を授業の最初に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて各自で調査しなければならない。個別の相談に応じる。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回 イントロダクション
２回 各自の研究テーマに関する日本語・英語文献の輪読
３回 同上
４回 同上
５回 同上
６回 同上
７回 同上
８回 各自のテーマに関する報告
９回 同上
１０回 同上
１１回 同上
１２回 同上
１３回 同上
１４回 同上
１５回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告･発言の内容 … 100%

専門演習II 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

報告の準備、指摘された問題点の確認を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

授業前は報告準備を丁寧におこない、授業後は次の課題をよく吟味すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

専門演習II 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

担当者名 /Instructor　山本　直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ	SEM312M

授業の概要　/Course Description

国際機構についてみずから「問い」をたてて、それについてともに考え、掘り下げていく。それが、このゼミの目標です。
主な関心は、次のようなものです。
・ 国際機構はなぜ設立され、活動しているのか。それに加盟する国家とはどのような関係にあるのか。それは、人間の生活とありようにどのような影響を与えているのか。
・ 国連やEUの活動をどのように評価するか。
・ 国連PKOや近隣諸国との各種協力・連携に、日本はどのように関わるといいのか。
専門演習IIでは、主に、卒業論文のテーマに沿った参考文献紹介を行ないます。また、研究の進捗状況について中間レポートを作成します。

教科書　/Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

国際関係学科編『リーディングリスト』参照のこと。
その他、授業で指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　はじめに
第2回　卒業論文に向けた文献紹介 (1)
第3回　卒業論文に向けた文献紹介 (2)
第4回　卒業論文に向けた文献紹介 (3)
第5回　卒業論文に向けた文献紹介 (4)
第6回　卒業論文に向けた文献紹介 (5)
第7回　卒業論文に向けた文献紹介 (6)
第8回　卒業論文に向けた文献紹介 (7)
第9回　卒業論文に向けた文献紹介 (8)
第10回　卒業論文に向けた文献紹介 (9)
第11回　卒業論文に向けた文献紹介 (10)
第12回　卒業論文に向けた文献紹介 (11)
第13回　卒業論文に向けた文献紹介 (12)
第14回　卒業論文に向けた文献紹介 (13)、レポート提出
第15回　レポート総括、まとめ

専門演習II 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

報告20%、参加70%、レポート10%
自身の報告は大切ですが、報告しない回の参加状況をそれ以上に重視します。
レポートは再提出を求めることがあります。
連絡のない欠席は、履修する意志がないものとみなします。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

自身の報告を準備する。報告の終了後は、復習を兼ねて議論の内容を再整理すること。
他の履修生の報告に向けて、コメントするための準備を行なう。
以上の作業と並行してレポートを作成する。

履修上の注意　/Remarks

国際機構論I / IIの両方を履修することを推奨します。
国際人権論を未履修の場合も履修することを推奨します。
ゼミの卒業論文集が学科資料室に配置されています。学科生は自由に閲覧できます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

皆さんがゼミをつくってください。担当者はそれを全力で補助しますが、補助する以上のことはしません。

キーワード　/Keywords

専門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ	SEM312M

授業の概要 /Course Description

国際関係及び世界情勢について経済の立場から理解を深めていき、卒論の準備段階の作業を進めていくことを目指す。専門演習1と同様に、世界経済とアジア経済に関するテキストを講読するとともに、自分で関心の持つテーマを決めて個別に研究を進めてゼミレポートを作成する。

教科書 /Textbooks

最初のゼミの時間に数冊の候補の中から受講生の関心などに応じて決める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション（テキストの選定、報告順番の決定など）
第2～14回　テキスト輪読または個別報告と討論
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況…60%　ゼミレポート…40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては担当している発表テーマに関連する項目のニュースを普段から新聞や雑誌に目を通す。事後学習としてはゼミで学んだことを復習すること。

履修上の注意 /Remarks

世界経済論または東アジア経済論の授業を履修しているか、経済学の入門書を読んでいることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分で選ぶテーマについては、経済に関連があるのなら、幅広く対応します。

キーワード /Keywords

卒業研究演習I 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

担当者名 /Instructor　大平　剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、高度な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を高度な知識を背景に考察し、その解決策を見出すことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、高度な内容を表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観を身につけ、明確な目的意識と行動する意欲を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を維持し、自ら学ぼうとする意欲を持つ。
	コミュニケーション力	●	円滑なコミュニケーション力を背景として、自ら設定した目標を達成する。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習 I	SEM411M

授業の概要　/Course Description

卒業論文執筆に必要なスキルを身につけることが最大のねらいです。それには文献を批判的に読む能力、著者の主張を要領よく纏める技術、自分の考えをわかりやすく相手に伝える力が必要になります。この科目ではそのようなスキルの構築を目指します。前半では受講者の関心に沿った学術論文を輪読し、後半では卒業論文の構想について各自が発表を行います。

教科書　/Textbooks

特に指定はありません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○河野哲也『レポート・論文の書き方入門』(第3版) 慶應義塾大学出版会、2002年。
○川崎剛『「社会科学系のための優秀論文」作成術』勁草書房、2010年。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　学術論文の輪読①
２回　学術論文の輪読②
３回　学術論文の輪読③
４回　学術論文の輪読④
５回　学術論文の輪読⑤
６回　学術論文の輪読⑥
７回　学術論文の輪読⑦
８回　　論文構想の発表①
９回　　論文構想の発表②
１０回　論文構想の発表③
１１回　論文構想の発表④
１２回　論文構想の発表⑤
１３回　論文構想の発表⑥
１４回　論文構想の発表⑦
１５回　論文構想の発表⑧

成績評価の方法　/Assessment Method

報告…４０％　　議論への貢献度…６０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に配付資料に目を通してゼミに臨む事。事後学習としては、ゼミ中に学んだアカデミック・スキルについて、論文等を読みながら確認を行う事。

卒業研究演習I 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

履修上の注意　/Remarks

卒業論文執筆のための情報収集に日々努めておくことが求められる。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

卒業研究演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　李　東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、高度な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を高度な知識を背景に考察し、その解決策を見出すことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、高度な内容を表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観を身につけ、明確な目的意識と行動する意欲を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を維持し、自ら学ぼうとする意欲を持つ。
	コミュニケーション力	●	円滑なコミュニケーション力を背景として、自ら設定した目標を達成する。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習 I	SEM411M

授業の概要　/Course Description

「朝鮮半島問題」を含む現代東北アジア国際関係に関する資料を輪読しながら、指導の下で卒業論文の作成に取り組む。

教科書　/Textbooks

オリエンテーションの際に知らせる。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

ゼミの進捗度に応じて適宜配布する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

下記のスケジュールに加えて、輪読する資料などに対して適宜各自の研究報告を行う。詳細は受講生と相談のうえ決定する。
第1回　イントロ (進め方、テキスト・参考文献の紹介、報告順番の決定など)
第2回　共通テキストの輪読・討論
第3回　同上
第4回　同上
第5回　同上
第6回　同上
第7回　同上
第8回　同上
第9回　同上
第10回　卒業論文指導
第11回　同上
第12回　同上
第13回　同上
第14回　同上
第15回　まとめ
(ゼミの進捗度などに応じて宿泊型研修 (韓国あるいは国内) を行う。)

成績評価の方法　/Assessment Method

報告・討論への参加度　50%、提出物 (レポートを含む)　50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
卒業論文の作成に必要な文献などを熟読すること。

履修上の注意　/Remarks

受講生には、ゼミ開始前までに関連文献を読み、毎回のゼミで自分の意見を明確に述べることが求められる。

卒業研究演習I 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

恐れずに討論に参加しましょう。
なお、積極的に卒業論文の作成に取り組みましょう。

キーワード　/Keywords

卒業研究演習I 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

担当者名 /Instructor　篠崎　香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、高度な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を高度な知識を背景に考察し、その解決策を見出すことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、高度な内容を表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観を身につけ、明確な目的意識と行動する意欲を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を維持し、自ら学ぼうとする意欲を持つ。
	コミュニケーション力	●	円滑なコミュニケーション力を背景として、自ら設定した目標を達成する。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習 I	SEM411M

授業の概要　/Course Description

卒業論文の指導を行う。

教科書　/Textbooks

授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１回　　イントロダクション
２回～１４回　卒業論文の経過報告
１５回　　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業での議論への貢献　…　40　%　　各自報告　…　60　%

卒業研究演習I 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業は作業の進捗状況を報告する場にすぎません。授業外での各自の取り組みが重要となります。卒論の作成に向けて、計画的に作業を行ってください。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

卒業研究演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　下野　寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、高度な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を高度な知識を背景に考察し、その解決策を見出すことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、高度な内容を表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観を身につけ、明確な目的意識と行動する意欲を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を維持し、自ら学ぼうとする意欲を持つ。
	コミュニケーション力	●	円滑なコミュニケーション力を背景として、自ら設定した目標を達成する。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習 I	SEM411M

授業の概要　/Course Description

文献講読と各自の研究報告を通じて現代中国政治に関する専門知識を深め、情報収集・分析・調査のレベルを高める。
必要に応じて、卒業論文作成のための資料収集や論文執筆法について指導する。
受講生は各自の研究報告を数回行い、卒業論文の進捗状況を適宜報告する。卒業論文作成に関しては、特に問題設定の在り方について重点的に指導する。

教科書　/Textbooks

初回の授業で知らせる。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

受講生の関心に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

詳細は受講生と相談のうえ決定する。
第1回　イントロダクション (参考文献・資料の紹介、報告順番の決定など)
第2回　各自の研究報告
第3回　同上
第4回　同上
第5回　同上
第6回　同上
第7回　同上
第8回　同上
第9回　同上
第10回　同上
第11回　同上
第12回　同上
第13回　同上
第14回　同上
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

報告 … 30%　　討論への参加度と発言内容 … 40%　　課題…30%
報告レジュメ・課題の提出遅延は1回毎に全体評価から10%減点、未提出は同20%減点。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で指示する文献を熟読すること。
早い段階から卒業論文作成のための資料収集・文献講読を行うこと。

卒業研究演習I 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

卒業研究演習I 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

担当者名 /Instructor　中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year　4年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　演習
クラス /Class　４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、高度な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を高度な知識を背景に考察し、その解決策を見出すことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、高度な内容を表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観を身につけ、明確な目的意識と行動する意欲を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を維持し、自ら学ぼうとする意欲を持つ。
	コミュニケーション力	●	円滑なコミュニケーション力を背景として、自ら設定した目標を達成する。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習 I	SEM411M

授業の概要 /Course Description

受講生の関心に応じた政治学の文献を購読するとともに、卒業論文の予備論文を作成する

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生に個別に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2-6回　論文の作成指導
第7回　中間総括
第8-14回 論文構成報告
第15回　総括

成績評価の方法 /Assessment Method

報告及び授業への参加度 … ３０ %　　予備論文 … ７０%

3年次までの知識をすべて使って一つの論文を作成していきます

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、予習内容を支持するので、それに沿って勉強すること。また、関連事項を参考書等で復習すること。

履修上の注意 /Remarks

これまでの知識をすべて使って一つの論文を作成していきます
毎回、参考文献で予習し、授業終了後は、内容を復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動等で多忙な時期ですので、論文完成までのスケジュール管理をしっかりしてください。

キーワード /Keywords

卒業研究演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、高度な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を高度な知識を背景に考察し、その解決策を見出すことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、高度な内容を表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観を身につけ、明確な目的意識と行動する意欲を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を維持し、自ら学ぼうとする意欲を持つ。
	コミュニケーション力	●	円滑なコミュニケーション力を背景として、自ら設定した目標を達成する。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習 I	SEM411M

授業の概要 /Course Description

近現代イギリス(アイルランドも含む)に関する諸問題を扱い、卒業論文を準備する。

教科書 /Textbooks

必要な文献を授業の最初に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて各自で調査しなければならない。個別の相談に応じる。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 イントロダクション
2回 各自のテーマに即した研究報告
3回 同上
4回 同上
5回 同上
6回 同上
7回 同上
8回 同上
9回 同上
10回 同上
11回 同上
12回 同上
13回 同上
14回 同上
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告･発言の内容 … 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告の準備、指摘された問題点の確認を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業前は報告準備を丁寧におこない、授業後は次の課題をよく吟味すること。

卒業研究演習I 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

卒業研究演習I 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

担当者名 /Instructor　山本　直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
4年次	2単位	1学期	演習	4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、高度な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を高度な知識を背景に考察し、その解決策を見出すことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、高度な内容を表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観を身につけ、明確な目的意識と行動する意欲を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を維持し、自ら学ぼうとする意欲を持つ。
	コミュニケーション力	●	円滑なコミュニケーション力を背景として、自ら設定した目標を達成する。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習 I	SEM411M

授業の概要　/Course Description

これまでに得た知見と経験を活かしながら、卒業論文の執筆にとりかかります。授業では、第1に、論文を書く意味について、資料を配布しながら学びます。第2に、卒業論文の中間報告を行います。第3に、他の履修生が報告する際に助言していただきます。

教科書　/Textbooks

用いない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

板坂元『考える技術・書く技術』講談社、1973年．
小笠原喜康『新版　大学生のためのレポート・論文術』講談社、2009年．
鹿島茂『勝つための論文の書き方』文藝春秋、2003年．
ほか授業で指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　はじめに
第2回　論文を書くということ（1）
第3回　論文を書くということ（2）
第4回　論文を書くということ（3）
第5回　卒業論文の中間報告（1）
第6回　卒業論文の中間報告（2）
第7回　卒業論文の中間報告（3）
第8回　卒業論文の中間報告（4）
第9回　卒業論文の中間報告（5）
第10回　卒業論文の中間報告（6）
第11回　卒業論文の中間報告（7）
第12回　卒業論文の中間報告（8）
第13回　卒業論文の中間報告（9）
第14回　卒業論文の中間報告（10）
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

報告20%、参加80%
自身の報告は大切ですが、報告しない回の参加状況をそれ以上に重視します。

卒業研究演習I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

自身の報告を準備する。報告の終了後は論点を再整理して卒業論文に活かすこと。
他の履修生の報告に向けて、助言するための準備を行なう。

履修上の注意　/Remarks

国際人権論、国際機構論I、国際機構論IIの未履修者は履修することを推奨します。
連絡のない欠席は、履修する意志がないものとみなします。欠席者は出席者に授業の内容を確認すること。
2学期の卒業研究演習IIで提出する卒業論文について、提出日や提出方法を初回に説明する。留学で不在の場合はメールで問い合わせること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

卒業研究演習I 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

担当者名 /Instructor　尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、高度な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を高度な知識を背景に考察し、その解決策を見出すことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、高度な内容を表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観を身につけ、明確な目的意識と行動する意欲を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を維持し、自ら学ぼうとする意欲を持つ。
	コミュニケーション力	●	円滑なコミュニケーション力を背景として、自ら設定した目標を達成する。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習 I	SEM411M

授業の概要　/Course Description

卒業論文の作成に向けて、3年次での発表やレポートを基礎として、まず各自が自分の研究テーマを設定する。卒業論文のテーマが定まったら、そのテーマについて関連文献を収集し精読して、ゼミで発表するのと並行して、原稿を書き進めていく。

教科書　/Textbooks

随時指定する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

随時指定する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション (参考文献の紹介、報告順番の決定など)
第2回～10回　関連文献の紹介・論評と討論
第11回～14回 卒業論文の構成提示と討論
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

報告・課題…50%　討論への参加度・発言内容…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習としては、卒論のテーマに関連する資料は幅広く集めておく。授業では発表した卒論の内容にコメントを付ける。事後学習としては、授業で出されたコメントを自分で吟味して改善に活かす。

履修上の注意　/Remarks

4年次には就職活動などで出欠が不規則になりがちになるが、欠席の場合には必ず連絡をして、特に発表を当たっている場合には代替措置を考えるようにする。また、卒業論文の執筆は計画的に進めることを心掛ける。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

卒業研究演習では、あるテーマに絞って深く考えて自分の言葉で言い表す作業をします。選んだテーマが何であれ、そのような経験は将来役に立ちます。

卒業研究演習I 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

キーワード　/Keywords

卒業研究演習I 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

担当者名 /Instructor　阿部　容子 / ABE YOKO / 国際関係学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、高度な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を高度な知識を背景に考察し、その解決策を見出すことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、高度な内容を表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観を身につけ、明確な目的意識と行動する意欲を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を維持し、自ら学ぼうとする意欲を持つ。
	コミュニケーション力	●	円滑なコミュニケーション力を背景として、自ら設定した目標を達成する。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習 I	SEM411M

授業の概要　/Course Description

国際政治経済論の分析視角を用いて、受講生各自がテーマに沿って研究を進め、卒業論文を完成させることを目的とする。
文献輪読と論文発表を並行して進める。またテーマを設定してのグループディスカッションも随時行う。

教科書　/Textbooks

各自の卒論テーマのベースとなる理論に関する文献を選定し、受講生と相談の上決定する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

詳細は受講生と相談の上決定する。
1回　イントロダクション (テキスト選定、報告順序の決定など)
2回　卒論テーマの報告
3回　文献の輪読①
4回　文献の輪読②
5回　グループディスカッション①
6回　卒論中間報告①
7回　グループディスカッション②
8回　文献の輪読③
9回　文献の輪読④
10回　卒論中間報告②
11回　文献の輪読⑤
12回　文献の輪読⑥
13回　グループディスカッション③
14回　卒論報告③
15回　卒論報告④

成績評価の方法　/Assessment Method

報告・・・40%　議論への貢献度・・・30%　課題・・・30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

メール等を通じて配布した関連課題を準備してから授業に臨むこと。
卒論作成のための面談を随時行うこと。

卒業研究演習I 【昼】

履修上の注意　/Remarks

ゼミ合宿や他大学のゼミとのプレゼン大会を行う可能性がある。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

図書館、オンラインデータベース、相互貸借などを利用して必要な文献・資料を収集する労力を惜しまないこと。

キーワード　/Keywords

卒業研究演習I 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

担当者名 /Instructor　北　美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、高度な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を高度な知識を背景に考察し、その解決策を見出すことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、高度な内容を表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観を身につけ、明確な目的意識と行動する意欲を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を維持し、自ら学ぼうとする意欲を持つ。
	コミュニケーション力	●	円滑なコミュニケーション力を背景として、自ら設定した目標を達成する。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習 I	SEM411M

授業の概要　/Course Description

卒業論文の作成指導を行なう。

教科書　/Textbooks

授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　　イントロダクション
第２～14回　　卒業論文の経過報告・個別指導・テキスト輪読・討論
第15回　　まとめ
詳細は受講生と相談のうえ決定する。
在福岡アメリカ領事館広報部（福岡アメリカンセンター）などに、講演を聞きに行ったり、資料収集に行く可能性がある。

成績評価の方法　/Assessment Method

報告…30%　　討論への参加度…40%　　レポート類…30%
ただし、報告の放棄や無断欠席が一度でもあった場合には単位は認めない。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

卒業論文の執筆、その他の課題とも、ほとんどが授業外での作業となる。また、事前学習としては、輪読しているテキストを、報告者以外も全員読み、疑問点や感想をまとめておくこと。事後学習は特に指定しないが、日頃より、新聞をよく読んでおくこと。

履修上の注意　/Remarks

授業中に指示する。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

卒業研究演習I 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

担当者名 /Instructor　金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、高度な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を高度な知識を背景に考察し、その解決策を見出すことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、高度な内容を表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観を身につけ、明確な目的意識と行動する意欲を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を維持し、自ら学ぼうとする意欲を持つ。
	コミュニケーション力	●	円滑なコミュニケーション力を背景として、自ら設定した目標を達成する。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習 I	SEM411M

授業の概要　/Course Description

比較政治思想史の観点から、東アジア地域の歴史、政治、経済、文化などを学ぶ。ゼミ生の卒業論文テーマを検討し、関連文献を解読する。1学期の後半期には卒業論文の中間報告会を開く。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

東アジア地域研究や、ゼミ生各自の卒業論文テーマに相応しい史料や文献を紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ゼミの概要、進め方。ゼミ生の卒論テーマの選定作業。
第2~8回　関連文献の解読、報告と討論
第9~15回　卒論のプロポーザルの作成、中間報告と1学期の総括

成績評価の方法　/Assessment Method

ゼミ参加への熱意、報告と討論、卒論の中間報告を基に厳正に行う (100%)。無断欠席は1回あたり5%減点。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

関連文献を事前に配布するので、必ず予習してくること。卒論の中間報告の準備と誠実な報告、討論を行うこと。自分の卒論の関連文献を読み漁ること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

卒論は大学4年間の学習成果の総決算であり、また生涯の大事な思い出になる。誠意をもって卒論に励むこと。

キーワード　/Keywords

文献・資料の探し方、解読法。論文の作成方法。

卒業研究演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　大平　剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、高度な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を高度な知識を背景に考察し、その解決策を見出すことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、高度な内容を表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観を身につけ、明確な目的意識と行動する意欲を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を維持し、自ら学ぼうとする意欲を持つ。
	コミュニケーション力	●	円滑なコミュニケーション力を背景として、自ら設定した目標を達成する。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ⅱ	SEM412M

授業の概要　/Course Description

卒業論文の完成が目標であるため、各自が研究の進捗状況をディスカッション形式で報告し合います。そのような方法をとることで、批判を交えつつも建設的に議論を進める技術を養います。また、論文を書く作業を通して、自己の主張をうまくまとめる能力を磨きます。

教科書　/Textbooks

特に指定はありません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○河野哲也『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会、2002年。
○川崎剛『社会科学系のための「優秀論文」作成術』勁草書房、2010年。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　卒論進捗状況報告ラウンド１①
第2回　卒論進捗状況報告ラウンド１②
第3回　卒論進捗状況報告ラウンド１③
第4回　卒論進捗状況報告ラウンド１④
第5回　卒論進捗状況報告ラウンド１⑤
第6回　卒論進捗状況報告ラウンド２①
第7回　卒論進捗状況報告ラウンド２②
第8回　卒論進捗状況報告ラウンド２③
第9回　卒論進捗状況報告ラウンド２④
第10回　卒論進捗状況報告ラウンド２⑤
第11回　卒論進捗状況報告ラウンド３①
第12回　卒論進捗状況報告ラウンド３②
第13回　卒論進捗状況報告ラウンド３③
第14回　卒論進捗状況報告ラウンド３④
第15回　卒論進捗状況報告ラウンド３⑤

卒業論文提出：　2019年1月31日
卒論発表会：2020年2月上旬～中旬に開催予定

成績評価の方法　/Assessment Method

卒論の執筆と報告…７０％　　貢献度…３０％

卒業研究演習II 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に配付資料に目を通してゼミに臨む事。事後学習としては、ゼミ中に学んだアカデミック・スキルについて、論文等を読みながら確認を行う事。

履修上の注意　/Remarks

図書館で必要な論文を、ILL（相互貸借）などを利用することによって早い時点から収集すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

卒業研究演習II 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

担当者名 /Instructor　李　東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、高度な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を高度な知識を背景に考察し、その解決策を見出すことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、高度な内容を表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観を身につけ、明確な目的意識と行動する意欲を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を維持し、自ら学ぼうとする意欲を持つ。
	コミュニケーション力	●	円滑なコミュニケーション力を背景として、自ら設定した目標を達成する。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ⅱ	SEM412M

授業の概要　/Course Description

受講生は指導の下で自ら定めた研究テーマに関する卒業論文を完成する。

教科書　/Textbooks

オリエンテーションの際に知らせる。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

受講生の関心や必要に応じて適宜紹介する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

下記のスケジュールに加えて適宜各自の研究報告を行う。詳細は受講生と相談のうえ決定する。
第1回　イントロ (進め方、テキスト・参考文献の紹介、報告順番の決定など)
第2回　卒業論文の作成
第3回　同上
第4回　同上
第5回　同上
第6回　同上
第7回　同上
第8回　同上
第9回　同上
第10回　同上
第11回　同上
第12回　同上
第13回　同上
第14回　同上
第15回　まとめ
(ゼミの進捗度などに応じて宿泊型研修 (韓国あるいは国内) を行う。)

成績評価の方法　/Assessment Method

報告・討論への参加度　30%、卒業論文　70%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

卒論作成に必要な文献などを熟読すること。

履修上の注意　/Remarks

受講生には、指導に従って卒業論文の作成を着実に進めることが求められる。

卒業研究演習II 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

誠意をもって、問題意識に溢れた、自分なりの卒論を書きましょう。

キーワード　/Keywords

卒業研究演習II 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

担当者名 /Instructor　篠崎　香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、高度な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を高度な知識を背景に考察し、その解決策を見出すことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、高度な内容を表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観を身につけ、明確な目的意識と行動する意欲を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を維持し、自ら学ぼうとする意欲を持つ。
	コミュニケーション力	●	円滑なコミュニケーション力を背景として、自ら設定した目標を達成する。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ⅱ	SEM412M

授業の概要　/Course Description

卒業論文の指導を行う。

教科書　/Textbooks

授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１回　　イントロダクション
２回～１４回　卒業論文の経過報告
１５回　　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業での議論への貢献　…　30　%　　各自報告　…　20　%　　卒業論文　…　50%

卒業研究演習II 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業は作業の進捗状況を報告する場にすぎません。授業外での各自の取り組みが重要となります。卒論の作成に向けて、計画的に作業を行ってください。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

卒業研究演習II 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

担当者名 /Instructor　下野　寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、高度な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を高度な知識を背景に考察し、その解決策を見出すことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、高度な内容を表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観を身につけ、明確な目的意識と行動する意欲を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を維持し、自ら学ぼうとする意欲を持つ。
	コミュニケーション力	●	円滑なコミュニケーション力を背景として、自ら設定した目標を達成する。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ⅱ	SEM412M

授業の概要　/Course Description

授業の狙いは、現代中国に関する様々な問題の中から受講生が設定した研究テーマを探究し、卒業論文を完成させることである。また、プレゼンテーションや論文作成技法を通じて、表現力と論理的思考の完成度を高める。

教科書　/Textbooks

特に指定せず。適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

受講生の関心に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

詳細は受講生と相談のうえ決定する。なお、受講生は定められた期日までに卒業論文を提出し、授業最終日に口頭発表を行う。卒業論文の書き方については授業中に適宜アドバイスする。
第1回　イントロダクション (参考文献・資料の紹介、報告順番の決定など)
第2回　各自の研究報告と討論
第3回　同上
第4回　同上
第5回　同上
第6回　同上
第7回　同上
第8回　同上
第9回　同上
第10回　同上
第11回　同上
第12回　同上
第13回　同上
第14回　論文指導
第15回　卒業論文に基づいた口頭発表

成績評価の方法　/Assessment Method

報告・討論への参加度・発言内容 … 30%、　卒業論文…70%
報告レジュメ・卒業論文の提出遅延は１回毎に全体評価の10%減点。

卒業研究演習II 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

論文作成に必要な資料はインターネットに頼り過ぎず、早めに入手・講読すること。
発表の担当者は、その発表が論文の全体構成の中でどの部分に相当するのか、何についての発表か、何をどのような方法でどこまで明らかにしたのか、必ず確認しながらレジュメを用意すること。また、毎回参考文献リストを添付すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

卒業研究演習II 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

担当者名 /Instructor　中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year　4年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　2学期
授業形態 /Class Format　演習
クラス /Class　４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、高度な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を高度な知識を背景に考察し、その解決策を見出すことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、高度な内容を表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観を身につけ、明確な目的意識と行動する意欲を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を維持し、自ら学ぼうとする意欲を持つ。
	コミュニケーション力	●	円滑なコミュニケーション力を背景として、自ら設定した目標を達成する。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ⅱ	SEM412M

授業の概要 /Course Description

卒業論文の作成を指導する

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生に個別に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2-6回　卒業論文の作成指導
第7回　中間総括
第8-14回 卒業論文報告
第15回　総括

成績評価の方法 /Assessment Method

報告及び授業への参加度 … ３０ %　　卒業論文 … ７０%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、予習内容を支持するので、それに沿って勉強すること。また、関連事項を参考書等で復習すること。

履修上の注意 /Remarks

これまでの知識をすべて使って一つの論文を作成していきます
毎回、参考文献で予習し、授業終了後は、内容を復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1月末が論文の締め切りですので、がんばりましょう。

キーワード /Keywords

卒業研究演習II 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

担当者名 /Instructor　久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、高度な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を高度な知識を背景に考察し、その解決策を見出すことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、高度な内容を表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観を身につけ、明確な目的意識と行動する意欲を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を維持し、自ら学ぼうとする意欲を持つ。
	コミュニケーション力	●	円滑なコミュニケーション力を背景として、自ら設定した目標を達成する。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ⅱ	SEM412M

授業の概要　/Course Description

近現代イギリス(アイルランドも含む)に関する諸問題を扱い、卒業論文を完成させる。

教科書　/Textbooks

必要な文献を授業の最初に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて各自で調査しなければならない。個別の相談に応じる。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

1回 イントロダクション
2回 各自のテーマに即した研究報告
3回 同上
4回 同上
5回 同上
6回 同上
7回 同上
8回 同上
9回 同上
10回 同上
11回 同上
12回 同上
13回 同上
14回 同上
15回 まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

報告･発言･論文の内容　…　100%

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

報告の準備、指摘された問題点の確認を行うこと。

卒業研究演習II 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

履修上の注意　/Remarks

授業前は報告準備を丁寧におこない、授業後は次の課題をよく吟味すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

卒業研究演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　山本　直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、高度な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を高度な知識を背景に考察し、その解決策を見出すことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、高度な内容を表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観を身につけ、明確な目的意識と行動する意欲を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を維持し、自ら学ぼうとする意欲を持つ。
	コミュニケーション力	●	円滑なコミュニケーション力を背景として、自ら設定した目標を達成する。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ⅱ	SEM412M

授業の概要　/Course Description

授業では、第1に、卒業論文の最終報告を行ないます。他の履修生が報告する際には助言します。第2に、卒業論文を完成させ、提出します。

教科書　/Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業で指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　はじめに
第2回　卒業論文の最終報告（1）
第3回　卒業論文の最終報告（2）
第4回　卒業論文の最終報告（3）
第5回　卒業論文の最終報告（4）
第6回　卒業論文の最終報告（5）
第7回　卒業論文の最終報告（6）
第8回　卒業論文の最終報告（7）
第9回　卒業論文の最終報告（8）
第10回　卒業論文の最終報告（9）
第11回　卒業論文の最終報告（10）
第12回　卒業論文の最終報告（11）
第13回　卒業論文の最終報告（12）
第14回　卒業論文の最終報告（13）
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

報告20%、参加80%
自身の報告は大切ですが、報告しない回の参加状況をそれ以上に重視します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

自身の報告を準備する。報告の終了後は論点を再整理して卒業論文に活かすこと。
他の履修生の報告に向けて、助言するための準備を行なう。

卒業研究演習II 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

履修上の注意　/Remarks

国際人権論、国際機構論I、国際機構論IIの未履修者は履修することを推奨する。
卒業論文の受け渡しはオフィスアワーを利用する。
連絡のない欠席は、履修する意志がないものとみなします。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

卒業研究演習II 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

担当者名 /Instructor　尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、高度な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を高度な知識を背景に考察し、その解決策を見出すことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、高度な内容を表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観を身につけ、明確な目的意識と行動する意欲を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を維持し、自ら学ぼうとする意欲を持つ。
	コミュニケーション力	●	円滑なコミュニケーション力を背景として、自ら設定した目標を達成する。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ⅱ	SEM412M

授業の概要 /Course Description

卒業研究演習Iで作成した論文の章構成にしたがって、研究テーマについて卒業論文を完成させる。

教科書 /Textbooks

随時指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション
第2回～14回　卒業論文の中間報告
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

討論への参加度・発言内容…30%　論文の内容と報告…70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、卒論のテーマに関連する資料は幅広く集めておく。授業では発表した卒論の内容にコメントを付ける。事後学習としては、授業で出されたコメントを自分で吟味して改善に活かす。

履修上の注意 /Remarks

4年次には就職活動などで出欠が不規則になりがちになるが、欠席の場合には必ず連絡をして、特に発表を当たっている場合には代替措置を考えるようにしてください。また、卒業論文の執筆は計画的に進めることを心掛けて下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業研究演習では、あるテーマに絞って深く考えて自分の言葉で言い表す作業をします。選んだテーマが何であれ、そのような経験は将来役に立ちます。

キーワード /Keywords

卒業研究演習II 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

担当者名 /Instructor　阿部　容子 / ABE YOKO / 国際関係学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、高度な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を高度な知識を背景に考察し、その解決策を見出すことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、高度な内容を表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観を身につけ、明確な目的意識と行動する意欲を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を維持し、自ら学ぼうとする意欲を持つ。
	コミュニケーション力	●	円滑なコミュニケーション力を背景として、自ら設定した目標を達成する。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ⅱ	SEM412M

授業の概要　/Course Description

国際政治経済論の分析視角を用いて、受講生各自がテーマに沿って研究を進め、卒業論文を完成させることを目的とする。

教科書　/Textbooks

必要に応じて指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

詳細は受講生と相談の上決定する。
1回　イントロダクション (テキスト選定、報告順序の決定など)
2回　第一回卒論報告①
3回　〃②
4回　DVD視聴
5回　グループディスカッション
6回　グループディスカッション
7回　第二回卒論報告①
8回　〃②
9回　DVD視聴
10回　グループディスカッション
11回　第三回卒論報告
12回　グループディスカッション
13回　グループディスカッション③
14回　卒論報告③
15回　卒論報告④

成績評価の方法　/Assessment Method

報告・議論への貢献度・・・40%　　卒業論文・・・60%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

メール等を通じて配布した関連課題を準備してから授業に臨むこと。
卒論作成のための面談を随時行うこと。

卒業研究演習II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

ゼミ合宿や他大学のゼミとのプレゼン大会を行う可能性がある。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

図書館、オンラインデータベース、相互貸借などを利用して必要な文献・資料を収集する労力を惜しまないこと。

キーワード　/Keywords

卒業研究演習II 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

担当者名 /Instructor　北　美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、高度な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を高度な知識を背景に考察し、その解決策を見出すことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、高度な内容を表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観を身につけ、明確な目的意識と行動する意欲を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を維持し、自ら学ぼうとする意欲を持つ。
	コミュニケーション力	●	円滑なコミュニケーション力を背景として、自ら設定した目標を達成する。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ⅱ	SEM412M

授業の概要　/Course Description

卒業論文の作成指導を行なう。

教科書　/Textbooks

授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　　イントロダクション
第２～14回　　卒業論文の経過報告・個別指導・テキスト輪読・討論
第15回　　まとめ
詳細は受講生と相談のうえ決定する。
在福岡アメリカ領事館広報部（福岡アメリカンセンター）などに、講演を聞きに行ったり、資料収集に行く可能性がある。

成績評価の方法　/Assessment Method

卒業論文…80%　　討論への参加度…20%
ただし、報告の放棄や無断欠席が一度でもあった場合には単位は認めない。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

卒業論文の執筆、その他の課題とも、ほとんどが授業外での作業となる。また、事前学習としては、輪読しているテキストを、報告者以外も全員読み、疑問点や感想をまとめておくこと。事後学習は特に指定しないが、日頃より、新聞をよく読んでおくこと。

履修上の注意　/Remarks

授業中に指示する。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

卒業研究演習II 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

担当者名 /Instructor　金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、高度な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を高度な知識を背景に考察し、その解決策を見出すことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、高度な内容を表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観を身につけ、明確な目的意識と行動する意欲を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を維持し、自ら学ぼうとする意欲を持つ。
	コミュニケーション力	●	円滑なコミュニケーション力を背景として、自ら設定した目標を達成する。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ⅱ	SEM412M

授業の概要　/Course Description

ゼミ生の卒論作成に取り組む。そのため、ゼミ生各自のプロポーザルの提出、中間報告、討論と修正、最終原稿の提出を行う。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

ゼミ生の卒論テーマに沿って、随時紹介する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第1回　ゼミ生各自のプロポーザル（研究計画書：A4の3~4枚程度）の提出。ゼミのガイダンス。
第2～4回　プロポーザルの報告と討論
第5～10回　ゼミ生各自の卒論の初稿（A4の10枚程度）の提出と中間報告会、討論、修正
第11～15回　卒論の報告会、討論、修正
2月中旬まで卒論の完成原稿（2万字程度、A4の15~20枚程度）の提出

成績評価の方法　/Assessment Method

卒論の完成度による（100%）。

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

ゼミ生は各自のプロポーザル、中間報告用のレジュメなどを事前にゼミ担当教員に送ること。討論、修正意見を参考として、随時自分の原稿を修正していくこと。

履修上の注意　/Remarks

本ゼミの趣旨に合わせて、各自の卒論のプロポーザル、初稿、完成原稿を作成していくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

完成度の高い卒論の作成のために頑張りましょう。4年ゼミ生の希望があれば、適当な時期、3年ゼミ生の希望者とともにゼミ旅行にいく。

キーワード　/Keywords

論文の作成方法：テーマ設定、プロポーザル、問題提起、本文作成、参考文献の作成

中国近現代史I 【昼】

担当者名 /Instructor　堀地　明 / 中国学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国近現代の歴史に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル		
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中国近現代の歴史に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国近現代史Ⅰ	HIS120M

授業の概要　/Course Description

「１９世紀後半～２０世紀初頭の中国」
アヘン戦争による五港開港から辛亥革命までの政治・外交・社会・経済等の諸問題を講義し、中国近現代史への基本的理解を深める。

教科書　/Textbooks

田中仁・菊池一隆等著『新図説中国近現代史』（法律文化社）
※初回に必ずテキストを持参のこと。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　現代中国への視座と中国近現代史を学ぶ意味
２回　大清帝国素描（１）：統治理念と版図の形成
３回　大清帝国素描（２）：対外観念と国際関係
４回　アヘン貿易とアヘン戦争
５回　太平天国
６回　洋務運動
７回　辺境の喪失
８回　朝鮮問題と日清戦争（１）：日清の朝鮮支配争い
９回　朝鮮問題と日清戦争（２）：下関条約と東アジア国際関係の変動
１０回　変法自強運動
１１回　義和団事件
１２回　光緒新政
１３回　清朝打倒の革命運動
１４回　辛亥革命と清朝の滅亡（１）：鉄道国有化問題
１５回　辛亥革命と清朝の滅亡（２）：武昌起義と清朝の滅亡

成績評価の方法　/Assessment Method

出席回数が規定内であれば、下記のように評価する。出席回数が規定に照らして不足する場合は評価対象から除外する。
試験…８０％　　その他小テスト等…２０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前にテキストとレジュメに目を通して出席すること。授業後に当日学習したテキストとレジュメを学習すること。

履修上の注意　/Remarks

高校時代に日本史か世界史を受験科目として学習しなかった学生は、授業前にテキストを読んでから授業に出席して下さい。高校レベルの日本史・世界史よりも、やや難しい内容を扱います。

中国近現代史I 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

学生諸君は、「歴史学習はひたすら暗記することである」との認識をお持ちではないでしょうか。大学での歴史学習は、そのような暗記中心とは無縁です。当時の人々や国家が直面する課題を当時の政治等の環境から理解できる歴史的思考を訓練する機会となれば幸いです。

キーワード　/Keywords

19世紀後半～20世紀初頭、大清帝国、アヘン戦争、太平天国、洋務運動、辺境喪失、変法自強運動、義和団事件、光緒新政、反清革命運動、辛亥革命

中国近現代史II 【昼】

担当者名 /Instructor　堀地　明 / 中国学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国近現代の歴史に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル		
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中国近現代の歴史に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国近現代史Ⅱ	HIS121M

授業の概要 /Course Description

「２０世紀の中国」
中華民国期(１９１２～４９年)の政治・外交・社会・経済等の諸問題を講義し、中国近現代史への基本的理解を深める。また、中華人民共和国の歩みも講じる。

教科書 /Textbooks

田中仁・菊池一隆等著『新図説中国近現代史』（法律文化社）
※初回に必ずテキストを持参のこと。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回 中華民国の出発と軍閥混戦（１）：袁世凱政権の諸相
２回 中華民国の出発と軍閥混戦（２）：北洋軍閥の抗争
３回 日本の対華２１ヶ条要求
４回 新文化運動・五四運動
５回 第一次世界大戦下の経済発展
６回 戦間期とワシントン体制
７回 第一次国共合作と国民革命（１）：国共合作の成立
８回 第一次国共合作と国民革命（２）：上海政変と国共分離
９回 九・一八事変と抗日民族統一戦線（１）：柳条湖事件と満州国の成立
８回 九・一八事変と抗日民族統一戦線（２）：西安事変と抗日民族統一政権の成立
９回 日中全面戦争の勃発
１０回 日中全面戦争からアジア太平洋戦争へ
１１回 国共内戦と中華人民共和国の成立
１２回 毛沢東時代の中華人民共和国
１３回 鄧小平と改革開放
１４回 中華人民共和国と辺境
１５回 戦後の日中関係

成績評価の方法 /Assessment Method

出席回数が規定内であれば、下記のように評価する。出席回数が規定に照らして不足する場合は評価対象から除外する。
試験…８０％　その他小テスト等…２０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前にテキストとレジュメに目を通して出席すること。授業後に当日学習したテキストとレジュメを学習すること。

履修上の注意 /Remarks

高校時代に日本史か世界史を受験科目として学習しなかった学生は、授業前にテキストを読んでから授業に出席して下さい。高校レベルの日本史・世界史よりも、やや難しい内容を扱います。

中国近現代史II 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

学生諸君は、「歴史学習はひたすら暗記することである」との認識をお持ちではないでしょうか。大学での歴史学習は、そのような暗記中心とは無縁です。当時の人々や国家が直面する課題を当時の政治等の環境から理解できる歴史的思考を訓練する機会となれば幸いです。

キーワード　/Keywords

中華民国、軍閥混戦、対華21ヶ条要求、新文化運動、五四運動、ワシントン体制、第一次国共合作、国民革命、九·一八事変、日中全面戦争、国共内戦、中華人民共和国、毛沢東、鄧小平、日中関係

異文化演習Ｂ 【昼】

担当者名 /Instructor　大平　剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

本演習はJICA九州と連携し、「異文化理解」を目的として実施されます。JICA専門家や青年海外協力隊OB/OGを講師として招き、地球的課題について学習するとともに、文化が異なる人たちとどのように共生していくのかについて考えます。JICA九州研修員との交流会を間に挟み、研修員の方々の日本滞在中の研修内容について事前に学習するだけでなく、彼らの母国の政治・経済・文化・社会・歴史について学習します。これらの学習をもとに、交流会ではいくつかの班に分かれて研修員の方々と交流します。また、交流会では日本文化や日本社会についてプレゼンテーションを行います。

教科書　/Textbooks

特に指定はありません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特に指定はありません。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　オリエンテーション
第2回　研修員の研修内容に関する学習
第3回　研修内容に関する各グループによるプレゼンテーション
第4回　研修員の母国についての学習（１）経済
第5回　研修員の母国についての学習（２）政治
第6回　研修員の母国についての学習（３）文化
第7回　研修員の母国についての学習（４）社会
第8回　研修員の母国についての学習（５）歴史
第9回　青年海外協力隊経験者による講義
第10回　交流会における日本文化・日本社会紹介のための準備活動
第11回　交流会アイデアに関するプレゼンテーション大会
第12回　JICA専門家、JICA九州職員による出前講義
第13回　交流会の実施
第14回　交流会で得た知見についての事後学習
第15回　まとめ
（※交流会の日程次第で、上記の授業計画は前後を入れ替えるなどの変更がありえます。）

成績評価の方法　/Assessment Method

演習形式であることから、グループ・ワークでの貢献度（60%）やプレゼンテーション（40%）で評価します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習として、自身が調べた内容について報告する際、事前にしっかりと英語で発表できるように準備しておいてください。事後学習としては、グループでその日学んだ内容を確認しあい、次の発表に備えてください。

履修上の注意　/Remarks

【重要】この演習はJICA側の都合により、水曜日の２限に行います。授業は基本的に英語で行いますが、授業理解のために補助的に日本語が用いられます。また、研修員との交流会は英語で行われるため、ある程度の英語力（TOEIC600点以上が望ましい）が求められます。履修登録は2学期に行うこととし、学務第一課で８月末までに英語力スコアのコピーを提出してください。期日等については改めて掲示を行いますので、注意しておいて下さい。もし受講希望者が多数の場合は選抜をすることがあります。その際は、上級生を優先します。なお、国際関係学科がホスト学科になりますが、他学部の学生や他学科の学生が受講することもあります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

英語を人前で話すのには抵抗があるかも知れませんが、大事なことは「意思疎通」ができるかどうかです。文法的なことを気にせず、相手に伝えることを意識してください。

キーワード　/Keywords

イスパニア地域論 【昼】

担当者名 /Instructor　富田　広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	スペインを中心にスペイン語圏の地域の成り立ちを理解している。
技能	専門分野のスキル	●	ヨーロッパの中のスペイン、あるいはスペイン語圏の位置を理解している。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	スペインとスペイン語圏の歴史的比較ができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	日本とスペインあるいはスペイン語圏との関係に関心を維持する。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

(27年度以降 比文) スペイン語圏地域論	ARE243M
イスパニア地域論	ARE243M

授業の概要 /Course Description

スペイン語を話している国や地域は世界中にたくさんあります。この授業では、そのスペイン語圏の様々な場所で生まれた文明、文化の来歴と特徴、そしてそれらが今日までにどのように保存・活用されているか、ということを概観します。

教科書 /Textbooks

授業担当者が適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○永川玲二『ことばの政治学』筑摩書房、1979．/ 岩波同時代ライブラリー、1995．
○永川玲二『アンダルシーア風土記』岩波書店、1999．
増田義郎『インカ帝国探検記』中公文庫、2017（古いものでも同じです）.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１．イントロダクション：スペイン世界（エル・ムンド・イスパニコ）とは何か
２．スペイン美術と音楽
３．闘牛とフラメンコ
４．スペイン料理、スペイン文学
５．スペインの世界遺産など
６．ペドロ・アルモドバルの芸術（経歴と作風）
７．ペドロ・アルモドバルの芸術（作品）
８．スペイン編、まとめと小テスト
９．ラテンアメリカとの遭遇、文明のホライゾン
１０．マヤ文明、アステカ文明
１１．インカ文明
１２．ラテンアメリカ文学と美術
１３．ラテンアメリカの独立（スペイン関係史）
１４．映画『モーターサイクル・ダイアリーズ』
１５．ラテンアメリカ編、まとめと小テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み３０％、小テスト７０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には、指定された書籍等の該当箇所を参照しておくこと。授業後には配布されたレジュメの内容をレビュすること。

履修上の注意 /Remarks

いかなる理由であっても遅刻、欠席が５回に及んだ場合は評価の対象としない。

イスパニア地域論 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

スペイン　ラテンアメリカ　文明　文化

経済学入門Ａ 【昼】

担当者名 /Instructor　後藤　宇生 / 経済学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	ミクロ経済分析に必要な初歩的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済学入門A	ECN110M

授業の概要　/Course Description

＜授業の概要（ねらい・テーマ）＞

1. 経済学の基本的原理を学ぶ。
2. ミクロ経済学の初歩的な手法を学ぶ。
3. 市場メカニズムについて学ぶ。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

① 経済学的思考法ができるようになる。
② メディアで取り上げられるような経済問題をミクロ経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

教科書　/Textbooks

適宜指示。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

マンキュー　『マンキュー経済学I　ミクロ経済学編』　(第3版)　東洋経済新報社、2013年．

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回：　イントロダクション
　　なぜ？経済学を学ぶのか？、経済学の考え方、【仮定の役割】、【モデル分析】
2回：　グラフの読み方、一次関数の学習　【傾きの概念】
3回：　経済学の基本原理について(1)　【トレードオフ】、【機会費用】、【限界原理】、【インセンティブ】
4回：　経済学の基本原理について(2)　【取引】、【市場】、【生産性】
5回：　相互依存と交易について (1)【取引のメリット】、【生産可能性】、【機会費用】
6回：　相互依存と交易について (2)【絶対優位】
7回：　相互依存と交易について (3)【比較優位】
8回：　需要と供給　(1)【市場と競争】、【需要】、【供給】
9回：　需要と供給　(2)【需要曲線、供給曲線のシフト】
10回：　需要と供給　(3)【需要の弾力性】
11回：　需要と供給　(4)【供給の弾力性】
12回：　市場均衡について(1)　【価格】、【均衡】
13回：　市場均衡について(2)　【比較静学】
14回：　需要、供給、政府の政策　【価格規制】、【税金】
15回：　経済学再考　【市場メカニズム】

成績評価の方法　/Assessment Method

各担当教員の評価方法に従う。(100%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

教材と進度に応じて各教員が指示しますのでそれに従ってください．

経済学入門Ａ 【昼】

履修上の注意　/Remarks

丸暗記するのではなく、理解するように心がけてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

経済学入門Ｂ 【昼】

担当者名 /Instructor　畔津　憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	マクロ経済分析に必要な初歩的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済学入門B	ECN111M

授業の概要　/Course Description

マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の１つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレといった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。
この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、マクロ経済学Ⅰ・Ⅱで講義されるより専門的な内容を吸収できるための基礎的素養を養うことを目的とする。

教科書　/Textbooks

井出 多加子・井上 智夫・北川 浩・幸村 千佳良 著
経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

テキストに沿って講義を行う。
１回　イントロダクション (マクロ経済学とは何か？・講義の進め方についての説明)
２回　第１章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】
３回　第１章 経済の大きさを測ってみよう【国民所得の三面等価】
４回　第２章 豊かさの指標を考えてみよう【GNI】
５回　第２章 豊かさの指標を考えてみよう【名目と実質】
６回　第３章 金融のしくみを知ろう【金融】
７回　第３章 金融のしくみを知ろう【利子率】
８回　第４章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】
９回　第４章 貨幣の奥深さに触れてみよう【金融政策】【為替】
１０回　第５章 税金の大切さを知ろう【租税】
１１回　第５章 税金の大切さを知ろう【財政】
１２回　第６章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗】
１３回　第６章 政府の役割について考えてみよう【財政政策】
１４回　第７章 失業の意味を考えてみよう【失業】
１５回　まとめ
(第8章「海外にも目を向けてみよう」は第3章、第9章「経済全体を再確認してみよう」は第2章で適宜説明を行う。)

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト…３０％　　期末試験…７０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回の講義後に講義資料を見直し、練習問題を解くなどして理解を深めて下さい。
また教科書の講義内容に該当する箇所を読むことで理解を深めることができます。

履修上の注意　/Remarks

毎回の講義後に講義資料を見直し、練習問題を解くなどして理解を深めて下さい。
また教科書の講義内容に該当する箇所を読むことで理解を深めることができます。

経済学入門Ｂ 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ユーラシアの多文化世界 【昼】

担当者名 /Instructor　芳之内　雄二 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	ロシア、カフカス、中央アジア、バルト地域などの多様な民族社会の存在を理解している。
技能	専門分野のスキル	●	民族を結びつけている我々意識、言語、文化、宗教についての基本的アプローチ法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を自ら設定し、適切なアプローチ法を用いつつ、複眼的視野に基づいて考察し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	異なる民族文化の諸領域に対する関心を維持する。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ユーラシアの多文化世界	ARE265M

授業の概要　/Course Description

民族を結び付けている言語・文化・宗教、アイデンティティなどについて、特に、文化の維持と継承・創造の視点から考察する。
事例研究では、主にロシア連邦のボルガ中流地域、北カフカス地域などの民族共和国、さらに中央アジア、ウクライナ、バルト諸国などを取り上げる。
到達目標は、文化の創造・維持についての理解を深め、多民族社会に関する知識を養い、日本の社会を多様な価値観で認識し直すことができるようになること。

教科書　/Textbooks

レジュメ配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○青木保『文化の否定性』中央公論社、1988
○E.W.サイード『オリエンタリズム』上・下、平凡社、1993
○小泉武夫『食の堕落と日本人』東洋経済新報社、2001
平田オリザ『わかりあえないことから』講談社現代新書、2012
○アーネスト・ゲルナー『民族とナショナリズム』岩波書店、2000
○宇山智彦編著『中央アジアを知るための60章』明石書店、2003年
○北川誠一ほか編著『コーカサスを知るための60章』明石書店、2006年
○田中・倉持・和田編『ロシア史』全3巻（世界歴史体系シリーズ）山川出版社、1994 - 1997
以上の他に指定図書も10冊ほどあります。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　民族とは何か：民族籍と国籍、民族アイデンティティ、ナショナリズム
2回　民族社会と文化①文化の定義、人と文化、文化政策
3回　民族社会と文化②文化の創造と維持
4回 社会と宗教：世界の宗教意識調査、宗教の役割とは何か、宗教政策
5回 言語と社会①【母語とは】、人と言語、民族言語
6回　言語と社会②　近代化と言語政策・言語問題
7回　ロシアの諸民族総論
8回　ボルガ・ウラル地域の民族社会①タタール人
9回 ボルガ・ウラル地域の民族社会②ウドムルト人
10回 北カフカスの諸民族、【ダゲスタンの諸民族】
11回 シベリア・極北の民族社会：自然と産業、開発の歴史、少数民族社会の消長
12回 中央アジアの民族と社会：①自然風土、草原の民とオアシスの民
13回 中央アジアの民族と社会：②信仰と宗教、歴史・文化、新たな国造り
14回 ウクライナの民族・地域問題：歴史、言語、文化・宗教
15回 バルトの諸民族：エストニア、ラトビアの歴史と民族、文化

ユーラシアの多文化世界 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験70%、小レポート30%
（欠席・遅刻が三分の一以上の者は受験資格を失います）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前にシラバス記載の参考書、授業計画・内容に関係した書物（文化論、民族論、社会言語学、さらにロシアの歴史や社会に関するもの）を読み基本的な知識を得ておくこと。また、毎回の授業でも参考文献を示すので、興味のあるテーマを選んで関連文献を読み理解を深めること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

民族、ナショナリズム、文化、民族伝統文化維持、宗教、ことばと社会、ロシア、ウクライナ、タタルスタン、ウドムルト、カフカス、ダゲスタン、シベリア、中央アジア、バルト地域、

時事中国語講読I 【昼】

担当者名 /Instructor　白石　麻保 / 中国学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国の時事問題に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル	●	中国の時事問題に関し、中国語文献資料を活用した分析・考察能力を身につける。
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現在の中国社会に関する諸問題について分析・解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中国の時事問題に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

時事中国語講読 I	ARE311M

授業の概要　/Course Description

中国の時事問題に関する文献を読解することを通じて、現在の中国経済・社会の状況をさまざまな角度から理解を深める。最初は、資料読解力の養成、及び基本的な中国経済・社会に関する知識の習得を目指す。出来る限り多方面の時事問題にふれるため、生活や社会など身近な話題から、政治・経済などの話題まで取り上げ、現在の中国の様相の一端に触れるようにする。

教科書　/Textbooks

講読資料は担当者より提示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

丸川知雄(1999)　「市場発生のダイナミクス　移行期の中国経済」　アジア経済研究所　￥1400
日本経済新聞社編(2002)「中国−世界の「工場」から「市場」へ」　日経ビジネス人文庫　￥630
高井潔司 (2002)「中国報道の読み方」岩波アクティブ新書　￥700
丸川知雄 (2013)『チャイニーズドリーム-大衆資本主義が世界を変える』ちくま新書　この他適宜授業中に提示する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　文献輪読及び説明，議論・地域社会(1)　【テーマ、背景の説明】【読解】
３回　文献輪読及び説明，議論・地域社会(2)　【読解】
４回　文献輪読及び説明，議論・地域社会(3)　【読解】【議論】
５回　文献輪読及び説明，議論・時事ニュース(1)　【テーマ、背景の説明】【読解】
６回　文献輪読及び説明，議論・時事ニュース(2)　【読解】
７回　文献輪読及び説明，議論・時事ニュース(3)　【読解】【議論】
８回　文献輪読及び説明，議論・経済、社会(1)　【テーマ、背景の説明】【読解】
９回　文献輪読及び説明，議論・経済、社会(2)　【読解】
１０回　文献輪読及び説明，議論・経済、社会(3)　【読解】【議論】
１１回　文献輪読及び説明，議論・国際的な話題(1)　【テーマ、背景の説明】【読解】
１２回　文献輪読及び説明，議論・国際的な話題(2)　【読解】
１３回　文献輪読及び説明，議論・国際的な話題(3)　【読解】【議論】
１４回　文献輪読及び説明，議論・全体討論
１５回　まとめ

* 但し、講義の進捗状況によって、もしくは時事問題の適時性の確保のために、取り上げる話題及び内容には変更の可能性がある。

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験　70%　　レポート　10%　　輪読・発表等授業への取り組み　20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：文献には必ず目を通しておくこと
事後学習：講義での輪読、説明、議論を踏まえて、中国社会や日本社会等への客観的認識を深めるよう思考し、次の回につなげるよう尽力すること。

時事中国語講読I 【昼】

履修上の注意　/Remarks

日本、中国及びアジアを中心とした地域のニュース等を日ごろからチェックしてください。また輪読がスムーズに行われるように、事前に文献に目を通しておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

時事中国語講読II 【昼】

担当者名 /Instructor　白石　麻保 / 中国学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国の時事問題に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル	●	中国の時事問題に関し、中国語文献資料を活用した分析・考察能力を身につける。
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現在の中国社会に関する諸問題について分析・解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中国の時事問題に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

時事中国語講読Ⅱ	ARE312M

授業の概要　/Course Description

中国の時事問題に関する文献を読解することを通じて、現在の中国経済・社会の状況をさまざまな角度から理解していく。
中国経済・社会に関する知識の習得、及び資料読解力の養成を目指す。その中で出来るだけ現地で出版された個別時事問題に関する文献を扱うことも目指す。
中国の時事問題に関する文献を読解することを通じて、現在の中国経済・社会の状況をさまざまな角度から理解を深める。最初は、資料読解力の養成、及び基本的な中国経済・社会に関する知識の習得を目指す。出来る限り多方面の時事問題にふれるため、生活や社会など身近な話題から、政治·経済などの話題まで取り上げ、現在の中国の様相の一端に触れるようにする。

教科書　/Textbooks

講読資料は担当者より提示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

丸川知雄(1999)　「市場発生のダイナミクス　移行期の中国経済」　アジア経済研究所　￥1400
日本経済新聞社編(2002)「中国−世界の「工場」から「市場」へ」　日経ビジネス人文庫　￥630
高井潔司 (2002)「中国報道の読み方」岩波アクティブ新書　￥700
丸川知雄 (2013)『チャイニーズドリーム-大衆資本主義が世界を変える』ちくま新書　　この他適宜授業中に提示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　文献輪読及び説明，議論・地域社会(1)　【テーマ、背景の説明】【読解】
３回　文献輪読及び説明，議論・地域社会(2)　【読解】
４回　文献輪読及び説明，議論・地域社会(3)　【読解】【議論】
５回　文献輪読及び説明，議論・時事ニュース(1)　【テーマ、背景の説明】【読解】
６回　文献輪読及び説明，議論・時事ニュース(2)　【読解】
７回　文献輪読及び説明，議論・時事ニュース(3)　【読解】【議論】
８回　文献輪読及び説明，議論・経済、社会(1)　【テーマ、背景の説明】【読解】
９回　文献輪読及び説明，議論・経済、社会(2)　【読解】
１０回　文献輪読及び説明，議論・経済、社会(3)　【読解】【議論】
１１回　文献輪読及び説明，議論・国際的な話題(1)　【テーマ、背景の説明】【読解】
１２回　文献輪読及び説明，議論・国際的な話題(2)　【読解】
１３回　文献輪読及び説明，議論・国際的な話題(3)　【読解】【議論】
１４回　文献輪読及び説明，議論・全体討論
１５回　まとめ

* 但し、講義の進捗状況によって、もしくは時事問題の適時性の確保のために、取り上げる話題及び内容には変更の可能性がある。

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験　70%　　レポート　10%　　輪読・発表等授業への取り組み　20%

時事中国語講読II 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：文献には必ず目を通しておくこと
事後学習：講義での輪読、説明、議論を踏まえて、中国社会や日本社会等への客観的認識を深めるよう思考し、次の回につなげるよう尽力すること。

履修上の注意　/Remarks

日本、中国及びアジアを中心とした地域のニュース等を日ごろからチェックしてください。また輪読がスムーズに行われるように、事前に文献に目を通しておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ビジネス中国語I 【昼】

担当者名 /Instructor　唐　雋 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3 - 1・ 3 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国ビジネスの分野で、活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国ビジネスの専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国ビジネスの分野で、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス中国語 I	CHN362M

授業の概要　/Course Description

コミュニケーションツールとしてビジネス中国語運用能力を育成するため、ビジネスに関するイロハを丁寧に説明する。またビジネスに必要な単語、実務に使われる基本会話を習得し、実用的なコミュニケーション能力およびビジネス文章の読む力、書く力を身につける。さらに進学・就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（ＢＣＴ）の初級、中・上級レベルを目指し、短期間で合格することを目指す。

教科書　/Textbooks

初回授業時に指示する

その他の資料は授業中に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「BCTビジネス中国語検定試験パーフェクトトレーニング」
日本BCT事務局　セリングビジョン株式会社発行

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１学期（Ａ）
ビジネス基本単語の発音と日本語の意味合いを繰り返して覚える。実務に使われる基本会話を学習する。ＢＣＴ試験内容「ヒアリング・閲読」を理解し、受験する試験会場での実際の試験プロセスを把握する。模擬問題集の問題を練習し、模擬テストを体験する。ＢＣＴテストに挑戦する。

１回　オリエンテーション
２回　閲読練習
３回　ビジネス用語単語テスト・ヒアリング練習
４回　ビジネス用語単語テスト・作文練習1
５回　ビジネス用語単語テスト・作文練習2
６回　ビジネス用語単語テスト・作文練習3
７回　ビジネス用語単語テスト・作文練習4
８回　ビジネス用語単語テスト・ヒアリング練習
９回　ビジネス用語単語テスト・作文練習5
１０回　ビジネス用語単語テスト・作文練習6
１１回　ビジネス用語単語テスト・作文練習7
１２回　ビジネス用語単語テスト・作文練習8
１３回　ビジネス用語単語テスト・作文練習9
１４回　ビジネス用語単語テスト・作文練習10
１５回　総合練習

成績評価の方法　/Assessment Method

授業態度15%、単語小テスト45%、定期試験40%　。

ビジネス中国語I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

単語小テストを行うため、単語予習に時間をかける必要がある。

履修上の注意　/Remarks

毎回必ず授業の内容を予習と復習すること。

できるだけ欠席しないこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

日常生活に関わる中国語の単語をより多く聞き取れるように勉強してほしい。
必ず出席すること。

キーワード　/Keywords

日常生活用語　　ビジネス専門用語　　ＢＣＴ受験　（BCT初級、中・上級を含む）

ビジネス中国語I 【昼】

担当者名 /Instructor　唐　雋 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3 - 3・ 3 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国ビジネスの分野で、活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国ビジネスの専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国ビジネスの分野で、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス中国語 I	CHN362M

授業の概要　/Course Description

コミュニケーションツールとしてビジネス中国語運用能力を育成するため、ビジネスに関するイロハを丁寧に説明する。またビジネスに必要な単語、実務に使われる基本会話を習得し、実用的なコミュニケーション能力およびビジネス文章の読む力、書く力を身につける。さらに進学・就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（ＢＣＴ）の初級、中・上級レベルを目指し、短期間で合格することを目指す。

教科書　/Textbooks

初回授業時に指示する

その他の資料は授業中に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「BCTビジネス中国語検定試験パーフェクトトレーニング」
日本BCT事務局　セリングビジョン株式会社発行

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１学期（Ａ）
ビジネス基本単語の発音と日本語の意味合いを繰り返して覚える。実務に使われる基本会話を学習する。ＢＣＴ試験内容「ヒアリング・閲読」を理解し、受験する試験会場での実際の試験プロセスを把握する。模擬問題集の問題を練習し、模擬テストを体験する。ＢＣＴテストに挑戦する。

１回　オリエンテーション
２回　閲読練習
３回　ビジネス用語単語テスト・ヒアリング練習
４回　ビジネス用語単語テスト・作文練習1
５回　ビジネス用語単語テスト・作文練習2
６回　ビジネス用語単語テスト・作文練習3
７回　ビジネス用語単語テスト・作文練習4
８回　ビジネス用語単語テスト・ヒアリング練習
９回　ビジネス用語単語テスト・作文練習5
１０回　ビジネス用語単語テスト・作文練習6
１１回　ビジネス用語単語テスト・作文練習7
１２回　ビジネス用語単語テスト・作文練習8
１３回　ビジネス用語単語テスト・作文練習9
１４回　ビジネス用語単語テスト・作文練習10
１５回　総合練習

成績評価の方法　/Assessment Method

授業態度15%、単語小テスト45%、定期試験40%　。

ビジネス中国語I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

単語小テストを行うため、単語予習に時間をかける必要がある。

履修上の注意　/Remarks

毎回必ず授業の内容を予習と復習すること。

できるだけ欠席しないこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

日常生活に関わる中国語の単語をより多く聞き取れるように勉強してほしい。
必ず出席すること。

キーワード　/Keywords

日常生活用語　　ビジネス専門用語　　ＢＣＴ受験　（BCT初級、中・上級を含む）

ビジネス中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor　唐　雋 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3 - 1・ 3 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国ビジネスの専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国ビジネスの分野で、活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国ビジネスの分野で、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス中国語Ⅱ	CHN363M

授業の概要　/Course Description

コミュニケーションツールとしてビジネス中国語運用能力を育成するため、ビジネスに関するイロハを丁寧に説明する。またビジネスに必要な単語、実務に使われる基本会話を習得し、実用的なコミュニケーション能力およびビジネス文章の読む力、書く力を身につける。さらに進学・就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（ＢＣＴ）の初級、中・上級レベルを目指し、短期間で合格することを目指す。

教科書　/Textbooks

初回授業時に指示する
その他の資料は授業中に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「BCTビジネス中国語検定試験パーフェクトトレーニング」
セリングビジョン株式会社発行

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第２学期（Ｂ）
ビジネス基本単語を繰り返して覚える。実務に使われる基本会話を学習する。
「ヒアリング・閲読・会話」について繰り返して学習する。（ＢＣＴ問題集を学習する。）
ビジネス会話に挑戦する。

１回　オリエンテーション
２回　ビジネス用語単語テスト・閲読練習1
３回　ビジネス用語単語テスト・閲読練習2
４回　ビジネス用語単語テスト・閲読練習3
５回　ビジネス用語単語テスト・ヒアリング練習1
６回　ビジネス用語単語テスト・ヒアリング練習2
７回　ビジネス用語単語テスト・ヒアリング練習3
８回　思考力、考える力に関する練習
９回　発想力練習
１０回　実践ビジネス会話練習1
１１回　実践ビジネス会話練習2
１２回　実践ビジネス会話発表
１３回　実践ビジネス会話練習3
１４回　実践ビジネス会話練習4
１５回　総合発表

成績評価の方法　/Assessment Method

授業態度15%、小テスト・発表40%、定期試験40%　。

ビジネス中国語II 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

単語テストの予習、会話発表の準備。

履修上の注意　/Remarks

毎回必ず授業の内容を予習と復習すること。

できるだけ欠席しないこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

日常生活に関わる中国語の単語をより多く覚えてしてほしい。
必ず出席すること。

キーワード　/Keywords

ビジネス専門用語　　会話力　　ビジネス文章　　ＢＣＴ受験　（BCT初級、中・上級を含む）

ビジネス中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor　唐　雋 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3 - 3・ 3 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国ビジネスの専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国ビジネスの分野で、活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国ビジネスの分野で、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス中国語Ⅱ	CHN363M

授業の概要　/Course Description

コミュニケーションツールとしてビジネス中国語運用能力を育成するため、ビジネスに関するイロハを丁寧に説明する。またビジネスに必要な単語、実務に使われる基本会話を習得し、実用的なコミュニケーション能力およびビジネス文章の読む力、書く力を身につける。さらに進学・就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（ＢＣＴ）の初級、中・上級レベルを目指し、短期間で合格することを目指す。

教科書　/Textbooks

初回授業時に指示する
その他の資料は授業中に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「BCTビジネス中国語検定試験パーフェクトトレーニング」
セリングビジョン株式会社発行

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第２学期（Ｂ）
ビジネス基本単語を繰り返して覚える。実務に使われる基本会話を学習する。
「ヒアリング・閲読・会話」について繰り返して学習する。（ＢＣＴ問題集を学習する。）
ビジネス会話に挑戦する。

１回　オリエンテーション
２回　ビジネス用語単語テスト・閲読練習1
３回　ビジネス用語単語テスト・閲読練習2
４回　ビジネス用語単語テスト・閲読練習3
５回　ビジネス用語単語テスト・ヒアリング練習1
６回　ビジネス用語単語テスト・ヒアリング練習2
７回　ビジネス用語単語テスト・ヒアリング練習3
８回　思考力、考える力に関する練習
９回　発想力練習
１０回　実践ビジネス会話練習1
１１回　実践ビジネス会話練習2
１２回　実践ビジネス会話発表
１３回　実践ビジネス会話練習3
１４回　実践ビジネス会話練習4
１５回　総合発表

成績評価の方法　/Assessment Method

授業態度15%、小テスト・発表40%、定期試験40%　。

ビジネス中国語II 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

単語テストの予習、会話発表の準備。

履修上の注意　/Remarks

毎回必ず授業の内容を予習と復習すること。

できるだけ欠席しないこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

日常生活に関わる中国語の単語をより多く覚えてしてほしい。
必ず出席すること。

キーワード　/Keywords

ビジネス専門用語　　会話力　　ビジネス文章　　ＢＣＴ受験　（BCT初級、中・上級を含む）

アジア地域社会論 【昼】

担当者名 /Instructor　三宅 博之 / HIROYUKI　MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アジア諸国の地域社会の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、アジアの地域社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	●	アジアの地域社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アジア地域社会論	PLC222M

授業の概要　/Course Description

今日、アジア諸国の経済成長や社会発展は目覚ましく、今世紀の世界をリードしていくのは確実視されています。グローバリゼーションの中でそのような経済成長が続いていますが、経済同様、アジア諸国の社会の動きも活発化しています。元来、担当教員は、バングラデシュ地域に研究の焦点を絞っていましたが、2007年以降バングラデシュ人にとって海外出稼ぎ労働の対象国として人気のある韓国に数多く足を運んでは調査研究を繰り返すようになりました。ゆえに、本授業では、最初にアジア地域全体の社会を概観・分類し、次に、担当教員の研究に非常に関係のあるアジア2カ国、韓国とバングラデシュを対象に、同国の文化・生活・社会の断面を紹介していきます。担当教員の体験や関心から出発しているので、若干（かなりかも）、マニアックになるのはお許しください。アジア大好き人間になり、学生時代には一度は同国に出かけてください。アジアに少しでも興味ある学生なら誰でも歓迎です。北九州市、福岡市や福岡県が自らをアジアのゲートウェイと位置づけ、積極的に経済面社会面でアジアとの交流・協力を進めている現在、なおさらのこと、本授業を通して羽ばたいてください。

本授業では、以上のことから、バングラデシュと韓国の社会文化に関する知識の吸収はもとより、公正・平等・信頼といった価値観の形成を目標とし、マスコミの情報に振り回されることなく、真の国際理解ができる人を目指してもらいます。また、両国に興味を持つことによって、直接出かけるという実践力・行動力が現れることも期待しています。

教科書　/Textbooks

その都度配布
○三宅博之『開発途上国の都市環境 - バングラデシュ・ダカ　持続可能な社会の希求』明石書店、2008年

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

* 大橋正明・村山真弓編『バングラデシュを知るための60章【第3版】』明石書店、2017年
* パク・ジョンヒュン『韓国人を愛せますか？』講談社＋α新書、2008年、840円
* 棚瀬孝雄『市民社会と法～変容する日本と韓国の社会』ミネルヴァ人文・社会科学叢書、2007年、5775円
* クォン・ヨンスク『「韓流」と「日流」～文化から読み解く日韓新時代』NHK出版、2010年、1100円
* 金栄勲『韓国人の作法』集英社新書、2010年、700円

アジア地域社会論 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　「アジア地域社会論」に関する授業方針と内容の説明～アジア社会一般的特徴の解説を含む
第２回　アジア地域の社会の概観～統計数値、料理写真を通しての社会の特徴の分類～グループ討論　【統計数値】
第３回　韓国とバングラデシュへのスタディ・ツアーの写真から韓国社会とバングラデシュ社会を読み解く　【スタディツアー】
第4回　韓国の1960~70年代の政治・社会と現在～映画の一コマ「クラシック」を通して（１）　【映画部分鑑賞】
第5回　韓国の1960~70年代の政治・社会と現在～映画の一コマ「クラシック」を通して（２）　【映画部分鑑賞】
第6回　韓国におけるバングラデシュ人労働者～彼らの本音を探る　【バングラデシュ人労働者】
第7回　韓国における多文化家族に見る社会～途上国からの花嫁　【多文化家族】
第8回　韓国の現代史、韓国社会の国際化（留学事情、学歴社会）　【現代史】
第9回　韓国の宗教と文化　【価値教育】
第10回　イスラームとは？　【イスラーム】
第11回　バングラデシュの都市社会（中産階層と清掃人・ウェイストピッカー・有価廃棄物回収児童）　【雑業層】
第12回　バングラデシュの農村社会～農業の特徴　【農業】
第13回　バングラデシュのコミュニティ～日本のコミュニティ問題と比較して～グループ討論　【コミュニティ】
第14回　それでも、バングラデシュ！　小ネタ集～教員の仰天体験を通して？　【参与観察】
第15回　まとめ　～　途上国に行く気になったか　～　グループ討論

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への日常的な取り組みの姿勢…30％　小課題の提出　…　20％　試験　…　50％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習は教科書や参考文献で授業箇所を読んでおくことと日ごろから途上国の話題を探すこと、事後学習は授業で習ったことの復習と小課題への適用です。

履修上の注意　/Remarks

時々の小課題の実施
上記アジア2国はかなり異なっている。面白く、興味深い授業を心掛けたいので、笑う時は笑い、泣く時は泣き（映画鑑賞では泣きます）、考えるべき時は考え、なにごとにも真剣に取り組んでいただきたい。
1学期の途上国開発論との抱き合わせで履修すれば本講義の理解により役立ちます。
同時に、自主練習を行い、授業の内容を反復していてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

北九州から韓国は本当に近いので、もっともっと韓国のことを知り、複数回の韓国訪問を果たしてほしい。片やバングラデシュへの道は厳しいが、チャレンジしてほしい。

キーワード　/Keywords

アジア、バングラデシュ、韓国、スタディツアー、国際理解

環境政策論 【昼】

担当者名 /Instructor　申　東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	環境政策の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題とその構造を見極め、政策論的な分析と論理的な思考に基づき、新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える環境問題に対する自らの関心を高め、市民生活と経済活動そして政策とのつながりを再認識する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

環境政策論	PLC216M

授業の概要　/Course Description

人間と社会経済、そして環境との関係について理解し、原因を分析する（分析能力の習得）。

①日本における環境問題と歴史、環境問題の特性と環境問題の要素（環境、社会構造と制度、技術、
　自然、人口）について理解する。
② われわれの日常生活・消費がもたらす環境への影響とその関係についても考えてみる。
③地球温暖化、国境のない環境問題（黄砂現象、ごみの国家間移動、放射能の大気汚染）について理解し原因を分析する。

環境政策に関する専門知識の取得と政策形成能力の向上。

① 環境問題の変化：産業公害型環境問題・都市政策型環境問題・科学技術・リスク型環境問題について考え、
　環境政策を比較、考察する。
② 環境問題におけるグローバルな要素、ローカルな要素について考え、環境政策を比較分析する。
③ エネルギーと生活の関係について考え、持続可能なエネルギー政策を形成する（再生エネルギーと地域活性化）。
④ アメリカ、ドイツ、韓国、中国の環境政策を比較調査する。

教科書　/Textbooks

『環境政策論』（森 晶寿・ 孫 穎・ 竹歳 一紀・ 在間 敬子著 ミネルヴァ書房 2014年 ￥3,240）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『再生可能エネルギーの政治経済学』（大島堅一著 東洋経済新報社 2010年 ￥3,990）
○『環境問題の社会史』（飯島伸子著 有斐閣 2000年 ￥2,310）
○『自動車の社会的費用』（宇沢弘文著 岩波新書 1974年 ￥735 ）
○『環境保護の法と政策』（山村恒年著 信山社 2006年 ￥7,748）
○『環境共同体としての日中韓』（東アジア環境情報発伝所著 集英社 ￥735 ）
『欧州のエネルギーシフト』　（脇坂紀行著 岩波新書 2012年 ￥840）

環境政策論 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回 授業や本の紹介など（自分の環境概念について、書いてもらう）
２回 公害、環境（問題）とその構造（被害者、加害者等）
　環境問題の特性とその構造（環境、社会構造と制度、技術、自然＝資源、人口）
３回 日本の環境問題と歴史
　環境権、環境政策の特徴１（日本、アメリカ、ドイツとEU, 韓国、中国）
４回 各国の環境組織、予算 利害関係者とアクター
５回 環境権、環境政策の特徴２（日本、アメリカ、ドイツとEU, 韓国、中国）
６回 環境政策の手段（間の比較分析）1；補助金、賦課金、税金、規制、取引権、買い上げ等
７回 環境政策の手段（間の比較分析）2；有料化、road pricing等
８回 発表会
９回 自治体の環境政策（環境計画、公害防止規制、横だし、上乗せの条例等）、環境自治体
１０回 廃棄物はどこにいくのか（アジアへ、私の食卓へ、そして体へ）
１１回 自動車と道路、ダイオキシン問題、大気汚染
１２回 地球温暖化と工ネルギー政策
１３回 企業の環境対策とISO、環境ビジネス
１４回 水・川･ダムによる水資源、干潟、地域再生
１５回 まとめ（試験などの質問）

成績評価の方法　/Assessment Method

ポスター発表 30%、レポート 20%、期末試験 50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前課題・事後学習内容については学習支援フォルダに挙げるので、準備すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

以前、ゼミ生と一緒に、小倉駅で、原発事故と工ネルギーに関するアンケートを取った。その調査では、「電力量に対する認識の差」、「原発事故等に関する話し合いの有無」、「参加意志にみえる政治参加システム」について興味深い傾向が読み取れた。ある高校生は、迷うことなく、電力不足に引き続き、原発必要論にマルを付けた。こういう傾向は、女性より男性の方に多く、若いほど電力不足論に票を入れている。これに対し、「40代」の「女性」の方では、電力は不足なんかしない（原発なくても）と答えた。同じ時間軸にいる人々のなかでも、現況を把握するのに、これほどの差が出る。これは、な～ぜ～！！
あなたは、どう思う？

では、工ネルギーで地域経済を支えるって本当！！
また、工ネルギーナシで生活できないって、だったら、地域工ネルギーで就職もできるの？？

キーワード　/Keywords

環境、環境問題、環境政策（政策手段）、環境影響、国際環境問題、
産業公害型環境問題・都市政策型環境問題・科学技術・リスク型環境問題、
地域工ネルギーと原子力。

西洋政治史 【昼】

担当者名 /Instructor　西　貴倫 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	西洋政治史の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

西洋政治史	PLS111M

授業の概要　/Course Description

この講義では、近現代の西洋諸国、イギリス・アメリカ・フランス・ドイツの政治的経験を概観する。
具体的には、市民が政治の主体となる自由民主主義体制の形成と変容について、政治学の基本的な理解枠組みを用いながら検討していく。

教科書　/Textbooks

杉本稔編『西洋政治史』弘文堂、2014年02月刊（2,000円＋税）。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○R・A・ダール著、高畠通敏・前田脩訳『ポリアーキー』岩波文庫、2014年10月刊（1,080円＋税）。
加藤秀治郎・岩渕美克編『政治社会学』第5版、一藝社、2013年3月刊（2,600円＋税）。
○篠原一『ヨーロッパの政治--歴史政治学試論』東京大学出版会、1986年9月刊（3,200円＋税）。
○P・ピアソン著、粕谷祐子監訳『ポリティクス・イン・タイム--歴史・制度・社会分析』ポリティカル・サイエンス・クラシックス5、勁草書房、2010年4月刊（3,600＋税）。
その他、適宜授業中に紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　はじめに--政治学と政治史
第2回　分析視角--異議申立、参加、政治変動、社会的亀裂
第3回　議会制の成立①--イギリスの場合
第4回　議会制の成立②--アメリカの場合
第5回　議会制の成立③--フランスの場合
第6回　議会制の成立④--ドイツの場合
第7回　政治参加の拡大①--イギリスの場合
第8回　政治参加の拡大②--アメリカの場合
第9回　政治参加の拡大③--フランスの場合
第10回　政治参加の拡大④--ドイツの場合
第11回　福祉国家の盛衰①--イギリスの場合
第12回　福祉国家の盛衰②--アメリカの場合
第13回　福祉国家の盛衰③--フランスの場合
第14回　福祉国家の盛衰④--ドイツの場合
第15回　おわりに--現代西洋政治の歴史的展望

成績評価の方法　/Assessment Method

期末筆記試験（100％）でおこなう。
期末筆記試験は自筆のノートやメモの持ち込みを許可する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回の受講にあたっては教科書の該当部分を一読しておくこと。
受講後は、各回ごとに、その回の内容をまとめたメモを作成すること。

西洋政治史 【昼】

履修上の注意　/Remarks

初回に講義の進め方や成績評価方法などについて詳しく説明するので、履修予定者は特に留意されたい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

地域統合論 【昼】

担当者名 /Instructor　中井　遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域統合の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域統合論	PLS214M

授業の概要　/Course Description

近年の欧州政治の状況が示すように，ある地域統合の枠組みを巡って重要になるのは，統合を目指す利害と統合に反発する利害の，せめぎあいである。そしてそのせめぎあいを理解するにあたっては，統合の主体となっているアクター（EUの場合は国家）それぞれ固有の事情と，その内部での政治ダイナミズムを把握することが有用である。
ヨーロッパを中心に，その拡大過程で発生した大きな政治経済上の変化や，構成メンバーの利害の一致や対立を学ぶことを通じて，地域統合が抱える成果や問題点を考察する。国家間の関係のみならず，国内の地域主義などについても考慮を巡らせる。

教科書　/Textbooks

特に指定しない。参照が必要な事項については各回の授業内で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

初回授業時に数冊推薦する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1．イントロダクションと科目の位置づけ
2．概論１：ヨーロッパの多様性と社会を理解する
3．欧州統合１：欧州統合発足：独仏政治との諸制度の発展
4．欧州統合２：英国への拡大：大陸欧州とアングロサクソンの衝突
5．欧州統合３：南欧への拡大：軍政と経済格差の問題
6．欧州統合４：北欧・中立国への拡大：冷戦崩壊と加盟判断の分裂
7．欧州統合５：東欧への拡大：きわめて異質な社会を統合する
8．欧州統合６：さらなる加盟候補の拡大と軋轢の拡大
9．国家間統合：世界各地の統合機構
10．概論２：国内政治と国際政治の緊張に関する理論
11．国内統合１：地域主義 / 民族問題と内戦をめぐる政治
12．国内統合２：地域主義 / 民族問題と内戦の原因の量的分析
13．国内統合３：地域主義 / 民族問題と内戦の制度的統制およびその効果
14．国内統合４：地域主義 / 民族問題に人の移動が与える影響
15．まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

・期末筆記試験80%（テークホークイグザムになる可能性あり）
・学期内の小レポート提出20%（任意とするか必須とするかは第1回に決定する）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回，次回授業時の範囲にあたる文献を指定するので，それらを参照して予習する事。授業スライドはmoodleにアップする。本科目の特質上，固有の政治的事実や固有名詞が頻繁に登場し，また実践科目である以上それらの知識を前提に次回授業が組み立てられていくことも想定されることから，特にそれらの知識を中心に復習に励むことを強く推奨する。

地域統合論 【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

ヨーロッパとひとまとめにされる国々ですが，統合を巡る政治の中で様々に異なる様相を見せています。それらを，単に「それぞれ異なる事実の羅列」と捉えるのではなく（つまらないですよね！），その背景に価値・利害・信念・制度といった人間の多様性がある（他方である程度の共通性や普遍性も見え隠れしている），という点に思いを巡らせることができると，面白いと感じることができるでしょう。

キーワード　/Keywords

教職論 【昼】

担当者名 /Instructor　楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職論は、教職課程への導入的性格を持つ科目である。
本授業の目的は以下のとおりである。

１．教職の意義と教員の役割、職務内容、教師に求められる資質や倫理に関する基礎的な知識を獲得する。

２．ベテランの教員の講話、本学を卒業した若い教員の体験報告とその後の意見交流を通して、自らのめざす教師像を探求する。

３．これからの大学生活で培うべき「教員に求められる実践的指導力」の課題を理解するとともに、教職に関する自らの適性についても考察し、自らの進路選択のありかたを検討する。

４．参加者同士のグループ討論や意見発表を通して、教員に求められるコミュニケーション能力の基礎を習得する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、１類 - １　に該当する科目である。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業で必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田康之・高野和子編　「教職論」　学文社
文科省　中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１．オリエンテーション　本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
２．教職の意義と教員の役割
３．教員という仕事の魅力と困難さ　(外部講師　中学校長)
４．教員の職務、教師に求められる使命感とその落とし穴
５．教員の仕事の理想と現実(外部講師　本学卒業生の中学校教員)
６．教員に求められる資質　　ー　子どもとのコミュニケーション力(相互応答的な関係づくり)
７．教員の仕事　その１　教科指導と授業づくり(中学校教諭)
８．教員の仕事　その２　教科指導と授業づくり(高等学校教諭)
９．教員の仕事　その３　８，９回の授業を受けてのグループワーク
10. 教育の仕事　その４　生活指導実践の主体としての教師　ー　子どもの思いを聴きとる力を
11. 教員の仕事　その５　生活指導実践主体としての教師 -　子どもたちと一緒に「発達の糧」となる生活を創造する
12.「反省的実践家」(ドナルド・ショーン)としての教師　-　その終わりなき営み
13. 自らのパワーを適切に行使できる教師であるために　-　体罰問題に視点をあてて
14. 教員の服務と規律
15. 全体のまとめ

＊講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（授業内で実施するミニレポート等）　３０点、レポート試験７０点
なお、欠席した場合には一回につき５点の減点になります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること

・授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育んでいくこと

・学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

教職論 【昼】

履修上の注意　/Remarks

この授業はすべての回に出席してもらうことを前提にして進めます。
公欠や体調不良などのやむを得ない事情で欠席した場合には授業のレジュメやビデオ補講を受けるなどして、できるだけその内容を補ってください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育んでもらえることを願っています。

キーワード　/Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像

教育原理 【昼】

担当者名 /Instructor	児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

課題
発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

目標
①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

（以下、平成26年度以降入学生）
この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類– 1 」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 イントロダクション：教育とは何か
2回 教育の関係 ：教育のモデル
3回 生涯にわたる発達と教育：生涯発達
4回 発達段階と発達課題：思春期・青年期
5回 感覚・身体と教育：五感・感覚教育
6回 教育思想① ：諸外国の教育思想
7回 教育思想②：日本の教育思想
8回 教育史①：西洋の教育史
9回 教育史②：日本の教育史
10回 学校教育の機能：基礎集団としての学級
11回 学校教育の課題：学校で生じる問題
12回 メディアと教育：メディアと子ども・教材・方法
13回 国際化と教育：言語・文化
14回 仕事と教育：進路形成
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題（試験） 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ･資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお薦めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学 【昼】

担当者名 /Instructor	税田　慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科										
履修年次 /Year	2年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	２年		

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である（Butterworth, 1994）。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。
また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - ２」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

藤村　宣之 編著　『発達心理学　　周りの世界とかかわりながら人はいかに育つか（いちばんはじめに読む心理学の本３）』　ミネルヴァ書房　￥2700

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

文部科学省（2011）「生徒指導提要」 ￥298
その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　オリエンテーション：発達心理学とは何か
第２回　乳児は世界をどのように感じるのか【知覚、認知、言語の発達】
第３回　ヒトの発達的特徴とは【発達のメカニズム】
第４回　ヒトは他者との関係をどのように築くのか【愛着、共同注意】
第５回　イメージと言葉の世界【知能の発達、表象能力】
第６回　他者とのコミュニケーション、心を推測する力【心の理論】
第７回　自己・他者を理解する【自己概念・自己意識】
第８回　学習の過程【学習理論、論理的思考】
第９回　友人とのかかわりと社会性の発達【ギャング・エイジ、道徳性】
第10回　自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
第11回　他者を通して見る自己【友人関係、問題行動】
第12回　成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
第13回　児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
第14回　発達障害をもつ児童生徒の心身の発達と学習の過程
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点(小レポートを含む)　…　40%　　期末試験　…　60%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくること。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教育制度論 【昼】

担当者名 /Instructor	児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
3年次	2単位	1学期	講義	3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 教育制度の基本原理（１） 教育制度とは
2回 教育制度の基本原理（２） 日本の教育法制
3回 学校制度の基本的事項（１）機会均等、義務教育
4回 学校制度の基本的事項（２）中等教育、学校体系
5回 学校制度の基本的事項（３）就学・懲戒
6回 教科書に関する制度
7回 教員制度の基本的事項（１）教員免許法制
8回 教員制度の基本的事項（２）教員の指導力、研修
9回 教員制度の基本的事項（３）公務員としての教師、教員の待遇
10回 教育行財政の仕組み（１） 中央教育行政、地方教育行政
11回 教育行財政の仕組み（２） 教育委員会と学校
12回 学校関係者による協力支援の制度
13回 地域社会の変容と学校
14回 教育制度改革の動向
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題（試験） 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお薦めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育課程論 【昼】

担当者名 /Instructor	児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
3年次	2単位	1学期	講義	3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

概要
教育課程に関わる概念や学校における教育課程編成・方法、学習指導要領に関する基礎的な知識を習得し、今日の教育課程の課題について学ぶ。

目標
①教育課程に関わる基礎的な知識を習得する。
②教育課程の課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント（講義レジュメ及び資料）を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に配布するプリントに提示するものの他、必要に応じ適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 教育課程編成の基本原理
第2回 日本の教育課程の変遷
第3回 学習指導要領と教育課程編成
第4回 学力と教育課程
第5回 学校における教育課程編成
第6回 「カリキュラム・マネジメント」と学校改善
第7回 教育課程の評価
第8回 諸外国の教育課程・カリキュラム（1）東アジアを中心に
第9回 諸外国の教育課程・カリキュラム（2）英語文化圏を中心に
第10回 諸外国の教育課程・カリキュラム（3）欧州を中心に
第11回 教育課程の開発
第12回 今日的課題と教育課程（1）アクティブラーニング
第13回 今日的課題と教育課程（2）人の国際移動と教育
第14回 今日的課題と教育課程（3）ESD
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題（試験） 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお薦めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法Ａ 【昼】

担当者名 /Instructor　森　千鶴 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

この授業には、主に二つのねらいがある。まず英語科教育の基本となる理論を学び、知識を修得することを目的とする。次に、主として中学校の学習指導案の書き方を学び、モデル授業を実際に行って理論と実践を結びつけることにより、ある程度の実践力を身につけることを目的とする。中学校との関連において、小学校の外国語活動の理論と現状についてもふれる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ３」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

深澤清治（編著）『中等英語教育』協同出版, 2014年、2,500円
文部科学省　　中学校学習指導要領　　外国語編　開隆堂、2009年　72円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜プリントを配布する。
なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。
新里真男ほか著、SUNSHINE ENGLISH COURSE １～３開隆堂　2012年　310円
松本茂ほか著、ONE WORLD English Course　１～３教育出版　2012年　310円
高橋貞雄ほか著、"NEW CROWN　ENGLISH SERIES New Edition　１～３"三省堂　2012年　310円
笠島準一、関典明ほか著、NEW HORIZON English Course　１～３東京書籍　2012年　310円
矢田裕士、吉田研作ほか著、TOTAL ENGLISH　１～３教育出版　2012年　310円

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1. イントロダクション及び英語教育の目的
2. 英語教育の目的
3. 指導法へのアプローチ【行動主義と認知主義】
4. 指導法へのアプローチ【コミュニケーション能力】
5. Communicative Language Teaching の理念【インフォメーション・ギャップ】
6. Communicative Language Teaching の理念【タスク活動】
7. 中学校の英語科教育および小学校の外国語活動
8. 学習指導案(中学校）の立て方
9. 評価について
10. DVD（師範授業）の視聴【筑波大学附属中学校教諭】
11. DVD（師範授業）の視聴【田尻悟郎先生】
12. モデル授業の準備
13. モデル授業（中学校）【1年生】
14. モデル授業（中学校）【2・3年生】
15. 復習と試験の準備

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末の定期試験（７０％程度）を中心として、提出物（１５％程度）及び授業参加度（１５％程度）を考慮に入れ、総合的に評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に指定された教科書の範囲を読んでおく。また事後には渡されたプリント等で復習する。

履修上の注意　/Remarks

・前もってプリントを配布したり、次回の授業内容に関連する教科書ページを予告をする場合は、予習しておくこと。
・出欠席は厳密にとる。無断欠席は厳に慎むこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語科教育法Ｂ 【昼】

担当者名 /Instructor　森　千鶴 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

この授業には主に二つのねらいがある。まず英語科教育における発展的な理論や学習指導案の書き方を学び、モデル授業を行うことによって、主として高等学校の英語科教員としての技能を身につける。次に英語科教育の学問的な側面に目を向け、英語で書かれた論文を講読することによって、英語科教育の今日的な課題を深く論考することができるようになることを目指す。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ３」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

深澤清治（編著）『中等英語教育』協同出版、2014年、2500円
文部科学省　高等学校学習指導要領　外国語編　英語編　開隆堂　2011年　158円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜プリントを配布する。なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。
松本世志子ほか著、ENGLISH NOW Revised Edition I・II開隆堂　2012年、630円
NEW WORLD ENGLISH COURSE I・II　三友社
南村俊夫著、Vivid Reading MEW EDITION第一学習社、2007年、765円
Onstage English Course I・II池田書店
EXCEED English Series New Edition I・II　三省堂
田辺正美ほか著、PROMINENCE English　I・II東京書籍、2012年、630円
山本良一ほか著、"MAINSTREAM ENGLISH COURSE　Second Edition I・II"　増進堂　2012年　570円
Minton, T.D. ほか著　Revised POLESTAR English Course I・II　数研出版　2012年　570円　"Revised Edition SUNSHINE　English Course I・II"開隆堂
田中茂範、武田修一ほか著、"PRO-VISION New Edition　ENGLISH COURSE I・II"　桐原書店　2013年、650円　卯城祐司ほか著、ELEMENT English Course I・II啓林館　2013年、650円
Voyager English Course NEW EDITION I・II第一学習社
市川泰男、高橋和久ほか著、"NEW EDITION UNICORN　2012年、630円　ENGLISH COURSE I・II"文英堂
Genius English Course Revised I・II大修館書店　霜崎寛ほか著、CROWN English Series New Edition I・II三省堂　2012年、630円

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1．コミュニケーション能力および英語科の評価論について
2．学習指導要領および4技能の統合
3．リーディングの理論と実践 [理論編]
4. リーディングの理論と実践 [発展編]
5. 絶対評価について（高等学校編）
6．学習指導案（高等学校）の立て方
7．モデル授業の準備
8．モデル授業（高等学校）[コミュニケーション英語I]
9．モデル授業（高等学校）[コミュニケーション英語I以外の科目]
10．ALTに関わる英語論文を読む[論文前半]
11．ALTに関わる英語論文を読む[論文後半]
12．諸外国（たとえば韓国）の英語教育に関する英語論文を読む[論文前半]
13．諸外国（たとえば韓国）の英語教育に関する英語論文を読む[論文後半]
14．日本の英語教育（小・中・高連携）について
15．復習と試験の準備

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末の定期試験（７０％程度）を中心として、提出物（１５％程度）及び授業参加度（１５％程度）を考慮に入れ、総合的に評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前には指定された教科書のページを読んでおく。事後には渡されたプリント等を用いて復習する。

履修上の注意　/Remarks

・前もってプリントを配布したり、次回の授業内容に関連する教科書ページを予告する場合は、予習しておくこと。
・出欠席は厳密にとる。無断欠席は厳に慎むこと。
・モデル授業の日程や英語論文のトピックは学生と相談した上で決定することになるので、シラバス内容に関しては柔軟に考えていただきたい。

英語科教育法Ｂ 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語科教育法Ｃ 【昼】

担当者名 /Instructor　雪丸　尚美 / 英米学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

本講義は，中学校･ 高等学校の英語科教員を志望する学生を対象として，実践的な英語授業力の養成に重点を置く。具体的には，それぞれが実際に教壇に立って授業を行うことができるように，（１）英語教育の施策に関する知識の習得，（２）各言語技能の指導技術や教室運営の基礎知識，（３）今日の英語教育に対する問題意識の育成を目指す。また，実際に模擬授業（中学校）を行い相互に評価･ 批判しあうことで，授業実践の力をつけさせる。模擬授業は一人1回を予定しているが、他の受講生の発表も真摯に聞き，自らの英語授業力を向上させようという態度が必要である。

なお，この授業は，森千鶴先生担当の「英語科教育法A」と整合性を保つよう考慮している。しかし，適性なクラスサイズで一貫性のある授業を提供するために，原則として「英語科教育法C」（1学期開講）とあわせての受講を強く勧める。

この科目は，履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ３」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

（１）『新編New Horizon English Course 2』（中学検定教科書）（東京書籍）※生協の指定書店で購入
（２）『中学校学習指導要領解説（外国語編）』（文部科学省）（開隆堂）
（３）『行動志向の英語科教育の基礎と実践』（JACET教育問題研究会）（三修社）2600円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『英語教育』（大修館、月刊雑誌）

その他の文献は授業で紹介する。また、各出版社の検定教科書は図書館および教職資料室（本館12階）で閲覧することができる。

授業計画･ 内容　/Class schedules and Contents

授業計画は以下のとおりであるが、履修者の理解や人数に応じて内容を調整する。

１．オリエンテーション
２．日本における英語教育政策、英語教育の目的
３．英語教育課程（カリキュラム、学習指導要領、特別支援教育･ ユニバーサルデザインの視点）
４．中学学習指導要領の解説及び指導案作成法（細案の書き方）
５．言語習得と教授法
６．中学校の英語科教育および小学校の外国語活動
７．模擬授業（中学校、導入の実践 Lesson1, 3, 5）
８．模擬授業（中学校、会話文指導の実践①教科書 Lesson1,2, 3）
９．模擬授業（中学校、会話文指導の実践②教科書 Lesson4, 5, 6 ）
１０．模擬授業（中学校、リーディング指導の実践①教科書 Lesson1,2, 3）
１１．模擬授業（中学校、リーディング指導の実践②教科書 Lesson4, 5, 6）
１２．模擬授業（中学校、文法指導の実践①教科書 Lesson1, 2, 3）
１３．模擬授業（中学校、文法指導の実践②教科書 Lesson4, 5, 6）
１４．模擬授業（中学校、タスク指導の実践）
１５．まとめ（英語科教員としての責任と課題，質疑応答）

成績評価の方法　/Assessment Method

（１）指導案 20%
（２）模擬授業 20%
（３）学び報告書 30%
（４）模擬授業の振り返り報告書 10%
（５）授業への取り組み 20%（4回以上欠席した者は，成績評価の対象外とする）

事前･ 事後学習の内容　/Preparation and Review

<事前学習>該当する教科書の部分を読んでおく。模擬授業の準備をする。
<事後学習>授業内容の復習を行う。また、模擬授業の担当者は，授業を録画したDVDを視聴し「振り返り報告書」を書く。模擬授業を担当していない者は、模擬授業で気づいた点や学んだ点を「学び報告書」にまとめる。

履修上の注意　/Remarks

（１）教員免許状を取得し，将来教職に就くことを強く希望する学生を対象とする。やむを得ない場合を除き，無断欠席は履修放棄とみなす。
（２）模擬授業を行う際は，服装や振る舞いまで教育実習と同じ想定で行う（発表者はスーツ着用）。
（３）模擬授業のスケジュール等，詳細については初回授業で説明する。

英語科教育法Ｃ 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

検定教科書の購入方法については，生協で確認すること。

キーワード　/Keywords

英語科教育法D 【昼】

担当者名 /Instructor　雪丸　尚美 / 英米学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

本講義は，中学校・高等学校の英語科教員を志望する学生を対象として，実践的な英語授業力の養成に重点を置く。具体的には，それぞれが実際に教壇に立って授業を行うことができるように，（１）英語教育の施策に関する知識の習得，（２）各言語技能の指導技術や教室運営の基礎知識，（３）今日の英語教育に対する問題意識の育成を目指す。また，実際に模擬授業（高等学校英語）を行い相互に評価・批判しあうことで，授業実践の力をつけさせる。他の受講生の発表も真摯に聞き，自らの英語授業力を向上させようという態度が必要である。

なお，この授業は，森千鶴先生担当の「英語科教育法B」と整合性を保つよう考慮している。しかし，適性なクラスサイズで一貫性のある授業を提供するために，原則として「英語科教育法C」（1学期開講）とあわせての受講を強く勧める。

この科目は，履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ３」に分類される。

教科書　/Textbooks

（１）『CROWN English Communication I』（高校検定教科書）（三省堂）※生協の指定書店で購入
（２）『高等学校学習指導要領解説（外国語編・英語編）』（文部科学省）（開隆堂）
（３）『行動志向の英語科教育の基礎と実践』（三修社）2600円　※1学期に購入した場合は不要

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『英語教育』（大修館、月刊雑誌）

その他の文献は授業で紹介する。また，各出版社の検定教科書は教職資料室（本館12階）で閲覧することができる。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

授業計画は以下のとおりであるが，履修者の理解や人数に応じて内容を調整する。

１．オリエンテーション
２．学習者論と教師論
３．測定と診断
４．学習障害と英語教育
５．高等学校学習指導要領の解説及び指導案作成法（細案の書き方）
６．模擬授業（高校、導入指導の実践① 教科書Lesson 1,2,3）
７．模擬授業（高校、導入指導の実践② 教科書Lesson 4,5,6）
８．模擬授業（高校、リーディング指導の実践① 教科書Lesson 1,2,3）
９．模擬授業（高校、リーディング指導の実践② 教科書Lesson 4,5,6）
１０．模擬授業（高校、文法指導の実践① 教科書Lesson 3,4,5）
１１．模擬授業（高校、文法指導の実践② 教科書Lesson 6,7,8）
１２．模擬授業（高校、アクティブラーニングの実践① 教科書Lesson 3,4,5）
１３．模擬授業（高校、アクティブラーニングの実践② 教科書Lesson 6,7,8）
１４．模擬授業（高校、ユニットのまとめ・表現の指導の実践）
１５．まとめ（英語科教員としての成長，質疑応答）

成績評価の方法　/Assessment Method

（１）指導案作成 20%
（２）模擬授業 20%
（３）学び報告書 30%
（４）模擬授業の振り返り報告書 10%
（５）授業参加度 20%（4回以上欠席した者は，成績評価の対象外とする。）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

<事前学習>該当する教科書の部分を読んでおく。模擬授業の準備をする。
<事後学習>模擬授業の担当者は，授業の様子を録画したDVDを視聴し「振り返り報告書」を書く。模擬授業を担当していない者は，模擬授業で気づいた点や学んだ点を「学び報告書」にまとめる。

履修上の注意　/Remarks

（１）教員免許状を取得し，将来教職に就くことを強く希望する学生を対象とする。やむを得ない場合を除き，無断欠席は履修放棄とみなす。
（２）模擬授業を行う際は，服装や振る舞いまで教育実習と同じ想定で行う（発表者はスーツ着用）。
（３）模擬授業等の詳細については，初回授業で説明する。

英語科教育法D 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

検定教科書の購入方法については生協で確認すること。

キーワード　/Keywords

社会科教育法Ａ 【昼】

担当者名 /Instructor　下地　貴樹 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

本授業は、社会科を担当する教員に必要な基本的知識や資質について学習指導要領に基づいて解説する。また社会科の各分野に必要とされる具体的な技能や方法を扱う。中等教育における社会科、地理歴史科の特色を理論的かつ実践的に考えていく。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ３」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

・「中学校学習指導要領解説　社会編」(平成29年6月・文部科学省)
2018年2月時点で未出版のため、文部科学省のWebサイトに掲載されている公示資料を扱っていく。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

・二谷貞夫・和井田清司　編　『中等社会科の理論と実践』　学文社　2007　1900円＋税
・他に授業で紹介する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション　教育の目的と社会科の役割
第２回：社会科教育の現状　学習指導要領と改訂のポイント
第３回：地理的分野の目標とその取り扱い
第４回：歴史的分野の目標と内容とその取り扱い
第５回：公民的分野の目標と内容とその取り扱い
第６回：社会科の授業づくり　教材研究
第７回：社会科の授業づくり　グループ学習の活用
第８回：社会科の授業づくり　学習評価と授業評価・生徒観について
第９回：社会科の授業づくり　「地誌作成」について
第１０回：社会科の授業づくり　授業研究・授業記録を読む
第１１回：単元計画と学習指導案１　指導案の作成と留意点
第１２回：単元計画と学習指導案２　年間計画と指導案作成
第１３回：政治および宗教に関する事項の取扱い
第１４回：社会科教師に求められる資質・能力
第１５回：まとめ
定期試験

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度 (グループワークや質疑などへの参加)・・・ ３０％
最終試験・課題レポート・・・ ３０％
学習指導案作成　・・・ ４０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：学習指導要領解説の読み込み、指導案の作成など
　　グループワークの準備

事後学習：学習指導要領に関する理解と確認、講義後に指示を行う

履修上の注意　/Remarks

課題や発表について、期日を守るよう心掛けてもらいたい。
授業までに、報告者以外も該当箇所を読んでおくこと。
授業後には、報告者以外にも要約・感想などの提出を求める。

なお出席は3分の2以上している事がテストを受ける前提条件とする。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業の中では、グループワークやディベートをとり入れるため、積極的な参加を望む。

キーワード　/Keywords

社会科教育法Ｂ 【昼】

担当者名 /Instructor　吉村　義則 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

本授業では、社会科教育法IからIIIにおける社会科に関する教材研究、資料活用、学習指導案作成など、授業実践に必要な技能習得を前提とし、能動的・主体的な学びの育成に重点を置いた模擬授業を行う。また、地理的分野、歴史的分野、公民的分野の教科指導における現場の事例を取り上げつつ、実践課題についても検討する。

上記の点から、実践的な技能及び授業改善の視点を習得し、最終的には「能動的・主体的な学びの意識」を開発する教員を目指していく。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ３」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

「中学校学習指導要領解説 社会編」（文部科学省）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第　１回　イントロダクション
第　２回　教育実習を想定した授業実践及びICT活用による教科指導について
第　３回　模擬授業（地理的分野①）【世界地理・総論】
第　４回　模擬授業（地理的分野②）【世界地理・各論】
第　５回　模擬授業（地理的分野③）【日本地理・総論】
第　６回　模擬授業（地理的分野④）【世界地理・各論】
第　７回　模擬授業（歴史的分野①）【原始・古代】
第　８回　模擬授業（歴史的分野②）【古代・中世】
第　９回　模擬授業（歴史的分野③）【中世・近世】
第１０回　模擬授業（歴史的分野④）【近世・近現代】
第１１回　模擬授業（公民的分野①）【憲法】
第１２回　模擬授業（公民的分野②）【政治】
第１３回　模擬授業（公民的分野③）【経済】
第１４回　模擬授業（公民的分野④）【現代社会】
第１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

◎授業への参加・貢献度　70%
◎模擬授業の際に提出する指導案　30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

◎指示された文献を読み込む。
◎模擬授業で得られた課題の克服。

履修上の注意　/Remarks

◎授業後にコメント用紙（授業の感想や質問など）を提出してもらうため、積極的な授業参加が望まれる。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

道徳教育指導論 【昼】

担当者名 /Instructor　田中　友佳子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

本授業では、道徳・道徳教育とは何かを問う作業から始め、現在の学校教育における道徳教育の目的と内容について学ぶ。また、いくつかの現代的課題について取り上げ、道徳教育に必要な思考力を鍛える。さらに、「道徳の授業」に関する教材研究を行うとともに、実際に指導する場面を想定して学習指導案の作成などを行うことにより 、道徳教育の実践的な指導力の育成をはかる。

教科書　/Textbooks

特に指定しない。適宜、資料を配布しながら授業を進める。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション　　授業のねらいや計画、注意点の説明
第２回：道徳とは何か、なぜ必要か　　倫理、哲学、法と道徳との関係性
第３回：道徳教育の変遷①　　近代学校成立以前、明治期から第二次世界大戦期
第４回：道徳教育の変遷②　　戦後から「改正教育基本法」、まで
第５回：「道徳」の特別教科化をめぐる諸問題
第６回：道徳教育の目標と各教科・特別活動等における指導内容
第７回：道徳教育の現代的課題①　　生命倫理をめぐる問題について考える（グループ討論）
第８回：道徳教育の現代的課題②　　性の多様性について知る(グループ討論)
第９回：道徳教育の現代的課題③　　住み良い社会とは何かを考える（グループ討論）
第10回：道徳教育の現代的課題④　「世代間の平等」の問題を考える（グループ討論）
第11回：「道徳の時間」の年間指導計画と学習指導案の作成方法
第12回：「道徳の時間」の教材研究①　　読み物教材に対する批判的検討
第13回：「道徳の時間」の教材研究②　　問題解決的な学習に対する批判的検討
第14回：学習指導案の発表とコメント
第15回：全体のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学習指導案30%
コメントシート20%
期末レポート(又は期末試験)50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業中に適宜説明を行う。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本授業では、グループ討論や教材研究などに積極的に取り組むことが求められます。様々な立場や意見があることを子どもたちに問いかけ共に考える授業ができるように、思考力や指導力を磨いていきましょう。

キーワード　/Keywords

特別活動論 【昼】

担当者名 /Instructor　楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

１．文科省の中学校及び高等学校学習指導要領・特別活動の目標と内容、及び指導計画の作成と内容の取扱いの留意点について理解する。

２．学級活動や学校行事を進めていく上で求められる基本的な指導計画、指導案の作成方法を理解する。

３．子どものコミュニケーション能力や自治の力を育む学級活動の進め方や指導方法について学習する。

４．生徒集団の自治の力を育む学校行事、生徒会活動の進め方について、具体的な実践報告を手がかりにしながら学習する。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ２」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

中学校学習指導要領解説　「特別活動編」（平成２０年９月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

折出健二編　2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ)　学文社
高旗正人他編　「新しい特別活動指導論」　ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション　-　特別活動の教育的意義
２回　学級活動の目標・内容と指導計画（テキスト第３章第１節他）　学級活動の実際　中学校
３回　学級活動の実際　その２　高等学校
４回　生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動　その１　対立解決プログラムについて
５回　生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動　その２　傾聴のスキル、アサーティブネス
６回　生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動　その３　ウィン・ウィン型の問題解決
７回　生徒のコミュニケーションと問題解決能力を育てる学級活動　その４　対立の仲介のロールプレイ発表
８回　生徒会活動の目標・内容と指導計画（テキスト第３章２節他）
９回　学校行事の目標・内容と指導計画（テキスト第３章３節他）学校行事の実際　中学校
10回　学校行事の実際　-　高等学校
11回　学級の荒れを克服し、お互いを大切にする人間関係を築く学級活動の取り組み
12回　困難な課題を抱える生徒の居場所づくりと学級活動の取り組み
13回　特別活動の学習指導案の作成方法と模擬授業について
14回　指導計画の作成と内容の取扱い（テキスト第４章）
15回　全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点20点（課題レポートなど）　期末試験　80点
なお、出席回数が全体の2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業の欠席については、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指定するテキストの箇所は事前に予習しておくこと。
実践報告から学んだ点について、自分なりの整理をしておくこと

履修上の注意 /Remarks

受身的な授業への参加では実践的な指導力は養われません。
グループワークなども含めて、積極的な授業参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、教師としての実践的指導力の基礎を培うことを目的とした授業です。
学級づくり、子ども集団づくりの基本的な課題と方法について、しっかりと学んでもらえたら幸いです。

特別活動論 【昼】

キーワード　/Keywords

特別活動の目標・内容、指導計画、指導案の作成、学級づくり、子ども集団づくりの課題と方法

教育方法学 【昼】

担当者名 /Instructor　下地　貴樹 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

近年、課題解決型授業やアクティブラーニングといった確かな学力を求めるための、教育のあり方が議論されている。この授業では、授業の構成要素である「教材・教師・生徒」の視点からそれぞれのあり方を捉えながら、授業を構成するための理論やICT教育の求められる背景を講義する。
また実践において子どもに寄り添う教育とは何か、どのように行うべきかを検討する。
そのために、講義形式以外にもグループ活動やペアワークなど実際に作業することで教育方法の理論の一部を体験しながら、教材開発や教材研究を行っていく。

教科書　/Textbooks

新しい時代の教育方法 (有斐閣アルマ)　2012　田中 耕治 (著), 鶴田 清司 (著), 橋本 美保 (著), 藤村 宣之 (著)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業内で随時紹介する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション
第２回：教育と学習・理論と方法・実践
第３回：授業の歴史（欧米）
第４回：授業の歴史（日本）
第５回：学習の理論・協同的な学び
第６回：授業のデザイン・学校・家庭・社会
第７回：授業のデザイン・教師・生徒・教材
第８回：授業の過程・デザイン-実践-評価
第９回：情報機器・メディア活用の授業
第１０回：「学力」について考える
第１１回：授業の研究１・学習指導案
第１２回：授業の研究２・授業記録を読む
第１３回：教師の専門性・専門職性
第１４回：教材研究・教材開発
第１５回：まとめ
定期試験
（2~4回は、教育方法学を支える基礎理論や社会背景を扱い、5~10回まではICT教育や学び、学力について論じる。11~14回は実践の中でどのように授業を捉えたらよいか、教材や教師の役割などを議論していく。）

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度（グループワークや質疑などへの参加）・・・ ３０％
発表・レジュメ作成・・・ ２０％
最終試験・課題レポート・・・ ５０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

人数によって課題の方法は変化するが、テキストについてまとめた資料（レジュメ）を作成してもらう。
また担当でない者も、内容について疑問点や感想などを報告してもらいたいので、事前にテキストを読んでおくこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

教育方法学がどのような学問かは、簡単には説明ができません。体験を通して、教育方法学がやってきたことやできることを共に捉えていけたらよいと思います。
一緒にがんばりましょう。

キーワード　/Keywords

生徒・進路指導論 【昼】

担当者名 /Instructor　楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。
①　生徒指導の意義、生徒指導の３機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと

②　教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導における家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること

③　養育環境や発達障害等の何らかの要因による困難を抱える子どもの自立を支援する生徒指導のあり方を学習すること。

④　実際の生徒指導の場面や事例を想定しながら、その場面での対応のあり方を考える力を養うこと。

⑤　思春期・青年期の進路指導、キャリア教育の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。　また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ２」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

文部科学省編　「生徒指導提要」　教育図書
楠凡之　「虐待　いじめ　悲しみから希望へ」　高文研　第I部

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

桑原憲一編　　中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド　　明治図書
嶋崎政男　「法規＋教育で考える　生徒指導ケース１００」　　ぎょうせい
○文部科学省　　中学校キャリア教育の手引き
○児美川孝一郎　　権利としてのキャリア教育　　明石書店
○キャリア発達論　-　青年期のキャリア形成と進路指導の展開　　ナカニシヤ出版

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション ＋　課題レポートの説明
２回　生徒指導の意義と原理（生徒指導提要ト第１章他）、生徒指導と生活指導
３回　教育課程と生徒指導（生徒指導提要第２章他）　その１　-　教科教育、「特設道徳の時間」と生徒指導
４回　教育課程と生徒指導　その２　学級活動・学校行事と生徒指導
５回　生徒指導に関する法制度等（第７章他）　その１
６回　生徒指導と校則・体罰問題を考える。
７回　思春期の「自己形成モデル」の意義と進路指導・キャリア教育
８回　中学校の進路指導実践 -「ようこそ先輩」の取組み
９回　今日の若者の労働実態から高校進路指導の課題を考える
10回 進路相談のロールプレイ実習
11回　ケータイ・インターネット問題と生徒指導
12回　性の多様性、セクシュアルマイノリティへの理解と生徒指導
13回　被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助　その１　少年期
14回　被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助　その２　思春期
15回　全体のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート２０%、期末試験８０%
なお、授業の出席が2/3に満たない場合には単位の修得は認められません。
授業を欠席した場合については、一回につき5点の減点とします。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

生徒指導提要の該当箇所については事前に読み込んでおくこと

生徒・進路指導論 【昼】

履修上の注意　/Remarks

受け身的な受講では実践的な指導力を身につけることはできません。能動的な授業参加を期待します。
できるだけ、テキストの、その授業で取り上げるテーマに関するところを読んでおいてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

キーワード　/Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、様々な問題を表出する生徒への指導、進路指導

教育相談 【昼】

担当者名 /Instructor　楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

１．　学校での教育相談の意義と課題、教育相談の領域(予防的・開発的教育相談、問題解決的教育相談）、他の専門職や関係諸機関との連携のあり方等についての基本的な理解を持つこと。

２．教育相談の基本的な理念と技法（傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など）を修得すること。

３．　不登校やいじめなど、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて、検討していくこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ２」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

○　文科省編　「生徒指導提要」
○　楠 凡之　「虐待　いじめ　悲しみから希望へ」　高文研　第II部

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○　広木克行　「教育相談」（教師教育テキストシリーズ）　学文社
○　吉田圭吾　教師のための教育相談の技術　金子書房
○　日本学校教育相談学会　学校教育相談学ハンドブック　ほんの森出版
　一丸藤太郎・菅野信夫編著　学校教育相談　ミネルヴァ書房
　楠　凡之　「いじめと児童虐待の臨床教育学」　ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション　課題レポートの説明
２回　子どもたちの行動の背後にある「声なき声」を聴きとる。
３回　子どもの発達課題と教育相談
４回　教育相談の基本的な理念について　ー　受容、共感的理解、感情の明確化、開かれた質問
５回　教育相談の基本的なスキルについて　-　共感的応答
６回　教育相談の基本的なスキルについて　-　直面化
７回　教育相談の基本的なスキルについて　-　ロールプレイ体験
８回　子どもの「問題行動」と教育相談　その１　不登校問題
９回　子どもの「問題行動」と教育相談　その２　発達障害の問題
10回　子どもの「問題行動」と教育相談　その３　薬物問題（外部講師　北九州ダルク施設長）
11回　保護者理解と教育相談
12回　教育相談における関係諸機関との連携
13回　今日のいじめ問題への理解と指導　-　少年期
14回　今日のいじめ問題への理解と指導　-　思春期　全体のまとめ
15回　全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%
なお、授業の出席が2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの該当箇所については授業の前に読んで予習しておくこと
課題として出されたレポートについては必ず提出すること
学習した教育相談のスキルを実際に使用できるように、友人関係その他の中で練習しておくこと

教育相談 【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業の遅刻、授業中の私語や内職に対しては厳しく指導し、眠っている学生も必ず起こします。
十分な自覚をもって履修してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業での最も中心的なテーマは、子どもの”ｖｉｅｗ”の理解です。それなしの教育相談、さらに言えば教育実践は成立しないと考えています。この授業を通して、子どもの、さらには保護者の”ｖｉｅｗ”を理解する力を培ってもらえたら幸いです。

キーワード　/Keywords

教育相談の理念と技法、　子どもの発達課題と教育相談、関係諸機関との連携

教育実習１ 【昼】

担当者名 /Instructor	児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year	3年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義・演習	クラス /Class	３年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

４年次の「教育実習」（実習校実習）に向けての事前指導として、実習校実習に求められる指導能力の獲得に取り組む。
その課題は以下の通りである。

１．教育実習生としての基本的な心構え、社会的責任の自覚

２．学習指導に求められる基本的な理論・知識・技術など

３．生徒指導・学級経営に求められる基本的な理論・知識・技術など

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「III類–3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』（756円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高野和子・岩田康之共編 「教育実習」 学文社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回 オリエンテーション
　　教育実習及び教員採用に向けての力量形成の課題
２回 教育実習生の１日
３回 教育実習の体験から学ぶ（中学）
４回 教育実習の体験から学ぶ（高校）
５回 学校で求められる人権教育について
６回 生徒指導の実際(外部講師の出前講演)
７回 学級経営・学級づくりの実際(外部講師の出前講演)
８回 特別活動の学習指導案と模擬授業について
９回 授業観察の方法と模擬授業の指導案について
10回 模擬授業①(北九州その他の自治体の教員採用試験の模擬授業ロールプレイ)
11回 模擬授業②(特別活動 その１ 何らかの場面指導他)
12回 模擬授業③（特別活動 その２ 学級活動）
13回 模擬授業④（各教科 その１）
14回 模擬授業⑤（各教科 その２）
15回 全体のまとめと教育実習に向けての課題

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価（６０％） 学習指導案(特活、教科)などの提出物の評価（４０％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業での学習内容については必ず教育実習ノートに清書をおこなうこと。
(授業中に実習ノートに記入することは決してしないこと)

模擬授業の前には必ず指導案を作成し、十分な準備をしてから模擬授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業は全回出席が原則です。万一、やむを得ない事情で欠席した場合にはすみやかに教職資料室で補講を受け、学習内容を実習ノートに記載すること。
一回でも欠席し、補講を受けてその内容の学習を行っていない場合には、授業の単位が出ないこともあるので十分に留意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は実習校実習の約半年前に行われる授業であり、これまでの教職課程の授業科目や学校現場体験、指導体験を基盤にして、実習校実習に必要不可欠な実践的指導力の修得をめざす科目です。
皆さんには半年後に迫っている実習校実習に向けて、真摯な態度で授業に臨むことを期待します。

教育実習 1 【昼】

キーワード　/Keywords

教育心理学 【昼】

担当者名 /Instructor　山下　智也 / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　2学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

教育心理学とは、教育活動を効果的に推進するために役立つ心理学的な知見や技術を提供する学問である。
この授業では、まず【学習】分野として、幼児、児童及び生徒の教育場面に関連する学習理論を学ぶことを通して、より効果的な教育活動を展開するための教育心理学の基礎的事項について理解する。次に【発達】分野として、子どもの発達段階について学んだ上で、教育現場での個々人に応じた教育及び発達支援について理解を深める。さらに、知的障害・発達障害のある幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についても学ぶ。また、教育心理学の知見を生かした多様な【教授法】について学ぶとともに、学級集団や子どものパーソナリティ理解、教育評価等の理解を深め、教育現場へと【応用】する術を学ぶ。
授業形態は講義とする。授業内で出される課題についてのグループディスカッション、心理学実験、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを部分的に取り入れる。

教科書　/Textbooks

やさしい教育心理学 第4版　鎌原 雅彦 (著), 竹綱 誠一郎 (著)　有斐閣

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に随時、情報を提供する。

教育心理学 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：教育心理学が心理学の分野においてどのように発展してきたのか、また教育心理学とは何を目的とした学問なのかについて学ぶ。

第２回：【学習①】古典的条件づけやオペラント条件づけ等の基本的な学習理論（経験説）について教育との関係から学ぶ。

第３回：【学習②】洞察説やサイン・ゲシュタルト説等の基本的な学習理論（認知説）について教育との関係から学ぶ。

第４回：【学習③】学習における動機づけや原因帰属理論について学ぶ。また動機づけを高め、維持するための働きかけ方についても学ぶ。

第５回：【学習④】記憶に関する基礎理論（長期記憶、短期記憶、忘却等）を学ぶ。また、学習活動における記憶の役割や記憶の定着を促す学習方法について学ぶ。

第６回：【発達①】発達に及ぼす遺伝要因と環境要因の相互作用の影響に焦点を当てる。特に発達における環境要因としての教育が果たす役割について理解する。

第７回：【発達②】発達初期における養育者との愛着形成と初期経験の重要性について理解する。また、生涯発達の視点からピアジェの認知発達理論についても学ぶ。

第８回：【発達③】生涯発達の視点からエリクソンのライフサイクル論を理解し、特に思春期・青年期に関して、発達段階を踏まえた適切な学習方法について理解を深める。

第９回：【発達④】発達障害（自閉症スペクトラムや学習障害、注意欠陥多動性障害等）の特徴について学ぶとともに、発達障害児との関わりについて理解を深める。

第10回：【教授法①】発見学習や有意味受容学習等の学習指導法について、その特徴と提唱された理論的背景について学ぶ。

第11回：【教授法②】プログラム学習やバズ学習、ジグソー学習等の学習指導法について、その長所と短所を理解し、実践場面での使い分け方について学ぶ。

第12回：【応用①】学級集団の諸相を仲間集団の発達的変容や測定方法など仲間関係の側面から学ぶ。また教師のリーダーシップや教師期待効果などの教師の役割についても学ぶ。

第13回：【応用②】教育場面での評価の形態（絶対評価、相対評価、個人内評価等）について学び、その特徴を理解する。また子どものパーソナリティ理解についても学びを深める。

第14回：【応用③】知能の定義や考え方の歴史的変遷や諸理論について学ぶ。また、知能の測定と知的障害の定義及び特徴について理解する。

第15回：【応用④】特別な支援を必要とする子ども（知的障害・発達障害等）への対応・支援や、子どもの不適応問題（いじめ・不登校等）への対応・支援について、教育心理学的観点から学ぶ。

定期試験

成績評価の方法　/Assessment Method

講義でのミニレポート・・・３０％
最終試験・・・７０％

（出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：毎回次回の予告を行い、次回までの課題を提示する。
事後学習：学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努めることとする。授業の冒頭で、前回の授業内容についての説明を求めることがある。
（事前・事後学習として週４時間以上行うこと。）

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業への主体的な参加を期待します。

キーワード　/Keywords

子どもの発達、子どもの学習、子どもへの関わり方

教育社会学 【昼】

担当者名 /Instructor　作田　誠一郎 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　集中　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

社会学的な視点から教育に関わる諸現象を多角的に考察することで、教育制度や教育問題（いじめや非行等）を客観的に検討し、理解することが本講のテーマである。
・ 教育社会学および社会学の理論の基礎的な知見を学び、社会や教育の常識を問い直す。
・ 教育に関わる諸問題を多角的に考察することで、新たな知見を得る。
・ 教育に関わる諸制度の変遷や社会的な変動等を踏まえて、学校社会について理解する。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - ２」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

なし。資料等については、授業中に適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

I.イリッチ,東洋・小沢周三訳,1977,『脱学校の社会』東京創元社
P.ブルデュー・J.-C,パスロン,宮島喬訳,1991,『再生産』藤原書店
P.ウィリス,山田潤・熊沢誠訳,1996,『ハマータウンの野郎ども』筑摩書房
E.デュルケム,麻生誠・山村健訳,2010,『道徳教育論』講談社
広田照幸・伊藤茂樹，2010，『教育問題はなぜまちがって語られるのか？』日本図書センター
酒井朗・多賀太・中村高康編著，2012，『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション
第２回：教育社会学の対象と方法
第３回：子どもの社会化と家族・学校
第４回：学校という組織
第５回：学校社会と生徒文化
第６回：学校社会と教師文化
第７回：文化的再生産論にみる学校社会
第８回：少年非行と逸脱理論（１）–アノミー論と文化的接触理論
第９回：少年非行と逸脱理論（２）–コンフリクト理論とラベリング論
第10回：日本における少年非行の歴史とその特徴
第11回：いじめ現象の構造とその特徴
第12回：近代化とメリトクラシーの諸問題
第13回：グローバリゼーションと教育
第14回：情報化社会と教育
第15回：再帰的近代化における生徒の意識とその特徴
定期試験

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験50%、日常の授業への取り組み30%、小レポート20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

予習に関しては、教育に関わる新聞記事や参考図書等の文献に目を通して置くこと。復習においては、授業内容についてもう一度まとめてその内容の習得に努めること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

社会化　近代教育制度　学校文化　文化的再生産　教育改革

人権教育論 【昼】

担当者名 /Instructor　河嶋　静代 / カワシマシズヨ / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

受講生が自らの人権感覚を養い、人権の主体として、人権を守り行動することを通じて、一人ひとりの尊厳と多様性が認められる差別のない社会づくりを目指す。自己や他者の人権を尊重する児童・生徒を育成するための人権教育実践ができるよう、指導方法について学ぶ。
①文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」を指針として、学校における人権教育の指導方法について学ぶ。②普遍的な人権課題や、「体罰」「いじめ」など、教室の中の人権課題や個別の人権課題について学ぶ。③人権教育の指導計画などプログラムの作成や発表、ロールプレイなど参加型の学習を取り入れる。

教科書　/Textbooks

特になし、資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

稲積謙次郎「同和問題の今、そして未来に向けて」公益財団法人人権教育啓発推進センター
人権教育教材集「新版いのち」北九州市教育委員会
「人権教育ハンドブック」北九州市教育委員会
「教職員のためのLGBT(Q)支援ハンドブック」北九州市教育委員会

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　なぜ、教師にとって人権教育は必要か - 人権とは何か、命の尊重、個性の尊重
第２回　学校や社会で何が起きているか - 「体罰」「いじめ」「児童虐待」「ＳＮＳ・インターネット」などの人権侵害
第３回　学校における人権教育の目的と方法 - 文部科学省の「人権教育の指導法の在り方」
第４回　人権教育の枠組み - 教科を通した人権教育、学級運営、生徒指導など
第５回　人権教育をどのように進めていけばよいのか - 実践例
第６回　どうすれば人権感覚・人権意識を養い行動できるか
第７回　子どもが自分を守るための技能を養う - アサーティブ・トレーニング
第８回　部落差別と人権　「部落差別の解消の推進に関する法律」
第９回　子どもの人権　「子どもの権利条約」
第１０回　障がい児・者の人権　「障害者差別解消法」
第１１回　「性の多様性」と人権
第１２回　その他の人権課題 - 女性、高齢者、外国人、ホームレス問題など
第１３回　「私の人権教育のプログラム」発表
第１４回　「私の人権教育のプログラム」発表
第１５回　「私の人権教育のプログラム」発表

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度、課題、テストなど、総合的に評価する。評価の割合は「テスト」(60%)、授業への参加度 (10%)、課題 (30%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業中に指示をされた文献や資料について読んでおくこと。
「私の人権教育のプログラム」発表のためにパワーポイントを作成する。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教育工学 【昼】

担当者名 /Instructor　大塚　一徳 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

本講義は，教員免許を取得するにあたって必要な教育方法・技術，教材と教具，指導方法等を学び，授業の実践的指導力の基礎を養うことを目標とする。また近年の著しいICT(情報通信技術）の進展を踏まえ，PCやWebを活用した教材作成の方法・技術の修得の基礎についても概観する。さらに，模擬授業の実施及び評価等を通して，教育の方法と技術の実践的活用能力の基礎を育成し，各教科等の指導に最小限必要な資質について学ぶことを主なねらいとする。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ２」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

指定しない。必要な資料を適宜授業で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 平成20年3月告示 東山書房 244円
高等学校学習指導要領 平成21年3月 告示東山書房 588円
平沢茂編著 教育の方法と技術 図書文化2000円
小川哲生他著 教育方法の理論と実践 明星大学出版部 1500 円

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

（【　】はキーワード）
１．　オリエンテーション【本授業の内容・進行・評価方法】
２．　授業と教育方法　【教育方法】
３．　授業と教育技術　【教育技術】
４．　授業のシステム化の方法と授業設計の手順　【授業設計】
５．　授業過程の分析と改善　【授業過程】
６．　授業実施の技術　【授業技術】
７．　授業の評価　【授業評価】
８．　教育における情報化社会の影響【情報化社会】
９．　教育におけるICT（情報通信技術）の活用【ICT】
１０．学習指導案の作成　【学習指導案】
１１．教材研究　【教育メディアとその活用】
１２．模擬授業　【模擬授業】
１３．テストと学習内容の評価　【テスト】
１４．授業実践能力の改善と向上　【教育の方法と技術の実践能力】
１５．現代の教育課題と講義のまとめ　【現代の教育課題】

成績評価の方法　/Assessment Method

教材研究課題（２０％），模擬授業（３０％），試験（５０％）により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習としては配付資料の確認が必要である。
事後学習としては、課題の作成が必要である。

履修上の注意　/Remarks

教材研究，模擬授業等に関する課題の提出は必須の課題となります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

歴史と政治 【夜】

担当者名 /Instructor　小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と歴史との関係性を政治学的視点から総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史について政治学的視点から総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

歴史と政治	PLS110F

授業の概要 /Course Description

明治憲法体制の成立（1889年）から崩壊（1945年）までの日本政治の歩みを概説します。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らないで、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近現代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『児玉源太郎』・『桂太郎』（ともにミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　イントロダクション
第２回　「文明国」をめざして - 憲法制定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
第３回　明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【児玉源太郎】【統帥権】
第４回　日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
第５回　立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
第６回　日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
第７回　憲法改革の頓挫【伊藤博文】【児玉源太郎】【韓国併合】
第８回　大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21ヵ条要求】
第９回　政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
第10回　二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
第11回　軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
第12回　2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
第13回　日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
第14回　太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み…10%　期末試験…90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。授業終了後はノートを読み直し、授業中に紹介した参考文献を読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

歴史と政治 【夜】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この講義では歴史的事項の暗記は重視しません。歴史の流れを史料に即して論理的に理解することが大切です。

キーワード　/Keywords

異文化理解の基礎 【夜】

担当者名 /Instructor　神原　ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化に関する既成概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

異文化理解の基礎	ANT110F

授業の概要　/Course Description

本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。（おそらく大部分が）北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではぐくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。文化に関する日常的な知識は、応用的なものばかりなので、基礎をしっかり学び、総合的な理解力、思索力を身につけることをめざす。

講義中に何回か指定するトピック（次回のテーマに関するもの）についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既成概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身に着ける手掛かりを学んでほしい。

教科書　/Textbooks

予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。なお、講義に関する映画を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の課題図書などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
○奥野克己（編）2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
○田中雅一ほか（編）2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
○波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

異文化理解の基礎 【夜】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　導入：世界を理解するてがかりとしての文化

第I部　文化の基礎としての家族
第2回　伝統的家族の多様性
第3回　近代以降の家族・親族関係の変容
第4回　親族という認識
第5回　親族・家族関係から社会関係への拡張
第6回　ジェンダーと伝統文化
第7回　伝統文化について：構築主義と本質主義
第8回　文化相対主義の考え方
第9回　中間テスト

第II部　文化と世界観
第10回　儀礼と文化
第11回　宗教と家族・コミュニティ
第12回　さまざまな信仰心
第13回　不幸への対処としての呪術
第14回　中間テストの解説
第15回　政教分離と世俗化

※出張などの理由で休講が入った場合、順序を入れ替えて補講を行う。具体的なスケジュールについては初回の講義で説明する。

成績評価の方法　/Assessment Method

中間テスト＋課題など 40%、 期末テスト 60%　を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。
※中間テストを予定しているが、受講者の数によってはレポートにすることがあります。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。
・講義に出席していても、テストやレポートで評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義中に指示した関連文献を読むなど、復習にも真剣に取り組んでください。
・講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。

履修上の注意　/Remarks

・評価方法やテキストとなる電子ブックや講義資料の閲覧方法など重要事項は第一回の講義で説明しますので、第一回目の講義は必ず出席してください。
・中間テストの無断欠席者や、授業態度が目に余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義「異文化理解の基礎」の応用編はテーマ科目「政治のなかの文化」とビジョンII「現代社会と文化」です。基礎が分かるからこそ面白いと思える内容ですので、受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード　/Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係

ことばの科学 【夜】

担当者名 /Instructor　漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語の様々な側面についての基本的知識を身につけ、言語学の課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語学に関する課題を発見し、言語学の手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語に関心を持ち、言語および言語学の課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		

ことばの科学	LIN110F

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータや最近の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

漆原 朗子（編著）『形態論』（朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻）。朝倉書店、2016年。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○大津 由紀雄（編著）『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
○スティーヴン・ピンカー（著）椋田 直子（訳）『言語を生みだす本能（上）・（下）』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 序(1)：ことばの不思議
第2回 序(2)：ことばの習得
第3回 ことばの単位(1)：音韻
第4回 連濁
第5回 鼻濁音
第6回 ことばの単位(2)：語
第7回 語の基本：なりたち・構造・意味
第8回 語の文法：複合語・短縮語・新語
第9回 ことばの単位(3)：文
第10回 動詞の自他
第11回 日本語と英語の受動態
第12回 数量詞
第13回 時制と相：方言比較
第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度…10%　課題…30%　期末試験…60%

ことばの科学 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読
事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

履修上の注意　/Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

国際学入門 【夜】

担当者名 /Instructor　伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、総合的に理解する能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、地域研究的視点からの理解を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際問題に関して、地域研究的視点から見直す能力を獲得する。
	コミュニケーション力		

国際学入門	IRL100F

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく２本の柱が必要となる。すなわち、①グローバライゼイションのすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバライゼイション】【多様化】
第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
第11回：「地域研究」の技法。【フィールド･ワーク】
第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
第14回：まとめ
第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

国際学入門 【夜】

履修上の注意　/Remarks

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。
毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する（特に提出する必要はない）。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

生活世界の哲学 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　伊原木　大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	哲学の知識に基づいて人間と生活世界との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生活世界に関する課題を哲学的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生活世界に関する問題を哲学的に解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

生活世界の哲学	PHR110F

授業の概要　/Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、フッサール現象学からフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明しつつ、生活世界の変容とその問題点を確認したあと、21世紀の今日でもなお哲学的思索の糧となりうる「古代」の分析に取り組む。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』（細谷恒夫・木田元訳）、中公文庫、1995年。
○ハイデガー『存在と時間（一～四）』（熊野純彦訳）、岩波文庫、2013年。
○ホルクハイマー / アドルノ『啓蒙の弁証法―哲学的断想』（徳永恂訳）、岩波文庫、2007年。
○ハンナ・アーレント『イェルサレムのアイヒマン』（大久保和郎訳）、みすず書房、1969年。
○ハンナ・アレント『人間の条件』（志水速雄訳）、ちくま学芸文庫、1994年。
その他は授業中に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　イントロダクション
２回　近代とは何か【概説】
３回　近代の勃興【ガリレイと科学革命】
４回　生活世界の概念（１）【フッサールの科学批判】
５回　生活世界の概念（２）【ハイデガーの世界論】
６回　生活世界の変容（１）【工場労働】
７回　生活世界の変容（２）【近代産業社会】
８回　確認テスト
９回　生活世界の変容（３）【戦争の美学】
１０回　生活世界の変容（４）【政治の美学】
１１回　生活世界の変容（５）【ホロコースト】
１２回　生活世界の変容（６）【全体主義と思考能力】
１３回　生活世界の二元性【アーレントの近代批判】
１４回　古代世界の公共空間（１）【古代ギリシャ概説】
１５回　古代世界の公共空間（２）【古代ギリシャの公と私】

成績評価の方法　/Assessment Method

確認テスト…40%　　学期末試験…60%
（第８回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。）

生活世界の哲学 【夜】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。スライドの内容はもちろんのこと、担当者が口頭で述べた内容についても、こまめにノートを取る習慣を身につけてほしい。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。

キーワード　/Keywords

科学技術　生活世界　活動　ポリス

日本の防衛 【夜】

担当者名 /Instructor　戸蒔　仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	安全保障や防衛と国民との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	わが国の防衛上の諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	わが国の防衛上の課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

日本の防衛	PLS111F

授業の概要　/Course Description

わが国の防衛に関する概説を通じて、その必要性や意義について理解し、防衛一般についての知識や理解に基づいて、広く安全保障一般に対する思考を促すことを目的とする。具体的には、安全保障とは何か、防衛とは何か、といった基礎概念の提示を行い、防衛の必要性や意義を論ずることになるが、これらを理解するためには、前提として、わが国が置かれた環境および目下の脅威を把握する作業（状況認識）が欠かせない。一方で、わが国は憲法9条のもと「平和主義」を標榜していることから、その防衛も様々な制約を受けることになる。従って、わが国の防衛を考えるには、そうした「制度」面での知識も欠かせない。以上を踏まえ、本講義では、日本の防衛について、現実的な視点と制度的な視点の双方を重視し、総論、各論を通じて、現状と課題の理解と思考を促し

本年度は特に「平和安全法制」について力点を入れて解説する。

なお、この授業の到達目標は、同分野における①総合的知識･理解の獲得、②課題発見･分析･解決力の獲得、③生涯学習力の獲得、に置かれている。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、『防衛ハンドブック』、その他は適宜指示する。

日本の防衛 【夜】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回　安全保障と防衛(1)
　　安全保障を学ぶことの重要性、
第3回　安全保障と防衛(2)
　　安全保障とは何か、安全保障の目標、安全保障のスペクトラム
第4回　安全保障と防衛(2)
　　脅威とは何か、脅威の定義、安全保障の非軍事的側面と総合安全保障、国土安全保障
第5回　日本の安全保障(1)
　　安全保障の非軍事的側面（エネルギー、資源、食糧、備蓄をめぐる安全保障）
第6回　日本の安全保障(2)
　　安全保障の軍事的側面（国防、日米同盟、国際貢献)
第7回　日本の防衛(1)
　　防衛出動、個別的自衛権と集団的自衛権
第8回　日本の防衛(2)
　　海上警備、対領空侵犯措置、BMD対処、機雷除去、対外邦人輸送等
第9回　日本の防衛(3)
　　平和安全法制の概要
第10回　日本の防衛(4)
　　平和安全法制の論点
第11回　日本の脅威(1)
　　北朝鮮の脅威①　兵力の特徴、特殊部隊、江陵事案、わが国の防衛に対する意味、島嶼防衛とゲリコマ対処
第12回　日本の脅威(2)
　　北朝鮮の脅威②　弾道ミサイル及び大量破壊兵器
第13回　日本の脅威(3)
　　中国海空軍の脅威①　中国軍の不透明性、軍事態勢、海軍の動向
第14回　日本の脅威(4)
　　中国海空軍の脅威②　中国軍の戦略と行動
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

試験100%。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読み、安全保障・防衛関連の記事をチェックする習慣を身に着けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

安全保障や防衛問題に関心があれば、誰でも履修してみてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

生命と環境 【夜】

担当者名 /Instructor	日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾　泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター
履修年次 /Year	1年次
単位 /Credits	2単位
学期 /Semester	1学期
授業形態 /Class Format	講義
クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	多様な生命とそれを生み出した環境についての基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命およびそれを生み出した環境について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

生命と環境	BIO100F

授業の概要　/Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。そもそも生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、（１）宇宙と生命がどのような物質からできているか、（２）生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、（３）進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学び、生命と環境に関する身近な課題を自ら発見・解決するための基礎的な力を身につける。また、（４）生命や宇宙がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方の大切さについて理解することを目標とする。

教科書　/Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○現代生命科学　東京大学生命科学教科書編集委員会　2015年（羊土社）3024円
○もう一度読む数研の高校生物　第１巻　嶋田正和他編　2012年（数研出版）1890円
○もう一度読む数研の高校生物　第２巻　嶋田正和他編　2012年（数研出版）1890円
宇宙と生命の起源―ビッグバンから人類誕生まで　嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年（岩波ジュニア新書）903円

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回	ガイダンス（日高・中尾）	
２回	自然科学の基礎（１）ミクロとマクロ（日高・中尾）	【物質の単位】【自然科学】
３回	自然科学の基礎（２）宇宙で生まれた物質（中尾）	【元素】【原子】【超新星爆発】
４回	自然科学の基礎（３）生命と分子（日高）	【DNA】【タンパク質】
５回	生物の多様性（１）生物の分類と系統（日高）	【種】【学名】【系統樹】
６回	生物の多様性（２）単細胞生物と多細胞生物（日高）	【細胞膜】【共生説】
７回	生物の多様性（３）生態系と進化（日高）	【食物連鎖】【絶滅】【進化】
８回	遺伝子の多様性（１）遺伝子の名前（日高）	【突然変異】【遺伝学】
９回	遺伝子の多様性（２）多様性を生む生殖（日高）	【有性生殖】【減数分裂】
１０回	遺伝子の多様性（３）多様な生命の紹介（外部講師）	
１１回	科学的な方法とは（１）科学と疑似科学（日高・中尾）	【血液型】【星座】
１２回	科学的な方法とは（２）太陽と地球の環境（中尾）	【太陽活動】【地球温暖化問題】
１３回	科学的な方法とは（３）人類の起源を調べるには（日高）	【ミトコンドリア】
１４回	関連ビデオ鑑賞（日高）	
１５回	質疑応答とまとめ（日高）	

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の課題４０％、期末テスト６０％

生命と環境 【夜】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【　】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、北方Moodleで提出すること。
https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp

履修上の注意　/Remarks

・ 高校で生物を履修していない者は教科書または参考書を入手し、授業に備えること。
・ ２学期開講「人間と生命」を合わせて受講すると理解がより深まるでしょう。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高（生物担当）および中尾（物理担当）による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード　/Keywords

情報社会への招待 【夜】

担当者名 /Instructor　中尾　泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

情報社会への招待	INF100F

授業の概要　/Course Description

本授業のねらいは，現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し，インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります:

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側，発信する側としての注意点

本授業を通して，情報社会を総合的に理解し，現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること，また，学んだ内容を基礎として，変化し続ける情報技術と正しくつき合って適応できる能力を身につけることを目指します。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『エンドユーザのための情報基礎』(浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　情報社会の特質 【システムトラブル，炎上，個人情報】
２回　情報を伝えるもの 【光，音，匂い，味，触覚，電気】
３回　コンピュータはどうやって情報を取り扱うか 【2進数，ビット・バイト】
４回　コンピュータを構成するもの 1【入力装置，出力装置，解像度】
５回　コンピュータを構成するもの 2【CPU，メモリ，記憶メディア】
６回　コンピュータ上で動くソフトウエア 【OS，拡張子とアプリケーション，文字コード】
７回　電話網とインターネットの違い 【回線交換，パケット交換，LAN，IPアドレス】
８回　ネットワーク上の名前と情報の信頼性 【ドメイン名，DNS，サーバ / クライアント】
９回　携帯電話はなぜつながるのか 【スマートフォン，位置情報，GPS，GIS，プライバシ】
１０回　ネットワーク上の悪意 【ウイルス，スパイウエア，不正アクセス，詐欺，なりすまし】
１１回　自分を守るための知識 【暗号通信，ファイアウォール，クッキー，セキュリティ更新】
１２回　つながる社会と記録される行動 【ソーシャルメディア，防犯カメラ，ライフログ】
１３回　集合知の可能性とネットワークサービス 【検索エンジン，Wikipedia，フリーミアム，クラウド】
１４回　著作権をめぐる攻防 【著作権，コンテンツのデジタル化，クリエイティブコモンズ】
１５回　情報社会とビッグデータ 【オープンデータ】

情報社会への招待 【夜】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に提示する課題 … 75%
日常の授業への取り組み … 25%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

e-Learningサイト「北方Moodle」を使って，授業の資料を提示しますので，事前学習・事後学習に利用してください。また，授業中に配布した課題プリントを持ち帰って，次回の授業時に提出したり，北方Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます。

履修上の注意　/Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ，「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば，随時，質問してください。

キーワード　/Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ

環境問題概論 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　廣川　祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と「自然・環境」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題の根本的な省察、総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が帰属する社会が抱える環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

環境問題概論	ENV100F

授業の概要　/Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。本授業で基本的な環境に対する見方・考え方を身に付ける事によって、その後、環境問題に対し自立的に課題を発見し分析、解決することができる知識の充足を目指す。

教科書　/Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション　-環境問題を見る視点について-
第2回　資源の在り方を問う
第3回　日本の捕鯨の行方
第4回　日本人の自然観
第5回　環境と経済の関係性
第6回　山を管理するとは？
第7回　環境問題の原因と焼畑農業
第8回　里山の開発①　- なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか？ -
第9回　里山の開発②　- 映画監督 高畑勲氏からのメッセージ -
第10回　里山の開発③　- 動物視点で見る真の共生の形 -
第11回　「農業」とＳＡＴＯＹＡＭＡイニシアティブ①　- 農業の多面的機能 -
第12回　「農業」とＳＡＴＯＹＡＭＡイニシアティブ②　-「共生」社会の在り方 -
第13回　復習
第14回　レポート試験の実施　（※レポート試験は日程が前後する可能性があります）
第15回　総括　- おわりに -

成績評価の方法　/Assessment Method

不定期に何回か実施する小レポート：30%
最終試験：70%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後に最終試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

環境問題概論 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学（食物連鎖等）的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード　/Keywords

現代人のこころ 【夜】

担当者名 /Instructor　森永　今日子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	心理学についての教養的基礎知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	心理学的観点から課題の発見、解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の諸問題を心理学的観点から解決するために学習を続けることができる。
	コミュニケーション力		

現代人のこころ	PSY003F

授業の概要　/Course Description

この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察します。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、それを、グループワーク等を通じて体験していただきます。そして課題として、先行研究や日頃の問題意識に基づく研究計画をグループでレポートとポスターにまとめ、ポスターツーアーでの質疑応答を通じ、それをさらに深めてもらいます。

教科書　/Textbooks

ハンドアウトを学習支援フォルダにアップしますので、講義前に、学習支援フォルダからダウンロード、印刷してください。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1. ガイダンス , グループ分け
2. 心理学とは　NHK大心理学実験　研究計画の基礎
3. コミュニケーションと共有　GWメンバー紹介作成(1)
4. GWメンバー紹介作成(2)
5. 集団討議(1)
6. 集団討議(2)
7. 集団の心理学
8. 伝えるスキル (アサーション、説得的コミュニケーション)
9. レポート・ポスター課題・研究法説明
9. レポート・ポスター作成(1)
10. レポート・ポスター作成(2)
11. レポート・ポスター作成(3)
12. レポート・ポスター作成(4)
13. ポスターツアー1
14. ポスターツアー2
15. まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

グループレポート(20%) + PTグループポイント(20%)　+　PT個人ポイント(20%)　+　試験(40%) - 【平常点 (減算式)】
※ PTとはポスターツアーを指し、、グループで作り上げるものです。詳細は講義中に説明します。
※平常点は、講義一回目に示したルールに反した場合 (講義を放棄した居眠り、別科目の作業、スマートフォン操作、グループワーク不参加等) による減算式です。単なる欠席は減算の対象となりません。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

グループ課題 (レポートおよびポスター) 作成のために必要。

現代人のこころ 【夜】

履修上の注意　/Remarks

本講義は、ポスターツアーなどグループワークを中心としたアクティブラーニング形式です。
☆アクティブラーニングとは…
教員による一方向性な講義形式とは異なり、学修者の能動的な学修を取り入れた講義（文部科学省，2012）
講師は，学生が主体的・能動的に学習に取り組めるように授業方法を設計します。
学生は【見たり聞いたりノートをとったりする以上の活動】【学生自身が活動し，その活動について思考することで学ぶ】ことが必要です。
※グループワークに参加する意思のない方やスケジュール上参加が難しい方には履修をお勧めしません．

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

課題は簡単ではなく、楽な科目ではありません。
主体的にしっかり取り組んだ学生からは「やりがいがあった」「楽しかった」という感想が、そうでない学生からは「二度とやりたくない」「講義に来るのが嫌だった」という感想が出ています。
主体的にしっかり取り組みたいという方への受講をお勧めします。

キーワード　/Keywords

心理学、認知心理学、社会心理学、実験、調査、グループワーク、アクティブラーニング、ポスターツアー

人間と生命 【夜】

担当者名 /Instructor　日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	生命科学の基礎知識を獲得し、身近な問題との関わりを総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命科学に関する基礎知識を用いて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	体や健康など、生命科学に関する身近な課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

人間と生命	BIO002F

授業の概要　/Course Description

ヒトの体は約６０兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には２万数千もの種類がある。近年、「ヒトゲノム計画」が完了し、すべての遺伝情報が明らかとなった。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。そこで（１）体はどのような物質からできているか、（２）遺伝子は体の何をどのように決めているのか、（３）細胞の社会とはどういうものでそれが破綻するとどのような疾患につながるのか、（４）体を維持し守るしくみは何かなど、人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

教科書　/Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○現代生命科学　東京大学生命科学教科書編集委員会　2015年（羊土社）3024円
○もう一度読む数研の高校生物　第１巻　嶋田正和他編　2012年（数研出版）1890円
○もう一度読む数研の高校生物　第２巻　嶋田正和他編　2012年（数研出版）1890円

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　体を作る物質（１）細胞の構成成分　【多糖・脂質・タンパク質・核酸】
３回　体を作る物質（２）食物分子と代謝　【酵素】【触媒】
４回　体を作る物質（３）遺伝物質DNA　【二重らせん】
５回　体を作るしくみ（１）遺伝子発現　【セントラルドグマ】
６回　体を作るしくみ（２）遺伝子できまること　【ゲノム】【体質】
７回　体を作るしくみ（３）発生と分化　【転写因子】【胚】
８回　細胞の社会（１）細胞の増殖　【細胞周期】【細胞死】
９回　細胞の社会（２）シグナル伝達　【受容体】【シグナル分子】
１０回　細胞の社会（３）社会の反逆者・がん　【がん遺伝子】
１１回　体を守るしくみ（１）寿命と老化　【染色体】【テロメア】
１２回　体を守るしくみ（２）細菌とウイルス　【ウイルス】【細菌】
１３回　体を守るしくみ（３）免疫　【自然免疫】【抗体】
１４回　関連ビデオ鑑賞
１５回　質疑応答・まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の課題　４０％
期末テスト　６０％

人間と生命 【夜】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【　】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、北方Moodleで提出すること。
https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp

履修上の注意　/Remarks

高校で生物を履修していなかった者は教科書または参考書を入手して備えること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

人体を構成する細胞やその働きを操る遺伝子について、ここ数十年程の間で驚く程いろいろなことがわかってきました。その緻密で精巧なしくみは知れば知るほど興味深いものですが、ヒトの体について良く知ること、生命科学の基礎を学ぶことは、これから皆さんが生きて行く上でも非常に大切です。苦手だからと怯まずに、一緒に頑張りましょう。

キーワード　/Keywords

文学を読む 【夜】

担当者名 /Instructor	生住　昌大 / IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科, 河内　重雄 / ＫＯＵＣＨＩ　ＳＨＩＧＥＯ / 比較文化学科 鄧　紅 / DENG HONG / 比較文化学科, 村上　義明 / 北方キャンパス　非常勤講師 畑中　佳恵 / 北方キャンパス　非常勤講師, 藤崎　祐二 / 北方キャンパス　非常勤講師 山口　裕子 / YAMAGUCHI Hiroko / 比較文化学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
1年次	2単位	2学期	講義	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と文学との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文学について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文学に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

文学を読む	LIT001F

授業の概要　/Course Description

◎総合テーマ
大学に入るまでに私たちは「国語」という科目の中で「文学」に触れ、また自ら図書館や書店の棚で「文学」を手に取ってきた体験があります。こうした「文学を読む」という行為は、人間にとって当たり前の営みだと感じられがちなものですが、それは本当なのでしょうか？　さらには「古典」「名作」と名づけられた作品は、今なお読むに値するどのような意味・意義を有しているのでしょうか。一見自明に見える課題を再度問い直し、私たちにとって現実的な営みとしての「文学」を捉えなおすことが、この科目の目的です。

◎2018年のテーマ：「文学」への誘い
ある文学作品との出会いによって、一人の人間の人生が大きく変わってしまうことがあります。
今年度も「文学を読む」では、担当教員が大学１年生にぜひ読んでもらいたい作品を取り上げ、その作品の面白さやアトラクティヴなメッセージについて、熱く語ります。
また、本講義は日本文学を中心に講義を進めていきますが、アジアの文学（中国、インドネシア）についても紹介します。

この授業の主な到達目標は、以下の通りです。

①言語芸術に関する基本的・総合的な知識を獲得する。
②「文学」という表現の深さや可能性について考え、自分で課題を設定し、解決する能力を磨く。
③修得した知識を今後の知的生活の中で応用できるようになる。

教科書　/Textbooks

特定のテキストは使用しません。取り上げる作品を事前に通知したり、適宜プリントを配布したりします。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

講義中に各教員が指示します。

文学を読む 【夜】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス
第２回　日本上代文学への誘い（藤崎祐二）
第３回　日本上代文学のメッセージ性（藤崎祐二）
第４回　まとめ（藤崎祐二）
第５回　中国文学への誘い（鄧紅）
第６回　日本近世文学への誘い（村上義明）
第７回　日本近世文学のメッセージ性・まとめ（村上義明）
第８回　インドネシア文学への誘い（山口裕子）
第９回　文学理論の歴史概観（畑中佳恵）
第10回　トドロフの「幻想」と三島由紀夫「美神」（畑中佳恵）
第11回　イーザーの「内包された読者」と芥川龍之介「地獄変」（畑中佳恵）
第12回　日本現代詩への誘い（稲田大貴）
第13回　日本現代詩のメッセージ性・まとめ（稲田大貴）
第14回　日本現代文学への誘い（河内重雄）
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート＝100％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

取り上げる作品についての予習（作品を読む、作者について調べる、など）と、講義内容の復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

私語など、講義を妨げる行為は厳禁。「文学を読む【昼】」と同じ講義内容です。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

履修等については、コーディネーターの生住に質問すること。
講義内容については、各回の講義担当教員に質問すること。

キーワード　/Keywords

現代正義論 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と正義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における正義の問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における正義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

現代正義論	PHR003F

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010年）
○マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録＋東大特別授業(上）（下）』(早川書房、2010年）
○盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房、2006年）
○川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社、1995年）
○川本隆史『ロールズ　-　正義の原理』（講談社、1997年）
瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）

現代正義論 【夜】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　現代正義論とは　～　問題の所在
第２回　現代正義論とは　～　本講義の概観
［第３回～第７回まで　「正義」の応用問題（生命倫理と法）］
第３回　脳死・臓器移植①　～　臓器移植法の制定と改正
第４回　脳死・臓器移植②　～　法改正時の諸論点
第５回　脳死・臓器移植③　～　改正臓器移植法の施行と課題
第６回　安楽死・尊厳死①　～基本概念の整理と国内の状況
第７回　安楽死・尊厳死②　～諸外国の状況
第８回　現代正義論①　～　ロールズの正義論
第９回　現代正義論②　～　ロールズとノージック
第10回　現代正義論③　～　ノージックのリバタリアニズム
第11回　現代正義論④　～　サンデルの共同体主義
第12回　現代正義論⑤　～　共同体主義【論争】
第13回　現代正義論⑥　～　アマルティア・センの正義論
第14回　現代正義論⑦　～　センとロールズ・ノージック
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験…80%　　講義中に課す感想文…20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前に、当該回に扱うテーマについて、自ら予習をしておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

ＮＨＫ教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解の役にたつと思います。

キーワード　/Keywords

ロールズ　ノージック　サンデル　正義　脳死　尊厳死

障がい学 【夜】

担当者名 /Instructor　伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間　直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	障がいについての様々な捉え方を理解し、多角的に考えていく能力を養う。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいの捉え方に関する３つのモデルの関係性について理解する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	障がい観を見直す視座を習得する。
	コミュニケーション力		

障がい学	SOW001F

授業の概要　/Course Description

「障害」というと否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。
障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。
また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定でいる。

教科書　/Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
第3回：障害の捉え方【障害の種類と区別】
第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
第5回：自閉症とは【自閉症】
第6回：文化モデル的作品DVDの視聴【文化モデル的作品】
第7回：文化モデル的作品の評価【３つのモデルとの関連で】
第8回：３つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
第9回：日本の福祉制度現状【法的現状】
第10回：日本の福祉制度の現状【制度的現状】
第11回：日本の福祉制度の現状【雇用問題を事例として】
第12回：日本の福祉制度の課題【福祉制度の課題】
第13回：共生社会へ向けての課題【共生社会】
第14回：自己への問いとしての障がい学【自己への問い】
第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回指示するが、事前学習としては、インターネット・サイトなどで関連事項を調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意　/Remarks

障がい学 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

市民活動論 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　西田　心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	市民活動と地域社会との関係性について総合的に理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	市民活動に関する総合的な考察をもとに、それが直面する課題を発見することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地域課題の解決のために、市民活動についての学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

市民活動論	RDE001F

授業の概要　/Course Description

市民活動とはどのようなものか、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。
主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書　/Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　検討の枠組みについて
３回　枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
４回　枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
５回　市民活動の＜萌芽＞① - 政治と経済
６回　市民活動の＜萌芽＞② - 市民
７回　市民活動の＜再生＞① - 政治と経済
８回　市民活動の＜再生＞② - 市民
９回　市民活動の＜広がり＞① - 政治と経済
１０回　市民活動の＜広がり＞② - 市民
１１回　中間まとめ
１２回　北九州市における市民活動のうねり
１３回　今日の市民活動の＜展開＞① - 政治と経済
１４回　今日の市民活動の＜展開＞② - 市民
１５回　全体まとめ
※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験…　100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

市民活動論 【夜】

履修上の注意　/Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

現代社会と倫理 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　伊原木　大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代社会と倫理との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の倫理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の倫理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

現代社会と倫理	PHR002F

授業の概要　/Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○ピーター・シンガー『実践の倫理　新版』（山内友三郎・塚崎智監訳）、昭和堂、1999年。
○ピーター・シンガー『あなたが救える命』（児玉聡・石川涼子訳）、勁草書房、2014年。
○加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』、東海大学出版会、1988年。
○江口聡編・監訳『妊娠中絶の生命倫理』、勁草書房、2011年。
○安彦一恵『「道徳的である」とはどういうことか―要説・倫理学原論』、世界思想社、2013年。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回	イントロダクション
２回	20世紀の倫理学【規範倫理学とメタ倫理学】
３回	現代における人命の価値（１）【生命の神聖説】
４回	現代における人命の価値（２）【積極的行為と消極的行為】
５回	現代における人命の価値（３）【最大幸福原理】
６回	現代における人命の価値（４）【不完全義務】
７回	現代における人命の価値（５）【自己意識】
８回	現代における差別の問題（１）【人種差別】
９回	現代における差別の問題（２）【差別反対論】
１０回	現代における差別の問題（３）【種差別の問題】
１１回	現代における差別の問題（４）【種差別の諸相】
１２回	現代における差別の問題（５）【優生学】
１３回	現代における公平性の意義（１）【貧困問題】
１４回	現代における公平性の意義（２）【公平主義】
１５回	現代における公平性の意義（３）【援助義務論】

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験…１００％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

参考書に挙げた『バイオエシックスの基礎』および『妊娠中絶の生命倫理』に収められた論文を一部授業の素材にするので、授業の前に簡単にでも目を通しておくことが望ましい。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理し、復習を行うこと。

現代社会と倫理 【夜】

履修上の注意　/Remarks

授業予定の詳細と参考文献の紹介は第 1 回もしくは第 2 回の授業時に行なう。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

生命　義務論　功利主義　貧困　公平性

国際紛争と国連 【夜】

担当者名 /Instructor　二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際紛争に対する国連の役割を考察することにより、人間と国際社会の関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際紛争と国連に関する諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際紛争と国連に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

国際紛争と国連	IRL005F

授業の概要 /Course Description

国際紛争に対し国連がどのような対応を取ってきているのかについて、法的・制度的枠組みや実際の活動の紹介・分析を通じ、学習することで、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題についての認識を深めてもらうことを目指します。

まずは国際紛争とは何か、時間経過軸による紛争の分類（Phase化)の議論を紹介し、紛争の各段階における国連の対応の必要性を認識してもらいます。次に、その分析軸を基に、総論として、国連における国際の平和と安全のための活動の基本的枠組みと、そこでの加盟国が果たすべき役割を認識してもらった上で、各論として、①平和的解決の手法を駆使し平和を創出する段階、②停戦合意後の暫定的な平和を維持する段階、③政治的意思の欠如から平和を強制せざるを得ない段階、④紛争後の平和を持続・定着させる段階についてそれぞれ取り上げ、事例の紹介も交えながら、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題について、学んでもらいます。

教科書 /Textbooks

テキストは設定しません。
講義の理解に必要な参考資料を、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書　財団法人日本国際連合協会『わかりやすい国連の活動と世界（改訂版）』（三修社・2007）○
その他の参考文献は、適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　コースガイダンス
第2回　国連情報へのアクセス方法　【ODS】【UNBISnet】【UN Journal】
第3回　国連を知る①【国連　1945-1980's】【国連の目的】【国連の組織構造】
第4回　国連を知る②【国連　1990's-】【冷戦後の国連】
第5回　紛争を知る　【難民】【発生国】【受入国】
第6回　国際紛争を見る分析軸　【DisputeとConflict】【国際紛争の定義】【紛争のPhase】
第7回　国連による平和の創出①：紛争処理のメカニズム　【国連憲章第6章】【総会】【安全保障理事会】
第8回　国連による平和の創出②：平和創造　【事務総長による周旋】【The Team】
第9回　国連による平和の維持①：国連平和維持活動（PKO）の創設と展開　【6章半の活動】【PKO原則】
第10回　国連による平和の維持②：国連平和維持活動（PKO）の深化　【多機能化】【キャップストーン報告】
第11回　国連による平和の強制①：決定プロセス　【平和に対する脅威等の認定】【強制措置】
第12回　国連による平和の強制②：実施上の課題　【経済制裁】【多国籍軍】【地域的機関】
第13回　国連による持続的平和の定着　【平和構築】【平和構築委員会】
第14回　国連による国際の平和と安全のための活動と加盟国　【財政的貢献】【人的貢献】
第15回　まとめ

国際紛争と国連 【夜】

成績評価の方法　/Assessment Method

課題等への対応および学期末試験で評価します。
　　課題等への対応…30%　学期末試験…70%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意　/Remarks

毎回、予習を前提とした講義を展開します。
指示された課題に誠実に取り組んでから、授業に臨むようにしてください。
詳細は、北方ムードルの情報で確認してください。
成績評価において、授業を通じ提出を求められる課題への対応の比率が高く設定されています。
そのため単位取得のためには、提出を求められた課題に対し、誠実に取り組むことが必要となりますので、受講の決定の際には、この点に注意してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

３つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国連の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際問題は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード　/Keywords

【国際紛争】　【国連】　【平和創出】　【平和維持】　【平和強制】　【平和構築】

歴史の読み方I 【夜】

担当者名 /Instructor　小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

歴史の読み方Ⅰ	HIS004F

授業の概要 /Course Description

ここでは明治時代をはじめとする、歴史上の人物や実際の史料を取り上げながら、今日の世界の中で日本の歴史がどう捉えられているのか、また、私たち自身が歴史をどう見ているのかを考えることを目的とした歴史の見方を学びます。具体的には、明治維新から敗戦までの一次史料を直接読み、さまざまな歴史認識の可能性を探っていきます。

教科書 /Textbooks

講義の中で適宜史料プリントを配布致します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○外務省編『日本外交文書』、○『山県有朋意見書』、○『原敬日記』、○『牧野伸顕日記』、○『木戸幸一日記』、○『西園寺公と政局』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　イントロダクション
第2回　西南戦争【木戸孝允】
第3回　日清戦争【山県有朋】
第４回　日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
第５回　韓国併合と「満州」経営【伊藤博文】【山県有朋】
第６回　辛亥革命【伊藤博文】【山県有朋】
第７回　政治家の肉筆書簡【田中義一】
第８回　政党政治（１）【原敬】【山県有朋】
第９回　政党政治（２）【牧野伸顕】
第10回　山東出兵と張作霖爆殺【牧野伸顕】
第11回　満州事変（１）【木戸幸一】【西園寺公望】
第12回　満州事変（２）【石原莞爾】
第13回　日中戦争【近衛文麿】
第14回　太平洋戦争【昭和天皇】
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な取り組み…４０％期末試験…６０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。特に「史料」のところはよく読んでおいてください。授業終了後には講義中に配布した史料プリントを読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

歴史の読み方I 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

日本近代史プラス史料解説です。

キーワード　/Keywords

歴史の読み方II 【夜】

担当者名 /Instructor　小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

歴史の読み方Ⅱ	HIS005F

授業の概要 /Course Description

司馬遼太郎『坂の上の雲』で、「戦術的天才」として描き出された児玉源太郎（日露戦争時の満州軍総参謀長、台湾総督）の実像に実証的に迫り、その生涯をたどることを通じて、歴史小説と政治外交史研究との関係について思いをめぐらすきっかけを作りたい。要するに、「歴史認識とはいったい何か」という問題を考察していく。

教科書 /Textbooks

小林道彦『児玉源太郎 - そこから旅順港は見えるか』（ミネルヴァ書房、3000円税別）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎 - 予が生命は政治である』(ミネルヴァ書房)。その他、講義中に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　イントロダクション
第２回　政治的テロルの洗礼 - 徳山殉難七士事件～佐賀の乱 -
第３回　危機管理者 - 神風連の乱・西南戦争 -
第４回　雌伏の日々 - 佐倉にて -
第５回　洋行と近代陸軍の建設
第６回　陸軍次官 - 英米系知識人との出会い -
第７回　台湾経営 - 後藤新平を使いこなす -
第８回　政治への関わり - 第一次桂内閣
第９回　陸軍改革の模索 - 大山巌・山県有朋との対立 -
第10回　日露戦争 - 統帥権問題の噴出 -
第11回　旅順攻防戦 - 統帥権問題と明治国家の危機 -
第12回　児玉は「天才的戦術家」だったか - 危機における人間像 -
第13回　「立憲主義」と軍事の間
第14回　歴史小説と政治史研究の間
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み…20%期末試験…80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の該当箇所に目を通しておくこと。授業終了後には講義ノートを参照しながら教科書を再読すること。

履修上の注意 /Remarks

歴史の読み方II 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

人物と時代の歴史 【夜】

担当者名 /Instructor　山﨑　勇治 / 北方キャンパス　非常勤講師, 新村　昭雄 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史上著名な人物を通じて、歴史の流れを理解するために必要な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史上重要な人物を特定し、その人物が果たした歴史的役割を見出す能力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身の回りの歴史と著名人物に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

人物と時代の歴史	HIS001Ｆ

授業の概要　/Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。
　なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。
　二人の教員が、日本と欧米の代表的な人物について、人物と時代について語る。
まず、新村は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道（Bushido）が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、３代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰（アイヌや南方諸島に残る）や弥生信仰に代わって、聖徳太子（厩戸皇子）は仏教を大和（やまと）の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。
　さらに、大英帝国の後を継いで１００年にわたり世界を支配してきたアメリカ合衆国の歴代大統領のなかから、初代ワシントン大統領、第３代ジェファーソン大統領、第７代ジャクソン大統領、第１６代リンカン大統領、第２６代セオドール・ルーズベルト大統領、第３２代フランクリン・ルーズベルト大統領、第３５代J・F・ケネディ大統領、第４４代バラク・フセイン・Obama大統領について講義します。

次に山﨑は、トランプ・アメリカ大統領、メイ・イギリス首相の２人について人物と時代を語る。その際、２人を語る上で必要な限り、プーチン・ロシア大統領、メルケル・ドイツ首相、習近平・中国国家主席についても言及する。
　２１世紀になって世界はグローバル化が促進されると予想していた。その予想に反してアメリカではアメリカ第１主義とメキシコからの移民排除のトランプが大統領に就任した。
　イギリスでは１昨年からのＥＵ離脱をめぐる国民投票の結果就任したメイ首相が完全なＥＵ離脱を宣言した。ロシアではウクライナ地方のクリミア半島支配とシリアと手を組んでイラク地域への空爆をプーチン大統領は続けている。フランスでは異民族排除のルペン候補が有力視されている。ドイツでは移民受け入れのメルケル首相が敗退すればＥＵ存続にも影響を与えかねない。
　こうした背景も視野に入れながら、第２次世界大戦後に果たした世界のアメリから後退したなかでトランプ大統領の意味を考える。同様にＥＵ（ヨーロッパ連合）の形成過程において３度もＥＥＣ（とＥＣ）に申請してやっと認められたイギリスがなぜＥＵから出て行くと決意したのか。これを明らかにする。これらの問題を究明することによって、今後世界はどの方向を目指すのかを考察する。

教科書　/Textbooks

資料を配付します。（新村）

口述講義。その際資料を配布する。（山﨑）

人物と時代の歴史 【夜】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

新渡戸稲造『武士道』（ＢＵＳＨＩＤＯ）
○藤沢周平『漆の実のみのる国』（文春文庫）
○中村彰彦『保科正之』（中公新書）
『歴代アメリカ大統領」（ブティック社）

毎日の新聞（朝日、毎日、読売などどの新聞でも良い）を購読のこと。（山﨑）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本、欧米の歴史の中からテーマを厳選し、講義をする。
（新村）
第1回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】
第2回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営
第3回 【３・１１東日本大震災】同様の危機を乗り切ったり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之
第4回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】
第5回 聖徳太子（厩戸皇子）と【飛鳥・奈良時代】
第6回 アメリカ大統領I（初代ワシントン大統領、３代ジェファーソン大統領、７代ジャクソン大統領、１６代リンカン大統領）【独立戦争・建国・南北戦争時代】
第7回 アメリカ大統領II（第２６代セオドール・ルーズベルト大統領、第３２代フランクリン・ルーズベルト大統領、第３５代J・F・ケネディ大統領、第４４代バラク・フセイン・Obama大統領）第45代トランプ大統領【第一次・第二次世界大戦・ベトナム戦争・中東戦争・アフガン・湾岸戦争】

（山﨑）
第8回 ２１世紀の世界を支配するトランプ・アメリカ大統領、メイ・イギリス首相、プーチン・ロシア大統領、メルケ ル・ドイツ首相、習近平・中国国家主席の特徴と共通点について
第9回 イギリスとＥＵの関係について
第10回 キャメロン首相と国民投票
第11回 なせＥＵ離脱派の投票率がが残留派より多かったのか
第12回 トランプ候補とクリントン候補との争点とは何かー
第13回 トランプ候補が勝利した理由
第14回 トランプ大統領は何を目指しているのか–グローバル経済はどんな影響を受けるのか
第15回 総まとめーレポート提出の要件、提出締切日などの説明–

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート（70％）と平常の学習状況（30％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講する前と後で、図書館等で参考文献を読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

＊受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ヨーロッパ道徳思想史 【夜】

担当者名 /Instructor　伊原木　大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	ヨーロッパ道徳思想史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	ヨーロッパ道徳思想史について課題を発見し、総合的に分析することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	ヨーロッパ道徳思想史に関する問題を解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

ヨーロッパ道徳思想史	PHR005F

授業の概要　/Course Description

西欧における道徳思想の変遷を哲学・文学・演劇・音楽・映画などを手がかりに読み解いてゆく。本授業は２年ごとに一部内容を入れ替える予定であり、古代を中心とするか、近代を中心とするかで議論のポイントが異なってくる。今年度は昨年度と同様、とくに近代以後の展開に力点を置く。15回の講義を通して、一定の世界史的教養を獲得するとともに、道徳的価値観の多様なありかたを理解することが可能となるだろう。

教科書　/Textbooks

適宜プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業時にそのつど指示する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　イントロダクション
２回　古代ギリシャ人の道徳【徳について】
３回　古代ギリシャ人の道徳【国について】
４回　ルネサンスの道徳観（１）【マキャヴェリ】
５回　ルネサンスの道徳観（２）【シェイクスピア】
６回　革命前夜の道徳観（１）【アンシャン・レジームの崩壊】
７回　革命前夜の道徳観（２）【『フィガロの結婚』解説前半】
８回　革命前夜の道徳観（３）【『フィガロの結婚』解説後半】
９回　理性の道徳（１）【契約説】
１０回　理性の道徳（２）【カント哲学】
１１回　理性の道徳（３）【功利主義】
１２回　事例検討（１）【功利性について】
１３回　事例検討（２）【厳格主義について】
１４回　道徳の黄昏（１）【道徳の破壊】
１５回　道徳の黄昏（２）【革命と権力】

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験…１００％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

授業中に聞いたことのない日本語や英語に出会った場合は、かならず国語辞典もしくは英和辞典を引く癖をつけてほしい。最低でもこれらの辞典は自宅に常備しておくこと。

ヨーロッパ道徳思想史 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

私語などの迷惑行為に対しては厳しい態度で臨む。履修にあたっては真摯な受講を求めたい。とりわけ学習意欲に欠けていると見受けられる学生（授業中に下を向いてスマートフォンをいじっている、最後部の席に座って漫画を読んでいる、隣同士で始終しゃべっている、等々）には即刻退席を命じる。

キーワード　/Keywords

メンタル・ヘルスI 【夜】

担当者名 /Instructor　中島　俊介 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

メンタル・ヘルスⅠ	PSY001F

授業の概要　/Course Description

授業のねらい，テーマ

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは，病気や不適応事例の発生予防だけでなく，もっと幅広く，多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあっては，メンタルなタフさがなければ生活人としての活動は難しい世相である。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされ，ストレスに関連した多くの疾病に見舞われる危険も多くなっている。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下，生活上の事故やミス，無気力や抑うつ症状などを生じさせる。

本講義では一般的な心理学やアドラー心理学、餅田療法などを基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を多角的かつ発達的な視点からとらえ日々の生活を充実させるためのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。

教科書　/Textbooks

テキスト　「こころと人生」中島俊介　編著　ナカニシヤ出版　2017

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「森田療法」　岩井寛　著　　講談社現代新書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール

第1回　メンタルヘルスとは……メンタルヘルスの歴史・最近の推移・受講上の注意
第2回　心の健康と人生……人間の発達・社会と心理学・生涯発達の理論
第3回　胎児・乳幼児のこころの健康……胎児の能力・誕生の危機・乳児の課題
第4回　幼児期・学童期の心の健康……自律と積極性・しつけ・勤勉性と劣等感
第5回　思春期の心理学……思春期の特徴とその対応。適応の困難さと向き合う
第6回　青年期……同一性（アイデンティティ）の心理……青年期のこころの病
第７回　若い成人期……親密性の発達。働く上でのメンタルヘルス
第8回　ライフスタイル診断とこころの健康……うつ病・神経症など
第9回　発達障害についての理解１…ADHD・LD・アスペルガーなどの基本的知識
第10回　発達障害についての理解２…実際の対応の仕方、留意点
第11回　こころの健康の展望……自己受容・自己開示・あるがままの心理学
第12回　成人期の心の健康……生きがい・職場の心理学
第13回　老年期の心の健康……機能の低下・高齢者の心理学
第14回　病と死の心理学……自殺を打ち明けられたら。死の教育（デス工デュケーション）
第15回　講義のまとめ……講義のまとめ・ふりかえり

メンタル・ヘルスI 【夜】

成績評価の方法　/Assessment Method

①毎回の授業への参加熱意と態度（40％）②定期試験（60％）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

心理学一般に関する様々な知識があれば理解は深まりやすい。日頃の生活の中で心理学や社会学、また科学的手法に関わるテーマについて自分の興味を深めていくような態度を習慣にしていくことが大切だと考える。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業の感想や意見や質問を小片紙に記入する機会を多く持つので、積極的に記入してもらいたい。

キーワード　/Keywords

メンタル・ヘルスII 【夜】

担当者名 /Instructor　中島　俊介 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力	●	自分自身で心身及び社会的健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

メンタル・ヘルスⅡ	PSY002F

授業の概要　/Course Description

授業のねらい，テーマ
　心の健康な人とは異端・極端を認め，そこから思考しようと努力する人のことである。よって本来，メンタルヘルスとは「一人ひとりの幸福な生き方を配慮し援助する実践的な思想」といえる。
　本講座では，一般的な心理学を基盤にした「メンタルヘルスI」を前提として，さらに健康科学やポジティブ心理学の領域から心の健康増進にも役立つような要件を学ぶ。人は人の中にあって人となる。人生の方向性を正しく導く「逞しき知恵」と「強き生命力」をどうすれば体得できるかを受講生と共に考えたい。食事，睡眠，運動による健康な身体作りも心の基盤として重要である。青年期における健康な生活スタイルにも言及したい。アドラー心理学などの欧米の理論も紹介しながら，特にわが国の文化的背景から出てきた，森田療法や内観法など心の健康法にもふれることにより，受講者自身のセルフカウンセリングの能力が高まることを期待したい。

教科書　/Textbooks

テキストは特に設けない

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「神経症の時代」　渡辺利夫　著　　学陽書房

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール
第1回　オリエンテーション……受講上の注意・評価・人間の発達と自己形成
第2回　人間関係の心理学１……自己開示について
第3回　人間関係の心理学２……聞く力と話す力
第4回　自己愛の心理学と心の健康１……コフート理論・自己対象理論
第5回　自己愛の心理学と心の健康２……生涯発達の視点から
第6回　アドラー心理学から観た心の健康１……共同体感覚と感情道具論
第７回　アドラー心理学から観た心の健康２……健康な集団つくり
第8回　心のリフレッシュ１……内観法・森田療法
第9回　心のリフレッシュ２……脳と心について・認知行動療法
第10回　発達障害についての理解…自分の場合・他者の場合
第11回　平和と暴力１……対話の文化を
第12回　平和と暴力２……人権の文化を
第13回　心の健康と感情……感情の理論
第14回　心の健康と芸術……映画の力
第15回　講義のまとめ……講義のまとめ・ふりかえり

メンタル・ヘルスII 【夜】

成績評価の方法　/Assessment Method

①毎回の授業への参加熱意と態度（40％）②定期試験（60％）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

人間社会への興味や感心と心理学一般に関する様々な知識があれば理解は深まりやすい。日頃の生活の中で心理学や社会学、また科学的手法に関わるテーマについて自分の興味を深めていくような態度を習慣にしていくことが大切だと考えます。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

毎回の授業の際の感想や質問などを積極的に自己開示してもらいたい。授業後の個別の質問も大歓迎である。

キーワード　/Keywords

フィジカル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor　山本　浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・ヘルスⅠ	HSS001F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障害の有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力を養うことを目指していく。

教科書　/Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　（講義）運動と身体の健康
３回　（実習）仲間づくりを意図したウォーミングアップ
４回　（実習）運動強度測定
５回　（講義）運動の効果（精神的側面）
６回　（実習）ウエイトトレーニングのやり方
７回　（実習）体脂肪を減らすトレーニング
８回　（講義）運動の効果（身体的側面）
９回　（実習）レクリエーションスポーツ①（車椅子ソフトボール）
１０回　（実習）レクリエーションスポーツ②（ペタンク）
１１回　（実習）レクリエーションスポーツ③（キンボール）
１２回　（実習）レクリエーションスポーツ④（アルティメット）
１３回　（講義）運動の効果（社会的側面）
１４回　これからのスポーツ
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み …　７０％　　レポート …　３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみること。

フィジカル・ヘルスI 【夜】

履修上の注意　/Remarks

授業内容（講義･実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

運動ができる（得意）、できない（不得意）などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

担当者名 /Instructor: 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year: 1年次　単位 /Credits: 1単位　学期 /Semester: 2学期　授業形態 /Class Format: 実技　クラス /Class: 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズⅡ	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　バドミントンの基本原則・知識の習得
３回　フライト練習（１）<ヘアピン>
４回　フライト練習（２）<ハイクリアー>
５回　フライト練習（３）<ドライブ、スマッシュ>
６回　サービス練習　<ショートサービス、ロングサービス>
７回　攻めと守りのコンビネーション練習（１）<ヘアピンからリターン>
８回　攻めと守りのコンビネーション練習（２）<ドロップからリターン>
９回　ルール説明
１０回　審判法
１１回　ダブルスゲーム（１）<ゲーム法の解説>
１２回　ダブルスゲーム（２）<陣形の解説>
１３回　ダブルスゲーム（３）<ゲームの実践>
１４回　ダブルスゲーム（４）<まとめ>
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

履修上の注意　/Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、傷害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義は実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際に相談ください。

キーワード　/Keywords

データ処理 【夜】

担当者名 /Instructor　浅羽　修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1学期未修得者再履

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

データ処理	INF101F

授業の概要　/Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・ 分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書　/Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１回　本学の情報システム利用環境について 【ID】 【パスワード】 【ポータルサイト】 【北方Moodle】
２回　正確な文字入力と電子メールの送受信方法 【タイピング】 【電子メール】
３回　ネットワークの光と影１ 【情報倫理】 【セキュリティ】
４回　ネットワークの光と影２ 【著作権】 【個人情報保護】
５回　表作成の基本操作 【セル】 【書式】 【罫線】 【数式】 【合計】
６回　見やすい表の作成 【列幅】 【結合】 【ページレイアウト】 【印刷】
７回　関数を活用した集計表 【セルの参照】 【平均】
８回　グラフ作成の基礎 【グラフ】
９回　グラフ作成の応用 【目的に合ったグラフ】 【複合グラフ】
１０回　表・ グラフ作成演習
１１回　データ処理の基礎 【散布図】 【相関】
１２回　データ処理演習１ 【データ処理の計画】
１３回　データ処理演習２ 【データ処理の実践】
１４回　データ処理演習３ 【データ処理手法の見直し】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に提示する課題 … 50%、
積極的な授業参加 (タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む) … 50%

データ処理 【夜】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の内容を読んでおくこと。また、北方Moodleからアクセスできる表計算ソフトの使い方に関する動画教材は、パソコンはもちろんのこと、スマートフォン等の携帯端末からも視聴できる。積極的に視聴し、事前学習を行っておくこと。
授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。また、北方Moodleの動画教材も活用すること。
タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

コンピュータの基本的な操作 (キーボードでの文字入力、マウス操作など) ができるようになっておくと受講しやすい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード　/Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

情報表現 【夜】

担当者名 /Instructor　浅羽　修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。

情報表現	INF230F

授業の概要　/Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける。

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書　/Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１回　コンピュータを用いた情報表現 【ガイダンス】
２回　データの収集 【検索エンジン】 【情報の信頼性】
３回　データの加工 【表計算の復習】 【グラフ】 【チャート】
４回　データの表現 【レイアウト】 【デザイン】
５回　論理的な思考法の基礎１ 【課題発見】
６回　論理的な思考法の基礎２ 【原因分析】 【解決手段検討】
７回　プレゼンテーション作成演習
８回　個人発表
９回　個人発表とふりかえり
１０回　グループによる発表テーマ設定
１１回　グループによるスライド作成演習
１２回　発表配布資料作成演習
１３回　グループによる発表
１４回　グループによる発表と相互評価
１５回　まとめ

情報表現 【夜】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に提示する課題… 90％ 、積極的な授業参加 … 10％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業終了後には、必要に応じてパソコン自習室や自宅のパソコン等を用いて授業内容を反復すること。授業で提示された課題や演習に取り組む際は、授業時間外を積極的に活用し、特に、グループ活動においては、グループメンバーとよく議論を重ねること。

履修上の注意　/Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによるアクティブ・ラーニングを導入している。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード　/Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

経済学入門Ａ 【夜】

担当者名 /Instructor　牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	ミクロ経済分析に必要な初歩的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済学入門A	ECN110M

授業の概要　/Course Description

＜授業の概要（ねらい・テーマ）＞

1. 経済学の基本的原理を学ぶ。
2. ミクロ経済学の初歩的な手法を学ぶ。
3. 市場メカニズムについて学ぶ。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

① 経済学的思考法ができるようになる。
② メディアで取り上げられるような経済問題をミクロ経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

教科書　/Textbooks

適宜指示。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

マンキュー　『マンキュー経済学I　ミクロ経済学編』　(第3版)　東洋経済新報社、2013年．

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回：　イントロダクション
　　なぜ？経済学を学ぶのか？、経済学の考え方、【仮定の役割】、【モデル分析】
2回：　グラフの読み方、一次関数の学習　【傾きの概念】
3回：　経済学の基本原理について(1)　【トレードオフ】、【機会費用】、【限界原理】、【インセンティブ】
4回：　経済学の基本原理について(2)　【取引】、【市場】、【生産性】
5回：　相互依存と交易について (1)【取引のメリット】、【生産可能性】、【機会費用】
6回：　相互依存と交易について (2)【絶対優位】
7回：　相互依存と交易について (3)【比較優位】
8回：　需要と供給　(1)【市場と競争】、【需要】、【供給】
9回：　需要と供給　(2)【需要曲線、供給曲線のシフト】
10回：　需要と供給　(3)【需要の弾力性】
11回：　需要と供給　(4)【供給の弾力性】
12回：　市場均衡について(1)　【価格】、【均衡】
13回：　市場均衡について(2)　【比較静学】
14回：　需要、供給、政府の政策　【価格規制】、【税金】
15回：　経済学再考　【市場メカニズム】

成績評価の方法　/Assessment Method

各担当教員の評価方法に従う。（100%）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

教材と進度に応じて各教員が指示しますのでそれに従ってください．

経済学入門Ａ 【夜】

履修上の注意　/Remarks

丸暗記するのではなく、理解するように心がけてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

経済学入門Ｂ 【夜】

担当者名 /Instructor　後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	マクロ経済分析に必要な初歩的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済学入門B	ECN111M

授業の概要　/Course Description

マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の１つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレといった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。
この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、マクロ経済学Ⅰ・Ⅱで講義されるより専門的な内容を吸収できるための基礎的素養を養うことを目的とする。

教科書　/Textbooks

井出 多加子・井上 智夫・北川 浩・幸村 千佳良 著
経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

テキストに沿って講義を行う。
１回　イントロダクション (マクロ経済学とは何か？・講義の進め方についての説明)
２回　第１章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】
３回　第１章 経済の大きさを測ってみよう【国民所得の三面等価】
４回　第２章 豊かさの指標を考えてみよう【GNI】
５回　第２章 豊かさの指標を考えてみよう【名目と実質】
６回　第３章 金融のしくみを知ろう【金融】
７回　第３章 金融のしくみを知ろう【利子率】
８回　第４章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】
９回　第４章 貨幣の奥深さに触れてみよう【金融政策】【為替】
１０回　第５章 税金の大切さを知ろう【租税】
１１回　第５章 税金の大切さを知ろう【財政】
１２回　第６章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗】
１３回　第６章 政府の役割について考えてみよう【財政政策】
１４回　第７章 失業の意味を考えてみよう【失業】
１５回　まとめ
(第8章「海外にも目を向けてみよう」は第3章、第9章「経済全体を再確認してみよう」は第2章で適宜説明を行う。)

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト…３０％　　期末試験…７０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回の講義後に講義資料を見直し、練習問題を解くなどして理解を深めて下さい。
また教科書の講義内容に該当する箇所を読むことで理解を深めることができます。

履修上の注意　/Remarks

毎回の講義後に講義資料を見直し、練習問題を解くなどして理解を深めて下さい。
また教科書の講義内容に該当する箇所を読むことで理解を深めることができます。

経済学入門Ｂ 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教職論 【夜】

担当者名 /Instructor　楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職論は、教職課程への導入的性格を持つ科目である。
本授業の目的は以下のとおりである。

１．教職の意義と教員の役割、職務内容、教師に求められる資質や倫理に関する基礎的な知識を獲得する。

２．ベテランの教員の講話、本学を卒業した若い教員の体験報告とその後の意見交流を通して、自らのめざす教師像を探求する。

３．これからの大学生活で培うべき「教員に求められる実践的指導力」の課題を理解するとともに、教職に関する自らの適性についても考察し、自らの進路選択のありかたを検討する。

４．参加者同士のグループ討論や意見発表を通して、教員に求められるコミュニケーション能力の基礎を習得する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、１類 - １　に該当する科目である。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業で必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田康之・高野和子編　「教職論」　学文社
文科省　中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１．オリエンテーション　本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
２．教職の意義と教員の役割
３．教員という仕事の魅力と困難さ　(外部講師　中学校長)
４．教員の職務、教師に求められる使命感とその落とし穴
５．教員の仕事の理想と現実(外部講師　本学卒業生の中学校教員)
６．教員に求められる資質　　ー　子どもとのコミュニケーション力(相互応答的な関係づくり)
７．教員の仕事　その１　教科指導と授業づくり(中学校教諭)
８．教員の仕事　その２　教科指導と授業づくり(高等学校教諭)
９．教員の仕事　その３　８，９回の授業を受けてのグループワーク
10. 教育の仕事　その４　生活指導実践の主体としての教師　ー　子どもの思いを聴きとる力を
11. 教員の仕事　その５　生活指導実践主体としての教師 -　子どもたちと一緒に「発達の糧」となる生活を創造する
12.「反省的実践家」(ドナルド・ショーン)としての教師　-　その終わりなき営み
13. 自らのパワーを適切に行使できる教師であるために　-　体罰問題に視点をあてて
14. 教員の服務と規律
15. 全体のまとめ

＊講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（授業内で実施するミニレポート等）　３０点、レポート試験７０点
なお、欠席した場合には一回につき５点の減点になります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること

・授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育んでいくこと

・学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

教職論 【夜】

履修上の注意　/Remarks

この授業はすべての回に出席してもらうことを前提にして進めます。
公欠や体調不良などのやむを得ない事情で欠席した場合には授業のレジュメやビデオ補講を受けるなどして、できるだけその内容を補ってください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育んでもらえることを願っています。

キーワード　/Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像

教育原理 【夜】

担当者名 /Instructor　児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

課題
発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

目標
①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

（以下、平成26年度以降入学生）
この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類– 1 」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回　イントロダクション：教育とは何か
2回　教育の関係　：教育のモデル
3回　生涯にわたる発達と教育：生涯発達
4回　発達段階と発達課題：思春期・青年期
5回　感覚・身体と教育：五感・感覚教育
6回　教育思想①　：諸外国の教育思想
7回　教育思想②：日本の教育思想
8回　教育史①：西洋の教育史
9回　教育史②：日本の教育史
10回　学校教育の機能：基礎集団としての学級
11回　学校教育の課題：学校で生じる問題
12回　メディアと教育：メディアと子ども・教材・方法
13回　国際化と教育：言語・文化
14回　仕事と教育：進路形成
15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況　30%　　最終課題（試験）　70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ･資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお薦めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学 【夜】

担当者名 /Instructor	税田　慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year	2年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	２年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である（Butterworth, 1994）。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。
また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - ２」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

藤村　宣之 編著　『発達心理学　　周りの世界とかかわりながら人はいかに育つか（いちばんはじめに読む心理学の本３）』　ミネルヴァ書房　￥2700

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

文部科学省（2011）「生徒指導提要」 ￥298
その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　オリエンテーション：発達心理学とは何か
第２回　乳児は世界をどのように感じるのか【知覚、認知、言語の発達】
第３回　ヒトの発達的特徴とは【発達のメカニズム】
第４回　ヒトは他者との関係をどのように築くのか【愛着、共同注意】
第５回　イメージと言葉の世界【知能の発達、表象能力】
第６回　他者とのコミュニケーション、心を推測する力【心の理論】
第７回　自己・他者を理解する【自己概念・自己意識】
第８回　学習の過程【学習理論、論理的思考】
第９回　友人とのかかわりと社会性の発達【ギャング・エイジ、道徳性】
第10回　自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
第11回　他者を通して見る自己【友人関係、問題行動】
第12回　成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
第13回　児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
第14回　発達障害をもつ児童生徒の心身の発達と学習の過程
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点(小レポートを含む)　…　40%　　期末試験　…　60%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくること。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教育制度論 【夜】

担当者名 /Instructor	児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year	3年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 教育制度の基本原理（１） 教育制度とは
2回 教育制度の基本原理（２） 日本の教育法制
3回 学校制度の基本的事項（１）機会均等、義務教育
4回 学校制度の基本的事項（２）中等教育、学校体系
5回 学校制度の基本的事項（３）就学・懲戒
6回 教科書に関する制度
7回 教員制度の基本的事項（１）教員免許法制
8回 教員制度の基本的事項（２）教員の指導力、研修
9回 教員制度の基本的事項（３）公務員としての教師、教員の待遇
10回 教育行財政の仕組み（１） 中央教育行政、地方教育行政
11回 教育行財政の仕組み（２） 教育委員会と学校
12回 学校関係者による協力支援の制度
13回 地域社会の変容と学校
14回 教育制度改革の動向
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題（試験） 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお薦めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育課程論 【夜】

担当者名 /Instructor	児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
3年次	2単位	1学期	講義	3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

概要
教育課程に関わる概念や学校における教育課程編成・方法、学習指導要領に関する基礎的な知識を習得し、今日の教育課程の課題について学ぶ。

目標
①教育課程に関わる基礎的な知識を習得する。
②教育課程の課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント（講義レジュメ及び資料）を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に配布するプリントに提示するものの他、必要に応じ適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 教育課程編成の基本原理
第2回 日本の教育課程の変遷
第3回 学習指導要領と教育課程編成
第4回 学力と教育課程
第5回 学校における教育課程編成
第6回 「カリキュラム・マネジメント」と学校改善
第7回 教育課程の評価
第8回 諸外国の教育課程・カリキュラム（1）東アジアを中心に
第9回 諸外国の教育課程・カリキュラム（2）英語文化圏を中心に
第10回 諸外国の教育課程・カリキュラム（3）欧州を中心に
第11回 教育課程の開発
第12回 今日的課題と教育課程（1）アクティブラーニング
第13回 今日的課題と教育課程（2）人の国際移動と教育
第14回 今日的課題と教育課程（3）ESD
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題（試験） 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお薦めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法Ａ 【夜】

担当者名 /Instructor　森　千鶴 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

この授業には、主に二つのねらいがある。まず英語科教育の基本となる理論を学び、知識を修得することを目的とする。次に、主として中学校の学習指導案の書き方を学び、モデル授業を実際に行って理論と実践を結びつけることにより、ある程度の実践力を身につけることを目的とする。中学校との関連において、小学校の外国語活動の理論と現状についてもふれる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ３」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

深澤清治（編著）『中等英語教育』協同出版　2014年、2500円
文部科学省　　中学校学習指導要領　　外国語編　開隆堂　2009年　72円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜プリントを配布する。
なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。
新里真男ほか著、SUNSHINE ENGLISH COURSE １～３開隆堂　2012年　310円
松本茂ほか著、ONE WORLD English Course　１～３教育出版　2012年　310円
高橋貞雄ほか著、"NEW CROWN　ENGLISH SERIES New Edition　１～３"三省堂　2012年　310円
笠島準一、関典明ほか著、NEW HORIZON English Course　１～３東京書籍　2012年　310円
矢田裕士、吉田研作ほか著、TOTAL ENGLISH　１～３教育出版　2012年　310円

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1. イントロダクション及び英語教育の目的
2. 英語教育の目的
3. 指導法へのアプローチ【行動主義と認知主義】
4. 指導法へのアプローチ【コミュニケーション能力】
5. Communicative Language Teaching の理念【インフォメーション・ギャップ】
6. Communicative Language Teaching の理念【タスク活動】
7. 中学校の英語科教育および小学校の外国語活動
8. 学習指導案(中学校）の立て方
9. 評価について
10. DVD（師範授業）の視聴【筑波大学附属中学校教諭】
11. DVD（師範授業）の視聴【田尻悟郎先生】
12. モデル授業の準備
13. モデル授業（中学校）【1年生】
14. モデル授業（中学校）【2・3年生】
15. 復習と試験の準備

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末の定期試験（７０％程度）を中心として、提出物（１５％程度）及び授業参加度（１５％程度）を考慮に入れ、総合的に評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前には指定された教科書の範囲を読んでおく。事後には渡されたプリントなどを復習する。

履修上の注意　/Remarks

・前もってプリントを配布したり、次回の授業内容に関連する教科書ページを予告をする場合は、予習しておくこと。
・出欠席は厳密にとる。無断欠席は厳に慎むこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語科教育法Ｂ 【夜】

担当者名 /Instructor　森　千鶴 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

この授業には主に二つのねらいがある。まず英語科教育における発展的な理論や学習指導案の書き方を学び、モデル授業を行うことによって、主として高等学校の英語科教員としての技能を身につける。次に英語科教育の学問的な側面に目を向け、英語で書かれた論文を講読することによって、英語科教育の今日的な課題を深く論考することができるようになることを目指す。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ３」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

深澤清治（編著）『中等英語教育』協同出版、2014年、2500円
文部科学省　高等学校学習指導要領　外国語

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜プリントを配布する。なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。
松本世志子ほか著、ENGLISH NOW Revised Edition I・II開隆堂　2012年　630円
NEW WORLD ENGLISH COURSE I・II　三友社
南村俊夫ほか著、Vivid Reading MEW EDITION第一学習社　2007年　765円
Onstage English Course I・II池田書店
EXCEED English Series New Edition I・II　三省堂　田辺正美ほか著、PROMINENCE English　I・II東京書籍　2012年　630円　山本良一ほか著、"MAINSTREAM ENGLISH COURSE　Second Edition I・II"　増進堂　2012年　570円
Minton, T.D. ほか著、Revised POLESTAR English Course I・II　数研出版　2012年　"Revised Edition SUNSHINE　English Course I・II"開隆堂
田中茂範、武田修一ほか著、"PRO-VISION New Edition　ENGLISH COURSE I・II"　桐原書店　2013年　650円　卯城祐司ほか著、ELEMENT English Course I・II啓林館　2013年、650円
Voyager English Course NEW EDITION I・II第一学習社
市川泰男、高橋和久ほか著　"NEW EDITION UNICORN　ENGLISH COURSE I・II"文英堂　2012年　630円
Genius English Course Revised I・II大修館書店　霜崎寛ほか著、CROWN English Series New Edition I・II三省堂　2012年、630円

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1．コミュニケーション能力および英語科の評価論について
2．学習指導要領および4技能の統合
3．リーディングの理論と実践 [理論編]
4.　リーディングの理論と実践 [発展編]
5.　絶対評価について（高等学校編）
6．学習指導案（高等学校）の立て方
7．モデル授業の準備
8．モデル授業（高等学校）[コミュニケーション英語I]
9．モデル授業（高等学校）[コミュニケーション英語I以外の科目]
10．ALTに関わる英語論文を読む[論文前半]
11．ALTに関わる英語論文を読む[論文後半]
12．諸外国（たとえば韓国）の英語教育に関する英語論文を読む[論文前半]
13．諸外国（たとえば韓国）の英語教育に関する英語論文を読む[論文後半]
14．日本の英語教育（小・中・高連携）について
15．復習と試験の準備

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末の定期試験（７０％程度）を中心として、提出物（１５％程度）及び授業参加度（１５％程度）を考慮に入れ、総合的に評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前には指定された教科書の範囲を読んでおく。事後には渡されたプリント等を用いて復習する。

履修上の注意　/Remarks

・前もってプリントを配布したり、次回の授業内容に関連する教科書ページを予告する場合は、予習しておくこと。
・出欠席は厳密にとる。無断欠席は厳に慎むこと。
・モデル授業の日程や英語論文のトピックは学生と相談した上で決定することになるので、シラバス内容に関しては柔軟に考えていただきたい。

英語科教育法Ｂ 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

社会科教育法Ｃ 【夜】

担当者名 /Instructor　下地　貴樹 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

学習指導要領で取り扱われている中学校社会の各分野に関する知見を修得し、指導計画、社会科における資料活用、学習指導案の作成など、社会科の授業を行っていく上での基礎的な技能と理論を学習する。それらを通して知識だけでなく、教師の持つべき責任感と使命感を養うことをねらいとする。
本授業は、社会科を担当する教員に必要な基本的知識や資質について学習指導要領に基づいて解説する。また社会科、地理、歴史の分野に必要とされる具体的な技能や方法を扱う。中等教育における社会科、地理歴史科の特色を理論的かつ実践的に考えていく。
なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ３」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

「中学校学習指導要領解説　社会編」（平成29年6月・文部科学省）
2018年2月時点で未出版のため、文部科学省のWebサイトに掲載されている公示資料を扱っていく

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『中等社会科の理論と実践』（二谷貞夫・和井田清司　編　学文社　2007）
他に授業で紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第　１回　オリエンテーション　教育の目的と社会科の役割
第　２回　社会科教育の現状　学習指導要領と改訂のポイント
第　３回　地理的分野の目標とその取り扱い
第　４回　歴史的分野の目標と内容とその取り扱い
第　５回　公民的分野の目標と内容とその取り扱い
第　６回　社会科の授業づくり　教材研究
第　７回　社会科の授業づくり　グループ学習の活用
第　８回　社会科の授業づくり　学習評価と授業評価・生徒観について
第　９回　社会科の授業づくり　体験学習・発見学習・アクティブラーニングについて
第１０回　社会科の授業づくり　授業研究・授業記録を読む
第１１回　単元計画と学習指導案１　指導案の作成と留意点
第１２回　単元計画と学習指導案２　年間計画と指導案作成
第１３回　政治および宗教に関する事項の取扱い
第１４回　社会科教師に求められる資質・能力
第１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

演習（グループワークや質疑などへの参加）　３０％
ミニレポート（毎授業後に提出）　４０％
学習指導案　３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習　学習指導要領解説について読み込んでおく。発表資料の作成。

事後学習　学習指導要領解説について読み込みながら、関連する事例や実践について検討する

履修上の注意　/Remarks

・グループワークなどを行うので毎授業の積極的参加を望みます。
・発表や簡単なレポート課題の提出があります。
授業までに、報告者以外も該当箇所を読んでおくこと。報告者への質疑などを考えておくことが望ましい。
授業後には、報告者以外にも要約・感想などの提出を求める。なお出席は3分の2以上している事がテストを受ける前提条件とする

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業の中では、グループワークやディスカッションをとり入れるため、積極的な参加を望む。

社会科教育法Ｃ 【夜】

キーワード　/Keywords

社会科教育法Ｄ 【夜】

担当者名 /Instructor　下地　貴樹 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

社会科教育法ＡおよびＣで学習した理論的な知識と指導法の基礎をもとに、社会科のより実践的な指導力と、教科指導を中心とした教師としての総合的な指導力の習得をめざす。なお、模擬授業では担当教員の解説を毎時行う。
講義の展開は以下のとおりである。

①　学習指導要領に基づき、中学校社会科の３分野に関する総合的で実践的な知識を修得する。
②　教材研究、資料精選、学習指導案作成など、社会科の授業実践に必要となる基礎・基本的な技術を修得する。
③　教科指導の実践を起点として教職全般への理解を深め、教育現場で必要とされる教師の資質を養う。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ３」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

『中学生の地理　世界のすがたと日本の国土』（帝国書院　文科省検定済教科書）
『中学社会　歴史的分野』（日本文教出版　文科省検定済教科書）
『中学校社会科地図』（帝国書院　文科省検定済教科書）
『中学社会　公民　ともに生きる』（教育出版　文科省検定済教科書）
※各分野とも平成２５年度版以降のものを用意すること

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

随時紹介していく。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第　１回　講義概要の説明　【授業とは何か】【社会科の特性】【“資格”と“資質”】
第　２回　学習指導案の作成　【実践的な視点の指導案】【教材研究と指導】【指導と評価】
第　３回　模擬授業・地理的分野①　【世界地理・総論】【世界地理の捉え方】
第　４回　模擬授業・地理的分野②　【世界地理・各論】【州ごとの指導における着意点】
第　５回　模擬授業・地理的分野③　【日本地理・総論】【日本地理の捉え方】
第　６回　模擬授業・地理的分野④　【日本地理・各論】【地域ごとの指導における着意点】
第　７回　模擬授業・歴史的分野①　【原始・古代】
第　８回　模擬授業・歴史的分野②　【古代・中世】
第　９回　模擬授業・歴史的分野③　【中世・近世】
第１０回　模擬授業・歴史的分野④　【近世・近現代】
第１１回　模擬授業・公民的分野①　【憲法】
第１２回　模擬授業・公民的分野②　【政治】
第１３回　模擬授業・公民的分野③　【経済】
第１４回　模擬授業・公民的分野④　【現代社会】
第１５回　まとめ、教育実習や採用試験に向けて　【教育現場】【生徒指導】【講師と教諭】

成績評価の方法　/Assessment Method

模擬授業　４０％、指導案作成と授業への参加度　４０％、平素の受講姿勢　２０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習　学習指導案の作成および提出　教材研究
事後学習　模擬授業の評価、模擬授業担当箇所に関する課題

履修上の注意　/Remarks

教科書については、文部科学省検定済教科書（中学校で実際に生徒が使用しているもの）を使用します。通常の書店では入手できませんので、ご注意ください。入手法については全国教科書供給協会のホームページで確認できます。
また、学習指導要領は平成29年3月に改訂されました。
授業の前週までに、模擬授業の指導案を作成し提出すること。また模擬授業者以外は、事前に指導案には目を通しておくこと。
授業後は、模擬授業について内容や感想・意見を、担当者あてに提出できるようにすること。

社会科教育法Ｄ 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

教材研究は大変な作業ですが、やりだすと非常に楽しい営みです。教壇に立ちたいと願う皆さんに、まず社会科の楽しさやおもしろさを感じてもらいたいと願っています。

キーワード　/Keywords

公民科教育法Ａ 【夜】

担当者名 /Instructor　下地　貴樹 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

現在の公民科教育の位置づけや他社会科科目との関連について理解し、教育方法論や授業理論について学習することで、公民科科目における理論と実践に関する能力の育成を目指す。また、現代社会・倫理・政治経済に関連する諸問題を取り上げ、公民科の教材開発につなげる。

公民科を担当する教員に必要な基本的知識や資質について学習指導要領に基づいて解説し、公民科の教育課程における位置づけと役割について理解を深める。

学習指導案の作成やグループでの討論を通して、今後求められる当該教科の実践指導のあり方について学び、また必要とされる具体的な技能や方法を扱い、理論的かつ実践的に考えていく。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ３」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

・『高等学校学習指導要領解説「公民編」』文部科学省　平成22年版（平成26年１月 一部改訂）　320円＋税
・他にも講義内で適宜配布する

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

・二谷貞夫・和井田清司　編　『中等社会科の理論と実践』　学文社　2007　1900円＋税
・他に授業で紹介する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション　教育の目的と公民科の扱い
第２回：学習指導要領と改訂のポイント
第３回：公民科授業の構成　年間計画と単元計画
第４回：公民科科目の取り扱いと内容　現代社会
第５回：公民科科目の取り扱いと内容　倫理
第６回：公民科科目の取り扱いと内容　政治経済
第７回：公民科の授業づくり　教材研究・開発
第８回：公民科の授業づくり　グループワークについて
第９回：公民科の授業づくり　学習評価と授業評価・生徒観について
第１０回：公民科の授業づくり　アクティブラーニングについて
第１１回：公民科の授業づくり　授業研究・授業記録を読む
第１２回：単元計画と学習指導案１　指導案の作成と留意点
第１３回：単元計画と学習指導案２　年間計画と指導案作成
第１４回：政治および宗教に関する事項の取扱い
第１５回：社会科教師に求められる資質・能力
定期試験

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度（グループワークや質疑などへの参加）・・・ ３０％
最終試験・・・ ３０％
学習指導案作成　・・・ ４０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習　学習指導要領解説を読み込んでおく

事後学習　講義で扱った内容について振り返り、実践と理論について考察する

履修上の注意　/Remarks

課題や発表について、期日を守るよう心掛けてもらいたい。
出席は７割以上している事がテストを受ける前提条件とする。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業の中では、グループワークやディベートをとり入れるため、積極的な参加を望む。

キーワード　/Keywords

公民科教育法Ｂ 【夜】

担当者名 /Instructor　吉村　義則 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

本講義は、公民科教授のための基本的な知識と技能を習得することを目的とする。
（１）学習指導要領に基づき、現在の公民科教育の位置づけを理解する。
（２）教育方法、教材研究、資料活用、学習指導案作成など、授業実践に必要な技能を習得する。
（３）現代社会・政治経済・倫理の教科指導において、現場の事例を取り上げつつ、実践課題を検討する。
（４）能動的・主体的な学びの育成に重点を置き、模擬授業を行う。
　上記の点から、実践的な技能及び授業改善の視点を習得し、最終的には「能動的・主体的な学びの意識」を開発する教員を目指す。また、教育を取り巻く環境の変化や教育全般の動向を踏まえ、解説を行う。
　なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ３」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

授業の際に配布するレジュメ・資料等
「高等学校学習指導要領解説 公民編」（文部科学省）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第　１回　イントロダクション
第　２回　新学習指導要領における公民科の位置づけ
第　３回　社会科学的手法について
第　４回　シティズンシップと公民科教育
第　５回　教育実習を想定した授業実践及びICT活用による教科指導について
第　６回　学習指導案作成上の留意点
第　７回　学習指導案の作成
第　８回　模擬授業（参加型授業の展開）
第　９回　模擬授業（資料活用法、オリジナル教材の作成）
第１０回　模擬授業（現代社会の諸問題）
第１１回　模擬授業（政治・経済・法）
第１２回　模擬授業（現代の諸課題と倫理）
第１３回　模擬授業（受験指導に焦点を当てる）
第１４回　模擬授業（社会参加の授業理論）
第１５回　まとめ（主権者教育など）

成績評価の方法　/Assessment Method

◎授業への参加・貢献度　70%
◎模擬授業の際に提出する指導案　30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

◎授業の前に指示されたテキストの該当箇所を読んでおくこと。
◎教材研究や指導案の準備については適宜打ち合わせ等を行う。

履修上の注意　/Remarks

◎授業後にコメント用紙（授業の感想や質問など）を提出してもらうため、積極的な授業参加が望まれる。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

道徳教育指導論 【夜】

担当者名 /Instructor　田中　友佳子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

本授業では、道徳・道徳教育とは何かを問う作業から始め、現在の学校教育における道徳教育の目的と内容について学ぶ。また、いくつかの現代的課題について取り上げ、道徳教育に必要な思考力を鍛える。さらに、「道徳の授業」に関する教材研究を行うとともに、実際に指導する場面を想定して学習指導案の作成などを行うことにより 、道徳教育の実践的な指導力の育成をはかる。

教科書　/Textbooks

特に指定しない。適宜、資料を配布しながら授業を進める。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション　　授業のねらいや計画、注意点の説明
第２回：道徳とは何か、なぜ必要か　　倫理、哲学、法と道徳との関係性
第３回：道徳教育の変遷①　　近代学校成立以前、明治期から第二次世界大戦期
第４回：道徳教育の変遷②　　戦後から「改正教育基本法」、まで
第５回：「道徳」の特別教科化をめぐる諸問題
第６回：道徳教育の目標と各教科・特別活動等における指導内容
第７回：道徳教育の現代的課題①　　生命倫理をめぐる問題について考える（グループ討論）
第８回：道徳教育の現代的課題②　　性の多様性について知る(グループ討論)
第９回：道徳教育の現代的課題③　　住み良い社会とは何かを考える（グループ討論）
第10回：道徳教育の現代的課題④　「世代間の平等」の問題を考える（グループ討論）
第11回：「道徳の時間」の年間指導計画と学習指導案の作成方法
第12回：「道徳の時間」の教材研究①　　読み物教材に対する批判的検討
第13回：「道徳の時間」の教材研究②　　問題解決的な学習に対する批判的検討
第14回：学習指導案の発表とコメント
第15回：全体のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学習指導案30%
コメントシート20%
期末レポート(又は期末試験)50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業中、適宜説明を行う。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本授業では、グループ討論や教材研究などに積極的に取り組むことが求められます。様々な立場や意見があることを子どもたちに問いかけ共に考える授業ができるように、思考力や指導力を磨いていきましょう。

キーワード　/Keywords

特別活動論 【夜】

担当者名 /Instructor　楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

１．文科省の中学校及び高等学校学習指導要領・特別活動の目標と内容、及び指導計画の作成と内容の取扱いの留意点について理解する。

２．学級活動や学校行事を進めていく上で求められる基本的な指導計画、指導案の作成方法を理解する。

３．子どものコミュニケーション能力や自治の力を育む学級活動の進め方や指導方法について学習する。

４．生徒集団の自治の力を育む学校行事、生徒会活動の進め方について、具体的な実践報告を手がかりにしながら学習する。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ２」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

中学校学習指導要領解説　「特別活動編」（平成２０年９月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

折出健二編　2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ)　学文社
高旗正人他編　「新しい特別活動指導論」　ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション　-　特別活動の教育的意義
２回　学級活動の目標・内容と指導計画（テキスト第３章第１節他）　学級活動の実際　中学校
３回　学級活動の実際　その２　高等学校
４回　生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動　その１　対立解決プログラムについて
５回　生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動　その２　傾聴のスキル、アサーティブネス
６回　生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動　その３　ウィン・ウィン型の問題解決
７回　生徒のコミュニケーションと問題解決能力を育てる学級活動　その４　対立の仲介のロールプレイ発表
８回　生徒会活動の目標・内容と指導計画（テキスト第３章２節他）
９回　学校行事の目標・内容と指導計画（テキスト第３章３節他）学校行事の実際　中学校
10回　学校行事の実際　-　高等学校
11回　学級の荒れを克服し、お互いを大切にする人間関係を築く学級活動の取り組み
12回　困難な課題を抱える生徒の居場所づくりと学級活動の取り組み
13回　特別活動の学習指導案の作成方法と模擬授業について
14回　指導計画の作成と内容の取扱い（テキスト第４章）
15回　全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点20点（課題レポートなど）　期末試験　80点
なお、出席回数が全体の2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業の欠席については、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指定するテキストの箇所は事前に予習しておくこと。
実践報告から学んだ点について、自分なりの整理をしておくこと

履修上の注意 /Remarks

受身的な授業への参加では実践的な指導力は養われません。
グループワークなども含めて、積極的な授業参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、教師としての実践的指導力の基礎を培うことを目的とした授業です。
学級づくり、子ども集団づくりの基本的な課題と方法について、しっかりと学んでもらえたら幸いです。

特別活動論 【夜】

キーワード　/Keywords

特別活動の目標・内容、指導計画、指導案の作成、学級づくり、子ども集団づくりの課題と方法

教育方法学 【夜】

担当者名 /Instructor　下地　貴樹 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

近年、課題解決型授業やアクティブラーニングといった確かな学力を求めるための、教育のあり方が議論されている。この授業では、授業の構成要素である「教材・教師・生徒」の視点からそれぞれのあり方を捉えながら、授業理論やICT教育の求められる背景を講義する。
　そのために、講義形式以外にもグループ活動やペアワークなど実際に作業することで教育方法の理論の一部を体験しながら、教材開発や教材研究を行っていく。

教科書　/Textbooks

新しい時代の教育方法 (有斐閣アルマ)　2012　田中 耕治 (著), 鶴田 清司 (著), 橋本 美保 (著), 藤村 宣之 (著)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業内で随時紹介する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション
第２回：教育と学習・理論と方法・実践
第３回：授業の歴史（欧米）
第４回：授業の歴史（日本）
第５回：学習の理論・協同的な学び
第６回：授業のデザイン・学校・家庭・社会
第７回：授業のデザイン・教師・生徒・教材
第８回：授業の過程・デザイン-実践-評価
第９回：情報機器・メディア活用の授業
第１０回：「学力」について考える
第１１回：授業の研究１・学習指導案
第１２回：授業の研究２・授業記録を読む
第１３回：教師の専門性・専門職性
第１４回：教材研究・教材開発
第１５回：まとめ
定期試験
（２~4回は、教育方法学を支える基礎理論や社会背景を扱い、5~10回まではICT教育や学び、学力について論じる。11~14回は。実践の中でどのように授業を捉えたらよいか、教材や教師の役割などを議論していく。）

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度（グループワークや質疑などへの参加）・・・ ３０％
発表・レジュメ作成・・・ ２０％
最終試験・課題レポート・・・ ５０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

人数によって課題の方法は変化するが、テキストについてまとめた資料（レジュメ）を作成してもらう。
また担当でない者も、内容について疑問点や感想などを報告してもらいたいので、事前にテキストを読んでおくこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

教育方法学がどのような学問かは、簡単には説明ができません。体験を通して、教育方法学がやってきたことやできることを共に捉えていけたらよいと思います。

キーワード　/Keywords

生徒・進路指導論 【夜】

担当者名 /Instructor　楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。
①　生徒指導の意義、生徒指導の３機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと

②　教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導における家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること

③　養育環境や発達障害等の何らかの要因による困難を抱える子どもの自立を支援する生徒指導のあり方を学習すること。

④　実際の生徒指導の場面や事例を想定しながら、その場面での対応のあり方を考える力を養うこと。

⑤　思春期・青年期の進路指導、キャリア教育の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。　また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ２」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

文部科学省編　「生徒指導提要」　教育図書
楠凡之　「虐待　いじめ　悲しみから希望へ」　高文研　第I部

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

桑原憲一編　　中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド　　明治図書
嶋崎政男　「法規＋教育で考える　生徒指導ケース１００」　　ぎょうせい
○文部科学省　　中学校キャリア教育の手引き
○児美川孝一郎　　権利としてのキャリア教育　　明石書店
○キャリア発達論　-　青年期のキャリア形成と進路指導の展開　　ナカニシヤ出版

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション ＋　課題レポートの説明
２回　生徒指導の意義と原理（生徒指導提要ト第１章他）、生徒指導と生活指導
３回　教育課程と生徒指導（生徒指導提要第２章他）　その１　-　教科教育、「特設道徳の時間」と生徒指導
４回　教育課程と生徒指導　その２　学級活動・学校行事と生徒指導
５回　生徒指導に関する法制度等（第７章他）　その１
６回　生徒指導と校則・体罰問題を考える。
７回　思春期の「自己形成モデル」の意義と進路指導・キャリア教育
８回　中学校の進路指導実践 -「ようこそ先輩」の取組み
９回　今日の若者の労働実態から高校進路指導の課題を考える
10回 進路相談のロールプレイ実習
11回　ケータイ・インターネット問題と生徒指導
12回　性の多様性、セクシュアルマイノリティへの理解と生徒指導
13回　被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助　その１　少年期
14回　被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助　その２　思春期
15回　全体のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート２０%、期末試験８０%
なお、授業の出席が2/3に満たない場合には単位の修得は認められません。
授業を欠席した場合については、一回につき5点の減点とします。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

生徒指導提要の該当箇所については事前に読み込んでおくこと

生徒・進路指導論 【夜】

履修上の注意　/Remarks

受け身的な受講では実践的な指導力を身につけることはできません。能動的な授業参加を期待します。
できるだけ、テキストの、その授業で取り上げるテーマに関するところを読んでおいてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

キーワード　/Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、様々な問題を表出する生徒への指導、進路指導

教育相談 【夜】

担当者名 /Instructor	楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year	2年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	２年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

１． 学校での教育相談の意義と課題、教育相談の領域(予防的・開発的教育相談、問題解決的教育相談）、他の専門職や関係諸機関との連携のあり方等についての基本的な理解を持つこと。

２．教育相談の基本的な理念と技法（傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など）を修得すること。

３． 不登校やいじめなど、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて、検討していくこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ２」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

○ 文科省編 「生徒指導提要」
○ 楠 凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研 第II部

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 広木克行 「教育相談」（教師教育テキストシリーズ） 学文社
○ 吉田圭吾 教師のための教育相談の技術 金子書房
○ 日本学校教育相談学会 学校教育相談学ハンドブック ほんの森出版
ー丸藤太郎・菅野信夫編著 学校教育相談 ミネルヴァ書房
楠 凡之 「いじめと児童虐待の臨床教育学」 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回 オリエンテーション 課題レポートの説明
２回 子どもたちの行動の背後にある「声なき声」を聴きとる。
３回 子どもの発達課題と教育相談
４回 教育相談の基本的な理念について ー 受容、共感的理解、感情の明確化、開かれた質問
５回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
６回 教育相談の基本的なスキルについて - 直面化
７回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ体験
８回 子どもの「問題行動」と教育相談 その１ 不登校問題
９回 子どもの「問題行動」と教育相談 その２ 発達障害の問題
10回 子どもの「問題行動」と教育相談 その３ 薬物問題（外部講師 北九州ダルク施設長）
11回 保護者理解と教育相談
12回 教育相談における関係諸機関との連携
13回 今日のいじめ問題への理解と指導 - 少年期
14回 今日のいじめ問題への理解と指導 - 思春期 全体のまとめ
15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%
なお、授業の出席が2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの該当箇所については授業の前に読んで予習しておくこと
課題として出されたレポートについては必ず提出すること
学習した教育相談のスキルを実際に使用できるように、友人関係その他の中で練習しておくこと

教育相談 【夜】

履修上の注意　/Remarks

授業の遅刻、授業中の私語や内職に対しては厳しく指導し、眠っている学生も必ず起こします。
十分な自覚をもって履修してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業での最も中心的なテーマは、子どもの”ｖｉｅｗ”の理解です。それなしの教育相談、さらに言えば教育実践は成立しないと考えています。この授業を通して、子どもの、さらには保護者の”ｖｉｅｗ”を理解する力を培ってもらえたら幸いです。

キーワード　/Keywords

教育相談の理念と技法、　子どもの発達課題と教育相談、関係諸機関との連携

教育実習１ 【夜】

担当者名 /Instructor	児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 /Year	3年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義・演習	クラス /Class	３年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

４年次の「教育実習」（実習校実習）に向けての事前指導として、実習校実習に求められる指導能力の獲得に取り組む。
その課題は以下の通りである。

１．教育実習生としての基本的な心構え、社会的責任の自覚

２．学習指導に求められる基本的な理論・知識・技術など

３．生徒指導・学級経営に求められる基本的な理論・知識・技術など

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「III類–3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』（756円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高野和子・岩田康之共編 「教育実習」 学文社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回 オリエンテーション
教育実習及び教員採用に向けての力量形成の課題
２回 教育実習生の１日
３回 教育実習の体験から学ぶ（中学）
４回 教育実習の体験から学ぶ（高校）
５回 学校で求められる人権教育について
６回 生徒指導の実際(外部講師の出前講演)
７回 学級経営・学級づくりの実際(外部講師の出前講演)
８回 特別活動の学習指導案と模擬授業について
９回 授業観察の方法と模擬授業の指導案について
10回 模擬授業①(北九州その他の自治体の教員採用試験の模擬授業ロールプレイ)
11回 模擬授業②(特別活動 その１ 何らかの場面指導他)
12回 模擬授業③（特別活動 その２ 学級活動）
13回 模擬授業④（各教科 その１）
14回 模擬授業⑤（各教科 その２）
15回 全体のまとめと教育実習に向けての課題

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価（６０％） 学習指導案(特活、教科)などの提出物の評価（４０％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業での学習内容については必ず教育実習ノートに清書をおこなうこと。
(授業中に実習ノートに記入することは決してしないこと)

模擬授業の前には必ず指導案を作成し、十分な準備をしてから模擬授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業は全回出席が原則です。万一、やむを得ない事情で欠席した場合にはすみやかに教職資料室で補講を受け、学習内容を実習ノートに記載すること。
一回でも欠席し、補講を受けてその内容の学習を行っていない場合には、授業の単位が出ないこともあるので十分に留意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は実習校実習の約半年前に行われる授業であり、これまでの教職課程の授業科目や学校現場体験、指導体験を基盤にして、実習校実習に必要不可欠な実践的指導力の修得をめざす科目です。
皆さんには半年後に迫っている実習校実習に向けて、真摯な態度で授業に臨むことを期待します。

教育実習 1 【夜】

キーワード　/Keywords

教育実習２ 【夜】

担当者名 /Instructor	恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year	4年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義・実習	クラス /Class	４年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

３年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

１回	オリエンテーション	【勤務】【連絡】
２回	中学校における教育実習	【中学生の特質】【中学生への支援】
３回	高等学校における教育実習	【高校生の特質】【高校生への支援】
４回	教育実習に向けての課題の整理	【教育に求められる資質と教育実習の課題】
５回	実習校実習②	【教育実習指導】
６回	実習校実習③	【教育実習指導】
７回	実習校実習④	【教育実習指導】
８回	実習校実習⑤	【教育実習指導】
９回	実習校実習⑥	【教育実習指導】
１０回	実習校実習⑦	【教育実習指導】
１１回	実習校実習⑧	【教育実習指導】
１２回	実習校実習⑨	【教育実習指導】
１３回	実習校実習⑩	【教育実習指導】
１４回	実習校実習⑪	【教育実習指導】
１５回	教育実習反省会	【教師の資質】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、教育実習１などの復習と、前回までの指導内容・確認事項をチェックしておく。
事後は、扱った内容を、教育実習ノートに記載すること。

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習３ 【夜】

担当者名 /Instructor	恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year	4年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義・実習	クラス /Class	４年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに､学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

３年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

１回	オリエンテーション	【勤務】【連絡】
２回	中学校における教育実習	【中学生の特質】【中学生への支援】
３回	高等学校における教育実習	【高校生の特質】【高校生への支援】
４回	教育実習に向けての課題の整理	【教育に求められる資質と教育実習の課題】
５回	実習校実習②	【教育実習指導】
６回	実習校実習③	【教育実習指導】
７回	実習校実習④	【教育実習指導】
８回	実習校実習⑤	【教育実習指導】
９回	実習校実習⑥	【教育実習指導】
１０回	実習校実習⑦	【教育実習指導】
１１回	実習校実習⑧	【教育実習指導】
１２回	実習校実習⑨	【教育実習指導】
１３回	実習校実習⑩	【教育実習指導】
１４回	実習校実習⑪	【教育実習指導】
１５回	教育実習反省会	【教師の資質】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』､実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、教育実習１や前回までに内容の復習
事後は、扱った内容を教育実習ノートに記載する

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと
教育実習２と同様です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育実習２と同時履修（教育実習の時間数の単位換算のため）。
教育実習３のみ受講の場合は教育実習２で指示が行われることがあるので、教職掲示板や教育実習２の内容を確認するようにしてください。

キーワード /Keywords

障害児の心理と指導 【夜】

担当者名 /Instructor	税田　慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科
履修年次　2年次 /Year	単位　2単位 /Credits
学期　2学期 /Semester	授業形態　講義 /Class Format
クラス　２年 /Class	

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えて考える。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - ２」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　オリエンテーション：障害児の心理と指導について
第２回　障害の概念とノーマライゼーション
第３回　人々の障害者観：障害をどう捉えるか
第４回　障害の重積・深化の過程と発達援助
第５回　視覚障害について
第６回　聴覚障害について
第７回　姿勢・運動の障害について
第８回　知的障害について
第０回　障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
第10回　自閉症スペクトラムについて
第11回　注意欠陥多動性障害について
第12回　学習障害について
第13回　青年期以降に診断される障害について
第14回　障害児・者への地域支援の在り方
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点(小レポートを含む)　…　40%　　期末試験　…　60%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、各自予習してくること。また、授業終了後には配布プリント等を用いて各自復習すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

生涯学習学 【夜】

担当者名 /Instructor　恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、社会教育の法制度、国際的な生涯教育論の展開なども視野に入れつつ、生涯学習を支援・推進する制度・システムについて考えていきます。内容としては、生涯学習及び社会教育の本質と意義の理解を図り、教育に関する法律・自治体行財政・施策、学校教育・家庭教育等との関連、並びに社会教育施設、専門的職員の役割、学習活動への支援等の基本を解説します。

授業のねらいは、生涯学習及び社会教育の本質と意義を理解し、生涯学習に関する制度・行政・施策、家庭教育・学校教育・社会教育等との関連、専門的職員の役割、学習活動への支援等についての理解に関する基礎的能力を養うことにあります。

なお、この科目は、社会教育主事や学芸員資格の必修、教職課程の選択であり、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - ２」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所
○　雑誌『月刊　社会教育』国土社
○雑誌『社会教育』全日本社会教育連合会
○雑誌『月刊　公民館』全国公民館連合会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回生涯学習・社会教育の意義
第2回　生涯学習ボランティア　–学習への支援と学習成果の活用–
第3回社会教育と生涯学習関連の法制度
第4回社会教育施設と生涯学習施設　–管理運営と連携–
第5回生涯学習関連施策の動向　–社会教育の歴史と発展–
第6回学習者の特性と学習の継続発展–学習相談、サービス、学習情報の提供
第7回社会教育の内容・方法・形態–学級・講座の企画
第8回社会教育及び生涯学習関連の指導者とボランティア
第9回社会教育施設–公民館
第10回社会教育施設–博物館
第11回社会教育施設–図書館
第12回大都市における公民館–北九州市　–自治体行財政制度と施策立案・推進–
第13回図書館、博物館における学習・グループ活動
第14回成人教育の国際的動向　–日本の特質と学習権–
第15回住民の力量形成と地域づくり　–家庭教育・学校教育・社会教育の連携–

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート…７０％　課題レポート…３０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に、これまでや次回、今後の講義テーマ・内容について案内するので、その指示に従い準備してのぞむこと

履修上の注意 /Remarks

学芸員資格や社会教育主事資格として受講する場合、必修科目の基本科目としてこの授業を先に受講するか、他の関連科目とあわせて受講すると、資格科目の理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords